

日本語教育沿革年表? : 昭和12年～昭和20年

ページ	1-341
発行年	1982-12-15
URL	http://doi.org/10.15084/00002619

〔日本語教育沿革年表Ⅲ〕

—昭和12年～昭和20年—

国立国語研究所

日本語教育センター日本語教育教材開発室

1982・12

年 表 作 成 の 主 旨

この年表は、前著「日本語教育沿革年表Ⅰ」（1979. 3 刊）「日本語教育沿革年表Ⅱ」（1982. 3 刊）に引き続くもので、「Ⅲ」の年表には、昭和12年（1937年）から昭和20年（1945年）に至るまでのものが記載されている。内容は、わが国における語学教育、特に日本語教育発展の動向と関連する諸学問の研究・文献・資料及びこれらの社会的環境や背景となる事柄等を併せて年月日順に配列編集し、戦前における日本語教育発展の動向を可能な限り、総合的かつ立体的にはあくすることができることを意図して作成したものである。

この年表は、日本語教育センター教材開発室の部内資料として武田祈が担当執筆した。

またこの年表作成にあたり、日本語教育関係の諸先輩から、入手しがたい資料の提供や、未知の情報等についての提供・ご示唆等により、かなり内容を充実することができた。

年表の構成と作成の方法について

(1) この年表の内容を大別するために、〔日〕、〔国〕、〔教〕、〔書〕の四つの見出し記号を付け、他の一般的な事項と区別して見られるように配慮した。

〔日〕は、主として、日本語教育に関する施策・教育制度等で日本語教育に直接又は間接に関係があると思われるもの。

〔国〕は、主として国語施策・国語運動・国語問題等、国語に関する事項。

〔教〕は、主として、わが国における教育施策・教育制度等、教育一般に関するもの。

〔書〕は、書籍・文献等で、内容や種類等についての分類はされていない。

(2) 重要な事項については、体裁や繁簡を考えず、なるべく詳細明確に記載することにした。

(3) 機関紙「日本語」及び「コトバ」の目次は、特に創刊号から終刊号に至るまで、記名のあるものを全部掲載した。

(4) 表記のしかたについては、全般的に新字体及び現代かなづかいにより統一することにしたが、一部の書名・人名等については、旧字体による表記のものがある。

(5) この年表では、一般的な事項と書名との間、及び一項目の内容が多く、長く続くものについて、前後に一行分ずつ余白をとった。これは、年表を見やすくするとともに、将来、訂正や補充をする場合、書き込みができることを考慮したものであって内容には関係がない。

この年表作成に用いた主な文献及び参考資料

(「Ⅰ」「Ⅱ」のつづき)

「セクバン ビルマ日本学校の記録」(セクパン会編, 修道社出版株式会社。昭和45・5・30)。

「思い出すことなど」(金沢謹, 国際学友会。1973・3・20。非売品)。

「近代日本教育制度史料 第八巻, 第九巻, 第十巻」(近代日本教育制度史料編纂会(代表石川謙)講談社。1951・12・10。第三刷)。

「満州開発四十年史」(満史会編, 満州開発四十年史刊行会)。

「東京都立日比谷図書館蔵 実藤文庫目録」(東京都立日比谷図書館。昭和41・8・25)。

「改撰標準日本文法」(松下大三郎著, 徳田政信編, 勉誠社。昭和49・10・20)。

「中国人に対する日本語教授」(東亜学校教授鈴木正蔵, 育英書院版, 日本語教育振興会。昭和18・7・1)。

「辞書解題辞典」(惣郷正明・朝倉治彦, 東京堂出版。昭和52・3・25)。

年 表

—昭和12年～昭和20年—

西 暦	年 代	項 目
1937	(昭和12年)	
"	1・1	中共中央、延安へ移る。
"	1・2	英伊(紳士協定)調印(地中海の現状維持を約束)。
"	1・4 4	張学良、蔣介石の請願により特赦、軟禁。
"	1・6	西安掃匪総司令部廃止。
"	"	中共中央、「平和と内戦停止のための通電」。
"	1・12	汪兆銘帰国。
"	1・15	〔日〕台湾で「漢文科」廃止。
"	1・21	政友会浜田国松、衆議院での質問演説で陸相寺内寿一と「腹切り問答」(政党と軍部の対立激化)。
"	"	〔日〕教育懇談会、サンパウロにおいて開催。
"	1・下	〔日〕第一回訪日学生見学団来日(ブラジル11名、約1か月滞在)。
"	1・23	解散を主張する陸相と政党出身閣僚対立し、広田内閣総辞職。
"	"	ソ連、ラデックらの「並行本部事件」公判開始(～1月30日)。
"	1・24	ユーゴ・ブルガリア間に「永世友好」条約調印。
"	1・25	宇垣一成、組閣を命じられるも、陸軍の反対で陸相を得られず、1月29日 辞退。
"	1・29	林銑十郎に組閣命令、陸相後任問題で組閣難航。
"	1・30	陸軍当局、憲政について軍の意向に関し「ファッショ政治を企図せず」など、 釈明の声明発表。
"	"	〔教〕「青年訓練所規程中改正」〔朝鮮総督府令第五号〕(「青年訓練所規 程左ノ通改正ス 第十三条 青年訓練所ノ訓練時数ハ四年ヲ通ジテ修身公民科 百時、教練三百五十時、普通学科及職業科ヲ通ジ二百五十時ヲ下ラザルモノト ス」)。
"	1・	〔書〕「現代文章辞典」(沖野岩三郎編、厚生閣)。
"	"	〔書〕「最新商業経済辞典」(阿部賢一、同文館)。
"	"	〔書〕「同訓異義和漢辞典」(堀江与一著、厚生閣)。
"	"	〔書〕「書人 第1号」(書人社。1冊。民国廿六年一月)。
"	"	〔書〕「世界文化 第1巻4期」(民国姚蓬子、袁孟超編、上海・世界文 化社。半月刊。民国廿六年一月)。
"	"	〔書〕「播音教育月刊 第1巻3期」(教育部社會教育司編、年10回刊。 民国廿六年一月)。
"	"	〔書〕「新時代 第7巻1期」(民国曾今可編、杭州・新時代刊社。1冊。 月刊。復刊号。民国廿六年一月)。
"	"	〔書〕「語文 第1巻1, 5, 6期」(民国朱執誠編、上海・新知書店。 月刊。民国廿六年一月～六月)。

西 曆	年 代	項 目
1937	1・	〔書〕「播種者 第1巻1号」(輪流文藝社編, 輪流文芸社。1937年1月)。
"	"	〔書〕「報 告 第1巻1期」(民国黄碩編, 報告社。半月刊。民国廿六年一月)。
"	2・2	林銑十郎内閣成立(政友・民政両党からの入閣なし)。
"	2・初	〔日〕 第二回訪日学生見学団来日(チリー, 10名)。
"	2・10	中共中央, 「国民党三中全会に致す書」を送り, 国共合作の諸条件(武装蜂起・土地革命の停止, 紅軍の国民革命軍への改名)提示。
"	2・15	国民党第五期三中全会開催(～22日。「赤禍根絶案」を採択しつつ国共合作への第一歩)。
"	"	〔書〕「日本語読本巻三」(ブラジル日本人教育普及会)。
"	2・16	〔書〕「日本語読本巻二」(ブラジル日本人教育普及会)。
"	2・19	兵役施行令改正で, 徴兵検査合格の身長基準を5cm緩和(続いて視力・聴力基準も引き下げられ, 学生の兵役逃避を封鎖)。
"	2・20	外務省, 「第三次北支処理要項」案作成(華北五省自治運動中止)。
"	2・28	〔書〕「BEGINNER'S DICTIONARY OF CHINESE-JAPANESE CHARACTERS」(ARTHUR ROSE-INNES, 天主教宣教師社団, 吉川書店)。
"	2・	〔書〕「 ^{幼学} _{適用} 日語速成法」(唐真如, 百新書局, 民国廿五年八月初版, 民国廿六年二月再版)。
"	"	〔書〕「日本語原の心理的解釈」(安井洋, 刀江書院)。
"	"	〔書〕「新撰漢和辞典」(宇野哲人・長沢規矩也編, 三省堂)。
"	"	〔書〕「故事熟語辞典」(間山林次郎編, 東栄堂)。
"	"	〔書〕「実用支那語発音辞典」(石山福治編, 大学書林)。
"	"	〔書〕「汗血週刊 第8巻9期～25期」(民国劉達行編, 上海・汗血書店。週刊。民国廿六年二月～六月)。
"	"	〔書〕「民衆教育 第5巻4, 5期」(民衆教育月刊社。年10回刊。民国廿六年二月)。
"	"	〔書〕「舞影時代 第1期」(民国許敏編, 上海・舞影時代社。月刊。民国廿六年二月)。
"	3・3	外相佐藤尚武任命。
"	3・4	〔書〕「東洋歴史大辞典」(池内宏ほか三人監修, 平凡社。～'39年8月

西 暦	年 代	項 目
1937		8日。9巻)。
"	3・8	王寵惠，張群の後任として外交部長に就任。
"	3・10	〔日〕「学校教育ニ於ケル日本普及徹底ニ関スル件」〔満州国文教部令第二十六号，康德四年三月十日〕（「日語教師ハ日本語教授ニ際シ単ニ語学トシテ之ヲ取扱フコトナク日本語ヲ通テ，日本精神，風俗習慣ヲ体得セシメ以テ日満一徳一心ノ真義ヲ発揚スルコトニ務ムルコト 2教職員及ビ学生ニ日本語普及徹底ノ重要性ヲ理解セシムルコト 3学校職員ハ必ズ日語学習ヲ励行スルコト 4教職員及学生ノ学校生活ニ於テハ勿論家庭生活ニ於テモ可成日本語使用ヲ励行スルコト 5日本人教師ハ勿論，多少ナリトモ日語ヲ解スル満系教員ト雖モ其ノ可能ナル範囲ニ於テ日本語使用ヲ奨励スルコト 6各種機会ヲ利用シテ日本語学習ノ興味ヲ起スコト 7学生日本語演説会，演芸会ヲ開催スルコト 8学校中心ノ一般民衆日語講習会ヲ開催スルコト 9満文ニ於テ使用スル學術名詞ハ出来得ル限り日文ニ即近セシムルコト。」）。
"	3・11	〔書〕「日本語読本巻四・巻六」（ブラジル日本人教育普及会）。
"	3・12	日本財界代表，中国視察に出発。
"	3・16	同志社大学で一部の教官，国体明徴問題で総長に上申書を提出。8・12具島兼三郎。田畑忍ら休・解職（「同志社事件」）。
"	3・20	〔書〕「 ^{増補改訂} 蒙和辞典」（韓穆精阿・駕淵一・精松源一。甲文堂書店。初版昭和3年12月10）。
"	"	〔書〕「満州共產匪の研究 第一輯」（満州国軍政部顧問部）。
"	3・22	陸軍省，「陸軍軍人軍属著作権規則」を改正（軍部内の言論統制を強化）。
"	3・25	日英・日米間に永代借地制度解消に関する公文公換（以後，各国とも解消）。
"	"	伊・ユーゴ，中立不可侵条約調印。
"	"	〔書〕「 ^{公学校補習科} 国語読本」（巻一〜四。4冊。南洋庁）。
"	"	〔書〕「言語学通論」（小林英夫，三省堂）。
"	3・27	〔教〕文部省，国体明徴の観点から，中学・師範・高女・高校の教授要目を大幅に改訂〔訓令〕。
"	3・28	〔書〕「国語講習所用国語教本上巻」（台湾総督府警務局）。

西 暦	年 代	項 目
1937		
"	3・31	〔教〕 東京帝大農学部付属農業教員養成所，東京農業教育専門学校となる〔勅令〕。
"	"	〔書〕「臨時ローマ字調査会議事録（下）」。
"	3・	〔書〕「 ^会 日語易通」（ ^{湯溪} ，百新書局，民国廿四年十一月初版，民国廿六年三月再版）。
"	"	〔書〕「要解英文法辞典」（水上斉編，外語研究社。「A Concise Dictionary of English Grammar」）。
"	"	〔書〕「詩歌要語辞典」（西条八十・横山青娥共著，交蘭社）。
"	"	〔書〕「朝鮮人名辞典」（京城・朝鮮総督府中枢院編・刊）。
"	"	〔書〕「ゴンド独和新辞典」（権田保之助編著，有朋堂。「Gondas Wörterbuch Deutsch-Japanisch」）。
"	"	〔書〕「人間十日 第1巻1号」（民国章雨坪編，上海・人間十日社。旬刊。民国廿六年三月）。
"	"	〔書〕「禮拜六 第683～696期」（上海・禮拜六報館。週刊。民国廿六年三月～六月）。
"	"	〔書〕「學校新聞」（学校新聞社。「學校新聞週年紀念特刊」。民国廿六年三月）。
"	"	〔書〕「中國文學月報 第3～5巻（第24～59号）」（松枝茂夫編，東京・中国文学研究会。月刊。昭和12年3月～15年2月）。
"	4・2	南ア政府，南西アフリカの外国人（ドイツ系住民を含む）の政治活動を禁止。
"	4・5	「防空法」公布。
"	4・9	日・蘭印間に，通商取決め調印（「石沢・ハルト協定」）。
"	4・12	列国モントル会議開く（～5月8日），エジプトのキャピチュレーション廃止（混成裁判所は12年継続）の協約調印。
"	4・15	中共中央，「全党同志に告ぐる書」発表。
"	4・16	外・蔵・陸・海四相，「対支実行策」「対支指導方策」を決定。
"	4・20	〔書〕「日本語読本 巻五」（ブラジル日本人教育普及会）。
"	4・26	独空軍，スペインのゲルニカの町を爆撃（死傷2000余人）。
"	4・28	〔日〕 南洋庁実業学校規則（南洋庁令第三号，昭和12年4月1日施行）。
"	4・30	第20回総選挙（民政179，政友175，社会大衆37，昭和会19，国民同盟11，東方会11，日本無産1，中立その他33）。

西 暦	年 代	項 目
1937	4・30	〔書〕「和独大辞典」(木村謹治, 博文館「Grosses Japanisch-Deutsches Wörterbuch」)。
"	4・	〔日〕 日比学生会議開催。
"	"	台湾の四大新聞(台南新報, 台湾新民報, 台湾新聞, 台湾日日新聞)の漢文欄廃止。
"	"	〔日〕 国語解者調(4月末現在, 公学校生徒数458002, 同上卒業生累計551146, 国語普及施設, 生徒数263371, 同上修了者累計661461, 合計1934000, 本島人人口5108914, 国語解者百分比37.8)。
"	"	〔書〕「出版月刊 第1・2期」(民国許達編, 上海・中華書局。2冊。民国廿六年四～五月)。
"	"	〔書〕「婦人家庭百科辞典」(三省堂百科辞典辞書編集部編, 三省堂)。
"	5・1	〔書〕「日本語読本 巻五」(布哇教育会)。
"	5・2	〔日〕 満州国政府教育部, 「新学制」制定(「師道教育令」・「国民学校令」・「国民学舎及国民義塾令」・「国民高等学校令」・「国民優級学校令」・「女子国民高等学校令」・「大学令」・「私立学校令」・「特別教育施設ニ関スル件」・「学事通則」, 各公布。国民学校の地理科・歴史科を国民科に統合, また日本の祭日を満州国の祭日にする)。
"	5・3	中共ソビエト区代表大会開催(～7日。延安), 毛沢東, 抗日戦準備をめぐる重要演説。
"	5・5	国民党中央政治会議, 土地法原則修正案可決。
"	5・8	陸軍・外務両省, 冀東貿易廃止等につき意見一致。
"	5・14	〔日〕 満州国政府文教部, 「留学生予校規程」公布(学校開設は6月)。
"	5・18	城戸幡太郎ら, 教育科学研究会を結成し, 各部委員会を開く, '39年9月, 「教育科学研究」創刊。
"	5・24	望月圭介, 昭和会(唯一の与党)の解党(5月21日)を述べ首相に総辞職を進言。
"	5・26	〔教〕 内閣に文教審議会を設置〔勅令〕。12・10廃止され, 新たに教育審議会を設置('41年10月13日までに戦時教育体制の基本を確立)。
"	5・28	政友・民政両党, 林内閣の即時退陣を要求。
"	"	〔書〕「国語普及教本」(台湾新化郡)。
"	5・31	〔教〕 文部省編纂「国体の本義」刊行(全国の学校・社会教化団体に配布)
"	"	林内閣総辞職。

西 暦	年 代	項 目
1937		
"	5・	〔書〕「日本語読本 巻七」(ブラジル日本人教育普及会)。
"	"	〔書〕「中日交際会話講義」(殷師竹・張会, 上海外語編訳社, 中西書局, 民国廿六年五月初版)。
"	"	〔書〕「国語学新講」(東条操, 刀江書院)。
"	"	〔書〕「国語の知識」(乾輝雄, 富山房)。
"	"	〔書〕「研究社時事英語辞典」(「英語研究」編集部編, 研究社。 「Kenkyusha's Current English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「新撰大人名事典」(平凡社編・刊。～16年10月。全九冊)。
"	"	〔書〕「ダイヤモンド和英新辞典」(愛之事業社編・刊。「Ainozigyo-sy's New Diamond Japanese - English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「日読読音」(李君達, 世界書局。民国廿三年九月初版, 民国廿六年五月三版)。
"	"	〔書〕「中華日語月刊 第1巻4期」(民国黄玉振編, 上海・中華日語月刊社。月刊。民国廿六年五月)。
"	"	〔書〕「來薰閣書目 第五期続編」(北平・來薰閣。1冊。民国廿六年五月)。
"	"	〔書〕「讀書青年 第2巻8期」(上海・讀書青年社。半月刊。民国廿六年五月)。
"	"	〔書〕「文學雜誌 第1巻1号」(民国朱光潜編, 上海・商務印書館。月刊。民国廿六年五月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四一八号)。 (同上)「公学校新国語読本教材取扱の実際」(辻武夫。～第四二〇・四二二・四二三号)。 (同上)「公学校用新国語読本の研究」(宋登才。第四十九号)。
"	6・1	〔日〕 6月1日現在の留日学生5934名, うち満洲留学生1939名。
"	6・3	蒋介石, 廬山で各将領・各界代表と会談, 周恩来を招く。
"	6・4	第一次近衛文麿内閣成立(陸海両相留任, 民政・政友両党より入閣。外相広田弘毅)。
"	6・10	〔日〕 日本文化振興会, 日英交換教授計画を決定(7・8東北帝大教授土居光知, 神戸を出版, ケンブリッジ大学などで日本文化講座開講)。
"	6・12	ソ連参謀長トハチエフスキーらの赤軍首脳, 軍法会議の判決で処刑。
"	6・15	〔書〕「国語会話教本 巻一, 巻二」(台湾七星郡教育会)。

西 暦	年 代	項 目
1937	6・23	独伊、スペイン沿岸の中立監視を中止（不干渉委員会を脱退）。
"	6・28	〔国〕 国語協会・国語愛護同盟・言語問題懇話会、合同して国語協会を結成し、第一回総会（8月「国語運動」創刊）。
"	6・30	カンチャーズ事件発生（日満軍、ソ連砲艦を撃沈）。
"	6・	〔書〕「台湾教育」（第四一九号）。 （同上）「公学校新国語読本巻一、発音とアクセントの研究」（川見駒太郎。～第四二二号・四二四号）。 （同上）「公学校用新国語読本巻一、巻二編纂要旨」（加藤春城。～第四二一号）。
"	"	〔書〕「標準日文自修講座（後期第一冊）」（張我軍、北平人人書店、民国廿六年六月初版）。
"	"	〔書〕「図説植物辞典」（村越三千男、中文館書店）。
"	"	〔書〕「唯物論辞典」（広島定吉訳、白楊社）。
"	"	〔書〕「中華日語月刊」（民国黄玉振編、上海・中華日語月刊社。月刊。第1巻4期。民国廿六年六月）。
"	7・1	〔日〕 満州国政府、新官制実施、文教部廃止。民生部内に教育司を設置。
"	"	中央経済會議官制公布〔勅令〕（日満間の総合的経済政策審議機関）。
"	7・7	蘆溝橋附近で日本軍夜間演習中、中国軍と衝突事件起こる（「蘆溝橋事件」、日中全面戦争の発端）。
"	7・8	中共、対日全面抗戦の通電。
"	"	関東軍、嚴重監視の声明。
"	"	英国ピール勸告公表（パレスチナのアラブとユダヤ国家への分割を勸告）。8月2日世界シオニスト会議、同勸告案採択。
"	7・11	緊急閣議、華北派兵の陸軍案を承認、政府、各界に挙国一致の協力要望（現地では、事態収拾、停戦協定成立）。
"	"	廬山国防會議（周恩来中共代表再び招かれ、15日正式会談に参加）。
"	7・12	「北支派兵＝関スル声明」（政府声明）。
"	7・15	文相、宗教・教化団体代表者に挙国一致運動を要望。8月17日宗教局長、国民精神総動員につき、宗教家の奮起を促す。
"	7・16	中国外交部、日本増派軍の総引揚げ要求。
"	7・17	蒋介石、廬山で周恩来と会談、陝甘寧辺区政府を承認。対日抗戦準備の談話を発表。8月15日対日抗戦の総動員令を下す。
"	7・19	蒋介石、廬山で「生死関頭」声明。
"	7・20	〔日〕 満州国民生部、「熱河省私塾規程」公布。

西 暦	年 代	項 目
1937		
"	7・20	〔書〕「日本語読本 巻八」(ブラジル日本人教育普及会)。
"	7・21	〔教〕 文部省, 思想局を拡充, 教学局を設置。'40・11・16 地方教学官をおく〔勅令〕。
"	7・22	日本基督教連盟, 「時局に関する宣言」を発表(国策協力を表明)。
"	7・24	近衛首相の密使宮崎竜介, 憲兵隊により逮捕。
"	7・26	「広安門事件」発生。
"	"	軍中央, 支那駐屯軍に武力行使を指示。支那駐屯軍, 宋哲元に期限付(7月28日正午)最後通牒を渡す。
"	7・27	政府, 北支事変に関し自衛行動をとると声明, 内地三箇師団に動員令。
"	7・28	支那駐屯軍総攻撃開始。
"	"	独外務省, 日本の中国での動乱惹起は中国の統一を妨害し, 防共協定に違反すと東京大使館へ訓電。
"	7・29	中国保安隊, 日本軍通州守備隊を襲撃, 居留民の大部分が殺される(「通州事件」)。
"	"	第一次北支事件費追加予算, 北支事件経費支弁公債発行〔法律〕各公布。
"	7・30	日本軍, 天津占領。
"	7・31	救国七領袖釈放。
"	7・	〔書〕「台湾教育」(第四二〇号)。 (同上)「新制公学校書方手本について筆者高塚竹堂に御話を聞く」 (鳥塚健吉)。
"	"	〔書〕「国民百科教訓辞典」(国民修養会編, 日本書院)。
"	"	〔書〕「日西大辞典」(ホアン・カルボ編, 三省堂。「Diccionario Japonés - español, by Calvo Juan」)。
"	"	〔書〕「新學識 第1巻11期」(民国徐歩編, 新學識社。半月刊。民国廿六年七月)。
"	8・1	〔書〕「日本語読本 巻七」(布哇教育会)。
"	8・3	石射東亜局長, 船津辰一郎に和平工作依頼。
"	8・5	〔書〕「布哇日本語教育史」(布哇教育会編纂部編, 布哇教育会出版部)。
"	"	〔日〕 満州国民生部, 「建国大学令」公布。
"	8・8	日本文化中央連盟发起人会(日本文化宣揚のため各種の事業を行う)。

西 暦	年 代	項 目
1937	8・9	チャハル作戦下令（関東軍参謀長東条英機指揮）。
"	"	上海で海軍陸戦隊大山中尉射殺される（「大山事件」）。
"	8・10	陸軍、上海派遣軍の編成命令。
"	8・11	第三艦隊増派。
"	8・13	閣議、陸軍の上海派遣を決定。
"	"	上海で海軍陸戦隊と中国軍交戦開始（「第二次上海事件」）。
"	8・14	陸軍軍法会議、「二・二六事」民間関係者に判決、北一輝・西田税に死刑宣告。8月19日磯部・中村と共に死刑執行。
"	"	中国空軍による上海租界盲爆。
"	8・15	政府、南京政府断固膺懲を声明。
"	"	上海派遣軍編成下令。
"	"	海軍機、南京・上海を渡洋爆撃。
"	"	中国、全国総動員令、蒋介石三軍総司令に。
"	"	中共、「抗日十大綱領」決定。
"	8・21	南京で、中ソ不可侵条約調印。
"	"	満州映画協会〔満映〕、関東軍の指導下に設立。
"	8・22	中国西北の紅軍、国民革命軍第八路軍に改編（軍長朱徳、副軍長彭徳懐）。
"	8・23	上海派遣の陸軍部隊、呉淞付近に敵前上陸。
"	8・24	閣議、「国民精神総動員実施要綱」を決定。9月9日内閣訓令を出す。
"	8・25	海軍、上海・汕頭間の海岸航行を遮断。
"	"	中共中央、「抗日救国十大綱領」を発表。
"	8・26	ヒュークセンセン駐華英大使、日本機の機銃掃射で重傷。
"	8・27	ローマ法王庁、フランコ政権承認。
"	8・30	〔日〕「高等普通学校規程中改正」〔朝鮮総督府令第百三十一号〕（「高等普通学校規程中左ノ通改正ス 第七条第一項中「朝鮮語及漢文」ヲ「朝鮮語」ニ改ム 第十一条第一項及第二項中「朝鮮語及漢文」ヲ「朝鮮語」ニ改メ同条第二項中「及平易ナル漢文」ヲ削ル 第二十三条第一項左表中「朝鮮語及漢文」ヲ「朝鮮語」ニ改ム 附則 本令ハ昭和十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス 朝鮮語ノ教科書ハ当分ノ間仍従前ノ朝鮮語及漢文ノ教科書ヲ使用セシムルコトヲ得」）
"	8・30	北支那方面軍、第1軍・第2軍の編成並びに華北派遣を命令。
"	"	日満両国法人（株）満州拓殖公社設立（本社新京、資本金5000万円、総裁坪上貞二）。
"	"	〔書〕「國語講習所用國語讀本 下巻」（台湾総督府警務局）。
"	8・	〔書〕「台湾教育」（第四二一号）。 （同上）「小学校に於いて話へ展開の読方教授」（川原清）。

西 暦	年 代	項 目
1937	8・1	(#)「公学校国語読本の研究」(宋登才)。
	"	(#)「公学校国語読本と低学年の綴方教育」(辻武夫)。
"	"	[書]「瓦斯用語集(改訂版)」(帝国瓦斯協会編・刊)。
"	"	[書]「庄内人名辞書」(阿部正己, 山形鶴岡市・言霊書房)。
"	"	[書]「西 風 第12期8月号」(民国黄嘉德, 黄嘉音編, 上海・西風月刊社。月刊。民国廿六年八月)。
"	"	[書]「戲劇時代 第1巻3期」(民国欧陽予倩, 馬彥祥共編, 上海・戲劇時代出版社。月刊。民国廿六年八月)。
"	"	吉川英治・吉屋信子・尾崎士郎・林房雄ら, 各社特派員として戦地へ赴く。
"	9・2	「事変呼称決定」(閣議決定, 「政府ニ於テハ今回ノ事変ハ北支蘆溝橋附近ニ於ケル日支兵衝突ニ端ヲ発シタルモノナルモ今ヤ支那全体ニ及ブ事変ト化シタルヲ以テ其ノ呼称モ名実相伴フ如クシ国民ノ意志ヲ統一スルノ必要アルヲ認メ九月二日ノ閣議ニ於テ之ヲ支那事変ト呼称スルコトニ決定セリ」)。
"	9・5	日本海軍, 全中国沿岸封鎖宣言。
"	9・8	汎アラブ会議, ピール勧告を拒否。ユダヤ人のパレスチナ移民中止を要求。
"	9・9	「台湾庁制」〔台湾総督府律令第十六号〕(「第一章 総則 第一条 庁ノ名称及区域ハ国ノ行政区劃ニ依ル 第二条 庁ハ法律, 勅令又ハ律令ニ依リ庁ニ属セシメタル事務ヲ処理ス」)。
"	9・10	臨時軍事費特別会計第1回予算公布('46年2月終結。歳出予定総額2221億円。支出済額1870億円)。支那事変臨時軍事費支弁公債発行法公布〔法律〕軍需工業動員法の適用に関する法律〔法律〕公布(同法の戦時規定を「支那事変」に適用)。9・25工場事業場管理令〔勅令〕公布。
"	"	英仏などの9か国, スペイン内乱不干渉に関する会議をひらく(～9月14日)。地中海の安全航行・監視地区設定, 「ニオン協定」調印(独伊不参加)。
"	9・13	政府, 国民精神総動員実施要綱発表。
"	9・20	八路軍と日本軍が平型関ではじめて交戦(日本軍, 大打撃をうける)。
"	9・21	〔国〕内閣, 「国語のローマ字綴方の統一について」訓令〔内閣訓令第33号〕(いわゆる訓令式)。
"	"	〔日〕日本語海外普及に関する第一回協議会(国際文化振興会)。
"	"	国際連盟の日中紛争諮問委員会開く(25日, 日本, 招請を拒絶)。9月27日中国都市空爆に関し日本非難の決議作成。9月28日連盟総会, 同決議を全会一致で可決。
"	9・22	国民党, 中共の国共合作宣言を公表。中共中央, 「精誠団結一致抗敵宣言」発表。9月23日蔣介石, 中共の合法的地位承認の談話発表(「第二次国共合作」成立)。

西 暦	年 代	項 目
1937	9・24	八路軍（林彪指揮，平型関で日本軍を包囲攻撃（～9月25日）。板垣師団大敗。
"	9・25	政府，日華紛争に関する国際連盟諮問委員会の招請（9月21日）を拒絶。
"	"	「内閣情報部官制」〔勅令〕公布（情報委員会は廃止）。
"	9・28	〔教〕 閣議，海外留学・派遣の抑制を決定（'38年9月，文化関係中止決定）。
"	"	経済団体連盟設立（日本経済連盟会など8団体の時局対策連合会協議会）。
"	"	〔日〕 台湾総督府，皇民化運動を提唱。
"	"	〔日〕 「高砂族国語講習所（訓令又ハ内訓）準則」（「昭和十一年七月総警第一二二号総務長官依命通達」改正，「昭和十二年九月総務第一三二号」（「第一条 国語講習所ハ特ニ指定シタル警官吏駐在所又ハ同派出所ニ付置ス 第二条 国語講習所ハ高砂族（アミ族ヲ除ク）ニ対シ国語ヲ習得セシメ国民的資質を啓培スルヲ以テ目的トス 第三条 国語講習所ハ其ノ所在地名ヲ冠シ何々国語講習所ト称ス）。
"	"	〔日〕 日語文化協会，日本語教授研究所を設立。
"	"	察南自治政府樹立。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四二二号） （同上）「公学校児童の発音転訛例とその矯正法」（木村万寿夫）。
"	"	〔書〕「葬送習俗語彙」（柳田国男著，民間伝承の会刊，岩波書店発売）。
"	"	〔書〕「和英対照電気用語解説集」（小野寺長，太陽堂）。
"	9・29	「台湾庁制ノ施行ニ関スル件」〔台湾総督府令第九十号〕（「台湾庁制ノ施行ニ関スル件左ノ通定ム 第一条 台湾庁地方費令及之ガ施行ノ為発シタル命令又ハ之ニ基キテ発シタル命令ニ依リ為シタル手続其ノ他ノ行為ハ之ヲ台湾庁制及之ガ施行ノ為発スル命令又ハ之ニ基キテ発スル命令ニ依リ為シタルモノト看做ス 附則 本令ハ昭和十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
"	10・1	首・陸・海・外4相間で「支那事変対処要綱」を決定。
"	"	政府，小冊子「我々は何をなすべきか」1300万部，府県を通じ，全国各戸に配布。朝鮮人に「皇国臣民の誓詞」を配布。
"	10・5	米大統領ルーズベルト，シカゴで日独侵略国家を非難する（隔離演説）。
"	10・6	国際連盟総会，日華紛争に関し，日本の行動は九か国条約・不戦条約違反との決議を採択。
"	10・7	東京仏教護国団，日比谷で報国大会を開催。
"	10・10	〔日〕 満州国民生部，「国民学校規程」公布。
"	10・12	国民精神総動員中央連盟結成（会長有馬良橘大将）。

西 暦	年 代	項 目
1937	10・12	華中華南の紅軍，新四軍に改編（軍長葉挺，副軍長項英）。
"	10・25	「企画院官制」〔勅令〕公布（企画庁と資源局とを統合）。
"	10・27	蒙古聯盟自治政府樹立（主席雲王，副主席徳王）。
"	10・29	カルカッタでインド国民会議派運営委員会開く（日本の中国侵略非難・日本品ボイコットを決議）。
"	10・	晋北自治政府樹立。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四二三号）。 （同上）「国語教育と音声に就いて」（西岡英夫。～第四二四号）。 （"）「公学校用国語読本各教材取扱の実際」（宋登才。第四二四号）。
"	"	〔書〕「学友会会報」第一号発行。
"	"	〔書〕「研究社英米文学辞典」（斎藤勇編，研究社。「The Kenkyusha Dictionary of English and American Literature」）。
"	"	〔書〕「満州国地名大辞典」（山崎惣与編，日本書房）。
"	"	〔書〕「欧和・和欧対訳化学用語新辞典」（橋本吉郎著，太陽堂。「Chemical Technics」）。
"	"	〔書〕「ギリシア・ラテン引用語辞典」（田中秀宏・落合太郎共編，岩波書店。「Lexicon Sententiarum Gnaecarum et Latinarum」）。
"	"	〔書〕「現代祝賀弔祭演説辞典」（国際雄弁会編，大洋社出版部）。
"	"	〔書〕「皇国青年宝典」（研文社編・刊）。
"	"	〔書〕「 ^{例文} _{通釈} 新撰古語辞典」（江波熙著，富士出版）。
"	"	〔書〕「神道大辞典」（平凡社編・刊。～昭和15年9月。三冊）。
"	"	〔書〕「独和染色加工工業辞彙」（神戸・独逸染料合名会社編・刊。「Japanische Fachauedrucke aus dem Gebiet der Textil-Veredlungsindustrie」）。
"	"	〔書〕「拓け満蒙 第1巻6号～2巻8号」（山名義鶴編，東京・満洲移住協會。昭和12年10月～13年8月）。
"	11・1	〔書〕「日本語読本 巻六」（布哇教育会）。
"	11・2	広田外相，ディルクセン独駐日大使に対中国和平条件を伝え，11月5日トラウトマン独駐華大使より蔣介石に通告（「トラウトマン平和工作」はじまる）
"	11・3	ブリュッセルに9か国条約国会議開く（～11月5日日本の国際法違反を非難）。
"	"	〔書〕「大言海索引」（大槻文彦，富山房。昭和7年10月～。五冊）。

西 暦	年 代	項 目
1937		
"	11・5	第十軍、杭州湾北岸に上陸、上海戦線の背後をつく。
"	"	ヒトラー、総統官邸で、外相・軍部指導者と秘密会談、生活圏獲得の戦争計画を提示（「ホスバッハ覚書」に記録）。
"	11・6	イタリア、日独防共協定に参加。
"	11・7	中支那方面軍の編成を命令（上海派遣軍・第十軍を指揮）。
"	11・8	中井正一・新村猛・真下信一らの「世界文化」グループ検挙。
"	"	〔日〕「満州国ニ於ケル治外法権ノ撤廃及南満州鉄道附属地行政権ノ移譲ニ関スル日本国満州国間条約及附属文書」〔条約第十五号ノ公布昭和十二年十二月十一日〕（「附属協定（甲） 第四章 神社；教育及兵事ニ関スル行政 第十五 満州国政府ハ其ノ日本国民ニ対シ行フベキ教育行政ニ関シ重要ナル事項ニ付テハ当分ノ間豫メ満州国駐劄大日本帝国特命全權大使ト満州国國務総理大臣トノ間ニ協議決定セラルル所ニ従ヒ条約実施後当分ノ間満州国領域内ニ於テ日本国又ハ其ノ臣民ガ日本国法令ニ依リ学校其ノ他ノ教育施設ヲ開設、経営又ハ管理スルコト及日本国政府ガ日本国臣民ノ教育ニ関スル行政ヲ行フコトヲ承認スベシ 日本国政府ハ前項ノ学校其ノ他ノ教育施設ノ開設、経営又ハ管理ヲ為サシムル為満州国領域内ニ於テ日本国法令ニ依リ公法人タル学校組合及組合聯合会ヲ設クルコトヲ得満州国政府ハ右学校組合及組合連合会ノ成立ヲ承認スベシ」）。
"	11・9	「日本国独逸国間ニ締結セラレタル共產「インターナショナル」ニ対スル協定ヘノ伊太利国ノ参加ニ関スル議定書」〔条約第十六号、公布昭和十二年十一月十日〕（「日独伊防共協定」）。
"	11・18	「大本営令」〔軍〕公示。「戦時大本営条例」を廃止する旨〔勅令〕公布。
"	11・19	英ハリファックス卿、ベルヒテスガーデンにヒトラー訪問、英独協調を打診。
"	11・20	官中に大本営設置。
"	"	大本営陸・海軍部に報道部を設置（'38年9月陸軍省新聞班、情報部と改称）
"	"	蒋介石、重慶遷都宣言。
"	11・22	蒙古聯盟・察南・晋北の3自治政権、関東軍の指導で、蒙疆聯合委員会を結成。
"	11・24	東京帝大経済学部長土方成美、教授会で矢内原忠雄の言論活動を非難。12月1日矢内原辞表提出。12月4日退官。
"	11・30	〔日〕「在満学校組合令」〔勅令第六百九十五号。公布昭和十二年十二月一日〕（「第一条 学校組合ハ法人トス満州国駐劄特命全權大使ノ監督ヲ承ケ条約及法令ノ範囲内ニ於テ満州国内ニ居住スル帝国臣民ノ教育ニ関スル事務ヲ処理ス」）。

西 暦	年 代	項 目
1937		
"	11・30	〔日〕「帝国ノ満州国ニ於ケル治外法権ノ撤廃及南満州鉄道附属地行政権ノ移譲ニ際シ関東局内部臨時職員設置制其ノ他ノ勅令中改正等」〔勅令第六百八十五号。公布昭和十二年十二月一日〕（（前略）第八条 関東州小学校官制中左ノ通改正ス 第三条第一項中「民政署長」ノ下ニ「（大連市ノ区域ニ在リテハ関東州庁長官）」ヲ加フ 第九条 関東州公学堂官制中左ノ通改正ス 第三条一項中「民政署長」ノ下ニ「（大連市ノ区域ニ在リテハ関東州庁長官）」ヲ加フ 第十条 在外指定学校職員令中左ノ通改正ス 第六条中「南満州鉄道附属地」ヲ「満州国」ニ改ム（中略）第四十一条 昭和十年勅令第九十一号 〇関東州及南満州鉄道附属地ニ於ケル青年学校ニ関スル件其他中左ノ通改正ス 第一項中「南満州鉄道附属地」ヲ「満州国」ニ、「市」ヲ「関東州ニ在リテハ市、満州国ニ在リテハ在満学校組合、」ニ改ム 第四十二条 本令施行ノ際現ニ満州国ニ在スル在外青年学校ハ之ヲ昭和十年勅令第九十一号ノ改正規定ニ依リ設置シタル青年学校ト看做ス（中略）第五十四条 大正十一年勅令第二百二十三号 〇日露協会ノ設立スルハ爾濱学院ニ関スル件中左ノ通改正ス 「外務大臣」ヲ「満州国駐劄特命全權大使」ニ改ム（中略）第六十四条 恩給法施行令中左ノ通改正ス 第八条中「関東州」ノ下ニ「及満州国」ヲ加フ（後略））。
"	11・	〔日〕 満州国民生部、「学校卒業程度学力検定規程」公布。
"	"	〔書〕「公学堂日語学堂教育の実際」（満鉄初等研究会第二部）。
"	"	〔書〕「カトリック用語小辞典」（カトリック大辞典編輯所編、札幌・光明社。「Terminologia Catholica Japonice Reddita」）。
"	"	〔書〕「新金融辞典」（銀行研究社編、文雅堂）。
"	"	〔書〕「難読仏教語彙」（日本放送会編・刊）。
"	"	〔書〕「物理学用語新辞典 英和独仏・独和英仏対訳」（菊地常武、太陽堂。「New Dictionary of Physical Terms English-Japanese-German-French Japanese-English-German-French」）。
"	"	〔書〕「岩波法律学小辞典」（編集代表我妻栄・横田喜三郎・宮沢俊義、岩波書店）。
"	12・1	（財）大倉精神文化研究所設立認可。
"	"	〔日〕 日本、満州国に「附属地行政権」を移譲、附属地中国人の教育権、民生部が回収。
"	12・2	トラウトマン・蔣介石会談。
"	12・5	春日庄次郎ら、大阪で日本共産主義者団を結成。
"	"	〔書〕「日文補充読本巻一」（北京近代科学図書館編集部）。

西 暦	年 代	項 目
1937		
"	12・11	南京陥落の祝賀行事挙行。
"	"	〔日〕 第二十四回全島国語演習会（場所、台南市台南師範学校講堂、参加人数153名、番外98名）。
"	"	イタリア、国際連盟を脱退。
"	12・12	日本海軍機、揚子江南京付近で米艦パネー号を撃沈。陸軍は英艦レディバード号等を砲撃。12月14日政府、英米に陳謝。
"	"	ソ連邦最高ソビエト委員の第1回総選挙。
"	12・13	日本軍、南京を占領し、大虐殺事件をおこす。
"	12・14	中華民国臨時政府、北支那方面軍の指導で北平に成立（行政委員長王克敏）。
"	"	〔日〕 臨時政府教育部は、日華の精神的融合と文化提携上、日本語普及の重要性にかんがみ、いちはやく学校教育において日本語教科書の編纂に着手、教員養成の面では、国立北京師範大学日文系及び外国語専科学校において日本語中等教員を、各省市師範学校日本語専修科においては、日本語初等教員を養成した。なお、日系日語教員の可及的配置を施策した。
"	12・15	〔教〕 和辻哲郎・田辺元・西田幾多郎・山田孝雄・小泉信三ら、教学局参与となる。
"	"	山川均・加藤勘十・大森義太郎ら労農派など400人余を検挙（第1次人民戦線事件）。12月22日日本無産党・日本労働組合全国評議会に結社禁止。
"	"	〔書〕「日本語読本 巻八」（布哇教育局）。
"	12・20	〔日〕 日本語普及に関する第二回協議会開催（主催国際文化振興会、会場エーワン）。
"	"	〔書〕「満和辞典」（羽田享など編、京都帝国大学満蒙調査会）。
"	12・22	外相、ディルクセント大使に和平四条件提示。
"	12・25	中共、対時局宣言を発し、遊撃戦の展開・大衆動員を主張。
"	12・27	〔日〕 満洲国民生部、「満洲工鉱業技術員養成所官制」公布。
"	"	日本産業（株）、満洲国法人満洲重工業開発（株）に改組（日産コンツェルンの満洲移駐。資本金4億5000万円。総裁鮎川義介）。
"	12・	〔日〕 満洲国民生部、「学校組合法」公布。
"	"	内務省警保局、人民戦線派の執筆禁止を出版業者に通告。
"	"	〔書〕「新編日本古語辞典」（松岡静雄著、刀江書院）。
"	"	〔書〕「北京近代科学圖書館刊第26号」（北京・北京近代科学図書館）。

西 暦	年 代	項 目
1937		2冊。旬刊。民国廿六年十二月～民国廿八年七月）。
"	(昭和12年)	〔日〕 東亜学校、高等学校令に準拠する三年制の高等科を設置、日本語のみ1年間専修するものを正科と称する。
"	"	〔日〕 台湾総督府、国語愛用強調方策として「国語常用家庭」制度を設ける。
"	"	〔日〕 「語学検定試験規程」(満洲国民生部令第二十四号)。
"	"	〔日〕 事変以来、中等学校・小学校の教員で、満洲・支那・台湾・朝鮮・関東州・南洋など、外地海外へ行ったもの昭和12年現在1060名。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校、学生数、本島人369, 高砂族1, 卒業数, 本島人95, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数; 本島人11452, 高砂族55, 卒業数, 本島人5505, 高砂族26)
"	"	〔日〕 「台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校、生徒数, 本島人2781, 蕃人21, 卒業数, 本島人431, 蕃人5, 小学高等科, 生徒数, 本島人318, 蕃人8, 卒業数, 本島人81, 蕃人1)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数, 本島人2831, 高砂族3, 卒業数, 本島人396, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(本島人1912, 高砂族0, 卒業数, 本島人485, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人1620, 高砂族9, 卒業数, 本島人281, 高砂族2, 実業補習学校, 生徒数, 本島人2748, 高砂族90, 卒業数, 本島人860, 高砂族62)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人2955, 高砂族3, 卒業数, 本島人763, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数126, 卒業数45)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数60, 卒業数5)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数179, 卒業数62)
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数187, 生徒数9006, 卒業数1709, 就学歩合80・61)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所2812, 生徒数185590, 簡易国語講習所1555, 生徒数77782, 合計所数4367, 合計生徒数268372)。
"	"	〔日〕 国語講習所の所数・会員数・国語普及歩合(所数267, 会員数15927, 普及歩合28・89)。

西 曆	年 代	項 目
1937	"	〔日〕満州国における語学試験受験者数・合格者数（〔日本語〕特等受験者数 110，合格者数 4，一等受験者数 653，合格者数 74，二等受験者数 1139，合格者数 168，三等受験者数 2939，合格者数 591，合計受験者数 4841，合計合格者数 837）。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本（改正出版）第一種巻三，四同掛図巻三」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校用書方手本（改正出版）第二学年用上下」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第一種編纂趣意書」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校用国語書キ方手本第一種編纂趣意書」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校用硬筆書キ方練習帖」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校国史第一種編纂趣意書」（台湾総督府，昭和 12～13 年）
"	"	〔書〕「公学校国語読本教授書巻一」（台北二師附属公学校啓明会，台北台湾小供世界社）。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本巻一 ----（改訂）」（台湾総督府，昭和 12 年～）。
"	"	〔書〕「初等理科書高等科第一，二学年」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「初等図画高等科第一，二学年」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校女子農業書巻一，二」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校女子商業書巻一，二」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校家事書第五，六学年」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本第一種掛図（改訂）一～」（台湾総督府，昭和 12 年～）。
"	"	〔書〕「公学校女子農業教授書」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「公学校家事教授書第五，六年用」（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「アクセントを附したる公学校話方科教授細目」（台南市末広公学校編）。
"	"	〔書〕「月別に教材を練習例を附したる系統的発音語調矯正指導案」（台南市末広公学校編）。
"	"	〔書〕「青年読本第一年次」（台中州教化聯合会編）。
"	"	〔書〕「国語常用語教本」（車籠埔部落振興会）。
"	"	〔書〕「簡易国語教本」（嘉義郡）。
"	"	〔書〕「国語会話教本巻一，二」（国語普及調査会）。
"	"	〔書〕「日文模範教科書（巻一～巻三，北京近代科学図書館編纂部）。
"	"	〔書〕「効果的速成式標準日本語読本（満州版 3 巻）」（大出正篤，満州図書文具 K K。別に中華版もある）。

西 曆	年 代	項 目
1937	(昭和12年)	〔書〕「現代国語法教本」(東亜学校)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四一四号~第四二五号発行)。
"	"	〔書〕「An Annotated Dictionary of Chinese-Japanese Characters」(Arthar Rose-Innes, 吉川書店。英語国民が漢字を学ぶための漢英辞典)。
"	"	〔書〕「日西大辞典(「Diccionario Japonés Español」)(ホアン・カルボ, 「P・Juan Calvo」, 三省堂)。
"	"	〔書〕「支那言語学概論」(カールグレン, 魚返善雄訳)。
"	"	〔書〕「現代標準日語初階」(顧梵, 上海中央書店, 民国廿六年初版)。
"	"	〔書〕「詳解英文解釈法」(荒牧鉄雄, 三省堂)。
"	"	〔書〕「英語音声学概説」(豊田實著, 東京研究社)。
"	"	〔書〕「独英和对訳 機械用語集」(坪井道三, 太陽堂)。
"	"	〔書〕「簡易日支會話」(田中乾郎編, 東京・文求堂。110P)。
"	"	〔書〕「中日對譯日語會話讀本 2巻」(吉原良之助著, 安東日語研究社2冊)。
"	"	〔書〕「注音符号標音 日語會話(巻1)」(民国強仲直著, 業余日文講習所。民国廿六年刊。104P)。
"	"	〔書〕「初等日本語讀本(巻1)」(在滿日本教育會教科書編輯部編, 大連・在滿日本教育會教科書編輯部。1冊)。
"	"	〔書〕「日語常用會話公式」(岩井武男, 民国李企堯共著, 東京・文求堂109P)。
"	"	〔書〕「武士道論語」(大木陽堂著, 四名道子訳, 上海。民国廿六年刊。90P)。
"	"	〔書〕「留學生部出身者名簿」(成城學校留學生部。昭和12年刊。51P)
"	"	〔書〕「滿洲國留日學生錄 康德3年5月現在2版」(駐日滿洲國大使館編, 東京・駐日滿洲國大使館。昭和12年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「留日學務規程及概況 2版」(日華學會編, 東京・日華學會。昭和12年刊。183P)。
"	"	〔書〕「日本故事選集」(内山美男, 滿洲張少山共訳, 大連・梅友社。昭和12年刊。140P)。
"	"	〔書〕「東亜經濟調查局所藏邦華文圖書目錄」(佐田弘治郎編, 東京・東亜經濟調查局。昭和12年刊。507, 15P)。
"	"	〔書〕「〔圖書目錄〕大東書局 世界書局 文明書局 圖書一覽」(〔大東書局〕編, 滿洲康德四年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「邃雅齋書目 中華民國26年訂」(民国廿六年刊。620P)。

西 曆	年 代	項 目
1937	"	〔書〕「文奎堂書目 民國26年版 5卷」(北京·文奎堂。民國廿六年刊。652P)。
"	"	〔書〕「張菊先生七十生日記念論文集」(民国胡適等編,上海·商務印書館。民國廿六年刊。650P)。
"	"	〔書〕「織豐時代の近世史的意義」(京口元吉著。昭和12年刊。22P。歷史第1卷9号所載)。
"	"	〔書〕「日華事變究竟因何而起」(滿洲國通信社編,新京·滿洲事情案内所。昭和12年刊。58P)。
"	"	〔書〕「光緒秘史」(清德菱(裕德齡)著,徐學易譯,上海·商務印書館。民國廿六年刊。260P)。
"	"	〔書〕「汪清衛先生庚戌蒙難實錄」(民国張江裁編,北京·松筠閣。民國廿六年刊。活版。「中華民國開國史料第1種」。1冊)。
"	"	〔書〕「近代中國啓蒙運動史」(民国何幹之著,上海·生活書店。民國廿六年刊)。
"	"	〔書〕「蔣委員長西安半月記·蔣夫人西安事變回憶錄」(民国蔣中正,蔣宋美齡著,南京·正中書局。民國廿六年刊。121P)。
"	"	〔書〕「經歷」(民国韜奮著,民國廿六年刊。303P)。
"	"	〔書〕「日本的透視」(英国歐脫萊著,民国董之學譯。民國廿六年刊。「世界知識叢書之14」。305P)。
"	"	〔書〕「某國人在中國」(民国鍾谷人編,民國廿六年刊。120P)。
"	"	〔書〕「最近 福建省里程圖 附最近軍用電信電話線路及無電台」(松岡忠毅編,台北·松岡忠毅。昭和12年刊。1枚)。
"	"	〔書〕「東西文化觀」(民国陳序經著,廣州·嶺南大學。民國廿六年刊。187P)。
"	"	〔書〕「滿鐵經營滿人教育回顧坐談會筆記」(南滿洲教育會中部會編,滿洲教育會中部會。昭和12年刊。孔版。1冊)。
"	"	〔書〕「初等支那教科書 卷1」(在滿日本教育會教科書編輯部編,大連·在滿日本教育會教科書編輯部。昭和12年刊。12P)。
"	"	〔書〕「王雲五大辭典」(民国王雲五編,上海·商務印書館。1937年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「國語辭典 第一冊」(教育部國語推行委員會中國大辭典編纂處編,上海·商務印書館。民國廿六年刊。877P)。
"	"	〔書〕「華語常用單語急速暗記法」(民国吳主惠著,東京·文求堂。昭和12年刊。156P)。
"	"	〔書〕「中國現代文選」(實藤惠秀編,東京·文求堂。昭和12年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「實用速成上海語」(影山巍著,東京·文求堂。昭和12年刊)。

西 曆	年 代	項 目
1937		145P)。
"	(昭和12年)	〔書〕「分り易く憶え易い支那語の發音」(岩井武男著, 東京・外語学院出版部。昭和12年刊。63P)。
"	"	〔書〕「中等官話談論新篇」(民国李俊漳著, 東京・文求堂。昭和12年刊。159P)。
"	"	〔書〕「滿洲語讀本」(在滿日本教育會教科書編輯部著, 大連・在滿日本教育會教科書編集部。昭和12~13年刊。4冊)。
"	"	〔書〕「實用國語會話」(民国樂嗣炳編, 上海・大衆書局。民国廿六年刊250P)。
"	"	〔書〕「字韻句集」(高田集藏著, 東京・竹鄰書屋。昭和12年刊。58P)
"	"	〔書〕「仁丹鬚子」(民国塞克著, 上海・讀書生活出版。1937年刊。61P)。
"	"	〔書〕「賽金花」(民国熊佛西著, 王志新。民国廿六年刊。53P)。
"	"	〔書〕「晚清小説史」(民国阿英編, 上海・商務印書館。民国廿六年刊。287P)。
"	"	〔書〕「第三代 1, 2部」(民国蕭軍著, 上海・文化生活出版。民国廿六年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「現代小品文選 第1冊」(民国何日編, 上海・文芸書局。民国廿六年刊。46P)。
"	"	〔書〕「夜 記」(民国魯迅著, 上海・文化生活出版。民国廿六年刊。「文學叢刊4」。145P)。
"	"	〔書〕「魯迅先生語錄」(民国魯迅著, 雷白文編, 1937年刊。106P)。
"	"	〔書〕「笑話三千篇 3卷」(民国徐卓呆著, 上海・中央書店。民国廿六年刊。3冊)。
"	"	〔書〕「ちゃお・つう・ゆえ」(民国老舍著, 奥野信太郎訳, 東京・中央公論社。昭和12年刊。「現代世界文學叢書9」。344P)。
"	"	〔書〕「諾亜・諾亜」(法国弋庚著, 民国文之訳, 上海・言行社。民国廿六年刊。「文學譯叢」。114P)。
"	"	〔書〕「修綏堂書目 第5期」(北京・修綏堂。412P。民国廿六年)。
"	"	〔書〕「滿鉄側面史」(滿鉄社員会編)。
"	"	〔書〕「朝鮮金融組合の現勢 — 金融組合三十周年記念出版 — 」(朝鮮金融組合)。
"	"	〔書〕「朝鮮米穀經濟論」(日本學術振興会)。
"	"	〔書〕「皇恩に浴しつつある朝鮮の青年 (朝鮮の高等・普通教育)」(和田英正)。
"	"	〔書〕「滿洲国現勢」(康德四年版)。
"	"	〔書〕「最高法院判決例(自大同元年 至康德二年)」(最高法院編。康德四年)。
"	"	〔書〕「滿洲ト滿鉄」(南滿鉄K. K. 松本豊三)。
"	"	〔書〕「南滿洲鉄道株式会社三十年略史」(同社編)。

西 暦	年 代	項 目
1937	"	〔書〕「満洲産業事情」(南満洲鉄道株式会社)。
"	"	〔書〕「南満に於ける外人経営文化事業調査」(満鉄)。
"	"	〔書〕「特産取引事情(上巻)」(実業部臨時産業調査所編。康德四年)。
"	"	〔書〕「最近の満洲国地誌」(国松久弥)。
"	"	〔書〕「満洲ニ於ケル商会」(産業部臨産局)。
"	"	〔書〕「平梅線の経済的価値と沿線経済事情」(新京商工会議所)。
"	"	〔書〕「関東洲に於ける水源調査報告書」(関東州庁土木部)。
"	"	〔書〕「奉天二萬の朝鮮人同胞に檄す曰」(満洲帝国協和会)。
"	"	〔書〕「満蒙及北支ニ於ケル羊毛並毛皮資源事情」(満蒙毛織株式会社)。
"	"	〔書〕「蒙古社会制度史」(ボリス・ウラジルミツォフ著)。
"	"	〔書〕「アッシリア学概説」(小栗襄三)。
"	"	〔書〕「増補支那革命外史」(北一輝)。
"	"	〔書〕「対支工作に関する意見書」(大阪商工会議所)。
"	"	〔書〕「対外文化工作に関する協議会要録(一〜十輯)」(国際文化振興会。~昭和13年)。
"	"	〔書〕「台湾治績志」(井出季和太, 台湾日日新報社)。
"	"	〔書〕「支那原始社会史考」(後藤富雄)。
"	"	〔書〕「支那資本機構・財閥・政權」(横田峰太郎)。
"	"	〔書〕「北支那の地理」(佐々木清治)。
"	"	〔書〕「中楊子江・下楊子江・安慶迄洞庭湖・鄱陽湖及び漢水の水理に関する調査」(参謀本部)。
"	"	〔書〕「支那猟奇秘話」(渋川玄耳)。
"	"	〔書〕「堪察加経済事情」(露領水産組合)。
"	"	〔書〕「現代台湾経済論」(高橋亀吉)。
"	"	〔書〕「生産力拡充五箇年計画書(国際収支の適合, 物資需給の調整を含む)」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「台湾の産業」(奥田 或)。
"	"	〔書〕「躍進台湾大観」(中外毎日新聞社)。
"	"	〔書〕「南洋双書(自第一卷至第五卷) 蘭領東印度篇・仏領印度支那篇・比 蘭領東印度篇・英領マレー篇・シャム篇」(東亜経済調査局。~昭和16年)。
"	"	〔書〕「帝国主義下の印度附・アイルランド問題の沿革」(矢内原忠雄)。
"	"	〔書〕「近東埃及市場調査」(名古屋新販路輸出協)。
"	"	〔書〕「全日本拓殖事情」(拓殖研究会)。
"	"	〔書〕「拓殖研究第三号」(拓殖研究会)。
"	"	〔書〕「仏蘭西植民地法提要」(佐田弘治郎)。
"	"	〔書〕「南洋開拓と南洋興発株式会社の現況」。
"	"	〔書〕「中国年鑑(一九三七年)」(上海日報社)。
"	"	〔書〕「日本教育の哲学的基礎」(稻毛詠風)。
"	"	〔書〕「文化哲学の諸問題」(シュブランガー)。
		小塚新一郎訳

西 暦	年 代	項 目
1937	(昭和12年)	〔書〕「教育的社会学」(田制佐重)。
"	"	〔書〕「教育学要義」(石山脩平)。
"	"	〔書〕「教育改革論」(阿部重孝)。
"	"	〔書〕「第七回世界教育会議」(第七回世界教育会議日本事務局)。
"	"	〔書〕「宗教的自覚と教育」(福島政雄)。
"	"	〔書〕「高等学校修身科哲学概説科教授要目」(文部省)。
"	"	〔書〕「高等科研究協議会講演集」
"	"	〔書〕「修身教育」(川島次郎)。
"	"	〔書〕「全体観的性格陶冶」(津田萬夫)。
"	"	〔書〕「学童訓練の理論と實際」(河上民祐)。
"	"	〔書〕「土の労作教育」(野尻重雄)。
"	"	〔書〕「美沢先生(横浜教育会)」(山本和久三)。
"	"	〔書〕「乳井貢全集(全四巻)」。
"	"	〔書〕「教職十年師父に弓ひくもの(前・後編)」(田淵巖)。
"	"	〔書〕「日本教育行政法」(山崎犀二)。
"	"	〔書〕「文部省各科視学委員視察復命書全輯」。
"	"	〔書〕「普通教育関係法規」(文部省普通学務局)。
"	"	〔書〕「教育制度改革案」(教育改革同志会)。
"	"	〔書〕「学校経営の具体化」
"	"	〔書〕「校長事務の系統的研究」(友納友次郎)。
"	"	〔書〕「教育塔誌」(帝国教育会)。
"	"	〔書〕「日本教育史資料館 第一,二,三,五輯」(国民精神文化研究所)
"	"	〔書〕「東京文理科大学 一覽 昭和十二年度」。
"	"	〔書〕「東京高等師範学校 一覽 昭和十二年度」。
"	"	〔書〕「昭和十年度教育研究報告」(東京府学務部)。
"	"	〔書〕「新幼稚園ばなし」(長尾豊)。
"	"	〔書〕「大日本婦人教育会五十周年記録」(大日本婦人教育会)。
"	"	〔書〕「家族主義の教育」(新見吉治)。
"	"	〔書〕「幼児期の教育」(霜田静志編)。
"	"	〔書〕「児童生活 73.75.78.79号」(児童生活研究会。~昭和15年度)。
"	"	〔書〕「低学年綜合教育の實際」(東京府青山師範学校附属小学校)。
"	"	〔書〕「豊津中学校史 大正三年四月」
"	"	〔書〕「福岡県立豊津中学校一覽 大正四年三月」(福岡県豊津中学校)。
"	"	〔書〕「全国杜丁の教育情况」(文部省社会教育)。
"	"	〔書〕「修身公民科新要目解説(上・下巻)」(安部清見)。
"	"	〔書〕「青年の心理と教育」(野上俊夫)。
"	"	〔書〕「独逸青少年団運動」(文部省社会教育局)。
"	"	〔書〕「高等小学読方科に於ける」(有泉二朔)。
"	"	〔書〕「職業指導教育の研究」
"	"	〔書〕「各科教授法の研究」(広島高等師範学校 附属小学校)。
"	"	〔書〕「理科教育の實際的研究」(福島県初等教育協議会)。
"	"	〔書〕「実験活用一坪学校園」(森田潔)。

西 暦	年 代	項 目
1937	"	〔書〕「英語教育の理論と問題」(石川林四郎)。
"	"	〔書〕「言語学通論」(小林英夫)。
"	"	〔書〕「言語文化大系(垣内先生還暦記念論文集)」。(晩翠会編)。
"	"	〔書〕「点字発達史」(大河原欽吾)。
"	"	〔書〕「尋六読方体操細密指導案」(坂本 豊 宮田覚造)。
"	"	〔書〕「位相心理学」(久保良英)。
"	"	〔書〕「法律学辞典(全五冊)」(岩波書店)。
"	"	〔書〕「ナチス経済法」(日満財政経済研究会)。
"	"	〔書〕「朝鮮高等法院判例要旨類集」。
"	"	〔書〕「大阪弁護士稿(正統)四冊」(～昭和43年)。
"	"	〔書〕「随想と回想」(滝川幸辰)。
"	"	〔書〕「弁護士三十年」(塚崎直義)。
"	"	〔書〕「中田先生還暦祝賀法制史論文」(石井良助)。
"	"	〔書〕「松波博士古稀祝賀記念論文集」(日本大学)。
"	"	〔書〕「国家学会五十周年国家学論集」。
"	"	〔書〕「水野博士古稀記念論策と随筆」(松波仁一郎編)。
"	"	〔書〕「明治聖徳記念学会創立二十五周年記念論文 日本文化史論纂」(加藤玄智)。
"	"	〔書〕「イエリング権利闘争論」(尾崎賢三郎訳)。
"	"	〔書〕「不動産賃貸借法史論」(村 教三)。
"	"	〔書〕「利息法史論」(西本 穎)。
"	"	〔書〕「ザクセン・シュビーケル(正・続)」(金沢理事。～昭和14年)
"	"	〔書〕「立憲主義三民主義五権憲法の原理」(宮沢俊義 田中二郎)。
"	"	〔書〕「大日本帝国憲法の根本義」(筧克彦)。
"	"	〔書〕「伊藤博文公修正憲法稿本」(平塚篤校訂)。
"	"	〔書〕「選挙罰則の研究」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「行政学原論(第一巻)」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「社会行政」(藤野 恵他)。
"	"	〔書〕「地方行政論」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「都市行政と地方自治」(菊池慎三)。
"	"	〔書〕「調度事務」(大阪市役所)。
"	"	〔書〕「第一回全国都市美協議会研究報告」(都市美協会)。
"	"	現代之都市美
"	"	〔書〕「欧州に於ける大都市行政制度」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「逐条市制町村制提議」(入江俊郎 古井喜美)。
"	"	〔書〕「東京市政革新同盟活動経過概要」(東京市政革新同盟)。

西 暦	年 代	項 目
1937	(昭和12年)	〔書〕「区の制度」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「市街地価格論」(杉本正幸)。
"	"	〔書〕「建築土木資料集覧(昭和12年版)」(資料集覧刊行会編)。
"	"	〔書〕「土地所有権論」(吉田 久)。
"	"	〔書〕「知恩院史」(藪内彦瑞)。
"	"	〔書〕「アリストテレス国家学」(青木巖訳)。
"	"	〔書〕「大日本は神国也」(三浦関造)。
"	"	〔書〕「精神文化淵叢」(政経学会編)。
"	"	〔書〕「日本精神之権化 菊池家憲研究」(村上素道)。
"	"	〔書〕「史的研究 日本の特性」(栗田元次)。
"	"	〔書〕「日本武士道の再吟味」(斉藤要)。
"	"	〔書〕「訓註吉田松陰殉国詩歌集」(福本義亮)。
"	"	〔書〕「日本国家と聖徳太子」(真宗各派協和会編)。
"	"	〔書〕「現代政治の諸問題」(高橋清吾)。
"	"	〔書〕「政治科学原論」(高橋清吾)。
"	"	〔書〕「政治思想史(上巻)」(高橋清吾)。
"	"	〔書〕「政治と社会」(堀真琴)。
"	"	〔書〕「現代哲学とファシズム」(秋沢修二著)。
"	"	〔書〕「政治家」(戸沢鉄彦)。
"	"	〔書〕「明治・大正・昭和」(東京日日新聞) 議会政治裏面史」(大阪毎日新聞)。
"	"	〔書〕「国民精神総動員教程」(景山鹿造)。
"	"	〔書〕「政界夜話」(城南隠士)。
"	"	〔書〕「真日本主義国民改造と」(高松敏雄)。 道義大東亜建設
"	"	〔書〕「日本歴史論」(早川二郎)。
"	"	〔書〕「放送ニュース解説」(日本放送協会。~昭和16年)。
"	"	〔書〕「ナチスの経済と哲学」(グロックナー) 秋沢修二訳)。
"	"	〔書〕「革命運動を暴く — シオニズムの本源 —」(安江仙弘)。
"	"	〔書〕「岡崎邦輔伝(政友会)」(小池龍佑)。
"	"	〔書〕「元帥 上原勇作伝(上・下)」(荒木貞夫編)。
"	"	〔書〕「字垣一成」(鎌田澤一郎)。
"	"	〔書〕「解説二宮尊徳翁全集(全六巻)」(同刊行会)。
"	"	〔書〕「佐藤 信淵字内混同秘策」(鶴田恵吉)。
"	"	〔書〕「中島半次郎先生(早稲田大学)」(中島会)。

西 暦	年 代	項 目
1937	"	〔書〕「行々坊行脚記（一高校長）」（菊地寿人）。
"	"	〔書〕「松陰本山彦一翁（大阪毎日新聞）」。
"	"	〔書〕「原田二郎（実業家）上・下」（～昭和18年）。
"	"	〔書〕「ソヴェート国際法概論」（ ^{パシユカーニス} 山之内一郎）。
"	"	〔書〕「空襲と国際法」（田岡良一）。
"	"	〔書〕「近世支那外交史」（矢野仁一）。
"	"	〔書〕「露国政府の極東外交機密文書（第三巻）」（外務省）。
"	"	〔書〕「米国中立法に関する調査」（外務大臣官房）。
"	"	〔書〕「世界大戦（九冊）」（ ^{チャーチル} 内山賢次他）。
"	"	〔書〕「日独伊協定の真目的」（ ^{馬奈木敬信} 奥村喜和男）。
"	"	〔書〕「日独防共協定の意義」（松岡洋右）。
"	"	〔書〕「米国防計画の全貌」（ ^{バーナムフィニー} 吉田哲次郎）。
"	"	〔書〕「戦争と戦費」（斉藤直幹）。
"	"	〔書〕「軍機保護法」（日高已雄）。
"	"	〔書〕「支那事変写真全輯（三冊）」（朝日新聞社。～昭和18年）。
"	"	〔書〕「北支事変誌」（久志本喜代士）。
"	"	〔書〕「満洲事変と鉄道隊（上・下）」（内田少将編）。
"	"	〔書〕「戦争と思想変革」（本荘可宗）。
"	"	〔書〕「刑事法判決批評（一，二巻）」（滝川幸辰）。
"	"	〔書〕「刑法雑筆」（滝川幸辰）。
"	"	〔書〕「日本刑事訴訟法論（上・下）」（樫田忠美）。
"	"	〔書〕「刑事訴訟法大綱」（宮本英脩）。
"	"	〔書〕「ビエル・殺人の心理 — 犯罪心理の科学的研究 —」（佐藤昌彦訳）。
"	"	〔書〕「酩酊責任論」（菊池甚一）。
"	"	〔書〕「教誨創始の苦心を語る」（六七会）。
"	"	〔書〕「情死・親子心中に対する 医学的考察」（小峰研究所）。
"	"	〔書〕「註釈日本民法（全五巻）」（近藤英吉他）。
"	"	〔書〕「ナポレオンとフランス民法」（宮崎孝治郎）。
"	"	〔書〕「民法上の諸問題」（末川 博）。
"	"	〔書〕「不動産質貸借法史論」（村 教三）。
"	"	〔書〕「英契約法に於ける長迫の研究」（末包留三良）。
"	"	〔書〕「判例契約解除法（上下）」（和田千一）。
"	"	〔書〕「利息法史論」（西本頼）。
"	"	〔書〕「損害賠償学説 判例実例総覧（上下）」（中島英次）。

西 暦	年 代	項 目
1937	(昭和12年)	〔書〕「親族法論考」(角田幸吉)。
"	"	〔書〕「比較婚姻法(一部)」(台北帝大)。
"	"	〔書〕「新民訴強行執行の手續」(前野順一)。
"	"	〔書〕「商事法判例研究(全三冊)」(高法研究会)。
"	"	〔書〕「商法中改正法律案理由書(総則 ^{会社})」(司法省民事局)。
"	"	〔書〕「株式会社」(増地庸治郎)。
"	"	〔書〕「株主総会決議無効論」(西原寛一)。
"	"	〔書〕「商行為法概論」(中村 武)。
"	"	〔書〕「証券法」(高田源清)。
"	"	〔書〕「海上損害論」(加藤由作)。
"	"	〔書〕「財界変動と生命保険」(名取夏司)。
"	"	〔書〕「貨物海上保険協約沿革史」(南部正寛)。
"	"	〔書〕「手形法論(一〜三巻)」(水口吉蔵)。
"	"	〔書〕「信託法判決例輯」(井上 勇)。
"	"	〔書〕「昭和十一年度実施調査報告」(預金部)。
"	"	〔書〕「日本財政論」(牧野輝智)。
"	"	〔書〕「大戦当初の独逸財政経済方策(大蔵大臣官房 — 独逸帝国公文書要訳 — 財政経済調査課編)」。
"	"	〔書〕「現代公債政策」(高橋亀吉)。
"	"	〔書〕「現行租税制度ノ概要」(大蔵省主税局)。
"	"	〔書〕「取引税の研究」(安藤春夫)。
"	"	〔書〕「アルコール専売制度概要 附アルコール専売法並関係法規」(阿知和嘉一郎)。
"	"	〔書〕「印紙税法の起源と其の史的展開」(田中秀吉)。
"	"	〔書〕「明治維新後に於ける両替商金融」(松田貞夫)。
"	"	〔書〕「特殊金融機関史論」(石浜知行)。
"	"	〔書〕「利子論」(高田保馬)。
"	"	〔書〕「アフタリヨン貨幣・物価・為替論」(松岡孝児訳)。
"	"	〔書〕「通貨価値変動の実証的研究」(原 祐三)。
"	"	〔書〕「銀の問題」(外務省調査部)。
"	"	〔書〕「戦近社会学の動向」(黒川純一)。
"	"	〔書〕「農村調査報告書 北丹地方に於ける工業的農村の実態」(京都帝国大学農学部)。
"	"	〔書〕「山村研究(第一・二輯)」(農村更生協会)。
"	"	〔書〕「戦時社会事業の諸方策」(社会事業研究所)。
"	"	〔書〕「世界大戦時に於ける列国の採れる 戦傷者並遺家族保護対策の概要」(社会局)。
"	"	〔書〕「傷夷軍人及軍人遺族の保護制度概要」(社会局)。

西 暦	年 代	項 目
1937	"	〔書〕「水上生活者調査」(大阪府)。
"	"	〔書〕「東京帝国大学セツルメント十二年史」(大森俊雄編)。
"	"	〔書〕「福利施設の現状」(井上信明)。
"	"	〔書〕「物価高の農山漁村に及ぼせる影響」(中央農林協議会)。
"	"	〔書〕「東京市方面委員名鑑」(千葉勇編)。
"	"	〔書〕「現代保険・医療並救療問題検討—農家医療・カード階級者等—」(社会事業所)。
"	"	〔書〕「特別衛生地区保健館年報」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「国民保健ニ関スル統計資料(本文)」(日本学術振興会)。
"	"	〔書〕「科学より学問へ—日本保健学提唱」(多田政一)。
"	"	〔書〕「衛生試験所沿革史」(内務省衛生試験所)。
"	"	〔書〕「少年と社会関係の異常性」((財)中央社会事業協会事業研究所)。
"	"	〔書〕「楚人冠全集(12巻)」(杉村広太郎)。
"	"	〔書〕「宣伝技術論」(小山栄三)。
"	"	〔書〕「天神さまだより(武井武雄画)」(吉田一太郎編)。
"	"	〔書〕「出羽国風土略記」(出羽国風土略記刊行会)。
"	"	〔書〕「バタビヤ城日誌(上・中巻)」(村上直次郎訳註)。
"	"	〔書〕「楽器図鑑」(近衛秀麿菅原明郎)。
"	"	〔書〕「物価騰貴と労働運動—物価と賃金の指数変遷表—」(労働部労政課)。
"	"	〔書〕「昭和十二年版改訂工場関係法規集」(埼玉県工業懇話会)。
"	"	〔書〕「東京市一般職業紹介所の就職賃金調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「就職指導職員の設置に就て」(社会局社会部)。
"	"	〔書〕「日本科学発達史」(寺島征史)。
"	"	〔書〕「秘回顧録其の二—北支太石油関係—」(中里重次)。
"	"	〔書〕「北支石岸界の現況」(日満商事株式会社)。
"	"	〔書〕「航空五年」(片岡直道)。
"	"	〔書〕「石川県絹業史」(石川県織物検査所)。
"	"	〔書〕「福井織物同業組合五十年史」(福井県織物同業組合)。
"	"	〔書〕「昭和十一年茶業統計並ニ事業成績報告書」(奈良県茶業組合連合会議所)。
"	"	〔書〕「河川講演集」(土木協会)。
"	"	〔書〕「函館大火災害誌」((財)北海道社会事業協会)。
"	"	〔書〕「重要万国博覧会概要」(商工省)。
"	"	〔書〕「現代農業辞典」(農業教育会)。
"	"	〔書〕「東部日本を農山漁村指導者研究会要録(第一輯)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「北海道調査報告」(農村更生協会)。
"	"	〔書〕「農家経済調査」(千葉県農会)。

西 暦	年 代	項 目
1937	(昭和12年)	〔書〕「農家經濟調査成績並ニ其批判 (昭和十年度)」(群馬県農会)。
"	"	〔書〕「農村戦時体制と農家經濟に及ぼせる影響」(宮城県農会)。
"	"	〔書〕「石川県經濟更生資料(第一〜三集)」(同県經濟部)。
"	"	〔書〕「自昭和四年度至昭和九年度農業共同經營作業成績書」(愛知県農会)。
"	"	〔書〕「実地調査 農山村經濟推移ノ諸考察」(岐阜県農会)。
"	"	〔書〕「植民地農業」(伊藤兆司)。
"	"	〔書〕「欧州大戰下の参戦列国の農業政策」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農業調整資料 第一輯〜第八輯」(帝国農会。〜昭和13年)。
"	"	〔書〕「ケネー商業と農業」(堀信一訳)。
"	"	〔書〕「重要農産物經營調査成績」(三重県農会)。
"	"	〔書〕「煙草販売官署販売区域」(専売局)。
"	"	〔書〕「松川葉主産地要覧」(煙草耕作組合連合会)。
"	"	〔書〕「徳川時代の米穀配給組織 研究経過報告」(鈴木直二)。
"	"	〔書〕「諸外国に於ける土地政策」(農林省)。
"	"	〔書〕「畑地利用ノ現況」(福島県農会)。
"	"	〔書〕「最近十年間の耕地事業」(帝国耕地協会)。
"	"	〔書〕「岐阜県耕地事業沿革史」(岐阜県耕地協会)。
"	"	〔書〕「勤勞奉仕施設資料 (經濟更生計画再検討)」(静岡県)。
"	"	〔書〕「香川県下に於ける期節的労働移動調査」(香川県農会)。
"	"	〔書〕「慣行小作權に関する研究」(野村岩夫)。
"	"	〔書〕「小作調停事務協議会要録」(北海道)。
"	"	〔書〕「支那事変下に於ける各道府県農会の農村対策」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農村問題入門」(猪俣津南雄)。
"	"	〔書〕「宗教改革と日本農民戦争」(稻村隆一)。
"	"	〔書〕「如何にして農村は更生するか」(横尾惣三郎)。
"	"	〔書〕「興村の実態」(三重師範学校)。
"	"	〔書〕「仏独伯諸国農村の考察」(笠森伝繁)。
"	"	〔書〕「御料地史稿」(帝室林野局)。
"	"	〔書〕「牧野に関する調査」(秋田県営林局)。
"	"	〔書〕「本邦原野に関する研究」(大迫元雄)。
"	"	〔書〕「農業經營より観たる甜菜」(北海道農会)。
"	"	〔書〕「畜産学年報(第四輯)」(日本畜産学会)。
"	"	〔書〕「世界大戰に於ける各国の食糧政策」(糧友会編)。

西 暦	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	
"	1・1	〔日〕 満州国、「新学制」(日本語ハ日満一徳一心ノ精神ニ基キ国語ノ一ツテ重視ス)。(’37年5月2日公布実施。各省教育庁、民生庁に改編)。
"	"	〔書〕「 ^{国民学舎} 日語国民読本 卷二」(満州国帝国政府)。 ^{国民義塾}
"	1・3	新劇女優岡田嘉子、杉本良吉と共に樺太国境を越えてソ連に亡命。
"	1・10	青島占領。
"	"	外相、ディルクセン大使に中国の迅速な回答を要求。
"	"	五台山を中心に晋察冀辺区(解放区)成立。1月11日、漢口で中共機関紙「新華日報」創刊。
"	1・11	大本営・政府首脳による御前会議、「支那事変処理根本方針」を決定(国民政府が和を求めて来ない場合は、以後これを相手とせず、新政権樹立を助長するなど)。
"	1・14	国民政府、日本案の具体的内容を要求。
"	1・15	参謀本部、大本営と政府の連絡会議で、政府の和平交渉打ち切り案に反対、結局政変回避のため屈服。
"	"	4月より朝鮮に志願兵制度実施を発表。
"	1・16	政府、独駐華大使トラウトマンを通じ、中国に和平交渉打ち切りを通告。国民政府否認声明。〔政府声明〕(「……仍て帝国政府は爾後国民政府を對手とせず……」〔第一次近衛声明〕)。
"	1・18	川越大使に帰朝命令(28日、上海発)。
"	1・20	許駐日大使離日。
"	1・29	〔教〕 文部省、小学校の教科の成績は10点法、操行は優良可の表記に統一〔省令〕(’41年7月4日、すべて優良可となる)。
"	1・	〔教〕 「青年学校義務制」を閣議決定。
"	"	〔日〕 新京医科・新京法政・哈爾賓工業・奉天農業・哈爾賓医科、各専門学校、大学に昇格。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四二六号)。 (同上)「本島人の家庭に於ける児童教育の一考察」(原思明)。 (「」)「公学校用語読本各教材取扱の実際」(辻武夫、四二七号)。 (「」)「公学校用国語読本(第一種)の送仮名について」(木村万寿夫、～四二九号)。 (「」)「言語教育の根柢」(山口正明)。
"	"	〔書〕「南洋」(南洋協会機関誌「南洋協会雑誌」を改題)。

西 暦	年 代	項 目
1938	1・	〔書〕「英和印刷書誌百科辞典」(大日本印刷学会編, 世紀社。「English Japanese Dictionary of Graphic Arts Terms」)。
"	2・2	日本放送協会創立。
"	2・4	ドイツ, 国防相ブロンベルク・陸軍司令長官フリッツの解任を発表(ヒトラー, 統帥権を掌握)。
"	2・5	英米大使, ロンドン条約の制限を超える艦船不建造の保障を要求。2月12日拒絶回答。
"	2・7	「中ソ軍事航空協定」調印(ソ連, 中国に軍用機・技術者・操縦士提供を約束)。
"	2・10	〔書〕「正則日本語読本 巻一〜巻四」(北支那臨時政府制定, 北京初等教育研究会, 民国廿七年二月十日)。
"	2・11	政府, 国家総動員法案を議会に提出(3月24日可決)。
"	2・14	中支那方面軍, 上海派遣軍を廃止し, 中支那派遣軍を編成。
"	2・18	〔書〕「日華大辞典原型版第二巻, 第三巻」(編纂者代表平岡龍城, 東洋文化未刊図書刊行会。第一巻は昭和11年4月10日発行)。
"	2・20	英外相イーデン, チェンバレン首相の対伊宥和に抗議して辞任。後任ハリファックス。
"	2・22	〔書〕「教育部直轄編審会審定 ^{高級} 日文模範教科書 巻一」(北京近代科学図書館編纂部)。
"	2・24	シュシュニツ首相, オーストリアの独立を強調する演説。3月9日, 独立問題で人民投票実施を公告。
"	2・25	「兵役法」を改正公布し, 学校教練修了者の在営期間短縮の特典を廃止。
"	2・	〔日〕 第三回訪日学生見学団来日(チリー, 7名)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四二七号)。 (同上)「公学校に於ける話方雑考」(Semi生)。
"	"	〔書〕「言苑」(新村出編, 博文館)。
"	"	〔書〕「漢字制限の基本的研究」(岡崎常太郎。— カナモジカイの五百字制限案)。
"	"	〔書〕「アクセント表示新辞海」(吉沢義則編, 三学社)。
"	"	〔書〕「日語常用熟語例解」(王玉泉編著, 岡崎屋書店)。

西 暦	年 代	項 目
1938		
"	"	〔書〕「博物辞典」(藤本治義, 岡田弥一郎, 三輪知雄編, 三省堂)。
"	"	〔書〕「 ^{新訂} 漢和大事典」(服部宇之吉・小柳司気太著,)。
"	"	〔書〕「典範用字例」(教育総監部, 川流堂)。
"	3・3	〔日〕「朝鮮教育令改正」〔勅令第百三号。公布昭和十三年三月四日〕(「朝鮮教育令 第一条 朝鮮ニ於ケル教育ハ本令ニ依ル」。普通学校・高等普通学校・女子普通高等学校を廃止し, 内地同様の学校体系に一本化)。
"	"	陸軍省軍務課員佐藤賢了中佐, 衆議院国家総動員法委員会で説明員として答弁中, 委員に「だまれ」とどなって問題となる。3月4日, 陸相, 遺憾を表明
"	3・5	満鉄, 華北全線の鉄道管理開始。
"	3・11	ドイツ, 対墺最後通牒(人民投票延期・シュシュニツ首相辞職を要求)。ザイス・インクヴァルト(ナチス), 墺首相に就任。3月12日, 独軍, 対墺侵入開始。
"	3・13	墺新首相, ドイツとの合邦を宣言(ドイツ, オーストリア合併)。
"	3・15	〔日〕「小学校規程改正」〔朝鮮総督府令第二十四号〕(「小学校規程 第一章 総則 第一条 小学校ハ児童身体ノ健全ナル発達ニ留意シテ国民道德ヲ涵養シ国民生活ニ必須ナル普通ノ知能ヲ得シメ以テ忠良ナル皇国臣民ヲ育成スルニカムベキモノトス 第三章 教科及編制 第一節 修業年限, 教科目及教則 第十三条 尋常小学校ノ教科目ハ修身, 国語, 算術, 国史, 地理, 理科, 職業, 図画, 手工, 唱歌, 体操トシ女兒ノ為ニハ家事及裁縫ヲ加フ 前項ノ教科目ノ外朝鮮語ヲ加フルコトヲ得 朝鮮語ハ之ヲ随意科目ト為スコトヲ得 第十四条 高等小学校ノ教科目ハ修身, 国語, 算術, 国史, 地理, 理科, 職業, 図画, 手工, 唱歌, 体操トシ女兒ノ為ニハ家事, 裁縫ヲ加フ 前項ノ教科目ノ外朝鮮語ヲ加ヘ其ノ他土地ノ情况ニ依リ必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得 前項ノ教科目ハ之ヲ随意科目ト為スコトヲ得…… 第十六条 小学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ児童ヲ教養スベシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ国民道德ノ涵養ニカメ国体ノ本義ヲ明徴ニシ児童ヲシテ皇国臣民タルノ自覚ヲ振起シ皇運扶翼ノ道ニ徹セシメンコトヲカムベシ 二 児童ノ徳性ヲ涵養シテ醇良ナル人格ノ陶冶ヲ図リ健全ナル皇国臣民タルノ資質ヲ得シメ進ンデ国家社会ニ奉仕スルノ念ヲ厚クシ内鮮一体, 同胞輯睦ノ美風ヲ養ハンコトヲカムベシ 七 国語ヲ習得セシメ其ノ使用ヲ正確ニシ応用ヲ自在ナラシメテ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国臣民タルノ性格ヲ涵養センコトヲカムベシ 八 教授用語ハ国語ヲ用ウベシ 第十八条 国語ハ普通ノ言語, 日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼ネテ皇国臣民タルノ自覚ヲ固クシ知徳

西 暦	年 代	項 目
1938		<p>ヲ啓発スルヲ以テ要旨トス 尋常小学校ニ於テハ初ハ発音ヲ正シ児童ノ情況ニ依リテハ主トシテ近易ナル話シ方ヲ授ケ仮名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、話シ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ及言語ヲ練習セシムベシ 讀ミ方、話シ方、書キ方、綴リ方ハ各其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス 読本ノ文章ハ平易ニシテ国語ノ模範ト爲リ且児童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取り趣味ニ富ムモノタルベシ 女兒ノ學級ニ用ウル読本ハ特ニ家事ノ事項ヲ交フベシ 文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項児童ノ日常見聞セル事項及処世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス 書キ方ニ用スル漢字ノ書体ハ尋常小学校ニ於テハ楷書行書ノ二種トシ高等小学校ニ於テハ尚草書ヲ加フ 国語ヲ授クル際ニハ語句文章ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシメンコトヲカムベシ 他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習及文字ノ書キ方ニ注意セシメンコトヲ要ス 第二十九条 朝鮮語ハ日常簡易ノ言語、文章ヲ了解シ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シムルヲ以テ要旨トス 尋常小学校ニ於テハ発音ヲ正シ児童ノ情況ニ依リテハ主トシテ近易ナル話シ方ヲ授ケ諺文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及普通文ニ及ボシ又言語ヲ練習セシムベシ 讀ミ方、話シ方、綴リ方、書キ方ハ国語ニ準ジテ之ヲ授クベシ 高等小学校ニ於テハ第二項ニ準ジ一層其ノ程度ヲ進メ之ヲ授クベシ 朝鮮語ヲ授クルニハ成ルベク日常ノ生活ニ關聯セシメ常ニ国語ト聯絡ヲ保チ皇国臣民タルノ信念ヲ涵養センコトヲカムルヲ要ス 第三十二条 尋常小学校第三学年以下ニ於テハ学校長ニ於テ必要ト認メタル児童ニ對シ国語ノ毎週時數ニ付各学年二時以内ヲ増加シテ国語ノ補充教授ヲ爲スコトヲ得」。</p>
〃	3・15	<p>〔日〕「中学校規程改正」〔朝鮮總督府令第二十五号〕（「中学校規程左ノ通改正ス 中学校規程 第一章 総則 第一条 中学校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ施シ特ニ国民道德ヲ涵養シ以テ忠良有爲ノ皇国臣民ヲ養成スルニカムベキモノトス 第十条 中学校ノ学科目ハ修身、公民科、国語漢文、歴史、地理、外国語、数学、理科、実業、図画、音楽、体操トス 前項ノ学科目ノ外朝鮮語ヲ加フルコトヲ得 外国語ハ支那語、独語、仏語又ハ英語トス 朝鮮語ハ之ヲ随意科目ト爲スコトヲ得 第十一条 中学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教養スベシ 一 教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ国民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我ガ肇國ノ本義ト國體ノ尊嚴ナル所以トヲ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期シ常ニ生徒ヲシテ実践躬行セシメ以テ皇運扶翼ノ道ニ徹セシメンコトヲカムベシ 七 国語ノ使用ヲ正確ニシ且其ノ応用ヲ自在ナラシメテ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国臣民タルノ性格ヲ涵養</p>

西 暦	年 代	項 目
1938		<p>センコトヲカムベシ 第十四条 国語漢文ハ国語ノ理会及応用ノ能ヲ得シメ漢文ノ読方及解釈ノカヲ養ヒ我ガ国民性ノ特質ト国民文化ノ由来トヲ明ニシ国民精神ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス 国語ニ於テハ国語ノ構造特質ヲ知ラシメ国語ノ正確ナル理会ト思想、体験ノ明確自由ナル表現トニ就キテ指導シ国語ガ国民性ノ具現ニシテ国語ノ教養ガ国民ノ自覚ヲ促シ品位ヲ高ムル所以ナルコトヲ会得セシメテ国語愛護ノ念ヲ培フト共ニ美的、道德的情操ノ陶冶ニカメ漢文ニ於テハ其ノ特質ニ留意シテ国語トノ關係ヲ明ニシ正確ナル理会ヲ得シメ漢文ノ我ガ精神生活ニ対スル意義ヲ会得セシムベシ 国語漢文ハ国語講読、漢文講読、作文、文法及習字ヲ課スベシ 国語漢文ヲ授クルニハ読方及解釈ニ在リテハ語句、文章ト思想内容トヲ一体トシテ取扱ヒ話シ方ニ在リテハ方言訛語ヲ矯正シ醇正明晰ナル国語ノ使用ニ習熟セシメ作文及習字ニ在リテハ実用ニ適切ナラシメンコトニ留意スルヲ要ス 第十七条 外国語ハ普通ノ支那語、独語、仏語又ハ英語ヲ了解シ運用スルノ能ヲ得シメ知徳ヲ増進シ国民性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス外国語ハ発音、綴字、聴方、読方及解釈、話方及作文、書取、文法ノ大要竝ニ習字ヲ授クベシ 外国語ヲ授クルニハ平易ナル現代文ヲ主トシ其ノ理会及応用ヲ容易ナラシメ外国語トノ比較ニ依リテ我ガ国民性ノ特異ナル所以ヲ知ラシメ国民道德ノ養成ニ資センコトヲカムルヲ要ス 第二十四条 朝鮮語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ兼ネテ知徳ノ啓発ニ資スルヲ以テ要旨トス 朝鮮語ハ普通ノ朝鮮文ヲ講読セシメ実用簡易ナル朝鮮文ヲ作ラシメ又朝鮮文法ノ大要ヲ授クベシ生徒ノ情況ニ依リテハ初メハ発音、諺文ヨリ之ヲ授クルコトヲ得 朝鮮語ヲ授クルニハ成ルベク日常ノ生活ニ関聯セシメ常ニ国語ト聯絡ヲ保チ皇国臣民タルノ信念ヲ涵養センコトヲカムルヲ要ス 第二十五条 各学年ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時數ハ左表ニ依ルベシ 第一学年 国語漢文七、朝鮮語二、外国語五、第二学年 国語漢文七、朝鮮語二、外国語五、第三学年 国語漢文七、朝鮮語一、外国語六、第四学年 国語漢文五、朝鮮語一、外国語五、第五学年 国語漢文五、朝鮮語一、外国語五、(他教科目略)、附則 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。</p>
〃	3・15	<p>〔日〕「高等女学校規程改正」〔朝鮮總督府令第二十六号〕(「高等女学校規程左ノ通改正ス 高等女学校規程 第一章 総則 第一条 高等女学校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ施シ特ニ国民道德ノ涵養、婦徳ノ養成ニ意ヲ用ヒ良妻賢母タルノ資質ヲ得シメ以テ忠良至醇ナル皇国女性ヲ養成スルニカムベキモノトス 第三章 修業年限、学科及其ノ程度 第十一条 高等女学校ノ学科目ハ修身、公民科、教育、国語、歴史、地理、外国語、数学、実業、図画、家事、裁縫、音楽、体操トス 外国語ハ支那語、仏語又ハ英語トス 外国語ハ之ヲ欠キ又ハ随意科目ト為スコトヲ得 土地ノ情況ニ依リ第一項ノ学科目ノ外朝</p>

西 暦	年 代	項 目
1938		<p>朝鮮語又ハ手芸ヲ加ヘ其ノ他朝鮮総督ノ認可ヲ受ケ必要ナル学科目ヲ加フルコトヲ得 前項ノ学科目ハ之ヲ随意科目又ハ選択科目ト為スコトヲ得 生徒ノ特別ノ事情ニ依リ学習スルコト能ハザル学科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セザルコトヲ得</p> <p>第十二条 高等女学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教養スベシ</p> <p>一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ国民道德ノ養成、婦徳ノ涵養ニ意ヲ用ヒ我ガ肇國ノ本義ト国体ノ尊嚴ナル所以トヲ会得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期シ常ニ生徒ヲシテ実践躬行セシメ以テ皇運扶翼ノ道ニ徹セシメンコトヲカムベシ</p> <p>二 品性ノ陶冶、情操ノ涵養ニ意ヲ用ヒ貞操ヲ重ンジ順良貞淑ニシテ温情慈愛ニ富ミ醇風美俗ヲ尚ビ家ニ対スル任務ヲ重ンジ国家社会ニ奉仕スルノ素地ヲ得シメンコトヲカムベシ</p> <p>三 質実ヲ尚ビ勤勞ヲ好愛スルノ志念ヲ養フト共ニ責任ヲ重ンジ協同ヲ尚ビ内鮮一体、同胞輯睦ノ美風ヲ養ハンコトヲカムベシ</p> <p>七 国語ノ使用ヲ正確ニシ且其ノ応用ヲ自在ナラシメテ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国臣民タルノ性格ヲ涵養センコトヲカムベシ</p> <p>八 各学科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯連シテ補益センコトヲカメ将来家庭ノ主婦タリ母タルベキ自覺ヲ促シテ女性ノ責務ヲ理解セシメ家庭生活上殊ニ須要ナル事項ニ関シテハ常ニ反覆シテ知能ノ連磨ヲ図ルト共ニ国家社会ノ進運ニ順応スル皇国女性ノ養成ニカメンコトヲ旨トスベシ</p> <p>第十六条 国語ハ国語ノ理會及応用ノ能ヲ得シメ我ガ国民性ノ特質ト国民文化ノ由来トヲ明ニシ国民精神ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス 国語ニ於テハ国語ノ構造特質ヲ知ラシメ 国語ノ正確ナル理會ト思想、體驗ノ明確自由ナル表現トニ就キテ指導シ 国語ガ国民性ノ具現ニシテ 国語ノ教養ガ国民ノ自覺ヲ促シ品位ヲ高ムル所以ナルコトヲ会得セシメテ 国語愛護ノ念ヲ培フト共ニ美的、道德的情操ヲ陶冶シ特ニ婦徳ノ涵養ニカムベシ 国語ハ講読、作文、文法及習字ヲ課スベシ又平易ナル漢文ヲ加ヘ授クルコトヲ得 国語ヲ授クルニハ読方及解釈ニ在リテハ語句、文章ト思想内容トヲ一トシテ取扱ヒ話シ方ニ在リテハ方言訛語ヲ矯正シ醇正明晰ナル国語ノ使用ニ習熟セシメ作文及習字ニ在リテハ実用ニ適切ナラシメンコトニ留意スルヲ要ス</p> <p>第二十八条 朝鮮語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ兼ネテ智徳ノ啓発ニ資スルヲ以テ要旨トス 朝鮮語ハ普通ノ朝鮮文ヲ講読セシメ実用簡易ナル朝鮮文ヲ作ラシメ又朝鮮語文法ノ大要ヲ授クベシ生徒ノ情況ニ依リテハ初ハ発音、謄文ヨリ之ヲ授クルコトヲ得朝鮮語ヲ授クルニハ成ルベク日常ノ生活ニ関聯セシメ常ニ国語ト聯絡ヲ保チ皇国臣民タルノ信念ヲ涵養センコトヲカムルヲ要ス</p> <p>第三十条 各学年ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ其ノ修業年限ニ依リ甲号表、乙号表又ハ丙号表ニ依ルベシ 甲号表 第一学年 国語六、朝鮮語二 第二学年 国語六 朝鮮語二 第三学年 国語六 朝鮮語一 第四学年 国語五 朝鮮語一 第五学年 国語五 朝鮮語一 乙号表 第一学年 国語六 朝鮮語二 第二学年 国語六 朝鮮語二 第三学年 国語五 朝鮮語一 第四学年</p>

西 暦	年 代	項 目
1938		国語五 朝鮮語一 丙号表 第一学年 国語六 朝鮮語一 第二学年 国語六 朝鮮語一 第三学年 国語五 朝鮮語一（他学科目略）」）。
〃	3・15	<p>〔日〕「師範学校規程改正」〔朝鮮總督府令第二十七号〕（「師範学校規程左ノ通改正ス 師範学校規程 第二章 生徒教養ノ要旨 第五条 師範学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教養スベシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ国民道德ヲ涵養シ我ガ肇国ノ本義ト国体ノ尊嚴ナル所以トヲ会得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメ皇国臣民タルノ志操ヲ振起セシメンコトニ留意スルト共ニ教育者タルノ精神ヲ涵養振作セシメンコトニ意ヲ用ヒ常ニ生徒ヲシテ実践躬行セシメ以テ皇運扶翼ノ道ニ徹セシメンコトヲカムベシ 二 徳性ノ涵養ニ留意シテ醇良ナル人格ヲ陶冶シ師表タルベキ品格ヲ具ヘシメ進ンデ国家社会ニ奉仕スルノ念ヲ厚クシ内鮮一体、同胞輯睦ノ美風ヲ養ハンコトヲカムベシ 女生徒ニ在リテハ殊ニ順良貞淑ニシテ温情慈愛ニ富ミ醇風美俗ヲ尚ビ家ニ対スル任務ヲ重ンズルノ志操ヲ養ハンコトヲカムベシ 五 国語ノ使用ヲ正確ニシ其ノ応用ヲ自在ナラシメ常ニ之ガ熟達ニ留意シテ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国臣民タルノ性格ヲ涵養センコトヲカムベシ 第一節 普通科ノ程度 第六条 普通科ノ男生徒ニ課スベキ学科目ハ修身、公民科、教育、国語漢文、朝鮮語、歴史、地理、外国語、数学、理科、職業、図画、手工、音楽、体操トス 外国語ハ支那語、独語、仏語又ハ英語トス 第七条 普通科ノ女生徒ニ課スベキ学科目ハ修身、公民科、教育、国語、朝鮮語、歴史、地理、外国語、数学、理科、職業、図画、手工、家事、裁縫、音楽、体操トス 外国語ハ支那語、独語、仏語又ハ英語トス 外国語ハ之ヲ欠キ又ハ随意科目ト為スコトヲ得 第十一条 国語漢文ハ国語ノ理会及応用ノ能ヲ得シメ漢文ノ読方及解釈ノ力ヲ養ヒ我ガ国民性ノ特質ト国民文化ノ由来トヲ明ニシ国民精神ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス 国語ニ於テハ国語ノ構造特質ヲ知ラシメ国語ノ正確ナル理会ト思想、体験ノ明確自由ナル表現トニ就キテ指導シ国語ガ国民性ノ具現ニシテ国語ノ教養ガ国民ノ自覚ヲ促シ品位ヲ高ムル所以ナルコトヲ会得セシメテ国語愛護ノ念ヲ培フト共に美的、道德的情操ノ陶冶ニカメ漢文ニ於テハ其ノ特質ニ留意シテ国語トノ關係ヲ明ニシ正確ナル理会ヲ得シメ漢文ノ我ガ精神生活ニ対スル意義ヲ会得セシムベシ 国語漢文ハ国語講読、漢文講読、作文、文法及習字ヲ課スベシ 国語漢文ヲ授クルニハ読方及解釈ニ在リテハ語句、文章ト思想内容トヲ一トシテ取扱ヒ話シ方ニ在リテハ方言訛語ヲ矯正シ醇正明晰ナル国語ノ使用ニ習熟セシメ作文及習字ニ在リテハ実用ニ適切ナラシメンコトニ留意スルヲ要ス 第十二条 国語ハ国語ノ理会応用ノ能ヲ得シメ我ガ国民性ノ特質ト国民文化ノ由来トヲ明ニシ国民精神ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス 国語ニ於テハ国語ノ構造特質ヲ知ラシメ国語ノ正確ナル理会ト思想、体験ノ明確自由ナル表現トニ就キテ指導シ国語ガ国民性ノ具現ニシテ国語ノ教養ガ国民</p>

西 暦	年 代	項 目
1938		<p>ノ自覚ヲ促シ品位ヲ高ムル所以ナルコトヲ会得セシメテ国語愛語ノ念ヲ培フト共ニ美的、道德的情操ヲ陶冶シ特ニ婦徳ノ涵養ニカムベシ 国語ハ講読、作文及習字ヲ課スベシ又平易ナル漢文ヲ加ヘ授クルコトヲ得 国語ヲ授クルニハ読方及解釈ニ在リテハ語句、文章ト思想内容トヲ一体トシテ取扱ヒ話シ方ニ在リテハ方言訛語ヲ矯正シ醇正明晰ナル国語ノ使用ニ習熟セシメ作文及習字ニ在リテハ実用ニ適切ナラシメンコトニ留意スルヲ要ス 第十三条 朝鮮語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表現スルノ能ヲ得シメ兼ネテ知徳ノ啓発ニ資スルヲ以テ要旨トス 朝鮮語ハ普通ノ朝鮮文ヲ講読セシメ実用簡易ナル朝鮮文ヲ作ラシメ又朝鮮語文法ノ大要ヲ授クベシ生徒ノ情況ニ依リテハ初ハ発音諺文ヨリ之ヲ授クルコトヲ得 朝鮮語ヲ授クルニハ成ルベク日常生活ニ関聯セシメ常ニ国語ト聯絡ヲ保チ皇国臣民タルノ信念ヲ涵養センコトヲカムルヲ要ス 第十六条 外国語ハ普通ノ支那語、独語、仏語又ハ英語ヲ了解シ運用スルノ能ヲ得シメ知徳ヲ増進シ国民性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス 外国語ハ発音、綴字、聴方及解釈、話方及作文、書取、文法ノ大要並ニ習字ヲ授クベシ 外国語ヲ授クルニハ平易ナル現代文ヲ主トシ其ノ理解及応用ヲ容易ナラシメ外国トノ比較ニ依リテ我ガ国民性ノ特異ナル所以ヲ知ラシメ国民道德ノ養成ニ資センコトヲカムルヲ要ス 第二十六号 普通科各学校ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ男生徒ニ在リテハ第一号表、女生徒ニ在リテハ第二号表ニ依ルベシ 第一号表 第一学年 国語漢文八、朝鮮語二、外国語三、第二学年 国語漢文八、朝鮮語二、外国語三、第三学年 国語漢文六、朝鮮語二、外国語二、第四学年 国語漢文五、朝鮮語一、外国語二、第五学年 国語漢文五、朝鮮語一、外国語二。 第二号表 第一学年 国語六、朝鮮語二、外国語二、第二学年 国語六、朝鮮語二、外国語二、第三学年 国語五、朝鮮語一、外国語二、第四学年 国語五、朝鮮語、外国語一（他学科目略）。 第二節 演習科ノ程度 第二十七条 演習科ノ男生徒ニ課スベキ学科目ハ修身、公民科、教育、国語漢文、朝鮮語、歴史、地理、数学、理科、職業、図画、手工、音楽、体操トス 職業ハ実業学校ヲ卒業シタル生徒ニハ職業科目中其ノ実業学校ニ於テ学習シタル事項ヲ課セザルコトヲ得 第二十八条 演習科ノ女生徒ニ課スベキ学科目ハ修身、公民科、教育、国語漢文、朝鮮語、歴史、地理、数学、理科、職業、図画、手工、家事、裁縫、音楽、体操トス 第三十一条 教育ハ我ガ国ノ教育ガ我ガ国体ニ基クコトヲ明ニシ教育ニ関スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小学校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習得セシメ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス 教育ニ於テハ我ガ国教育ノ本義ヲ明ニシ小学校教育ノ重要ナル所以ヲ知ラシメ健全ナル国民ノ養成ト地方教化ノ向上トニ奉仕セントスルノ自覚ヲ振起セシメンコトヲカムベシ 教育ハ心理及理論ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ大要、教育制度、学校管理法、学校衛生ヲ授ケ又教育実習ヲ課スベシ 前項ノ外男子生徒ニ在リテハ外国語ノ教授法ヲ授ク</p>

西 暦	年 代	項 目
1938		<p>ベシ又女生徒ニ在リテハ保育実習ヲ課スルコトヲ得 第三十二条 国語漢文ハ 第十一条ニ準ジ現時ノ文章ヲ主トシテ講読セシムルト共ニ言語ノ使用ニ練熟セ シメ実用簡易ナル文ヲ作ラシメ又平易ナル漢文ヲモ講読セシメ女生徒ニ在リテ ハ特ニ婦徳ノ涵養ニカメ且教授法ヲ授クベシ 第三十三条 朝鮮語ハ第十三条 ニ準ジ普通ノ文章ヲ選ビテ之ヲ講読セシメ又言語ノ使用ニ練熟セシメ実用簡易 ナル文ヲ作ラシメ且教授法ヲ授クベシ 第四十条 演習科各学年ニ於ケル各学 科目ノ毎週教授時数ハ男生徒ニ在リテハ第三号表、女生徒ニ在リテハ第四号表 ニ依ルベシ 第三号表 第一学年 国語漢文四、朝鮮語二、第二学年 国語漢 文四、朝鮮語二。第四号表 第一学年 国語漢文四、朝鮮語二、第二学年 国 語漢文四、朝鮮語二（他学科目略）。 第三節 尋常科ノ程度 第四十一条 尋常科ノ男生徒ニ課スベキ学科目ハ修身、公民科、教育、国語漢文、朝鮮語、 歴史、地理、数学、理科、職業、図画、手工、音楽、体操トス 学校長ハ必要 ニ応ジ朝鮮総督ノ認可ヲ受ケ前項ノ学科目ノ外随意科目トシテ必要ナル学科目 ヲ加フルコトヲ得 第四十二条 尋常科ノ女生徒ニ課スベキ学科目ハ修身公民 科、教育、国語、朝鮮語、歴史、地理、数学、理科、職業、図画、手工、家事 裁縫、音楽、体操トス 第四十六条 国語漢文、国語、朝鮮語、歴史、地理、 理科、手工、家事、裁縫、音楽又ハ体操ハ第十一条乃至第十五条、第十八条、 第二十一条乃至第二十五条ニ準ジテ之ヲ授ケ且教授法ヲ授クベシ 第五十条 尋常科各学年ニ於ケル各学科目ノ毎週教授時数ハ男生徒ニ在リテハ第五号表、 女生徒ニ在リテハ第六号表ニ依ルベシ 第五号表 第一学年 国語漢文八、朝 鮮語二、第二学年 国語漢文八、朝鮮語二、第三学年 国語漢文六、朝鮮語二 第四学年 国語漢文五、朝鮮語一、第五学年 国語漢文五、朝鮮語一。 第六 号表 第一学年 国語八、朝鮮語二、第二学年 国語七、朝鮮語二、第三学年 国語六、朝鮮語二、第四学年 国語六、朝鮮語一）</p>
"	3・18	〔日〕 日本語海外普及に関する第三回協議会（国際文化振興会）。
"	3・21	米国、パネー号賠償金221万4000ドルを要求、日本承諾。
"	3・22	〔書〕「日文補充読本 巻二」（北京近代科学図書館編集部）。
"	3・25	〔書〕「 ^{公学校} 本 _科 国語読本 巻一～六」（六冊。南洋庁）。
"	"	〔日〕「支那新国家開発の為優良教員派遣に関する請願の意見書」（衆議院 ・昭和13年3月25日）。
"	3・26	日華経済協議会覚書調印。6月29日北平で第1回会議開催。
"	"	日本軍、台見荘で敗退（～4月6日）。
"	3・28	〔教〕 学習院初等科、外国語教育を全廃〔宮内省令〕。
"	"	中華民国維新政府、中支那派遣軍の指導で南京に成立（行政院長梁鴻志）。

西 暦	年 代	項 目
1938	3・29	漢口で国民党臨時全国代表者大会をひらく（～4.1）。国民参政会設置を決定。「抗戦建国綱領」を發表。蔣介石，党総裁に就任し，非常大権を与えられる（副総裁汪兆銘）。
"	3・30	〔日〕「国語ヲ常用スル者又ハ国語ヲ常用セサル者ノ入学ニ関スル件廃止」〔朝鮮総督府令第三十九号〕（「大正十一年朝鮮総督府令第十五号（朝鮮教育令第二十五条ニ依リ国語ヲ常用スル者又ハ国語ヲ常用セサル者ノ入学ニ関スル件）ハ昭和十三年三月三十一日限り之ヲ廃止ス」）。
"	"	文部省，神儒仏三教代表と国民精神総動員・支那布教を協議，8.4宗教局神仏基三教対支布教協議会開催。
"	"	〔書〕「速成日本語読本 下巻」（十一版在満日本教育会教科書編集部）。
"	3・31	「支那事変特別税法」・「臨時租税措置改正」各公布。
"	"	「国家総動員法」〔法律第五十五号，公布昭和十三年四月一日〕。
"	"	〔教〕「青年訓練所規程改正」〔朝鮮総督府令第五十四号〕（「青年訓練所規程左ノ通改正ス 青年訓練所規程 第一条 青年訓練所ハ青年ニ対シ国家觀念ヲ明徴ニシ皇国臣民タルノ資質ヲ向上シ互ニ信愛協力以テ団結ヲ固クセシムルト共ニ其ノ心身ヲ鍛錬シ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トス 第二条 青年訓練所ニ普通科及本科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ普通科又ハ本科ノミヲ置クコトヲ得 青年訓練所ニハ研究科ヲ置クコトヲ得 第三条 青年訓練所ノ教授及訓練期間ハ普通科ニ在リテハ二年，本科ニ在リテハ四年トス 研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス 第十三条 修身及公民科ハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ヲ奉体シテ我が国体ノ本義ヲ明徴ニシ国民道德ヲ會得セシメ鞏固ナル意志ヲ鍛錬シ殊ニ我が国体ニ対スル確乎タル信念ヲ養フト共ニ国憲ニ基キ国民ノ公民的生活ヲ完ウスル上ニ於テ須要ナル事項ヲ會得セシメ特ニ遵法奉公ノ志念ヲ涵養シテ健全有為ノ皇国臣民タラシメンコトヲ期シ実践躬行ニ基クヲ以テ要旨トス 修身及公民科ニ於テハ皇国臣民ノ自覺ヨリ出発シテ国民道德ノ実践ニ関スル要領及普通ノ作法ヲ授ケ進ンデハ国民道德ノ由来及特質ヲ會得セシムルト共ニ時代ノ思想ニ対スル正シキ批判力ヲ与ヘ一面国体及国憲ノ本義ヲ知ラシメテ我が国統治ノ特質ヲ明ニシ之ニ基キテ立憲政治ノ大要ヲ會得セシメ殊ニ遵法奉公ノ志念ニカムルト共ニ国民生活上須要ナル經濟ニ関スル事項ヲ授ケ又我が国固有ノ醇風美俗ヲ尚ビ協同生活ノ訓練ヲ重ンジ共存共栄ノ本義ヲ會得セシメ以テ大国民タルノ素地ヲ育成センコトヲカムベシ 第十六条 普通学科ハ日常生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ増進シ一般の教養ヲ高ムルヲ以テ要旨トス 普通学科ニ於テハ国語及国史ニ関スル事項ヲ授クルノ外地理，数学，理科，音楽等ニ関スル事項ニ就キ土地ノ情況ニ応ジテ適宜之ヲ授

西 暦	年 代	項 目
1938		クベシ 附則 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。
"	3・	内務省警保局,雑誌社に対し,岡邦雄・戸坂潤・林要・宮本百合子・中野重治・鈴木安蔵・堀真琴の原稿掲載を見合わせるよう内示。
"	"	〔日〕 中国留日同好会,北京に成立(日本語教育を始める)。留日のための予備校として北京興亜高級中学校を附設。
"	"	〔日〕 維新政府教育部立師資肆館を設立(3か月で修了する速成日本語教師養成)。
"	"	〔日〕 国立北京師範大学日文系及び外国語専科学校において日本語教師養成を開始。更に文部省から専門家を招聘。
"	"	〔書〕「中学校英語科全廃論」(藤村作,「文芸春秋」3月号)。
"	"	〔書〕「日華 ^{仮名} _{漢字} 両用辞典」(周莊坪,啓明書店。民国廿七年三月初版)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四二八号)。 (同上)「「単語かるた」について」(西川満)。 (「」)「文話に対する鄙見と文話例「みる」(井上肇三)。
"	4・1	〔日〕「実業学校規程中改正」〔朝鮮総督府令第六十六号〕(「実業学校規程中左ノ通改正ス 第一条 実業学校ハ実業ニ従事スル者ニ須要ナル知識技能ヲ得シメ特ニ国民道德ヲ涵養シ以テ忠良有為ナル皇国民ノ養成ニカムヘシ 第十一条 実業学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教養スヘシ 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ国民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我カ肇国ノ本義ト国体ノ尊厳ナル所以トラ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期シ常ニ生徒ヲシテ実践躬行セシメ以テ皇運扶翼ノ道ニ徹セシメンコトヲカムヘシ 六 国語ノ使用ヲ正確ニシ且其ノ応用ヲ自在ナラシメテ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国民タルノ性格ヲ涵養センコトヲカムヘシ」)。
"	"	〔日〕「実業補習学校規程中改正」〔朝鮮総督府令第六十七号〕(「実業補習学校規程中左ノ通改正ス 第一条 実業補習学校ハ国民生活ニ須要ナル職業ニ関スル知識技能ヲ得シメ特ニ国民道德ノ涵養ニカメ以テ忠良有為ナル皇国民ヲ養成スルヲ目的トス 第十二条 実業補習学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教養スヘシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ国民道德ノ養成ニ意ヲ用ヒ我カ肇国ノ本義ト国体ノ尊厳ナル所以トラ會得セシメ忠孝ノ大義ヲ明ニシ其ノ信念ヲ鞏固ナラシメンコトヲ期シ常ニ生徒ヲシテ実践躬行セシメ以テ皇軍扶翼ノ道ニ徹セシメンコトヲカムベシ 五 国語ノ使用ヲ正確ニシ其ノ応用ヲ自在ナラシメ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国民タルノ性格ヲ涵養センコトヲカムベシ」)。

西 暦	年 代	項 目
1938		
"	4・1	〔日〕「水原高等農林学校附置農業教員養成所規程中改正」〔朝鮮総督府令第六十五号〕（「水原高等農林学校附置農業教員養成所規程中左ノ通改正ス第三条第一項中，「朝鮮語」ヲ削り同条第二項ヲ左ノ如ク改ム 生徒ノ情況ニ依リテハ国語ニ代ヘ朝鮮語ヲ課スルコトヲ得」）。
"	"	「国家総動員法」公布。5・5施行。
"	"	回数圏攷究所設立（7月「回数圏」創刊。'40年，研究所と科称。～'45年）。
"	"	〔日〕 新京に建国大学設立（開校5月2日）。
"	4・4	重光中ソ大使，ソ連の対中国援助に抗議。
"	"	国民党四中全会開催（～7日）。
"	4・6	第十師団の瀬谷支隊，徐州東北方面台兒荘で苦戦し退却。
"	4・7	大本營，徐州作戰下令。
"	4・10	燈火管制規則実施。
"	4・12	国民参政会組織条例（参政員に毛沢東など七名の中共黨員を加える）。
"	"	米大使，華北における日本の通貨管理に抗議。
"	4・15	〔書〕「初等日本語読本 卷三」（十版。在満日本教育会教科書編輯部）。
"	4・16	英伊協定調印（英国，エチオピアでのイタリアの主権を承認。両国，紅海の現状維持で協力を約束）。11月16日発効。
"	4・19	〔日〕 第四回訪日見学団来日（～5月17日。ブラジル，22名）。
"	4・30	「北支那開發株式会社法」・「中支那振興株式会社法」〔法律〕公布。11月7日両社設立。
"	4・	〔日〕 国語解者調（4月末現在，公学校生徒数527127，同上卒業生累計594241，国語普及施設生徒数317756，同上修了者累計765157，合計2204281，本島人口5263389，国語解者百分比41・9）。
"	"	〔書〕「カナ付日蒙名詞集」（徳広弥十郎編，大阪・甲文堂書店）。
"	"	〔書〕「新式漢和字典」（上田忠夫著，集栄館）。
"	"	〔書〕「語原解説俗語と隠語」（渡部善彦，桑文社）。
"	"	〔書〕「商業經濟辞典」（高垣寅次郎編，日本評論社）。
"	"	〔書〕「英羅和新訳新齒科辞典」（松田良身著，小桐商店。New English—Latin—Japanese Dental Dictionary）。
"	"	〔書〕「新仏和辞典」（井上源次郎・田島清共編，白水社。「Dictionnaire Pratique Français—Japonais」）。

西 暦	年 代	項 目
1938	4・	〔書〕「新中國 第1号」(民国廿七年四月)。
"	5・2	〔日〕 満州国建国大学開学式。
"	"	〔書〕「 ^{国民} 学校日語読本 卷二」(満州国帝国政府)。
"	5・3	「南洋群島ニ於ケル国家総動員ニ関スル件」〔勅令第三百十七号, 公布昭和十三年五月四日〕(「南洋群島ニ於ケル国家総動員ニ関シテハ国家総動員法ニ依ル 附則 本令ハ昭和十三年五月五日ヨリ施行ス」)。
"	"	「国家総動員法施行期日ノ件」〔勅令第百十五号, 公布昭和十三年五月四日〕(「国家総動員法ハ昭和十三年五月五日ヨリ之ヲ施行ス」)。
"	"	「国家総動員法ハ之ヲ朝鮮, 台湾及樺太ニ施行スルノ件」〔勅令第三百十六号, 公布昭和十三年五月四日〕(「国家総動員法ハ之ヲ朝鮮, 台湾及樺太ニ施行ス 附則 本令ハ昭和十三年五月五日ヨリ施行ス」)。
"	5・4	「国家総動員審議会官制」〔勅令〕公布。
"	5・5	〔書〕「明治以降教育制度発達史」(教育会編集会編)。
"	5・6	維新政府, 上海海関接収。
"	5・10	〔書〕「教育部直轄編審会審定 ^{高級} 日文模範教科書 卷二」(北京近代科学図書館編集部)。
"	5・12	独満修好条約, ベルリンで調印(ドイツ, 満州国を正式承認)。7月15日実施。
"	5・13	〔書〕「国語音韻論」(金田一京助, 刀江書院。新訂増補版)。
"	5・14	国際連盟理事会, 日本の毒ガス使用に関し, 非難決議案を採択。
"	5・19	日本軍, 徐州占領。
"	5・20	某国機(中国機と推定), 熊本・宮崎上空に飛来, 反戦ビラをまく。
"	5・23	独, 在中国軍事顧問団引揚げ決定。
"	5・25	学生の夏季集団勤労を指令。
"	5・26	近衛内閣改造(外相宇垣一成・蔵相兼商工相池田成彬・文相荒木貞夫)。新外相宇垣一成, 孔祥熙を通じての和平交渉に着手(9月30日宇垣辞任で中絶)。
"	"	毛沢東, 延安の抗日戦争研究会で講演(～6月8日), 「持久戦論」を発表。
"	5・27	日本青少年ドイツ派遣団出発。8月16日ヒトラー・ユーゲント来日。

西 暦	年 代	項 目
1938	5・28	日本言語学会創立大会（'39年1月「言語研究」創刊）。
"	5・	〔日〕 満州国留日学生会館開館。
"	"	〔日〕 吉林師道高等学校開校。
"	"	〔書〕「 ^{国民} 学校日語国民読本（一～二）」（民生部編，満州図書株式会社）。
"	"	〔書〕「日本文法輯要」（新中華学校，商務印書館。民国十四年十月初版 民国廿七年五月再版）。
"	"	〔書〕「漢英合解日本実用語大辞典」（劉理中編，山海堂）。
"	"	〔書〕「方言と方言学」（東条操著，春陽堂書店）。
"	"	〔書〕「工員必携 工業用語と略解」（貴田鎮一著，知進社）。
"	"	〔書〕「新輯鉄道旅行案内辞典」（奈良益次郎，大洋社。上下二巻）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四三〇号）。 （同上）「巻頭言 日本語の進出」。 （"）「童話の本質と実演に就いて」（宮代不二夫）。
"	6・2	〔日〕 日本語海外普及に関する第四回協議会（国際文化振興会）。
"	6・3	板垣征四郎を陸相に任命。
"	6・9	〔教〕 文部省，「集团的勤労作業運動実施ニ関スル件」を通牒（勤労働員 はじまる。'39年3月31日，作業の漸次恒久化と準正課の扱いを指示）。
"	6・10	閣議，最高国策検討機関として5相会議（首・陸・海・外・蔵相）の設置決 定。
"	"	議会制度審議会官制〔勅令〕公布（議院・貴族院・選挙各制度調査会官制は 廃止）。
"	6・12	中国軍，黄河堤防決壊。
"	6・15	大本営，御前会議で，武漢作戦・広東作戦実施を決定。6月18日，作戦準 備を命令。
"	6・24	五相会議「今後の支那事变指導方針」（本年中に戦争目的達成）を決定。
"	"	〔日〕 満州国民生部，「奉天農業大学規程」・「新京医科大学規程」公布。
"	6・27	大日本陸軍従軍画家協会結成。
"	6・	〔書〕「台湾教育」（第四三一号）。 （同上）「公学校に於ける聴き方雑考」（Semi生）。 （"）「国民精神の涵養と国語教育」（木村万寿夫）。
"	"	〔書〕「學 叢 第1～8号」（加藤淳等編。月刊。昭和13年6月～ 14年7月）。

西 暦	年 代	項 目
1938	6・	〔書〕「現代日語會話」(程柳枝, 上海読者書局。民国廿七年六月初版)。
"	"	〔書〕「伊日辞典」(吉田弥邦・藤堂高紹共編, 伊日辞典刊行会発行, 鳳鳴堂書店発売。「Vocabolaroi Itariano-Giapponess」)。
"	"	〔書〕「新国定読本一二年生ノカン字三一六字ノ考察」(岡崎常太郎著, 松邑三松堂)。
"	"	〔書〕「日本人名辞典」(松元竹二編(代表), 成光館出版部)。
"	"	〔書〕「目高考」(辛川十歩著, 刊)。
"	"	〔書〕「琉球戯曲辞典」(伊波普猷, 郷土研究社)。
"	"	〔書〕「基本語彙学」(垣内松三)。
"	7・1	朝鮮のキリスト教長老教会派, 神社参拝を承認。
"	7・5	スペイン内乱不干渉委員会, 義勇兵撤退案を採択(スペイン共和国政府, 賛意を表明)。
"	7・6	武漢で国民参政会第一次大会ひらく(毛沢東ら中共黨員も参議員となる)。
"	"	〔書〕「東北読本 上」(文部省編。下, '39年5月26日。東北地方の小学校高等科・青年学校生徒に無料配布, 東北対策の一環)。
"	7・8	五相会議, 中国中央政府屈伏の場合, 屈伏せざる場合の対策決定。
"	7・11	張鼓峰で国境紛争起こる。7月29日, 沙草峰で日ソ軍衝突。7月31日, 日本軍夜襲。8月6日, ソ連軍大規模な反撃(日本軍の死傷者1412人)。8月10日, 日ソ停戦協定成立。
"	7・12	五相会議, 「時局に伴う対支謀略」決定(一流人物を起用, 新政権成立を期す)。
"	7・14	〔国〕 国語審議会第三回総会, 「漢字字体整理案」議決答申。
"	7・15	漢口作戦はじまる。
"	7・19	五相会議, 「支那政権内面指導大綱」を決定。
"	"	五相会議, 防共協定強化問題に関し, ドイツと対ソ軍事同盟締結の方針を決定。
"	7・20	〔書〕「速成日本語讀本 上巻」(十四版, 在満日本教育会教科書編纂部)。
"	7・26	宇垣外相・クレギー英大使の間で日英会談開始, 英大使, 天津租界問題をはじめに華権益に関する懸案を一括提出。
"	7・	〔日〕 日語文化学校の松宮一也, 外務省文化事業部の委嘱により, バンコックに日本文化研究所を設立, その事業として日本語学校を経営。

西 暦	年 代	項 目
1938	7・	〔書〕「台湾教育」(第四三二号)。 (同上)「公学校用国語読本巻三・四編纂要旨」(加藤春城)。
"	"	〔書〕「国語音声の特質と国語教育」(木村万寿夫, 台中・棚辺書店)。
"	"	〔書〕「台湾島民の皇民化と国語普及」(西岡英夫, 「音声教育」)。
"	"	〔書〕「基本日本語」(唐真如, 上海百新書局, 民国廿四年九月初版, 民国廿七年七月再版)。
"	"	〔書〕「国語講習所用国語教授書」(安田友明編)。
"	"	〔書〕「植物学語彙」(山下助四郎著, 富山房)。
"	"	〔書〕「大衆の故事と熟語」(桑文社編・刊)。
"	8・1	〔書〕「国語絵読本 巻一」(台北国語教励会)。
"	"	〔書〕「日本語読本 巻九」(再版。布哇教育会)。
"	8・10	〔書〕「 ^{国体の本義} 解説叢書 我が国体に於ける和」(文部省教学局編纂, 内閣印刷局印刷発行)。
"	8・15	文部省に科学振興調査会を設置〔勅令〕。
"	8・19	蔣介石, 共産系十六団体の解散を命令。
"	8・20	〔書〕「初等日本語読本 巻一」(四版。在満日本教育会教科書編集部)。
"	8・22	大本營, 武漢攻略を命令。
"	8・29	〔教〕 文部省, 融和教育の徹底を訓令。
"	8・	〔書〕「日本語教科書」(四冊。維新政府教育部編, 維新政府教育部。民国廿七年八月初版)。
"	"	〔書〕「台湾の国語教育」(蓮田善明, 「教育」)。
"	"	〔書〕「書 滲」(北京近代科学圖書館月報)第1号〜(北京近代科学圖書館編, 北京・北京近代科学図書館。月刊)。
"	9・1	東亜研究所開所式(総裁近衛文麿)。
"	9・5	〔日〕 在留外人学生のための日本文化講座準備協議会(国際文化振興会)。
"	"	メキシコ, 独・伊と石油パートナー協定を調印。
"	9・9	五相会議, 「中華民國連合委員会樹立要綱」決定。
"	9・10	外交顧問を設置する旨公布〔勅令〕, 佐藤尚武・有田八郎を任命(10月6日罷免)。
"	"	大連で臨時・維新政府代表と日本側協議(9月22日北平に成立, 主席委員王克敏)。

西 暦	年 代	項 目
1938	9・11	従軍作家陸軍部隊、漢口へ出発（内閣情報部委嘱、久米正雄・丹羽文雄・岸田国士・林芙美子ら）。9月14日海軍部隊出発（菊池寛・佐藤春夫・吉屋信子ら）9月27日～28日詩曲部隊出発（西条八十・古関祐而ら）。
"	9・12	〔日〕 在留外人学生のための日本文化講座準備協議会（国際文化振興会）。
"	"	ヒトラー、ニュールンベルクの演説で、ズデーテン・ドイツ人の自決権を主張。
"	9・15	英首相チェンバレン、ベルヒテスガーデンでヒトラーと会談。ヒトラー、ズデーテン割譲要求を出す。
"	"	〔書〕「日語捷徑」（台湾総督府文教局学務課編。83P）。
"	"	〔書〕「日本語教本 巻一」（台湾総督府文教局学務課）。
"	"	〔書〕「 ^{効果的} _{速成的} 標準日本語讀本 巻二」（九版。大出正篤，満州文化普及会）。
"	9・18	仏首相ダラディエ・外相ボネ、ロンドンを訪問。9月19日、英仏、チェコにドイツの要求受諾を勧告。9月21日、チェコ受諾。
"	9・19	大本營、広東攻略を命令。
"	9・22	中華民国政府連合委員会、北平に成立（主席委員王克敏。臨時・維新両政府の連合）。
"	"	チェンバレン、ゴードスグルクにヒトラーを再訪問（～9月23日）。ヒトラー、対チェコ強硬策を提示。
"	9・24	陸軍省、新聞班を情報部と改称。
"	9・29	英・仏・独・伊4国のミュンヘン会談。ズデーテン地方のドイツへの割譲決定（「ミュンヘン協定」。9月30日調印）。
"	"	ポーランド、チェコにテッシェン地方の割譲を要求。10月2日、同地方占領。
"	9・30	宇垣外相、対支中央機関設置に反対し、辞任。
"	"	〔日〕 在留外人学生のための日本文化講座（国際文化振興会）。
"	9・	〔日〕 磐谷日本文化研究所開設。
"	"	東亜研究所設立（「東亜研究所は帝国の海外発展に資する為、東亜の人文及自然に関する総合的調査研究を行ふ」）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四三四号）。
		（同上）「飛躍しつつある国語の力」（長田新）。
		（"）「公学校読本巻三第十四「花火」指導の研究座談会」（T・S・U生）。
		（"）「公学校用国語書方手本第二学年用編纂要旨並に書方解説」

西 暦	年 代	項 目
1938		(加藤春城)。 (#)「国語と国民性」(木村万寿夫)。
"	9・	〔書〕「国民辞典(今日の言葉)」(関田生吉著, 厚生閣)。
"	"	〔書〕「辞書式新旧対照解剖学名集覧」(高木耕三・尾持昌次共編, 南山堂書店)。
"	"	〔書〕「正しい漢字の運用」(桑文社編・刊)。
"	"	〔書〕「鉄道関係露語五千」(原田千三著, 大連・南満州工業専門学校。初版と改訂版(昭和14年4月)は, 満鉄に寄贈, ノモンハン事件後, 昭和15年2月, 第三版から一般に発売)。
"	"	〔書〕「東亜日本語辞典」(東亜学校編・刊。中国からの在日留学生のための日本語辞典)。
"	"	〔書〕「実用取引用語辞典」(塩清著, 同文館)。
"	"	〔書〕「日本地理教材辞典」(西亀正夫著, 厚生閣)。
"	"	〔書〕「類語文例文章大辞典」(水守亀之助編, 至誠書院)。
"	10・1	閣議, 対支中央機構として対支院の設置を決定。
"	"	「作戦要務令」制定〔陸軍〕。
"	"	日満支連絡運輸協定実施。釜山・北京間直通運輸を開始。
"	"	独軍, ズデーテン進駐。
"	10・4	仏下院, ミュンヘン協定批准(社会党棄権, 共産党反対)。
"	10・5	チェコ大統領ベネシュ辞任, 国外亡命(のち米国へ)。
"	10・6	東京帝大経済学部助教授有沢広己, 12月14日, 脇村義太郎教授, 12月24日, 大内兵衛教授, それぞれ休職となる。
"	"	米国, 中国における日本の独占・特権の停止要求。
"	10・10	〔書〕「 ^{国民} 日語国民読本 卷三」(満州国帝国政府)。
"	"	〔書〕「 ^{国民学校} 日語国民読本 卷一・卷三」(満州国帝国政府)。
"	10・12	日本軍, 華南のバイアス湾に上陸, 10月21日, 広東を占領。
"	"	延安で中共第六期六中全会ひらく(～11月6日。王明らの右翼日和見主義, 合法主義を批判。蔣委員長擁護・国共合作による長期抗戦を決議)。
"	"	汪兆銘, 日本の和平条件が中国の生存を妨げなければ討論の基礎とすべき旨ロイター記者に語り反響惹起。
"	10・14	閣議, 国際連盟との協力関係終止を決定。11・2実施。
"	10・18	〔書〕「 ^{ヴァンド} 言語学概論」(藤田勝二訳, 刀江書院)。

西 暦	年 代	項 目
1938		
"	10・21	日本軍、広東占領。
"	10・25	〔書〕「教育部直轄編審会審定 ^{初級} 日文模範教科書」（巻一，七版。巻二，再版。巻三，三版。北京近代科学図書館編纂部）。
"	10・27	日本軍、武漢三鎮占領。
"	"	ダラディエ首相、人民戦線離脱を宣言（11月10日人民戦線に通告）。人民戦線崩壊。
"	10・28	近衛首相、仏印経由の援蒋物質につき対仏警告。
"	"	第一期第二次国民参政会（～11月6日，重慶）。
"	10・29	外相有田八郎任命。
"	10・30	〔書〕「初等日本語読本 巻四」（九版。在満日本教育会教科書編輯部）。
"	10・31	〔書〕「大日本維新史料」（維新史料編纂会編）刊行開始。
"	10・	〔書〕「南洋群島教育史」（南洋群島教育会）。
"	"	〔書〕「台湾における国語教育の諸問題」（木村万寿夫，「国文学考」四巻一輯）。
"	"	〔書〕「最新農学用語辞典」（石川勝蔵編・著，大明堂）。
"	"	〔書〕「世界名著解題」（柳田泉著，春秋社。三冊）。
"	"	〔書〕「東方文化 第1巻6期」（北京・東方文化月刊社刊。月刊。民国廿七年十月）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四三五号）。 （同上）「古事記の訓について」（有福友好。～第四三六号）。
"	11・1	〔日〕11月1日現在の台湾教育会総会員数10779名。
"	"	上海を除く華中南に軍票制実施。
"	11・3	近衛首相、東亜新秩序建設に国民政府といえども参加を拒否せずと声明（「第二次近衛声明」）。
"	11・5	〔書〕「教育部直轄編審会審定 ^{高級} 日文模範教科書 巻三」（北京近代科学図書館編纂部）。
"	11・7	国民精神作興週間始まる。
"	"	中支那振興（株）（本社上海・資本金一億円。総裁児玉謙次）・北支那開発

西 暦	年 代	項 目
1938		(株)(本社東京。資本金3億5000万円。総裁大谷尊由)各設立。
"	11・20	上海で影佐大佐、犬養健・高宗武・梅思平ら、日中和平に関する「日華協議記録」と諒解事項に調印。
"	"	〔書〕「岩波新書」刊行開始。
"	"	〔書〕「現代支那批判」(尾崎秀実)。
"	11・25	「文化協力ニ関スル日本国独逸国間協定」〔条約第八号、公布昭和十三年十一月二十六日〕(「日独文化協定」)。
"	11・26	ソ連・ポーランド不可侵条約('32年7月25日調印、更新される)。
"	11・29	旧唯物論研究会関係者検挙。東京帝大・早大・外語・松高などの学生自治運動グループ「インターカレッジ」関係の検挙開始。
"	11・30	御前会議、「日支新関係調整方針」を決定(華北・揚子江下流地域等を特殊地域とするなど)。
"	"	日本軍、延安空爆開始。
"	"	〔書〕「 ^{効果的} _{速成的} 標準日本語読本 巻一」(十八版。大出正篤、満州文化普及会)。
"	11・	滇緬公路(ビルマ鉄道より雲南の昆明に至る援蔣ビルマルート)完成。
"	"	〔書〕「標準日本語読本(一〜三)」(大出正篤、満州図書文具株式会社)
"	"	〔書〕「支那に於ける日本語教育状況」(外務省文化事業部)。
"	"	〔書〕「造船用語辞典」(倉田音吉著、修教社書院。「Ship Building English-Japanese Japanese-English Glossary」)。
"	"	〔書〕「内外経済問題辞典」(大阪毎日・東京日日新聞社エコノミスト部著、一元社)。
"	"	〔書〕「朔 風 第1, 2, 12期」(民国方紀生、陸離編、北京・東方書店。3冊。月刊。民国廿七年十一月〜廿八年十月)。
"	"	〔書〕「新興文化 第1巻1号」(横山元吉編、北京・新興文化社。146P。月刊。昭和13年11月)。
"	"	〔書〕「華文毎日 1〜134号」(大阪・毎日新聞社。半月刊。昭和13年11月〜19年10月)。
"	"	〔書〕「首都畫刊 第5〜9期」(新民會首都指導部編、新民會首都指導部。月刊。民国廿七年十一月〜廿八年三月)。
"	"	〔書〕「新青年 第1巻1号」(天津・新青年月刊社。月刊。民国廿七年十一月)。

西 暦	年 代	項 目
1938	11・	〔書〕「青 年 第1巻10, 11期」(新民會首都指導部指導科宣傳股編。半月刊。民国廿七年十一月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四三六号)。 (同上)「公学校用国語読本巻一, 二及び巻三, 四に於ける語彙」(辻武夫)。 (")「歴史教育上より見たる教科書の振仮名について」(高橋正尾)。
"	12・5	〔書〕「日文補充讀本 巻三」(北京近代科学図書館編集部)。
"	12・6	陸軍中央部, 進攻作戦の打切り, 戦略持久への転移方針を決定。
"	"	仏・独外相(ボネ・リップントローブ), 独仏善隣協定(不可侵共同宣言)調印。
"	12・8	〔国〕教育審議会より内閣総理大臣あて国語に関する建議を提出, 可決。
"	12・9	陸軍航空総監部設置を公示〔陸軍〕。12月10日, 海軍連合航空隊令公示〔海軍〕。
"	12・10	〔日〕第二十五回全島国語演習会(場所, 台中市樺山小学校構堂, 参加人数360名, 番外を含む)。
"	"	〔書〕「創元選書」刊行開始。
"	12・12	〔書〕「支那事変歌集・戦地篇」(大日本歌人協会編, '41年10月, 銃後篇刊)。
"	12・14	〔日〕浙江省, 「浙江学資貸与規則」・「浙江省幼稚園規則」公布。
"	12・15	米・中間にトラック・ガソリンと桐油のパーター借款(2500万ドル)調印。
"	"	「興亜院官制」〔勅令第七百五十八号, 公布昭和十三年二月十六日〕(総務長官柳川平助陸軍中将)。
"	12・19	〔日〕牡丹江省, 「牡丹江省学校授業費規則」公布。
"	12・20	〔日〕盤谷第一日本語学校開設(所在地盤谷ターチャンワン)。日泰協会(会長泰人)の日泰文化研究所経営。日語文化協会主事松宮一也の努力により設けられた。
"	"	汪兆銘, 重慶を脱出してハノイ着, 12月30日, 対日和平声明。
"	12・21	独, 中国における優越権固持。
"	"	〔書〕「初等日本語讀本 巻二」(再版。在満日本教育会教科書編集部)。

西 暦	年 代	項 目
1938	12・22	近衛首相，日中国交調整の根本方針として善隣友好・共同防共・経済提携の近衛三原則を声明（「第三次近衛声明」）。
"	"	日本軍，天津英仏租界への交通を制限。
"	12・23	閣議，新南群島の領土編入を決定。12月28日，台湾総督府の管轄下に入る。
"	"	スペインのフランコ軍，カタロニア進撃開始。
"	12・24	汎米会議，「リマ宣言」を採択，米州諸国への外国の干渉反対を声明。
"	12・26	国府軍と八路軍交戦（「張蔭格事件」）。
"	"	満州国民生部，「公立私立学校認定規則」を公布。
"	12・28	東条陸軍次官，「ソ支二正面戦争」準備の発言。
"	12・31	米国，門戸開放無視の中国の新秩序承認せずと対日通牒。
"	12・	〔国〕 国語審議会より「仮名遣改定論議要略」発表。
"	"	〔日〕 中華民国政府教育部立臨時教員養成所設立，日本語教員養成班を組織（日本語教科書の編纂を日系専員数名によって行う）。
"	"	〔書〕「日語之門」（湯享嘉，啓明書局，民国廿七年十二月初版）。
"	"	〔書〕「英和独仏・独和英仏土木建築用語新辞典」（建築資料研究会編，太陽堂。「NEW DICTIONARY OF CIVIL ENGINEERING AND ARCHITECTURE」）。
"	"	〔書〕「日本放送協会採定標準洋楽語彙」（大日本音楽協会楽語統一調査事業委員会編，共益商社書店）。
"	"	〔書〕「分類漁村語彙」（柳田国男・倉田一郎共著，民間伝承の会）。
"	（昭和13年）	この頃，「戦時国家独占資本主義体制」確立。
"	"	〔日〕 この年，泰国には，外務省文化事業部の企画により，日泰協会を経営主体として，日泰文化研究所と併せて盤谷日本語学校を設置し，日本語の教授を中心とする文化事業が育成された（開校当時は，生徒150ぐらい，二部教授）。
"	"	〔日〕 旗立小学校創立（蒙古，成紀七三三年。日本語は，1年～4年まで毎週2時間）。
"	"	〔日〕 ブラジル，14歳以下の児童に対する外国語教授法の禁止令公布。
"	"	〔日〕 西部日本語学校（モロン）開校。
"	"	〔日〕 事変以来，中等学校・小学校の教員で，満州・支那・台湾・朝鮮・関東州・南洋などの外地海外へ行ったもの，〔昭和13年〕1417名。
"	"	〔日〕 満州国，この年，国民学校13886，学生数1429805，中等学校189，学生数47008，高等教育機関10，学生数2529。
"	"	〔日〕 満州国における語学試験受験者数・合格者数（〔日本語〕特等受験

西 曆	年 代	項 目
1938		者数139, 合格者数9, 一等受験者数1167, 合格者数59, 二等受験者数3429, 合格者数269, 三等受験者数12294, 合格者数1931, 合計受験者数17083, 合計合格者数2268)。
"	(昭和13年)	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 学生数344, 卒業数67)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数, 本島人13898, 高砂族64, 卒業数, 本島人5517, 高砂族25)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 生徒数, 本島人3007, 蕃人28, 卒業数, 本島人410, 蕃人6, 小学校高等科, 生徒数, 本島人204, 蕃人11, 卒業数, 本島人90, 蕃人5)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人3269, 高砂族2, 卒業数, 本島人425, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校生徒数, 本島人2287, 高砂族0, 卒業数, 本島人577, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 「実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人1992, 高砂族8, 卒業数, 本島人259, 高砂族1, 実業補習学校, 生徒数, 本島人4451, 高砂族205, 卒業数, 本島人1159, 高砂族87)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人4088, 高砂族16, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数114, 卒業数47)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数70, 卒業数10)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数168, 卒業数70)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数185, 生徒数9392, 卒業数2173, 就学歩合84.52)。
"	"	〔日〕 「国語」保育園, 幼児国語普及施設所数・生徒数(所数313, 生徒数139031)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所3454, 生徒数214865, 簡易国語講習所3852, 生徒数257277, 合計所数7306, 合計生徒数472142)。
"	"	〔日〕 国語講習所の所数・会員数・普及歩合(所数269, 会員数17223, 普及歩合32.01)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本(改正出版)第一種巻五・六同掛図巻四, 五」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用書方手本第三学年用上下」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校教科書編纂趣意書」(台湾総督府)。

西 曆	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	〔書〕「初等図画高等科用編纂趣意書」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「中等公民科教科書巻一, 二改訂版」(台湾総督府, 昭和13年～14年)。
"	"	〔書〕「女子公民科教科書巻一, 二改訂版」(台湾総督府, 昭和13年～14年)。
"	"	〔書〕「公学校高等科女子農業書巻一, 二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校国史巻二 第一種」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校家事教科書巻一, 二, 三」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科女子商業書巻一, 二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科家事書第一, 二学年用」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「新訂日台大辞典」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科裁縫手芸教授書一, 二」(台湾総督府, 昭和13年昭和14年)。
"	"	〔書〕「教授研究発表会発表要項第六回」(台南師範学校 附属公学校編)
"	"	〔書〕「綴り方科教授細目」(台北市松山公学校編)。
"	"	〔書〕「全村学校教本」(塩埕庄編)。
"	"	〔書〕「あけぼの読本第三学年用」(富田豊)。
"	"	〔書〕「国語教本教授書(全)」(台湾総督府警察局)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本教授細目並に教材研究」(巻一～十二)」(台北一師二公光昭会編, 昭和13～17年)。
"	"	〔書〕「国語教本」(新庄郡教育会編)。
"	"	〔書〕「国語講習所教本」(海山郡鶯歌庄)。
"	"	〔書〕「国語講習所用国語教授案(巻一)」(山口正明)。
"	"	〔書〕「公民国語読本」(内寮公学校)。
"	"	〔書〕「皇民塾生国語教本巻一」(宮田庄国語普及研究部)。
"	"	〔書〕「公民塾国語教本」(北港郡)。
"	"	〔書〕「国語講習所国語教授書」(樹林公学校)。
"	"	〔書〕「国語講習所講師用教育学と国語教授法」(栗原源七)。
"	"	〔書〕「国民塾読本巻一」(鳳山郡民風作興会)。
"	"	〔書〕「簡易速成国語捷徑」(許遜謙)。
"	"	〔書〕「国語教本」(東石公学校)。
"	"	〔書〕「国語教本巻一」(石榴班国語普及研究部)。
"	"	〔書〕「国民塾話方唱歌教授細目」(新営郡国語常用聯盟)。
"	"	〔書〕「国語凶解」(郭續基)。
"	"	〔書〕「皇民読本」(金井塚巳吉)。
"	"	〔書〕「台湾の社会教育」(台湾総督府, 昭和13年～18年, 「各年度」)。
"	"	〔書〕「北部台湾に於て福建系本島人の使用するアクセント研究」(寺川

西 曆	年 代	項 目
1938		喜四男)。
"	"	〔書〕「台灣教育」(第四二六号~第四三七号発行)。
"	"	〔書〕「口語俗語日本現代語法」(松浦珪三,文求堂)。
"	"	〔書〕「日本語會話(三卷)」(松宮弥平,日語文化学校)。
"	"	〔書〕「漢語詳解標準日本語自修全書」(岩井武男,文求堂)。
"	"	〔書〕「改定中等日語課本 前後編」(五百木元著,新京・滿洲電信電話滿洲国康德五年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「漢語解釋日語尺牘之譯讀法及作法」(岩井武男著,民国道文選校,東京・文求堂。101P)。
"	"	〔書〕「簡易日支會話」(岩村成正著,東京・尚文堂。139P)。
"	"	〔書〕「初等日語課本」(高宮盛逸著,東京・滿洲電信電話。滿洲国康德五年刊。50P)。
"	"	〔書〕「日粵會話讀本」(長野政來,神田樹共著,台北・福大公司。166P)。
"	"	〔書〕「日語讀本」(橋川時雄著,北京特別市公署社会局。民国廿七年刊51P)。
"	"	〔書〕「最新日語基礎讀本」(民国張我軍編,天津・世界凶書公司。民国廿七年刊。164P)。
"	"	〔書〕「原文對照日本現代新語辭典」(日語研究社編,北京・新民書局。民国廿七年刊。430P)。
"	"	〔書〕「日語華譯國音日語寶典指南」(民国柳篤恒著,民国蘇觀浩訳,北京・華昌書局。民国廿七年刊。166P)。
"	"	〔書〕「日語華譯實用日語會話指南」(民国柳篤恒著,北京・華昌書局。民国廿七年刊。241P)。
"	"	〔書〕「日語話本」(滿洲劉潤圃編,奉天・德和義書局。滿洲康德五年刊22P)。
"	"	〔書〕「日本語教本 3卷」(台灣總督府文教局学務課編。3冊)。
"	"	〔書〕「東游紀行」(民国何海鳴著,天津・庸報社。民国廿七年刊。108P)。
"	"	〔書〕「東遊雜感」(民国朱華著。民国廿七年序刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「東遊雜感」(民国朱華著。民国廿七年序刊。43P)。
"	"	〔書〕「日本童話集」(滿洲道謁民編,新京・滿洲帝国教育会。滿洲康德五年刊。內容:1編 日本之初 2編 天之岩戸 4篇 因幡之白兔 7篇 猿蟹合戦 8篇 舌切雀 11篇 桃太郎 13篇 癩取 14篇 海月之使 15篇 文福茶釜 17篇 浦島太郎 19篇 金太郎 等)。
"	"	〔書〕「霞山會館圖書分類目錄 昭和12年9月末現在」(東京霞山會館

西 曆	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	昭和13年刊。244P)。
"	"	〔書〕「日本漢學史」(牧野謙次郎著,東京・世界堂。昭和13年刊。336P)。
"	"	〔書〕「〔佛學書目〕」(〔庚申佛經流通處編],北京・庚申仏教流通處。民國廿七年刊。290P)。
"	"	〔書〕「中華文日蓮讀本」(宗教問題研究所編,東京・宗教問題研究所。昭和13年刊。「日本宗教讀本第2篇」。48P)。
"	"	〔書〕「近衛内閣論」(民国孔志澄著,日本問題研究會編,長沙・商務印書館。民國廿七年刊。「日本知識叢刊」。64P)。
"	"	〔書〕「掌中支那全圖」(木崎純一編,東・伊林書店。昭和13年刊。地圖13枚。1冊)。
"	"	〔書〕「最新北京指南」(民国田蘊瑾編,北京・自強書局。民國廿七年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「福建省地圖〔及〕福州市街圖」(臺灣總督府文教局學務課編,〔台灣總督府〕。昭和13年刊。2枚)。
"	"	〔書〕「最新實測西京地圖」(上海・至誠堂。昭和13年刊。1枚)。
"	"	〔書〕「〔廈門地圖〕廈門島全圖 廈門市全圖 鼓浪嶼地圖」(臺灣總督府文教局學務課編,台灣總督府。昭和13年刊。3冊)。
"	"	〔書〕「廣東省圖及廣東市街圖」(臺灣總督府文教局學務課編,台灣總督府。昭和13年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「汕頭地圖」汕頭市街圖・潮汕地方圖」(臺灣總督府文教局學務課編,台灣總督府。昭和13年刊。3枚)。
"	"	〔書〕「最新北支那要圖」(滿洲日日新聞社編,滿洲・滿洲日日新聞社。昭和13年刊。1枚。「滿洲日日新聞11417第号附錄」)。
"	"	〔書〕「最新地番入新京市街地圖」(新京・三重洋行。滿洲康德五年刊。1枚)。
"	"	〔書〕「新區町名入吉林市街地圖」(黒木正明編,吉林・吉林広告社。昭和13年刊。1枚)。
"	"	〔書〕「哈爾濱市全圖」(廣岡光治編,哈爾濱・哈爾濱興信所。昭和13年刊。1枚)。
"	"	〔書〕「吾國與吾民」(民国林語堂著,鄭陀訳,世界新聞出版社。民國廿七年刊。166P)。
"	"	〔書〕「東亞聯盟結成論」(伊東六十次郎著,東京・大陸思想戦研究会。昭和13年刊。262P)。
"	"	〔書〕「長近日本政治の剖視」(民国龍象著,日本問題研究會編,上海・商務印書館。民國廿七年刊。「日本知識叢刊」。94P)。
"	"	〔書〕「孫逸仙及國民黨之來歴」(西洋卜郎特著,民国趙李和訳,新中国

西 曆	年 代	項 目
1938		社。民國廿七年刊。26P)。
"	"	〔書〕「東亞外交史論」(青柳篤恒著,東京・世界堂。昭和13年刊。402P)。
"	"	〔書〕「滿洲農業移民入植圖」(滿洲拓植委員會事務局編。昭和13年刊1枚)。
"	"	〔書〕「最近日本之國際收支」(民國孔志澄著,日本問題研究會編,上海・商務印書館。民國廿七年刊。「日本知識叢刊」。1冊)。
"	"	〔書〕「赤色支那」(大久保引一著,東京・高山書院。昭和13年刊。388P)。
"	"	〔書〕「修正初小國語教科書」(教育部編審會編,北京・新民印書館。民國廿七年刊)。
"	"	〔書〕「修正高小國語教科書 3, 4冊」(教育部編審會編,北京・新民印書館。民國廿七年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「初中國文 6卷」(教育部編審會編,北京・新民印書館。民國廿七年刊。6冊)。
"	"	〔書〕「支那人に接する心得」(原口統太郎著,東京・実業之日本社。昭和13年刊。342P)。
"	"	〔書〕「日本戰時貿易政策」(民國符燦著,日本問題研究會編,上海・商務印書館。民國廿七年刊。「日本知識叢刊」112P)。
"	"	〔書〕「〔滿洲放送資料〕」(滿洲電信電話株式會社放送部編,滿洲電信電話株式會社。昭和13~14年刊。タイプ。5冊)。
"	"	〔書〕「中國現代文讀本」(山室三良等編,北京・近代科学図書館。昭和13年刊。170P)。
"	"	〔書〕「支那語讀本」(日本評論社編,東京・日本評論社。昭和13年刊252P。「日本評論」昭和13年3月号別冊付録)。
"	"	〔書〕「亞細亞言語集 支那官話部7卷」(廣部精編,東京・青山清吉。昭和13年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「新標準英文問答百日通」(春明書店編輯部編。上海・春明書店。民國廿七年刊。88P)。
"	"	〔書〕「日廈會話」(臺灣總督府文教局學務課編,台灣總督府文教局。昭和13年刊。306P)。
"	"	〔書〕「簡易廣東語會話」(民國鄭兆麟編,東京・文求堂。昭和13年刊112P)。
"	"	〔書〕「支那語會話 初級編」(矢野藤助著,東京・尚文堂。昭和13年刊。76P)。
"	"	〔書〕「暑假游記(登嶽紀行)」(岡千刃(鹿門)著。昭和13年刊。孔版。1冊)。

西 曆	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	〔書〕「雪泥鴻爪 3巻」(岡千刃(鹿門)著。昭和13年刊。孔版。3冊)。
"	"	〔書〕「長篇言情小説怨鳳啼鳳 2巻」(民国張恨水著,奉天・中央書店滿洲康德五年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「春風楊柳」(滿洲方奈何著,大連・商業書局。昭和13年刊。278P)。
"	"	〔書〕「青鳥集」(民国蘇雪林著,商務印書館。民国廿七年刊。「現代文藝叢書」。274P)。
"	"	〔書〕「江水集」(滿洲徐漪著,哈爾濱,商務印書館。滿洲康德五年刊。257P)。
"	"	〔書〕「初等日本語読本(巻一〜巻四)」(在滿日本教育会教科書編輯部編)。
"	"	〔書〕「現代速成日語會話教科書」(華永高。民国廿七年)。
"	"	〔書〕「山下先生還曆記念東洋論文集」。
"	"	〔書〕「東亜連盟論」(宮崎正義)。
"	"	〔書〕「朝鮮殖産銀行廿年志」(守屋徳夫)。
"	"	〔書〕「京城府税制一斑」。
"	"	〔書〕「京城府の財政」。
"	"	〔書〕「京城府土木事業概要」(京城府)。
"	"	〔書〕「京城勸業一斑」。
"	"	〔書〕「平安北道史」(平安北道編)。
"	"	〔書〕「半島の近影」(朝鮮総督府鐵道局)。
"	"	〔書〕「協和会の概貌」(呂作新。康德五年)。
"	"	〔書〕「政府施政方針並ニ特殊会社事業方針」(滿洲帝国協和会。康德五年)。
"	"	〔書〕「滿洲国及北支の金銀及砂金」(小山一郎)。
"	"	〔書〕「北滿鐵道背後地圖調査統計篇(地方中心市場)」(滿鉄)。
"	"	〔書〕「滿洲移民の現状と百万戸移民計画(他十點)」(拓南局)。
"	"	〔書〕「新民会指導要綱」(中華民國新民会中央指導部。民国廿七年)。
"	"	〔書〕「新支那現勢要覽」(東亜同文会)。
"	"	〔書〕「支那各省經濟事情(上・中・下)」(赤松祐之)。
"	"	〔書〕「対支經濟政策ノ或基本問題」(齊藤良衛)。
"	"	〔書〕「支那財政經濟論」(小林幾次郎)。
"	"	〔書〕「E・カン・戦時下支那の貿易・金融」(森沢昌輝訳)。
"	"	〔書〕「中国の西北角」(長江松枝茂夫訳)。
"	"	〔書〕「支那農業論(上下巻)」(三輪孝加藤健郎訳)。

西 暦	年 代	項 目
1938	"	〔書〕「現代支那の土地問題」(中国農村經濟研究会編)。 堀江邑一訳
"	"	〔書〕「韃靼」(衛藤利夫)。
"	"	〔書〕「支那正史(全三冊)」(高山洋吉)。
"	"	〔書〕「支那及び支那人」(村上知行)。
"	"	〔書〕「北方大港事情(謄)」(満鉄北支事務所)。
"	"	〔書〕「北支那經濟綜観」(満鉄産業部編)。
"	"	〔書〕「支那棉花の問題」(国松文雄・岩田弥太郎訳)。
"	"	〔書〕「茶道支那行脚」(後藤朝太郎)。
"	"	〔書〕「北支・シベリア・蒙古」(佐藤 弘編)。
"	"	〔書〕「台湾の産業」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「第十六次(昭和十一年)台湾商工統計」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「高雄州下農家実行組合の概要(台湾)」(竹本伊一郎)。
"	"	〔書〕「台北市統計書(昭和13年)」(市役所)。
"	"	〔書〕「農家実行小団体の現況と指導奨励計画」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「台湾農業倉庫事業成績統計」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「拓けゆく内南洋」(佐々木喬)。
"	"	〔書〕「インドの叫び」(ボース・ラスビハリ)。
"	"	〔書〕「世界植民地の資源と經濟」(益田直彦)。
"	"	〔書〕「アイヌ英和辞典(第四版)」(ジョン・バラー, 岩波書店)。
"	"	〔書〕「Tatewaki's Short Cut to Japanese Conversation for beginners」(帯刀要哉)。
"	"	〔書〕「言語地理学」(ドーザー著, 松原秀治訳, 改訳昭和33年, 「フランス言語地理学」と改題)。
"	"	〔書〕「尋常 小学 国語教材とその語法」(今泉忠義, 白帝社)。
"	"	〔書〕「読本の語法(国語構造要説)」(鶴田常吉, 晃文社)。
"	"	〔書〕「明治以降教育制度発達史」(教育史編纂会編, ~'39年3月。 12巻)。
"	"	〔書〕「最近の教育哲学」(長田新)。
"	"	〔書〕「教育現象学」(伏見猛弥)。
"	"	〔書〕「各科教授案の研究」(広島高等師範学校附属中学校)。
"	"	〔書〕「教育断想」(篠原助市)。
"	"	〔書〕「新学習指導要論」(石山脩平)。
"	"	〔書〕「生活・科学・教育」(中村清二)。
"	"	〔書〕「先づ教育を革新せよ」(野口援太郎)。
"	"	〔書〕「現下の教育問題」(小川正行)。
"	"	〔書〕「日本教育への反省」(檜崎浅太郎)。
"	"	〔書〕「新興報徳教育」(加藤仁平)。

西 暦	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	〔書〕「新撰実業修身書(全五冊)」(亙理章三郎)。
"	"	〔書〕「近衛戦時内閣に叫ぶ」(竹村公孝)。
"	"	〔書〕「現代教育の革新」(竹村公孝)。
"	"	〔書〕「時局と教育的対策」(佐々木秀一)。
"	"	〔書〕「国民教育の諸問題再検討」(佐藤熊治郎)。
"	"	〔書〕「集団勤労の本質及方案」(岡田怡川)。
"	"	〔書〕「親と子の為に語る」(名取夏司)。
"	"	〔書〕「教育審議会諮問第一号整理委員会議事録」。
"	"	〔書〕「特別委員会(一〜二十輯)」。
"	"	〔書〕「高等学校高等科改正教授要目の趣旨」(文部省)。
"	"	〔書〕「附高等学校高等科改正教授要目」。
"	"	〔書〕「愛媛県教育史(前編)」。
"	"	〔書〕「津市文教史要」。
"	"	〔書〕「函館教育年表」(函館教育会)。
"	"	〔書〕「附引用資料目録」。
"	"	〔書〕「熊本高等工業学校沿革史」(熊本高等工業学校)。
"	"	〔書〕「師範学校法令の沿革」(文部省)。
"	"	〔書〕「京都師範学校沿革史」。
"	"	〔書〕「学寮史」(山形高等学校学寮史編集委員会)。
"	"	〔書〕「習学寮史(五高)」(習学寮史編集会)。
"	"	〔書〕「幼児の精神」(千葉胤成)。
"	"	〔書〕「女子公民教本(上・下巻)」(田中寛一)。
"	"	〔書〕「堀江季雄」。
"	"	〔書〕「新制準拠」。
"	"	〔書〕「昭和女子教育学校教授資料」(小西重直)。
"	"	〔書〕「帝塚山文集(四冊)」(児童生活研究会編輯。〜昭和17年)。
"	"	〔書〕「小学教育論」。
"	"	〔書〕「新日本教育の建設」(野瀬寛顕)。
"	"	〔書〕「学校教育学」(山極真衛)。
"	"	〔書〕「学校訓育の具体的研究」(茨城県初等教育連合研編)。
"	"	〔書〕「創立三十周年記念誌」(奉天敷島尋常小学校)。
"	"	〔書〕「青年学校経営」(山口啓市)。
"	"	〔書〕「青年教育の革新」(栗原美能留)。
"	"	〔書〕「社会教育の革新」(樋上亮一)。
"	"	〔書〕「現代文化と国民教育」(シュブランガー)。
"	"	〔書〕「小塚新一郎訳」。
"	"	〔書〕「国民総動員に直面しての」。
"	"	〔書〕「国民教育の理論的反省」(佐藤熊次郎)。
"	"	〔書〕「東京市内小学校卒業」。
"	"	〔書〕「児童就職事情調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「各教科の自己法則」(総論)」(佐藤熊次郎)。
"	"	〔書〕「性と教授の要諦」。
"	"	〔書〕「新渡戸先生講演」(高木八尺編)。
"	"	〔書〕「衣服哲学」。
"	"	〔書〕「数学方法論」(伊藤至郎)。
"	"	〔書〕「綴方教室」(清水幸治・他)。
"	"	〔書〕「読方教育実践諸問題」(徳田 進)。
"	"	〔書〕「健康教育原論」(ターナー)。
"	"	〔書〕「高橋喜一訳」。
"	"	〔書〕「増訂 実際の個性調査法」(守田 保)。

西 暦	年 代	項 目
1938	"	〔書〕「形象理論と国語教育」(西原慶一編)。
"	"	〔書〕「書方教授の実際的新主張」(水戸部寅松)。
"	"	〔書〕「教育書道の理論と実際」(石橋啓十郎)。
"	"	〔書〕「児童心理学」(安倍三郎)。
"	"	〔書〕「新法律の解説(自73~80議会)」(法学協会。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「法学評論(上下)」(小野清一郎)。
"	"	〔書〕「朝鮮司法協会決議回答輯録(続)」。
"	"	〔書〕「イギリス証拠法研究」(峰岸治三)。
"	"	〔書〕「教養と文化の基礎」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「独裁政と法律思想」(高柳賢三)。
"	"	〔書〕「事変下に於ける物資 3, 5~9」(商工経営研。~昭和15年)。 非常管理法令集 及13集
"	"	〔書〕「法律に於ける思想と論理(牧野先生還暦祝賀)」。
"	"	〔書〕「佐々木博士還暦祝賀記念」(佐々木博士還暦祝賀会)。
"	"	〔書〕「牧野教授還暦祝賀刑事論集」(小野清一郎)。
"	"	〔書〕「山下先生 還暦記念 東洋史論文集」(榎溪会)。
"	"	〔書〕「日本文学論攷」(垣内先生還暦記念会編)。
"	"	〔書〕「ジュリオ・ドラ・モランデリエール・現代法の諸問題」(日本仏語法曹会)。
"	"	〔書〕「国司制度崩壊に関する研究」(吉村茂樹)。
"	"	〔書〕「帝国憲法講義」(佐藤丑次郎)。
"	"	〔書〕「明治初年の立憲思想」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「行政法学概論(二巻)」(田村徳治)。
"	"	〔書〕「行政機構の基礎原理」(田村徳治)。
"	"	〔書〕「朝鮮行政法概要」(内田達孝)。
"	"	〔書〕「地方自治制の研究(1)」(渡辺宗太郎)。
"	"	〔書〕「英国自治制度の研究」(小川市太郎)。
"	"	〔書〕「自治制発布五十周年記念論文集」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「都市と農村」(藤田宗光)。
"	"	〔書〕「健康都市の建設 — 第二回都市美協議会研究論双 —」(大阪都市協会)。
"	"	〔書〕「都市計画概要」(朝鮮総督府内務局)。
"	"	〔書〕「欧州大戦と住宅問題」(大阪市社会部)。
"	"	〔書〕「神戸市復興委員(第一回~八回)」。 会議事速記録

西 暦	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	〔書〕「水の法律」(安田正鷹)。
"	"	〔書〕「森林法律学」(池野勇一)。
"	"	〔書〕「郵便法論」(奥村喜和男)。
"	"	〔書〕「経済警察は斯く取締る」(読売新聞)。
"	"	〔書〕「日本学としての日本国家学」(佐治謙讓)。
"	"	〔書〕「帝室制度史(全六巻)」(帝国学士院。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「紀元二千六百年(一~三巻)」(内閣紀元二千六百年祝典事務局。 ~昭和15年)。
"	"	〔書〕「建国明治・大正・昭和 勅語詔書精義」(菰田萬一郎)。
"	"	〔書〕「古事記神代篇の正しき解釈」(二木謙三)。
"	"	〔書〕「皇道と徳育」(荻原 拓)。
"	"	〔書〕「創立二十周年記念誌」(斯文会長岡支部)。
"	"	〔書〕「国体の本義と基督教の神髄」(日野真澄)。
"	"	〔書〕「農本維新論」(佐藤慶次郎)。
"	"	〔書〕「政治統制論」(今中次磨)。
"	"	〔書〕「日本政治思想研究」(内田繁隆)。
"	"	〔書〕「ヒューマニズムの政治思想」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「ファシズム論」(^{バーム・ダット} 松原宏訳)。
"	"	〔書〕「吉野朝の越後勤王史」(斉藤秀平)。
"	"	〔書〕「明治初年の立憲思想」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「昭和十・十一年ニ於ケル 社会運動ノ状況」(内務省警保局)。
"	"	〔書〕「魂を吐く」(中野正剛)。
"	"	〔書〕「総動員」(飯沢章治)。
"	"	〔書〕「全ソ連盟共産党史(上・下)」(外務省)。
"	"	〔書〕「亜細亜民族の研究」(須山 卓)。
"	"	〔書〕「シーボルト研究」(日独文化協会)。
"	"	〔書〕「勳功華族授爵表」(貴族院調査課)。
"	"	〔書〕「大名華族授爵表」(貴族院調査課)。
"	"	〔書〕「公家華族授爵表」(貴族院調査課)。
"	"	〔書〕「大陸外交の先駆山座公使」(長谷川峻)。

西 暦	年 代	項 目
1938	"	〔書〕「海老名弾正先生伝」(渡瀬常吉)。
"	"	〔書〕「菊地先生伝(中央大学)」(新井要太郎)。
"	"	〔書〕「竜城雜稿(弁護士)」(播磨辰次郎)。
"	"	〔書〕「山内喜之助氏遺稿集」(川上留吉編)。
"	"	〔書〕「柳沢論文集(畜産論)」(柳沢銀蔵)。
"	"	〔書〕「男爵団琢磨伝(上・下)」(同刊行会)。
"	"	〔書〕「岡本桜伝(瓦斯・工博)」(野依秀市)。
"	"	〔書〕「高橋長秋伝(肥後銀行頭取)」(千場栄次)。
"	"	〔書〕「木村長七自伝(古河鉱業)」(茂野吉之助)。
"	"	〔書〕「稻畑勝太郎君伝(関西財界)全二冊」(高梨光司)。
"	"	〔書〕「小松台文存(満鉄技術家)」(貝瀬謹吾)。
"	"	〔書〕「ウ・タント伝 — 平和を求めて — 」(^{ジューン・ビンガム} 鹿島平和研究所)。
"	"	〔書〕「蘇聯合同研究会議速記録(^{政治経済} 騰)(^{文化三冊} 外務省)。
"	"	〔書〕「ソ聯邦ノ支那事変観」(満鉄調査部)。
"	"	〔書〕「戦争・外交・建国の憶い出」(^{エドワルド・ベネシ(チェコ)} 石川 湧)。
"	"	〔書〕「国際日本の地位」(白鳥敏夫)。
"	"	〔書〕「国際読本(一〜十巻)九冊」(外務省)。
"	"	〔書〕「クラウゼヴィッツの戦争論」(^{森 五六序} 大久保康雄訳)。
"	"	〔書〕「日本経済の軍事的態勢」(小浜重雄)。
"	"	〔書〕「戦争と経済総動員」(^{ベルリン景気研究所} 宮西義男)。
"	"	〔書〕「ソ聯・英・米・仏侵略の跡を顧みて」(小玉興一)。
"	"	〔書〕「富国徴兵発達史」(^{天野強三郎} 島田信三)。
"	"	〔書〕「情勢宣伝研究資料(七冊)」(内閣情報部)。
"	"	〔書〕「イギリス証拠法研究」(峯岸治三)。
"	"	〔書〕「犯罪論序説」(滝川幸辰)。
"	"	〔書〕「レンツ犯罪生物学原論」(吉益脩夫)。
"	"	〔書〕「少年保護要論」(谷 貞佑)。
"	"	〔書〕「司法保護事業の動向 九〜十六輯」(全日本司法保護事業連盟)。
"	"	〔書〕「情死・親子心中に対する」(^{医学的考察} 小峰研究所)。
"	"	〔書〕「實用法医学(増訂六版)」(小南又一郎)。
"	"	〔書〕「民法要義(全篇)」(近藤英吉)。
"	"	〔書〕「概説民法第七拾七条」(土生滋穂)。
"	"	〔書〕「相続法論(上下)」(近藤英吉)。
"	"	〔書〕「判例遺言法」(近藤英吉)。

西 暦	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	〔書〕「家族制度全集(全十巻)」(中川善之助)。
"	"	〔書〕「全国 ^{戸籍寄留} 事務協議会決議総覧」(古仙常吉他)。
"	"	〔書〕「訴訟法学の諸問題(一卷)」(訴訟法学会)。
"	"	〔書〕「不動産 ^{任意競売} 強制執行記録註解(上下)」(坂本藹夫他)。
"	"	〔書〕「強制執行法論」(谷井辰蔵)。
"	"	〔書〕「強制執行法論」(小野木 常)。
"	"	〔書〕「あらゆる ^{種類の} 訴と其裁判(上下)」(尾高武治)。
"	"	〔書〕「判例競売法」(金 澄)。
"	"	〔書〕「破産理論の研究」(小野木 常)。
"	"	〔書〕「判例不動産法の研究」(浅井清信)。
"	"	〔書〕「経済的需要と商事判例」(西原寛一)。
"	"	〔書〕「商事判例回顧」(小町谷 伊吹)。
"	"	〔書〕「改正商法総則概論」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「日本新会社法(上・下巻)」(佐々 穆)。
"	"	〔書〕「株式会社発生史論」(大塚久雄)。
"	"	〔書〕「国策と株式 — 附第七十三議会通過重要法律集 — 」(山一証券)。
"	"	〔書〕「株券法論(上巻)」(寺尾元彦)。
"	"	〔書〕「海上保険特殊問題」(藤本幸太郎)。
"	"	〔書〕「小切手実体論」(畝川元夫)。
"	"	〔書〕「財政学原理」(土方成美)。
"	"	〔書〕「財政学新講」(北崎進)。
"	"	〔書〕「日本財政政策」(汐見三郎)。
"	"	〔書〕「国家財政の戦備と作戦」(ゼー・リーサー 石井 忠訳)。
"	"	〔書〕「英国議会における予算案審議の次第」(大蔵省主計局)。
"	"	〔書〕「産業組合政策と課税問題」(本位田祥男)。
"	"	〔書〕「間接税の研究」(松野賢吾著)。
"	"	〔書〕「近世の産業と両替商金融」(金融研究会)。
"	"	〔書〕「野村銀行二十年史」。
"	"	〔書〕「朝鮮殖産銀行二十年志」(同銀行)。
"	"	〔書〕「社会学論研究(増補版)」(岩崎卯一)。
"	"	〔書〕「帝国議会農村問題年報」(森 徳久編著)。
"	"	〔書〕「日本に於ける農村問題」(稲村隆一)。
"	"	〔書〕「農村部落生活調査(実態編 概説論)」(農林省)。
"	"	〔書〕「農民離村の研究(有馬頼寧 稲田昌植)」。
"	"	〔書〕「日本精神に基く優秀村の建設」(香月秀雄)。

西 暦	年 代	項 目
1938	"	〔書〕「分村計畫の樹て方」(長野県厚生協会)。
"	"	〔書〕「銃後の護り勤勞奉仕施設の概況」(山梨県経済部)。
"	"	〔書〕「農山漁村 銃後対策協議会要録」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「戦時下農村の諸問題 — 勞働力移動を中心として —」(大谷省三)。
"	"	〔書〕「戦時体制下の農村対策」(助川啓四郎)。
"	"	〔書〕「増訂 社会事業綱要」(生江孝之)。
"	"	〔書〕「合衆国に於ける社会事業教育に就て」(大阪市社会部)。
"	"	〔書〕「米国に於けるスラムと其の対策」(大阪市社会部)。
"	"	〔書〕「最近制定の社会関係法規集録」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「軍事援護事業概況(第2輯)」(厚生省)。
"	"	〔書〕「標準生活の研究」(榊原平八)。
"	"	〔書〕「善き隣人(二卷) — 方面委員制度の史跡 —」(村島焜之)。
"	"	〔書〕「(救癪手記)小島の春」(小川正子)。
"	"	〔書〕「静岡県体育衛生概要」(静岡県)。
"	"	〔書〕「国民生活と国民體位」(岡崎文規)。
"	"	〔書〕「職業婦人に関する調査」(大阪市社会部)。
"	"	〔書〕「小学校卒業児童就職事情調査」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「国民精神総動員と基督者」(釘宮辰生)。
"	"	〔書〕「ヒットラーと青年」(^{二荒芳徳} _{大日方 勝})。
"	"	〔書〕「ヒトラー・ユーゲント」(報知新聞社通信部)。
"	"	〔書〕「和英 印刷・書誌百科辞典」(日本印刷学会)。
"	"	〔書〕「旧萩藩非常用貯蓄金穀」(三輪為一)。
"	"	〔書〕「東京帝室博物館復興開館陳列目録 漆工・調度金工・武具・刀劍・陶瓦・彫刻(4冊)」(帝室博物館)。
"	"	〔書〕「戦時戦後の労働政策」((財)協調会)。
"	"	〔書〕「労働統計論」(水谷良一)。
"	"	〔書〕「工場ニ於ケル戦時対策 (其ノ一)女工ノ使用(其ノ二)交替制度」(商工省生産管理委員会)。
"	"	〔書〕「最近に於ける我国労働市場の状況」(協調会)。
"	"	〔書〕「産業心理学」(桐原葆見)。
"	"	〔書〕「工場内福利施設に関する研究」(大塚一朗)。
"	"	〔書〕「昭和十一年度失業者 更生訓練施設概要」(厚生省社会局)。
"	"	〔書〕「東京市中央職業紹介事業要覧」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「職業別産業上ノ地位年令別人口」(大阪府職業課)。
"	"	〔書〕「職業指導と労務輔導」(桐原葆見)。

西 暦	年 代	項 目
1938	(昭和13年)	〔書〕「東北振興史(上・中・下巻)」(浅野源吾。～昭和15年)。
"	"	〔書〕「技術史」(榎本セツ)。
"	"	〔書〕「科学的人生観」(江原小弥太)。
"	"	〔書〕「鉄鋼及非鉄鋼金属ノ統制ニ関スル資料」(日本商工会議所)。
"	"	〔書〕「内外地塩業調査書」(専売局)。
"	"	〔書〕「新竹州水利概況(台湾)」(新竹州水利組合)。
"	"	〔書〕「農本維新論」(佐藤慶治郎)。
"	"	〔書〕「日支事変下農山漁村実態調査報告」(企画院産業部)。
"	"	(第三輯)(財政問題)
"	"	〔書〕「戦後農村対策専門委員会日誌(一月～七月)」(中央農林協議会)
"	"	〔書〕「事変下に於ける農家経済」(石川県農会)。
"	"	〔書〕「最近に於ける農業動産信用法 に依る貸出状況に関する調査」(日本勧業銀行)。
"	"	〔書〕「農業経済学(上・下)」(リアシチエンコ)。
"	"	直井武夫訳
"	"	〔書〕「本年の豪雪に因る農作物其他被害状況」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農村工業地理」(尾原信彦)。
"	"	〔書〕「農村の機械工業」(大河内正敏)。
"	"	〔書〕「善光寺平農業水利改良事業沿革史」(長野県経済部)。
"	"	〔書〕「時局下に於ける農業労働力等(暦)」(農林省)。
"	"	〔書〕「事変下ニ於ケル 農山漁村労働力調整対策」(東海四県経済 更生連絡委員会)。
"	"	〔書〕「勤労奉仕計画樹立指針」(岩手県)。
"	"	〔書〕「勤労奉仕実績調」(長野県経済部)。
"	"	〔書〕「主要経営要素の労力調査 — (附収支の概要) —」(福井県農会)。
"	"	〔書〕「労力移動班の組織と活動」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「岩手県に於ける馬小作に関する調査」(馬政局)。
"	"	〔書〕「事変下ニ於ケル物資供給ノ 変化ト農村経営」(大分県)。
"	"	〔書〕「実行小組合指針」(愛媛県農会)。
"	"	〔書〕「第73議会に於いて制定せられたる 農林関係法律」(中央農林協議会)。
"	"	〔書〕「初等中等諸学校の学林」(農林省山林局)。
"	"	〔書〕「海外水産問題」(農林省水産局)。
"	"	〔書〕「漁村に輝く人々」(水産学校長協会編)。
"	"	〔書〕「牛馬移動ニ関スル調査」(富山県経済部)。
"	"	〔書〕「二十億人のパン — 世界の食糧栄養問題 —」(救仁郷繁 A・チンユカ)。
"	"	〔書〕「全国主要都市に於ける 農産物卸売価格調査」(帝国農会)。

西 暦	年 代	項 目
1939	(昭和14年)	
"	1・1	〔日〕 1月1日現在、南京における日語状況(市立小学校25校、児童5980人、私立小学校不明、児童数2897人、寺小屋式私塾不明、児童数1200人、合計10,077人)。
"	"	国民党、汪兆銘を永久除名。
"	1・4	近衛内閣総辞職。
"	1・5	平沼騏一郎内閣成立、近衛、無任相として留任、有田外相留任。
"	1・6	独外相、三国同盟を正式提案。
"	1・10	陸軍、内閣に今後の支那事変処理は興亜院を中心にと要望。
"	1・12	〔書〕「日本語教本 巻二」(台湾総督府文教局学務課)。
"	1・15	陝甘寧辺区、第一回参議会(延安)。
"	1・17	閣議、生産力拡充計画要綱を決定。
"	1・19	5相会議、三国同盟案に関し、日独伊相互武力援助は、ソ連のみを対象とし第三国は状況により対象とするとの妥協方針を決定。
"	1・20	重慶で国民党五中全会開く(～1月29日。反共強化に向かう)。2月、国民党、「異党活動制限弁法」(反共法)を秘密裏に制定(6月実施)。
"	"	国際連盟理事会、援蔣決議採択。
"	"	〔書〕「日本語の研究」(兼常清佐、中央公論社)。
"	1・26	フランコ軍、バルセロナを占領。
"	1・28	〔教〕 東京帝大総長平賀譲、経済学部河合栄治郎・土方成美両教授の休職処分を文相に上申、1月31日河合教授を、2月13日土方教授を休職処分(平賀肅学)。
"	1・	〔日〕 新京法政大学・新京工鉱技術院・奉天工鉱技術院開校。哈爾賓学院大学昇格。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四三八号)。 (同上)「漢字の筆順」(坂本竹喜)。 (「」)「公学校用国語読本巻一より巻四に至る母性愛教材とその教育」(辻武夫)。
"	"	〔書〕「日語講座第一輯」(高盛明)、大陸新報社。民国廿八年一月初版)
"	"	〔書〕「台北市児童の方言」(斎藤義七郎、「国語研究」)。
"	"	〔書〕「歳時習俗語彙」(柳田国男編、民間伝承の会刊、岩波書店発売)。

西 暦	年 代	項 目
1939	1・	〔書〕「和漢故事成語辞典」(国漢学院編,大洋社)。
"	"	〔書〕「『東亜共同体』の理念とその成立の客観的基礎」(尾崎秀実,「中央公論」。このころ,東亜共同体論盛ん)。
"	"	〔書〕「藻玉堂書目 第2期」(北京・藻玉堂。1冊。民国廿八年一月)。
"	"	〔書〕「新民週刊 第16期」(新民会。週刊。民国廿八年一月)。
"	"	〔書〕「業務資料 第6巻1号」(満洲電信電話株式会社考査課編,満洲電信電話株式会社。月刊。昭和14〔康德六〕年1月)。
"	2・7	ロンドンでパレスチナ円卓会議ひらく(～3月17日)。アラブ諸国代表・ユダヤ代表,それぞれ別個に英政府と協議。
"	2・9	政府,「国民精神総動員強化方策」を決定。3・28「国民総動員官制」〔勅令〕公布。
"	2・10	日本軍,海南島上陸。
"	"	〔書〕「日文補充読本 巻四」(北京近代科学図書館編集部)。
"	2・11	〔書〕「教養文庫」(弘文堂)刊行開始。
"	"	第一期第三次国民参政会(～21日)。
"	2・15	〔日〕財団法人日語文化協会設立許可(設立者阪谷芳郎)。
"	2・18	〔教〕「明倫専門学院規程」〔朝鮮総督府令第十三号〕(「明倫専門学院規程左ノ通定ム 明倫専門学校規程 第一条 明倫専門学院ハ皇国精神ニ基キ儒学ヲ研鑽シテ国民道德ノ本義ヲ闡明シ忠良有為ナル皇国臣民ヲ養成スルコトヲ以テ目的トス 明倫専門学院ハ之ヲ経済学院ニ附置ス 第二条 明倫専門学院ニ本科及研究科ヲ置ク 本科ノ修業年限ハ三年,研究科ノ研究期間ハ二年以上トス 明倫専門学院ハ随時講習会ヲ開催スルコトヲ得 第三条 明倫専門学院本科ノ学科目ハ国民道德,経学,儒学史,支那哲学,支那文学,国語,国史,社会教育,体操,教練及支那語トス明倫専門学院研究科ノ研究科目ハ経学,子学,支那哲学,支那文学,支那史学及作詩文トシ其ノ中ニ就キ生徒ヲシテ之ヲ選択セシム 明倫専門学院ハ朝鮮総督ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ学科目又ハ研究科目ヲ加フルコトヲ得 第四条 明倫専門学院ハ学則ヲ定メ朝鮮総督ノ認可ヲ受クベシ 第五条 明倫専門学院ハ生徒ヨリ授業料ヲ徴収スルコトヲ得ズ 第六条 明倫専門学院ノ生徒数ハ本科九十人,研究科二十人ヲ以テ定ムトス 附則 本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」)。
"	2・21	汪兆銘派の高宗武,日中和平案を携行して長崎着。
"	2・22	〔国〕「電気関係標準用語」,内閣より告示。
"	2・24	満洲国・ハンガリー,日独伊防共協定参加に関する議定書調印。
"	"	国民党,「異党活動制限弁法」(反共法)を秘密裡に制定(6月発令)。

西 暦	年 代	項 目
1939		
"	2・24	〔書〕「皇民化運動と産業報国」（永田城大編纂，実業之台湾社）。
"	2・25	〔書〕「小学読方叢書 小学校における言語の教育」（大槻芳広，小学出版社）。
"	2・27	英・仏，フランコ政権を承認。
"	2・	〔国〕 国語審議会より「仮名遣改定に関する諸案集成」発表。
"	"	〔日〕 信陽日本語学校創設（校長藤田警備隊長ほか）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四三九号）。 （同上）「残された国語問題」（南真穂）。 （"）「入学試験の作文答案を見て」（小山朝丸）。
"	"	〔書〕「綜合漢和辞典」（小柳司気太著，博文館）。
"	"	〔書〕「婦女雑誌 第2巻2，3号」（満洲王霊嫺編，奉天。婦女雑誌社。月刊。満洲康德六年二～三月）。
"	3・3	海軍航空隊，重慶を爆撃，以後反復爆撃。
"	3・4	大陸開拓文芸懇話会結成式。4月25日国策ペン部隊，満洲へ出発。
"	3・8	英国，中国と法幣安定借款（1000万ポンド）協定調印。
"	3・9	「兵役法」改正〔法律〕公布（兵役期間延長，短期現役制廃止）。
"	3・12	〔書〕「北部台湾に於て福建系本島人の使用するアクセント研究」（寺川喜四男，早稲田大学言語学会）。
"	3・15	ドイツ，ボヘミア・モラビア占領。
"	3・16	ヒトラー，プラハでボヘミア・モラビアのドイツ保護領化を宣言（チェコスロバキアの解体）。
"	3・17	内閣に生産力拡充委員会設置（会長は企画院総裁）。
"	3・18	〔日〕「満州国ニ於ケル初等学校ノ在学者及卒業生ノ朝鮮内ノ学校ヘノ入学転学ニ関スル件」〔朝鮮総督府令第三十二号〕（「満州国ニ於ケル初等学校ノ在学者及卒業生ノ朝鮮内ノ学校ヘノ入学転学ニ関スル件」左ノ通定ム 第一条 在満学校組合令ニ依ル学校組合ノ設立シタル普通学校ノ児童及卒業生ハ朝鮮教育令ニ依リ設置シタル学校ヘノ入学転学ノ関係ニ付修業年限ノ相当スル小学校ノ児童及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受ク 第二条 満州国ノ法令ニ依リ設置シタル国民学校ニシテ朝鮮総督ノ指定スルモノノ学生及卒業生ハ朝鮮教育令ニ依リ設

西 暦	年 代	項 目
1939		置シタル学校へノ入学転学ノ関係ニ付修業年限四年ノ尋常小学校ノ児童及卒業 者ト同一ノ取扱ヲ受ク 第三条 満洲国ノ法令ニ依リ設置シタル国民優級学校ニ シテ朝鮮総督ノ指定スルモノノ学生及卒業者ハ朝鮮教育令ニ依リ設置シタル学 校へノ入学転学ノ関係ニ付修業年限六年ノ尋常小学校ノ児童及卒業者ト同一ノ 取扱ヲ授ク」)。
"	3・21	ドイツ、ポーランドにダンチヒ割譲を要求。3月26日ポーランド拒絶。
"	"	汪兆銘襲撃され、腹心の曾仲鳴死亡。
"	3・23	ドイツ、リトアニアの強制的国家条約(3月22日)によりメーメル地方を占 領・合併。
"	3・25	「軍用資源秘密保護法」〔法律〕公布。
"	"	〔書〕「国語法大綱」(松尾捨次郎, 文学社)。
"	"	〔書〕「維新史」(維新資料事務局編。〜'41年12月20日。6冊)。
"	3・27	「文化的協力に関スル日本国伊太利国間協定」〔条約第三号, 公布昭和十四 年三月二十八日〕(「日伊文化協定」)。
"	"	フランコ政権, 日独伊防共協定ニ加入。
"	3・28	フランコ軍, マドリッドに入る(スペイン内乱終わる)。4月1日米国, フ ランコ政権ヲ承認。
"	3・29	東方会, 議会行動の解消, 国民運動に直進を申し合わせ, 4月4日院内団体 解消。
"	"	南昌陥落。
"	3・30	〔教〕 文部省, 大学における軍事教練を必修とすることを通達。
"	3・31	〔教〕 名古屋帝国大学を設置〔勅令〕(名古屋医大を医学部とし, '40年 4月1日理工学部開設)。
"	"	英首相チェンバレン, 英仏の対ポーランド援助を保障。4月6日英仏, 対ポ ーランド相互援助条約を声明。8月24日調印。
"	3・	米国, 中国と軍用機・発動機購入用の1500万ドル借款契約調印。
"	"	〔日〕 ブラジルにおける3月現在の日本人小学校486。
"	"	〔書〕「中國人日本留學史稿」(実藤恵秀著, 砂田實編, 東京・日華學會。 昭和14年3月刊。368P)。
"	"	〔書〕「現代標準日語初階」(顧梵, 上海中央書店, 民国廿六年初版, 民 国廿八年三月改訂再版)。
"	"	〔書〕「日語教程上巻」(史墳・黄鑑樹, 維新政府綏靖軍官学校, 民国廿 八年三月初版)。
"	"	〔書〕「日語教程中巻」(史墳, 黄鑑樹, 維新政府綏靖軍官学校, 民国廿

西 暦	年 代	項 目
1939		八年三月初版)。
"	3・	〔書〕「日語教程下巻」(史垣・黄鑑樹, 維新政府綏靖軍官学校, 民国廿八年三月初版)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本を中心とする総合的取扱の実際巻一, 二」(台南師範附属公学校研究部, 台南・台西師範学校)。
"	"	〔書〕「国語発達史大要」(今泉忠義, 白帝社)。
"	"	〔書〕「最新英作文法辞典」(小山桂一郎, 尚学社。「A New Dictionary of English Grammar & Composition」)。
"	"	〔書〕「経済警察辞典」(夏目義明, 松永信夫共著, 松華堂書店)。
"	"	〔書〕「最新中華民国満洲帝国人名地便覧」(タイムス出版社編。刊)。
"	"	〔書〕「日華実用辞典」(呉主恵著, 文求堂。付録「日華外来語新語辞典」)。
"	"	〔書〕「新満洲 第1巻3号」(満洲王光烈編, 新京・満洲凶書。月刊。満洲康德六年三月)。
"	"	〔書〕「新中國 第2巻2〜4期」(大民會宣傳部編, 南京・大民会。月刊。民国廿八年三月〜六月)。
"	"	〔書〕「満洲教育 第5巻3号」(満洲道謁民編, 満洲帝國教育会。月刊。満洲康德六年三月)。
"	"	〔書〕「社會月刊 第1巻3号〜3巻1号」(上海特別市社會局第一科編纂股編, 上海・特別市社会局。月刊。民国廿八年三月〜廿九年一月)。
"	"	〔書〕「大民會報 第3〜11期」(南京・大民会総本部。半月刊。民国廿八年三〜七月)。
"	"	〔書〕「拓植教科書」(全国農業学校長協会編, 東京農業凶書刊行会)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四四〇号)。 (同上)「巻頭言 三たび日本語の海外進出に就いて」。
"	4・1	「国境取締法」〔法律〕公布。
"	"	興亜院会議, 汪兆銘工作への資金援助決定。
"	"	満洲国, 「陸軍軍官学校規則」制定。
"	"	米, フランコ政権承認。
"	4・2	駐伊大使白鳥敏夫, 伊外相に対英仏戦の場合も参戦と言明。4月3日駐独大使大島浩, 独外相に同様言明。
"	4・4	〔教〕文部省, 大学予科・高等学校の教科書認可制を強化。この日, ハーディー「テス物語」など24冊を却下。
"	4・5	映画法〔法律〕公布(脚本事前検閲, 製作数制限。10月1日施行)。
"	4・7	イタリア, アルバニアを占領・併合。国王ゾグ1世亡命(4月12日イタリ

西 暦	年 代	項 目
1939		アと同君連合)。
"	4・9	天津英租界で、天津海關監督程錫庚暗殺。5月31日日本、英総領事に期限付(6月7日)犯人引渡要求最後通牒。6月6日英国拒否。
"	4・10	陸軍美術会結成(会長陸軍大将松井岩根、藤田嗣治・中村研一ら)。
"	4・13	英・仏、ルーマニア・ギリシアへの援助保障を声明。
"	4・15	〔日〕満洲国民生部、「私立医科大学指定規則」公布。
"	4・17	華北交通(株)設立(資本金3億円。総裁宇佐美寛爾)。4月30日華中鉄道(株)設立(両社により中国占領地域の鉄道経営を支配)。
"	4・18	〔日〕満洲国民生部、「日本国在満学校組合並ニ朝鮮教育令ニ依リ設置シタル初等学校ノ在學生及卒業生ノ満洲国内学校ヘノ入学転学ニ関スル件」公布。
"	"	影佐大佐、犬養健、矢野外務書記官、ハノイで汪兆銘と会見。脱出を計画。
"	4・20	〔教〕「朝鮮総督府中堅青年修練所規程」〔朝鮮総督府令第五十九号〕(「朝鮮総督府中堅青年修練所規程左ノ通定ム 朝鮮総督府中堅青年修練所規程 第一条 朝鮮総督府中堅青年修練所ハ社会ノ指導的地位ニ立ツベキ青年男女ニ対シ堅実ナル国家觀念ト鞏固ナル国民的信念ヲ涵養シ皇国臣民タルノ矜持ヲ確保セシメ社会指導ノ中堅人物トシテ活動スベキ資質ヲ練成スルヲ以テ目的トス」)。
"	"	〔教〕「朝鮮総督府教学研修所規程」〔朝鮮総督府令第六十号〕(「朝鮮総督府教学研修所規程左ノ通定ム 朝鮮総督府教学研修所規程 第一条 朝鮮総督府教学研修所ハ学校教員ニ対シ国体ノ本義ニ基ク皇国臣民教育ノ真髓ヲ会得セシメ師道ノ振興及教学ノ刷新ヲ図ルヲ以テ目的トス 第五条 本所ニ於ケル研修科目ハ国民科、師道科及修練科トス 第六条 国民科ハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ国体ノ本義ヲ闡明シ皇国ノ道ニ徹セシムルト共ニ東亜及世界ニ於ケル皇国ノ使命ヲ体得セシメ国民的信念ヲ鞏固ナラシムルヲ以テ要旨トス 国民科ハ国体、日本精神、国民道德、国史、国際情勢、国防等特ニ国体觀念ヲ明徴ナラシムルニ必要ナル事項ニ付研修セシムベシ 第七条 師道科ハ皇国臣民教育者トシテノ教養ヲ深カラシメ時代ノ先覚タルノ修養ヲ積ミ教育ヲ以テ皇國ヲ翼賛スルノ信念ヲ養フヲ以テ要旨トス 師道科ハ教育精神、教育及教授法、教育思潮、日本教育史等師道ノ振興ニ必要ナル事項ニ付研修スベシ 第八条 修練科ハ実践ヲ通ジテ皇国臣民教育者タル心身ノ錬成ニカムルヲ以テ要旨トス 修練科ハ武道、体操、教練、行事、作業等日本精神及教育精神ノ昂揚ニ必要ナル事項ノ実践ニカムベシ 第九条 各研修科目ハ相互ニ聯絡補益シ且理論ト実践トノ聯繫合一ニ留意スベシ」)。
"	4・24	〔日〕「関東州小学校官制中改正」〔勅令第二百四十一号。公布昭和十四年

西 暦	年 代	項 目
1939		四月二十六日) (「関東州小学校官制中左ノ通改正ス 「関東州小学校」ヲ「関東小学校」ニ改ム)。
"	4・24	〔日〕「関東州公学堂官制中改正」〔勅令第二百四十二号。公布昭和十四年四月二十六日) (「関東州公学堂」ヲ「関東公学堂」ニ改ム)。
"	"	〔日〕「関東州学校職員任用ニ関スル件中改正」〔勅令第二百四十四号。公布昭和十四年四月二十六日) (「明治四十年勅令第五十一号中左ノ通改正ス 第一条中「関東州小学校」ヲ「関東小学校及関東州公立小学校」ニ改ム 第二条中「関東州公学堂」ヲ「関東公学堂及関東州公立公学堂」ニ改ム 附則 本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス)。
"	4・25	関東軍, 「満ソ国境紛争処理要綱」を示達(国境紛争に対する強硬方針)。
"	4・26	〔教〕 青年学校を義務制とする〔勅令) (満12歳以上, 19歳以下の男子)。
"	"	〔日〕「小学校支那語加設規程」〔関東局令第三十七号) (「小学校支那語加設規程左ノ通定ム 小学校支那語加設規程 第一条 関東師範学校附属小学校, 関東小学校及関東州公立学校ノ教科目ニ支那語ノ一科目ヲ加フ 支那語ハ特別ノ事情アル場合ニ限り関東小学校及関東州公立小学校ニ在リテハ市長又ハ民政署長ニ於テ関東州庁長官ノ, 関東師範学校附属小学校ニ在リテハ学校長ニ於テ満洲国駐劄特命全權大使ノ認可ヲ受ケ之ヲ随意科目ト為スコトヲ得 第二条 支那語ハ専ラ日常簡易ノ言語ヲ了解シ用務ヲ辦ズルノ能ヲ得シムルヲ以テ要旨トス 高等小学校ニ於テハ前項ニ準ジ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授ケ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及語句ノ読ミ方, 書き方, 綴リ方ヲ知ラシムベシ 第三条 支那語ノ教授程度及毎週教授時数ハ左表ニ依ル(左表省略) 第四条 前条支那語ノ毎週教授時数ハ便宜他ノ教科目ノ毎週教授時数ヲ斟酌シ関東小学校又ハ関東州公立小学校ニ在リテハ関東州庁長官ノ認可ヲ受ケ市長又ハ民政署長之ヲ定メ関東師範学校附属小学校ニ在リテハ大使ノ認可ヲ受ケ学校長之ヲ定ム 附則 本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス 関東州小学校支那語加設規程ハ之ヲ廃止ス)。
"	"	〔日〕「関東州普通学堂日本人教員採用規則」〔関東局令第三十五号) (「関東州普通学堂日本人教員採用規則左ノ通定ム 関東州普通学堂日本人教員採用規則 第一条 関東州普通学堂ノ日本人タル教員ハ左ノ各号ノ一ニ該当スル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス 一 関東小学校又ハ関東州公立小学校ノ訓導タル資格ヲ有スル者 二 関東公学堂又ハ関東州公立公学堂ノ教諭タル資格ヲ有スル者 三 関東州長官ノ認可シタル者 第二条 関東州普通学堂ノ日本人タル学堂長ハ前条第一号又ハ第二号ニ該当スル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス 附則 本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ関東州普通学堂ノ日本人

西 暦	年 代	項 目
1939		タル学堂長及教員ハ本令ニ依リ採用セラレタルモノト看做ス」)。
"	4・28	ヒトラー、国会演説で独・ポーランド不可侵条約('34年)・英独軍協定('35年)廃棄を声明し、フランスによるアルザス・ロレーヌ領有を拒否。
"	4・29	南昌占領。
"	4・30	政友会革新派大会で、中島知久平、総裁に就任(政友会の分裂)。
"	4・	[日] 国民政府、教員養成所設立(南京)。
"	"	[日] 法政大学、専門部内に大陸部開設。
"	"	[日] 国語解者調〔4月末現在、公学校生徒数544632、同上卒業者累計605158、国語普及施設生徒数496531、同上修了者累計812139、合計2458460、本島人口5392806、国語解者百分比45.59〕。
"	"	[書]「台湾教育」(第四四一号)。 (同上)「児童心理からの話方教育」(素澄生)。
"	"	[書]「標準綜合日語」(史埴、黄鑑樹共著、南京日語叢書編輯所、民国廿八年四月初版)。
"	"	[書]「日文自修読本」(殷師竹、上海外語編訳社、民国廿八年四月初版)
"	"	[書]「日語百日通」(范天啓、百新書局、民国廿八年四月修正再版)。
"	"	[書]「日語講座第二輯」(高盛明、大陸新報社、民国廿八年四月初版)。
"	"	[書]「現代日語会話」(蕭劍青、語文編訳社、民国廿八年四月初版)。
"	"	[書]「新訂漢和中辞典」(幸田露伴監修、興文館)。
"	"	[書]「発音カナ付き新土木建築用語辞典 和英一英和对訳」(太陽堂編輯部編、太陽堂。「Taiyodo's Concise Dictionary of Civil Engineering & Architecture」)。
"	"	[書]「毎日新語辞典」(英文大阪毎日学習号編輯局編、大阪・大阪出版社)。
"	"	[書]「隣邦留学生教育の回顧と将来」(松本亀次郎、『教育』第七巻第四号)。
"	5・1	汪兆銘一行、上海に到着。
"	"	[書]「国語の世界的進出・海外外地日本語読本の紹介」(石黒修、「教育・国語」五月号別冊付録、厚生閣)。
"	5・3	ソ連外務人民委員リトビノフ辞任し、モロトフと交替。
"	5・5	閣議、中央物価委員会の答申した物価統制の大綱を承認。
"	5・11	[日]「台湾青年学校規則」[台湾総督府令第六〇号]([「台湾青年学校規則左ノ通り定ム 台湾青年学校規則 第一章 総則 第一条 青年学校ハ男女

西 暦	年 代	項 目
1939		<p>青年ニ対シ国体觀念ヲ明徴ニシ其ノ心身ヲ鍛鍊シ徳性ヲ涵養スルト共ニ職業及 實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ皇国臣民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ 目的トス 第二条 市街庄、市街庄組合又ハ街庄組合ハ青年学校ヲ設置スルコ トヲ得 第四章 科別、教授及訓練期間、教授及訓練科目竝ニ教授及訓練時数 第十九条 修身及公民科ハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ヲ奉体シテ徳性ヲ涵養シ 公共生活ヲ完ウスルニ足ルベキ性格ヲ育成シ殊ニ我ガ建国ノ本義ト国体ノ尊嚴 ナル所以トヲ会得セシメ忠君愛国ノ大義ヲ明ニシ献身奉公ノ心操ヲ確立セシメ 常ニ生徒ヲ実践躬行ニ導クヲ以テ要旨トス 第二十条 普通学科ハ日常生活ニ 須要ナル普通ノ知識技能ヲ増進シ一般的教養ヲ高ムルヲ以テ要旨トス 普通学 科ハ国語及国史ニ関スル事項ヲ授クルノ外地理、数学、理科、音楽等ニ関スル 事項ニ付土地ノ情况ニ応ジテ適宜之ヲ授クベシ」）。</p>
"	5・11	満蒙国境ノモンハンで、満・外蒙両国軍隊衝突（「ノモンハン事件」の発端
"	"	「鼓浪嶼事件」発生、日本陸戦隊、17日、英米仏も陸戦隊派遣、日本軍の 撤兵要求。
"	"	英・トルコ相互援助条約公表。6月22日、仏・トルコ相互援助条約調印。
"	5・22	〔教〕 天皇、「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」を下賜。
"	"	全国1800校の学生生徒代表3万2500人、執銃・帯剣・巻ゲートルで二 重橋前に参集、天皇親閲式後、市内大行進。
"	"	独伊軍事同盟〔鋼鉄協約〕調印（ベルリン・ローマ枢軸の完成）。
"	5・25	〔書〕「国語観 新日本語の建設」（岡本千太郎、白水社）。
"	5・26	閣議、昭和14年度物資動員計画を決定。
"	5・28	ノモンハンで日本軍東支隊全滅。
"	5・29	〔教〕 文部省、小学校5・6年と高等科の男子に武道（柔・剣道）を課す。
"	5・31	汪兆銘、東京着、首相らと会談。（6.18離日）。
"	"	程錫庚射殺犯人引渡しで天津総領事、期限附最後通牒を英総領事に手交（6 月6日拒絶回答）。
"	"	〔日〕 五月末日現在、文部省専門学務局学務課調査による外国人学生生徒 数（帝大公私立大学、男1142、女32、高校65、大学予科199、高師156 女高師34、専門学校、男599、女154、実業専門学校、男351、女5、総 計男2477、女226。中等以下の学校、男3319、女1834。帝大官私立大 学国別、満州国271、中国802、タイ21、米国47、ドイツ6、英国3、ア フガン5、印度5、フランス2、蒙古2、オランダ2、フィリッピン1、ビル マ1、蘭印1）。

西 暦	年 代	項 目
1939	5・	<p>〔書〕「台湾教育」(第四四二号)。</p> <p>(同上)「子供ニュースと読方話方の問題」(田淵武吉。四四三号)。</p> <p>(「」)「公学校国語読本手本第三学年上下編纂要旨及び教材解説」(加藤春城)。</p> <p>(「」)「国語の力」(木村万寿夫)。</p>
〃	〃	〔書〕「日華學會二十年誌」(砂田実,財団法人日華學會発行。昭和14年刊。173P)。
〃	〃	〔書〕「英和活用大辞典」(勝俣銓吉郎編,研究社。「Kenkyusha's Dictionary of English Collocations」)。
〃	〃	〔書〕「カナノコワイロ」(足利武千代著,三省堂)。
〃	〃	〔書〕「日支英工業用語辞典」(永井紹勝著,大阪・日満工業新聞社。「Japanese-Chinese English Dictionary of Industrial Terminology」)。
〃	〃	〔書〕「文学要語小辞典」(福原麟太郎編,研究社。「A Dictionary of Literary Terms for Students of British and American Literature」)。
〃	〃	〔書〕「日語月刊 1~12号」(田中慶太郎編,東京・文求堂。昭和14年5月~15年6月)。
〃	〃	〔書〕「宣 撫 第1巻5号」(軍宣撫班本部編。月刊。昭和14年5月)
〃	6・6 6	五相會議,中国に新中央政府を樹立する方針を決定。
〃	6・7 7	満蒙開拓青少年義勇軍2500人の壮行会举行。6月8日市内大行進。
〃	6・1 2	国民党軍,新四軍を攻撃,幹部を虐殺(「平江事件」)。
〃	6・1 3	ソ連,「対中国借款(1億5000万ドル)協定」調印(ミコヤン・孫科間)6月16日「中ソ新通商協定」調印。
〃	6・1 4	日本軍,天津英仏租界を封鎖。
〃	6・2 0	〔日〕 国語対策協議会開催(~22日)。(文部省,東亜各地域の日本語教育実践家を東京に招いて,第一回国語対策協議会を開催,日本語読本の編纂に着手)。
〃	6・2 1	日本軍,汕頭上陸。
〃	6・2 2	〔書〕「支那社会の研究」(清水盛光)。
〃	6・2 5	汪・王克敏会談。
〃	6・2 6	〔書〕「東洋的社会の理論」(ウィットフォーゲル著,森谷克己・平野義

西 暦	年 代	項 目
1939		太郎訳)。
"	6・28	汪・梁鴻志会談。
"	6・29	〔日〕 満州国民生部,「公立学校官制・師道学校官制・臨時初等教育教師養成所官制」公布。
"	6・	〔日〕 6月現在,南京における日語状況(市立小学校35,児童数11887人,私立小学校19校,児童数5077人,寺小屋式私塾174校,児童数4500人,合計21464人)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四四三号)。 (同上)「公学校用国語読本巻五・巻六編纂要旨」(加藤春城。～第四四三号)。
"	"	〔書〕「 ^{暗記} _{活用} 日語常用字二〇〇〇」(易言,啓明書局,民国廿八年六月初版)。
"	"	〔書〕「標準総合日語」(史墳,黄鑑邨共著,南京日語叢書編輯所,民国廿八年四月初版,民国廿八年六月再版)。
"	"	〔書〕「現代常識新辞典」(愛之事業社編・刊)。
"	"	〔書〕「商品辞典」(中外商業新報社編,東洋經濟新報社)。
"	"	〔書〕「独英和对訳電気用語集」(伊藤栄三郎,太陽堂)。
"	7・1	日本軍,ノモンハンで攻撃開始,7月3日敗退。7月23日攻撃再開,7月24日再度失敗。
"	7・5	米内光政海相暗殺計画発覚,つづいて右翼の親英派要人暗殺計画発覚。
"	"	〔日〕 満州国民生部,「国立大学哈爾濱学院規程」公布。
"	7・6	第1回聖戦美術展(陸軍美術協会・朝日新聞共催,府美,～7月23日)。 藤島武二「蘇州河激戦の跡」など。
"	7・・7	「国民徴用令」〔勅令第四百五十一号,公布昭和十四年七月八日〕。
"	7・12	天津英租界問題に関し,対支同志会主催の英国排撃市民大会,東京日比谷公会堂で開催。
"	7・14	国民党,周仏海らを除名。
"	7・15	外相有田八郎,英駐日大使クレギーの間に,天津租界封鎖問題,その他に関し,日英会談開催。8月21日決裂。
"	"	軍事保護院官制〔勅令〕公布。
"	7・18	朱徳,延安の新聞に「国民党反動勢力の増大と二重の危険」発表。
"	7・26	米國務長官,「日米通商航海条約」及び「付属議定書('11年2月21調印)」の廃棄を通告。'40年1月26失効。

西 暦	年 代	項 目
1939		
"	7・28	〔書〕「支那人に対する日本語の教へ方」(阿部正直・魚返善雄, 東亜同文会。補説として, 魚返善雄「支那国民に対する日本語教授の要約」がある)。
"	7・	〔日〕 奉天商科学院開校。
"	"	〔日〕 長沼直兄, 文部省より臨時日本語教科書編纂, 図書局事務を囑託される。
"	"	〔書〕「英和商業経済辞典」(加藤安里著, 知進社。「English-Japanese Dictionary Business & Economics」)。
"	"	〔書〕「古今作家人名辞典」(広恵吉久雄編, 大阪・葛城書店)。
"	"	〔書〕「戦時社会常識百科辞典」(志摩達郎編, 研文書院)。
"	"	〔書〕「新江 第1巻1号」(廈鼓文藝協會編, 廈鼓文芸協会。半月刊。民国廿八年七月)。
"	8・1	国民徴用令による初の「出頭要求書」, 建築技術者に発送(合格者に徴用令書「白紙の召集令状」送付)。
"	8・2	〔日〕 満州国民生部, 「中等教育ニ関スル件」改正, 「職業教育ニ関スル件」公布。
"	8・4	閣議, 「蒙疆統一政権設立要綱」決定。
"	8・8	五相会議で, 陸相板垣征四郎, 留保なしの三国同盟締結を強硬に主張して意見不一致。
"	"	「興亜奉公日設定ニ関スル件」〔閣議決定〕。
"	8・12	モスクワで英仏ソ三国軍事協定の交渉開始。8月17日, 中断。8月19日ベルリンで独ソ通商条約調印。8月21日, 英仏ソ三国交渉失敗。
"	8・16	〔教〕 文部省, 学生の運動競技を休日・土曜午後以外禁止と通牒。
"	8・20	ノモンハンで, ソ連軍・外蒙軍, 総攻撃開始, 日本軍第23師団全滅的損害。
"	8・23	〔日〕 台湾総督府, 「臨時教育調査委員会」を設置。
"	"	モスクワで独ソ不可侵条約調印。
"	8・24	内務省, 家庭防空隣保組織要綱を通牒。
"	"	英仏, 対ポーランド援助条約調印。
"	8・25	閣議, 三国同盟交渉打ち切りを決定。
"	8・28	平沼内閣, 欧州情勢複雑怪奇と声明して総辞職。
"	"	汪兆銘, 上海で国民党六全大会開く(～8月30日。日中和平を決議)。
"	8・29	ヒトラー, 対英回答でダンテヒ・ポーランド回廊の割譲要求を繰り返す。8月30日, ポーランド, 一部動員を布告。
"	8・30	阿部信行内閣成立。

西 暦	年 代	項 目
1939	8・30	中央物価委員会、物価統制実施要綱を答申。
"	8・31	ドイツ、対ポーランド16項目の提案公表。ヒトラー、ポーランド攻撃を命令。
"	8・	〔日〕「高砂族社会教育要綱」〔昭和十四年八月、警務局長依命通達〕（「一 高砂族社会教育ノ本旨ハ教育所及家庭ニ於ケル教育ト連繫シ総ユル施設機会ヲ通ジテ高砂族ニ対ミ国民精神ヲ涵養シ国語ヲ普及シ道德ノ実践ヲ指導シ日常生活ニ須要ナル知識技能ヲ得シメ情操ヲ陶冶シ体位ノ向上ヲ図リ以テ健全ナル皇国民ノ育成ヲ期スルニ在リ」）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四四五号）。 （同上）「国語対策協議会に就いて」（加藤春城）。 （"）「学習の文化と綴方実践」（松本龍朗）。
"	"	〔書〕「無私 ^{自通} 中日対照会話捷徑」（陳萬里，中日言語研究社，民国廿八年八月初版）。
"	"	〔書〕「中日対照 ^{商業} 旅行会話読本」（陳萬里，中日語文研究社，民国廿八年八月初版）。
"	"	〔書〕「日語会話自通」（三通書局 ^{編輯部} ，上海三通書局，民国廿八年八月初版）。
"	"	〔書〕「支那事情辞典」（大宅壮一編，今日の問題社）。
"	"	〔書〕「實用新露語辞典」（日蘇通信社編，刊。「ВОЕННЫЙ РУССКОЯПОНСКИЙ ЯЛОНО-РУССКИЙ СЛОВАРЬ」）。
"	"	〔書〕「独英和対訳土木建築用語集」（建築資料研究会編，太陽堂）。
"	9・1	ドイツ陸・空軍、ポーランド進撃を開始（「第二次世界大戦」始まる）。
"	"	初の「興亜奉公日」（毎月一日実施）。
"	"	蒙古聯合自治政府成立（主席徳王，察南省自治政府・晋北自治政府・蒙古聯盟自治政府の統一政権）。
"	"	ダンチヒのナチス指導者フォルスター，ドイツとの合併を宣言。
"	"	英・仏，動員開始。独軍のポーランド撤退を条件に交渉の用意を表明。
"	"	毛沢東，「国際情勢について」談話発表。
"	9・2	イタリア，中立を表明し五国会議を提案（英国拒否）。
"	9・3	大本営，関東軍にノモンハン作戦中止を命令。
"	"	英・仏，ドイツに宣戦布告（第二次欧州大戦開始）。
"	9・4	第二次欧州大戦勃発により，株式・商品市場暴騰。
"	9・5	米国，欧州戦争に中立を宣言。
"	"	〔書〕「口語辞典Hanasikotoba o hiku Zibiki」（福永恭助・岩倉

西 暦	年 代	項 目
1939		具実。「口語辞典出版会」，日本のローマ字社）。
"	9・7	関東軍司令官植田謙吉解任，後任に梅津美郎中将任命。
"	9・9	駐ソ大使東郷茂徳，ソ連にノモンハン停戦・通商条約締結など申し入れ。
"	"	第一期第四次国民参政会開催。
"	9・11	毛沢東，「人もし我をおかせば我も必ず人をおかす」声明。
"	9・12	支那派遣軍総司令部設置。
"	9・15	モスクワで，東郷大使・モロトフ外相間に「ノモンハン事件停戦協定」成立。
"	"	〔書〕「国語の将来」（柳田国男）。
"	9・17	独軍，グレスト・リトウスクを占領。ソ連軍，東部ポーランド進出。
"	9・18	駐独大使大島浩，ドイツに「独ソ不可侵条約（8月23日）」は協定違反と抗議。
"	9・19	閣議，9月18日の価格に物価を停止する緊急策を決定，発表（10月18日法制化）。
"	"	南京で汪兆銘・王克敏（臨時政府首班）・梁鴻志（維新政府首班）3者会談ひらかれ，中央政治会議開催で合意（汪兆銘中心の新中央政権樹立運動進む）。
"	9・20	商工省，関東州・満州国・中華民国向け輸出調整に関する件公布。
"	9・23	大本営，支那派遣軍総司令部設置を命令（総司令官西尾寿造大将，参謀総長板垣征四郎中将。指揮発動は10月1日）。
"	9・25	外相に野村吉三郎を任命。
"	9・27	ワルシャワ，独軍の空爆で陥落。
"	9・28	〔教〕文部省，中等諸学校の入学者選抜は筆記試験を止め，内申書・口等試問・身体検査とするよう通牒。
"	"	モスクワで独ソ友好条約調印（ポーランド分割占領を決める）。
"	9・29	ソ連，エストニア（10・5ラトビア，10月10日リトアニア）と相互援助条約調印。
"	9・30	〔日〕9月末現在のハワイ教育会所属日本語学校170，生徒総数37915人（男19000人，女18915人）。
"	9・	〔日〕国語文化学会設立。機関誌「コトバ」創刊。
"	"	〔日〕蒙古連合自治政府，日本語の普及とその向上をはかる（日本語教育は，小学1年から中学卒業まで必修科目とし，そのため日系教員が各校に配置された）。
"	"	〔日〕蒙古連合自治政府，「日本語教育検定制度」を実施（合格者には，語学手当を支給）。

西 暦	年 代	項 目
1939	9・	<p>〔書〕「台湾教育」(第四四六号)</p> <p>(同上)「公学校用語読本教材研究」(台北第二師範附属公学校読方研究部。～四四八号)。</p> <p>(「」)「謡曲三井寺と小学国語読本卷十二修業者と羅刹」(北畠現映)。</p>
〃	〃	〔書〕「台湾に於ける支那文字のいたづら」(土屋寛,「ローマ字世界」)
〃	〃	〔書〕「最新客貨車名称鑑」(大久保寅一編著,検車界刊行会)。
〃	〃	〔書〕「工学共通用語集」(日本工学会編・刊,竜吟社発売)。
〃	〃	〔書〕「口語辞典」(福永恭助・岩倉具実編,口語辞典出版会発行,日本のローマ字社発売)。
〃	〃	〔書〕「支那料理辞典」(大日本料理研究会編,料理の友社)。
〃	〃	〔書〕「分類全国方言辞典」(橘正一編・刊,孔版刷)。
〃	〃	〔書〕「色積図版全植物辞典」(本田正次,河野成光館)。
〃	10・1	〔日〕 国語文化学会,機関誌「コトバ」発刊。
〃	〃	<p>〔書〕「コトバ」(第一巻第一号,主題 日本語の語法と語法教授)。</p> <p>(同上)「発刊の辞」。</p> <p>(「」)「文法教育の出発」(三宅武郎)。</p> <p>(「」)「文法学の使命」(長谷川松治)。</p> <p>(「」)「詩教と文法,特に俳句文法に就いて」(石井庄司)。</p> <p>(「」)「口語動詞の語尾に就いて」(湯川清)。</p> <p>(「」)「日本語法の歴史的展望概略」(菊沢季生)。</p> <p>(「」)「現代日本語と小学国語読本」(今泉忠義)。</p> <p>(「」)「外国語習得に於ける文法の地位」(松原秀治)。</p> <p>(「」)「言語学習に於ける語法の地位」(大西雅雄)。</p> <p>(「」)「小学校に於ける語法教授の実際」(岡島繁)。</p> <p>(「」)「国際語の文法」(石黒修)。</p> <p>(「」)「シムポジウム 小学校に於ける語法教授の限度と方法」(「提案と総括」興水実,「二つの立場」大西雅雄,「国語教育は国語教授から」石黒修,「言換へを利用して」今泉忠義,「提案に賛成,ただ二三の注意を」石井庄司)。</p>
〃	10・2	パナマの汎米会議,西半球に「安全地域」設定。米州諸国の中立宣言発表。
〃	10・3	閣議,貿易省新設を決定。10月11日外務省課長ら,辞職で抗議,10月13日中止。
〃	10・6	〔日〕 間島省,「間島省視学委員規程」公布。

西 暦	年 代	項 目
1939	10・7	〔日〕 満州国語研究会，新京大興ビル四階講堂で発会式。
〃	10・10	〔書〕「 ^{国民} 日語国民読本巻一」（満州国帝国政府）。
〃	10・18	〔日〕 台湾の臨時教育調査委員会，「義務教育実施要綱」を決議。 日本軍，南寧占領。
〃	10・25	為替基準，ポンドをドルに変更。
〃	10・	〔日〕 維新政府教育部の要請で，日語教員33名が派遣され，その後数十名に増加，各省小学校に配置。
〃	〃	〔日〕 10月現在，南京における日語状況（市立小学校40校，児童数1750人，私立小学校19校，児童数5112人，寺小屋式私塾160校，児童数6141人，合計28759人）。
〃	秋	〔日〕 青島では，私立中学にも日本人教員配置。
〃	〃	〔書〕「台湾教育」（第四四七号）。 （同上）「国語教材としての天の岩屋神話について」（木村万寿夫）。
〃	〃	〔書〕「国語運動」（十月号）。 （同上）「わが国の外地における日本語教授の変遷」（山口喜一郎）。
〃	〃	〔書〕「日語講座第三輯」（高盛明，大陸新報社，民国廿八年一月初版，民国廿八年十月四版）。
〃	〃	〔書〕「日本語文鑑」（蘇昶知，三通書局，民国廿八年一月初版）。
〃	〃	〔書〕「日支対照薬名字典」（恩田重信・伊藤董，中外出版社）。
〃	11・1	日本と汪派の間に，上海で日華国交調整に関する協議会（周仏海，梅思平，陶希聖，影佐少将，須加大佐，犬養健）を開催。12月30日日華協議書類を作成。
〃	〃	舞鶴鎮守府設置〔勅令〕公布。
〃	〃	〔書〕「コトバ」（第一巻第二号，「主題 形象理論今後の動向，シンポジウム垣内学説の真髄と今後の動向」）。 （同上）「語形象性への反省」（渡辺茂）。 （ 〃 ）「語法教授の具体的な場」（中田憲久）。 （ 〃 ）「小学校に於ける語法教授について」（湯谷政春）。 （ 〃 ）「シンポジウム 垣内学説の真髄と今後の動向に就いて 発表者 袖崎修」。 （ 〃 ）「観念主義の内部における摩擦」（山下徳治）。

西 暦	年 代	項 目
1939		<p>(#) 「あらはれたものの背後にあるもの」(波多野完治)。</p> <p>(#) 「形象理論によって形象理論のうへに」(石井庄司)。</p> <p>(#) 「シンボジウム感想」(斎藤清衛)。</p> <p>(#) 「形象理論は如何なる哲学か」(興水実)。</p> <p>(#) 「言語に於ける具体的関聯の問題」(大野静)。</p> <p>(#) 「形象理論と国語教育」(下山懋)。</p> <p>(#) 「形象の生活を」(上田庄三郎)。</p> <p>(#) 「形象論の生命力」(湯原静)。</p> <p>(#) 「形象論と私の実践」(飛田多喜雄)。</p> <p>(#) 「形象論と芦田先生の教壇」(石崎正)。</p> <p>(#) 「形象論の理會より行動まで」(菱井新一郎)。</p> <p>(#) 「形象論, 生活教育, 言語教育の三者に關聯して」(滑川道夫)。</p> <p>(#) 「国語教育史に於ける形象論の影響について」(渡辺茂)。</p> <p>(#) 「教育者の文学作品について」(石山脩平)。</p>
"	11・3	米大統領, 「中立法修正案」に署名(武器禁輸を撤廃し, 交戦国への輸出を現金・自国船主義に変える)。
"	11・4	野村外相, グルー, 日米国交調整につき会談開始。
"	11・6	農林省, 米穀配給統制応急措置令を公布(米穀強制買上制実施)。
"	11・10	[書] 「日本主義文化宣言」(倉田百三)。
"	11・11	兵役法施行令改正〔勅令〕公布(徴兵合格に第三乙種設定)。
"	11・12	国民党第五期六中全会開催(～20日。蔣, 行政院長兼任)。
"	11・13	英大使, 野村外相に, 日本の申入れに従い, 華北駐屯英軍を引き揚げると通告。12月12日撤退開始。
"	11・21	日本郵船の照国丸, 英国東海岸で触雷沈没。
"	11・23	[書] 「日本語教授の実際」(国府種武, 台北東部書籍株式会社)。
"	11・26	フィンランド, ソ連の相互援助条約締結要求を拒絶。11月30日ソ連軍, フィンランド攻撃開始。「冬期戦争」始まる。12月14日ソ連, これを理由に国際連盟を除名される。
"	11・28	[日] 「文部省内臨時職員設置制中改正」〔勅令第七九一号〕(東亜ニ於ケル日本語普及ノ目的ヲ以テスル教科用図書ノ編纂ニ関スル事務ニ従事スル者, 図書監修官専任二人, 属専任一人, 図書監修官補一人) 。

西 暦	年 代	項 目
1939	11・30	野村外相、仏大使アンリに、仏印經由中国援助の停止、軍事監視団のハノイ派遣などを申入れ。
"	11・	〔日〕 中華民国政府教育部の要請により、日本語教員33名を派遣、各地の小・中学校に配置、続いて数十名が派遣された。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四四八号）。 （同上）「歌はれる場合の国語の発音について」（勝山文吾）。
"	"	〔書〕「台湾時報」 （同上）「国語普及上に於ける常用語の地位」（山崎睦雄）。
"	"	〔書〕「公学校国語教育と英語教育」（米村健寿、「英語の研究と教授」）
"	"	〔書〕「英会話小辞典」（「THE NEW UP・TO・DATE・ENGLISH-JAPANESE CONVERSATION-DICTIONARY BY・MR・AND MRS, O・VACCARI」, 英文法通論発行所）。
"	"	〔書〕「新撰支那時文辞典」（長沢規矩也編、三省堂）。
"	"	〔書〕「川柳辞彙」（～昭和16年8月。一六冊。川柳辞彙刊行会編・刊非売）。
"	12・1	〔書〕「国語対策協議会議事録」（図書局）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第一巻第三号、「標準語及び標準語教育、シンポジウム 標準語教育と言語生活の指導」）。 （同上）「標準語論」（大西雅雄）。 （"）「音声標準語の設定について」（家永英吉）。 （"）「フランスに於ける標準語化の歴史」（松原秀治）。 （"）「言文一致と俗語の精神」（吉武好孝）。 （"）「方言と芸術的価値」（奥田勝利）。 （"）「標準語に就いて」（今泉忠義）。 （"）「標準語の移動」（菊沢季生）。 （"）「シンポジウム 標準語教育と言語生活の指導、発表者 熊沢龍」。 （"）「言語生活の指導に就いて（三十五枚）」（柳田国男）。 （"）「話し方教育をおこせ（十枚）」（佐久間鼎）。 （"）「標準語とその教育」（菊沢季生）。 （"）「標準語といふ既成観念に問題」（大西雅雄）。 （"）「国語政策か国語教育か」（興水実）。 （"）「標準語の備へるべき要件」（石黒修）。

西 暦	年 代	項 目
1939		
"	12・4	〔日〕 間島省、「幼稚園規程」公布。
"	12・7	〔書〕「論語之研究」（武内義雄）。
"	12・8	興亜院会議で、中国中央政權樹立工作に関する申合せ成立。
"	12・9	〔日〕「日本語教科用図書調査会官制」〔勅令第八二九号〕（「第一条 日本語教科用図書調査会ハ文部大臣ノ監督ニ属シ其ノ諮問ニ応シテ東亜ニ於ケル日本語普及ノ目的ヲ以テスル教科用図書ノ編纂ニ関スル事項ヲ調査審議ス 第二条 日本語教科用図書調査会ハ会長一人委員一六人以内ヲ以テ之ヲ組織ス 特別ノ事項ヲ調査審議スル為ニ必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得 第三条 会長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ 第四条 会長ハ会務ヲ総理ス 会長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス 第五条 日本語教科用図書調査会ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス 幹事ハ会長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス 第六条 日本語教科用図書調査会ニ書記ヲ置ク文部大臣ノヲ命ス 書記ハ会長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス」。文部省の諮問機関で、東亜における日本語普及を目的とした）。
"	12・11	〔日〕「日本語教科用図書調査会官制」公布。
"	12・12	軍機保護法施行規則改正で、ビルや高台からの俯瞰撮影禁止。
"	12・14	国際連盟、ソ連を除名。
"	12・16	総動員物資使用収容令〔勅令〕公布。
"	"	〔日〕 台湾国語研究会、発会式。
"	"	国民党軍（閩錫山・朱德冰）、陝甘寧辺区（解放区）の八路軍を攻撃（「十二月事件」）。
"	"	〔書〕「正則日本語講座第三巻童話・物語篇」（田中荘太郎編、新民印書館）。
"	12・18	〔書〕「国語学読本」（菊沢季生、思潮社）。
"	12・20	陸軍、「軍備充実四か年計画」を策定（'34年度までに地上65師団・航空160個中隊を整備）、陸相・参謀総長が上奏。
"	12・22	グルー大使、日米新通商航海条約又は暫定取極めの締結を拒否。
"	"	日本近衛首相、日中国交調正の根本方針を声明（いわゆる「近衛三原則」）。
"	12・25	鹿地亘ら、桂林で日本人民反戦同盟結成大会（機関紙「人民の友」発行）。
"	12・26	朝鮮総督府、「朝鮮人の氏名に関する件」公布（日本式に創氏改名）。
"	"	衆議院議員240人、阿部内閣不信任案を決議、12月27日決議文を首相に

西 暦	年 代	項 目
1939		手交。
"	12・26	〔日〕「東亜同文会ノ設立スル東亜同文書院ニ関スル件中改正」〔勅令第八百七十四号。公布昭和十四年十二月二十七日〕（「大正十年勅令第三百二十八号中左ノ通改正ス 「東亜同文書院」ヲ「東亜同文書院大学」ニ，「専門学校令」ヲ「大学令」ニ改ム 附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ東亜同文会ノ経営スル東亜同文書院ニ関シテハ仍従前ノ例ニ依ル」）。
"	12・28	野村外相・畑俊六陸相・吉田善吾海相，「対外施策方針要綱」を決定。
"	12・30	汪兆銘側と，梅機関の間で日華協議書類作成。
"	12・末	〔日〕 台湾総督府文教局編修課出版教科用図書287種（昭和14年中の教科書及び教授参考書563万冊）。
"	12・	〔書〕「日本語讀本」（満鐵總裁室人事課臨時翻譯班）。
"	"	〔書〕「日語讀本」（三冊。許仲逸，世界書局。民国廿八年十二月再版）。
"	"	〔書〕「新明解英和辞典改訂版」（三省堂編集所編，三省堂。「Sanseido's New pocket English-Japanese Dictionary」）。
"	"	〔書〕「日華辞典」（湯山昇編，日本評論社）。
"	"	〔書〕「日華時報 第3巻3号～6巻4号」（日華倶楽部編，東京・日華倶楽部。季刊。昭和14年12月～17年12月）。
"	"	〔書〕「中華青年 第1巻2期～3巻4期」（内政部中華青年團指導部編内政部中華青年指導部。月刊。民国廿八年十二月～卅年五月）。
"	（昭和14年）	〔日〕 カルカッタ大学に日本語講座開設。
"	"	〔日〕 德化蒙古中学校女子部設立（蒙古聯合自治政府経営。成吉思汗紀元七三一年）。
"	"	〔日〕 興亜院は，華北に日本語普及会を設立，北京に日本語学院を，華北に華北日本語学院をつくり，華北日本語教育研究所を付置（'40年9月），各地方にも日本語学院を設置した。
"	"	〔日〕 この年，満州国，国民学校19338，学生数1681727，中等学校234，学生数60129，師道高等学校1，学生数504。
"	"	〔日〕 満州国における語学試験受験者数・合格者数（〔日本語〕特等受験者数133，合格者数16，一等受験者数1127，合格者数19290，合格者数3263，合計受験者数24527，合計合格者数3825）。
"	"	〔日〕 朝鮮総督府の調査（少々解し得る者1491120，普通会話に差支なき者1577912，計3069032）。

西 暦	年 代	項 目
1939	"	〔日〕 京城漢洞小学校児童家庭の国語普及調査（調査人員10506名中、会話に差支なき者4068名で3割9分、少々解する者2784名で2割5分、国語未解者3割6分）。
"	"	〔日〕 事変以来、中等学校・小学校の教員で、満州・支那・台湾・朝鮮・関東州、南洋などの外地海外へ行ったもの、〔昭和14年〕1780名。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数（師範学校、学生数、本島人352、高砂族2、卒業数、本島人90、高砂族0）
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数（生徒数、本島人15382、高砂族84、卒業数、本島人6293、高砂族34）、
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数（小学校生徒数、本島人3186、蕃人31、卒業数、本島人430、蕃人6、小学校高等科、生徒数、本島人323、蕃人7、卒業数、本島人101、蕃人4）。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数（公立中学校、生徒数、本島人4117、高砂族4、卒業数、本島人597、高砂族0）
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（女子高等普通学校、生徒数、本島人2541、高砂族0、卒業数、本島人684、高砂族0）。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数（実業学校、生徒数、本島人2610、高砂族6、卒業数、本島人326、高砂族1、実業補習学校、生徒数、本島人5537、高砂族211、卒業数、本島人1639、高砂族88）。
"	"	〔日〕 各種教育を受けた本島人生徒数・卒業数（生徒数、本島人3695、高砂族13、卒業数、不明）。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数（生徒数102、卒業数、高等学校29、中学校に相当する尋常科3）。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数（台北帝大、学生数90、卒業数20）。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数（学生数141、卒業数34）、
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数（所数181、生徒数9473、卒業数1770、就学歩合86.66）。
"	"	〔日〕 国語講習所の所数・会員数・普及歩合（所数265、会員数17921、普及歩合36.41）。
"	"	〔日〕 国語講習所調（国語講習所6388、生徒数387348、簡易国語講習所8738、生徒数5043312、合計所数15126、合計生徒数891660）。
"	"	〔書〕「日本語読本」（三巻）（台湾総督府）。
"	"	〔書〕「新国語読本日案式指導細案（巻一下篇）」（台湾教育研究会、台

西 曆	年 代	項 目
1939		北神保商店)。
"	(昭和14年)	〔書〕「新国語教本卷一教師用」(台湾教育会)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本(改正出版)第一種卷七,同掛図卷六,七」 (台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用書方手本第四学年用上」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校国語教育の実際」(国府種武,東京東都書籍株式会社)。
"	"	〔書〕「公学校国語教授の実際」(国府種武,台北東都書籍株式会社)。
"	"	〔書〕「小学国語読本教授細目卷十二」(台中市教育会)。
"	"	〔書〕「公学校各学年用話方教授細目」(豊原郡瑞穂小学校話方研究部, 豊原瑞穂公学校)。
"	"	〔書〕「国語講習所話方教授細目一,二年用」(豊原郡瑞穂公学校話方研 究部,豊原瑞穂公学校)。
"	"	〔書〕「全保学校話方教授細目」(台南州虎尾郡,虎尾郡役所)。
"	"	〔書〕「幼児国語講習所用保育細案」(台南州虎尾郡,虎尾郡役所)。
"	"	〔書〕「台南国語講習所国語教授案第二期生上」(台南末広公学校,台北 末広公三榕会)。
"	"	〔書〕「公学校国語読本教授書卷一四」(台北二師附属公学校啓明会,台 北,台湾子供世界社)。
"	"	〔書〕「国語読本と連絡したる公学校話方教授細目第一学年用」(台湾教 育研究会,台北,神保商店)。
"	"	〔書〕「国語読本と連絡したる公学校話方教授細目第一学年用第二学年用 下」(台湾教育研究会,台北,神保商店)。
"	"	〔書〕「青年修身補習公民教科書卷一,二」(台湾総督府,昭和14年～ 15年)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本卷一～七(全)」(台湾総督府,昭和14年～ 15年)。
"	"	〔書〕「中等国語読本卷二」(台湾総督府,台北,江里口商会,昭和14 年～15年)。
"	"	〔書〕「中等一般理科」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「尋常小学農業書卷壹,二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「師範学校農業教科書上,中」(台湾総督府,昭和14年～15年)
"	"	〔書〕「簡易実用国語読本」(竹南郡国語普及会,竹南(新竹))。
"	"	〔書〕「新国語教本教師用卷二」(台南教育会,台北台湾教育会)。
"	"	〔書〕「話方教本第五,六学年」(台南市宝公学校,台南,宝公学校)。
"	"	〔書〕「実用本位日本語宝鑑上」(山崎陸雄,台北,野田書房)。

西 曆	年 代	項 目
1939	"	〔書〕「国語教本」(文山郡教育会, 新竹文山郡教育会)。
"	"	〔書〕「公民塾国語教本」(台北州宜蘭郡, 宜蘭, 宜蘭郡)。
"	"	〔書〕「国語教本」(台北工業講習所)。
"	"	〔書〕「新国語教本卷二」(台湾教育会, 台北, 台湾教育会)。
"	"	〔書〕「新国語教本教師用卷一, 二」(台湾教育会, 台北, 台湾教育会)。
"	"	〔書〕「新国語教本卷一」(台湾教育会, 台北, 台湾教育会)。
"	"	〔書〕「対訳国語自習読本改定六版」(李献璋, 台北対訳出版所)。
"	"	〔書〕「公民読本」(国姓庄教化聯合会, 台中国姓教化聯合会)。
"	"	〔書〕「尋常小学農業教授書」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「初等理科教授書高等科一, 二」(台湾總督府)。
"	"	〔書〕「公学校高等科家事教授書一, 二」(台湾總督府, 昭和14年・昭和15年)。
"	"	〔書〕「公学校教授細目第一学年用」(天道環)。
"	"	〔書〕「本校読方教育の実際」(台北州七星郡汐止公学校編)。
"	"	〔書〕「新読本に就いて」(台北州七星郡汐止公学校編)。
"	"	〔書〕「研究発表要項」(後驛庄聯合青年団編)。
"	"	〔書〕「話方教本卷一」(潮州郡民風作興会)。
"	"	〔書〕「話方教本第五～第六学年」(台南市宝公学校編)。
"	"	〔書〕「全保学校国語読本」(馬公厝公学校)。
"	"	〔書〕「日本語教本卷一」(台湾總督府文教局学務課)。
"	"	〔書〕「新国語読本(教師用)卷一～二」(台湾教育会, 昭和14年～15年)。
"	"	〔書〕「国語教授案」(台南末広公学校編)。
"	"	〔書〕「国語講習所話方教授細目(一・二年用)」(山崎睦雄)。
"	"	〔書〕「常用語辞典」(台北第二中学校編)。
"	"	〔書〕「台湾教育沿革誌」(台湾教育会)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四三八号～第四四九号発行)。
"	"	〔書〕「二語併用地における国語問題の解決」(山崎睦雄)。
"	"	〔書〕「中国人に対する日本語教授法」(渡辺正文, 上海・三通書局)。
"	"	〔書〕「正則日本語講座 第一卷」(田中莊太郎編, 北京・新民印書館。民国廿八年刊。229P)。
"	"	〔書〕「日語動詞要法」(大黃學社出版部編, 東京・大黃學社出版部。157P)。
"	"	〔書〕「日海會話」(台湾總督府文教局学務課編, 台湾總督府文教局。294P)。

西 曆	年 代	項 目
1939	(昭和14年)	〔書〕「國民學校日語國民讀本(八卷)」(滿洲国政府, 滿洲国政府民政部)。
"	"	〔書〕「譯註日語新讀本」(劉如, 民国廿八年刊)。
"	"	〔書〕「 ^{略記} _{活用} 日語常用二〇〇」(易言, 民国廿八年刊)。
"	"	〔書〕「皇民讀本」(上田光輝)。
"	"	〔書〕「Grundzüge der Phonologie」(Trubetzkoy, 1890 ~1938)。
"	"	〔書〕「言語研究」(言語学会)創刊。
"	"	〔書〕「明治以降教育制度發達史第十一卷」(文部省教育史編纂會)。
"	"	〔書〕「言語の構造」(泉井久之助, 弘文堂書房, 「教養文庫」)。
"	"	〔書〕「東西洋考察記」(民国仲躋翰著, 世界書局。民国廿八年刊。 176P)。
"	"	〔書〕「麥田裡的兵隊」(火野葦平著, 民国雪笠訳, 新京・滿洲国通信社。 滿洲康德六年刊。216P)。
"	"	〔書〕「日本外交」(小島憲等著, 三通書局編輯部編, 上海・三通書局。 民国廿八年刊。「三通小叢書」。97P)。
"	"	〔書〕「東洋文庫十五年史」(岩井大憲編, 東京・東洋文庫。昭和14年 刊。883P)。
"	"	〔書〕「大陸に於ける宗教工作狀況 — 佛教工作を主として — 」(大倉 精神文化研究所調査部編, 大倉精神文化研究所。昭和14年刊。「調査報告書 第1号」。22P)。
"	"	〔書〕「左傳真偽考 附支那古典籍の真偽について」(カール・グレン著 小野忍訳, 東京・文求堂。昭和14年刊。「支那學翻譯叢書6」。154P)。
"	"	〔書〕「上代の儒家に見える一傾向」(栗田直躬著, 1939年刊。79P 哲學年誌第9卷別刷)。
"	"	〔書〕「孔子論」(民国林語堂著, 川口浩訳, 東京・育生社。昭和14年 刊。429P)。
"	"	〔書〕「博大真人全集 下卷 鍊丹揭要(性命雙脩萬神主旨) 存2集 (利貞集)」(蘇錫文, 民国廿八年刊。39P)。
"	"	〔書〕「文昌帝君戒淫寶錄 2卷」(〔周張揮著〕, 蘇錫文。民国廿八年 刊。97P)。
"	"	〔書〕「馬相伯先生年譜」(民国張若谷編, 商務印書館。民国廿八年刊。 「中國史學叢書」。298P)。
"	"	〔書〕「上海新指南」(民国費西疇編, 上海・声々出版。民国廿八年刊。 1冊)。
"	"	〔書〕「最新大上海地圖」(杉江房造編, 上海・日本堂書店。昭和14年

西 曆	年 代	項 目
1939		刊。1枚)。
"	"	〔書〕「南京指南」(行政院宣傳局新聞訓練所編, 南京・南京新報社。民国廿八年刊。114P)。
"	"	〔書〕「日本一鑑 窮河話海 9 卷 隄島新編 4 卷 桴海圖經 3 卷」
"	"	〔書〕「洋 車」(須田院次著, 東京・古今書院。昭和14年刊。166P)
"	"	〔書〕「滿洲開拓農民入植圖」(滿洲拓植公社。昭和14年刊。1枚)。
"	"	〔書〕「新京案内 附新京案内廣告」(永見文太郎編, 新京・新京案内社滿洲康德六年刊。312P)。
"	"	〔書〕「建設東亞新秩序文選」(民国劉希平, 林自誠共編, 大民會評本部民国廿八年刊。46P)。
"	"	〔書〕「華南文化協會章程」(華南文化協會。昭和14年刊。孔版。1冊)
"	"	〔書〕「〔華南文化協會中央本部章程〕」(華南文化協會。昭和14年刊孔版。1冊)。
"	"	〔書〕「中國文化之精神」(民国郭明昆編, 東京・大觀堂書店。昭和14年刊。孔版。78P)。
"	"	〔書〕「日支交渉外史 2 卷」(葛生能久, 東京・黒龍會出版部。昭和14年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「古代中日關係之回溯」(民国李毓田著, 日本問題研究會編, 上海・商務印書館。民国廿八年刊。「日本知識叢刊」。66P)。
"	"	〔書〕「新女苑年鑑」(〔昭和14年〕刊。120P。新女苑附録)。
"	"	〔書〕「中國人日本留學史稿」(實藤惠秀著, 砂田實編, 東京・日華學會昭和14年刊。368P)。
"	"	〔書〕「倉石中等支那語 卷1」(倉石武四郎編, 東京・弘文堂。昭和14年刊。128P)。
"	"	〔書〕「興亞支那語讀本」(武田寧信編, 東京・三省堂。昭和14年刊。88P)。
"	"	〔書〕「北京年中行事」(加藤新吉著, 北京・滿鐵北支事務局。昭和14年刊。「北支叢書2」。44P)。
"	"	〔書〕「支那に於ける化學工業調査の回顧」(小林久平著, 東京・早稻田応用化学會。昭和14年刊。「早稻田應用化學會報38」。1冊)。
"	"	〔書〕「滿洲農村雜話」(小山貞知編, 大連・滿洲評論社。昭和14年刊209P)。
"	"	〔書〕「四川省に於ける製鹽と石油」(小林久平著, 化学機械協會。昭和14年刊。8P。「化學機械3卷1号」抜刷)。
"	"	〔書〕「滿洲放送聴取者数分布圖 昭和14年1月1日現在」(滿洲電信電話株式會社總務部考査課統計係編, 滿洲電信電話株式會社。昭和14年刊)。
"	"	〔書〕「漢文から時文へ」(實藤惠秀著, 東京・三修社。昭和14年刊)。

西 曆	年 代	項 目
1939		201P)。
"	(昭和14年)	〔書〕「男女交際現代白話尺牘」(民国吳仿吾編,北京・群英書局。民国廿八年刊。220P)。
"	"	〔書〕「支那語法入門」(倉石武四郎著,東京・弘文堂。昭和14年刊。108P)。
"	"	〔書〕「現代支那語科學」(デンツェル・カー著,魚返善雄訳。東京・文求堂。昭和14年刊。143P)。
"	"	〔書〕「日汕會話」(文教局學務課編,台灣總督府文教局。昭和14年刊325P)。
"	"	〔書〕「支那点々」(草野心平著,東京・三和書房。昭和14年刊。257P)。
"	"	〔書〕「〔明治十二年〕游晃日乗」(星野恒等著,昭和14年刊。孔版。1冊)。
"	"	〔書〕「繁 星」(民国謝冰心著,飯塚朗訳,東京・伊藤書店。昭和14年刊。168P)。
"	"	〔書〕「醒世小説九尾龜 4巻」(民国湖上滄点,上海・達文書店。民国廿八年刊)。
"	"	〔書〕「陰山背後」(民国蕭仲訥著,天津・大業書局。民国廿八年刊。132P)。
"	"	〔書〕「〔支那現代文學叢刊〕」(中國文學研究會編,東京・伊藤書店。昭和14年刊。258P。内容:春桃(民国許地山著,松枝茂夫訳) 超人 うつしゑ(民国謝瑩著,猪俣庄八訳) 稲草人 古代英雄の石像(民国葉紹鈞著猪俣庄八訳) 黒猫(民国郭沫若著,岡崎俊夫訳) 自叙傳(民国郭沫若著,吉村永吉訳)。
"	"	〔書〕「〔支那現代文學叢刊〕第2輯」(中國文學研究會編,東京・伊藤書店。昭和14年刊。246P。内容:蠶 小巫(民国茅盾著,曹鈞源訳) 大悲寺外(民国老舍著,猪俣庄八訳) 山道中(民国沈從文著,松枝茂夫訳) 山中送客記(民国艾蕪著,松枝茂夫訳) 松嶺にて(民国艾蕪著,岡崎俊夫訳) 鳶蘿行(民国郁達夫著,飯村聯東訳) 懷郷病者(民国郁達夫著,小田嶽夫訳) 傑老叔(民国歐陽山著,山本三八訳) 我家の出来事(民国魏金枝著,武田泰淳訳)。
"	"	〔書〕「アジア問題講座(十二冊)」。
"	"	〔書〕「大谷光瑞興亜計画(十冊)」(～昭和15年)。
"	"	〔書〕「東洋文化史概説」(上野菊爾)。
"	"	〔書〕「東洋史概観」(上野菊爾)。
"	"	〔書〕「東洋文庫十五年史」。
"	"	〔書〕「東亜学(一～九巻)」(米村富男。～昭和19年)。

西 暦	年 代	項 目
1939	"	〔書〕「東亜協同体の理想」(新明正道)。
"	"	〔書〕「新東亜の建設」 ^{ソ連・支那} (平竹伝三)。
"	"	〔書〕「東亜重工業論」(小島精一)。
"	"	〔書〕「朝鮮経済年報」(全国経調機関。～昭和17年)。
"	"	〔書〕「 ^{実務叢書} 庶務類集(朝鮮総督府)」(八木代吉)。
"	"	〔書〕「 ^{全運動方針大綱} 全運動方針(日文)」(満洲帝国協和会。康德六年)。
"	"	〔書〕「満洲の苦力」(満鉄調査部)。
"	"	〔書〕「満洲鉄道建設誌」(満鉄)。
"	"	〔書〕「満洲国策会社綜合要覧」(満洲事情案内所編。康德六年)。
"	"	〔書〕「満洲国主要経済統制法令」(日本商工会議所)。
"	"	〔書〕「満洲の物産」(満洲事情案内所編。康德六年)。
"	"	〔書〕「商工公会法同施行規則」(奉天商工公会。康德六年)。
"	"	〔書〕「 ^{並ニ} 政府施政方針特殊会社事業方針」(満洲帝国協和会。康德六年)。
"	"	〔書〕「大陸開発衛生展」(日本赤十字社)。
"	"	〔書〕「日満農政研究会第一回総会速記録」(康德六年)。
"	"	〔書〕「満洲農業要覧」(日満農政研究会)。
"	"	〔書〕「 ^{並ニ} 康德5・6年度政府方針特殊会社事業方針」(満洲協和会。康德六年)。
"	"	〔書〕「 ^{フ・A・ラルソン} 浜江省珠河县帽児山地区営農標準案」(開拓総局。康德六年)。
"	"	〔書〕「 ^{高山洋吉訳} 蒙古風俗誌」(F. A. ラルソン)。
"	"	〔書〕「蒙疆の自然と文化」(京城帝大学術報告)。
"	"	〔書〕「巴彥塔拉盟鎮県政概要」(縣公署)。
"	"	〔書〕「蒙疆墾殖と対支移民」(永田 稔)。
"	"	〔書〕「 ^{三島康夫} 外蒙人民共和国」(後藤富夫)。
"	"	〔書〕「 ^{スウエン・ヘディン} 西藏探險記」(高山洋吉訳)。
"	"	〔書〕「 ^{高山洋吉訳} 中華民國に於ける列国の条約權益」(英 修道)。
"	"	〔書〕「孫文主義(上巻)」(外務省調査部)。
"	"	〔書〕「支那に於ける言論の発達」(林語堂)。
"	"	〔書〕「対支文化工作草案」(宇田 尚)。
"	"	〔書〕「日支共存史」(常田 力)。
"	"	〔書〕「日支交渉史研究」(秋山謙蔵)。
"	"	〔書〕「支那社会構成」(秋沢修二)。
"	"	〔書〕「 ^{サファロフ} 支那社会史」(早川二郎)。
"	"	〔書〕「支那原始社会形態」(井上芳郎)。
"	"	〔書〕「 ^{羅 敦偉} 支那統制経済論」(河上統一訳)。
"	"	〔書〕「 ^{方 顯世編} 支那経済研究」(梨本祐平訳)。
"	"	〔書〕「 ^{世界植物油脂経済に於ける} 棉実の地位と北支棉実利用問題」(満鉄・北支事務局調査部)。
"	"	〔書〕「日本の対支投資研究」(樋口 弘)。

西 暦	年 代	項 目
1939	(昭和14年)	〔書〕「支那貨幣論」(章 乃器 著 浅川謙次郎 訳)。
"	"	〔書〕「支那貨幣金融発達史」(広畑 茂)。
"	"	〔書〕「近世支那外国貿易史」(米谷栄一)。
"	"	〔書〕「支那の土地と人」(クレッシィ 著 三好武二 訳)。
"	"	〔書〕「支那ノ文献ニヨル黄河問題綱要」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「中支那重要都市開港場経済事情」(満鉄鉄道局 調査課)。
"	"	〔書〕「支那の水利問題(上・下巻)」(北支那開発会 社調査課訳編)。
"	"	〔書〕「南支那の資源と其の経済的価値」(福田 要)。
"	"	〔書〕「支那の工業機構」(尾崎五郎)。
"	"	〔書〕「広東福建読本(附海南島事情)」(東亜実業文化協会訳)。
"	"	〔書〕「南支那」(大阪毎日新聞社編)。
"	"	〔書〕「比律賓に於ける華僑」(南洋華僑双書三巻)。
"	"	〔書〕「支那の農業と工業」(浦松佐美太郎 著 牛島友彦 訳)。
"	"	〔書〕「支那救荒史」(鄧 雲 特 著 川崎正雄 訳)。
"	"	〔書〕「増補 南支那に於ける農村社会」(陳幹笙 著 佐渡愛三 訳)。
"	"	〔書〕「北支農村概況調査報告(三冊)」((株)南満洲鉄道。～昭和15年)。
"	"	〔書〕「江北塩壑植棉事情」(榎本中衛)。
"	"	〔書〕「東部シベリア海より流水状態並水文学的深海調査」(満鉄)。
"	"	〔書〕「戦時下の台湾経済」(林仏樹)。
"	"	〔書〕「台北市統計書(昭和14年)」(市役所)。
"	"	〔書〕「南洋・北支に於ける農産物販路調査報告集録」(帝国農会経済部)。
"	"	〔書〕「印度」(武藤貞一 著 エ・エム・サハイ 訳)。
"	"	〔書〕「中南米より帰りて」(丸山鶴吉)。
"	"	〔書〕「東洋古代民族史」(赤松啓介)。
"	"	〔書〕「拓殖研究 第五号」(拓殖研究会)。
"	"	〔書〕「英国の殖民政策」(斉藤栄三郎)。
"	"	〔書〕「三江省通河県新立屯地区営農標準案」(拓政司・満拓・満鉄・公主嶺農試) (開拓総局。康德六年)。
"	"	〔書〕「改稿 蒙古游牧記」(張 穆 著 須佐嘉橋 訳)。
"	"	〔書〕「台湾の一 糖業・茶業・林業(七冊)」(台湾総督府殖産局)。
"	"	〔書〕「台湾の一 穀農産 水産・鉱業・工業」。
"	"	〔書〕「台北市統計書(昭和14年)」(市役所)。
"	"	〔書〕「自律学習の訓練」(広島高等師範学校附属中学校)。
"	"	〔書〕「我国の修身教育」(堀之内恒夫)。
"	"	〔書〕「行の訓育」(土方憲治)。
"	"	〔書〕「勤勞教育の理論と方法 — 宗教的行としての集団勤行 — 」(大倉邦彦)。
"	"	〔書〕「生活行の修身教育」(松田友吉)。

西 暦	年 代	項 目
1939	〃	〔書〕「全体観と国民教育」（佐藤熊治郎）。
〃	〃	〔書〕「教育行政及教育問題の研究」（川地理策）。
〃	〃	〔書〕「 ^{豊教育振興会} 西部協同女教員研究会」（大阪府立豊口話学校）。
〃	〃	〔書〕「広島県学事要覧」（広島県）。
〃	〃	〔書〕「教科書行政法」（谷原昭）。
〃	〃	〔書〕「帝大の肅正はこれから」（平田元吉）。
〃	〃	〔書〕「東京商業学校五十年史」。
〃	〃	〔書〕「興亜時習社要覧」（興亜時習社）。
〃	〃	〔書〕「公民科の本義」（広浜嘉雄）。
〃	〃	〔書〕「イタリアの青年運動」（ ^{ビッコリー} 岡田博道訳）。
〃	〃	〔書〕「 ^{男子青年に対する青年学校教育} 義務制実施案要綱」（文部省）。
〃	〃	〔書〕「青年学校教練科指導経営法」（松永一六）。
〃	〃	〔書〕「 ^{加越} 加越能育英社貸費生名簿」。
〃	〃	〔書〕「教育勅語実践への学校訓練」（松本浩記）。
〃	〃	〔書〕「教育勅語を拝読して」（ ^{小野正康} 国民精神文化研究所）。
〃	〃	〔書〕「国民教育原理」（栗田元次）。
〃	〃	〔書〕「新小学算術教育原論」（高木佐加枝）。
〃	〃	〔書〕「綴方現地報告」（新居格編）。
〃	〃	〔書〕「綴方表現学」（金原省吾）。
〃	〃	〔書〕「綴方教育の学年的発展」（飯田恒作）。
〃	〃	〔書〕「読方教育」（佐藤末吉）。
〃	〃	〔書〕「育てる読方教育の建設と指導」（太田久四郎）。
〃	〃	〔書〕「読書の心理」（武政太郎著）。
〃	〃	〔書〕「読方の研究授業」（佐藤末吉）。
〃	〃	〔書〕「教育的性格学」（関計夫）。
〃	〃	〔書〕「教育心理学（上巻・下巻）」（丸山良二）。
〃	〃	〔書〕「スレッサー英法概論」（湯浅恭三訳）。
〃	〃	〔書〕「 ^{裁判所構成法注釈並に} 裁構議事速記録」（篠塚春生訳）。
〃	〃	〔書〕「法学瑣論」（東北大学法学会）。
〃	〃	〔書〕「 ^{逐条解説} 国家総動員」（法律時報社）。
〃	〃	〔書〕「経済統制と人事調停」（末川博）。
〃	〃	〔書〕「法及政治の諸問題」（佐藤教授退職記念）。
〃	〃	〔書〕「日本哲学及日本法理学（全三冊）」（辻本正一）。
〃	〃	〔書〕「日本的制度論考」（広浜嘉雄）。
〃	〃	〔書〕「上代支那法制の研究（刑事行政）二冊」（根本 誠）。
〃	〃	〔書〕「ナチス・ドイツ憲法論」（ ^{オットー・クルロイター} 矢部貞治・田川博三訳）。

西 暦	年 代	項 目
1939	(昭和14年)	〔書〕「日本憲法とグナリスト談話」(蜷川 新)。
"	"	〔書〕「国民投票制度の研究」(大石義雄)。
"	"	〔書〕「兵事事務」(大阪市役所)。
"	"	〔書〕「巴里都市計画の現状と将来」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 増補都市計画法令集」(内務省計画局都市計画課編)。
"	"	〔書〕「全国に於ける毎年の新築住宅棟数調」(厚生省社会局)。
"	"	〔書〕「都市不良住宅に関する文献問題」(都市学会編)。
"	"	〔書〕「河川法論」(安田正鷹)。
"	"	〔書〕「温泉法に関する文献」(国際観光局)。
"	"	〔書〕「道路行政」(田中好)。
"	"	〔書〕「神道史」(清原貞雄)。
"	"	〔書〕「 ^{別 格} 小御門神社誌」(沢田総重)。
"	"	〔書〕「 ^{官幣社} 国家・議会・法律」(カールシュミット)。
"	"	〔書〕「全体主義国家論(シュパン)」(三沢弘次訳)。
"	"	〔書〕「欧州各国に於ける(上下)」(内閣情報部)。
"	"	〔書〕「 ^{国家革新運動} 新独乙国家大系(全十二巻)」。
"	"	〔書〕「国体科学研究(第一)」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「神武天皇御東遷聖蹟考」(藤井 純)。
"	"	〔書〕「日本諸学研究(第一〜五輯)」(日本文化中央聯盟)。
"	"	〔書〕「我が日本学(改訂)」(中山忠直)。
"	"	〔書〕「御嶽教祭事規範」(御嶽教大本庁)。
"	"	〔書〕「日本と基督教神社問題」(田川大吉郎)。
"	"	〔書〕「 ^{農土道} — 東洋農道の教学 — 」(菅原兵治)。
"	"	〔書〕「政治学の根本問題」(大石兵太郎)。
"	"	〔書〕「 ^{ウェーバー} シュミット政治の本質」(清水幾太郎)。
"	"	〔書〕「リップマン自由全体主義」(服部弁之助)。
"	"	〔書〕「全体主義政策」(中野正剛)。
"	"	〔書〕「全体主義の原理」(オトマール・シュパン)。
"	"	〔書〕「富国策建白」(浅野研真校訂復刊)。
"	"	〔書〕「憲政殊勲者年譜表」(小久保喜七)。
"	"	〔書〕「日本憲政基礎史料」(議会政治社編輯部編)。
"	"	〔書〕「委員会制度の研究」(田口弼一)。
"	"	〔書〕「常設委員会制度」(大西芳雄)。
"	"	〔書〕「 ^{国民精神総動員} 新展開要領」(国民精神総動員中央連盟)。

西 暦	年 代	項 目
1939	〃	〔書〕「財団法人日本文化中央連盟要覧」（日本文化中央連盟）。
〃	〃	〔書〕「常会の組織とその運営」（佐々井信太郎）。
〃	〃	〔書〕「地方連盟並実践 網実例に関する資料」（国民精神総動員 中央連盟）。
〃	〃	〔書〕「産業報告連盟要覧」（産業報国連盟）。
〃	〃	〔書〕「産業報国運動要綱」（厚生省労働局）。
〃	〃	〔書〕「日本と新国際主義」（田村徳治）。
〃	〃	〔書〕「東西交渉史論（上下）」（史学会創立五十周年記念）。
〃	〃	〔書〕「極東ソ連要覧」（阿部武志）。
〃	〃	〔書〕「ソ聯邦国力綜合調査第一次報告」（外務省調査部）。
〃	〃	〔書〕「ソ聯邦報告」（布施勝治）。
〃	〃	〔書〕「まいん・かむぶ」（アルフレッド・ローゼンベルク）。 独逸再生の斗争（花園兼定・小宮山風禪訳）。
〃	〃	〔書〕「独逸及び独逸人の問題」（大泉行雄）。
〃	〃	〔書〕「欧州におけるヒトラーの策謀」（M・W・フォダー著）。 鈴木東民訳）。
〃	〃	〔書〕「ユダヤ問題と日本」（宇都宮希洋）。
〃	〃	〔書〕「ソ連邦諸民族の分布状態」（（株）南満洲鉄道調査部）。
〃	〃	〔書〕「日本民族理想」（西村真次）。
〃	〃	〔書〕「東亜民族論」（高田保馬）。
〃	〃	〔書〕「民族と戦争」（新明・加田他）。
〃	〃	〔書〕「螢雪余聞（近衛霞山公隨筆）」（水谷川忠麿）。
〃	〃	〔書〕「明朗政治家山口義一君（政友会）」（玉置住定）。
〃	〃	〔書〕「千石興太郎（産業組合）」（石井満）。
〃	〃	〔書〕「水島鏡也先生伝（神戸高商校長）」（渡辺義雄）。
〃	〃	〔書〕「児島惟謙伝（大審院長）」（原田光三郎）。
〃	〃	〔書〕「岸清一伝」（伊藤和三郎編）。
〃	〃	〔書〕「溪山武田信保追想録」。
〃	〃	〔書〕「福沢桃介翁伝」（大西理平）。
〃	〃	〔書〕「藤山雷太博（日糖・商工会頭）」（藤山愛一郎）。
〃	〃	〔書〕「松本留吉（藤倉電線）」（編纂委員会）。
〃	〃	〔書〕「速水太郎（貿易・鉄道・電気）」（同編纂委）。
〃	〃	〔書〕「実伝 紀伊国屋文左衛門」（上山勘太郎）。
〃	〃	〔書〕「ベルツの日記」（渡辺正彦訳）。
〃	〃	〔書〕「伝記 チングス汗 — その人と時代 —」（F・グルナール）。 後藤富男訳）。
〃	〃	〔書〕「台湾統後美談集」（前田倉吉編，同刊行会）。
〃	〃	〔書〕「国際法学講義要綱（一卷）」（安井 郁）。
〃	〃	〔書〕「大東亜共栄圏関係条約集」（外務省）。 第二次欧州大戦
〃	〃	〔書〕「極東に於ける列国の外交戦」（タラクナス・ダス著）。 林 正義訳）。

西 暦	年 代	項 目
1939	(昭和14年)	〔書〕「日支交渉史研究」(秋山謙蔵)。
"	"	〔書〕「最近支那外交史(上・中巻)」(田村幸策)。
"	"	〔書〕「時局と亜細亜問題」(北田正元)。
"	"	〔書〕「亜細亜を繞る闘争」(岡田永太郎)。
"	"	〔書〕「ロシア侵寇三百年」(山本桂川)。
"	"	〔書〕「日本戦争学」(多田督知)。
"	"	〔書〕「なぜ日・独・伊 軍事同盟は必要か」(梶原景親)。
"	"	〔書〕「戦争経済論」(田中信太郎 バウル・アインチヒ)。
"	"	〔書〕「軍事援護制度の実際」(吉富 滋)。
"	"	〔書〕「英国刑事裁判の研究」(田村 豊)。
"	"	〔書〕「公務員賄賂罪の研究」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「行政刑法概論」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「血液の審判」(式場隆三郎)。
"	"	〔書〕「民事判例研究録(全三巻)」(中央大学)。
"	"	〔書〕「消滅時効の理論と実際」(風間鶴寿他)。
"	"	〔書〕「所有権契約その他の研究」(末川 博)。
"	"	〔書〕「債権各論(一卷)」(末川 博)。
"	"	〔書〕「スイス債務法」(オーゼル 司法省)。
"	"	〔書〕「遅延利息論」(岩田 新)。
"	"	〔書〕「履行補助者の研究」(松阪佐一)。
"	"	〔書〕「戸籍法の法理と実際(記載例 総論篇)」(鎌田宗秀。~昭和16年)。
"	"	〔書〕「財産法概論」(林 信雄)。
"	"	〔書〕「商法総論(原理一卷)」(寺尾元彦)。
"	"	〔書〕「改正株式会社法精義」(佐々 穆)。
"	"	〔書〕「新訂会社定款論」(高山藤次郎)。
"	"	〔書〕「株式裏書譲渡の解説」(小田井溪蘭)。
"	"	〔書〕「改正商法及有限会社法概説」(田中耕太郎)。
"	"	〔書〕「企業合同法の研究」(大隅健一郎)。
"	"	〔書〕「船荷証券免責条款論」(田中誠二)。
"	"	〔書〕「改正保険業法研究」(保険政策雑誌社)。
"	"	〔書〕「被保険利益の構造」(加藤由作)。
"	"	〔書〕「保険文集(上下)」(麻生義一郎)。
"	"	〔書〕「農業保険精説」(重政誠之)。

西 暦	年 代	項 目
1939	//	〔書〕「有価証券法概論」(中村 武)。
//	//	〔書〕「金融取引法解説」(妹尾一雄)。
//	//	〔書〕「財政学体系の研究」(大谷政敬)。
//	//	〔書〕「支那の戦時財政」(大蔵省)。
//	//	〔書〕「公債政策に関する資料」(衆議院調査部)。
//	//	〔書〕「増税論」(神戸正雄)。
//	//	〔書〕「国有財産制度論」(多田喜一)。
//	//	〔書〕「専売法規綱要」(専売局長官官房)。
//	//	〔書〕「金融の理論と政策」(佐野善作博士記念論文集)。
//	//	〔書〕「戦後に於ける我国の経済及金融」(井上準之助)。
//	//	〔書〕「日本の金融機関 其の生成と発展」(白井規矩雄)。
//	//	〔書〕「福岡県信用組合連合会二十周年誌」(同連合会)。
//	//	〔書〕「流通経済の貨幣的機構」(山口 茂)。
//	//	〔書〕「最近の社会運動」(協調会)。
//	//	〔書〕「貧苦の人々を護りて」(山田節男)。
//	//	〔書〕「農村調査報告書」(京都帝国大学)。
//	//	〔書〕「土を語る」(有馬頼寧)。
//	//	〔書〕「農民講道館の真精神」(横尾惣三郎)。
//	//	〔書〕「農村婦人産業指導要綱」(宮崎県農会)。
//	//	〔書〕「農業報国連盟増産指導督励班報告(上)」(農業報国連盟)。
//	//	〔書〕「事変下近郊農村の実相」(協調会)。
//	//	〔書〕「事変下ニ於ケル農村対策ノ概要」(帝国農会)。
//	//	〔書〕「厚生館の地域と事業」(厚生館)。
//	//	〔書〕「水上の友」(大阪水上隣保館)。
//	//	〔書〕「紐育市の住宅問題」(大阪市社会部)。
//	//	〔書〕「借家の調査」(大阪市社会部)。
//	//	〔書〕「日本国民生活の発達」(内田銀蔵)。
//	//	〔書〕「東京清掃協会沿革史」(宇田川榎監修)。
//	//	〔書〕「施設 ^{施設} 中心 ^{中心} 虚弱児童の養護」(大西永次郎)。
//	//	〔書〕「江東愛育連盟会員名簿」(江東愛育連盟)。
//	//	〔書〕「世界の特種」(中野五郎訳編)。
//	//	〔書〕「新聞記者生活五九年」(福良虎雄)。
//	//	〔書〕「純粹行動の哲学」(ジョヴァンニ・ジュンティーレ。 三浦逸雄訳)。
//	//	〔書〕「中世社会の研究」(中村吉治)。

西 暦	年 代	項 目
1939	(昭和14年)	〔書〕「労働法と時代精神」(後藤 清)。
"	"	〔書〕「戦争と労働」(日本工業協会)。
"	"	〔書〕「日本産業労働機構と戦時労働政策」((財)協調会大阪支所)。
"	"	〔書〕「労務動態調査提要」(厚生省)。
"	"	〔書〕「増補 新工場法」(飯豊武雄)。
"	"	〔書〕「能率賃金支払法」(井上好一)。
"	"	〔書〕「戦時経済と熟練工問題」(ヘルバルト・スツツデル)。
"	"	〔書〕「産業福利年報 昭8～11.3」((財)産業福利部)。
"	"	〔書〕「東京転失業対策懇話会 — 設立趣意書・規約並役員名簿 —」。
"	"	〔書〕「各種職業従業員の就業経過調査」(東京府学務部職業課)。
"	"	〔書〕「大阪市近郊農村人口の構成(一、二)」(帝国農会)。 と労働移動に関する調査
"	"	〔書〕「技術と自然科」(P・P・エヴァルト編輯 学的世界像 永野皓二・石黒森太郎・勝谷在登共訳)。
"	"	〔書〕「ウルリセ・ウエント」(三枝博音)。 技術と文化 吉沢志雄
"	"	〔書〕「蚕絲業経済の研究」(平岡謹之助)。
"	"	〔書〕「尾西織物史」(森徳一郎)。
"	"	〔書〕「西陣織物同業組合沿革史」(大槻喬編)。
"	"	〔書〕「水利と水源」(斉藤美代司)。
"	"	〔書〕「治水事業概要」(内務省)。
"	"	〔書〕「旱魃記録」(高梁川東西用水組合)。
"	"	〔書〕「ロシヤ土木工学の研究 第一輯」(原田千三編)。
"	"	〔書〕「昭和9～14年上層流線図(航空気象図)」(中央气象台)。
"	"	〔書〕「昭和9～14年北半球の気圧の偏倚」(中央气象台)。
"	"	〔書〕「時局下農業経営及び農家経済の動向」(帝国農会編)。
"	"	〔書〕「農山漁村経済更生特別助成施設要覧」(農林省)。
"	"	〔書〕「軍需農産物生産を中心とする 農家組合の活動 — 埼玉県的事例 —」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「支那農業論(上・下)」(ロツシング・バッグ)。 三輪孝・加藤健
"	"	〔書〕「栽植企業方式論」(根岸勉治)。
"	"	〔書〕「第八回煙草定価改正の顛末」(阿知波嘉一編)。
"	"	〔書〕「農業保険の概要並諸規約」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農業保険に於ける損害評価に就いて」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「冷害関係資料(第一～四輯)」(農林省)。
"	"	〔書〕「農村と鉱工業との関係 — 労務関係を中心として —」((財)協調会福岡支所)。
"	"	〔書〕「不能耕作地解消を中心とする 農家組合の活動 — 長野県的事例 —」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「第14～16次耕地拡張改良事業要覧」(農林省。～昭和16年)。

西 暦	年 代	項 目
1939	〃	〔書〕「事变下農繁期ニ於ケル勞力需給計畫書」（滋賀県經濟部）。
〃	〃	〔書〕「時局産業地帯に於ける農業労働対策」（帝国農会）。 — 福岡県の事例 —
〃	〃	〔書〕「労働力不足地方に於ける農業共同作業」（帝国農会）。 — 佐賀県の事例 —
〃	〃	〔書〕「農業労働補給調整事業成績」（佐賀県農会）。
〃	〃	〔書〕「農業労働移動実施成績」（岩手県農会）。
〃	〃	〔書〕「事变下の農村諸問題」（（財）協調会）。
〃	〃	〔書〕「農村事情調査」（鹿児島県農会経営部）。
〃	〃	〔書〕「牧野に関する調査（三）」（秋田営林局）。
〃	〃	〔書〕「家畜保険事業小史」（帝国馬匹協会）。 — 中央畜産会 —
〃	〃	〔書〕「養蚕を中心とする農業組合の活動」（帝国農会）。 — 群馬県の事例 —

西 暦	年 代	項 目
1940	(昭和15年)	
"	1・1	<p>〔書〕「コトバ」(第二巻第一号,「国語生活の将来,シムポジウム 大陸経営とわが言語政策」)。</p> <p>(同上)「国語文化の考へ方・作り方・見方(四十枚)」(垣内松三)</p> <p>(「」)「発想の変革 — 国文学の将来 — 」(清水文雄)。</p> <p>(「」)「文学的から語学的へ — 国語教育の将来」(大久保正太郎)</p> <p>(「」)「時枝誠記氏の学説に対し所見を述ぶ」(小谷照雄)。</p> <p>(「」)「標準語の問題(前号シムポジウム補稿)」(石山脩平)。</p> <p>(「」)「標準語教育への批判に対して」(熊沢龍)。</p> <p>(「」)「垣内学説今後の動向の提案者として」(袖崎修)。</p> <p>(「」)「組織言語学に就いて」(石黒修)。</p> <p>(「」)「新刊紹介」(興水実)。</p> <p>(「」)「シムポジウム 大陸経営とわが言語政策,発表者 石黒修)。</p> <p>(「」)「大陸政策と国語問題の解決」(下村海南)。</p> <p>(「」)「外地国語教育者として」(森田梧郎)。</p> <p>(「」)「石黒氏の大陸経営とわが言語政策を読む」(福井優)。</p> <p>(「」)「大陸経営とわが言語政策に就いて」(山口察常)。</p> <p>(「」)「大局的眼光と正しい優越感」(魚返善雄)。</p> <p>(「」)「大陸経営上の言語政策の精神と技術」(岡本千万太郎)。</p> <p>(「」)「国語醇化を一大国民運動とせよ」(鶴見祐輔)。</p> <p>(「」)「言語による性格改造」(松宮一也)。</p> <p>(「」)「要は人の問題」(大志万準治)。</p>
"	1・11	津田左右吉,東京帝大講師就任を機に右翼からの攻撃が高まり,この日,早大教授を辞任。
"	1・14	阿部信行内閣,陸海軍の支持を失って総辞職。
"	1・16	米内光政内閣成立(外相有田八郎)。
"	1・19	毛沢東,「新民主主義論」発表。
"	1・21	高宗武。陶希聖,「香港大公報」に日華協議書の内容暴露。
"	"	英国軍艦,千葉県沖で浅間丸を臨検し,ドイツ船客21名を引致,右翼の反英運動再び高まる。
"	1・24	青島で,汪・王・梁三者会談。
"	1・30	〔日〕 黒河省,「黒河省学費貸与規程」公布。
"	1・	〔日〕 青島,各学校の教職員に対する日本語講習を実施。
"	"	〔日〕 台湾国語研究会,特別委員会を開催。
"	"	〔書〕「国語より見た台湾教育雑感」(上野広二,国語教育)。

西 暦	年 代	項 目
1940	1・	〔書〕「英語学辞典」(市河三喜編, 研究社)。
"	"	〔書〕「支那事典」(長野朗編著, 建設者)。
"	"	〔書〕「明解独和辞典」(石原質編, 南山堂。「Deutsch-Japanisches Taschen wörterbuch」)。
"	"	〔書〕「日本経済史辞典」(経済史研究会編, 日本評論社。3冊)。
"	2・ 1	〔書〕「コトバ」(第二巻第二号, 「国語と国民性, シンポジウム 国語教育に於ける具体化の問題」)。 (同上)「わが国民性と国語改善の方針」(斎藤清衛)。 (「」)「国語の性質を再検討する必要」(湯山清)。 (「」)「国語と国民性(三十枚)」(菊沢季生)。 (「」)「国民的教材の研究」(奥田勝利)。 (「」)「国語形成力下に位置することもへの態様」(菱伊新一郎)。 (「」)「国語教育に於ける国民性陶冶の方法」(中田憲久)。 (「」)「言語と民族文献抄」(興水実)。 (「」)「言語の優劣に就いて」(松原秀治)。 (「」)「シンポジウム 国語と国民性との関聯及びこれが国語教育に於ける具体化の問題 提案者 石井庄司)。 (「」)「如何なる古典を選べぶきか」(東条操)。 (「」)「統合の精神」(石山脩平)。 (「」)「機能と体制に於ける卓見と固定」(西原慶一)。 (「」)「具体化に於ける二三の問題」(篠原利逸)。 (「」)「「標準語論」に就いて — 主として立場に関して大西雅雄氏に問ふ」(中尾清)。 (「」)「拙稿「標準語論」に対する中尾氏の問に答へる」(大西雅雄)。 (「」)「大陸に対する日本語政策の諸問題」(石黒修)。
"	2・ 2	民政党斎藤隆夫, 衆議院で支那事変への疑義表明(3月7日除名)。
"	2・ 5	〔教〕 文部省, 専門学務局に科学課を設置。'42年3月24日科学官を置く。
"	"	〔書〕「国語学論考」(湯沢幸吉郎, 八雲書林)。
"	2・ 6	日英両国, 「浅間丸事件」公文発表。
"	"	山形県で村山俊太郎ほか2人, 検挙, この後, 全国で生活綴方, 「生活学校」関係教員300人検挙。

西 暦	年 代	項 目
1940	2・6	〔日〕 新中央政府，中央に教育部，各省に教育庁を置く。
"	2・7	米中間に錫借款協定。
"	2・10	津田左右吉，「古事記及日本書記の研究」「上代日本の社会及思想」「日本上代史研究」発禁。3月8日出版法違反で著者と出版者岩波茂雄起訴。
"	2・11	台湾・朝鮮に「改姓名・改名許可制度」発足。
"	"	独ソ通商協定調印。
"	2・14	今井参謀，香港で「宋子良」と会談（桐工作の発端）。
"	2・16	厚生大臣吉田茂，議会答弁で労働組合の自発的解消を要望。
"	2・19	〔日〕 台湾国語研究会「文献蒐集整理委員会」会議開催。
"	2・20	〔日〕 山口喜一郎，北京興亜院連絡部主催日本語教授法講習会指導（～26日）。3月1日～3月3日天津で指導。
"	2・23	〔日〕 台湾国語研究会「語彙表現様式調査委員会」第一回協議会開催。
"	"	楊靖宇，日満軍警により射殺。
"	2・29	〔国〕 陸軍，「兵器名称簡易化に関する規定」発表（兵器名称用制限漢字一級九五九，二級二七六，計一二三五）。
"	"	〔日〕 台湾国語研究会「文献蒐集整理委員会」会議開催。
"	2・	〔書〕「台湾教育」（第四五一号）。 （同上）「巻頭言 国語研究会の誕生」。 （"）「中等国語教育と短歌」（秋月豊文）。
"	"	〔書〕「支那に対する日本語普及と教科書編纂」（石黒修，「教育」2月号）。
"	"	〔書〕「地名人名英独仏語対照表」（斎藤阿具，興文社）。
"	"	〔書〕「校文日本訳語」（浅井恵倫校，三省堂）。
"	"	〔書〕「興 亜 第1巻1号～2巻3号」（神田孝一編，東京・興亜団体联合会。月刊。昭和15年2月～16年3月）。
"	3・1	インド国民会議派，全インド不服従運動開始を決議。
"	"	〔書〕「ソシュール言語学原論」（小林英夫，岩波書店）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第二巻第三号，「再吟味号，シムポジウム 話方教育の動向と対策」）。 （同上）「敬語と国民性」（今泉忠義）。 （"）「国語漢字遣ひ法」（橘純一）。 （"）「文法と文体」（辰宮栄）。

西 暦	年 代	項 目
1940	3・1	<p>(#) 「時枝誠記氏の学説に対し所見を述ぶ」(小谷照雄)。</p> <p>(#) 「シムボジウム再吟味 語法教授について」(松尾捨治郎)。</p> <p>(#) 「シンボジウム再吟味 語法は消化吸収して」(木枝増一)。</p> <p>(#) 「シムボジウム再吟味 小学校語法教授を読んで」(徳田浄)。</p> <p>(#) 「シムボジウム再吟味 形象理論について(書簡)」(百田宗治)。</p> <p>(#) 「シムボジウム再吟味 標準語教育シムボジウム」(神保格)。</p> <p>(#) 「シムボジウム再吟味 標準語シムボジウム読後感」(山崎謙)。</p> <p>(#) 「反響「朝鮮の現状」鈴木隆盛,「読方教室の形象論へ」芦沢清,「標準語シムボジウム」清野高堂,「美しい日本語を」川上政治,「地方的性格」青山栄)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 話方教育の動向と対策」(提案者 興水実)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 話せない人を作る教育」(柳田国男)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 話方指導と話言葉」(佐久間鼎)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 話方の道」(原勝)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 話方の道を拓く」(冢永英吉)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 「音読から「黙読」へ」(大西雅雄)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 自己表現と社会的義務意識」(熊沢龍)。</p> <p>(#) 「国語と国民性 ― 諸家の御意見を拝見して」(石井庄司)。</p>
"	3・7	衆議院, 対中国政策を批判した斎藤隆夫の除名を可決。3月9日社会大衆党斎藤除名に反対した片山哲らを除名。
"	"	米・中間に「錫借款協定」(米国, 錫を担保に蒋政権に2000万ドル新借款供与)。
"	3・9	衆議院, 「聖戦貫徹決議案」可決。
"	3・11	[日] 昭和十四年度国語講習所指導者講習会開催(〜20日。主催台湾総督府・台湾教育会, 会場台湾総督府国民精神研修所, 講習員61名)。
"	3・12	汪兆銘, 上海で「和平建国宣言」を発表。3月30日「国民政府」の南京遷都を宣言。新中央政府成立(主席汪兆銘)。
"	"	モスクワでソ連・フィンランド講和条約調印(フィンランド, カレリア・ヴィボルク等を割譲)。
"	3・20	[日] JOAK海外放送, 「日本語読本」などの著者ヴァカリー氏を講師として, 南北米へ日本語講座を放送, 6月まで。
"	"	ドラディエ内閣総辞職し, レノー内閣成立。
"	3・25	各派議員100人余, 聖戦貫徹議員連盟を結成。
"	3・29	[教] 「義務教育費国庫負担法」[法律]公布(俸給の半額を国庫負担とす

西 暦	年 代	項 目
1940		る)。
"	3・29	〔書〕「独和辞典」(木村謹治・相良守峰共著,博文館。「Deutsch-Japanisches Taschen Wörterbuch」)。
"	3・30	ハル米国務長官,重慶政府支持を表明。
"	"	汪兆銘の「国民政府」南京還都。
"	"	〔書〕「支那民俗誌」(永尾竜造。〜'42・7・30。6冊)。
"	"	〔書〕「東亜研究叢書」(リヒトホーフェン「支那」など。〜'44・3・30。8冊。岩波書店)。
"	"	〔書〕「日本文化の問題」(西田幾多郎)。
"	3・31	〔書〕「近代日朝関係の研究 上下」(田保橋潔執筆,朝鮮総督府中枢院)。
"	3・	〔日〕近代科学図書館の調査(華北,一般学習所32種,読本58種,文法書26種,会話書29種,計145種,調査で落ちているもの,その後,新刊されたもの86種,総計231種)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四五二号)。 (同上)「左横書き論」(木村万寿夫)。 (")「公学校用国語読本教材研究四」(北二師附公読方研究部)
"	"	〔書〕「公学校国語読本教授細目並に教材研究」(台北第一師範附属小学校)。
"	"	〔書〕「日語一月通」(世界言学社編訳,世界書局,民国廿八年十二月初版,民国廿九年三月再版)。
"	"	〔書〕「日語之門」(湯享嘉,啓明書局,民国廿七年十二月初版,民国廿九年三月再版)。
"	"	〔書〕「新聞語辞典」(千葉亀雄編,栗田書店)。
"	"	〔書〕「和独辞典」(木村謹治著,博文館。「Japanisch-Deutsches Wörterbuch」)。
"	4・1	〔日〕「旅順高等学校規則」〔関東局令第二十四号〕(「旅順高等学校規則左ノ通定ム 旅順高等学校規則 第一章総則 第一条 旅順高等学校ニハ高等科ノミヲ置ク 第二条 旅順高等学校ニ於テハ高等学校令第一条ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ皇道精神ノ涵養ト国民道徳ノ充実トニカメ何レノ学科ニ於テモ常ニ之ニ留意シテ教授スベシ 第二章 学科課程及教科用図書 第五条

西 暦	年 代	項 目
1940		<p>国語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓発シ文学上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス 国語及漢文ニ在リテハ近世、近古及中古ノ国文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ボシ又普通ノ漢文ヲ講読セシメ国語文法及国文学史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシメ理科ニ在リテハ近世及近古ノ国文竝ニ普通ノ漢文ヲ授ケ習熟セシムベシ」）。</p>
"	4・1	<p>〔教〕「大学規程中改正」〔朝鮮総督府令第七十九号〕（「大学規程中左ノ通改正ス 第一条ヲ第二条トシ以下順次繰下グ 第一条 大学ハ国家ニ須要ナル學術ノ理論及応用ヲ教授シ竝ニ其ノ蘊ヲ攻究シ特ニ皇国ノ道ニ基キテ国家思想ノ涵養及人格ノ陶冶ニ留意シ以テ国家ノ柱石タルニ足ルヘキ忠良有為ノ皇国臣民ヲ鍊成スルニカムヘキモノトス」）。</p>
"	"	<p>〔教〕「京城帝国大学予科規程中改正」〔朝鮮総督府令第八十号〕（「京城帝国大学予科規程中左ノ通改正ス 第一条中「国民道德ノ充実ニカムルヲ以テ」ヲ「皇国ノ道ニ基キテ国体觀念ノ涵養及人格ノ陶冶ニ留意シ以テ忠良有為ノ皇国臣民ヲ鍊成スルヲ」ニ改ム」）。</p>
"	"	<p>〔教〕「水原高等農林学校附置農業教員養成所規程中改正」〔朝鮮総督府令第八十八号〕（「水原高等農林学校附置農業教員養成所規程中左ノ通改正ス 第一条中「農業教員タルベキ者ヲ養成スル所トス」ヲ「特ニ皇国ノ道ニ基キテ国体觀念ノ涵養及人格ノ陶冶ニカメ農業教員タルベキ者ヲ養成スルコトヲ目的トス」ニ改ム第三条第二項ヲ削ル」）。</p>
"	"	<p>特命全權大使阿部信行任命（23日、南京着）。</p>
"	"	<p>重慶で国民参政会第五次大会開く（国共両党・国民党左右兩派對立）。</p>
"	"	<p>〔書〕「コトバ」（第二卷第四号、「小学国語読本の検討と国民学校案への註文、シムボジウム提案者 石山脩平」）。</p> <p>（同上）「皇室敬語の用法について」（三宅武郎）。</p> <p>（"）「初等教育に於ける語法教授」（今泉忠義）。</p> <p>（"）「国語教授上の一大問題」（湯山清）。</p> <p>（"）「送仮名遣の問題について」（菊沢季生）。</p> <p>（"）「漢字の問題」（岡崎常太郎）。</p> <p>（"）「語法教授の問題」（太田行蔵）。</p> <p>（"）「新読本に求める文学性」（名取堯）。</p> <p>（"）「日本語読本としての諸問題」（石黒修）。</p> <p>（"）「国語教育者の問題として」（西原慶一）。</p>

西 暦	年 代	項 目
1940		
"	4・4	〔日〕 閣議決定、「教職員の外国及び外地派遣に関する件」。
"	4・5	〔日〕 間島省、「間島省初等教育教輔ノ件」公布。
"	4・9	独軍、ノルウエーを急襲。
"	"	独軍、デンマークを無血占領。
"	4・12	閣議、科学動員計画要綱を決定。
"	4・13	〔日〕「関東局ニ在満教務部ヲ設置スル等ノ件」〔勅令第二百六十八号、昭和十五年四月一五日公布〕（「第一条 帝国ガ満州国ニ於テ行フ神社及教育ノ行政ニ開スル事務ヲ掌ラシムル為関東局ニ在満教務部ヲ置ク」）。
"	4・14	〔日〕 日独文化協会、第一回日独学徒大会を開催（～4・21。外務・文部省後援）。
"	4・15	海軍、バラオ集結開始。
"	"	〔日〕 日本語教師養成講習会（～6月21日。毎週月水金3回。3月30日～6月30日課外7.00～9.00。会場芝公園日語文化学校）。
"	4・17	米國務長官ハル、蘭印の現状維持に関して対日警告を表明。
"	4・19	〔日〕「満州国ニ於ケル初等学校ノ在学者及卒業生ノ朝鮮内ノ学校ヘノ入学転学ニ関スル件中改正」〔朝鮮総督府令第百八号〕（「昭和十四年朝鮮総督府令第三十二号（満州国ニ於ケル初等学校ノ在学者及卒業生ノ朝鮮内ノ学校ヘノ入学ニ関スル件）中左ノ通改正ス 第一条中 「普通学校」ヲ「小学校」ニ改ム 附則 本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行前ニ於テ在満学校組合令ニ依ル学校ノ設立シタル普通学校ヲ卒業シタル者ハ朝鮮教育令ニ依リ設立シタル学校ヘノ入学転学ノ関係ニ付之ヲ在満学校組合令ニ依ル学校組合ノ設立シタル小学校ノ卒業生ト看做ス」）。
"	4・20	珠江を制限附解放。
"	"	〔書〕「現代日本語法の研究」（佐久間鼎，厚生閣）。
"	4・24	「陸軍志願兵令」〔勅令〕公布。
"	4・30	ドイツ、ノルウエーのドンバス占領。国王ハーコン7世、ロンドンに亡命。5月5日ロンドンにノルウエー亡命政権成立。
"	4・	〔日〕 財団法人日華学会、留学生教育部を特設。
"	"	〔日〕 青島で、小学生の日本語学会を開催。
"	"	〔日〕 新竹師範学校、屏東師範学校設置。
"	"	〔日〕 国語解者調（4月末現在、公学校生徒数582615，同上卒業生累計616394，国語普及施設生徒数763263，同上修了者累計855631，合

西 暦	年 代	項 目
1940		計2817903, 本島人口5524990, 国語解者百分比51.00)。
"	4・	〔日〕 4月末, 台湾における公学校数八百二十余校, 児童数六十三万余人就学歩合, 男女平均53.15。
"	"	〔教〕「小学国史尋常科用上巻」使用開始(巻頭に「神勅」掲載。「下」41年4月)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四五三号)。 (同上)「国語問題について」(安藤正次)。 (「」)「連濁音の読みについて」(木村万寿夫)。 (「」)「国語国字運動の側から眺めた国語国字問題のあらまし(上)(下)」(土屋寛。～四五四号)。 (「」)「長編教材の取扱」(台北市朱厝崙公学校国語研究部)。 (「」)「俳句鑑賞の一過程」(阿川燕城)。
"	"	〔書〕「初等国語読本 卷三」(教師用。朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「最新日語会話」(金文亮・魯学晋共著, 上海琳琅書店, 民国廿九年四月初版)。
"	"	〔書〕「文学」(特輯「東亜に於ける日本語」)。 (同上)「日本語の世界的進出と教授法の研究」(大出正篤)。
"	"	〔書〕「江戸文学辞典」(暉峻康隆, 富山房)。
"	5・ 1	ヒトラー, 西部戦線攻撃開始を指令(黄色作戦)。5月10日, 独軍, 北仏・オランダ・ベルギー・ルクセンブルクに奇襲攻撃開始)。
"	"	〔書〕「コトバ」(第二巻第五号, 「文章批評の基準」)。 (同上)「放送用語と外国音転写の問題」(佐藤孝)。 (「」)「綴方教育上の言語問題」(渡部須賀雄)。 (「」)「一頁評論 文章と文学」(大西雅雄)。 (「」)「国民科国語の観点」(志波末吉)。 (「」)「全然賛成, 直ちにも実施を」(岩下吉衛)。 (「」)「国民学校国語科シンポジウムについて」(石山脩平)。 (「」)「『言語形象性を語る』」(久松潜一)。 (「」)「凝集する力」(清水文雄)。 (「」)「新刊紹介」(興水実)。 (「」)「話方教育雑感」(井上一男)。 (「」)「義太夫の文句と発音問題」(岡田道一)。 (「」)「シムポジウム 文章批評の基準 提案者 名取堯」

西 暦	年 代	項 目
1940		<p>(#)「全世界を得るともその生命を失はば何の益かあらん」(栗山理一)。</p> <p>(#)「作品批評の基準」(吉田精一)。</p> <p>(#)「批評の論理と倫理」(山崎謙)。</p> <p>(#)「文章批判の基準」(小口優)。</p> <p>(#)「外地版新設について 附情報」。</p> <p>(#)「日本語の語形成について」。</p>
"	5 ・ 3	<p>[教]「朝鮮総督府中堅青年修練所規程中改正」[朝鮮総督府令第二百十号]</p> <p>(「朝鮮総督府中堅青年修練所規程中左ノ通改正ス 第五条 修練期間ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル修練期間ヲ分チテ五期トス各期ノ修練日数ハ必要ニ応ジ朝鮮総督ノ承認ヲ得テ所長之ヲ定ム 第七条 各期ノ修練人員ハ朝鮮総督ノ承認ヲ得テ所長之ヲ定ム」)。</p>
"	5 ・ 7	[日] 満州国民生部,「師道学校進学志願者学資支給規程」公布。
"	5 ・ 10	ドイツ軍,北仏・オランダ・ベルギー・ルクセンブルグに奇襲攻撃。
"	"	<p>チエンパレン内閣総辞職。チャーチル連合内閣(保守・労働・自由)成立。</p> <p>12月23日イーデン外相就任。</p>
"	"	英外務次官,中国新政府否認を声明。
"	5 ・ 11	外相有田八郎,蘭印の現状維持を交戦国駐日大公使に申し入れ,蘭・米・英・仏・独,同意を表明(～5月22日)。
"	5 ・ 14	<p>独軍,セダン付近でマジノ線突破。5月17日独軍,ブリュッセルを占領。</p> <p>5月27日英軍,ダンケルク撤退を開始(6月4日完了)。</p>
"	5 ・ 15	オランダ軍,降伏文書に調印。
"	5 ・ 18	[日] 日本語教科用図書調査会総会開催。
"	5 ・ 22	[書]「日本語の大陸進出」(文部省図書局,「週報」)。
"	5 ・ 25	[書]「国語問題と英語問題」(藤村作,白水社)。
"	5 ・ 28	<p>ベルギー国王レオポルト3世,降伏文書に署名。ベルギー内閣,対独抗戦を声明。5月29日ロンドンに亡命政権樹立。</p>
"	"	谷次官,英大使に援蔣政策放棄を申し入れ。
"	5 ・	[日] 5月現在,ハワイの日本語教師631名(非市民314名,市民317名)。
"	"	<p>[書]「台湾教育」(第四五四号)。</p> <p>(同上)「最近の国語問題について」(西岡英夫)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1940		(同上)「言葉の鑑賞」(鈴木篤三郎)。
"	5・	〔書〕「初等国語読本実践指導精説巻一」(和田重則・久保次郎, 朝鮮公民教育会)。
"	"	〔書〕「現代日語会話」(吳主恵, 日本東京文求堂, 昭和十一年六月発行昭和十五年五月七版)。
"	"	〔書〕「カジトカニ」(三通書局, 三通書局, 民国廿九年五月初版)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本の発音・アクセント及朗読巻一, 二(合訂)」(川見駒太郎)。
"	"	〔書〕「満州国語」創刊(満州国語研究会。日語版・満語版の2種)。
"	"	〔書〕「日支英対照興亜新辞典」(高野辰之編, 成興館)。
"	"	〔書〕「言語教育概論」(興水実, 東京神田晃文社)。
"	"	〔書〕「懷中実用新辞典」(松田武夫監修, 富文館)。
"	"	〔書〕「類語活用必携」(三省堂編輯所編, 三省堂)。
"	6・1	木戸孝一を内大臣に任命。
"	"	〔書〕「コトバ」(第二巻第六号, 「国民学校制と教師, シムポジウム 師範学校の国語科に臨む」)。 (同上)「国民学校制と教師の教養問題」(梅根悟)。 (「」)「国民学校制と教育学及び教育実家」(大野静)。 (「」)「国民学校教師の問題」(上田庄三郎)。 (「」)「国民学校国語科指導者への希望」(今泉忠義)。 (「」)「国民学校教師と国語の知識」(菊沢季生)。 (「」)「国民科国語と教師」(大久保正太郎)。 (「」)「言葉の力」(片山敏彦)。 (「」)「「文芸批評の基準」について」(名取堯)。 (「」)「同人の頁 同音異義語」(松原秀治)。 (「」)「新刊紹介」(興水実)。 (「」)「エムポジウム 師範学校の国語科に望む 提案者 大西雅雄」。 (「」)「考へ方の転換」(留岡清男)。 (「」)「本立って道生ず」(石黒魯平)。 (「」)「考へ方の転換」(留岡清男)。 (「」)「生きた言葉を教科書として」(岡崎常太郎)。 (「」)「師範学校の国語科について」(保科孝一)。 (「」)「日本語の語形成とアクセント形成(続)」(三宅武郎)。

西 暦	年 代	項 目
1940		
"	6・9	ノルウェー国王、対独戦中止を命令。6月10日ノルウェー軍降伏。
"	6・10	イタリア、英・仏に宣戦布告。南仏侵入。
"	"	有田外相、グルー米大使と国交調整の会談。
"	6・11	聖戦貫徹議員連盟、各党党首に解党を進言。
"	"	仏政府、パリからツールに移転。
"	6・12	天津英租界問題に関し、日・英間仮協定成立。6月19日公文交換。
"	"	友好関係存続と相互領土尊重に関する日本・タイ間条約調印。12月23日実施。
"	6・13	米國務省、日本軍の重慶爆撃非難。
"	"	仏軍、パリを撤退。6月14日独軍、パリに無血入城。仏政府ボルドーに移転。
"	6・14	有田外相、各国大使に在重慶各国人の撤退を勧告。
"	6・16	ベタン元師、レノーに代り仏主席に就任。6月17日独軍に休戦提議。
"	"	ソ連、エストニア・ラトビアに最後通牒。6月17日ソ連軍、両国に進駐。
"	6・17	仏、独に降伏。
"	6・18	ドゴール將軍、ロンドンからの放送で対独抗戦継続を呼びかける。自由フランス委員会を設立（6月27日英国承認）。
"	6・19	仏大使、谷次官の仏印經由援蒋行為への抗議に、仏印総督が17日以降援蒋物資輸送停止を決定と回答。日本、停止状況監視員派遣を申し入れ。
"	6・20	〔日〕 文部省主催第一回国語対策協議会開催（～21日。次の六項を決議「一 国語ノ調査統一機関設置ノ件 日本語ノ海外普及ノタメニハ日本語ノ整理統一ヲ以テ喫緊ノ事トナス宜シク文部省ニ強力ナル国語ノ調査統一機関ヲ新設シテ速ニ国語問題ノ解決ヲ図ラレタシ 一 日本語教育連絡機関設置ノ件 一 日本語指導者養成ノ件 一 標準日本語辞典編纂ノ件 一 日本歌詞、楽曲撰定ノ件 一 レコード並ニ発声映画製作ノ件」）。
"	"	〔日〕 国際学友会第十回理事会、財団法人に改組を承認決議。
"	"	天津英仏租界封鎖解除。
"	6・22	〔教〕 文部省、修学旅行の制限を通牒（'43年以後全面的に中止）。
"	"	コンピェーヌで独仏休戦協定調印。6月24日ローマで伊仏休戦協定調印。7月2日仏政府、非占領区のビシーに移転。
"	6・23	〔日〕 満州国語学力検定試験〔日本語〕（6月29日ロシア語、6月30日蒙古語、7月7日満州語）。
"	6・24	外務次官、英大使にビルマルート閉鎖及び香港経由の援蒋物資停止を申し入れ。
"	"	近衛文麿、枢密院議長を辞任。新体制運動推進の決意を表明。
"	6・25	大本営、仏印の援蒋物資輸送禁絶監視員を陸・海・外3省より40人派遣す

西 暦	年 代	項 目
1940		ると発表。6月29日团长西原一策少将ハノイ着。
"	6・26	満州国皇帝来日。
"	"	ソ連、ルーマニアにベッサラビア、北ブコビナの割譲要求の最後通牒。6月28日～7月1日ソ連軍、両地方を占領。
"	6・30	〔国〕 国語教育学会総会（～7月1日。荒木文部大臣、「新東亜建設ニ於ケル国語教育ノ使命如何」を諮問、答申中に「標準語ノ確立ヲ始メ、国語教育発展ノ根柢トナルベキ国語ニ関スル諸問題ヲ速カニ解決スル為、強力ナル調査統一機関ヲ設置スルコト」の一項が挙げられた）。
"	6・	〔教〕 文部省、絶対音感教育を採用、ドレミ階名唱法をハニホ名唱法に改正。'41年4月より実施。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四五五号）。 （同上）「形容詞の一側面」（有福友好）。 （"）「公学校用国語読本巻七研究（一～三）」（北二師附公読方研究部。～四五八）。
"	"	〔書〕「全日本アクセントの諸相」（平山輝男、育英書院）。
"	"	〔書〕「支那問題文献辞典」（馬場明男著、慶応書房）。
"	"	〔書〕「日華会話辞典」（三省堂編・刊）。
"	"	〔書〕「和仏大辞典」（セスラン著、丸善。「Dictionnaire Japonais-Français Par G. Cesselin, M. A」）。
"	"	〔書〕「満鐵資料彙報 第5巻6号」（〔満鐵〕調査部資料課編、南満洲鐵道。昭和15年6月）。
"	7・1	国民党七中全会開く（～7月7日。連ソ容共派の国共関係調整案を否決）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第二巻第七号、「日本語の性格、シンポジウム 日本語の対支進出と教授者養成問題」）。 （同上）「言語に対する二の立場」（時枝誠記）。 （"）「読書力、構文力について」（松原秀治）。 （"）「新井白石の所謂方言について」（松尾捨次郎）。 （"）「日本語の超人称的性格」（熊沢龍）。 （"）「日本語の研究と文字の問題」（菊沢季生）。 （"）「日本の言語と学問」（岡本千万太郎）。 （"）「師範学校国語科の進路」（大西雅雄）。 （"）「同人の頁 独善と追隨」（興水実）。 （"）「書評」（大西雅雄・興水実）。

西 暦	年 代	項 目
1940		(同上) 「シムボジウム 日本語の対支進出と教授者養成問題 提案者 松宮一也」。
		(#) 「支那は外国である」 (魚返善雄) 。
		(#) 「日本語教師は言語学を学べ」 (黒野政一) 。
		(#) 「松宮氏の提言に対して」 (倉野憲司) 。
		(#) 「外地版 満州の日本語問題」 (松本重雄) 。
"	7・2	米大統領, 「国防法」に署名。石油・屑鉄以外の軍需資材に輸出許可制施行。
"	7・3	英艦隊, アルジェリアのオラン港停泊中の仏艦隊を撃滅。7月5日ビシー仏政府, 対英国交断絶。
"	7・4	陸軍首脳部, 米内内閣打倒のため, 陸相畑俊六に単独辞職を勧告。
"	7・6	社会大衆党解党。
"	7・7	中共中央, 抗戦三周年宣言を発表, 八路軍, 新四軍が在中国日本軍の半数以上と戦闘中と声明。
"	7・8	[日] 紀元二千六百年記念東亜教育大会開会式 (汪政権代表載英夫ら参加)
"	7・10	内務省, 左翼の出版物に対する弾圧を一段と強化。30余社の出版物130余点を発禁, 同時に紙型を押収, 古本屋在庫の検索にも及ぶ。
"	7・11	ルブラン仏大統領辞職。ビシーの議会, ベタン元帥を独裁権をもつ国家主席に選出 (副主席ラヴァル。第三共和制終わる) 。
"	7・12	英大使, 有田外相に3か月間ビルマルルート閉鎖を回答。7月17日発表。
"	7・15	満州国, 建国廟創建 (長春) 。
"	7・16	畑陸相の単独辞職により, 米内内閣総辞職。
"	"	政友会久原派解党。
"	7・17	米内内閣総辞職。
"	"	近衛文麿に組閣命令。
"	7・19	近衛文麿・松岡洋右・東条英機・吉田善吾の首・外・陸・海の4相候補会合 国策を協議 (「荻窪会談」) 。
"	"	[国] 「国語審議会官制」改正。
"	"	ヒトラー, 国会で英国に和平を提唱。7月22日英国拒否。
"	7・21	バルト3国にソビエト共和国復活。7月22日人民議会, ソ連那へ加盟を決定。
"	7・22	第二次近衛文麿内閣 (外相松岡洋右) 。
"	"	[教] 東京帝大教授橋田邦彦, 文相に就任。
"	7・26	閣議, 「基本国策要綱」を決定 (大東亜新秩序・国防国家の建設方針) 。
"	"	米大統領, 石油・屑鉄を輸出許可制適用品目中に追加。
"	7・27	大本営・政府連絡会議, 「世界情勢の推移に伴う時局処理要綱」を決定 (武力行使を含む南進政策決まる) 。

西 暦	年 代	項 目
1940	7・27	スパイ容疑で、英人多数逮捕。7月29日収容中のロイター通信員コック自殺。
"	7・30	政友会中島派解党。
"	"	汎米外相会議、共同防衛決議を採択（ハバナ宣言）。
"	7・31	米国、航空用ガソリンの西半球以外への輸出を禁止（対日輸出禁止）。8月2日駐米大使堀内謙介抗議。
"	"	東京憲兵隊、救世軍植村司令官ら7人をスパイ容疑で取調。9月23日救世軍、救世団と改称。
"	7・	〔書〕「 ^{自習} _{適用} 基本日本語読本」（張駿嶽、三通書局、民国廿九年七月初版）
"	"	〔書〕「現代日語会話」（程柳枝、上海読者書局。民国廿七年六月初版、民国廿九年七月七版）。
"	"	〔書〕「医薬処方語羅和羅辞典」（朝日奈泰彦、清水藤太郎共著、南江堂）。
"	"	〔書〕「例解化学英語新辞典」（立田謙一著、太陽堂）。
"	"	〔書〕「山東文化第1巻1，2号」（知久武雄編、青島・山東文化協会。年6回刊。2冊。昭和15年7月～9月）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四五六号）。 （同上）「公学校用国語書方手本第四学年用上下編纂要旨及教材解説（一）」（加藤春城。～四五七号）。 （"）「口語法指導に於ける言語文字の訓練（一）～（四）」（木村万寿夫～四六一号）。 （"）「本島訛音の国語音韻史的考察」（吉原保）。 （"）「口語文体の文に現はれる誤り易い助動詞に就いて」（鈴木篤三郎）。
"	8・1	「基本国策要綱」〔閣議決定〕。
"	"	松岡外相、仏大使アンリに日本軍隊の仏印通過及び仏印飛行場の使用などを要求。
"	"	〔書〕「コトバ」（第二巻第八号、「敬語法の問題、シムポジウム 給ふ・給ふる考」）。 （同上）「語法体制における敬語法の地位」（佐久間鼎）。 （"）「敬語を制限する語調」（黒野政市）。 （"）「「ます」と「です」（三宅武郎）。 （"）「「御」の性格」（土屋寛）。

西 暦	年 代	項 目
1940		<p>(同上)「チェンバレンの敬語論」(黒野政市)。</p> <p>(「)「日本語の語形成とアクセント形成(続)」(三宅武郎)。</p> <p>(「)「日本の言語と学問(続)」(岡本千万太郎)。</p> <p>(「)「満州国に於ける日本語教授の現状」(高萩精玄)。</p> <p>(「)「台湾の国語教育」(永井洸)。</p> <p>(「)「朝鮮の国語教育について」(洪雄善)。</p> <p>(「)「満州国語教育界の進むべき道」(小林藤次郎)。</p> <p>(「)「外地版・情報(石黒修編)」。</p> <p>(「)「官か私か ― 対支日本語教授者養成問題について」(松宮一也)。</p> <p>(「)「シムボジウム 給ふ・給ふる考 提案者 今泉忠義)。</p> <p>(「)「今泉式の考説に就いて」(山岸徳平)。</p> <p>(「)「意味内容の変化」(藤田徳太郎)。</p> <p>(「)「給ふ・給ふる考を読んで」(松尾捨次郎)。</p> <p>(「)「給フ・給フルについて」(笹月清美)。</p> <p>(「)「敬語分化の問題」(浅野信)。</p>
"	8・2	〔教〕 橋田文相、国体の本義発揚と科学技術振興の兩立を説く。
"	"	八路軍40万、華北で大規模な遊撃戦(百团大戦)を開始(〜12月)。
"	8・5	民政党の解党で全政党終了。
"	8・7	日本銀行の満州中央銀行に対する1億円の借款供与契約成立。
"	8・8	解党した諸党派、新体制促進同志会を結成。
"	"	米大使、日本の対仏印軍事要求に関し松岡外相に警告。
"	8・10	朝鮮諺文新聞「東亜日報」「朝鮮日報」廃刊。
"	8・15	民政党解党。
"	8・20	〔書〕「 ^{言文} 対照 漢訳日本文典(訂正第四十版)」(松本亀次郎、国文堂書局総発售所上海日本堂書店)。
"	8・22	満州国、「建国忠霊廟創建ニ関スル件」公布。
"	8・25	賀川豊彦、渋谷憲兵隊に反戦的平和論で拘引。(’43年5月27日神戸で、11月3日東京憲兵隊で留置取調を受ける。’44年10月20日宗教使節として中国へ赴く)。
"	"	仏大使、日本側要求につき仏印現地交渉で事実上承認する旨回答。
"	8・27	〔日〕 音声教育講演会(音声教育研究会主催、講師神保格「国語学習の諸問題に就いて」、朝鮮京城)。
"	8・28	蘭領インド特派大使に商相小林一三を任命。8月30日出発、9月12日バ

西 暦	年 代	項 目
1940		タビア着。
"	8・30	松岡外相、アンリ大使間に北部仏印進駐に関し公文交換。
"	"	ルーマニア、独伊の圧力でハンガリーへの一部領土割譲に同意。
"	8・	〔日〕 東亜学校、文部省令第三十五号により、同校高等科卒業者は大学入学に関し、高等学校高等科卒業と同等の資格を得る。
"	"	〔日〕 青島、小学教員の日本語講習会を8週間余寄宿訓練によって実施（日語教員は特別班として再教育）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四五七号）。 （同上）「形容動詞を立てない教科書のそれらの語の取扱ひに就て」（鈴木篤三郎）。
"	"	〔書〕「国語運動」 （同上）「台湾での文字普及運動と国字問題」（土屋寛）。
"	"	〔書〕「日本語の諸問題」（石黒修，修文館）。
"	9・1	〔書〕「コトバ」（第二巻第九号，「再吟味・敬語法（続），シンポジウム 国文学は如何に進むべきか」）。 （同上）「敬語法私見」（新村出）。 （"）「敬語法の成立と発達」（菊沢季生）。 （"）「文章の敬語」（三宅武郎）。 （"）「文章分類について一つの立場」（三尾砂）。 （"）「再吟味 国語と国民性」（熊沢龍）。 （"）「再吟味 言葉の原型性」（大場俊助）。 （"）「再吟味 大切な基礎工事」（湯山清）。 （"）「再吟味 日本語普及問題の再吟味」（松宮一也）。 （"）「再吟味 話し方教育の反省」（廣沢栄次）。 （"）「シンポジウム 国文学は如何に進むべきか 提案者 池田勉」。 （"）「ある風潮に対して」（池田亀鑑）。 （"）「国文学の前進」（杉浦正一郎）。 （"）「国文学将来の問題二つ」（井本農一）。 （"）「現代の学的組織が緊要」（斎藤清衛）。 （"）「外地版 日語教授雑感」（国府種武）。 （"）「情報」（石黒修編）。 （"）「国語運動の行き方」（岡田道一）。

西 暦	年 代	項 目
1940		(同上) 「平山輝男著『全日本アクセントの諸相』」(吉町義雄)。 (#) 「清水文雄著『女流日記』と大西雅男著『国語音声論』」 (興水実)。 (#) 「日本語の語形成とアクセント形成(基本動詞の名詞化アクセント)」(三宅武郎)。
"	9 ・ 2	[日] 「日語教育の諸問題に就いて」(講師神保格, 満州国民生部・満州国語研究会共同主催)。
"	9 ・ 3	米英防衛協定調印(米国, 駆逐艦 5 0 隻供給, 英領諸島の海空軍基地租借)。
"	9 ・ 4	西原少将と仏司令官間に, 北部仏印進駐及び飛行場使用などに関する現地協定署名。9 月 6 日第 5 師団の独断越境事件のため, 細目協定延期される。
"	9 ・ 6	ルーマニア国王カール退位(国外逃亡)。アントネスク將軍, 独裁権を掌握。
"	9 ・ 7	独軍, ロンドン猛爆撃(以後 6 5 日間, 夜間爆撃続く, 「ブリテンの戦」)。
"	9 ・ 1 1	内務省, 部落会・町内会・隣保班・市町村常会整備要綱を府県に通達。
"	9 ・ 1 2	[教] 文部省, 中等学校教科書の検定制を廃止し, 指定制とする(各教科 5 種)。
"	9 ・ 1 3	小林蘭領インド特派大使, 日蘭印経済交渉開始。
"	"	伊軍, リビアからエジプトへ侵入。1 0 月 2 8 日アルバニアからギリシア侵入開始。
"	9 ・ 1 5	[書] 「日語工作論」(松田敬基, 「華北評論」)。
"	9 ・ 1 6	米国, 選抜徴兵法公布。
"	9 ・ 1 9	御前会議, 日独伊三国同盟締結を決定。
"	9 ・ 2 1	婦選獲得同盟解散。
"	9 ・ 2 2	日・仏印軍事細目協定成立。9 月 2 3 日日本軍, 北部仏印に進駐開始。現地フランス軍と衝突。
"	9 ・ 2 3	米国务長官, 強迫による仏印の現状変更不承認の声明。
"	9 ・ 2 5	米国, 重慶政府に 2 5 0 0 万ドル借款供与(為替援助)。1 1 月 3 0 日米大統領, 5 0 0 0 万ドル追加借款を発表。1 2 月 2 日米議会, 1 億ドル借款案可決。1 2 月 1 0 日英国も 1 0 0 0 万ポンドの借款供与。
"	9 ・ 2 6	北部仏印ハイフォンに上陸。
"	"	南支方面軍司令官安藤利吉, 独断越境事件の責任で更迭。
"	"	[日] 日泰学院設立(院長林銑十郎, 学監安岡正篤)。
"	9 ・ 2 7	日独伊三国同盟ベルリンで調印(松岡外相・オットー独大使間に秘密交換公文)。
"	"	「日本国, 独逸国及伊太利国間三国条約締結ニ関スル詔書」。

西 暦	年 代	項 目
1940		
"	9・27	〔書〕「日本語の構造」(堀重彰, 畝傍書房)。
"	9・28	〔書〕「標準語と国語教育」(国語教育学会, 岩波書店)。
"	9・30	〔日〕 北京近代科学図書館主催第十回日語講座開講(申込者217名, 入学許可113名, 更に補欠試験により7名許可)。
"	9・	〔日〕 北京中央日語学院開設(9月はじめから師範科男子の組24名, 10月から女子の組24名。院長中目覚)。
"	"	〔日〕 青島, 市立の日語夜学校3校開設, 商業補習学校2校開設, 日本語が教えられる。
"	"	〔日〕 中華民国政府教育部の設立にかかる部立師資講肆館は中等教員の再教育機関となる。又同所に男女師範学院を開設(日本語教師養成機関の増設をはかる)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四五八号)。 (同上)「国語に見る色」(土屋寛)。 (「」)「公一の国語教室を語る」(松沢源治郎。~四五九号)。
"	"	〔書〕「東亜学校案内」。
"	"	〔書〕「日語問答指導」(沈中植, 上海白虹訳文社, 民国廿九年九月四版)
"	"	〔書〕「国語と国民性」(菊沢季生, 修文館)。
"	"	〔書〕「クラウン英語辞典」(日本辞書出版社編・刊。「Crown English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「永字式索引漢和辞典」(恒藤終著, 三省堂)。
"	10・1	「総力戦研究所官制」〔勅令〕公布。'41年4月, 官吏など36人, 研究生として入所。
"	"	外陸海三相, 重慶政府との和平交渉実施につき同意。
"	"	人口調査(内地人口7311万4308人, 外地人口3211万1793人)。
"	"	〔書〕「コトバ」(第二巻第十号, 「国語学習の基本・シムポジウム 日本語教授用基本文法」)。 (同上)「新制国民学校に於ける音声言語の教育に就いて」(山口喜一郎)。 (「」)「国民学校国語教則要項に関し私見を述ぶ」(興水実)。 (「」)「子供が読方を学ぶ上に基本となるものは何か」(西原慶一) (「」)「読まんとする心」(沖垣寛)。

西 暦	年 代	項 目
1940		<p>(同上) 「他山の石」 (百田宗治)。</p> <p>(#) 「綴方を学ぶ上に根本となるものは何か」 (吉田水穂)。</p> <p>(#) 「話方教育の第一歩」 (上飯坂好)。</p> <p>(#) 「雰囲気と型」 (野口秀寛)。</p> <p>(#) 「文字を学ばせる為の準備」 (田巻素光)。</p> <p>(#) 「私がこれまで研究してきた問題、これから研究しようと思っている問題」 (中田憲久・加藤満照・高橋安造)。</p> <p>(#) 「シムボジウム 日本語教授用基本文法の問題・提案者 菊沢季生」。</p> <p>(#) 「国語の種々相を教へたい」 (東条操)。</p> <p>(#) 「古文支那語文法の影響」 (乾輝雄)。</p> <p>(#) 「菊沢季生氏の提案について」 (松尾捨次郎)。</p> <p>(#) 「基本文型と基本文法」 (石黒修)。</p> <p>(#) 「日本語教授に於ける文法教授」 (松宮弥平)。</p> <p>(#) 「日本語教授法の諸問題」 (黒野政市)。</p> <p>(#) 「外地版 情報」 (石黒修編) 。</p> <p>(#) 「外地版 二重言語と朝鮮の子供」 (和田重則)。</p> <p>(#) 「『国語の論理』を語る」 (大場俊助)。</p> <p>(#) 「西原慶一著『国語のはたらく教室』と石黒修『日本語の問題』」 (興水実)。</p> <p>(#) 「日本語の語形成とアクセント形成 (續)」 (三宅武郎)。</p>
"	10・3	閑院宮、参謀総長を辞任、後任に杉山元大将を任命。
"	10・4	商工省、砂糖・マッチ配給統制規則各公布〔省令〕(11月1日、切符制全国実施)。
"	10・7	新四軍、蘇北で国民党軍と衝突。
"	10・12	大政翼賛会発会式 (総裁近衛首相)。
"	"	ヒトラー、本土上陸の「あしか作戦」を'41年春までに延期決定。
"	10・16	〔日〕 満州国、「学校教練教授要目=関スル件」公布。
"	"	日・蘭印交渉に関し、共同声明発表。10月20日小林代表召還を通告。
"	10・18	英、ビルマ・ルート再開。
"	10・19	日本軍、独逸国及伊太利国三国条約〔条約第九号。公布昭和十五年十月二十一日〕(「日独伊三国同盟条約」)。
"	"	国民政府、黄河以南の新四軍・八路軍に黄河以北への移動を命令。10月、国民党軍20余万、陝甘寧辺区を封鎖。
"	10・22	東方会解散、大日本青年党も政治団体より思想団体に改変。既存の政治団体すべて解党。

西 暦	年 代	項 目
1940		
"	10・23	〔日〕「修正省立市立及公立学校外国人外国語教員聘任辦法」（民国二十九年十月二十三日 行政院公布，「第一条 教育部ハ省立市立及公立学校外国人ノ外国語教員ノ統一任用ヲ謀リ詮衡ニ便ナラシムル為特ニ本辦法ヲ訂定ス 第二条 省立市立及公立学校ニ於テ外国人ノ外国語教員ヲ聘任スル場合ハ本辨ニ依リ處理スベシ 第三条 各省立市立及公立学校外国人ノ外国語教員ハ左記各項ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス 一，中学以上ノ外国語教員ハ大学及高等専門学校文科ヲ卒業シ検定ニ合格セルモノトシ小学ノ外国語教員ハ師範学校ヲ卒業セルモノトス 二，一年以上当該国語教員ニ在職セルモノ 三，教授ニ際シ能ク当該国標準語ヲ話シ得ルモノ 第四条 各省立市立及公立学校ニ於テ外国人ノ外国語教員ヲ聘任スル場合ハ各該省市教育行政機関ヲ經由本部ニ申請シ本部ノ要請ニ基キ各該国大使館ヨリ書面ヲ以テ紹介アリタル後本部ヨリ国立各校又ハ各省市教育庁局ニ派遣聘任セシメ所属各校ニ服務セシムルモノトス 各省市各校直接ニ聘任スルコトヲ得ズ 第五条 外国人ノ外国語教員ノ俸給ハ其ノ資格経歴ニ応ジ本国専任教員待遇ニ比シ三割増ヲ原則トシテ支給シ事情ニ依リ住宅又ハ住宅料ヲ支給スベシ 第六条 各省市教育庁局ハ学期終了前ニ所属各学校ニ於ケル次学期所要外国人外国語教員員数を本部ニ報告シ本部ノ統轄處理ニ便ナラシムベシ 第七条 本辦法ハ行政院ニ提出シテ可許アリタル後施行ス」）
"	10・25	閣議，「対蘭印經濟發展の爲の施策」を決定。
"	10・29	「支那留學生教育に就て」（講演，實藤惠秀。同氏著・刊。30P。発刊年月日不明）。
"	10・30	「教育ニ関スル勅語頒發五十年記念式典ニ於テ賜ハリタル勅語」。
"	"	駐ソ大使建川美次，訓令によりソ連に不可侵条約締結を提議。11月18日モロトフ外相，北樺太利権解消を条件に中立条約を提議。
"	10・31	たばこバットを金鵒に，チェリーを桜に新製品より改名を発表。
"	10・	〔日〕 台湾総督府，皇民奉公会を組織，大皇国民の錬成，皇民化の促進に内台人の通婚を開放。
"	"	〔日〕 哈爾濱日本語教育研究会発足。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四五九号）。 （同上）「公学校用新国語読本の体系的研究（一）」（田口実）。
"	"	〔書〕「初等国語読本実践指導精説巻二」（和田重則・久保次郎，朝鮮公民教育会）。
"	"	〔書〕「外国語教授 ^{原理と} 方法の研究」（石黒魯平，開拓社）。
"	"	〔書〕「 ^{無私} 中日对照會話捷徑」（陳萬里，中日語文研究社，民国廿八年自通）

西 暦	年 代	項 目
1940		八月初版，民国廿九年十月八版）。
"	10 "	〔書〕「日語華訳公式」（王玉泉，日本大阪岡崎屋書店，民国廿四年九月初版，昭和十五年十月十三版）。
"	"	〔書〕「 ^{袖珍} 日華新辞典」（三通書局編輯部，三通書局，民国廿九年十月初版）。
"	"	〔書〕「中日対照 ^{商業} 旅行会話読本」（陳萬里，中日語文研究社，民国廿八年八月初版，民国廿九年十月 ^{交際} 四版）。
"	"	〔書〕「台湾に於ける国語教育」（安藤正次，「学苑」）。
"	"	〔書〕「化学工業大辞典」（非凡閣編・刊。～昭和19年9月。八冊）。
"	"	〔書〕「国体神祇辞典」（小倉鏗爾著，錦正社）。
"	"	〔書〕「支那文を読む為の漢字典」（田中慶太郎編訳，文求堂）。
"	"	〔書〕「中国文化界人物総鑑」（橋川時雄編，北京・中華法令編印館）。
"	"	〔書〕「 ^{和洋} 対照 ^仙 仙人掌名彙稿」（山本茂三郎著・刊。非売）。
"	"	〔書〕「電気工業大辞典」（～昭和18年10月。七冊。非凡閣編・刊）。
"	"	〔書〕「中國月刊 第5卷1，2期」（中國月刊編輯部編，上海・中国文化服務社。月刊。民国廿九年十月～十一月）。
"	11・1	〔書〕「コトバ」（第二卷第十一号，「音声教育と文字教育，シムボジウム 話し言葉と書き言葉との関係」）。
		（同上）「言語の音号性と記号性」（大西雅雄）。
		（"）「文字の本質・起原・発達」（熊沢龍）。
		（"）「音声教育と文字教育との関聯」（秋田喜三郎）。
		（"）「国民学校に於ける音声教育と文字教育」（志波末吉）。
		（"）「漢字教育の具体的実践報告」（皆川長男）。
		（"）「知性臭文章」（太田行蔵）。
		（"）「教育の新体制は如何にあるべきか(1)」（興水実）。
		（"）「外地版 情報（石黒修編）」。
		（"）「沖野岩三郎著『大人の読んだ小学国語読本』」（大西雅雄）
		（"）「シムボジウム 話し言葉と書き言葉との関係 提案者 松原秀治）。
		（"）「松原氏の「話し言葉と書き言葉との関係」を讀みて」（保科孝一）。
		（"）「話し言葉と書き言葉」（佐久間鼎）。
		（"）「書きことば・標準語・方言」（長谷川松治）。
		（"）「話すやうに書け」といふこと「聞いて分るやうに書け」ということ」（宮田幸一）。
		（"）「偶感 — 眼言葉から耳言葉へ」（奥中孝三）。

西 暦	年 代	項 目
1940		(同上) 「話し言葉と書き言葉との先後の問題」 (岡崎常太郎) 。 (〃) 「漢字はまた表音文字」 (魚返善雄) 。 (〃) 「基本語彙と語彙調査」 (石黒修) 。
〃	11・5	政府、日満支経済建設要綱発表。
〃	〃	ルーズベルト、共和党のウイルキーを破り米大統領に3選。
〃	11・10	紀元二千六百年祝典を挙行。祝賀行事多彩 (11月14日まで提灯行列・旗行列・音楽行進・神輿渡御など続く) 、赤飯用もち米特配。
〃	11・12	〔教〕「経学院規程中改正」〔朝鮮総督府令第二百四十号〕(経学院規程中左ノ通改正ス 第三条ニ左ノ一項ヲ加フ 講士ノ任期ハ三年トス但シ必要アル場合ニ於テハ任期中ト雖モ解任スルコトヲ妨ケス 附則 本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ講士ノ職ニ在ル者ニシテ任命ノ日ヨリ昭和十五年十二月三十一日迄ニ三年ヲ経過スルモノノ任期ハ同日ヲ以テ終了スルモノト看做ス 本令施行ノ際現ニ講士ノ職ニ在ル者ニシテ前項ニ該当セザルモノノ任期ハ其ノ任命ノ日ヨリ三年トス) 。
〃	〃	〔教〕「明倫専門学院規程中改正」〔朝鮮総督府第二百四十一号〕(「明倫専門学院規程中左ノ通改正ス 第九条第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 評議員ノ任期ハ三年トス但シ必要アル場合ニ於テハ任期中ト雖モ解任スルコトヲ妨ゲズ 附則 本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行ノ際現ニ評議員ノ職ニ在ル者ニシテ任命ノ日ヨリ昭和十五年十二月三十一日迄ニ三年ヲ経過スルモノノ任期ハ同日ヲ以テ終了スルモノト看做ス 本令施行ノ際現ニ評議員ノ職ニ在ル者ニシテ前項ニ該当セザルモノノ任期ハ其ノ任命ノ日ヨリ三年トス」) 。
〃	〃	ソ連外相モロトフ、ベルリン訪問 (～11月13日) 、ソ連の枢軸側参戦問題についてヒトラーと会談。11月25日ソ連、対独覚書で参戦の条件提示 (対ソ交渉決裂) 。
〃	11・13	御前会議、「日華基本条約案」及び「支那事变処理要綱」を決定。11月30日汪政権と条約調印。
〃	11・14	〔国〕「文部省官制中改正」〔勅令第七百六十八号〕(国語調査官専任2名を置き、国語の調査を掌る) 。
〃	11・20	ハンガリー (11月23日ルーマニア、11月24日スロバキア) 、日独伊三国同盟加入。
〃	11・25	タイ・仏印国境紛争おこる。
〃	〃	〔書〕「カトリック大辞典」(上智大学編纂、5巻。三木清・戸坂潤・古

西 暦	年 代	項 目
1940		在由重・栗田賢三・清水幾太郎ら参加，50年再開，～60年8月30日。富山房）。
"	11・26	〔教〕 文部省，高師・専門学校等の教科書も文相の認可制とする。
"	11・27	駐米大使に野村吉三郎任命。
"	11・28	〔国〕 文部省，「分課規程」改正。図書局に国語課新設（「一，国語ノ調査ニ関スルコト 二，日本語教科用図書ノ編輯ニ関スルコト 三，国語審議会ニ関スルコト」の事務を所掌，図書監修官大岡保三が国語課長に任ぜられた）。
"	"	重慶和平工作打切り決定。
"	11・30	〔日〕 文部省分課規程中改正（「一昨二十八日文部省分課規程中左ノ通り改正セリ 第六条第一項中「発行課」ノ下ニ「及国語課」ヲ加ヘ，第二項中第四号及第五号ヲ削リ第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ 国語課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 一 国語ノ調査ニ関スルコト 二 日本語教科用図書ノ編輯ニ関スルコト 三 国語審議会ニ関スルコト」）。
"	"	汪政権と「日華基本関係条約・付属議定書」調印及び「日満華共同宣言」調印。
"	"	国民政府，八路軍・新四軍への軍費支払停止。
"	11・	〔日〕 青島で中等学校日本語弁論大会開催。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四六〇号）。 （同上）「公学校用国語読本の語法（一）」（吉原保）。 （"）「単語の意味と術語の意味特に「なかり」について」（鈴木篤三郎）。 （"）「標準語読義」（土屋寛）。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本の発音，アクセント及朗読巻三，四（合訂）」（川見駒太郎）。
"	"	〔書〕「伊日辞典」（グリエルモ・スカリーセ編，ドン・ボスコ社。「Dizionario Itallians-Giapponese」）。
"	"	〔書〕「英米社会事務事典」（芝染太郎，研究社。「A Manual of Business, Social and Legal Forms」）。
"	12・1	〔書〕「コトバ」（第二巻第十二号，「理会力の養成，シムボジウム 国民学校に於ける読み方の指導様式は如何にあるべきか」）。 （同上）「理会力の養成と言葉の教育について」（山崎謙）。 （"）「解釈学の再興」（興水実）。 （"）「言葉の理会について」（袖崎修）。

西 暦	年 代	項 目
1940		<p>(同上)「子供の理会について」(岩瀬法雲)。 (#)「日本語の語形とアクセント形成(続)」(三宅武郎)。 (#)「文字の本質・起原・発達」(熊沢龍)。 (#)「松原氏の御提題を読んで」(泉井久之助)。 (#)「たて・よこ致」(田中重太郎)。 (#)「台湾での国語問題のあらまし」(土屋寛)。 (#)「語彙調査に関する新著」(石黒修)。 (#)「教育の新体制は如何にあるべきか(2)」(興水実)。 (#)「シムポジウム 国民学校に於ける読み方の指導様式は如何にあるべきか 提案者 大久保正太郎」。 (#)「なほそのほかに」(石山脩平)。 (#)「那一点としての言葉」(木村房吉)。 (#)「実践者の立場から」(興水実)。 (#)「一つの註文」(西尾実)。 (#)「手紙」(滑川道夫)。 (#)「外地版 情報(石黒修編)」。</p>
#	12・2	「日本軍、中華民国基本関係ニ関スル条約及附属文書」〔条約第十条。公布昭和十五年十二月三日〕(阿部信之・汪兆銘。「日華基本条約」)。
#	#	「日滿華共同宣言」〔条約第十一号、公布昭和十五年十二月三日〕。
#	12・6	「情報局官制」〔勅令〕公布(内閣情報部は廃止)。
#	#	〔日〕 国際学友会、財団法人設立許可。外務省文化事業部の所管から情報局に移管。
#	12・7	駐華大使に本多熊太郎任命。
#	12・10	〔日〕 第二十七回全島国語演習会(場所、台中州彰化市旭公学校、参加人数118名)。
#	12・14	〔日〕 満州国民生部「教育課程」改革、(「国民学校規程中修正、国民学舎及国民義塾規程中修正、国民優級学校規程中修正、国民高等学校規程中修正、女子国民高等学校規程中修正、師道学校規程中修正、職業学校規程中修正」公布)。
#	12・15	〔書〕「音韻論」(有坂秀世、三省堂)。
#	12・17	〔国〕 大政翼賛会臨時中央協力会議に、文壇代表山本有三議員から「仮名といふ名称の改正」が提案され、満場一致で通過。
#	12・18	ヒトラー、'41年5月までに対ソ戦「バルバロッサ作戦」準備を命令。
#	12・20	〔日〕 牡丹江省、「牡丹江省視学委員視学規程」公布。

西 曆	年 代	項 目
1940	12・20	衆議院議員倶楽部結成（尾崎行雄ら7人を除き全員参加）。
"	"	〔書〕「日本語の問題 — 国語問題と国語教育」（石黒修，教文館）。
"	12・23	支那方面艦隊司令長官，華中南沿岸封鎖強化宣言。
"	12・29	ルーズベルト，米国が民主主義の兵器廠となる旨の炉辺談話発表。
"	12・	〔教〕 京都帝大文学部に伊太利語学・伊太利文学の講座開講。
"	"	〔日〕 日語文化協会内に日本語教育振興会設置。
"	"	〔日〕 青島，第二回教職員日本語講習会開催。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四六一号）。
		（同上）「公学校用新国語読本の体系的研究Ⅱ」（田口実）。
"	"	〔書〕「日本語教科書（基礎篇）Basic Japanese」（国際学友会）。
"	"	〔書〕「大陸の言語と文学」（魚返善雄，三省堂）。
"	"	〔書〕「日語教本」（黄南鳴，維新政府綏靖部，民国廿九年十二月初版）。
"	"	〔書〕「国民学校国語教育の研究」（国語文化学会，国語文化研究所）。
"	"	〔書〕「新語と新形容」（吉本英一著，桑文社）。
"	"	〔書〕「 ^{漢訳} _{対照} 梵和大辞典」（萩原雲来編，初版は大正大学刊行。～昭和18年。六分冊）。
"	（昭和15年）	〔日〕 満州国国語研究会発足（日本語の研究と普及に力を注ぐ）。
"	"	〔日〕 この年，満州国では，初等学校数22821，学生数2145838人，中学校学校数314，学生数82312人。
"	"	〔日〕 成紀七三五年（昭和15年）に行われた蒙古聯合自治政府第一回語学検定試験（〔日本語〕受験者1364，合格者440，〔華語〕受験者428，合格者155，〔蒙古語〕受験者56，合格者17，合計受験者1848，合計合格者612，検定試験問題は〔政府公報〕第二〇四号に公示）。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数（師範学校，学生数，本島人437，高砂族5，卒業数，本島人108，高砂族1）。
"	"	〔日〕 台湾の公学校で日本語教育を受けた本島人児童の就学比率57・57%。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数（生徒数，本島人16347，高砂族120，卒業数，本島人5913，高砂族45）。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数（公立中学校，生徒数，本島人5500，高砂族5，卒業数，本島人837，高砂族0）。

西 曆	年 代	項 目
1940	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数（小学校、生徒数、本島人3452、蕃人31、卒業数、本島人523、蕃人5、小学校高等科、生徒数、本島人311、蕃人3、卒業数、本島人93、蕃人2）。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数（高等女学校、生徒数3250）。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数（実業学校、生徒数、本島人3738、高砂族7、卒業数、本島人328、高砂族2、実業補習学校、生徒数、本島人7424、高砂族258、卒業数、本島人2130、高砂族8）。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数（生徒数、本島人2406、高砂族11、卒業数不明）。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数（生徒数、高等学校122、中学校に相当する尋常科17）。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数（台北帝大、学生数84、卒業数27）。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数（学生数173、卒業数48）。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数（所数180、生徒数10096、卒業数2187、就学歩合86.10）。
"	"	〔日〕 「国語」保育園、幼児国語普及施設所数・生徒数（所数1583、生徒数64223）。
"	"	〔日〕 国語講習所の所数・会員数・国語普及歩合（所数259、会員数18867、国語普及歩合37.76）。
"	"	〔日〕 国語講習所調（国語講習所11206、生徒数547469、簡易国語講習所4627、生徒数215794、合計所数15833、合計生徒数763263）。
"	"	〔日〕 満州国における語学試験受験者数（〔日本語〕特等受験者数143、一等受験者数1129、二等受験者数5254、三等受験者数21984、合計受験者数34000、日本語の受験者中、満州語を受験用語とするもの27794、蒙古語584、ロシア語122）。
"	"	〔日〕 満州国語学試験第一次合格者〔〔日本語〕特等35、一等152、二等659、三等3134、〔満州語〕特等20、一等49、二等371、三等1475）。
"	"	〔日〕 北京近代科学図書館編集発行の日本語教科書発行部数（初級巻一、一〇版294000部、同巻二、六版12500部、同巻三、四版9000部、高級巻一、二版5000部、同巻二、一版3000部、同巻三、一版2000部。利用先、南は徐州、西は包頭に及ぶ）。
"	"	昭和15年現在、在満日本人人口（関東局調査）、（関東州202、827人以上の地域外862、245、総計1065、072人）。

西 暦	年 代	項 目
1940	(昭和15年)	〔書〕「国語の世界的進出」(石黒修, 厚生閣)。
"	"	〔書〕「A Grammar of Spoken Japanese」(山本晃紹・山本信夫, 岡崎屋書店)。
"	"	〔書〕「正則日本語講座(12巻)」(藤村作・銭稻孫・山口喜一郎監修 北京新民印書館。(1)日本語入問(2)初等会話篇(3)童話物語篇(4)日本事情篇(5)文語篇(6)語法篇(7)尺牘作文篇(8)俚諺篇翻訳法(9)演説式辞篇(10)日本語学概論(11)日本文学篇(12)日本語教授法。— 中国人のための日本語学習講座。中国語で注と訳がつけてある)。
"	"	〔書〕「日本語入門」「同初歩」「同大要」「同大成」(山口喜一郎・益田信夫, 北京新民印書館。ラジオテキスト, ~昭和18年)。
"	"	〔書〕「学習日語小叢書」七冊(三通書局編輯部, 三通書局, 民国廿九年)
"	"	〔書〕「英語学辞典」(市川三喜編)。
"	"	〔書〕「日本語は斯うして支那語に訳しませう」(中谷鹿二, 十二版)。
"	"	〔書〕「大東亜共通語としての日本語教授の建設」(平松誉資事)。
"	"	〔書〕「台湾国語関係文献目録」(台湾国語研究会)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本(改正出版)第一種巻八同掛図巻八」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用書方手本第四学年用下, 五上」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「国語読本と連絡したる公学校話方教授細目第二学年用」(台湾教育研究会, 台北, 神保商店)。
"	"	〔書〕「国語読本と連絡したる公学校話方教授細目第三学年用」(台湾教育研究会, 台北, 神保商店)。
"	"	〔書〕「新国語教本日案式指導細案附掛図解説」(台湾教育会, 台北, 神保商店)。
"	"	〔書〕「公学校用語読本の発音アクセント及朗読巻一・二」(川見駒太郎 台北, 新高堂書店)。
"	"	〔書〕「日本語学習絵図教程国語講習所用全村学校用」(茂庭鉄太郎, 嘉義, 台教新報社)。
"	"	〔書〕「掛図連絡話方教授細目」(共栄会, 台北, 迁本博晃社)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本教授細目並に教材研究巻五・六」(台北一師範 附属公学校, 台北, 神保商店)。
"	"	〔書〕「国民塾教授細目」(国語常用聯盟柳營支部, 新營柳營支部)。
"	"	〔書〕「国語講習所用話方読方教授細目」(潮州郡民風作興会, 高尾民風作興会)。
"	"	〔書〕「公学校綴方教授細目第一~六学年」(皇月会, 台南, 啓南社)。
"	"	〔書〕「初等理科書児童用第四学年」(台湾総督府)。

西 曆	年 代	項 目
1940	"	〔書〕「女子植物教科書」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「中等植物教科書」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「高等小学農業書卷一, 二」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「国語教育工業読本全」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「綴方教本第二~第六学年」(綴方研究年月会, 台南, 啓南社)。
"	"	〔書〕「話方教本卷二」(潮州郡民風作興会, 高雄・民風作興会)。
"	"	〔書〕「新国語教本教師用卷一」(台灣教育会, 台北・台灣教育会)。
"	"	〔書〕「国語講習会読本卷一」(台南州虎尾郡役所, 虎尾, 虎尾郡役所)。
"	"	〔書〕「国語講習会読本卷二」(虎尾郡役所)。
"	"	〔書〕「公学校修身掛図第一種一年……」(台灣總督府, 昭和15年~)。
"	"	〔書〕「初等理科教授書第四」(台灣總督府)。
"	"	〔書〕「掛図連絡話方教授細目」(廈門共栄会編)。
"	"	〔書〕「公学校綴方教授細目」(畢月会編)。
"	"	〔書〕「各科教授案集」(台北第二師範学校附属公学校啓明会編)。
"	"	〔書〕「各科教授案例」(台北第一師範学校附属公学校編)。
"	"	〔書〕「公学校話方教授細目」(台北第二師範学校附属公学校啓明会編)。
"	"	〔書〕「公学校綴方教授細目」(台北第二師範学校附属公学校啓明会編)。
"	"	〔書〕「話し方教育の諸問題と其の解答」(台灣教育研究会編)。
"	"	〔書〕「新国語教本日案式指導細案(卷一上下)」(台灣教育会)。
"	"	〔書〕「新国語教本日案式指導細案(卷二上下)」(台灣教育会)。
"	"	〔書〕「国語講習所用話方教授細目卷一」(潮州郡)。
"	"	〔書〕「台灣教育」(第四五〇号~第四六一号発行)。
"	"	〔書〕「Language Text of Nippon 卷二」(稻垣蒙志, 東京敬文館)。
"	"	〔書〕「華譯日本語會話教典」(松本亀次郎著, 東京有隣書屋。324P)。
"	"	〔書〕「日出づる國へ 赴日見學旅行團紀行感想文集」(小川直秀編, 国立北京大学医学院。民国廿九年刊。219P)。
"	"	〔書〕「日本遊記」(民国阮蔚村著, 北京・阮蔚村。民国廿九年刊。111P)。
"	"	〔書〕「國民政府使節團赴日答禮記」(民国周雨人編, 中央書報。民国廿九年刊。172P)。
"	"	〔書〕「東遊紀略」(民国王揖唐著, 北京・新民印書館。民国廿九年刊。130P)。
"	"	〔書〕「康德七年度第二回訪日修學旅行報告書」(安東省公立女子國民學校師道科編。〔滿洲康德七年序〕刊。62P)。
"	"	〔書〕「日本留學中華民國人名調」(興亞院政務部編, 興亞院。昭和15

西 曆	年 代	項 目
1940		年刊。1冊。「調査資料9」)。
"	(昭和15年)	〔書〕「某倭子的一生」(芥川龍之介著, 民国馮子韜訳, 上海三通書局。民国廿九年刊。93P。合刻: 將軍(芥川龍之介 民国馮子韜訳) 猴子(芥川龍之介著 民国丘曉滄訳))。
"	"	〔書〕「美少年」(有島生馬著, 民国查士元訳, 上海三通書局。民国廿九年刊。107P。合刻: 母親(芥川龍之介著 民国馮子韜訳) 南京之基督(芥川龍之介著 民国高汝鴻訳) 焚火(志賀直哉著 民国謝六逸訳)。
"	"	〔書〕「男清姫」(近松秋江著, 民国查士元訳, 上海・三通書局。民国廿九年刊。90P。合刻: 蜜柑(芥川龍之介著 民国高汝鴻訳) 陽傘(藤森成吉著 民国高汝鴻))。
"	"	〔書〕「冰結の跳舞場」(中河與一著, 民国高汝鴻訳, 上海・三通書局。民国廿九年刊。84P。合刻: 眞鶴 正義派(志賀直哉著 民国高汝鴻訳) 頑童(井伏鱒二著 民国高汝鴻訳) 貞淑の妻(貴司山治著 民国高汝鴻訳) 荒絹(志賀直哉著 民国謝六逸訳))。
"	"	〔書〕「鐵窓之花」(林房雄著, 民国高汝鴻訳, 上海・三通書局。民国廿九年刊。85P。合刻: 刺青 麒麟(谷崎潤一郎著 民国查士元訳) 死母與新母(志賀直哉著 民国謝六逸訳))。
"	"	〔書〕「霞山會館圖書室増加圖書分類目錄 第1輯(昭和12年10月~昭和14年12月)」(東京・霞山會館。昭和15年刊。163P)。
"	"	〔書〕「支那基督教史」(比屋根安定著, 東京・生活社。昭和15年刊。324P)。
"	"	〔書〕「新訂日本二千六百年史」(大川周明著, 東京・第一書房。昭和15年刊。337P)。
"	"	〔書〕「光緒秘史」(清徳菱(裕徳齡)著, 秦瘦鷗訳, 上海・春江書局。民国廿九年刊。300P)。
"	"	〔書〕「現代支那史」(小竹文夫著, 東京・弘文堂。昭和15年刊。154P)。
"	"	〔書〕「滿洲及滿洲人」(佐藤慎一郎著, 滿洲事情案内所。滿洲康德七年刊。166P)。
"	"	〔書〕「清の狀元策について — 清代の科擧と其の文献」(池田孝道著, 滿鐵調査部。昭和15年刊。14P。滿鐵資料彙報抜刷)。
"	"	〔書〕「日支交渉二千年譜」(秀文閣書房編輯部編, 東京・秀文閣。昭和15年刊。244P)。
"	"	〔書〕「支那語教程 初等科用」(早稻田大學支那語研究會編, 東京・文真堂。昭和15年刊。114P)。
"	"	〔書〕「中國化學史」(民国李喬萃著, 上海・商務印書館。民国廿九年刊198P)。

西 曆	年 代	項 目
1940	"	〔書〕「支那劇大觀」(波多野乾一著,東京・大東出版社。昭和15年刊428P)。
"	"	〔書〕「支那現代独幕戲劇集」(宮越健太郎編,東京・文求堂。昭和15年刊。279P。内容:農家(民国朴園,廣寒宮(童話劇)(民国郭沫若)終身大事(民国胡適) 宋江(民国伯顔) 潑婦(民国歐陽予倩) 懇親會(民国葉紹鈞) 殘廢的兒子(民国俞宗杰) 英雄與美人(民国劉大杰) 一隻馬蜂(民国丁西林) 南歸(詩劇)(民国田漢))。
"	"	〔書〕「瓜豆集」(民国周作人著,松枝茂夫訳,大阪・創元社。昭和15年刊。「創元支那叢書」。396P)。
"	"	〔書〕「周作人文藝隨筆抄」(民国周作人著,松枝茂夫訳,東京・富山房昭和15年刊。「富山房百科文庫」。329P)。
"	"	〔書〕「清宮二年記(慈禧太后)」(清徳菱(裕徳齡)著,陳貽先,陳冷次訳,商務印書館。民国廿九年刊。149P)。
"	"	〔書〕「ポット上海史」(エフ・エル・ホークス・ポット著,土方定一,橋本八男共訳,東京・生活社。昭和15年刊。476P)。
"	"	〔書〕「支那近代文化史」(民国陳登原著,菅茂訳,東京・人文閣。昭和15年刊。「支那文化叢書」。319P)。
"	"	〔書〕「日本文化の支那への影響」(實藤惠秀著,東京・螢雪書院。昭和15年刊。313P)。
"	"	〔書〕「東亞振興會の近況 第2号」(東京・東亜振興會。昭和15年刊32P)。
"	"	〔書〕「華語發音提要」(宮島貞亮編,東京・金文堂。昭和15年刊。34P)。
"	"	〔書〕「注音符號速知」(民国康樹蔭,宮島貞亮共編,東京・善鄰書院。昭和15年刊。47P)。
"	"	〔書〕「支那現代文選」(實藤惠秀編,東京・文求堂。昭和15年刊。82P)。
"	"	〔書〕「標準支那語會話教科書」(青柳篤恒,吳主恵共著,東京・松邑三松堂。昭和15年刊。112P)。
"	"	〔書〕「雜誌目錄」(中華民國新民會中央總會設計部資料科編,民国廿九年刊。217P)。
"	"	〔書〕「中國文學 第60~92号」(竹内好編,東京・生活社。月刊。昭和15年,92号をもって廃刊)。
"	"	〔書〕「東亜叢書七冊(産業資本と支那農民,中国封建社会(上下),支那經濟戰,支那過去と現在,支那社会經濟論,支那鉄道史,各専門家訳又は著)」(生活社版。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「東亜論叢(二~六輯)」(専門学者二十数氏執筆。~昭和23年)。

西 暦	年 代	項 目
1940	(昭和15年)	〔書〕「東亜古文化研究」(原田淑人)。
"	"	〔書〕「東亜の鉱産と鉱業」(フォスター・ペイン)。 加藤 健訳。
"	"	〔書〕「琉球史料叢書全五巻」。
"	"	〔書〕「施政三十年史」(朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「躍進半島と朝鮮殖産銀行」(本田秀夫)。
"	"	〔書〕「朝鮮の農業地帯」(印貞植)。
"	"	〔書〕「朝鮮の林業」(総督府農林局)。
"	"	〔書〕「満洲娘娘考」(奥村義信。康德七年)。
"	"	〔書〕「満洲基督教史話」(竹森満佐一)。
"	"	〔書〕「満鉄の経理研究」(坪山 一)。
"	"	〔書〕「日満経済懇談会報告書(一, 四回)」(東亜経済懇談会)。
"	"	〔書〕「奉天経済三十年史」(佐々木孝三郎。康德七年)。
"	"	〔書〕「牡丹江木材工業株式会社概要」(牡丹江木材 工業株式会社。康德七年)。
"	"	〔書〕「満洲河川誌」(谷光世)。
"	"	〔書〕「 ^{康德六年末} 満洲帝国現在戸口統計」(治安部警務司。康德七年)。
"	"	〔書〕「日満農政研究会々務報告(二冊)」(同・新京・東京事務所)。
"	"	〔書〕「日満農政研究報告(第一〜十輯)」(日満農政研究会東京事務局)
"	"	〔書〕「満洲の農業機構」(鈴木小兵衛)。
"	"	〔書〕「支那蒙古遊記」(^{グラハム・ベック} 高梨菊三郎訳)。
"	"	〔書〕「蒙疆調査報告」(京城帝大大陸文化研)。
"	"	〔書〕「蒙疆に於ける土地改良に関する調査」(興亜院)。
"	"	〔書〕「蒙疆に於ける農業資源調査」(興亜院)。
"	"	〔書〕「大陸文化研究(正)」(京城帝国大学大陸文化研究会)。
"	"	〔書〕「孫文主義(中巻)」(外務省調査部)。
"	"	〔書〕「フリーマン黄河評論集編(第一輯)」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「支那近世政党史」(佐藤俊三)。
"	"	〔書〕「列国の支那共同管理論」(^{アベント} 末永一三訳)。
"	"	〔書〕「支那問題概論」(^{マチャール} 安藤英夫訳)。
"	"	〔書〕「支那文化史大係(全13巻)」(^{陳邦賢} 山本成之助 他10氏。~昭和16 年)。
"	"	〔書〕「支那社会の組織と展望」(^{湯良 礼著} 中山美三訳)。
"	"	〔書〕「 ^{ギャンブル} 北京の支那家族生活」(福武直訳)。
"	"	〔書〕「支那資源及産業総覧 ^{資源篇} 」(^{吳承洛} 藤枝丈夫訳)。 ^{産業篇}
"	"	〔書〕「上海国際救済会年報」(興亜院政務部)。
"	"	〔書〕「西漢経済史」(^{陶希聖} 矢野元之助訳)。
"	"	〔書〕「日本の対支投資」(樋口 弘)。
"	"	〔書〕「支那における特殊通貨の研究」(小島昌太郎)。

西 曆	年 代	項 目
1940	"	〔書〕「支那貨幣制度論」(宮下忠雄)。
"	"	〔書〕「支那幣制の性格的研究」(リョウ・パオセイイン)。 勝谷左登訳
"	"	〔書〕「支那幣制論 — その興廃と再建 — 」(飯島幡司)。
"	"	〔書〕「鐵路愛護村実態調査報告書(膠濟線)」(華北交通KK)。
"	"	〔書〕「支那占領地域の現状」(太平洋問題調査部)。
"	"	〔書〕「山東省港湾視察報告(謄)」。
"	"	〔書〕「滿支の水産事情」(岡本正一)。
"	"	〔書〕「北支那經濟開発論 — 山東省の再認識 — 」(松崎雄二郎)。
"	"	〔書〕「北支那鉄鉱・硫黄砒資源」(門倉三能)。
"	"	〔書〕「W・ウイルマンズ 支那農業機構論」(勝谷左登訳)。
"	"	〔書〕「支那農村經濟の新動向」(刈屋久太郎訳編)。
"	"	〔書〕「カルプ 南支那の村落生活」(喜多野清一訳)。
"	"	〔書〕「支那精神と其の民族性」(金孝敬)。
"	"	〔書〕「支那山水隨縁(絵と文)」(橋本関雪)。
"	"	〔書〕「支那人氣質」(カールクロー)。 関 浩輔訳
"	"	〔書〕「西南支那踏査記」(岡尚等著)。 河上純一訳
"	"	〔書〕「歌笛開村五十年史」(同記念会)。
"	"	〔書〕「台北洲統計書(昭和15年)」。
"	"	〔書〕「台北市統計書(昭和15年)」(市役所)。
"	"	〔書〕「台湾貿易年表(昭和十四年)」。
"	"	〔書〕「支那南洋交通史(馮承鈞)」(井東 憲)。
"	"	〔書〕「南洋鉄産資源」(南洋協会調査部編)。
"	"	〔書〕「海南島農村經濟論」(奥田 或)。 季 添春訳
"	"	〔書〕「爪哇の古代芸術」(太田三郎)。
"	"	〔書〕「仏領印度支那 — 政治・經濟 — 」(太平洋協会編)。
"	"	〔書〕「アフガニスタンニ於ケル(謄)」(東亜研究所)。 大戦後ノ国際関係
"	"	〔書〕「日芭通商懇談會議事録」(日本南米輸出入組合連合会)。
"	"	〔書〕「各国植民史及植民地の研究」(大塩亀雄)。
"	"	〔書〕「拓殖研究 第六号」(拓殖研究会)。
"	"	〔書〕「塾教育學精説」(川本宇之助)。
"	"	〔書〕「教育と伝統的精神」(由良哲次)。
"	"	〔書〕「教育審議會資料」(日本文化協会編)。
"	"	〔書〕「小学校教員生活調査」(松本正男編)。
"	"	〔書〕「教育勅語渙発(全三卷)」(国民精神文化研究所)。 関係資料集
"	"	〔書〕「戦近系統的教育史提要」(小野久)。
"	"	〔書〕「創立四拾周年 東亜同文書院記念誌」。
"	"	〔書〕「桜蔭会史」(桜蔭会)。

西 暦	年 代	項 目
1940	(昭和15年)	[書]「会津中学校五十年史」(齊藤善司)。
"	"	[書]「暁鐘寮史(全二巻) ^{大正9一昭9} 昭10~14 (水戸)」。
"	"	[書]「興亜寮史(旅順工大)」(関口吉弥)。
"	"	[書]「青年心理より見たる ^{青年心理より見たる} 保導上の一問題」(東京府中等学校保導協会)。
"	"	[書]「国民学校の研究」(岩下吉衛)。
"	"	[書]「 ^{文部省} 国民学校講座放送記録」(国民学校研究部)。
"	"	[書]「会津中学校五十年史」(同校)。
"	"	[書]「青年学校教育に関する論説」(文部省社会局)。
"	"	[書]「芸能科音楽の指導原理と実際」(北村久雄)。
"	"	[書]「学校養護婦養成ニ関スル調」(文部省大臣官房体育課)。
"	"	[書]「転換期の法律思想」(後藤 清)。
"	"	[書]「司法沿革史」(法務大臣官房)。
"	"	[書]「 ^{司法制度調査委員会} 第六回乃至 第十七回総会議事速記録」(司法制度調査委員会)。
"	"	[書]「ラテン・アメリカ紀行」(田中耕太郎)。
"	"	[書]「総動員体制」(末川 博)。
"	"	[書]「法と政治の諸問題」(京城帝大)。
"	"	[書]「判例と理論」(京城帝大)。
"	"	[書]「 ^{法学新法五十} 周年記念論文集 (第一, 二部)」(中央大学)。
"	"	[書]「明治大学創立60周年記念論文集」(法学部)。
"	"	[書]「法律史の諸問題」(栗生武夫)。
"	"	[書]「リブアリア法典」(久保正幡)。
"	"	[書]「支那法制史研究」(滝川政次郎)。
"	"	[書]「選挙法」(河村又介)。
"	"	[書]「日本行政法(下巻)」(美濃部達吉)。
"	"	[書]「改訂日本行政法(上・下)」(渡辺宗太郎)。
"	"	[書]「行政法要論(各論)」(島村他三郎)。
"	"	[書]「行政法に於ける全体と個人」(渡辺宗太郎)。
"	"	[書]「市政一般講義, 未定稿」(大阪市事務講習会)。
"	"	[書]「京都市政史(全2巻)」。
"	"	[書]「アメリカ地方制度の研究」(弓家七郎)。
"	"	[書]「ドイツの国土計画に就て」(帝国耕地協会)。
"	"	[書]「 ^{国土計画及地方計画} の行政的基礎」(内務省計画局)。
"	"	[書]「国度計画に就て」(中央農林協議会)。
"	"	[書]「土地収用法要鑑」(^{駒崎熊次} 片野真猛)。
"	"	[書]「土木行政双書(八冊)」(田中 好編)。

西 暦	年 代	項 目
1940	"	〔書〕「南方の将来性——台湾と蘭印を語る」(大阪毎日新聞社編, 刊)。
"	"	〔書〕「異安心史」(中島覚亮)。
"	"	〔書〕「日本国家主義の発展」(加田哲二)。
"	"	〔書〕「ナチス新国家の組織」(<small>ロバートA・ブレイディ</small> 日本青年外交協会)。
"	"	〔書〕「ナチス及ファシストの国家観」(外務省調査部)。
"	"	〔書〕「国体の本義精解」(三浦藤作編)。
"	"	〔書〕「大日本哲学」(佐藤清勝)。
"	"	〔書〕「日本精神の要諦と惟神の大道」(橋本文寿)。
"	"	〔書〕「水戸学大系(全十冊)」(高須芳次郎。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「古事記概説」(山田孝雄)。
"	"	〔書〕「精神報国と基督教」(今井三郎)。
"	"	〔書〕「東洋治郷の研究」(菅原兵治)。
"	"	〔書〕「農国日本の真義」(谷本亀次郎)。
"	"	〔書〕「事変と台湾人」(竹内清, 台湾新民報社)。
"	"	〔書〕「政治学概論」(戸沢鉄彦)。
"	"	〔書〕「合理的全体主義」(秋沢修二)。
"	"	〔書〕「政治史(現代文明史)」(蠟山政道)。
"	"	〔書〕「 <small>独逸の思想文化とマルクスレーニン主義</small> 」(蓑田胸喜)。
"	"	〔書〕「新体制とはどんなことか」(報知新聞社政治部)。
"	"	〔書〕「新体制読本」(大渡順二)。
"	"	〔書〕「隣組と常会」(鈴木嘉一)。
"	"	〔書〕「第一回中央協力会議会議録」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「臨時中央協力会議会議録」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「移動調査班報告書」(大政翼賛会総務局)。
"	"	〔書〕「世界に於ける日本」(内閣情報部)。
"	"	〔書〕「君主制(マクアヴェリー)」(多賀善彦訳)。
"	"	〔書〕「近代欧州史(上・下巻)」(<small>C. P. グーチ</small> 菊池 守訳)。
"	"	〔書〕「世界政治と支那事変」(貝島兼三郎)。
"	"	〔書〕「独逸の経済体制及国防資源」(外務省調査部編纂)。
"	"	〔書〕「ナチス独逸の経済的発展」(大原社会問題研究所訳)。
"	"	〔書〕「独逸ノ採リタル非常措置ニ関スル諸法令」(商工省)。
"	"	〔書〕「ヒトラーとその運動」(<small>セオドル・アベル</small> 小池四郎訳)。
"	"	〔書〕「ムッソリーニ・他一党政治論」(独伊文化研究会)。
"	"	〔書〕「ヘロドトス歴史(古代東西闘争史)上」(青木巖訳)。
"	"	〔書〕「英国の制覇」(日満財政経済研究会編)。
"	"	〔書〕「米国(白書)」(<small>東京日日新聞社</small> 大阪毎日新聞社)。
"	"	〔書〕「世界顛覆の大陰謀ユダヤ議定書」(久保田栄吉訳)。

西 暦	年 代	項 目
1940	(昭和15年)	〔書〕「ロシアの民族政策 ― 一回教民族政策 ― 」(花岡止郎)。
"	"	〔書〕「我が民族」(蔡元培 井東憲訳)。
"	"	〔書〕「スターリン民族問題」(興亜院政務部)。
"	"	〔書〕「蘭印に於ける民族医学」(久保辰二)。
"	"	〔書〕「支那民族史」(宋 文炳 小口五郎訳)。
"	"	〔書〕「太平洋二千六百年史」(海軍有終会)。
"	"	〔書〕「台湾と乃木大将」(渡辺求, 大日本文化協会)。
"	"	〔書〕「藤樹先生全集(全五冊)」(藤樹書院)。
"	"	〔書〕「平賀源内全集(全2巻)」。
"	"	〔書〕「本居宣長」(村岡典嗣)。
"	"	〔書〕「牧野伸顕伝」(下岡佐吉)。
"	"	〔書〕「米田奈良吉小伝(電信)」(佐谷台二他)。
"	"	〔書〕「新島先生記念集」(同志社校友会)。
"	"	〔書〕「高島半峰片影」(薄田貞敬)。
"	"	〔書〕「男爵辻新次翁」(安倍秀雄)。
"	"	〔書〕「小林芳郎翁伝(検事長)」(望月 茂)。
"	"	〔書〕「村田重次翁(林学博士)」(山林会)。
"	"	〔書〕「和田豊治(財界・富士紡)」(喜田貞吉)。
"	"	〔書〕「大林芳五郎伝(土木)」(白田喜八郎)。
"	"	〔書〕「国際法概論」(松原一雄)。
"	"	〔書〕「日本の外交」(伊藤述史)。
"	"	〔書〕「日支交渉二十年譜」(宇野正盛)。
"	"	〔書〕「英国罪惡史」(エヴァルト・マイヤー 平田元吉訳)。
"	"	〔書〕「独逸外交史論(第一巻)」(田中直吉)。
"	"	〔書〕「極東に於ける独逸の權益と政策」(上海事務所調査室訳 伊藤武雄著)。
"	"	〔書〕「クラウゼ 戦争論要綱」(成田頼武)。
"	"	〔書〕「典令範現地研究(一〜三篇)」(教育総監部編)。
"	"	〔書〕「闇取引と刑罰」(猪俣浩三)。
"	"	〔書〕「改訂 刑事訴訟法」(牧野英一)。
"	"	〔書〕「檢察説苑(聖職に生く)」(北村久直。康德七年)。
"	"	〔書〕「刑事心理学」(勝水淳行)。
"	"	〔書〕「実践捜査手続論(附実話)」(岩谷芳松)。
"	"	〔書〕「司法保護事業年鑑」(輔成会)。
"	"	〔書〕「紀元二千六百年記念 全日本司法保護事業大会報告書」(同協会)。

西 暦	年 代	項 目
1940	"	〔書〕「民事裁判の研究」(村末俊夫)。
"	"	〔書〕「売渡担保論」(小野 久)。
"	"	〔書〕「判例に現れたる信義誠実の原則」(林 信雄)。
"	"	〔書〕「司法省 ^{親族・相続} 先例大系」(辻 朔郎・他)。
"	"	〔書〕「判例親族法の研究」(杉之原舜一)。
"	"	〔書〕「法定家督相続人の順位」(小石寿夫)。
"	"	〔書〕「支那の家族制」(諸橋徹次)。
"	"	〔書〕「保全処分判例研究(一卷)」(吉川大二郎)。
"	"	〔書〕「仮差押仮処分手続」(谷井辰蔵)。
"	"	〔書〕「人事訴訟手続法要論」(三田高三郎)。
"	"	〔書〕「民事裁判の再検討」(奥野健一)。
"	"	〔書〕「競売法論」(井野博道)。
"	"	〔書〕「無体財産法論」(飯塚半衛)。
"	"	〔書〕「財産法における動的理論」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「比較破産法論」(斉藤常三郎)。
"	"	〔書〕「株式会社法釈義」(佐々木良一他五氏)。
"	"	〔書〕「日本有限会社法論」(佐々 穆)。
"	"	〔書〕「空中運送法論」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「海上売渡論」(上坂西三)。
"	"	〔書〕「生命保険経営論」(末高 信)。
"	"	〔書〕「損害保険経営論」(葛城照三)。
"	"	〔書〕「不動産金融原論」(玉塚締伍)。
"	"	〔書〕「 ^{改正} 所得税法等実施上ノ諸問題」(東京手形交換所)。
"	"	〔書〕「 ^{改正} 会社税務総覧」(鈴木保雄他)。
"	"	〔書〕「 ^{税制} 地方税制の沿革」(藤田武夫)。
"	"	〔書〕「中小商工業金融関係規程」(商工省)。
"	"	〔書〕「新利子論研究」(高田保馬)。
"	"	〔書〕「銀行生活20年史(暦)」(笠井次作)。
"	"	〔書〕「株式会社十七銀行六十年史」((株)十七銀行)。
"	"	〔書〕「金本位制離脱後の通貨政策(増補)」(深井英五)。
"	"	〔書〕「世界経済と磅・円及び弗」(^{オットー・プフライデラー} 日本青年外交協会訳)。
"	"	〔書〕「金」(服部文一)。
"	"	〔書〕「経済資料総覧」(大阪商科大学)。
"	"	〔書〕「紙魚の昔がたり」(訪書会)。
"	"	〔書〕「山の憶ひ出く(全2巻)」(木暮理太郎)。

西 暦	年 代	項 目
1940	(昭和15年)	〔書〕「心理学要論」(久保良英)。
"	"	〔書〕「郷土生活の研究法」(柳田国男)。
"	"	〔書〕「組織の条件」(清水幾太郎)。
"	"	〔書〕「 ^{天保十一庚子年} 暮方取直日掛縄索手段帳」(佐々井信太郎)。
"	"	〔書〕「 ^{一 駿州駿東郡御厨坂下組合 藤曲村 一} 傷夷軍人職業指導資料, 一・二輯」(軍事保護院)。
"	"	〔書〕「融和教育七ヶ年」(中川満雄)。
"	"	〔書〕「優生学の理論と実際」(吉益脩夫)。
"	"	〔書〕「方面委員必携」(京都府)。
"	"	〔書〕「婦人方面委員の栞」(京都府)。
"	"	〔書〕「健康保険法精義」(熊谷憲一)。
"	"	〔書〕「東北一純農村の医学的分析」(高橋 実)。
"	"	〔書〕「 ^{環境衛生指導事業概要} (昭和14年度)」(大阪市保健部)。
"	"	〔書〕「日本新聞広告史」(日本電報通信社)。
"	"	〔書〕「日本メソヂスト教団条例改正要項」(木村蓬伍)。
"	"	〔書〕「事変下の基督教奉仕事業一班」(海老沢亮編)。
"	"	〔書〕「原始仏教の実践哲学」(和辻哲郎)。
"	"	〔書〕「新約聖書を中心とせるパピルスの話」(神田盾夫)。
"	"	〔書〕「労働の理論と政策」(風早八十二)。
"	"	〔書〕「独乙に於ける労働配置政策」(厚生省職業部)。
"	"	〔書〕「女子労働に関する報告」(昭和研究会事務局)。
"	"	〔書〕「生産と労働」(暉峻 義等)。
"	"	〔書〕「労働と青年」(桐原葆見)。
"	"	〔書〕「 ^{官庁・公衛・銀行} 従業員待遇法大鑑」(井上信明)。
"	"	〔書〕「 ^{会社・工場・商店} 職業対策」(木田徹郎)。
"	"	〔書〕「職業適正研究報告」(厚生省)。
"	"	〔書〕「地方情況(4・5輯)」(商工大臣官房)。
"	"	〔書〕「工場適地調査摘要」(岡山県)。
"	"	〔書〕「最新大日本鉱山史」(日本産業調査会)。
"	"	〔書〕「 ^{明十六年度樺太石炭増送対策ニ付テ} 」(北日本汽船株式会社)。
"	"	〔書〕「 ^{アドルフ・ミュラー} 鉄鋼原価の分析」(鉄鋼連盟調査部編)。
"	"	〔書〕「アッシャー機械発明史」(富成喜馬平)。
"	"	〔書〕「京都紙商組合沿革史」。
"	"	〔書〕「日本醸造協会沿革史」(日本醸造協会)。
"	"	〔書〕「大日本織物二千六百年史(上下)」(日本織物新聞社)。
"	"	〔書〕「米沢織物同業組合史」(今井清見)。
"	"	〔書〕「 ^{ソローキン} ツインマースン都市と農村」(京野正樹)。

西 暦	年 代	項 目
1940	//	〔書〕「河川浄化に関する資料」(大阪市保健部)。
"	"	〔書〕「昭和十四年天津水災誌」(本間部隊本部)。
"	"	〔書〕「無体財産法論」(飯塚利衛)。
"	"	〔書〕「農家統制資料(其一・三・四)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農林漁業団体統制試案」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農産物価格統制論」(山岸七之丞)。
"	"	〔書〕「煙草耕作と養蚕との紛争に 関する調停事件に就いて」(専売局収納部)。
"	"	〔書〕「米作の研究」(鈴木直二)。
"	"	〔書〕「農地審議会第一～第三回総会議事録(四冊)」(農林省)。
"	"	〔書〕「農業労働論」(ルイズ・イー・ハワード) 帝国農会
"	"	〔書〕「群馬県に於ける農村労働事情調整(其ノ一)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「新潟県に於ける 集団移動労働班の実施状況と観察」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「和歌山県に於ける 集団労働移動班の請入状況」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「分村の前後」(東京帝国大学農学部)。
"	"	〔書〕「農村隣保事業」(京都府社会課)。
"	"	〔書〕「牧業状況調査報告書(後編)」(興亜院 蒙疆連絡部)。
"	"	〔書〕「中央畜産会二十五年史」((財)中央畜産会)。

西 暦	年 代	項 目
1941	昭和16年	
"	1・1	全国の映画館でニュース映画の強制上映実施。
"	"	<p>〔書〕「コトバ」(第三巻第一号,「発音・アクセント」)。</p> <p>(同上)「尊合のアクセント例」(三宅武郎)。</p> <p>(「」)「国語の発音問題に關聯して」(家永英吉)。</p> <p>(「」)「放送用語発音規準の問題」(佐藤孝)。</p> <p>(「」)「魚返善雄氏の新著『大陸の言語と文学』を読む」(大西雅雄)。</p> <p>(「」)「菊沢季生氏著『国語と国民性』を読みて」(井上一男)。</p> <p>(「」)「新刊四種」(興水実)。</p> <p>(「」)「靜態言語学の課題について(ヴェンドリエス)」(小林英夫)。</p> <p>(「」)「言語体制と話し方指導の場」(松田文次郎)。</p> <p>(「」)「昭和十五年の国語国文学会回顧」(石井庄司)。</p> <p>(「」)「外地版 情報(石黒修編),台湾より」(斎藤義七郎)。</p> <p>(「」)「協同研究 国語アクセントの諸問題 提案者平山輝男」</p> <p>(「」)「国語教育とアクセント」(保科孝一)。</p> <p>(「」)「一型アクセントと近畿アクセント」(東条操)。</p> <p>(「」)「アクセントの問題について」(佐久間鼎)。</p> <p>(「」)「標準アクセント選定上の手續について」(三宅武郎)。</p> <p>(「」)「アクセント研究基本論」(大西雅雄)。</p> <p>(「」)「アクセントの教育について」(興水実)。</p>
"	1・6	米大統領ルーズベルト,年頭一般教書で「四つの自由」を演説。
"	1・7	国民党軍(何応欽),移動中の新四軍を包圍攻撃~1月4日。軍長葉挺は捕えられ,副軍長項英戦死。〔「皖南事件」,第二次反共攻勢〕。
"	1・8	東条首相「戦陣訓」を示達。
"		新聞紙等掲載制限令〔勅令〕公布。
"	1・16	大日本青少年団結成。3月21日大日本壮年団連盟結成。
"	1・17	国民党,新四軍に解散命令。
"	1・20	<p>〔日〕 文部省,第二回国語対策協議会開催(~23日。「議題一,各地ニ於ケル日本語普及ノ状況ニ関スル件,一,日本語教授上困難ナル諸問題ト其ノ対策並ニ実績ニ関スル件,一,日本語教育振興ニ関スル希望並ニ意見。決議一,内外ニ於ケル日本語教育ノ連絡ヲ図ル件,一,日本語教授者養成ノ件,一,国語ノ整理統一機關拡充強化ノ件」 出席者,大臣,次官,各局長,課長及ビ図書局全員,企画院,情報局,興亜院,大政翼賛会文化部員,学者及ビ外地ノ実家等)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1941	1・20	外相松岡洋右、泰・仏印国境紛争に関し、正式に調停を申入れ、両国受諾。 2月7日東京で調停会議開始。3月1日公文署名。
"	"	中共、新四軍を再編、1月22日皖南事件に抗議し、国民政府に「国共調整臨時弁法」十二か条を要求。
"	1・23	野村駐米大使出発。
"	1・25	〔書〕「日本語教科書巻一」(財団法人国際学友会)。
"	1・26	松岡外相、米国が中国援助を続行する限り日米の国交改善絶望と議会で演説。
"	1・28	〔日〕基本文典委員会(国際文化振興会、柳田国男、橋本進吉、菊沢季生、三宅武郎、石黒修)。
"	1・29	〔日〕基本文典委員会(青年文化協会、今泉忠義、大西雅雄、黒野政市、興水実)。
"	"	ワシントンで米英参謀本部の秘密戦略会議始まる(～3月29日。米国参戦の場合の共同作戦を討議。対独戦優先を決定)。
"	1・	解放区に対する日本軍の三光作戦始まる。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四六二号)。 (同上)「公学校用新国語読本の体系的研究(三)」(田口実)。
"	"	〔書〕「台湾時報」 (同上)「言葉について(皇民化の再検討)」(中村美治)。
"	"	〔書〕「ハワイの日本語」(田中豊太郎、「実践国語教育」一月号)。
"	"	〔書〕「最新理科学辞典」(関原吉雄著、天泉社)。
"	"	〔書〕「支那語雑誌第1巻1号～第2巻12号」(石橋鎮雄等編、東京・螢雪書院。月刊。昭和16年1月～17年12月)。
"	2・1	〔書〕「コトバ」(第三巻第二号、「日本語の基本文型」)。 (同上)「基本文型の問題」(垣内松三)。 (「」)「『基本文型』の問題 ― 文型と文体と」(浅野信)。 (「」)「外国人に教へる日本語の基本文型」(松尾捨次郎)。 (「」)「日本語の基本型」(乾輝雄)。 (「」)「言表の典型について」(興水実)。 (「」)「日本語振興のタ(岡本記)」 (「」)「小学国語読本の類型的観方と指導の着眼」(中田憲久)。 (「」)「協同研究 基本文型への手がかり 提出者三尾砂」

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上)「基本文型存疑」(安藤正次)。</p> <p>(#)「基本文型への探求」(吉岡修一郎)。</p> <p>(#)「三尾氏の提題を読んで」(松原秀治)。</p> <p>(#)「基本文型への手がかりは論理的にのみ求めてよいか」(黒野政市)。</p> <p>(#)「ふたつの欠点」(岡本千万太郎)。</p> <p>(#)「基本文型への手がかりについて」(佐久間鼎)。</p> <p>(#)「新刊紹介(興水実)」</p> <p>(#)「外地版 資料・報道(石黒修編)」。</p> <p>(#)「潜格助詞の発掘(単語形成とアクセント法則八)」(三宅武郎)。</p>
"	2・1	毛沢東主席、「党の作風を整頓しよう」。
"	2・3	大本営連絡会議、「対独伊ソ交渉案要綱」を決定(「日ソ国交調整」)。
"	2・6	〔日〕 満州ガナ懇談会。
"	2・7	〔書〕「最新 ^{最新} 蒙 ^{標音} 露日大辞典」(南満州鉄道株式会社調査部編, 石田喜与司, ア・パ・ピーニン共著, 合資 ^{会社} 学芸社)。
"	2・8	〔日〕 満州ガナ講演会(国語協会主催)。
"	2・15	〔日〕 日本語教育講習会(～22日。主催日本語教育振興会, 後援, 文部省, 名古屋市, 名古屋商工会議所, 会場, 名古屋市東新小学校, 派遣講師7名, 講習生75名)。
"	2・21	〔日〕 日本語教育講習会(主催日本語教育研究所, 会場北京興亜中級学校。45名。～1週間)。
"	2・24	〔日〕 東亜教育協議会(主催教学局, 参加者文部省各局長, 外務省, 興亜院, 陸海軍等関係官出席)。
"	2・25	〔国〕 定例閣議の席上, 橋田文相より発言。(国語国字の整理統一に関する次の申合せを行う。「一, 文部省で国語国字の調査研究並に整理統一を促進し, 内閣及び各省はこれに協力すること。一, 文部省の整理統一したる事項は閣議の決定を経て, 内閣及び各省は速かに実行すること」)。
"	2・26	情報局, 各総合雑誌に執筆禁止者名簿を内示(矢内原忠雄・馬場恒吾・清沢洌・田中耕太郎・横田喜三郎・水野広徳)。
"	"	重慶で国民参政会, 第二期第一次大会開く(～3月10日)。3月6日参政会, 毛沢東・周恩来らの中共代表の出席を求める。3月8日中共, 強硬拒否を通电。
"	"	毛沢東, 「中国革命戦争の戦略問題」発表。
"	2・	〔日〕 青島興亜教育会, 日語教員の再教育を一週間行う。

西 暦	年 代	項 目
1941	2・	〔日〕 エスコバール日本語学園（エスコバール・ベレ公園区）開校。
〃	〃	〔書〕「米国に於ける日本語研究」（山極越海，「国語と国文学」12月号）。
〃	〃	〔書〕「外地用日本語教科書ハナシコトバ（上・中・下）」文部省編，日本語教育振興会）。
〃	〃	〔書〕「国定初級中学日本語教科書（六冊）」（教育部編審委員会編，民国政府教育部。卅年二月初版）。
〃	〃	〔書〕「中日会話集」（丁卓，三通書局，民国廿五年十二月初版，民国卅年二月十版）。
〃	〃	〔書〕「台湾教育」（第四六三号）。 （同上）「巻頭言 国語発展の機運に際して」 （ 〃 ）「公学校に於ける国語教育の前進」（松沢源次郎）。 （ 〃 ）「尋常科一学年の平仮名指導案」（田淵武吉）。
〃	〃	〔書〕「満州国語」（二月号）。 （同上）「日本語の諸問題と日本語教育（承前）」（神保裕）。 （ 〃 ）「満州国中等学校における日本語教授」（堀敏夫）。 （ 〃 ）「日本語教授随感」（大塚俊秀）。 （ 〃 ）「語学検定委員座談会（承前）」 （ 〃 ）「敬語法」（丸山林平）。 （ 〃 ）「現代支那語法」（田中振三郎）。
〃	〃	〔書〕「日本語教授と新体制」（黒野政市，「興亜教育」二月号）。
〃	3・ 1	〔教〕「国民学校令」〔勅令第百四十八号〕公布（4月1日小学校を国民学校と改称し，教科を「国民科」「理数科」「体錬科及芸能科」に統合，昭和19年度より義務教育8年制を実施予定）。
〃	〃	〔日〕 音声学協会第五十七回研究会，外地向教材用国語音の仮名表記について協議。
〃	〃	ブルガリア，日独伊三国同盟加入。3月2日独軍，ルーマニアからブルガリア進駐。
〃	〃	〔書〕「コトバ」（第三卷第三号，「再吟味・国語対策・話方教授体系」） （同上）「明治文章史に及ぼした外国文学の影響」（吉武好孝）。 （ 〃 ）「基本文型の細論」（浅野信）。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上) 「満州国の言語的概観」(野村正良)。</p> <p>(#) 「文部省第二回国語対策協議会決議事項」。</p> <p>(#) 「内が先か外が先か」(魚返善雄)。</p> <p>(#) 「造語の問題」(松原秀治)。</p> <p>(#) 「自分はいかに見る」(興水実)。</p> <p>(#) 「『ハナシコトバ』の研究会から」。</p> <p>(#) 「基本文型の問題、再び」(三尾砂)。</p> <p>(#) 「国民学校に於ける読み方の指導様式は如何にすべきか」 (秋田喜三郎)。</p> <p>(#) 「国民学校に於ける読み方の指導様式は如何にすべきかにつ いて」(下山懋)。</p> <p>(#) 「生きたことばの芽をみつける方式」(西原慶一)。</p> <p>(#) 「再び国語アクセントの諸問題について」(平山輝男)。</p> <p>(#) 「国民科話し方教授体系」(愛知第一師附小芥子川律治)。</p> <p>(#) 「『国民科国語話し方教授体系』について」(興水実)。</p> <p>(#) 「垣内先生国語文化賞受賞者(大槻芳広氏) 略歴及び謝辞」。</p> <p>(#) 「推薦のことば」(石黒修・岡本千万太郎・三宅武郎)。</p> <p>(#) 「外地版報道(石黒修編)」。</p> <p>(#) 「国語教室の言語学(講座)」(石黒魯平)。</p>
"	3・3	厚生省、産報青年隊結成に関し通牒(11月20日現在、青年隊数5000、 隊員150万人)。
"	"	〔書〕「日本語教科用ハナシコトバ学習指導書上」(東亜同文会)。
"	3・5	ヒトラー、対日協力に関する指令(日本のシンガポール攻撃を促すが、対ソ 「バルバッサ作戦」は日本に秘密にする)。
"	"	米・パナマ防衛協定調印(パナマ、運河地帯外で米国の防空権を認める)。
"	"	〔日〕 満州国康德八年語学検定試験願書受付開始(4月5日願書締切、5 月25日第一次試験、5月25日「日語」、6月7日「ロシア語」、6月8日 「満州語」、8月1日第一次及格者発表。9月1日第二次試験開始、10月 20日及格者発表)。
"	3・7	〔日〕 日本語教育振興会第一回委員会。
"	"	「国防保安法」〔法律〕公布。
"	"	「左翼」関係出版物、約660点一括発禁。
"	3・8	「治安維持法」〔法律第五十四号、公布昭和十六年三月十日〕(予防拘禁制 を追加)。5月14日「予防拘禁所官制」〔勅令〕公布。

西 暦	年 代	項 目
1941	3・8	〔書〕「日本語の特質」（佐久間鼎，育英書院）。
〃	3・11	米大統領，武器貸与法に署名。成立。
〃	3・12	松岡外相，ソ連経由で独伊訪問に出発。3月26日ベルリン着。
〃	3・21	大日本壮年団連盟結成。
〃	3・24	松岡外相，モスクワで駐ソ米大使，スタインハートに日支事変解決に関する米大統領と松岡外相との会談あっせん依頼。
〃	〃	〔財〕大日本仏教会結成。10月6日東京で仏教徒統後奉公大会。
〃	〃	国民党八中全会開催（～4月2日）。
〃	3・25	国民政府軍事委員会，「中共過激党徒活動制裁条例十二箇条」制定。施行を通過。
〃	〃	ユーゴ，日独伊三国同盟に加入。3月27日反独的クーデタ成功（中立政策を表明）。4月6日モスクワで不可侵条約（4月5日付調印）。
〃	〃	〔書〕「イエス・ペルセン語学教授法新論」（前田太郎訳，大塚高信補訳，富山房）。
〃	3・26	〔日〕「台湾教育令」改正〔勅令〕公布（小学校・公学校を廃止して国民学校に一本化）。
〃	3・27	松岡外相，ヒトラー総統と会見。
〃	3・28	〔日〕「南洋庁小学校官制改正」〔勅令二百八十四号。公布昭和十六年三月二十九日〕（「南洋庁国民学校官制 第一条 南洋庁国民学校ハ皇国ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ国民ノ基礎的練成ヲ為ス所トス」）。
〃	3・29	〔日〕「国民学校令施行ニ関スル諭告」〔台湾総督府諭告第一号〕（本総督曩ニ 大命ヲ拝シテ任ヲ本島ニ承クルヤ一 聖旨ヲ奉体シテ驛島ノ衆庶普ク内台一如ノ完成ニ努メ皇国臣民タルノ本質ニ徹シ仍テ以テ台湾ノ負荷スル使命ヲ完遂シ真ニ帝国ノ重要ナル一環タルノ機能ヲ發揮昂揚スルヲ以テ統治ノ大本トスベキヲ明記シ更ニ島民ノ福祉ヲ進メ本島文化ノ向上ヲ図ルニハ特ニ教学ヲ刷新シテ国民精神ノ振作更張ニカメ国民的信念ヲ涵養スルヲ以テ其ノ根幹トナスベキ旨ヲ述ベタリ 由來本島ニ於ケル教育方針ハ一視同仁ノ 聖旨ニ恪遵シ教育ニ関スル 勅語ノ旨趣ヲ奉体シテ皇国臣民ヲ育成スルニ在リ此ノコト固ヨリ一貫シテ渝ル所ナシ今茲ニ台湾教育令ノ改正ヲ見小学校公学校ノ別ヲ廃シテ内台人齊シク国民学校令ニ依リ国民ノ基礎的練成ヲ為スニ至リタルハ 聖慮宏遠誠ニ恐懼感激ニ禁ヘザル所ナリ 今ヤ国運未曾有ノ伸張ニ伴ヒ東亞並ニ世界ニ於ケル帝国ノ地位ト使命トハ益

西 曆	年 代	項 目
1941		々重キヲ加ヘ国民資質ノ醇化向上ヲ期スルノ要愈々緊切ナルモノアリ此ノ秋ニ 当リ本島初等教育史上劃時代ノ改正ヲ見ル本島ノ帝國ニ於ケル地位ト使命ト ニ鑑ミ島民ニ期待スル所大ナルモノアルヲ懷ハザルベカラズ庶クバ衆庶克ク今 次改正ノ精神ヲ了得シ教学ノ本義ニ徹シテ制度ノ運行ヲ懋ラズ本島初等普通教 育ノ根柢ヲ鞏固ニシ以テ国運ノ進展ニ寄与セムコトヲ勵ムベシ）。
"	3・30	〔日〕 台湾公立幼稚園規則中改正〔台湾總督府令第五十号〕（「第七条中 「国語ヲ常用スル幼児」ヲ「国語生活ヲ為ス家庭ノ幼児」ニ、「国語ヲ常用セ サル幼児」ヲ「国語生活ヲ為ササル家庭ノ幼児」ニ改ム 第八条第二項中「国 語ヲ常用セサル幼児」ヲ「国語生活ヲ為ササル家庭ノ幼児」ニ改ム）。
"	"	〔日〕 台湾公立小学校規則及台湾公立公学校規則改正〔台湾總督府令第四 十七号〕（第十四条 国民科国語ハ日常ノ国語ヲ習得セシメ其ノ理会カト発表 カトヲ養ヒ国民的思考感動ヲ通ジテ国民精神ヲ涵養スルモノトス 国語ニ於テ ハ読ミ方、話シ方、綴り方、書キ方ヲ課スベシ 児童ノ情況ニ依リテハ話シ方 教授ヨリ始ムベシ 読ミ方ニ於テハ正シク読ム力ヲ養フト共ニ言語ノ練習ニ留 意シ且正確ニ書写スルコトヲ指導シ以テ読解カト発表カトヲ涵養スベシ 読ミ 方ハ児童ノ生活ニ即スル言語ニヨリ始メ日常ノ言語ヲ基礎トスル国語文ニ進ミ 更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク児童生活ノ表現ニ出ダシテ国民生活ノ諸相ニ展 開セシムルト共ニ国語ノ規準ト為リ創造力ヲ養フニ足ルモノタルベシ高等科ニ 於テハ著名ナル作品ヲ加フベシ 話シ方ニ於テハ児童ノ自由ナル発表又ハ近易 ナル国語ノ教授ヨリ始メ次第ニ之ヲ醇正ナラシメ併セテ聴キ方ノ練習ヲ為スベ シ 話シ方ハ主トシテ読ミ方綴り方等ニ於テ之ヲ指導シ尙各教科、諸行事等ニ 現ルル事項ヲ話題トシテ練習セシメ實際的効果ヲ挙グルニカムベシ但シ情況ニ 依リテハ特ニ時間ヲ設ケテ之ヲ指導スベシ 発音ヲ正シ抑揚ニ留意シ進ミテハ 文章ニ即シテ適宜語法ノ初步ヲ授ケ醇正ナル国語ノ使用ニ習熟セシムベシ綴り 方ニ於テハ児童ノ生活ヲ中心トシテ事物現象ノ見方考ヘ方ニ付適正ナル指導ヲ 為シ平明ニ表現スルノ能ヲ得シムルト共ニ創造力ヲ養フベシ 書キ方ニ於テハ 文字ヲ明確端正ニ書ク力ヲ養フベシ 他ノ教科及児童ノ日常生活ニ於テモ醇正 ナル国語ヲ使用セシムルコトニ留意シ児童ノ情況ニ依リテハ特ニ国語ノ生活化 ニカムベシ 我ガ国語ノ特質ヲ知ラシメ国語ヲ尊重愛護スルノ念ニ培ヒ其ノ醇 化ニカムルノ精神ヲ養フベシ 第三十五条 国語生活ヲ為ス家庭ノ児童ニ対ス ル課程ハ別表第一号表ニ依リ国語生活ヲ為サザル家庭ノ児童ニ対スル課程ハ別 表第二号表ニ依ルベシ）
"	"	〔日〕「台湾總督府高等学校規則中改正」〔台湾總督府令第五十三号〕 （「大正十一年府令第八十四号台湾總督府諸学校規則中左ノ通改正ス 第三十 五条中「修身、国語、算術、国史、地理、理科ニ就キ尋常小学校ノ程度」ヲ

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>「国民科修身，国民科国語，国民科国史，国民科地理，理数科算数及理数科理科ニ就キ国民学校初等科修了ノ程度」ニ，「尋常小学校ヲ卒業シタル者」ヲ「国民学校初等科ヲ修了シタル者」ニ改ム 第三十六条中「尋常小学校卒業ノ程度」ヲ「国民学校初等科修了ノ程度」ニ改ム 附則 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」。</p>
〃	3・31	<p>〔日〕「小学校規程改正」〔朝鮮總督府令第九十号〕（「小学校規程左ノ通改正ス 国民学校規程 第一章 教則及編制 第一節 教科及科目 第一条 国民学校ノ教科ハ国民科，理数科，体鍊科，芸能科及職業科トス 国民科ハ之ヲ分チテ修身，国語，国史及地理ノ科目トス 理数科ハ之ヲ分チテ算数及理科ノ科目トス 体鍊科ハ之ヲ分チテ体操及武道ノ科目トス 芸能科ハ之ヲ分チテ音楽，習字，図画及工作ノ科目トシ女兒ニ付テハ家事及裁縫ノ科目ヲ加フ 職業科ハ之ヲ分チテ農業，工業，商業，又ハ水産ノ科目トス 前五項ニ掲グル科目ノ外朝鮮語ヲ設ケ及高等科ニ於テハ外国語其ノ他必要ナル科目ヲ設クルコトヲ得 前項ノ規定ニ依リ設クル科目ハ之ヲ随意科ト為スコトヲ得 第二条 国民学校ニ於テハ常ニ左ノ事項ニ留意シテ兒童ヲ教育スベシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キ教育ノ全般ニ互リテ皇国ノ道ヲ修練セシメ特ニ国体ニ対スル信念ヲ鞏固ナラシメ皇国臣民タルノ自覚ニ徹セシメントコトヲカムベシ 二 一視同仁ノ聖旨ヲ奉体シテ忠良ナル皇国臣民タルノ資質ヲ得シメ内鮮一体，信愛協力ノ美風ヲ養フコトヲカムベシ 十三 醇正ナル国語ヲ習得セシメ其ノ使用ヲ正確，自在ナラシメテ国語教育ノ徹底ヲ期シ以テ皇国臣民タルノ性格ヲ涵養センコトヲカムベシ 十四 授業用語ハ国語ヲ用フベシ 第五条 国民科国語ハ日常須知ノ国語ヲ習得セシメ其ノ理會カト発表力トヲ養ヒ国民的思考感動ヲ通ジテ国民精神ヲ涵養スルモノトス 国語ニ於テハ讀ミ方，聴キ方話シ方，綴り方，書キ方ヲ課スベシ 讀ミ方ハ 近易ナル言語ヨリ始メテ日常ノ言語ヲ基礎トスル国語文ニ進ミ更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク兒童生活ノ表現ニ出テシテ国民生活ノ諸相ニ展開セシムルト共ニ国語ノ規準ト為リ創造力ヲ養フニ足ルモノタルベシ高等科ニ於テハ名家ノ作品ヲ加フベシ 聴キ方話シ方ニ於テハ正シキ聴キ方ノ指導ヨリ始メ兒童ノ発表ヲ基トシテ話聴力ヲ陶冶スベシ 聴キ方話シ方ハ主トシテ兒童ノ生活及各教科諸行事等ニ現ハルル事項ニ依リテ練習セシメ實際ノ効果ヲ挙グルニカムベシ 綴り方ニ於テハ兒童ノ生活ヲ中心トシテ事物現象ノ見方考ヘ方ニ付キ適正ナル指導ヲ為シ平明ニ表現スルノ能ヲ得シムルト共ニ創造力ヲ養フベシ 書キ方ニ於テハ文字ヲ明確端正ニ書ク力ヲ養フベシ 発音ヲ正シ抑揚ニ留意シ進ミテハ文章ニ即シテ適宜語法ノ初歩ヲ授ケ醇正ナル国語ノ使用ニ習熟セシムベシ 他ノ教科及兒童ノ日常生活ニ於テモ醇正ナル国語ヲ使用セシムコトニ留意スベシ 我ガ国語ノ特質ヲ知ラシメ国語ヲ尊重愛護スルノ念ニ培ヒ其ノ醇化ニカマルノ精神ヲ養フベシ 第十六条 芸能科</p>

西 暦	年 代	項 目
1941		習字ハ文字書写ノ技能ヲ修練セシメ作品ヲ鑑賞スル能力ヲ養ヒ皇国臣民タルノ情操ヲ醇化スルモノトス 初等科ニ於テハ「カナ」、楷書及行書ノ書法ヲ授ケ適宜鑑賞ヲ加フベシ 高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ更ニ草書ヲ加フベシ 国民科国語トノ関聯ニ留意シ生活ノ實際ニ適切ナル教材ヲ選ブベシ 艱ヲ重ンジ姿勢態度ヲ正シ精神訓練ノ実ヲ挙グルニカムベシ 附則 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス。 この「小学校規程改正」によって朝鮮語の学習は實際上廃止されることになった。
"	3・31	〔書〕「国民科国語」(台南師範学校国民学校研究会)。
"	3・	〔日〕 夜間の興亜日本語学校創設(宣化省。蒙古教育会、大使館の助成による)。
"	"	〔書〕「スタンダード和英辞典」(竹原常太編、大修館。「Standard Japanese English Dictionary (A bridged Edition)」)。
"	"	〔書〕「日語問題百日通」(沈紹基、日語編訳社、民国卅年三月再版)。
"	"	〔書〕「中国公論 第4巻6期~第10巻4期」(北京・中国公論社。月刊。民国卅年三月~卅三年一月)。
"	"	〔書〕「日本語海外発展の現段階」(石黒修「国語教育」三月号)。
"	"	〔書〕「国語運動」(三月号)。 (同上)「国語海外発展と諸問題」(大久保正太郎)。 (")「留学生と国語問題」(国府種武)。 (")「第七十六回帝国議会における国語問題(速記録)」。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四六四号)。 (同上)「実業学校文法教育に於ける二三の問題」(秋月豊文)。 (")「小学国語読本巻十二万葉集雑考」(坂本竹喜)。 (")「アイウエオ音名の原理」(望月桑太郎)。
"	"	〔書〕「満州国語」(三月号)。 (同上)「巻頭言 大東亜共栄圏と日本語」。 (")「朝鮮に於ける国語教育」(丸山林平)。 (")「蒙疆に於ける日本語教育」(大西正男)。 (")「新満州文化と日本語」(津村雅雄)。 (")「ジズとデズのはなし」(一谷清昭)。 (")「敬語法」(丸山林平)。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上)「現代支那語法」(田中振佐武郎)。</p> <p>(#)「満系学生の日文書簡」。</p>
"	3・	<p>〔日〕満州国語研究会機関誌「満州国語」(日本語版・満州語版), 3月号をもって休刊。</p>
"	"	<p>〔書〕「郷土民謡舞踊辞典」(小寺融吉著, 富山房)。</p>
"	4・1	<p>文部省「礼法要綱」を作成。</p>
"	"	<p>〔日〕「関東小学校規則改正」〔関東局令第四十号〕(「関東小学校規則左ノ通改正ス 関東国民学校規則 第一章 目的 関東国民学校ハ皇国ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ国民ノ基礎的錬成ヲ為スヲ以テ目的トス 第二章 課程及編制 第五条 関東国民学校ニ於テハ第一条ノ旨趣ニ基キ左ノ事項ニ留意シテ児童ヲ教育スベシ 一 教育ニ関スル勅語ノ旨趣ヲ奉体シテ教育ノ全般ニ互リ皇国ノ道ヲ修練セシメ特ニ国体ニ対スル信念ヲ深カラシメ尽忠ノ至誠ニ徹セシムベシ 二 日満両国ノ不可分関係ヲ領得セシメ進ミテ大陸ニ発展スベキ大国民タルノ志操ノ涵養ニカムベシ(三~十二略) 第八条 国民科国語ハ日常ノ国語ヲ習得セシメ其ノ理會力ト発表力トヲ養ヒ国民的思考感動ヲ通ジテ国民精神ヲ涵養スルモノトス 国語ニ於テハ讀ミ方綴リ方書キ方話シ方ヲ課スベシ 讀ミ方ニ於テハ正シク讀ム力ヲ養フト共ニ言語ノ練習ニ留意シ且正確ニ書写スルコトヲ指導シ以テ読解力ト発表力トヲ陶冶スベシ 讀ミ方ハ児童ノ生活ニ即スル言語ヨリ始メ日常ノ言語ヲ基礎トスル口語文ニ進ミ更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク児童生活ノ表現ニ出發シテ国民生活ノ諸相ニ展開セシムルト共ニ国語ノ規準ト為リ創造力ヲ養フニ足ルモノタルベシ高等科ニ於テハ著名ナル作品ヲ加フベシ 綴リ方ニ於テハ児童ノ生活ヲ中心トシテ事物現象ノ見方考へ方ニ付適正ナル指導ヲ為シ平明ニ表現スルノ能力ヲ得シムルト共ニ創造力ヲ養フベシ書キ方ニ於テハ文字ヲ明確端正ニ書ク力ヲ養フベシ 話シ方ニ於テハ児童ノ自由ナル発表ヨリ始メ次第ニ之ヲ醇正ナラシメ併セテ聴キ方ノ練習ヲ為スベシ 話シ方ハ主トシテ讀ミ方綴リ方等ニ於テ之ヲ指導シ尙各教科諸行事等ニ現ル事項ヲ話題トシテ練習セシメ實際の効果ヲ挙グルニカムベシ 発音ヲ正シ抑揚ニ留意シ進ミテハ文章ニ即シテ適宜語法ノ初歩ヲ授ケ醇正ナル国語ノ使用ニ習熟セシムベシ他ノ教科及児童ノ日常生活ニ於テモ方言, 訛音ノ是正ニカメ醇正ナル国語ヲ使用セシムルコトニ留意スベシ我が国語ノ特質ト使命トヲ覺ラシメ国語ヲ尊重愛護スルノ念ニ培ヒ其ノ醇化ニカムルノ精神ヲ養フベシ 第十条 国民科大陸事情及満語ハ満州及東亜ニ関スル事情ノ概要ヲ知ラシムルト共ニ簡易ナル満語ヲ習得セシメ大陸ニ於ケル皇国民ノ使命ヲ自覺セシムルモノトス</p>

西 曆	年 代	項 目
1941		<p>初等科ニ於テハ満州ノ自然、風俗、習慣等ヨリ始メ歴史地理ノ大要及簡易ナル満語ヲ授クベシ 高等科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ拡メテ之ヲ東亜ニ及ボシ日常須知ノ満語ヲ授クベシ 他教科トノ關聯ヲ密ニシ我ガ國ト關係深キ事項ニ關シテハ特ニ其ノ取扱ニ留意スベシ 満語ハ発音抑揚ニ留意シカメテ即時即物ノ指導ヲ図リ兼ネテ習俗ノ一端ヲ知ラシムベシ」)。</p>
	4・1	<p>〔日〕「在滿国民学校規則」〔在滿教務部令第二号〕(「在滿国民学校規則左ノ通定ム 在滿国民学校規則 第一章 目的 第一条 在滿国民学校ハ皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ為スヲ以テ目的トス 第二章 課程及編制 第二条 在滿国民学校ニ初等科及高等科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ初等科又ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得 第三条 初等科ノ修業年限ハ六年トシ高等科ノ修業年限ハ二年トス 第五条 在滿国民学校ニ於テハ第一条ノ旨趣ニ基キ左ノ事項ニ留意シテ兒童ヲ教育スベシ 一 教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉テ教育ノ全般ニ互リ皇國ノ道ヲ修練セシメ特ニ國體ニ對スル信念ヲ深カラシメ尽忠ノ至誠ニ徹セシムベシ 二 滿州國建國ノ精神ヲ体得セシメ滿州國民ノ中核タル責務ヲ遂行スル志操ノ涵養ニカムベシ 三 國民生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ体得セシメ情操ヲ醇化シ健全ナル心身ノ育成ニカムベシ 四 我ガ國文化ノ特質ヲ明ナラシムルト共ニ東亞及世界の大勢ニ付テ知ラシメ皇國ノ地位ト使命トノ自覺ニ導キ他民族ヨリ信頼ヲ受クルニ足ル品位ト實力トノ養成ニカムベシ(五~十二略) 第八条 國民科國語ハ日常ノ國語ヲ習得セシメ其ノ理會カト發表カトヲ養ヒ國民的思考感動ヲ通ジテ國民精神ヲ涵養スルモノトス 國語ニ於テハ讀ミ方綴方書キ方話シ方ヲ課スベシ 讀ミ方ニ於テハ正シク讀ムカヲ養フト共ニ言語ノ練習ニ留意シ且正確ニ書寫スルコトヲ指導シ以テ読解カト發表カトヲ陶冶スベシ 讀ミ方ハ兒童ノ生活ニ即スル言語ヨリ始メ日常ノ言語ヲ基礎トスル口語文ニ進ミ更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク兒童生活ノ表現ニ出テ國民生活ノ諸相ニ展開セシムルト共ニ國語ノ規準ト為リ創造カヲ養フニ足ルモノタルベシ 高等科ニ於テハ著名ナル作品ヲ加フベシ 綴リ方ニ於テハ兒童ノ生活ヲ中心トシテ事物現象ノ見方考へ方ニ付適正ナル指導ヲ為シ平明ニ表現スルノ能力ヲ得シムルト共ニ創造カヲ養フベシ 書キ方ニ於テハ文字ヲ明確端正ニ書クカヲ養フベシ 話シ方ニ於テハ兒童ノ自由ナル發表ヨリ始メ次第ニ之ヲ醇正ナラシメ併セテ聴キ方ノ練習ヲ為スベシ 話シ方ハ主トシテ讀ミ方綴リ方等ニ於テ之ヲ指導シ尙各教科諸行事等ニ現ルル事項ヲ話題トシテ練習セシメ實際的効果ヲ挙グルニカムベシ 發音ヲ正シ抑揚ニ留意シ進ミテハ文章ニ即シテ適宜語法ノ初歩ヲ授ケ醇正ナル國語ノ使用ニ習熟セシムベシ 他ノ教科及兒童ノ日常生活ニ於テモ方言、訛音ノ是正ニカメ醇正ナル國語ヲ使用セシムルコトニ留意スベシ 我ガ國語ノ特質ト使命トヲ覺ラシメ國語ヲ尊重愛護スルノ念ニ培ヒ其ノ醇化ニカムルノ精神ヲ養フベシ 第十条 國民科大</p>

西 暦	年 代	項 目
1941		陸事情及満語ハ満州及東亜ニ関スル事情ノ概要ヲ知ラシムルト共ニ簡易ナル満語ヲ習得セシメ大陸ニ於ケル皇国民ノ使命ヲ自覚セシムルモノトス初等科ニ於テハ満州ノ自然、風俗、習慣等ヨリ始メ歴史地理ノ大要及簡易ナル満語ヲ授クベシ 高等科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ括メテ之ヲ東亜ニ及ボシ日常須知ノ満語ヲ授クベシ 他教科トノ関聯ヲ密ニシ我ガ国ト関係深キ事項ニ関シテハ特ニ其ノ取扱ニ留意スベシ 満語ハ発音抑揚ニ留意シカメテ即時即物ノ指導ヲ図リ兼ねテ習俗ノ一端ヲ知ラシムベシ」)。
"	4・1	〔日〕「在満師範学校規則」〔在満教務部令第一号〕(「在満師範学校規則左ノ通定ム 在満師範学校規則 第一章 総則 第一条 在満師範学校ハ在満国民学校ノ教員タルベキ者ヲ錬成スル所トス 第二条 在満師範学校ニ於テハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ヲ奉体シ皇国ノ道ニ則リテ師道ノ修練ニカメ教育者タルノ信念ヲ涵養シ特ニ左ノ事項ニ留意シテ生徒ヲ教育スベシ 一 教育ノ全般ニ互リテ皇国ノ道ヲ修練セシメ尽忠ノ至誠ニ徹セシメ実践躬行人ノ師表タルノ信念ヲ涵養スベシ 二 満州国建国ノ精神ヲ体得センメ民族協和ノ中核タルノ責務ヲ自覚セシムベシ 三 東亜並ニ世界ニ於ケル皇国ト満州国トノ地位ト使命トヲ自覚セシメ教育ヲ以テ国ニ殉ズルノ気魄ヲ涵養スベシ(四〜六略) 第十条 国語漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ発表シ文字ヲ端正ニ書写スルノ能力ヲ得シメ国民精神ヲ涵養シ文学上ノ趣味ヲ養ヒ知徳ノ啓発ニ資シ且在満国民学校ニ於ケル国民科国語及芸能科習字教授ノ方法ヲ会得セシムルヲ以テ要旨トス 国語漢文ハ現時ノ国文ヲ主トシテ講読セシメ進ミテハ中古ヨリ上古ノ国文ニ及ボシ又普通ノ漢文ヲ講読セシメ国語文法及国文学史ノ大要並ニ習字ヲ授ケ作文ニ習熟セシメ且教授法ヲ授クベシ 第十三条 大陸事情ハ満州国ヲ主トシ東亜大陸ノ人文及地文ノ全般ニ互ル概要ヲ理解セシメ大陸ニ関スル正確ナル知識ヲ授ケ特ニ日滿両国ノ特殊關係ヲ体得セシメ且在満国民学校ニ於ケル国民科大陸事情及満語教授ノ方法ヲ会得セシムルヲ以テ要旨トス 大陸事情ハ満州国ヲ主トシ東亜諸国ニ於ケル政治、経済、産業、文化、国防、気候風土等ニ関スル事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クベシ 第十四条 満語ハ普通ノ満語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能力ヲ得シメ大陸ニ於ケル皇国ノ使命ノ自覚ニ導キ且在満国民学校ニ於ケル国民科大陸事情及満語教授ノ方法ヲ会得セシムルヲ以テ要旨トス 満語ハ発音、聴方、話方、簡易ナル文章ノ読方ヲ授ケ且教授法ヲ授クベシ 第二十二條 外国語ハ普通ノ外国語(満語ヲ除ク)ヲ了解シ知徳ノ増進ニ資シテ之ヲ運用スルノ能力ヲ得シムルヲ以テ要旨トス 外国語ハ露語又ハ英語ニ付発音、聴方、話方及簡易ナル文章ノ読方ヲ授クベシ」)。
"	"	6大都市で米穀配給通帳制・外食券制実施(1日2合3勺)。5月、家庭用木炭配給通帳制・酒切符制実施。

西 暦	年 代	項 目
1941	4・1	<p>〔書〕「コトバ」(第三巻第四号)。</p> <p>(同上)「東京語に於ける意志形と推量形」(中村通夫)。</p> <p>(「」)「明治文章史に及ぼした外国文学の影響」(吉武好孝)。</p> <p>(「」)「言語島八丈島と黒潮」(平山輝男)。</p> <p>(「」)「基本文型に就て」(山本忠雄)。</p> <p>(「」)「基本文型の問題」(徳田浄)。</p> <p>(「」)「漢字のあて方」(岡崎常太郎)。</p> <p>(「」)「既刊『コトバ』主題一覧」。</p> <p>(「」)「『日本文法辞典』を読む」(石井庄司)。</p> <p>(「」)「国語文化学会「国語講演会」案内」。</p> <p>(「」)「青年文化協会「海外進出日本語教師講習会」案内」。</p> <p>(「」)「六月号協同研究への提案 国民科国語の実地指導案について」(興水実)。</p> <p>(「」)「外地版報道(石黒修編)」</p> <p>(「」)「国語教室の言語学(2)」(石黒魯平)。</p>
〃	〃	<p>〔書〕「^{対訳}日本小学国語読本上巻」(PARALLEL・TRANSLATION OF THE JAPANESE READERS Book 1〜6), 三原時信, ^{財団}日本^{法人}のローマ字社)。</p>
〃	〃	<p>〔日〕「日本語」創刊(日本語教育振興会機関誌。編輯・発行者福田恒存, 財団^所法人^{日語文化協会})。</p>
〃	〃	<p>〔書〕「日本語」(創刊号)。</p> <p>(同上)「発刊の辞」(松尾長造)。</p> <p>(「」)「東亜文化圏の今日及明日」(松村 泰)。</p> <p>(「」)「日本語の海外発展策」(小倉進平)。</p> <p>(「」)「話言葉と書言葉」(吉沢吉則)。</p> <p>(「」)「日本語教授のあと」(松宮弥平)。</p> <p>(「」)「外国人の日本語研究(ハンガリー)」(波番伊江能)。</p> <p>(「」)「国語・国字問題の展望」(倉野憲司)。</p> <p>(「」)「「ハナシコトバ」と発音符号」(各務虎雄)。</p> <p>(「」)「(外地に於ける日本語教授の現況)日本語教授に関する二三の感想」(加藤春城)。</p> <p>(「」)「(外地に於ける日本語教授の現況)満州国に於ける日本語教授の動向」(堀敏夫)。</p> <p>(「」)「(外地に於ける日本語教授の現況)台湾に於ける国語教育」(金丸四郎)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1941		(同上) 「日本語教授参考文献」 (長沼直兄) 。 (#) 「随筆 鷺江と西湖」 (佐藤春夫) 。
〃	4 ・ 2	大政翼賛会改組。国民組織を主張していた有馬頼寧事務局長ら辞職。
〃	4 ・ 4	〔 日 〕 閣議，文部省の統括下に植民地・占領地への教員大量派遣を決定。 閣議決定事項「外国及外地派遣教職員ノ取極要綱」。
〃	4 ・ 上	〔 日 〕 師範大陸科新卒業生大陸へ赴任 (昭和 1 4 年度から全国 2 0 の師範 学校の二部に設けられた大陸科の第一回卒業生 2 5 0 名，支那へ 1 3 4 名，満 州国 1 1 8 名，4 月上旬赴任する。現職小学校教員 1 1 0 名，中等教員 8 0 名 (内 1 0 名は高等師範新卒業生) も大陸へ転任) 。
〃	4 ・ 6	独軍，ギリシア・ユーゴ両国に侵入開始。4 月 1 7 日ユーゴ軍，ベオグラード でドイツに降伏，国王ペタル 2 世と政府は亡命。
〃	〃	英軍，アジスアベバ占領 (エチオピア王権回復) 。5 月 5 日，国王ハイレセ ラシエ帰還。
〃	4 ・ 8	企画院調査官和田博雄，経済新体制企画院案にからみ治安維持法違反の容疑 で検挙。ひきつづき関係者検挙 (「企画院事件」) 。
〃	〃	〔 日 〕 海峽植民地当局，国民学校の新教科書は，内容のある点がイギリス の国家政策に反するとの理由で，4 月 8 日付で輸入を禁止。
〃	4 ・ 9	ドラウト，米国務長官に「日米諒解私案」提出。
〃	4 ・ 1 0	〔 日 〕 台湾国語研究会 (語彙表現様式調査委員会) ，委員会開催。
〃	4 ・ 1 2	〔 日 〕 国語講演会 (主催国語文化学会) 。
〃	4 ・ 1 3	日ソ中立条約，モスクワで調印。
〃	〃	〔 日 〕 全満学生日語朗読大会 (放送) ，地方予選 (国民学校) ， (主催満州 国語研究会，満州帝国教育会，満州電信電話会社，後援民生部) 。
〃	4 ・ 1 4	〔 日 〕 大東亜留学生座談会 (情報局・国際学友会共同主催) 。
〃	〃	〔 日 〕 日本語教授講習会 (日語文化協会主催，会場，日語文化学校，4 月 1 4 日～6 月 2 0 日，月，水，金，4 時半～6 時半) 。
〃	〃	〔 日 〕 海外 進出 日本語教師養成講座 (主催青年文化協会，後援文部省・東京府， 東京市，会場，同盟会館内，4 月 1 4 日～7 月 1 1 日，月，火，木，金，6 時 ～8 時半) 。
〃	4 ・ 1 6	米国務長官ハル，駐米大使野村吉三郎に民間私案の「日米諒解案」を交渉の 基礎として提議 (日米交渉正式にはじまる) 。4 月 2 2 日，松岡外相，帰国し てこれに反対。
〃	4 ・ 1 7	大本営，「対南方施策要綱」概定。
〃	4 ・ 1 8	〔 教 〕 京城高等工業学校附置理科教員養成所規程」〔朝鮮総督令第百十九 号〕 (「京城高等工業学校附置理科教員養成所規程左ノ通り定ム 京城高等 工業学校附置理科教員養成所規程 第一条 京城高等工業学校附置理科教員養

西 暦	年 代	項 目
1941		成所ハ特ニ皇国ノ道ニ基キテ国体觀念の涵養及人格ノ陶冶ニカメ物理又ハ化学ノ教員タルベキ者ヲ養成スル所トス」)。
"	4・20	〔日〕 全満 ^{国民学校} _{国民優級学校} 日語朗読大会(4月13日, 地方予選。出場校223校, 入選校, それぞれ24校)。
"	4・23	ギリシア軍, ナロニカで対独降伏(国王ゲオルギオス2世, クレタに逃亡)。
"	4・25	米, 5000万ドル, 英, 500万ポンドの対中国法幣安定資金借款成立。
"	4・28	「大日本帝国天皇陛下及「ソヴィエト」社会主義共和国聯邦間中立条約」〔条約第六号, 公布昭和十六年四月三十日〕(「日ソ不可侵条約」)。
"	4・30	〔日〕 全満学生日語朗読大会(放送), (主催満州国語研究会, 満州帝国教育会, 満州電信電話会社, 後援民生部)。
"	4・	〔教〕 国民学校新教科書使用開始(第1~第2学年, 「ヨイコドモ」「ヨミカタ」「コトバノオケイコ」「カズノホン」, 教師用「自然の観察」等)。
"	"	〔日〕 日華学会の所管, 外務省より興亜院に移管。
"	"	〔日〕 台北帝国大学, 予科設置。
"	"	〔国〕「文部省ニ於ケル国語調査ノ経過」を編集発表。
"	"	〔日〕「国語解者調(4月末現在, 公学校生徒数691823, 同上卒業者累計736795, 国語普及施設生徒数735303, 同上修了者累計1076041, 合計3239962, 本島人口5682233, 国語解者57.02)。
"	"	〔書〕「国民教育」(初一~高二, 学年別8冊), 「日本教育」創刊(文部省の指導で教育雑誌を統合)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四六五号)。 (同上)「一年生に於ける文字語句の指導」(下地昌璋)。 (「)「その後の公一の国語教室」(松沢源治郎)。 (「)「「国語に見る色」覚え書」(土屋寛)。 (「)「芭蕉俳句に関する一調査」(阿川燕城)。
"	"	〔書〕「国語新式辞典」(物部鼎者, 受験研究社)。
"	"	〔書〕「支那常用俗諺集」(田島泰平, 王石子編, 文求堂)。
"	"	〔書〕「支那地名辞典」(星斌夫著, 富山房)。
"	"	〔書〕「社会科学新辞典」(中山伊知郎・三木清・永田清編, 河出書房)。
"	"	〔書〕新体制辞典」(木下半治, 朝日新聞社)。
"	"	〔書〕「冊府 第26巻1~4号, 第27巻1~4号, 第28巻1~3号」(彙文堂書莊編, 京都・彙文堂。昭和16年4月~18年11月)。

西 暦	年 代	項 目
1941	5・1	南方(蘭印泰)事情講習会(～7月31日。夜6時～。主催興亜協会経営興南学院、会場二松学舎専門学校講堂)。
	//	〔日〕台湾日日新聞社、第五回国語普及功労者表彰(北村チヨ、福田賢一、廖大、岡田福次郎、除秀香、岡崎泰彦、小池永彦の八氏)。
	//	〔書〕「日本語」(第一巻第二号)。 (同上)「日本語の進出と日本語の教育」(安藤正次)。 (「」)「北支に於ける日本語教育の特殊性」(山口喜一郎)。 (「」)「教壇人の立場から」(益田信夫)。 (「」)「文部省に於ける国語対策の根本方針」(松尾長造)。 (「」)「“日本語普及の使命と課題”国語の学校教育と社会教育」(島田牛稚)。 (「」)「“日本語普及の使命と課題”語法と語彙の問題」(小林正一)。 (「」)「“日本語普及の使命と課題”二つの困難とその対策」(大石初太郎)。 (「」)「協議会而して次は?」(神保格)。 (「」)「日本語教師の資格」(東条操)。 (「」)「現地に於ける日本語教授の現況 国語の歴史的現実」(森田梧郎)。 (「」)「現地に於ける日本語教授の現況 字音仮名遣私考」(市川三郎)。 (「」)「日本語教育参考文献(二)」(長沼直兄)。 (「」)「随筆 従軍の思ひ出」(深田久弥)。
	//	〔書〕「コトバ」(第三巻第五号、「音声表記法・日本語に於ける命題の基本構造」)。 (同上)「外来語と表記法」(大西雅雄)。 (「」)「音声表記とカナヅカイの関係」(松坂忠則)。 (「」)「南洋語について」(泉井久之助)。 (「」)「協同研究 日本語に於ける命題の基本構造に就て」(提案者三宅武郎)。 (「」)「三宅氏の「ある」の研究に就いて」(三枝博音)。 (「」)「三宅武郎氏—「日本語に於ける命題の基本構造について」に関して」(中村克己)。 (「」)「いはゆる存在・判定詞・間投副詞」(兎山敬一)。 (「」)「命題の心理と論理」(興水実)。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上) 「三宅さんの提案について」 (三尾砂) 。</p> <p>(#) 「国民学校国語教育の研究合評」。</p> <p>(#) 「国語講演会・国語文化賞贈呈式記」。</p> <p>(#) 「外地版報道 (石黒修編) 」。</p> <p>(#) 「国語教室の言語学(3)」 (石黒魯平) 。</p> <p>(#) 「電話番号のアクセント(9)」 (三宅武郎) 。</p>
"	5 ・ 2	〔 国 〕 「国語審議会官制」改正，新たに幹事長を置き，幹事保科孝一が幹事長に任ぜられた。
"	"	反英派のイラク首相ラシード・アリー，ドイツの援助を求め，対英交戦開始。5月31日英軍，反英暴動鎮圧。
"	5 ・ 3	〔 日 〕 台湾花蓮港庁鳳林郡下，報道推進大隊編成式举行 (服務要領) 〔 職令 〕 第一条 隊員相互間は勿論，私生活内と雖凡て国語を常用すべし) 。
"	5 ・ 6	スターリン，ソ連首相に就任。副首相兼外相モロトフ。
"	5 ・ 7	〔 日 〕 日本音声学協会第五八回研究例会 (講演「満州国人の日本語発音に就いて」 (上原久) ，「泰国学生の日本語発音に就いて」 (黒野政市)) 。
"	"	〔 日 〕 〔 モスクワ電 〕 ソ聯軍司令官の命により，西部軍区のソ聯将校はいずれの部門にあるとを問わず今後すべて日本語を学ばなければいけないことになる。
"	5 ・ 9	東京で，「泰・仏印平和条約」正式調印 (仏・泰にバットンバン地区を割譲)
"	5 ・ 10	ドイツ副総統ヘス，英国に単独飛行。対英和平打診を企て失敗。
"	5 ・ 11	野村大使，ハル国務長官に修正案を提出。5月31日，ハル長官米修正案を提示。
"	"	東亜文化協議会第三回文学部会 (会場京都，中国文化部代表周作人 (華北政務委員会教育総署督弁) はか17名，日本側13名出席。「一，中国大辞典の編纂促進，一，北京附近の文化遺跡保存，一，良書の普及 (特に支那青年層へ) などの諸件を採択」。
"	"	〔 日 〕 全満学生日語朗読大会 (放送) ，地方予選 (国民優級学校) ， (主催満州国語研究会，満州帝国教育会，満州電信電話会社，後援民生部) 。
"	5 ・ 13	「治安維持法改正法律施行期日ノ件」〔 勅令第五百五十三号，公布昭和十六年五月十四日 〕 (「昭和十六年法律第五十四号ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス」) 。
"	5 ・ 16	中共，蔣介石に「国共調整臨時弁法」十二か条を再提出。6月，蔣，「共産党問題処理弁法」を極秘裏に発す (全文数百項目) 。
"	5 ・ 18	〔 日 〕 全満学生日語朗読大会 (放送) ，決勝 (国民優級学校) ， (主催満州国語研究会，満州帝国教育会，満州電信電話会社，後援民政部) 。

西 暦	年 代	項 目
1941	5・19	〔日〕「教科用図書調査会官制」(「第二条 調査会ハ会長一人及委員六十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス 特別ノ事項ヲ調査審議スル為必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得。附則、教科書調査会官制及日本語教科用図書調査会官制ハ之ヲ廃止ス」)。
"	"	ベトナム独立同盟〔ベトミン〕結成(盟主ホーチミン)、反仏・反日民族解放路線を決定。
"	5・21	〔日〕「教科用図書調査会規程」〔文部訓令〕(「第一条 教科用図書調査会(以下調査会ト称ス)ニ左ノ三部ヲ置キノ所掌事項ヲ分掌セシム 第一部<略>第二部<略>、第三部 東亜ニ於ケル日本語普及ノ目的ヲ以テ著作スル教科用図書ノ編纂ニ関スル事項ヲ調査審議ス」)。
"	5・25	〔日〕 中央日本語学院(華北、院長中目覚)、開院式挙行。
"	5・27	米大統領、国家非常事態を宣言。
"	5・29	〔日〕 日本語教育振興会第二回委員会。
"	5・31	海軍航空隊、重慶を大爆撃。
"	"	〔日〕 五月末日現在、日本留学生(「大学高等専門学校」2573、中国1274、満州国949、タイ67、米国二世151等、「中等初等学校」1955、中国832、米国二世585、満州国127、中国からの留学生は昭和15年に比べ約300増)。
"	5・	〔日〕 傍江簡易小学校創立(成紀七三六年、傍江部落経営、日本語毎週6時間)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四六六号)。 (同上)「巻頭言 国語教育の正導」。
"	"	〔書〕「東亜共栄圏と日本語」(松坂忠則、「雄弁」五月号)。
"	"	〔書〕「台湾国語関係文献目録」(台湾国語研究会)。
"	"	〔書〕「現代文学者辞典」(野本米吉著、武蔵野書院)。
"	"	〔書〕「分類山村語彙」(柳田国男・倉田一郎編、長野・信濃教育会)。
"	"	〔書〕「 ^{註解} 陸軍典令字解」(佐々木一雄編、陸軍壮丁研究会)。
"	6・1	〔書〕「日本語」(第一巻第三号)。 (同上)「国語教育と日本語教育」(久松潜一)。 (「」)「日本語教師論 — 日本語教育の文化史的意義 — 」(白木喬一)。 (「」)「外国語教授に於ける母国語の位置」(長沼直兄)。 (「」)「国民学校国民科の国語」(松田武夫)。 (「」)「国語教育の深化拡大」(志田延義)。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上) 「〔外地に於ける日本語教授の現況〕大陸に於ける日本語教授の概況」(大出正篤)。</p> <p>(〃) 「〔外地に於ける日本語教授の現況〕青島特別市に於ける日本語教育」(古川原)。</p> <p>(〃) 「〔外地に於ける日本語教授の現況〕日本語教授の方法的実践」(中村忠一)。</p> <p>(〃) 「朝鮮・台湾に於ける国語教育機関紹介」。</p> <p>(〃) 「日本語教授参考文献」(長沼直兄)。</p> <p>(〃) 「随筆 嘉興站とベントー売り」(釘本久春)。</p>
〃	6 ・ 1	<p>〔書〕「コトバ」(第三巻第六号, 「協同研究 国民科国語指導案・日本語の初歩教育から見た文型」)。</p> <p>(同上) 「日本語の初歩教授から見た文型の考察」(大出正篤)。</p> <p>(〃) 「如何なる日本語が理解し難いか」(斎藤義七郎)。</p> <p>(〃) 「南京の日語状況」(渡辺正文)。</p> <p>(〃) 「京城から」(森田梧郎)。</p> <p>(〃) 「指導案所感」(垣内松三)。</p> <p>(〃) 「形象と知性」(波多野完治)。</p> <p>(〃) 「型を定めて, それを生かすには」(石井庄司)。</p> <p>(〃) 「国民科国語の指導案について」(秋田喜三郎)。</p> <p>(〃) 「いかに教材の特質を生かすか」(志波末吉)。</p> <p>(〃) 「鍊成と指導案の簡易化, 具体化」(泉節二)。</p> <p>(〃) 「外地版報道」(石黒修)。</p> <p>(〃) 「新刊紹介 佐久間鼎『日本語の特質』 久松潜一『国学, その成立と国文学との関係』 波多野完治『心理学的散歩』 前田太郎・大塚高信『語学的教授法新論』」(興水実)。</p> <p>(〃) 「国語アクセント公開講演会(日本方言学会)」。</p> <p>(〃) 「国語資料としての夢酔独言」(中村通夫)。</p> <p>(〃) 「送仮名の問題」(井上一男)。</p> <p>(〃) 「仮言命題の問題」(三宅武郎)。</p> <p>(〃) 「国語教室の言語学」(石黒魯平)。</p>
〃	6 ・ 6	大本営, 「対南方施策要綱」を決定(仏印・泰に軍事基地設定をはかる)。
〃	6 ・ 8	英連邦軍と自由フランス軍, シリア・レバノンを攻撃。6 月 21 日自由フランス軍, ダマスカス占領。7 月 12 日シリアで休戦成立。
〃	6 ・ 9	情報局の監督下に日本移動演劇連盟結成, 発会式。5 年間に約 1500 万人の観客動員。'43 年 8 月 26 日全国移動映写連盟結成。

西 暦	年 代	項 目
1941	6・10	〔書〕「方言地理学の方法（赤城南麓方言分布）」（上野勇，広川書店）。
"	6・14	米大統領，独伊の在米資産凍結を命令。
"	6・15	〔書〕「公文書類日語文例集」（満州国語研究会，康德八・六・十五）。
"	6・16	〔教〕 日本教育学会創立。
"	"	汪兆銘訪日，神戸上陸（24日近衛首相と会談）。
"	6・17	蘭印特派大使芳沢謙吉，蘭印総督に交渉打ち切りを伝達（石油交渉は継続）。
"	"	「外語教育の問題」（城戸幡太郎，「東日」6月17日号）。
"	6・21	ハル国務長官，「5月31日案」の修正案及び暗に松岡外相を非難するオーラルステートメントを野村大使に手交。
"	"	〔書〕「実践日本音声学」（佐久間鼎，同文書院）。
"	6・22	独軍300万，バルト海から黒海にわたる戦線で，突如ソ連邦攻撃を開始（「独ソ戦」始まる）。伊・ルーマニア（6月26日フィンランド，6月27日ハンガリー）対ソ宣戦布告。
"	"	チャーチル，ラジオ放送でソ連邦を同盟国と演説し，対ソ援助を提起。
"	6・23	中共，反日独伊，反ファシスト国際統一戦線をよびかける。
"	6・24	〔教〕「青年ノ覚悟及青年学校ノ本旨普及方等ニ関シ訓令」〔文部省訓令第二十六号〕。
"	6・25	連絡会議，「南方施策促進に関する件」を決定（「南部仏印進駐」）。
"	6・27	〔日〕 東南アジア学院設立認可（修業年限，本科一年，専攻科6か月，授業時間，毎週日本語20時間，英語又はドイツ語3時間，本科は別に日本歴史及び地理一時間）。
"	"	ユーゴ人民解放バルチザン部隊創設（司令官チトー）。
"	6・29	ソ連共産党中央委員会，対独祖国防衛戦争遂行を指令。6月30日国家防衛委員会（議長スターリン）設置。
"	6・	〔日〕米国海軍，カリフォルニア大学（パークレー校）で日本語訓練プログラムを開始。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四六七号，「国民学校特輯号」）。
"	"	〔書〕「本邦常用漢字の研究」（「内閣印刷局研究報告第一号」）発行。
"	"	〔書〕「月刊日語指南 第1巻1号～第2巻7号」（主幹東京外語教授神谷衡平，岩井武男編，神田螢雪書院。月刊。昭和16年6月～17年7月）。
"	"	〔書〕「支那語研究 第5巻」（天理外国語学校海外事情調査会編，丹波市町（奈良県）・海外事情調査会。昭和16年6月）。

西 暦	年 代	項 目
1941	6・	〔書〕「外来語辞典」(荒川惣兵衛, 富山房)。
"	7・ 1	全国の隣組, 一斉に常会を開く。放送番組「常会の時間」を通じ, 内務省, 司会・指導(以後, 毎月1回)。
"	"	第2回聖戦美術展(～7月20日。日本美術協会。藤田嗣治「哈爾哈河之戦闘」, 小磯良平「娘女闘を征く」)。
"	"	独伊, 汪兆銘政権を承認。7月2日国民政府, 对独伊国交断絶。
"	"	蘇州附近より清郷工作開始。
"	"	〔書〕「日本語」(第一巻第四号)。 (同上)「文化語と生活語 — 特に日本語の特徴について」(長谷川如是閑)。 (")「生活語としての日本語」(佐久間鼎)。 (")「国語教育の立場から見た生活語と文化語」(西尾実)。 (")「標準語教育に関する二三の問題」(東条操)。 (")「敬讓語を造る接辞の用法」(湯沢幸吉郎)。 (")「東京語のアクセント」(三宅武郎)。 (")「国語教育参考文献(一)」(大久保正太郎)。 (")「特輯 日本語と日本文化(座談会)」(方紀生, 永島栄一郎, 長沼直兄, 佐藤春夫, 大岡保三, 大志萬準治, 奥野信太郎, 釘本久春, 松宮一也)。 (")「〔現地〕 ^{松宮弥平} 著「日本語教授法」を讀みて」(日野成美)。 (")「〔現地〕全満日語朗読大会(今井栄)。 (")「随筆 語源閑談」(大岡保三)。
"	"	〔書〕「コトバ」(第三巻第七号, 「ヴァンドリエス『經濟に話す』」 「日本語教授上の音声問題」)。 (同上)「危険を痛感する(国語時評)」(興水実)。 (")「ヴァンドリエス『經濟に話す』(訳)」(小林英夫)。 (")「日本語教授上の音声問題」(黒野政市)。 (")「我が国号と国民性」(菊沢季生)。 (")「よみかた巻三の注目すべきリズム表示」(湯山清)。 (")「「たなばた」解義」(山下藤次郎)。 (")「ことばの場」(名取堯)。 (")「零聞録」(魚返善雄)。 (")「外地版 報道(石黒修編)」。 (")「国語教室の言語学」(石黒魯平)。

西 暦	年 代	項 目
1941	7・1	〔書〕「重要五百漢字とその熟字」(財団法人国際学友会編・刊。岡崎常太郎氏著「漢字制限の基本的研究」による)。
"	7・2	御前会議、「情勢の推移に伴う帝国国策要綱」を決定(対ソ戦を準備、南方進出のため、対米英戦を辞せず)。つづいて大本営、関特演(「関東軍特別演習」を発動、～9月、満州に70万の兵力を結集)。
"	7・6	大東亜興亜同盟結成大会(会場日比谷公会堂。加盟53団体、〔加盟団体〕日満中央協会、日本印度支那協会、日華学会、日華実業協会、日泰学院、東方文化学院、東洋協会、東洋婦人教育会、東洋精神研究会、東南亜細亜民族解放同盟、東亜法曹協会、東亜同文会、東亜調査会、東亜聯盟協会、東亜協会、東亜研究所、東亜建設協会、東亜新秩序研究会、東亜振興会、東亜問題研究会(読売)、同盟東亜研究会、同仁会、中央調査会東亜班(朝日)、中央満蒙協会、中華民国法制研究会、海洋政策研究所、回教圏研究所、学徒至誠会、大日本同志会、大日本回教協会、大日本経国聯盟、大東文化協会、大東亜開拓工業者協会、大東亜協会、大東亜青年隊、台湾南方協会、大亜細亜協会、対支同志会、南方調査会(報知)、南洋経済研究所、南方栽培協会、興亜運動同志会、興亜研究所、興亜滅共聯盟、興亜青年運動本部、黒龍会、愛国社、北支那協会、斯文会、新興亜会、政教社、善隣協会、東方文化研究所)。
"	7・9	第一回興亜青年運動連絡会議(～10日)。
"	7・11	〔日〕青年文化協会主催第一回海外進出日本語教師養成講習会修了式(修了者、国民学校訓導50名、専門学校出身者52名、計102名、内女子10名)。
"	7・12	英・ソ間に相互援助協定調印(対独共同行動・単独不講和を約束)。
"	"	シリアで英・ビシー仏政権間に休戦成立。7・14休戦協定調印(シリア全土、英・自由フランスに引き渡される)。
"	7・15	〔書〕「台湾に於ける国語音韻論(音質・音量編) — 外地に於ける国語発音の問題 — 」(寺川喜四男、台湾学芸社)。
"	7・16	第二次近衛内閣総辞職。
"		大日本興亜同盟初総務委員会開催(翼賛会本部)。
"	7・18	松岡外相を豊田貞次郎に代えて第三次近衛内閣成立。
"	7・20	〔書〕「国語文化講座 第一巻 国語問題篇」(朝日新聞社)
"	"	〔書〕「国民学校アクセント教本」(三宅武郎、国語文化研究所)。

西 暦	年 代	項 目
1941	7・21	〔書〕「臣民の道」(文部省教学局)。
"	"	〔日〕 対支日本語普及に関する協議会(主催興亜院。(イ)日本語教育教材並教授法に関する件,(ロ)日本語教師養成に関する件,(ハ)日本語教育振興に関する件等について協議)。
"	"	ブラジル,日本語新聞の発行を禁止。
"	7・23	日・仏印間に南部仏印進駐の細目話し合い成立。
"	7・25	米国,在米日本資産を凍結,7月26日英国,7月27日蘭印も日本資産凍結。
"	"	重慶で,米・英・中の軍事合作協議(～7月26日。ビルマルート防衛などを協議)。
"	"	〔日〕 日本語教授法講義(～31日。主催日本語教授研究所,講師松宮弥平)。
"	7・27	満州文芸家協会設立(委員長山田清三郎)。
"	7・28	蘭印,「日蘭石油民間協定」を停止。日本軍,南部仏印へ進駐。上陸開始。
"	7・	〔日〕 鈴木忍,国際学友会を退職,外務省文化事業部から派遣され,在バンコック日本語学校講師に就任。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四六八号)。 (同上)「国民学校新教科書「ヨミカタ」に就いて」(永井洗)。 (#)「公学校用書方手本第五学年用上下編纂要旨」(加藤春城)。
"	"	〔書〕「泰国学生と日本語発音」(黒野政市,「音声協会会報」)。
"	"	〔書〕「南方人の日本語発音」(大西雅雄,「音声協会会報」)。
"	"	〔書〕「日本人の陥り易いドイツ語発音の誤り」(内藤好文,「音声協会会報」)。
"	"	〔書〕「最近工業化学辞典」(厚木勝基・亀山直人・桑田勉ほか著,丸善)。
"	"	〔書〕「同音語類音語」(日本放送協会編・刊。非売)。
"	"	〔書〕「模範馬日辞典」(藤野可護著,文原堂,昭南花屋商会)。
"	8・1	〔日〕 青年文化協会主催第二回海外進出日本語教師養成講習会(～10日。資格28歳～40歳までの男女国民学校訓導並びに同資格者。後援文部省。東京日日新聞社,会場東京文理科大学。講師14名。受講者147名)。
"	"	米国,全侵略国への石油輸出を全面停止。日本を目標に発動機燃料,航空機用潤滑油の輸出を禁止(対日石油輸出は全く停止)。
"	"	〔書〕「日本語」(第一巻第五号)。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上) 「言語の歴史的形声」 (柳田謙十郎)。</p> <p>() 「中国知識人と日本古典」 (斎藤清衛)。</p> <p>() 「日本語における漢字と漢語」 (吉田澄夫)。</p> <p>() 「東京語の問題」 (中村通夫)。</p> <p>() 「国語教育参考文献」 (大久保正太郎)。</p> <p>() 「現地特輯 満州に於ける日本語教育の私観」 (前田熙胤)。</p> <p>() 「現地特輯 満州雑観」 (森田孝)。</p> <p>() 「現地特輯 現地の日本語教育」 (松尾龍吉)。</p> <p>() 「現地特輯 教員養成所生活の感想」 (林米子)。</p> <p>() 「現地特輯 最近中文の日本語教育」 (菊冲徳平)。</p> <p>() 「随筆 日本の年中行事 (一) 」 (三村清三郎)。</p> <p>() 「随筆 語源閑話 (二) 」 (大岡保三)。</p>
〃	8 ・ 1	<p>〔 書 〕 「コトバ」 (第三巻第八号, 「日本語普及に関する問題」 「かなづかひ教授の態度と方法」 「外来語の法則性」)。</p> <p>(同上) 「音楽における発音訓練 (国語時評) 」。</p> <p>() 「国民教育 におけるかなづかひ教授の態度と方法」 (松尾捨次郎)。</p> <p>() 「音声言語を仮名で表記する問題」 (家永英吉)。</p> <p>() 「国語問題の諸問題概観」 (興水実)。</p> <p>() 「外来語の法則性」 (山崎末彦)。</p> <p>() 「明治文章史に及ぼした外国文学の影響」 (古武吉孝)。</p> <p>() 「外地版 報道 (石黒修編) 」。</p> <p>() 「国語教室の言語学 (6) 」 (石黒魯平)。</p> <p>() 「アウンは問題」 (大西雅雄)。</p> <p>() 「いつまでも」 (檜田文之)。</p> <p>() 「音声面の言語指導」 (石井正夫)。</p> <p>() 「日本語普及に関する諸家の意見」。</p> <p>() 「日本語研究・教授参考書目」。</p>
〃	8 ・ 2	大政翼賛会, みそぎ錬成講習会開催。
〃	〃	米国, 対ソ経済援助を開始。
〃	8 ・ 3	〔 国 〕 国語教育学会第三回夏期講座 (会場, 東大文学教室)。
〃	8 ・ 6	野村大使, 日本の連絡会議決定事項をハル長官に提示。
〃	〃	〔 日 〕 日本語教育懇談会」 (興亜院)。
〃	8 ・ 7	<p>豊田外相, 近衛・ルーズベルト会談提議を野村大使に訓令。8月17日米国, 日本 の態度宣明が先決と回答。8月28日野村大使, 近衛メッセージを米大統領 に手交, 9月3日米国, 事前討議が必要と回答。</p>

西 暦	年 代	項 目
1941	8・8	〔教〕 文部省、各学校に全校組織の学校報国隊（団）の編成を訓令。
	〃	ハル長官拒否回答。
〃	8・10	〔日〕 満州国語研究会、「満州国語研究会報」（「満州国語」廃刊に代わるもの）第一号発行。不定期。
	〃	華北の日本軍、普察冀辺区（解放区）の八路軍を攻撃（～10月15日、いわゆる百万大戦）。
〃	8・12	ルーズベルト大統領・チャーチル首相、米英共同宣言（大西洋憲章）発表。9月24日ソ連・自由フランスなど15か国、同憲章参加を表明。
〃	8・15	〔書〕「リンデ言語教育論」（熊沢龍、目黒書店）。
〃	8・25	〔日〕 日本語教育振興会改組設立（日本語教育振興会を文部省外郭機関として改組。教科書編修、日本語教育の研究、教員の養成・研修などを行う中央団体とする。長沼直兄、日本語教育振興会理事に委嘱せられる）。
〃	〃	英ソ両軍、イラン進駐開始。8日31日英ソ両軍、キャズビーンで会合。
〃	〃	〔書〕「国語文化講座 第四巻 国語芸術篇」（朝日新聞社）。
〃	8・29	閣議、労務緊急対策要綱決定。
〃	8・30	〔教〕「大学の学部にも、軍事教練担当の現役将校を配属」（勅令）。
〃	8・	〔書〕「台湾教育」（第四六九号） （同上）「公学校用国語書方手本第五学年用上下編纂要旨」（加藤春城）。 （ 〃 ）「芭蕉俳句難義考」（阿川燕城）。
〃	〃	〔書〕「語法の論理」（木枝増一、修文館）。
〃	〃	〔書〕「台湾国語問題覚え書」（福田良輔、「台大文学」）。
〃	〃	〔書〕「簡約英和辞典」（岩崎民平編、研究社。「KENKYUSHA'S CONCISE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY」）。
〃	〃	〔書〕「研究社英和商工辞典」（藤田仁太郎編、研究社）。
〃	〃	〔書〕「初歩官話字彙」（木全徳太郎編、文求堂）。
〃	〃	〔書〕「新聞雑誌語辞典」（植原路郎著、八光社）。
〃	〃	〔書〕「新約聖書語句索引（希一和）」（黒崎幸吉著、日英堂書店）。
〃	9・1	〔書〕「日本語」（第一巻第六号）。 （同上）「国語政策の意義」（保科孝一）。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上)「国語自覚史の一頁」(遠藤嘉基)。</p> <p>(「」)「中国に於ける日本語教育の現状とその振興」(関野房夫)。</p> <p>(「」)「アクセントとイントネーション」(石黒魯平)。</p> <p>(「」)「日本語教科書と分別書き方」(真下三郎)。</p> <p>(「」)「東京語の問題(二)」(中村通夫)。</p> <p>(「」)「国語教育参考文献(三)」(大久保正太郎)。</p> <p>(「」)「東亜に於ける諸国語の進出 独逸語」(吹田順助)。</p> <p>(「」)「東亜に於ける諸国語の進出 英吉利語」(井上思外雄)。</p> <p>(「」)「東亜に於ける諸国語の進出 仏蘭西語」(中平解)。</p> <p>(「」)「随筆 日本の年中行事(二)」(三村清三郎)。</p> <p>(「」)「随筆 語源閑話(三)」(大岡保三)。</p>
	9・1	<p>〔書〕「コトバ」(第三卷第九号,「日本語研究の現段階」)。</p> <p>(同上)「「主題」を問題として」(佐久間鼎)。</p> <p>(「」)「日本語研究の将来進むべき途」(乾輝雄)。</p> <p>(「」)「国語学への期待」(井本農一)。</p> <p>(「」)「話言葉とは何か」(大西雅雄)。</p> <p>(「」)「日本語教授と教科書の問題」(黒野政市)。</p> <p>(「」)「「文」理論の現段階」(熊沢龍)。</p> <p>(「」)「日本語学の現状と将来について」(興水実)。</p> <p>(「」)「流行語の発生」(山崎末彦)。</p> <p>(「」)「「アウン」問題追記」(大西雅雄)。</p> <p>(「」)「日本語教師養成講習会受講の記」(小林武雄)。</p> <p>(「」)「「コトバ」についての感想」(和田重則)。</p> <p>(「」)「外地版 報道(石黒修編)」。</p> <p>(「」)「漢語動詞のアクセント(10)」(三宅武郎)。</p> <p>(「」)「国語教室の言語学(7)」(石黒魯平)。</p>
〃	9・2	〔教〕文部省,学校放送を正式に教材として公認し,その番組を指定。
〃	〃	衆議院議員倶楽部解消,翼賛議員同盟成立。
〃	〃	翼賛壮年団結成。
〃	9・6	御前会議,「帝国国策遂行要領」を決定(10月下旬を目途として対米・英・蘭戦争準備完整)。
〃	9・9	英ソ,イラン協定調印。イランを南(英)・北(ソ)の占領地に分割。9月16日国王レザー・パハラヴィー退位,その子ムハメド即位。
〃	9・11	防衛司令部の設置を公示〔軍〕。
〃	〃	米大統領,米防衛水域の枢軸国艦船への攻撃を許可。

西 暦	年 代	項 目
1941	9・11	〔日〕「関東州満支人留学生推薦試験規則」〔関東局令第九十号〕。
"	9・13	情報局・文部省の監督下に日本音楽文化協会〔音文〕設立総会（11月29日発会式、'45年9月27日解散）。
"	9・15	〔日〕 華北日本語普及協会経営による開封中央日本語学院を9月に開設、15日から開校。
"	"	〔書〕「日本語教科書巻二」（財団 国際学友会）。
"	"	〔書〕「日本語読本」（北京中央日本語学院、非売品）。
"	9・16	〔日〕 帝国教育会国際部、海外教育振興委員会（委員長・岡部長景子爵）第一回委員会を虎の門晩翠軒に開く。
"	9・18	音楽挺身隊結成（隊長山田耕作、演奏家協会の全員による）。
"	"	支那派遣軍、長沙作戦開始（～10月中旬、中国軍、長沙奪回）。
"	9・25	〔書〕「高等日本文法」（三矢重松、明治書院。十版）。
"	9・27	〔書〕「日本語の構造」（堀重彰、歙傍書房）。
"	9・29	〔日〕 満州国語研究会、幹事会を開いて解消を決定（満州国政府民生部に国語調査会（仮称）が新設されることになったため）。
"	"	モスクワで武器貸与に関する米ソ会談。
"	9・30	影佐少将、南京で日中和平条件記載の近衛書簡を汪主席に手交。
"	"	〔書〕「日本敬語法」（丸山林平、東京健文社）。
"	"	〔書〕「国語文化講座 第三巻 国語教育編」（朝日新聞社）。
"	9・	〔日〕 日本における留日学生の受入れを、中国については、財団法人日華学会があたり、蒙疆については、善隣協会があたることになった。中華民国政府は、維新学院を切り替えて国立上海大学を開校、日系教授十数名を招聘した。
"	"	〔日〕 アメリカンスクール（目黒）を接收、比島人の地域教員の養成を行う（第一回卒業生160名）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四七〇号）。
"	"	（同上）「形容詞と動詞との関係について」（有福友好）。
"	"	〔書〕「日本語教育に関する問題」（篠原利逸、「教育」九月号）。
"	"	〔書〕「簡易英和辞典」（沢村寅二郎編、開隆堂。「A New Simplified English Japanese Dictionary」）。

西 暦	年 代	項 目
1941	9・	〔書〕「改訂和蒙辞典」（福隆阿校閲，大阪外国語学校蒙古語部和蒙辞典 編集会編，大阪・ぐろりあ書房。改訂四版）。
"	"	〔書〕「欽山名鑑」（高橋竹蔵，河出書房）。
"	"	〔書〕「実用馬來語辞典」（増淵佐平著，平凡社）。
"	"	〔書〕「日本評論 第2巻9期～3巻9期」（上海・日本評論社。月刊。 民国卅年九月～卅一年九月）。
"	10・1	モスクワで，米・英・ソ間に議定書調印（米英，ソ連に武器貸与を約束）。
"	"	〔書〕「日本語」（第一巻第七号）。 （同上）「文字と言語」（金田一京助）。 （"）「仮名の発達」（松尾捨次郎）。 （"）「「ひらがな」と「カタカナ」」（戸田吉郎）。 （"）「中国と日本に於ける漢字の相違」（工藤篁）。 （"）「漢字のよみかへについて」（伊藤弥太郎）。 （"）「国語教育参考文献」（大久保正太郎）。 （"）「座談会 華北に於ける日本語教育（「司会，藤村作，筧五 百里，勝又憲治郎，久保田藤麿，小泉藤造，国府種武，高木 千鷹，佐野憲之助，四宮春行，篠原利逸，銭稻孫，松下喜信， 山口喜一郎）」）。 （"）「日本語教育振興会の設立」。 （"）「東京語の問題（三）」（中村通夫）。 （"）「随筆 日本の年中行事（三）」（三村清三郎）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第三巻第十号，「五誌統合拡大記念」）。 （同上）「公認，続刊を許さる（巻頭言）」。 （"）「日本の発展と国語教育」（保科孝一）。 （"）「支那語と漢文」（魚返善雄）。 （"）「詩をめぐって」（百田宗治）。 （"）「児童文化雑感」（波多野完治）。 （"）「童話教育について」（原勝）。 （"）「外地版 報道（石黒修編）」。 （"）「日本語の音韻」（三宅武郎）。 （"）「全日本アクセント概説（平山輝男）。 （"）「言語教育の方法」（興水実）。 （"）「最近の国語教育思潮に就いて」（石井庄司）。 （"）「「文」理論の段階（続）」（熊沢龍）

西 暦	年 代	項 目
1941		(#)「国語教室の言語学(8)」(石黒魯平)。
"	10・2	ハル長官, 日米両国首脳会談(8月7日日本側提案, 於ホノルルの予定)につき, 事前に原則的諒解の成立要求(一切の領土保全・主権尊重等の四原則確認, 仏印・中国からの撤兵など)。
"	"	独軍, モスクワ攻撃開始(12月8日攻撃放棄命令)。
"	10・5	大本営, 連合艦隊に作戦準備を命令。
"	"	汪主席, 日米交渉成立前の日華条約改正実施を近衛首相に提議。
"	10・6	大本営, 「南方軍戦闘序列」・「南方攻略作戦準備」を命令。
"	10・8	米国, 武器貸与局を設置。11月6日, 10億ドルの対ソ武器貸与借款を決定。
"	10・10	〔書〕「 ^{自習} _{適用} 日語文法要綱」(新谷秀春, 岡崎屋書店)。
"	10・12	近衛首相, 荻外荘に陸・海・外相及び企画院総裁を招集して和戦を会議, 東条陸相, 中国からの撤兵に反対。
"	10・13	〔日〕日本語教育振興会創設披露会。
"	10・15	国際スパイの嫌疑で, 尾崎秀実検挙。10月18日ゾルゲら検挙, 「ゾルゲ事件」。 ^{'44} 年11月7日死刑執行。
"	"	〔書〕「日本語読本巻一」(日本語教育振興会)発行。
"	10・16	第三次近衛内閣総辞職。
"	"	〔教〕大学・専門学校・実業学校などの修業年限を臨時短縮〔勅令第九百二十四号〕('41年度から3か月短縮。11月1日, '42年度は予科・高校を加え, 6か月短縮を決定, 繰上卒業始まる)。
"	"	ソ連政府, モスクワからクイビシェフへ移転。10月24日独軍, ハリコフ占領。11月16日セバストポリ要塞包囲開始。
"	10・18	東条英機内閣成立(東条首相が現役のまま内閣を組織。外相東郷茂徳)。
"	10・23	〔教〕「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十六年度臨時短縮ニ関スル件」〔朝鮮総督令第二百八十二号〕(「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十六年度臨時短縮ニ関スル件左ノ通定ム 第一条 昭和十六年勅令第九百二十四号第一条第一項及朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第八条第一項ノ規定ニ依リ大学学部ノ在学年限並ニ専門学校及実業専門学校ノ修業年限ハ昭和十六年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々三月之ヲ短縮ス 第二条 左ニ掲グル学校ノ修業年限ハ昭和十六年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒

西 暦	年 代	項 目
1941		業スベキ者ニ付夫々三月之ヲ短縮ス 一 国民学校初等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五年以上ノ実業学校 二 私立学校規則ニ依リ設立セラレタル学校ニシテ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第五条ノ資格ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノモノ」)。
"	10・23	〔教〕「青年訓練所規程中改正」〔朝鮮総督府令第二百八十三号〕(「青年訓練所規程中左ノ通改正ス 第十五条教練科ハ軍事的基礎訓練ヲ施シ至誠尽忠ノ精神ヲ涵養スルヲ根本トシ心身一体ノ実践鍛錬ヲ行ヒ以テ其ノ資質ヲ向上シ国防能力ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス 教練科ニ於テ教練、武道、体操及競技ニ就キ之ヲ授クベシ」)。
"	10・24	ソ連、援蔣物資供給停止通告。
"	10・25	〔書〕「皇道哲学」(佐藤通次)。
"	10・	〔書〕「支那時文新辞典」(竹田復編、博文館)。
"	"	〔書〕「実用新和仏語彙」(時田清著、三省堂)。
"	"	〔書〕「中等作文新辞典」(東京府中等研究会国語漢文部編、学生の友社)。
"	"	〔書〕「典範令用語ノ解」(田部聖・奥田昇共編、兵書出版社)。
"	11・1	〔日〕 台湾教育会、11月1日現在の会員総数14341名。
"	"	〔日〕 日本英語学生協会解散(国際学友会第四回理事会に於て「友交部」設置を決定、同会の事業に包含される)。
"	"	〔国〕 日本音声学協会、第五十八回研究会並びに会員総会を開催(会務報告、会則改定、仮名表記の協定、音声学を師範学校で教へることの建議並びに講演)。
"	"	〔書〕「国民学校アクセント教本」(三宅武郎、興水実、国語文化研究所)。
"	"	〔書〕「国語の台湾」(創刊号)。 (同上)「皇国民の錬成と国語の台湾」(安藤正次)。 (「」)「台湾に於ける国語の二つの姿(上)」(福田良輔)。 (「」)「国語アクセント初歩(其一)」(川見駒太郎)。
"	"	〔書〕「コトバ」(第三卷第十一号、「日本国語教育綜観」)。 (同上)「正しい言葉、きれいな言葉、よい言葉、美しい言葉(国語時評)」。 (「」)「第三の眼 — 現下の情勢における国語教育の姿態」(垣内松三)。

西 暦	年 代	項 目
1941		<p>(同上)「現下の事態における国語教育の正しい行き方」(興水実)</p> <p>(#)「コトバノオケイコと読み方教授」(西原慶一)。</p> <p>(#)「国語教育と話しことばの実践」(秋田喜三郎)。</p> <p>(#)「綴方の新しき道」(下山懋)。</p> <p>(#)「大都市国語教育の特殊問題」(志波末吉)。</p> <p>(#)「都市の児童と田舎の児童との国語力比較」(花田哲幸)。</p> <p>(#)「国民学校国語教育と中等学校国語教育」(岡島繁)。</p> <p>(#)「言葉の修練に就いて」(飛田多喜雄)。</p> <p>(#)「音声言語の修練」(山下正雄)。</p> <p>(#)「外地版 報道(石黒修編)」。</p> <p>(#)「新刊 児童図書二冊」(波多野完治)。</p> <p>(#)「紹介 国語関係四種」(興水実)。</p> <p>(#)「国語教室の言語学(9)」(石黒魯平)。</p>
"	11・	〔書〕「日本語」11月号休刊。
"	11・5	御前会議, 対米交渉の「甲・乙案」と「帝国国策遂行要領」を決定(交渉不成立の場合, 12月初旬武力発動決意)。来栖三郎大使を米国に派遣。
"	"	大本営海軍部, 大海令第一号発令(連合艦隊に対英・米・蘭作戦準備を命令)。
"	11・6	大本営陸軍部, 南方軍戦闘序列下令(南方要域の攻略準備を命令)。
"	"	米, 対ソ借款10億ドルの借款発表。
"	11・7	野村大使, ハル長官と会見, 「甲案」を提示。
"	"	機密連合艦隊命令第二号(Y日は12月8日と予定)。
"	11・10	連絡会議, 「戦争経済基本方略」, 11月11日「対米・英開戦名目骨子」, 11月15日「対米・英・蘭戦争終末促進に関する復案」を決定。
"	"	〔日〕 海外教育振興懇談会(教育研究同志会・興亜教育委員会主催)開催。
"	11・12	<p>〔教〕「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十七年度臨時短縮ニ関スル件」〔朝鮮総督府令第二百九十二号〕(「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十七年度臨時短縮ニ関スル件左ノ通定ム 第一条 昭和十六年勅令第九百二十四号第一条第一項及朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第八条第一項ノ規定ニ依リ大学学部ノ在学年限並ニ大学予科, 専門学校及実業専門学校ノ修業年限ハ昭和十七年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス 第二条 左ニ掲グル学校ノ修業年限ハ昭和十七年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々三月之ヲ短縮ス 一 国民学校初等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五年以上ノ実業学校及国民学校高等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノ実業学校 二 私立学校規則ニ依</p>

西 暦	年 代	項 目
1941		リ設立セラレタル学校ニシテ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令 第五条ノ資格ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノモノ」)。
"	11・15	「兵役法施行令改正」〔法律〕公布(丙種合格も召集)。
"	"	〔書〕「国語文化講座 第二巻 国語学概論篇」(朝日新聞社)。
"	11・17	東条首相の施政方針演説を録音放送(議会放送の初め)。
"	"	企画院研究会,「国防国家の綱領」。
"	11・20	野村・来栖両大使,ハル長官と会見,「乙案」を提出。
"	"	〔日〕ハルピン日本語教育研究会第四回研究発表会(「日本語教授の方法 学的実践」中村忠一,「『ハナシコトバ』の取扱」前原保,「日本語教授論」 松尾藤四郎)。
"	11・21	〔日〕興亜院派遣教員第二回協議会(〜22日。上海興亜院中連絡部大会 議室。「議事 一 指示事項,二 研究題目(1)日本語教育普及本来ノ使命タル 日本認識,理解,親和,協力ノ醸成ニ対シ採リツ、アル方策及其ノ影響 (2) 「ハナシコトバ」ヲ使用シテ如何ナル程度マデ所期ノ成果ヲ上げ得タルカ,同 書使用上特ニ留意スヘキ諸点及同書ニ改善ノ余地アリヤ 三 個人研究発表 四 日本語教育ニ関スル協議事項」)。
"	11・22	「国民勤労報国協力令」〔勅令〕公布(男子14〜40歳,未婚女子14歳 〜25歳に勤労奉仕義務法制化。12月1日施行)。
"	11・25	「ハル・ノート」手交。
"	"	〔書〕「 ^日 基本漢字」(大西雅雄,三省堂。部首順。3000字,熟語2 万1000語)。
"	11・26	ハワイ作戦機動部隊,南千島のヒトカップ湾を出発。
"	"	ハル長官,野村・来栖両大使に「乙案」を拒否し,強硬な新提案を提議(ハ ル・ノート)。
"	11・27	御前会議,「ハル・ノート」を日本に対する最後通牒と結論。
"		中共,陝甘寧辺区で第二期参議会第一次大会開催,施政綱領採択。
"	11・	軍報道班員として多数の文学者徴用(マレー・ビルマ・ジャワなど各方面へ 井伏鱒二・里村欣三・高見順・北原武夫ら)。以後も徴用つづく(石川達三・ 丹羽文雄・今日出海ら)。
"	"	〔日〕米国陸軍,日本語訓練プログラム開始。
"	"	〔書〕「日本語教授法概説」(山口喜一郎,北京新民印書館)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四七二号)。

西 暦	年 代	項 目
1941		(同上)「公学校用国語読本の語法(二)」(吉原保)。
"	12・1	御前会議, 対米英蘭開戦を決定。
"	"	<p>[書]「日本語」(第一巻第八号)。</p> <p>(同上)「巻頭言」(松尾長造)。</p> <p>(「」)「日本語の論理性と情操性」(長谷川如是閑)。</p> <p>(「」)「日本語の東亜進出に関する一感想」(吉田三郎)。</p> <p>(「」)「海外で感じた日本語の問題」(西本三十二)。</p> <p>(「」)「戦争と言葉」(坂部重義)。</p> <p>(「」)「書評 支那文化の紹介文献(一)」(岩村忍)。</p> <p>(「」)「中国日本語研究文献(一)」(菊冲徳平)。</p> <p>(「」)「日本語教室 或る会話教授の批判」(日野成美)。</p> <p>(「」)「日本語教室 一つの報告」(森田梧郎)。</p> <p>(「」)「日本語教室 カナダに於ける日本語教育」(佐藤伝)。</p> <p>(「」)「日本語の美しさの根柢」(佐藤春夫)。</p> <p>(「」)「日本の小鳥」(中西梧堂)。</p> <p>(「」)「随筆 日本の年中行事(四)」(三村清三郎)。</p> <p>(「」)「随筆 言葉談義(一)」(各務虎雄)。</p>
"	"	<p>[書]「コトバ」(第三巻第十二号, 「国語教授者の資格」)。</p> <p>(同上)「初等教育の振興(国語時評)」。</p> <p>(「」)「国語教育者に望む」(松尾捨次郎)。</p> <p>(「」)「国語教育者と方言」(今泉忠義)。</p> <p>(「」)「国語教育者と国語研究」(菊沢季生)。</p> <p>(「」)「国語教育者と音声研究」(冢永英吉)。</p> <p>(「」)「私の日本語教授法勉強」(入江道雄)。</p> <p>(「」)「発音・アクセントの指導について」(中田憲久)。</p> <p>(「」)「私の実践」(塚田狷介)。</p> <p>(「」)「私の話方実践」(高橋安造)。</p> <p>(「」)「国語教室から」(宮下清久)。</p> <p>(「」)「「農村児童の言葉なほし」(勝山格)。</p> <p>(「」)「私の実践」(鴻島義浩)。</p> <p>(「」)「少国民文化と童話」(原勝)。</p> <p>(「」)「児童読物の感想」(波多野完治)。</p> <p>(「」)「「喜界島方言集」を読んで」(大西雅雄)。</p> <p>(「」)「全国文集展望(1)」(百田宗治)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1941		(同上) 「日本音声学協会の建議」。 (#) 「外地版 報道(石黒修編)」。
"	1 2 ・ 6	連絡会議, 「開戦に方り支那をして執らしむべき措置」決定。
"	"	英国, 対フィンランド・ハンガリー・ルーマニア宣戦布告。
"	1 2 ・ 7	米大統領, 天皇に親電。
"	1 2 ・ 8	「米国及英国ト国交断絶」〔内閣告示第十六号〕(「帝国ハ今八日米国及英国ト国交断絶シテ交戦状態ニ入レリ」)。
"	"	「米国及英国ニ対シ宣戦」〔詔書〕。
"	"	「宣戦ニ対スル帝国政府声明」〔政府声明〕
"	"	日本時間午前2時, 日本軍, マレー半島に上陸開始。3時, ハワイ真珠湾空襲開始, 米戦艦主力を撃破。4時過ぎ野村・来栖両大使, ハル長官に最後通牒を手交。
"	"	米英, 対日宣戦布告。
"	"	日本軍, 上海, 天津, 広東などの外国租界に進駐開始。
"	"	独, モスクワ攻略に失敗, 東部戦線休止発表。
"	1 2 ・ 9	国民政府, 対日独伊宣戦布告。
"	1 2 ・ 1 0	マレー沖海戦, 英2戦艦撃沈。
"	"	日本軍, グアム島を占領, フィリピン北部に上陸。
"	"	〔日〕 第二十八回全島国語演習会(場所, 花蓮港高女講堂, 参加人数54名)。
"	"	〔書〕「国語学原論」(時枝誠記, 岩波書店)。
"	1 2 ・ 1 1	対米英戦共同遂行・単独不講和の日独伊3国協定締結。
"	"	独伊, 対米宣戦布告。
"	1 2 ・ 1 2	閣議, 戦争の名称を, 支那事変を含めて大東亜戦争とすることを決定。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会理事会(第一回)開催。
"	1 2 ・ 1 5	〔日〕 第一回日本語教授者懇談会(主催日本語教育振興会, 参加者47名)
"	"	「物資統制令」〔勅令千百三十号, 公布昭和十六年十二月十六日〕。
"	1 2 ・ 1 6	呉海軍工廠, 戦艦大和を竣工(6万9000トン。史上最大の戦艦)。
"	1 2 ・ 1 8	「言論, 出版, 集会結社等臨時取締法」〔法律第九十七号, 公布, 昭和十六年十二月十九日〕。
"	1 2 ・ 1 9	「戦時犯罪処罰特例法」〔法律〕公布。
"	1 2 ・ 2 0	〔書〕「日本語の世界化 ― 国語の発展と国語政策 ― 」(石黒修, 修文館)。

西 暦	年 代	項 目
1941	12・21	「日本泰国同盟条約」調印。
"	12・22	ワシントンでルーズベルト・チャーチルの「アルカディア」戦争指導会議始まる（～42年1月14日米英の統合参謀委員会設置決定。「欧州第一」原則を再確認）。
"	12・23	〔日〕「北京興亜学院ニ関スル件」〔勅令千百九十九号。公布昭和十六年十二月二十四日〕（「財団法人北京同学会ノ設立スル北京興亜学院ニ関シテハ専門学校令ニ依ル但シ同令中文部大臣ノ職務ハ内閣総理大臣之ヲ行フ」）。
"	12・24	連絡会議，「情勢の推移ニ伴う対重慶屈服工作に関する件」を決定。
"	"	文学者愛国大会開催（大政翼賛会による文化戦域別愛国大会の一環，350人の参加）。
"	12・25	香港の英軍降伏。
"	"	〔書〕「日本語教科用ハナシコトバ学習指導書（上・中・下）」（文部省編，日本語教育振興会。再版）。
"	12・26	重慶で，「英中軍事同盟」調印（蒋介石・英インド軍総司令官ウェイベル間）。
"	12・	カナダでは，十二月，日本への宣戦とともに日系人の逮捕，日本語学校閉鎖，出漁禁止，漁船の没収，新聞発行禁止等の措置がとられた。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四七三号）。 （同上）「公学校用国語読本の語法（三）」（吉原保）。 （"）「公学校用国語読本巻十の教材研究（一）」（北二師附公国語読方研究部）。
"	"	〔書〕「国語の台湾」（第二号）。 （同上）「台湾に於ける国語の二つの姿（下）」（福田良輔）。 （"）「国語教育上の雑感」（小林正一）。 （"）「台湾の方言について」（都留長彦）。 （"）「国語のアクセント初歩（其二）」（川見駒太郎）。 （"）「国民学校に於ける国語教育」（金丸四郎）。 （"）「我が国語学習の思い出」（田大熊）。
"	"	〔書〕「新編機械標準用語集（附工学共通用語集）」（平松秀三編，大日本工業学会）。
"	"	〔書〕「新英和工学辞典」（土木学会，丸善）。
"	"	〔書〕「高砂族慣習法語集」（帝国学士院編，ヘラルド社）。
"	"	〔書〕「内科用語集」（日本内科学会編，南山堂 金原商店 南江堂・

西 暦	年 代	項 目
1941		吐鳳堂帝捌)。
"	12・	〔書〕「標準日本語発音比較辞典」(寺川喜四男著,台北・興南新聞社)。
"	(昭和16年)	〔日〕満州国では、この年より初等学校の建国精神科の中に国勢科(地理・歴史を含む)を包括し、全科目の授業時間が減り、新たに勤労奉仕科を設け、小学で年に20日の実務日、10日の勤労奉仕日、中学で年に30日の実務日、15日の教練、20日の勤労奉仕日を設ける。
"	"	〔日〕アメリカの陸軍では、サンフランシスコのPresideoに11月、2世をおもな対象として開き、開戦とともにミネソタに移った。太平洋戦争が始まると、すぐ言語学者を動員し大々的に日本語の教師養成にあたった。ASTP(「Armed Services Training Program」—軍事特別訓練計画)と呼ばれ、27か国語が教えられたが、なかでも日本語に主力が注がれた。アメリカ人の言語学者がプログラムを作り、文法の説明を受け持ち、日本人のインフォーマントを用いて練習させた。1943年にミシガンに1年制のものが開かれ、漢字1100を修めさせた。又、日本学(歴史、地理、その他)にも相当時間がさかれた。一方、海軍では、インフォーマントを使わず日本人教師を訓練して説明にも当たらせた。陸軍よりも「読み」「書き」を多く行い、漢字1800~2000、7000~8000語の語彙のほかは軍隊用語も学ばせた。スケジュールは、1日14時間、週6日、1年50週。のちボードン(Bourden)から、ワシントンに移り、14か月制になった。教材としては、「標準日本語読本」(俗称長沼シリーズ)のほか、Bloochの「Spoken Japanese」も広く用いられた。ハーバード大学では、日本語科生15名の他に海軍省の特別委託による1年間の短期速成講座を開設(日本研究、日本語翻訳、日本語通信の検閲、情報蒐集などの目的から、日本語のできるものを優遇採用)、海軍軍人をはじめ、約40名の特別学生に日曜なしで教える。講師は、東洋学部長セルゲー・エリセーフ他、バラ・ベンネット、マッケンジー、エドウィン・ライシャワー、古橋武彦、エリザベス・マッキンノンなど。
"	"	陸軍日本語学校は日系二世約6000人、白人そのほか非日系アメリカ人780人、合計7000人以上の受講者に日本語を教授。陸軍専門訓練隊(ASTP)は15000人に上る下級兵士に10か所の学校で日本語教育を実施。海軍日本語学校は終戦までに1250人の言語将校を養成。
"	"	太平洋戦争開始後、朝鮮では、朝鮮キリスト教徒で神社参拝に反対するものなど、2000余人が投獄された。獄死50余人、教会約200を廃止。
"	"	〔日〕台湾総督府、特別指導国語講習所を設置、新竹州高雄、花蓮港庁に各一箇所指定(「特別指導国語講習所設定要綱 一、趣旨 時局ノ要請ト本島国語普及ノ現状ニ鑑ミ国語講習所教育ノ内容竝ニ経営ニ再検討ヲ加ヘ特別施設ニ付実際の調査研究ト強力ナル指導ヲ加ヘ国民学校制実施ニ則応スル皇民錬成ノ具体的指導方策ヲ実地ニ考究シ以テ本島国語普及ノ一大推進力タラシメント

西 暦	年 代	項 目
1941		ス」)。
"	(昭和16年)	〔日〕「教育所ニ於ケル教育標準」(総警第九〇号総務長官通達)。
"	"	〔日〕「朝鮮総督府における調査(稍々解し得る者1884733, 普通会話を差支なき者2087361, 計3972097)。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人学生数・卒業数(師範学校, 学生数, 本島人380, 高砂族5, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人17624, 高砂族126, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校生徒数, 本島人3745, 蕃人40, 卒業数不明, 小学校高等科, 生徒数, 本島人358, 蕃人3, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒・卒業数(公立中学校, 生徒数, 本島人6001, 高砂族5, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校生徒数, 本島人3571, 高砂族0, 卒業数, 本島人826, 高砂族1)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人5087, 高砂族13, 卒業数不明, 実業補習学校, 生徒数, 本島人9468, 高砂族216, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 高等学校の本島人生徒数・卒業数(生徒数?, 卒業数, 高等学校38, 中学校に相当する尋常科3)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数, 本島人77, 高砂族15。昭和16年度帝国大学に予科を設けた。修業年限3年, 本島人は文科1, 理農類1, 工類2, 医類11が入学した)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数244, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数179, 生徒数10310, 卒業数2141, 就学歩合88・21)。
"	"	〔日〕 国語講習所調(国語講習所5364, 生徒数不明, 簡易国語講習所10864, 生徒数372711)。
"	"	〔日〕「国語」保育園, 幼児国語普及施設所数・生徒数(所数69029)。
"	"	〔日〕 国語講習の所数・会員数・国語普及歩合(所数267, 会員数, 18501, 国語普及歩合48・11)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本(改正出版)第一種巻十, 巻十一」(台湾総督府)。

西 曆	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「公学校用書方手本第五学年用下, 六上」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「コクゴ 一, 三」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「コクゴ 一 掛図」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「こくご 三 掛図」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「モジノオケイコ 上, 下」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「テホン 上, 下」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「コクゴ教授書」(台湾総督府学務部)。
"	"	〔書〕「公学校綴方教授細目」(台北第二師範学校附属公学校啓明会)。
"	"	〔書〕「国民科読方教育の諸問題と其の解答」(辻武夫)。
"	"	〔書〕「国民科綴方教育の諸問題と其の解答」(辻武夫)。
"	"	〔書〕「国民学校国民科綴方練成細目」(辻武夫)。
"	"	〔書〕「国民学校綴方指導書」(年月会編)。
"	"	〔書〕「国語動員指導書」(大溪郡教化聯合会編)。
"	"	〔書〕「国語運動の絶対理念」(台湾国語協会編)。
"	"	〔書〕「国語と台湾」(台湾の国語社)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四六二号~第四七三号発行)。
"	"	〔書〕「ニッポンゴトクホン」(カナモジカイ)。
"	"	〔書〕「簡明日語文法」(黄在江, 民国卅年)。
"	"	〔書〕「国定初級中学日本語教科書」六冊(教育部編審委員会。民国卅年)。
"	"	〔書〕「言語活動と生活」(バイイ, 小林英夫改訳)。
"	"	〔書〕「日本に残存せる支那古韻の研究」(飯田利行)。
"	"	〔書〕「大東亜言語建設の基本」(志田延義)。
"	"	〔書〕「日本観光記」(民国薛慧子著, 中央電訊社。民国卅年刊。活版。 「中央電訊社叢書之7」。62P)。
"	"	〔書〕「主席訪日随行記」(民国楊之華著, 中央電訊社。民国卅年刊。 「中央電訊社叢書之5」88P)。
"	"	〔書〕「日本二千六百年史」(大川周明著, 満洲東光明訳, 奉天・大東文 化協会。満洲康德八年刊。220P)。
"	"	〔書〕「支那の少年は語る」(渡辺泰亮編, 東京・講談社。昭和16年刊。 326P)。
"	"	〔書〕「小児病」(片岡鉄兵著, 民国高汝鴻訳, 上海・三通書局。民国卅年 刊。85P。合刻: 謠言の発生(菊池寛著 民国侍桁訳) 魔術(芥川龍之介 著, 民国侍桁訳)。
"	"	〔書〕「無名作家的日記」(菊池寛著, 民国查士元訳, 上海・三通書局。 民国卅年刊。94P。合刻: 范某之犯罪(志賀直哉, 民国查士元訳) 厭世家 の誕生日(佐藤春夫著 民国查士元訳)。

西 曆	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「定評」(久米正雄著, 民国侍桁訳, 上海・上海三通書局。民国卅年刊。90P。合刻: 貓的墓(夏目漱石著 民国謝六逸訳) 該隱的末裔(有島武郎著 民国沈端先訳) 女體(芥川龍之介著 民国謝六逸訳)。
"	"	〔書〕「雪の夜話」(里見弴著, 民国高汝鴻訳, 上海・三通書局。民国卅年刊。102P。合刻: 馬糞石(葛西善蔵著 民国高汝鴻訳) 工人之子(豊島与志雄著 民国高汝鴻訳) 一位體操教員之死(藤森成吉著 民国高汝鴻訳)
"	"	〔書〕「日本詩歌選」(民国錢稻孫訳, 東京・文求堂。昭和16年刊。130P)。
"	"	〔書〕「近代中国人日本遊記類陳列目錄」(昭和16年刊。孔版。1冊。翼賛圖書展覧会第4部に出陳した資料目錄)。
"	"	〔書〕「一中華人の見た日本精神」(民国王世民著, 東京・青年書房。昭和16年刊。245P)。
"	"	〔書〕「正宗宣道篇 1巻 続1巻」(民国李永真著, 天津・正宗救済会。民国卅年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「西力東漸の史的展望」(東亜調査会編, 東京日日新聞社。昭和16年刊。「東亜問題研究」。258P)。
"	"	〔書〕「日本時人辞典」(外交部亞州司研究室編, 南京・中央電迅社。民国卅年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「慈禧外伝」(清徳菱(裕徳齡)著, 泰瘦鷗訳, 上海・春江書局。民国卅年刊。296P)。
"	"	〔書〕「康熙大帝」(西本白川著, 東京・大東出版社。昭和16年刊。「東亜文化叢書3」。362P)。
"	"	〔書〕「日本の風土・支那の風土」(脇水鐵五郎著, 東京・日本放送出版協会。昭和16年刊。「ラジオ新書47」。152P)。
"	"	〔書〕「支那赤色圏を行く」(民国陳賡雅著, 池田孝訳。昭和16年刊。「社員会叢書第51輯」。374P)。
"	"	〔書〕「北京案内記」(安藤更生編, 北京・新民印書館。昭和16年刊。392P)。
"	"	〔書〕「歴史より見たる支那山東省」(馬場春吉著, 東京・山東文化研究会。昭和16年刊。「山東文化研究叢書第4編」。76P)。
"	"	〔書〕「近代日支文化論」(実藤恵秀著, 東京・大東出版社。昭和16年刊。「東亜文化叢書1」。269P)。
"	"	〔書〕「西洋文化の支那への影響」(民国張星烺著, 実藤恵秀訳, 東京・日本青年外交協会出版部。昭和16年刊。278P)。
"	"	〔書〕「統對支回顧録 2巻」(対支功勞者伝記編纂会編, 東京・大日本教科圖書。昭和16～17年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「赤色支那の究明」(波多野乾一著, 東京・大東出版社。昭和16

西 曆	年 代	項 目
1941		年刊。384P)。
"	(昭和16年)	〔書〕「支那女性生活史」(民国陳東原著,村田孜郎訳,東京・大東出版社。昭和16年刊。「支那文化史大系11」。343P)。
"	"	〔書〕「支那の少年は語る」(渡辺泰亮編,東京・講談社。昭和16年刊。326P)。
"	"	〔書〕「初等華語教程」(宮島貞亮編,東京・金文堂。昭和16年刊。83P)。
"	"	〔書〕「支那化学工業史」(民国李喬平著,実藤恵秀訳,東京・大東出版社。昭和16年刊。「支那文化史大系12」。262P)。
"	"	〔書〕「中国文法通論」(民国劉復著,田中精一郎訳,東京・文求堂。昭和16年刊。214P)。
"	"	〔書〕「高級華語新集」(民国王化著,東京・文求堂。昭和16年刊。150P)。
"	"	〔書〕「高級華語新集総釋」(民国王化著,小川尋一訳,東京・文求堂。昭和16年刊。103P)。
"	"	〔書〕「長耳国漂流記」(中村地平著,東京・河出書房。昭和16年刊。287P)。
"	"	〔書〕「揚子江文学風土記」(小田嶽夫,武田泰淳共著,東京,龍吟社。昭和16年刊。299P)。
"	"	〔書〕「家」(民国巴金著,大連・実業洋行出版部。昭和16年刊)。
"	"	〔書〕「日支交通史」(民国王輯五著,今井啓一訳,京都・立命館出版部。昭和16年刊。391P)。
"	"	〔書〕「乾燥アジア文化史論」(松田寿男 小林 元)。
"	"	〔書〕「西域史研究(上巻)」(白鳥庫吉)。
"	"	〔書〕「バルトリド東洋研究史」(外務省調査部訳)。
"	"	〔書〕「東洋史観」(鳥山喜一)。
"	"	〔書〕「東洋史の時代と人々」(国民精神研究会編)。
"	"	〔書〕「ヴァイナック 東亜近世史(上巻)」(荒畑勝三訳)。
"	"	〔書〕「東亜文化の成立。(世界歴史 二巻)」。
"	"	〔書〕「東亜共栄圏史」(宗幸一)。
"	"	〔書〕「東亜政治・経済戦略図」(ハドソン他 丸山達雄訳)。
"	"	〔書〕「東亜綜合体の原理」(谷口吉彦)。
"	"	〔書〕「東亜経済年報」(山口高商東亜研)。
"	"	〔書〕「東亜国土計画」(一井 修)。
"	"	〔書〕「満州国現勢」(康德八年版)。
"	"	〔書〕「満州産業概要」(河村 清編,康德八年)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「満州特産中央会略史」(満州特産中央会。康德八年)。
"	"	〔書〕「会員名簿」(奉天市労働統制協定加入者会。康德八年)。
"	"	〔書〕「 ^{極秘} 黄海経済要覧」(大連商工会議所編)。
"	"	〔書〕「満州平均気温・降水量及土壤図」(日満農政研究会)。
"	"	〔書〕「 ^{極秘} 日満農政研究報告(第七～十七輯)」(日満農政研究会新京事務局。康德八年)。
"	"	〔書〕「日満農政研究会懇談会速記録」(康德八年)。
"	"	〔書〕「北海道視察座談会速記録」(日満農政研究会。康德八年)。
"	"	〔書〕「満州農業懇話会報告書」((社)東亜経済懇談会)。
"	"	〔書〕「満州小麦作の研究」(満州農学会編。康德八年)。
"	"	〔書〕「蘇聯側より観たる奥地支那経済論(一)」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「満州開拓年鑑」(藤沢忠雄。康德八年)。
"	"	〔書〕「北満開拓地を見る」(大阪商科大学)。
"	"	〔書〕「黄土に祈る」(天理教伝道)」(佐藤軍紀)。
"	"	〔書〕「蒙疆年鑑(昭和十六年版)」(蒙疆新聞)。
"	"	〔書〕「蒙疆の経済(資源と開発)」(中村 信)。
"	"	〔書〕「蒙疆拓殖事情調査報告書」(拓務省拓北局)。
"	"	〔書〕「外 蒙」(興亜院蒙疆部)。
"	"	〔書〕「孫文主義(下巻)」(外務省調査部)。
"	"	〔書〕「赤色支那の内幕」(^{ニム・ウエールス} 興亜院訳)。
"	"	〔書〕「北京地方法院民事判決及裁定(一,二)(暦)」(満鉄調査部)。
"	"	〔書〕「補訂 支那古代史論」(飯島忠夫)。
"	"	〔書〕「支那近世史講話」(稻葉岩吉)。
"	"	〔書〕「支那文献論」(故山田岳陽先生記念事業会)。
"	"	〔書〕「 ^{極秘} 新四軍ニ関スル実体調査報告書 蘇院省境津浦線東部地区ノ部」(興亜院華中連絡部)。
"	"	〔書〕「支那社会生活の性向 — 教育的角度よりの一考察」(吉川哲太郎)。
"	"	〔書〕「支那経済の源流」(原 富男)。
"	"	〔書〕「支那経済建設 — 事前と事後 — 」(目崎憲司)。
"	"	〔書〕「宋元経済史」(^{王志瑞} 荒木敏一訳)。
"	"	〔書〕「支那国際収支論叢」(満鉄調査部編)。
"	"	〔書〕「支那銀行制度論」(宮下忠雄)。
"	"	〔書〕「支那法幣インフレーション事情」((社)東亜経済懇談会)。
"	"	〔書〕「欧米の対支経済侵略史」(井村薫雄)。
"	"	〔書〕「民留民団の研究」(中内二郎)。
"	"	〔書〕「上海共同租界工部局年報(一九四〇年・一九四一年版)二冊」(岡本事務所訳他)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「ソープ 分類・分布 支那土壤地理学 文化的意義」(伊藤隆吉・他訳)。
〃	〃	〔書〕「支那地震史の研究 ― 古代より西紀二六五年に至る ― 」(慶松光雄)。
〃	〃	〔書〕「支那租界制度論」(ジャン・エスカラ 植田捷雄訳)。
〃	〃	〔書〕「阿波人開発支那海漁業誌」(同刊行会)。
〃	〃	〔書〕「中支那慣行調査参考資料(123輯)」(満鉄上海事務所。～昭和17年)。
〃	〃	〔書〕「支那及印度經濟論」(財部静治遺稿)。
〃	〃	〔書〕「華北石炭販売株式会社」。
〃	〃	〔書〕「支那重要国防鉱産資源調査報告(附図共)」(興亜院)。
〃	〃	〔書〕「中国労働事情」(パウル・アルント 藤沢久蔵訳)。
〃	〃	〔書〕「支那民間の神々」(澤村幸夫)。
〃	〃	〔書〕「中国に於ける合作運動の今昔」(興亜院政務部)。
〃	〃	〔書〕「支那土地制度論」(オットー・フランク著 清水金二郎訳)。
〃	〃	〔書〕「支那に於ける食糧問題」(山名正孝)。
〃	〃	〔書〕「支那食糧政策史」(高柳堂・森儀一訳)。
〃	〃	〔書〕「支那農村厚生問題」(言心哲・李延安・呉至信・藤田実訳編)。
〃	〃	〔書〕「日支蚕糸業の調整方策」(興亜院)。
〃	〃	〔書〕「儒教の実態」(興亜宗教協会)。
〃	〃	〔書〕「北支那に於ける古跡古物の概況」(興亜宗教協会)。
〃	〃	〔書〕「南支遊記」(ハリ・フランク著・満鉄弘報課訳)。
〃	〃	〔書〕「老残遊記」(劉雲鉄・岡崎俊夫)。
〃	〃	〔書〕「北京の市民」(羅信耀・式場隆三郎訳)。
〃	〃	〔書〕「ソ聯科学技術水準調査」(東亜研究所)。
〃	〃	〔書〕「台湾經濟年報(一)」(台湾經濟年報刊行会)。
〃	〃	〔書〕「南方圏の經濟的価値」(緒方正編)。
〃	〃	〔書〕「南洋文献目録」(太平洋協会調査部)。
〃	〃	〔書〕「大南洋圏」(南洋協会)。
〃	〃	〔書〕「南洋興発株式会社式十周年 所感共二冊」(吉田久一編)。
〃	〃	〔書〕「改訂 海南島誌」(井出季和太)。
〃	〃	〔書〕「安南通史」(岩村成允)。
〃	〃	〔書〕「安南史講義」(東亜研究所)。
〃	〃	〔書〕「スマトラの苦力」(ルロフス・佐藤訴一)。
〃	〃	〔書〕「新嘉坡と馬來半島」(野村貞吉)。
〃	〃	〔書〕「印度思想史」(木村泰賢)。
〃	〃	〔書〕「仏領印度支那事情概要」(拓務省拓南局)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「仏印は招く」(金子辰太郎)。
"	"	〔書〕「蘭領印度事情概要」(拓務省拓南局)。
"	"	〔書〕「蘭印を斯く見たり」(小林一三)。
"	"	〔書〕「蘭印生活二十年」(和田民治)。
"	"	〔書〕「蘭印・英印・仏印」(井出諦一郎)。
"	"	〔書〕「比律浜に於ける政策の変遷」(永丘智太郎)。
"	"	〔書〕「比島農業事情」(児島宇一)。
"	"	〔書〕「南洋の民族と文化」(井東憲昭)。
"	"	〔書〕「比律賓民族史」(外務省)。
"	"	〔書〕「徐松石著・南支那民族史」(井出季和太)。
"	"	〔書〕「これが支那だ支那民族性の科学的解析」(山崎百治)。
"	"	〔書〕「農業支那と遊牧民族」(後藤富男)。
"	"	〔書〕「和蘭の南洋植民史(第一部)」(鳥養太一郎)。
"	"	〔書〕「満洲及支那の組合制度」(高田源清)。
"	"	〔書〕「台湾保甲皇民化読本」(驚巢敦哉,台湾警察協会)。
"	"	〔書〕「大東亜の教育」(幣原坦)。
"	"	〔書〕「教育哲学」(稲毛金七)。
"	"	〔書〕「最近教育の思潮と実際」(入沢宗寿)。
"	"	〔書〕「女子基督教読本」(宮島真一)。
"	"	〔書〕「山口県健民修練手牒」。
"	"	〔書〕「英国の対印度教育政策 — 世界大戦迄の史的概観 — 」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「教室風土記」(須藤克三)。
"	"	〔書〕「東京市 ^{東京市} 職員録」(東京市役所)。
"	"	〔書〕「 ^{教育関係} 灰弘塾塾報」(北京灰弘塾)。
"	"	〔書〕「教育国家論」(田村敏雄)。
"	"	〔書〕「各種学校一覧」(東京府学務部学務課)。
"	"	〔書〕「京都府教育会最近十年史」(吉村保)。
"	"	〔書〕「創立七十年(東京文理科大学・東京高等師範学校)。
"	"	〔書〕「育児会五十年史」((財)婦人共立育児会)。
"	"	〔書〕「女子新教育学」(久保良英・青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「女子国民教育学」(佐々木秀一)。
"	"	〔書〕「信州東筑摩郡本郷村に於ける 子供の集団生活」(竹内利美)。
"	"	〔書〕「児童文化論」(国語教育学会編)。
"	"	〔書〕「初等教育者著書解題」(初等教育奨励会)。
"	"	〔書〕「国民学校令及学事関係法規」(長尾陽太郎)。
"	"	〔書〕「国民学校教育原論」(山田栄)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「国民学校経営の基調」(武山孝助)。
"	"	〔書〕「国民学校に於ける校外教育の実践」(橋本健太郎)。
"	"	〔書〕「公私立中等学校一覧」(東京府学務部学務課)。
"	"	〔書〕「教育に関する勅語渙発五十年記念資料展覧図録」(文部省)。
"	"	〔書〕「日本農業教育史」(全国農業学校々長会)。
"	"	〔書〕「歴史学及歴史教育の本質」(中川一男)。
"	"	〔書〕「現代の心理学」(千葉胤成)。
"	"	〔書〕「性格心理学」(依田新)。
"	"	〔書〕「青年心理学」(青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「ことばの講座(二輯)」(音声学協会・東京放送中央局)。
"	"	〔書〕「児童心理学」(青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「国民学校・国語教育の新使命」(秋田喜三郎)。
"	"	〔書〕「日満司法協議会議事録」(司法省)。
"	"	〔書〕「刑事裁判判例」(司法研究所)。
"	"	〔書〕「裁判の創造性原理」(中島弘道)。
"	"	〔書〕「大審院民事判決録(明治十四年一〜三月分)」(司法省蔵版)。
"	"	〔書〕「法と民族」(木村亀二)。
"	"	〔書〕「法律善と法律悪」(宮城長五郎)。
"	"	〔書〕「名判官物語徳川時代の法制と大事件の裁判」(小山松吉)。
"	"	〔書〕「法窓雑話」(末広巖太郎)。
"	"	〔書〕「山崎正董博士の演説と文章」(古稀祝賀会)。
"	"	〔書〕「日本法理叢書」(日本法理研究会。〜昭和19年)。
"	"	〔書〕「法理学」(中島重)。
"	"	〔書〕「先験的法哲学」(佐藤立夫)。
"	"	〔書〕「制度の哲学」(G・ルナール著・小林珍雄訳)。
"	"	〔書〕「西洋法制史講義」(西本穎)。
"	"	〔書〕「ルッソー民約論」(木村亀二)。
"	"	〔書〕「中国に於ける憲法問題概説」(興亜院華中連絡部)。
"	"	〔書〕「大日本憲法論」(大谷美隆)。
"	"	〔書〕「行政機構改革問題に関する資料」(東京商工会議所)。
"	"	〔書〕「行政裁判所五十年史」。
"	"	〔書〕「府県制度資料」(自治振興中央会)。
"	"	〔書〕「府県制五十年を語る」(近江匡男編)。
"	"	〔書〕「都市計画及国土計画」(石川栄耀)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「国土計画論」(奥井復太郎)。
"	"	〔書〕「国土計画論」(吉田秀夫)。
"	"	〔書〕「日本農業国土計画論」(松本辰馬)。
"	"	〔書〕「現代大都市論」(奥井復太郎)。
"	"	〔書〕「米国の都市問題」(東京商工会議所)。
"	"	〔書〕「地方計画の基本問題」(金谷重義他)。
"	"	〔書〕「地方計画の理論と実際」(武居高四郎)。
"	"	〔書〕「欧米の住居法」((財)同潤会)。
"	"	〔書〕「欧米の住宅政策(上下巻)」(同潤会)。
"	"	〔書〕「厚生住宅」(平山嵩)。
"	"	〔書〕「土地買収要綱」(石川直)。
"	"	〔書〕「日本鉱業法原理」(美濃部達吉)。
"	"	〔書〕「経済官庁と経済団体」(高田源清)。
"	"	〔書〕「日本医学史」(富士川游)。
"	"	〔書〕「国民病の予防と撲滅」(高野六郎)。
"	"	〔書〕「宗教団体法論」(根本松男)。
"	"	〔書〕「官国幣社特殊神事調(一〜四)」(神祇院)。
"	"	〔書〕「最新 神社法令要覧」(神祇院総務局)。
"	"	〔書〕「国家権威の研究」(大串兎代夫)。
"	"	〔書〕「国家論自然経済と意志経済 経済の道(三冊)」(作田荘一)。
"	"	〔書〕「国家原論」(中島重)。
"	"	〔書〕「国家と大学」(簗田胸喜)。
"	"	〔書〕「国体の本義精講」(保坂弘司)。
"	"	〔書〕「国体科学研究(第二)」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「国体宣揚史綱」(前田多蔵)。
"	"	〔書〕「五大革新史論(上下)」(河原萬吉)。
"	"	〔書〕「水戸論語」(百川元著)。
"	"	〔書〕「国史に現われた日本精神」(山田孝雄)。
"	"	〔書〕「歴史日本(自創〜終3巻)」(雄山閣)。
"	"	〔書〕「日本臣道史」(小関尚志)。
"	"	〔書〕「武士道の神髓」(半田信)。
"	"	〔書〕「武道史十講」(清原貞雄)。
"	"	〔書〕「皇国の大道」(河原春作編)。
"	"	〔書〕「皇国学大綱」(鹿子木員信編)。
"	"	〔書〕「皇道発揚(75〜95号)」((財)皇道社。〜昭和18年)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「皇道と日連」(堀内良平)。
"	"	〔書〕「吉田松陰先生の日本精神」(玖村敏雄)。
"	"	〔書〕「政治の理論」(新明正道)。
"	"	〔書〕「日本政治の規準」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「現代政治勢力の分析」(吉村正・田中惣五郎他)。
"	"	〔書〕「法と政治」(田畑忍)。
"	"	〔書〕「近代日本官僚史」(田中惣五郎)。
"	"	〔書〕「近代日本 ^{政治} 思想史大系」(野村重臣)。
"	"	〔書〕「思想への欲求」(新明正道)。
"	"	〔書〕「 ^{明治維新体制史} — 復古・維新・現状派の相関性 —」(田中惣五郎)。
"	"	〔書〕「愛国婦人会四十年史(正・続写真帳)三冊」(飛舖秀一)。
"	"	〔書〕「愛国婦人会長野県支部沿革誌」。
"	"	〔書〕「 ^{護国会雑誌} — 橋川文三・他 第一～四号」(第一高等学校護国会)。
"	"	〔書〕「総動員態勢の前進」(朝日新聞)。
"	"	〔書〕「国家総動員法の解説」(商工経営研究会)。
"	"	〔書〕「生活体制へ — 国民生活への動員 —」(村松久義)。
"	"	〔書〕「東京市に於ける実施中の切符制調」(企画院)。
"	"	〔書〕「大政翼賛会の発足に当りて(第二～九輯)」。
"	"	〔書〕「翼賛議会の総決算」(情報局)。
"	"	〔書〕「第二回中央協会議会議録」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「 ^{臨時中央} ^{協力会議} 議題処理経過概要」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「 ^{第一回東北地方} ^{文化協議会々議録} 」(大政翼賛会文化局)。
"	"	〔書〕「地方協会議実施概要」(大政翼賛会組織局)。
"	"	〔書〕「工業鉦山産業報国会の組織と運営」(佐々木正制)。
"	"	〔書〕「大日本産業報国会技術者会議会議録」(大日本産業報国会)。
"	"	〔書〕「新修国民歴史辞典」(高橋俊城)。
"	"	〔書〕「日本の歴史」(秋山謙蔵)。
"	"	〔書〕「重要産業団体令官民懇談会 ^(大阪の部) 速記録」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「北方文化の主潮」(河野広道)。
"	"	〔書〕「ナチス社会建設の原理」(中川善之助)。
"	"	〔書〕「ドイツ」(^{ラッツェル著} 向坂逸郎訳)。
"	"	〔書〕「フランス再建」(井出浅亀)。
"	"	〔書〕「ヘロドトス 歴史(古代東西争闘史)下」(青木巖訳)。
"	"	〔書〕「英国の対トルコ政策」(東亜経済調査局)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「米国極東政策史」(クリス・ウオールド著・柴田賢一訳)。
"	"	〔書〕「猶太思想及運動」(四天王延孝)。
"	"	〔書〕「中アジアの風雲」(内藤智秀 他三名)。 三橋富治男
"	"	〔書〕「太平洋民族誌」(松岡静雄)。
"	"	〔書〕「大東亜民族の途 — 大共栄圏の目標」(亀井貫一郎)。
"	"	〔書〕「支那民族発展史」(旗田魏)。
"	"	〔書〕「ハウスホーファー 地政治学の基礎理論」(玉城肇)。
"	"	〔書〕「海洋地政治学」(ヨーゼフ・メルツ)。 田間耕一
"	"	〔書〕「東亜地政学序説」(米倉二郎)。
"	"	〔書〕「嘉納先生伝」(横山健堂, 講道館)。
"	"	〔書〕「子爵斉藤実伝(全四巻)」(同記念会。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「上山満之進(農商務相)」。
"	"	〔書〕「森 格(活躍せる政治家)」(山浦貫一)。
"	"	〔書〕「福島將軍遺蹟」(東亜協会)。
"	"	〔書〕「子爵小笠原長生」(市川銑造)。
"	"	〔書〕「二宮尊徳伝」(佐々井信太郎)。
"	"	〔書〕「佐藤信淵」(鍋田恵吉)。
"	"	〔書〕「秋山雅之介(国際法学者)」。
"	"	〔書〕「篤農伝」(和田伝)。
"	"	〔書〕「岩永裕吉君(同盟通信)」(吉野伊之助)。
"	"	〔書〕「飛嶋文吉(土木)」(伝記編纂会)。
"	"	〔書〕「後藤新平」(信夫清三郎, 博文館)。
"	"	〔書〕「上山満之進」(上山君記念事業会編, 成武堂。全二冊)。
"	"	〔書〕「平時・戦時国際法論(二冊)」(立作太郎。~昭和17年)。
"	"	〔書〕「戦時国際法講義(第一・二・三・四巻)」(信夫淳平)。
"	"	〔書〕「国際裁判の本質」(横田喜三郎)。
"	"	〔書〕「支那事変国際法論」(立作太郎)。
"	"	〔書〕「国際私法」(江川英文)。
"	"	〔書〕「改訂国際私法論」(河辺久雄)。
"	"	〔書〕「本邦通商政策条約史概論」(川島信太郎)。
"	"	〔書〕「コンピュンニューの今昔1915~1940年(休戦条約の比較)」。
"	"	〔書〕「霞ケ関青書 — 枢軸外交をめぐる — 」(宮本太郎)。
"	"	〔書〕「外交史」(清沢冽)。
"	"	〔書〕「政府公表集対外関係」(情報局。~昭和18年)。
"	"	〔書〕「世界大戦と外交」(木村鋭市)。
"	"	〔書〕「支那における租界の研究」(植田捷雄)。
"	"	〔書〕「委任統治の本質」(田岡良一)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「米国極東政策史」(グリス・ウォルト・柴田賢一)。
〃	〃	〔書〕「独乙外交政策」(ローリンクホーフェン・小松敏男訳)。
〃	〃	〔書〕「極東国際関係史」(モース他・浅野晃一他)。
〃	〃	〔書〕「日露樺太外交」(太田三郎)。
〃	〃	〔書〕「支那制覇戦と太平洋(上・下)」(カントロ・ヴィッチ・広島定吉訳)。
〃	〃	〔書〕「国防心理学」(小保内虎夫・豊原恒男他)。
〃	〃	〔書〕「アメリカの戦争力」(打村鉦三)。
〃	〃	〔書〕「亜米利加と戦争」(バウル・シエフアー他)。 (戦時科学研究会訳編)
〃	〃	〔書〕「ソ聯より観たる独逸占領地域の状況(翻訳)」(東亜研究所)。
〃	〃	〔書〕「国防保安法」(寺沢貫一)。
〃	〃	〔書〕「国防哲学」(養田胸喜)。
〃	〃	〔書〕「世界最終戦論」(石原莞爾)。
〃	〃	〔書〕「戦争と文化」(森戸辰男)。
〃	〃	〔書〕「資源戦争」(ワルター・パール)。 (岩田孝三訳)
〃	〃	〔書〕「刑事裁判例(上中下)」(司法研修所)。
〃	〃	〔書〕「改正刑法仮案とナチス刑法綱領」(牧野英一)。
〃	〃	〔書〕「満洲国刑法・刑訴法大綱(二冊)」(市之瀬渉)。
〃	〃	〔書〕「日本検察法論 上・中巻」(佐々波与佐次郎)。
〃	〃	〔書〕「刑事倫理学の研究」(佐々木英夫)。
〃	〃	〔書〕「文化と犯罪の性格」(金子準二)。
〃	〃	〔書〕「新監獄学」(正木亮)。
〃	〃	〔書〕「改訂民法概説」(三淵忠彦)。
〃	〃	〔書〕「民法総則新論」(岩田新)。
〃	〃	〔書〕「改訂民法総論」(穂積重遠)。
〃	〃	〔書〕「綜合民法要論」(沼義雄)。
〃	〃	〔書〕「物権法論」(石田文次郎)。
〃	〃	〔書〕「新訂民法概論(物権法)」(遊佐慶夫)。
〃	〃	〔書〕「債権各論(二巻)」(末川博)。
〃	〃	〔書〕「身分法の総則的課題」(中川善之助)。
〃	〃	〔書〕「日本親子法論」(角田幸吉)。
〃	〃	〔書〕「民事訴訟法論(第一編～五編)二冊」(前野順一)。
〃	〃	〔書〕「満洲国策会社法論」(高田源清)。
〃	〃	〔書〕「商行為法」(竹田 省)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「商法体系(海商編)」馬場正利)。
"	"	〔書〕「船荷証券法及船舶担保法の研究」(大橋光雄)。
"	"	〔書〕「ハーゲン独逸海上保険法」(加藤由作)。
"	"	〔書〕「海上保険・其の理論と実際」(フレデック・テンブルマン・葛城照三訳)。
"	"	〔書〕「戦時保険に関する資料」(簡易保険局)。
"	"	〔書〕「手形法小切手法論」(納富義光)。
"	"	〔書〕「財政学原理」(青木得三)。
"	"	〔書〕「国家財政と国民経済」(青木得三・他)。
"	"	〔書〕「増税案ニ依ル税率一覧表」(主税局)。
"	"	〔書〕「本邦税制改正後の実施状況並に 欧米各国戦時租税増徴状況」(松隅主税局長)。
"	"	〔書〕「租税ニ関スル参考計表」(主税局)。
"	"	〔書〕「出納官吏弁償責任釈義」(木村精一)。
"	"	〔書〕「工業金融」(栗橋起夫)。
"	"	〔書〕「銀行職能論」(森川太郎)。
"	"	〔書〕「全訳ワーゲマン貨幣理論」(青木孝義訳)。
"	"	〔書〕「軍票論」(今村忠男)。
"	"	〔書〕「一般社会学提要」(パレート・姫岡勤)。
"	"	〔書〕「農村物価調査報告(昭12~昭18)(四冊)」。(帝国農会・~昭和19年)。
"	"	〔書〕「社会事業史」(藤井萬喜太)。
"	"	〔書〕「紀元二千六百年記念 北海道社会事業団体誌」(野村琢民)。
"	"	〔書〕「華北ニ於ケル社会事業概観(華北社会事業協議会)。
"	"	〔書〕「興亜厚生大会誌」(興亜厚生大会事務局)。
"	"	〔書〕「秘物価問題官民懇談会 第五分科会 議事速記録(1)」(日本経済連盟)。
"	"	〔書〕「断種法」(藤本直)。
"	"	〔書〕「優生結婚と優生断種」(青木延春)。
"	"	〔書〕「方面事業要覧」(東京府学務部社会課)。
"	"	〔書〕「福島県方面委員執務資料」(福島県)。
"	"	〔書〕「我国の性病現状と対策」(安藤政吉)。
"	"	〔書〕「国民栄養を語る」(原徹一)。
"	"	〔書〕「児童保育施設研究第一回概況報告」(社会事業所)。
"	"	〔書〕「実践 季節保育所」(根岸早苗)。
"	"	〔書〕「報知七一年」(青木武雄)。
"	"	〔書〕「働くものから見るものへ」(西田幾多郎)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「東山時代に於ける一晋紳の生活」(原勝郎)。
〃	〃	〔書〕「 ^{シロコゴルフ} 北方ツングースの社会構成」(川久保悌郎・田中克己訳)。
〃	〃	〔書〕「日本美術史研究(浜田耕作)。
〃	〃	〔書〕「文様化・志おり完」(河原展晃洞)。
〃	〃	〔書〕「人類生活史」(湯村貞太郎)。
〃	〃	〔書〕「石神問答」(柳田国男)。
〃	〃	〔書〕「大和の古墳墓」(末永雅雄)。
〃	〃	〔書〕「独逸社会政策と労働戦線」(大原社会問題研究所編)。
〃	〃	〔書〕「日本の労務管理」(広崎貞八郎)。
〃	〃	〔書〕「最低賃金の基礎的研究」(安藤政吉)。
〃	〃	〔書〕「労務者標準生活—勤労者一般に就いて—」(榊原平八)。
〃	〃	〔書〕「労務者厚生と環境整備」(坂本金吾)。
〃	〃	〔書〕「婦人労働に関する文献抄録(欧文)」(労働科学研究所)。
〃	〃	〔書〕「本邦工業論」(工業新聞社)。
〃	〃	〔書〕「愛知県特殊産業の由来(上巻)」(愛知県産業教育振興会)。
〃	〃	〔書〕「国民と技術」(日本技術協会編)。
〃	〃	〔書〕「技術の哲学」(エフ・デッサウエル・永山広志訳)。
〃	〃	〔書〕「技術論」(ヴェー・ゾムバルト・阿閉吉男訳)。
〃	〃	〔書〕「科学史を飾る人々」(ハーヴェーギブスン・川崎備寛)。
〃	〃	〔書〕「科学史の哲学」(下村寅太郎)。
〃	〃	〔書〕「生活に科学を求めて」(富塚清)。
〃	〃	〔書〕「塵芥の回生年額壹億五千萬円」(大日本資源回生報国会)。
〃	〃	〔書〕「再分割途上の世界資源」(大阪毎日新聞社)。
〃	〃	〔書〕「燃料国策研究会会報合輯」(長谷川尚一)。
〃	〃	〔書〕「別子開坑二百五十年史話」(平塚正俊編)。
〃	〃	〔書〕「工業機械発達史」(奥村正一)。
〃	〃	〔書〕「日本機械工業の基礎構造」(豊崎稔)。
〃	〃	〔書〕「世界の屑鉄」(三宅運秀)。
〃	〃	〔書〕「日本綿業発達史」(三瓶孝子)。
〃	〃	〔書〕「大阪薬種業誌(三・四巻)」。
〃	〃	〔書〕「和紙風土記」(寿岳文章)。
〃	〃	〔書〕「紡績界二千六百人史」(日本紡績通信社)。
〃	〃	〔書〕「茶業経営調査資料」(埼玉県茶業研究所)。
〃	〃	〔書〕「河動堰」(日笠育夫)。

西 暦	年 代	項 目
1941	(昭和16年)	〔書〕「堰堤の設計と実例」(月岡正三)。
"	"	〔書〕「日本気象学史」(荒川秀俊)。
"	"	〔書〕「農に生きる」(岡村精次)。
"	"	〔書〕「日本農業の統制機構」(勝間田精一)。
"	"	〔書〕「農業増産遂行研究会速記録」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「昭和十四・十五年度戦時農林政策」(農林大臣官房・調査課)。
"	"	〔書〕「独乙の新資材及農民政策」(カール・ドルン・池田林儀訳)。
"	"	〔書〕「 ^{W・クラウス} ナチス農業政策」(玖仁郷繁・渋川貞樹共訳)。
"	"	〔書〕「昭和十六・十七年度重要農産物生産計画概要(謄)」(帝国農会。～昭和17年)。
"	"	〔書〕「園芸農産物要覧」(農林省農政局)。
"	"	〔書〕「水害状況及対策」(茨城県農務課)。
"	"	〔書〕「桑樹凍害後ノ収獲量ニ関スル調査成績」(農業保険協会)。
"	"	〔書〕「中支農業水利実態調査書」(興亜院)。
"	"	〔書〕「血と土」(^{R・W・ダレエ} 黒田礼二訳)。
"	"	〔書〕「農業増産遂行研究会速記録」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「戦時下に於ける農業技術の再編成」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「農業機械化の基本問題」(吉岡金市)。
"	"	〔書〕「農業労働論」(大槻正男)。
"	"	〔書〕「殷振産業地帯に於ける農村労働事情調査(其ノ二)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「石川県労力需給調整状況」(石川県)。
"	"	〔書〕「小作権」(花島得二)。
"	"	〔書〕「林業教育(一～四号)」(富田重明)。
"	"	〔書〕「日本牧野法」(菅原源寿)。
"	"	〔書〕「森林組合論」(島田綿蔵)。
"	"	〔書〕「かし, くす文献目録」(熊本営林局)。

西 暦	年 代	項 目
1942	昭和17年	
"	初めごろ	〔日〕 仏印当局、元第三高等学校教師原国籍露西亜人プレストネルを日本より招聘、仏印政庁内に日本語講座を開設。
"	1・1	塩通帳制配給実施。ガス使用量割当制実施。
"	"	連合国（26か国）、ワシントンで連合国共同宣言調印（日独との単独不講和、大西洋憲章の原則確認）。
"	"	〔日〕 満州国、「新学制」発布。
"	"	〔書〕「日本語」（第二巻第一号）。 （同上）「巻頭言 国語奉公」（大岡保三）。 （"）「日本語の語法問題」（佐久間鼎）。 （"）「華北に於ける日本語教育について」（柯政和）。 （"）「日本語教授法序説」（山口喜一郎）。 （"）「日本語教室 日本語教室漫言（一）」（大出正篤）。 （"）「日本語教室 直接法による日本語の教授を参観して」（筧五百里）。 （"）「日本語教室 台湾に於ける国語教育」（金丸四郎）。 （"）「支那のキリスト教に関する文献（二）」（岩村忍）。 （"）「日本文化の東亜進出に就いて」（久松潜一）。 （"）「進出日本語の後続性」（土岐善麿）。 （"）「日本文化の大陸普及について」（玉井茂）。 （"）「文化戦士に対する銃後施設」（湯山清）。 （"）「反省を要する事ども」（大西雅雄）。 （"）「教材 日本の山」（逗子八郎）。 （"）「中国日本語研究文献目録（二）」（菊冲徳平）。 （"）「随筆 日本の年中行事（五）」（三村清三郎）。 （"）「随筆 言葉談義（二）」（各務虎雄）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第四巻第一号、「日本語共栄圏」）。 （同上）「太平洋の共通語」（松宮一也）。 （"）「日本語共栄圏確立の基礎」（興水実）。 （"）「共栄圏と言語政策」（大西雅雄）。 （"）「世界言語分布概況」（乾輝雄）。 （"）「一つの想像」（金原省吾）。 （"）「コトバ情報（石黒修編）」。 （"）「文法教育について」（藤原与一）。 （"）「昭和十六年の国語教育界」（大久保正太郎）。

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>(同上)「杉並区国語研究会の記」(宮下清久)。</p> <p>(「」)「国語教室の言語学(十)」(石黒魯平)。</p> <p>(「」)「共同研究 単語分類について」(提案 三宅武郎)。</p> <p>(「」)「機能範疇に徹底すること」(堀重影)。</p> <p>(「」)「建設への協力」(小林智賀平)。</p> <p>(「」)「単語分類の態度」(浅野信)。</p> <p>(「」)「文の分節と単語分類」(三尾砂)。</p> <p>(「」)「疑問を二つ三つ」(石黒魯平)。</p>
"	1・2	日本軍、マニラ占領。
"	"	閣議、毎月八日を「大詔奉戴日」とすることを決定(興亜奉公日は廃止)。
"	"	「大詔奉戴日設定ニ関スル件」〔情報局発表〕。
"	1・3	蘭印に、米英蘭豪〔ABDA〕連合司令部(ウェイベル將軍指揮)設置。
"	"	〔日〕比島行政官、教育に関する訓令の中で、「日本語ノ普及ヲ図ルト共ニ英語ノ使用ハ漸ヲ追ヒ之ヲ廃止スルコト」とした。
"	1・6	陸海軍機1000機、東京上空で示威飛行。
"	1・8	大蔵省、大東亜戦争国庫債券を発行。
"	1・12	〔日〕日本語教授法研究会(～3月5日。主催青年文化協会日本語科研究会委員会、定員20名、資格、国民学校、中等高等教員有資格者)。
"	"	米・メキシコ、共同防衛委員会設置。
"	1・15	リオデジャネイロで米州21か国外相会議開く(～1月28日。西半球防衛を協議。枢軸国との断交、日本非難案を決議)。
"	1・16	大日本翼賛壮年団結成。
"	1・18	ベルリンで、「日独伊軍事協定」調印(東経70°から米国西沿岸を日本、東経70°から米国沿岸を独伊の作戦地域と決定)。
"	1・19	〔日〕泰国文部省・国際学友会間(泰国文部次官ブラ・チラナサーン・ウイスワカーム、東京国際学友会矢田部安吉)で同日附「日本泰国間学生交換協定」締結、同時に「泰国学生招致に関する協定」も成立。
"	"	〔日〕日本語教育講習会(～3月6日。毎週月金3回、午後6時～9時。主催日本語教育振興会、後援文部省、会場東亜学校)。
"	"	〔日〕「日本語共栄圏の設計先ず邦語を整理」(石黒修、「読売新聞」1月19日号)。
"	1・20	ナチ指導者(ハイドリヒ・アイヒマンら)、「ユダヤ人問題最終解決」のため1100万の欧州ユダヤ人殺害を決定(ヴァンゼー会議)。
"	"	〔書〕「国語文化講座 第六篇 国語進出篇」(朝日新聞社。358P)。

西 暦	年 代	項 目
1942	1・23	日本軍、ビスマルク諸島のラバウルに上陸。
"	1・24	〔教〕 文部省に国民練成所を設置〔勅令〕（中等諸学校の教員に学寮制で練成を行う）。
"	1・25	泰、対米英宣戦布告。
"		オーストラリア、日本軍の接近に備えて総動員開始。
"	1・26	〔日〕「大東亜戦争と語学」（中野登美雄、「読売新聞」1月26日号）。
"	1・27	〔日〕「研究の秋到来 南方の言語について」（泉井久之助、「東朝」1月27、28、29日号）。
"	1・29	英・ソ・イラン3国同盟条約調印（英ソ、イランの主権尊重に同意）。
"	1・	〔書〕「台湾教育」（第四七四号）。
"		〔同上〕「公学校用国語読本巻十の教材研究（二）」（北二師附国語読方研究部）。
"	"	〔書〕「大皇国民の練成」（檜崎武）。
"	"	〔書〕「 ^{開隆堂} 簡易英英辞典」（沢村寅次郎編、開隆堂。「Kairyudd's A New Simplified English-English Dictionary」）。
"	"	〔書〕「大南洋地名辞典 第一・三・四巻」（～昭和18年12月。三冊。南洋経済研究所編、丸善）。
"	2・1	味噌醤油切符制配給実施。衣料に点数切符制実施。
"	"	〔書〕「日本語」（第二巻第二号）。
		（同上）「巻頭言 日本語の前線と銃後」（西尾実）。
		（"）「日本語教室特輯 日本語教授に於ける読みの基本工作」（松宮弥平）。
		（"）「日本語教室特輯 日本語教室漫言（二）」（大出正篤）。
		（"）「日本語教室特輯 台湾に於ける国語教授の実際問題」（加藤春城）。
		（"）「日本語教室特輯 日語教授の問題二三」（古川原）。
		（"）「日本語教室特輯 隣邦留学生に対する日本語教授」（有賀憲三）。
		（"）「日本語教室特輯 聴方指導の実際（一）」（前田熙胤）。
		（"）「日本語教室特輯 初級中学日語教授細目」（深沢泉）。
		（"）「日本語教室特輯 日本語教育に関する感想二つ」（堀敏夫）。
		（"）「支那のキリスト教に関する文献（三）」（岩村忍）。
		（"）「日常生活の雄弁」（内藤濯）。

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>(同上)「台湾の国語教育参観記」(春山行夫)。 (#)「誤り易き発音に関する調査(一)」(来島眷吾)。 (#)「中国日本語研究文献目録(三)」(菊沖徳平)。 (#)「随筆 日本の年中行事(六)」(三村清三郎)。 (#)「随筆 言葉談義(三)」(各務虎雄)。</p>
"	2・1	<p>〔書〕「コトバ」(第四巻第二号,「国語文化の深化と拡大」)。 (同上)「大東亜共栄圏の建設と国語政策」(保科孝一)。 (#)「国語文化の深化と拡大」(石井庄司)。 (#)「理解の成立 — 国語文化の他民族に於ける — 」(名取堯)。 (#)「仏印の言語政策」(松原秀治)。 (#)「犬・目・足・首」(魚返善雄)。 (#)「コトバ情報」(石黒修編)。 (#)「国語指導実践記録」(伊佐治光雄)。 (#)「読者通信」(馬場正男・小沼精治)。 (#)「全日本アクセント概説 — 北海道篇」(平山輝男)。 (#)「国語教室の言語学(十一)」(石黒魯平)。 (#)「三宅氏の「単語分類について」を読んで」(松尾捨次郎)。 (#)「スラヴ語に於ける文構成」(乾輝雄)。 (#)「語法の基本問題」(熊沢龍)。 (#)「単語分類について再説」(三宅武郎)。</p>
"	2・2	<p>愛国,国防婦人会等を統合,大日本婦人会発会式(10月1日「日本婦人」創刊)。</p>
"	2・4	<p>英軍,カイロ王宮を包囲して親枢軸の宮廷派内閣の罷免を要求,ワフド党ナッハース内閣を発足させる。</p>
"	2・5	<p>日本新聞会設立。</p>
"	2・11	<p>日本少国民文化協会発会式。</p>
"	2・12	<p>〔日〕日本語教授懇談会委員会。</p>
"	"	<p>〔日〕「大東亜教育体制確立に関する建議案及びそれについての永井柳太郎の趣旨弁明」(衆議院)。</p>
"	2・13	<p>〔日〕「大東亜留日学生会館建設に関する建議案」(衆議院)。</p>
"	2・15	<p>シンガポールの英軍降伏。</p>
"	2・18	<p>三木清・清水幾太郎・中島健蔵ら陸軍報道班員として徴用され,この日字品を出帆,南方へ赴く(～12月)。</p>
"	"	<p>閣議,「翼賛選挙貫徹運動基本要項」を決定。</p>
"	"	<p>大東亜戦争戦捷第一次祝賀国民大会開催。酒・菓子・あずきなど特配。</p>

西 暦	年 代	項 目
1942	2・19	〔書〕「ハナシコトバ学習指導書 下巻」(文部省編, 日本語教育振興会)。
"	2・20	〔日〕 北京日本語教育講習会(～26日。主催華北日本語教育研究所, 講師倉野憲司「国語問題について」, 長沼直兄「日本語教授法概論」ほか)。
"	"	興亜同盟理事会。
"	"	南方開発金庫法〔法律〕公布。3月30日同金庫設立(資本金1億円)。
"	"	「食糧管理法」〔法律第四十号, 公布昭和十七年二月二十一日〕。
"	"	〔書〕「文化読本さくら」(文部省編, 日本語教育振興会)。
"	2・23	翼賛政治体制協議会成立(会長阿部信行)。4月6日までに推薦候補者467人を決定発表。
"	2・25	〔日〕 張家口日本語教育講習会(～3月3日。主催蒙疆連絡部, 講師倉野憲司「国語問題について」, 長沼言兄「日本語教授法概論」)。
"	2・	〔日〕 台湾国語研究会, 研究委員会総会を開催。
"	"	〔日〕 英士日語学校(在ショロン)開校。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四七五号)。 (同上)「公学校用国語読本巻十の教材研究(三)」(北二師附国語研究部)。
"	"	〔書〕「国語の台湾」(第三号)。 (同上)「国語アクセント初歩(其三)」(川見駒太郎)。 (「」)「敬語の使ひ方」(木村万寿夫)。 (「」)「最近台湾の国語・国語教育に関する研究文献目録稿」(斎藤義七郎)。 (「」)「幼年時代に国語を教へる方法はないであろうか」(小林準一)。 (「」)「幼児語と家庭生活」(川見駒太郎)。
"	"	〔書〕「華北日本語」(華北日本語教育研究所)創刊。
"	"	〔書〕「最新日本語教授法精義」(工藤哲四郎, 帝教書房)。
"	"	〔書〕「日・泰・馬來・英 対照日常会話辞典」(平岡邦三編, 銀座書院)。
"	"	〔書〕「日本文法辞典 文語編」(浅野信著, 八弘書店)。
"	"	〔書〕「もっとも分り易き漢和大辞典」(山本信哉監修, 柴田隆編, 大阪・日本出版社)。

西 暦	年 代	項 目
1942	3・1	日本軍、ジャワ島へ上陸。
"	"	<p>〔書〕「日本語」（第二巻第三号）</p> <p>（同上）「巻頭言 神としての言葉」（佐藤春夫）。</p> <p>（"）「日本語のむづかしさ」（安藤正次）。</p> <p>（"）「自国語と外国語 — 日本語教授法その二」（山口喜一郎）。</p> <p>（"）「醒睡笑と女房詞・東国方言」（岩淵悦太郎）。</p> <p>（"）「蒙古人教育の実情（一）」（関野房夫）。</p> <p>（"）「台湾に於て使用される国語の複雑性」（川見駒太郎）。</p> <p>（"）「日本語教育と日本文化」（岡本千万太郎）。</p> <p>（"）「日本語教室 四分科中の 一分科として 聴方指導の実際（二）」（前田熙胤）。</p> <p>（"）「支那のキリスト教に関する文献（四）」（岩村忍）。</p> <p>（"）「誤り易き発音に関する調査（二）」（来島脊吾）。</p> <p>（"）「中国日本語研究文献目録（五）」（菊岡徳平）。</p> <p>（"）「教材 新しき日本文化」（岸田国土）。</p> <p>（"）「随筆 日本の年中行事（七）」（三村清三郎）。</p> <p>（"）「随筆 言葉談義（四）」（各務虎雄）。</p>
"	"	<p>〔書〕「コトバ」（第四巻第三号，「言語理論・国語教授法」）。</p> <p>（同上）「音韻学と音声学」（小林智賀平）。</p> <p>（"）「自国語の文法教育と外国語の文法教育」（岡本千万太郎）。</p> <p>（"）「言語理論」（石黒魯平）。</p> <p>（"）「全日本アクセント概説（三）」（平山輝男）。</p> <p>（"）「コトバ情報（石黒修編）」。</p> <p>（"）「国語教育と指導法」（秋田喜三郎）。</p> <p>（"）「伊佐治氏の「かぐやひめ」指導記録」（西原慶一）。</p> <p>（"）「表現させる国語教育」（白井勇）。</p> <p>（"）「強化すべきもの」（越阪部丈次）。</p> <p>（"）「国語研究会記録」（南多摩郡教育会）。</p> <p>（"）「単語分類について三宅氏に答ふ」（堀重彰）。</p> <p>（"）「同人の頁 金原省吾，今泉忠義，乾輝雄，三宅武郎，石井庄司，石黒修，熊沢龍，三尾砂，名取堯，湯山清，百田宗治，菊沢季生，松原秀治」。</p>
"	3 2	〔日〕 共栄圏内日本語問題懇談会（教育研究同志会）開催。
"	3・3	〔国〕 国語審議会第五回総会，「標準漢字表案」説明。

西 暦	年 代	項 目
1942	3・5	東京に初の空襲警報発令。
"	3・6	海軍省、特殊潜航艇で真珠湾に進攻。戦死した9軍神発表。5月22日陸軍省、空の軍神加藤建夫隼戦隊隊長戦死発表。
"	3・7	大本営・政府連絡会議、「今後執るべき戦争指導の大綱」決定。進攻作戦一段落後の方針を決める。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会主催日本語講座修了式（53名に終了証書を授与）。
"	"	「敵色の根源は英語だ」（武藤貞一、「報知」3月7日号）。
"	3・8	日本軍、ラングーンを占領。ニューギニアのラエ・サラモアに上陸。
"	3・9	ジャワの蘭印軍降伏。
"		インドネシアのスカルノ、「民衆総結集運動」（ブートラ）結成。
"	3・10	〔書〕「国民礼法初等科第三学年」（帝国教育会出版部）。
"	3・初	〔日〕 奉天日本語教授研究同好会結成。
"	3・14	〔日〕 一九四二年三月十四日第四七五号法令 第一条 日本語ヲ一九三四年五月二十五日法令規定ノ条件ニヨリ印度支那ニ於ケル大学入学資格試験選択科目中ニ附加ス（仏印文部当局、法令により、日本語を河内大学入学資格試験選選択科目の中に附加、又小学校中学においても将来希望者が増加すれば、正規の科目として学科目の中に編成する用意をすることになった）。
"	"	〔日〕 日本語教授開始ニ関スル一九四二年三月十四日附総督令 第一条 印度支那ニ於テ日本語ノ教授ヲ開始ス 本授業ヲ分チ左ノ三トス 一、初等級第一学年、修了後ハ実用学力證書ヲ授与ス（混成二等級） 二、初級第二学年修了後ハ第一級修了免状ヲ授与ス（"），三、上級（暫定）、修了後ハ第二級修了免状ヲ授与ス（"） 第二条 日本語講座ハ「ハノイ」及「サイゴン」ニ開キ更ニ必要ニ応シテ追テ総督令ニヨリ指定セラルル諸市ニ開ク 第三条 講座ノ運用並時間割組織及科目ハ実用学力證書ニ関シテハ地方行政長官、第一級第二級ニ関シテハ文部局長之ヲ定ム 経費ハ講座ノ開カル州ノ地方予算ノ負担トス但シ「トンキン」州ニ開カル講座ニ関シテハ中央予算ノ負担トス 第四条 日本語講座ハ教授並復習教師之ヲ担当ス 此等教授並復習教師ハ適当ナル人物又ハ第一級第二級修了免状所有者中ヨリ選フモノトス 右教授並復習教師ハ官等俸給、講座給料又ハ左記ノ如キ規定ノ時間給ヲ給セラル 教授、上級一時間八比弗（第二級） 初級一時間五比弗（第一級） 復習教師、上級一時間五比弗、初級一時間三比弗 第五条 一九二九年十一月二十五日附総督令ノ規定ニ拠リ日本語ニ関シ実用学力證書、第一級及第二級修了免状ヲ授与ス 試験期日試験様式及褒賞授与ハ前記総督令ニ定メラレタル東洋諸国語ニ関スルト同シ 第六条 印度支那総督府総務長官、交趾支那、「トンキン」州理事長官並文部局長ハ夫々其ノ職権ノ範囲内ニ於テ本令ノ施行ニ任ス（完）

西 暦	年 代	項 目
1942	3・19	日本画家報国会結成（全国の日本画家2500人による）。
"	3・20	〔書〕「支那問題辞典」（中央公論社）。
"	"	〔書〕「ガクカウ」（日本語教育振興会編，支那学童用絵本）。
"	"	〔書〕「ヨイコドモ」（日本語教育振興会編，支那学童用絵本）。
"	3・21	出版文化協会，4月より全出版物の発行承認制実施を決定。
"	"	「米中5億ドル借款協定」調印。
"	3・23	〔国〕 文部省官制中改正（「第八条ノ三 文部省ニ国語調査官専任四人ヲ置ク奏任トス国語ノ調査ヲ掌ル 第八条ノ四 文部省ニ国語調査官補専任四人ヲ置ク判任トス国語調査官ノ事務ヲ助ク」）。
"	3・25	〔日〕 南京日語研究会開催（南京五代山小学校）。
"	"	英・インド独立会談開始。4月12日決裂。8月8日全インド国民会議派，即時独立を拒否されれば不服従運動開始を決議。8月9日ガンディー・ネールら逮捕。
"	3・27	米参謀本部，北フランス上陸作戦計画〔マーシャル計画〕作成。
"	"	〔日〕「シャスル・ローバ」日本語講習会（在西貢）開設。
"	3・31	〔書〕「日本語教科書 卷三」（国際学友会）。
"	3・	〔日〕 オッタマ日本語学校開設（～20年4月。日本軍進駐後私立日本語学校として開設，故オッタマ僧正令妹ドインゾー女史経営，ドインゾー女子，軍・国立名誉校長）。
"	"	〔日〕 サイゴンでは，官報で，3月26日からの一般市民の日本語講習を布告（応募者195名，官吏85，軍人75名）。
"	"	〔日〕 盤谷日本語学校第一回卒業式。
"	"	英語教授研究所の名称を語学研究所に変更，機関誌を「語学教育」と改題。
"	"	陸海軍，それぞれ戦争記録画制作のため藤田嗣治，中村研一，宮本三郎，安田靫彦，川端龍子，福田豊四郎の南方各地派遣を決定。4月～5月出発。
"	"	フィリピンで抗日人民軍（フクバラハップ）結成。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四七六号）。
"	"	（同上）「公学校用国語読本卷十の教材研究（四）」（北二師附国語読方研究部）。
"	"	（"）「中等国語教育と戦記物語」（秋月豊文）。
"	"	〔書〕「自修漢和新辞典」（後藤朝太郎編，東雲堂）。

西 暦	年 代	項 目
1942	3・	〔書〕「支那物産綜覧」(山崎百治著, 栗田書店)。
"	"	〔書〕「独逸語新語集」(三省堂編輯所編, 三省堂)。
"	"	〔書〕「コンサイス 馬來語新辞典」(宮武正道著, 愛国新聞社出版部。 「Kamoes Baroe Bahasa Indonesia-Nippon」)。
"	"	〔書〕「経綸月刊 第2巻3期」(上海・経綸出版社, 月刊。民国卅一年三月)。
"	4・1	〔書〕「日本語」(第二巻第四号)。 (同上)「巻頭言 国語取扱ひの心構へ」(松村 霏)。 (「」)「日本語と東亞諸言語との交流」(小倉進平)。 (「」)「外国語教習の可能である根拠 — 日本語教授法序説 その三」(山口喜一郎)。 (「」)「日本語をひろめるために考ふべき若干の問題」(志田延義)。 (「」)「蒙古人教育の実情(二)」(関野房夫)。 (「」)「 ^{台湾に於て} 国語の複雑性(二)」(川見駒太郎)。 (「」)「誤り易き発音に関する調査(三)」(来島譽吾)。 (「」)「教材 台湾からの手紙」(真杉静枝)。 (「」)「日本語教室 日本語を教へてみて — 中国人とアクセント」 (鈴木正蔵)。 (「」)「日本語教室 ある日の日本語教室(一)」(篠原利逸)。 (「」)「日本語教室 日本語教授の実際」(大本克己)。 (「」)「随筆 日本の年中行事(八)」(三村清三郎)。 (「」)「随筆 言葉談義(五)」(各務虎雄)。
"	"	〔書〕「コトバ」(第四巻第四号, 「国語教室の反省」)。 (同上)「言ひきらぬ文」(波多野完治)。 (「」)「説明と理解」(名取堯)。 (「」)「コトバ情報」(石黒修編)。 (「」)「基本漢字の立場より新常用漢字表を評す」(大西雅雄)。 (「」)「読めぬ子供を指導した体験を語る」(三重県師範附属校向山忠夫)。 (「」)「言語の行動化について」(東京府女子師附属校泉節二)。 (「」)「素読精神の復活」(愛知県第一師範附属校芥子川律治)。 (「」)「指導の徹底化について」(成蹊学園飛田多喜雄)。 (「」)「国民学校一ケ年の反省」(東京桃井第二校上飯坂好実)。 (「」)「国民学校一ケ年を省みて」(東京高等師範附属校花田哲幸)。 (「」)「国民学校一ケ年を省みて」(東京市視学志波末吉)。

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>(同上)「日本語教授の反省」(興水実)。</p> <p>(#)「書評 三尾砂著「話言葉の文法」。</p> <p>(#)「同人の頁 乾輝雄, 興水実, 金原省吾, 原勝, 魚返善雄, 大西雅雄, 石黒修, 石井庄司, 名取堯, 平山輝雄, 湯山清」。</p>
"	4・2	神・仏・基・回の宗教団体, 興亜宗教同盟結成。6月28日, 第一回興亜宗教協力会議開催。
"	4・3	〔日〕 南京日語研究会設立。
"	"	中共中央, 毛沢東の「党風・学風・作風」の三風整頓報告と整風文献学習を呼びかける(整風運動開始)。
"	4・5	海軍機動部隊, インド洋に進出し, コロンボを急襲, 英巡洋艦2隻を撃沈。4月9日ツリコマリを空襲, 英空母を撃沈。
"	4・6	〔書〕「日本語読本 巻二」(日本語教育振興会)。
"	4・7	〔日〕 共栄圏の国語対策座談会(国策研究会)開催。
"	4・8	チャーチル・米大統領特使ホプキンス, 第2戦線問題で会談(～4月17日) 米案の「ボレロ作戦」('34年春の北フランス上陸計画)採用に同意。
"	4・中	〔日〕 ジャワ軍政監教育部では, 「ニッポン語教科書 巻一・巻二」を刊行(別に「ウタノホン」も作製, 日本語の普及に努める)。
"	4・15	〔書〕「馬來語大辞典」(南方調査室監修, 武富正一著, 旺文社)。
"	4・18	航空母艦発進の米陸軍機116機, 東京・名古屋・神戸などを初空襲, 華中の基地へ着陸, 1機は日本軍占領地に不時着。
"	4・19	マッカーサー, 西南太平洋連合軍司令官に就任。
"	4・24	閣議, 昭和17年度物資動員計画を決定。
"	4・29	〔日〕 バタビヤに「チハヤ塾」を創設(良家の子弟50名に日本語教育を開始)。
"	4・30	第二十一回総選挙(翼賛選挙)。立候補者1079人のうち, 翼賛政治体制協議会推薦者当選381人, 非推薦者当選85人。
"	"	大本営, 華中の航空基地覆滅のため, 浙贛作戦を支那派遣軍に命令。5月15日作戦開始。7月1日浙贛線打通。
"	4・	〔日〕 南京日語研究会例会。
"	"	〔国〕「外国地名人名ノ呼称並ニ表記ニ関スル協議会」設置。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四七七号)。

西 暦	年 代	項 目
1942		(同上)「子規及日本俳句の創業」(阿川晋)。 (#)「言葉の教育(一)」(門司勇)。
"	4・	〔書〕「図解英日 航空技術用語便覧」(村尾力太郎編, 開隆社)。 「Handbook Encyclopedia of Aeronautical Engineering」)。
"	"	〔書〕「新英英辞典」(A・S・ホーンビー, E・V・ゲーテンビー, A・H・ウェークフィールド共編, 開拓社。「Idiomatic and Syntactic English Dictionary」)。
"	"	〔書〕「大東亜第1巻1~4期」(上海・大東亜雑誌社。月刊。民国卅一年四月~七月)。
"	5・ 1	日本軍, ビルマのマンドレー占領(南方進攻作戦一段落)。
"	"	〔日〕 西貢日本語学校開校。
"	"	〔書〕「日本語」(第二巻第五号)。 (同上)「巻頭言 現実を直視せよ」(長沼直兄)。 (#)「南洋語と日本語」(小倉進平)。 (#)「南方の諸言語 タイ族の言語」(佐藤致孝)。 (#)「南方の諸言語 東洋に於ける和蘭語の普及」(朝倉純孝)。 (#)「南方の諸言語 安南語及びモン・クメル語」(松本信広)。 (#)「南方の諸言語 ビルマ語」(矢崎源九郎)。 (#)「日本語の南進と対応策の急務」(大出正篤)。 (#)「民族力の発動について(一)」(徳沢龍潭)。 (#)「共栄圏文化の拡充と日本語」(松宮一也)。 (#)「満洲国の国語政策と日本語の地位」(森田孝)。 (#)「日本語教授法参考文献紹介」(長沼直兄)。 (#)「南方建設と日本語普及(従軍記者座談会)」(石橋恆喜, 高原四郎, 清水弥太郎, 成田穰, 大屋久寿雄, 俣野博夫, 柞田龍善, 小山東一)。 (#)「南方共栄圏参考文献目録(一) ^{ビルマ} ^{印度} 」(編輯部)。 (#)「書齋 科学技術用語の整備」(鈴木康平)。 (#)「書齋 戦争と日本語」(榎垣実)。 (#)「書齋 星港・蘭貢」(斎藤恵秀)。 (#)「書齋 一対一の言葉」(山口正)。 (#)「教材 自然に親しむ」(深田久弥)。 (#)「日本語教室 ある日の日本語教室(二)」(篠原利逸)。

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>(同上) 「第一回日本語教育講座をかへりみて」。</p> <p>() 「随筆 日本の中行事(九)」(三村清三郎)。</p> <p>() 「随筆 言葉談義(六)」(各務虎雄)。</p>
"	5・1	<p>[書] 「コトバ」(第四巻第五号, 「日本語教授に必要なもの・国語教室の反省(二)」)。</p> <p>(同上) 「筆に任せて」(松尾捨次郎)。</p> <p>() 「小児語の実験報告」(乾輝雄)。</p> <p>() 「日本語教授に必要なもの」(岩沢巖)。</p> <p>() 「日本語教授に必要なこと, 欠けていること」(堀敏夫)。</p> <p>() 「私はどうして日本語を学んだか」(泰国留学生パチョン)。</p> <p>() 「パチョン君と日本語」(興水実)。</p> <p>() 「南方の弁」(松本龍朗)。</p> <p>() 「満洲国の日本語教師として」(前原保)。</p> <p>() 「劇的教材の取扱と言語訓練」(宮川利三郎)。</p> <p>() 「農村児童の発音」(国井恒)。</p> <p>() 「国民学校国語教室の反省」(下山懋)。</p> <p>() 「コトバ情報(石黒修編)」。</p> <p>() 「言語理論(二)」(石黒魯平)。</p> <p>() 「同人の頁 金原省吾, 大西雅雄, 乾輝雄, 今泉忠義, 吉武好孝, 魚返善雄, 原勝, 名取堯, 石黒修, 西原慶一, 興水実」。</p>
"	"	[書] 「東亜文化圏」(青年文化協会東亜文化圏社)第一号創刊。
"	5・2	日・タイ両国大蔵省, 特別円決済に関する協定書交換(円決済圏拡大)。
"	5・4	ジャワでは, 布告第十五号をもって, ジャワ・マヅラの暦を皇紀にすること, 日本の呼称を統一することとなった。
"	5・5	[日] ジャワで, 教師・知識階級を対象とした日本語講習会を開設。270名に日本語を教える。
"	"	大本営, ミッドヴェー島・アリューシャン列島西部の攻略を命令。
"	"	英軍, マダガスカル島に上陸。
"	5・7	マニラ湾のコレヒドール島の米軍降伏。
"	"	珊瑚海海戦(～5月8日), 日・米機動部隊の初の航空戦, 双方空母1隻ずつを失う(この結果, ポートモレスビ攻略作戦一時延期)。
"	"	[書] 「我が闘争 上」(ヒトラー著, 真鍋良一訳。下8・22)。

西 暦	年 代	項 目
1942	5・8	〔日〕 ビルマでは、蘭貢日本語学校の開設を決定。
"	"	〔書〕「日本語のために」（佐久間鼎，厚生閣）。
"	5・12	〔日〕「樺太庁諸学校官制」〔勅令第四百九十号。公布昭和十七年五月十三日〕（「第一条 樺太庁諸学校ハ左ノ如シ 師範学校 大泊中学校 豊原中学校 真岡中学校 敷香中学校 恵須取中学校 豊原高等女学校 大泊高等女学校 真岡高等女学校 泊居高等女学校 工業学校 水産学校 拓殖学校」）。
"	5・13	〔日〕 支那派遣教員第六回錬成（～29日。主催日本語教育振興会，指導興亜院，場所小金井浴恩館，62名）。
"	5・15	閣議，大政翼賛会改組を決定，（各種国民運動を傘下に入れ，町内会・部落会などの指導強化）。
"	"	〔日〕 マレイ軍政部，5月15日から6か月間，昭南軍政本部で日本語講習会を開催（各州から5名，昭南市・ジョホール州は10名。将来各州の中堅となる人物の養成をかねた）。
"	5・18	大本営，南太平洋のニューカレドニア，フィジー，サモア諸島を攻略する米豪遮断作戦の準備を命令。
"	5・20	翼賛政治会結成（会長阿部信行）。翼賛議員同盟は解散。
"	"	〔書〕「日本詩歌の研究」（大江満雄，山雅房）。
"	5・21	〔日〕 日本語教育振興会第十二回理事会。
"	"	〔日〕 大東亜建設審議会，「大東亜建設に処する文教政策」を決定。
"	"	津田事件第一審判決（津田は禁固3か月，岩波は2か月，いずれも執行猶予2か年）。
"	5・26	日本文学報国会創立。
"	"	チャーチル・モロトフ，ロンドンで英ソ20年間同盟条約に調印（戦後の共同行動・領土不獲得・内政不干渉など規定）。
"	5・29	〔日〕 支那派遣教員第六回錬成終了式。
"	"	〔日〕 台湾国語研究会第三部委員会開催（「題目 日本語を南方共栄圏に普及せしむる方策」。出席者17名）。
"	"	モロトフ，ワシントン訪問（～6月1日。ルーズベルトと会談し，年内の第2戦線結成で了解）。
"	5・	〔日〕 南京日本研究会（中国人会員参加）。
"	"	〔日〕 教育座談会（南京日語研究会）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四七八号）

西 暦	年 代	項 目
1942		(同上)「『ヨミカタ』発音考説」(吉原保)。 (#)「読解力と発表力」(井口繁人)。
"	5・	〔書〕「支那経済商業辞典」(小林幾次郎著,大阪屋号書店)。
"	"	〔書〕「ビルマ地名要覧」(東亜研究所編・刊)。
"	"	〔書〕「浙江文化研究第15号」(岡崎囃光編,杭州・浙江文化研究社。 昭和17年5月)。
"	6・ 1	〔日〕ジャカルタ(バタビア)で,6月1日から1か月間,第一回の日本語 講習を行う(全島から選抜,男子400,女子200名の予定に対し,1000 名を突破,うち女子230名,中国人40名が参加した)。
"	"	〔日〕 昭南市では,この日から,「日本語普及週間」を実施。
"	"	〔日〕 ビルマ,軍政部直轄蘭貢日本語学校を開設(～17年8月),同日 開校式を挙行(第一回志願者1067名,入学者543名)。
"	"	〔日〕「ハナシコトバ(上・中・下)」レコード(コロンビアレコード会社 作製)試聴(文部省レコード審査室)。
"	"	〔書〕「日本語」(第二巻第六号) (同上)「巻頭言 国語生活・第一義の問題」(釘本久春)。 (#)「大東亜戦争と世界史の動向 大東亜史の構想」(吉田三郎)。 (#)「大東亜戦争と世界史の動向 西力東進の史的段階」(鈴木 俊)。 (#)「大東亜戦争と世界史の動向 幕末先覚者の東亜経綸策」 (向井淳郎)。 (#)「大東亜戦争と世界史の動向 民族と植民 ― 民族力の発動 について その二」(徳沢龍潭)。 (#)「日本語教授の効果に就いての考察」(大出正篤)。 (#)「直接法と教材(一)」(益田信夫)。 (#)「対訳法の論拠」(日野成美)。 (#)「南方共栄圏参考文献目録(二)マレー・東印度・フィリッ ピン」(編輯部)。 (#)「日本語教室 国音字母と日本語教授」(深沢泉)。 (#)「日本語教室 後期に 読方科指導過程の研究」(久保 一良)。 (#)「教材 じゃんけんぽん」(釘本久春)。 (#)「随筆 日本の年中行事(三)」(三村清三郎)。 (#)「随筆 言葉談義(七)」(各務虎雄)。

西 暦	年 代	項 目
1942	6・1	<p>〔書〕「コトバ」(第四巻第六号,「ヨミカタ漢字調査表・語法研究への一提試」)。</p> <p>(同上)「語法研究への一提試」(三上章)。</p> <p>(「」)「ヨミカタ漢字提出頻度数」(広瀬栄次)。</p> <p>(「」)「国語音の仮名表記に関する提案」(野末次三郎)。</p> <p>(「」)「俘虜と日本語」(松宮一也)。</p> <p>(「」)「直接法の根本原理(訳)」(興水実)。</p> <p>(「」)「コトバ情報(石黒修編)」。</p> <p>(「」)「ヴェン・ブリーセンのハーゲン研究」(波多野完治)。</p> <p>(「」)「講座 言語理論」(石黒魯平)。</p> <p>(「」)「全日本アクセント概説(北海道篇)」(平山輝男)。</p> <p>(「」)「同人の頁 松原秀治,乾輝雄,原勝,松宮一也,名取堯,大西雅雄,魚返善雄,湯山清,石黒修,石井庄司,熊沢龍」。</p>
〃	6・3	〔日〕 ジャワで,日本語学校3校を開校,1200名を収容した。
〃	6・5	ミッドウェー海戦(～6月7日。日本,4空母を失い,戦局の転機となる)。
〃	6・7	〔日〕 日本語普及協議会(大東亜南方共栄圏に於ける日本語の普及を協議)。
〃	〃	ミッドウェー作戦中止,キスカ島に,6月8日アッツ島に上陸。
〃	6・8	〔教〕 興亜工業大学開校(のちの千葉工業大学)。
〃	6・9	〔日〕 台湾国語研究会第二部委員会開催(「題目 国民学校児童の国語を向上せしむる実際的方案」。出席者32名)。
〃	〃	大政翼賛会副総裁安藤紀三郎,国務相として入閣(翼賛会と政府との関係強化)。
〃	6・10	〔日〕 マレイ軍政部宣伝班,6月10日から,カタカナ新聞「サクラ」を発行(昭南市内81校,約1万の小学生に読める程度のもの)。
〃	〃	〔書〕「日本語基本文型」(青年文化協会日本語科学研究委員会)。
〃	6・11	ワシントンで米ソ相互援助条約調印。6月12日同地で米ソ共同声明,ロンドンで英ソ共同声明発表(米英,年内に第2戦線開始の用意を表明)。
〃	6・12	〔日〕 台湾国語研究会第一部委員会開催(「題目 本島人に国語尊重の精神を一層徹底せしむる方策」。出席者23名)。
〃	〃	ナチ親衛隊〔SS〕隊長ヒムラー,SS指導部の「東方一般計画」(東欧諸民族のシベリア移民計画)を承認。
〃	6・17	〔国〕 第六回国語審議会,「標準漢字表案(2528字)」を議決答申(12月文部省修正して発表。漢字総数2669,簡易字体80)。
〃	6・18	日本文学報国会発会式(会長徳富蘇峰)。文芸家協会解散('43年8月20

西 暦	年 代	項 目
1942		日機関誌「文芸報国」創刊)。
"	6・18	日銀、タイ国大蔵省と2億円の借款供与に関する協定に調印。
"	"	ワシントンで第2次米英戦争指導会議ひらく(～6月26日。第2戦線問題・原爆研究について討議。チャーチル、北フランス上陸作戦にかわる北アフリカ作戦を主張、ルーズベルト承認)。
"	6・22	〔日〕 一九四二年六月二十二日附印度支那総督府地方行政官庁宛回章「日本語講習ニ関シ弊害ノ惹起セラレ居ルニ鑑ミ即チ全ク其ノ能力無キニ拘ラス誇大ナル広告ヲ以テ日本語講座ヲ開カントスル者アルニヨリ本官ハ関係諸官庁ニ対シ左ノ通り注意ヲ促スモノナリ 即チ一九二四年五月十四日法令第一編ニ準拠シ何人ト雖モ行政官庁ノ許可ヲ得ルニ非レハ印度支那ニ於テ私立教育ヲ行フヲ得ス且本法令ニ於テ私立教育ト称スルハ五名以上ノ生徒ヲ収容スル神学校並厚生施設附属ノモノヲモ総ヘテ包含スルモノトス 講師ニ関スル凡ユル資格、保証ノ条件ハ一九二五年一月二十五日附総督令ニヨリ規定セラル 日本語講習ニ関シテモ同様ノ手続カ採ラルヘキモノナリ、本件ハ多少政治的問題ナルニ依リ本官カ日本語講座ニ関シ左ノ取締ヲ行フハ日本帝国大使府ノ要請並了解ニ基クモノナリ 即チ如何ナル学校モ特ニ日本語講習ノ為設置セラレタルト新タニ日本語講座ヲ附置セントスルモノナルトヲ問ハス予メ所管官庁ノ許可ヲ得ルニ非レハ日本語ヲ教フルヲ得ス 本官ハ現行日本語講座ニ関シ大至急且正確ニ報告ヲ求ムルモノナリ 若シ秘密ニ不正当ニ講座カ開設セラレ居ルナラハ左ノ如キ処置ヲ採ルヘキモノトス 一、右講座カ我カ統治権ニ属スル者(仏国人、印度支那人等)ニ依リ行ハレ居ルナラハ直チニ閉鎖訴追セラルヘシ 二、右講座カ日本人経営ノモノナルトキハ日本側関係当局者ニ対シ日仏印連絡事務局ヲ介シテ必要ナル照会ヲ為直チニ通報セラレ度キコト 終リニ日本語教育設置ノ要求カ行政官庁ニ提出セラルル時ハ行政官庁ハ文部当局ニ移牒スヘク文部当局ハ日本大使府ノ協力(専門家ヲ提供セラルヘシ)ヲ得テ申請者ノ提出スル資格保証等ニ就キ調査ヲ行ヒ当該報告ニ基キ関係行政官庁ノ決定ヲ見ルヘシ」
"	6・26	〔国〕 外国地名人名ノ呼称並ニ表記ニ関スル協議会第一回総会。
"	"	旧ホーリネス教会系のきよめ教会と聖教会の教職者検挙。
"	6・28	独軍、東部戦線の夏季攻勢開始(～7月8日)。7月17日ボルガ川方面、7月25日カフカス方面の攻撃開始。
"	6・29	中西功ら、上海反戦グループ検挙。
"	6・30	独伊軍(ロンメル元帥指揮)、北アフリカのエル・アラメイン(アレキサンダリア西方100Km)に達する。7月3日英軍陣地突破作戦を中止。
"	6・	〔日〕 青年文化協会、東南アジア学院を設立。
"	"	〔日〕 国際学友会、本部・教育部・事務所・女子寮を中日黒に移転。

西 暦	年 代	項 目
1942	6・	〔日〕 南京日語研究会例会。
"	"	〔日〕 実地指導研究会（南京日語研究会）。
"	"	〔日〕 日語大会（南京日語研究会）。
"	"	〔日〕 ビルマ，蘭貢日本語学校開設。
"	"	〔日〕 河内日本人会，日本語講習会開催（応募者中より300名を厳選，第一期生とする。9月，別の学級を増設，同年秋には1千名を超える状況となる）。
"	"	〔日〕 朝鮮京畿道庁職員（朝鮮人）336名の家庭調査（妻で国語を解する者286名，父母で国語を解する者137名（未解者304名），国語を常用しているもの63家庭，全体の約2割）。
"	"	〔書〕「簡単日泰会話」（鈴木忍，日泰文化研究所）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四七九号）。 （同上）「言葉の教育（二）」（門司勇）。
"	7・ 1	独軍，セバストポリ攻略。
"	"	〔書〕「日本語」（第二巻第七号）。 （同上）「巻頭言 建設戦士の責務」（箕勝）。 （"）「日本教育精神」（伊藤延吉）。 （"）「オリエントの歴史的意義」（杉勇）。 （"）「日野氏の「対訳法の論拠」を讀みて」（大出正篤）。 （"）「直接法と教材（二）」（益田信夫）。 （"）「山西音と日本語」（平部朝淳）。 （"）「日本語教室 作文を通して見たる助詞の一考察」（来島 譽吾）。 （"）「画人鄭板橋の思想」（八幡関太郎）。 （"）「康遇聖の捷解新語」（岩淵悦太郎）。 （"）「支那のキリスト教に関する文献（三）」（岩村忍）。 （"）「南方共栄圏参考文献目録（三）」。 （"）「教材 真珠湾攻撃」。 （"）「随筆 日本の年中行事（十一）」（三村清三郎）。 （"）「随筆 言葉談義（八）」（各務虎雄）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第四巻第七号，「日本語の優秀性」）。 （同上）「日本語教授における教材・教授法・教師」（大石初太郎）。

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>(同上) 「朝鮮における国語教育の現状」(森田梧郎)。</p> <p>(〃) 「日本語文型に対する中国学生の習熟度」(三尾砂)。</p> <p>(〃) 「日本語普及研究会の開設」。</p> <p>(〃) 「同人の頁 大西雅雄, 金原省吾, 湯山清, 石井庄司, 原勝魚返善雄, 乾輝雄, 松原秀治, 石山脩平, 石黒修, 名取堯」。</p> <p>(〃) 「コトバ情報」(石黒修編)</p> <p>(〃) 「時間的表現(一)」(山崎末彦)。</p> <p>(〃) 「「すさび」「すさぶ」「すさみ」「すさむ」「すさまじ」解義」(山下藤次郎)。</p> <p>(〃) 「穴に落ちざらんや」(魚返善雄)。</p> <p>(〃) 「日本語のめでたさ」(菊沢季生)。</p> <p>(〃) 「外国語と自国語」(松原秀治)。</p> <p>(〃) 「借用語の話」(乾輝雄)。</p> <p>(〃) 「日本語教育の出発」(興水実)。</p>
〃	7・1	〔書〕「ローマ字和英辞典」(高橋盛雄, W・DRAMOND 共著, 太陽堂。「Romanized Japanese English Dictionary」)。
〃	7・5	〔書〕「ヴェンドリエス言語概論」(藤岡勝二訳, 刀江書院)。
〃	7・6	〔日〕 大東亜学術教育聯絡協議会第一回委員会(南方占領地域における学術教育上の具体的運用に関する連絡をはかる)。
〃	7・8	〔教〕 文部省, 高等女学校の英語を随意科目とし, 週3時間以内とすると通牒。
〃	7・10	〔書〕「日本語教授法指針 — 入門期 — 」(財団法人日語文化協会日本語教授研究所編, 大日本教化図書株式会社)。
〃	7・11	大本營, ミッドウェー敗戦の結果, 南太平洋進攻作戦の中止を決定。ニューギニアのポートモレスビーに対する陸路進攻作戦を命令。
〃	〃	サイゴンでタイ・仏領インドシナ国境画定条約調印。
〃	7・13	〔日〕 日本語普及研究会(第一期)(～9月11日。主催財団法人青年文化協会)。
〃	7・14	〔日〕 ビルマのオッタマ日本語学校開校(教師3名, 朝・昼夜の三部教授, 120～150名を収容)。
〃	7・17	〔国〕 第七回国語審議会総会, 「新字音仮名遣表」。「国語ノ横書キニ関スル件」の両案を議決答申。
〃	7・22	〔日〕 建国十周年慶祝東亜教育大会(～24日。主催満州国民生部, 会場

西 暦	年 代	項 目
1942		新京白菊在満国民学校。日本から160名参加)。
"	7・23	〔日〕 日本軍当局は軍政命令をもって、フィリッピン の公用語は日本語またはタガログ語と定め、当分の間イギリス語の使用を許可する旨発表(比島軍政部布告「公用語は日本語とタガログ語と定め、当分の間イギリス語の使用を許可する」)。
"	7・24	情報局、東京・大阪・名古屋・福岡地区の主要新聞統合案大綱決定。
"	7・25	大本営・政府連絡会議、ドイツの対ソ戦申入れに対し、不参加を回答する旨決定。
"	"	〔日〕 ビルマ軍政部、軍政監部に改編、文教部(教育課・文化課)設置、軍政監部改編と共に宣撫班解散。
"	"	〔日〕 全島小学校鍊成会(主催バタビヤ軍政監教育部。9月10日修了式)
"	"	〔書〕「 ^{台湾に} 於ける国語音韻論(音質・音量編)」(寺川喜四男、台湾学芸社)。
"	7・26	〔日〕 第二回日本語教育講座(～31日。主催日本語教育振興会、後援語学教育研究所、会場東京文理科大学。会員は主として外国語講師、78名参加)
"	7・28	閣議、行政簡素化措置を決定(中央官庁職員を減員し、外地に転出)。
"	"	〔日〕 日本語教育懇談会(主催文部省図書局国語課、カナモジカイ、国語協会、国際学友会、国際観光局、国際文化振興会、青年文化協会、善隣協会、南洋協会、日語文化協会、日華学会、日本語教育振興会、日本放送協会の各団体代表)。
"	"	日銀、中央儲備銀行に対する1億円の借款供与契約調印。
"	7・31	〔日〕 第二回日本語教育講座修了式(7月26日～。64名に修了證書授与)。
"	7・	〔日〕 マレイ軍政部宣伝班、「昭南日本学園」を開校(10月に第二期生200名を出したのを機会に、軍政監部文教課に移管、「昭南国民学校」として組織を拡充、日本語教育最高の機関となる)。
"	"	〔日〕 中国人日語教員講習会(南京日語研究会)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四八〇号)。 (同上)「巻頭言 南方共栄圏に於ける日本語普及の問題を遡りて」。 (「」)「国語訛音の一調査」(松末三男)。
"	"	〔書〕「太陽」(朝日新聞社。対象 共栄圏全体、月刊、対南方文化宣伝誌)創刊。
"	"	〔書〕「ニッポン・フィリッピン」(ニッポンフィリッピン社。フィリビ

西 暦	年 代	項 目
1942		ン向け、月刊、対南方文化宣伝誌）創刊。
"	7・	〔書〕「英和海事用語辞典」（小沢覚輔編，三省堂。「An English-Japanese Dictionary of Hydrographic Terms」）。
"	"	〔書〕「経済語必携」（木村孫八郎編，栗田書店）。
"	"	〔書〕「 ^{ローマ字} 標音 支那固有名詞辞典」（内田智雄編，生活社）。
"	"	〔書〕「南方地名辞典」（南洋事情研究会編，婦女界社）。
"	"	〔書〕「水戸学辞典」（高須芳次郎編，水戸学大系刊行会「水戸学大系」別冊）。
"	"	〔書〕「〔岡鹿門遺稿集〕」（岡千刃（鹿門）著。昭和17年11月～18年3月刊。孔版。8冊）。
"	"	〔書〕「中国留日教育史・続」（汪向榮，「大東亜」民国三十一年七月号）。
"	8・1	〔書〕「日本語」（第二巻第八号）。 （同上）「巻頭言 日本語に対する考へ方の改革」（榎谷秀夫）。 （"）「日本文化の使命と大東亜戦」（長与善郎）。 （"）「民族と戦争 — 民族力の発動 その三」（徳沢龍潭）。 （"）「直接法と対訳法（一）」（山口喜一郎）。 （"）「日本語の優等生と劣等生」（大出正篤）。 （"）「満洲の日本語」（保井克己）。 （"）「聾啞学校の日本語教育」（若生精一）。 （"）「日本語教室 日本語教授法の平易化」（堀敏夫）。 （"）「日本語教室 日本語教室の外」（小川健二）。 （"）「日本に於ける外国語教育」（中野好夫）。 （"）「朝鮮に於ける国語政策」（時枝誠記）。 （"）「支那のキリスト教に関する文献（五）」（岩村忍）。 （"）「詩 野に記されたもの」（室生犀星）。 （"）「随筆 茶の字の音」（伊藤弥太郎）。 （"）「随筆 鍊成随感」（山口正）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第四巻第八号，「大東亜戦争以後の国語教育」）。 （同上）「大東亜戦争以後の国語教育」（保科孝一）。 （"）「大東亜戦争以後の国語教育」（秋田喜三郎）。 （"）「此の頃の児童と国語」（花田哲幸）。 （"）「外地教育を見て国語教育の将来を思ふ」（白井勇）。 （"）「大東亜戦争以後の国語教育」（沖津祥徳）。 （"）「言葉と心を育てる」（山下源蔵）。 （"）「綴方指導に於ける三つの危機」（芥子川律治）。 （"）「同人の頁 今泉忠義，大西雅雄，乾輝雄，石黒修，魚返善

西 暦	年 代	項 目
1942		雄，金原省吾，原勝，名取堯，湯山清，興水実」。 （同上）「コトバ情報（石黒修編）」。 （＃）「児童文学覚え書」（波多野完治）。 （＃）「言語哲学的展望」（興水実）。
＃	8・7	米海兵1個師団，ソロモン群島のツラギ及びガダルカナル島に上陸。
＃	8・8	ガダルカナル島周辺海域で，「第一次ソロモン海戦」，8月24日「第二次ソロモン海戦」。
＃	8・12	モスクワで英米ソ3国会談（チャーチル・ハリマン・スターリン）ひらく。 （～8月15日英米側，北アフリカ上陸「トーチ作戦」を通達。ソ連第2戦線結成を要求）。
＃	8・18	〔日〕閣議，「南方諸地域日本語教育ニ関スル件」を附議，決定。（橋田文部大臣が説明，次のようにその取扱方を決める。「一，日本語教育並びに日本語普及に関する諸方策は陸海軍の要求に基き，文部省においてこれを企画立案すること。なほ右に関し日本語普及協議会（仮称，訓令による）を文部省に設置し，右方策に関する諸般の具体的事項を審議すること，二，南方諸地域の諸学校において日本語教育のために使用する教科用図書は陸海軍の要求に基き文部省において編纂発行すること，三，南方諸地域に派遣せらるゝ日本語教育要員は，陸海軍の要求に基き文部省においてこれを養成すること。尚日本語普及協議会は陸海軍，企画院，文部，拓務，情報局，興亜院（後に大東亜省）の関係官によって組織されること」）。
＃	8・20	〔日〕20日からマニラ放送局，日本語講座を放送。
＃	＃	日米交換船浅間丸・コンテベルデ号（伊）で野村・来栖大使ら1400人帰国。
＃	8・21	ジャワでは，「治秘第三九一号」によって，「ジャバ」を「ジャワ」と呼ぶこととなった。
＃	＃	ガダルカナル島奪回のために上陸した一木支隊は，ほとんど全滅。
＃	8・22	〔日〕比島では，8月22日から1週間，「日本語週間」を設ける（英字新聞「トリビューン」「サンデー・ニュース」の両社はカナ文字新聞を発行，マニラ放送局は20日から日本語講座を放送，又，たまたまマニラに皇軍慰問旅行中の松竹少女歌劇団が日本語の童謡を教授，市内映画館では日本語解説を行うなど，日本語の普及宣伝に努めた）。
＃	＃	独軍，スターリングラード猛攻撃を開始。8月25日同市を包囲。9月13日市内に突入。（「スターリングラード攻防戦」開始）。
＃	8・28	ニューギニアのボードモレスビー攻略作戦中止。9月26日撤退を開始。

西 暦	年 代	項 目
1942	8・31	〔日〕 比島では、教員訓練所開所式挙行（小学校向の日本語教員養成機関養成期間は第一回第二回が各三月半，第三回は四か月，第四回から第六回まで約五か月と漸次強化され，第六回をもって一応終了，以後，日本語専門学校に統合）。
"	8・	〔日〕 ジャカルタ（バタビア）で，第二回の日本語講座を2か月実施（大体1か月で，内地の国民学校3・4学年修了ぐらいの成績をあげる）。
"	"	〔日〕 日語検定試験実施（南京日語研究会）。
"	"	〔書〕「ウタノホン 第一巻」（軍政監部編纂，比島行政府教育厚生部発行）完成。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四八一号）。 （同上）「公学校用国語読本卷十一の研究（一）」（北二師附属国語研究部）。
"	"	〔書〕「サンライズ」（国際観光協会。共栄圏向け，季刊，対南方文化宣伝誌）創刊。
"	"	〔書〕「書誌学辞典」（植村長三郎編，京都，教育図書）。
"	"	〔書〕「新独逸政治・経済語集」（小林良正編，日光書院）。
"	"	〔書〕「大東亜戦争新語早わかり」（高井一郎編，新正堂）。
"	9・1	閣議，大東亜省の設置を決定。外相東郷茂徳これに反対して辞職。
"	"	〔書〕「日本語」（第二巻第九号）。 （同上）「巻頭言 日本語理解の困難性」（長谷川如是閑）。 （"）「日本語教育の基礎」（釘本久春）。 （"）「直接法と対訳法（二）」（山口喜一郎）。 （"）「日本語教室 数教材の特徴とその指導案」（日野成美）。 （"）「日本語教室 速成日本語教授私見」（堀敏夫）。 （"）「日本語教室 発音指導考」（久保一良）。 （"）「日本語教育に於ける教材論 — 北支座談会 —」（出席者 一谷清昭，小泉荻三，国府種武，篠原利逸，四宮春行，秦純良，日野成美，藤村作，古田拙，益田信夫，山口喜一郎）。 （"）「日本語普及と英語教師」（佐久間鼎）。 （"）「翻訳と日本語」（高橋義孝）。 （"）「中支 戦線より帰って 日本語普及の問題について（座談会）」（出席者 窪川稲子，真杉静枝，釘本久春，長沼直兄）。

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>(同上)「近刊の支那関係書(一)」(岩村忍)。</p> <p>(「」)「随筆 菱荊と時鳥」(森山啓)。</p> <p>(「」)「随筆 永光寺街(「北京の想ひ出」その一)」(奥野信太郎)。</p>
〃	9・1	<p>〔書〕「コトバ」(第四卷第九号,「国語変遷の動向」)。</p> <p>(同上)「国語の過去と現在」(浅野信)。</p> <p>(「」)「大和言葉への思慕」(徳田浄)。</p> <p>(「」)「国語の過去・現在・未来」(木枝増一)。</p> <p>(「」)「音韻変遷の方向」(菊沢季生)。</p> <p>(「」)「国語の過去・現在・未来」(今泉忠義)。</p> <p>(「」)「言語対策と言語理想」(長谷川松治)。</p> <p>(「」)「形象詞の名詞化」(山崎末彦)。</p> <p>(「」)「大東亜戦争と古典の教育」(山下源蔵)。</p> <p>(「」)「同人の頁 魚返善雄,石黒修,西原慶一,原勝,名取堯,乾輝雄,金原省吾,今泉忠義,松原秀治,大西雅雄,湯山清」。</p> <p>(「」)「コトバ情報(石黒修編)」。</p> <p>(「」)「特別寄稿 泰国に於ける日本語教授」(盤谷日本語学校長平等通昭)。</p>
〃	9・10	陸海軍省・情報局・外務次官会議,「南方映画工作要領」を決定。配映は南方局を設置,日映は海外局を設置。
〃	〃	〔日〕ビルマ蘭貢日本語学校,本日より16日まで第二回入学願書受付。総計1847名志望。合格者1210名。
〃	9・12	ガダルカナル島で川口支隊攻撃開始。9月14日失敗。
〃	9・16	日本滞留の宣教師たちを抑留所に強制収容。
〃	9・20	〔書〕「比較言語学」(高津春繁,河出書房)。
〃	9・21	〔日〕支那派遣教員第七回錬成(〜30日。10日間,主催日本語教育振興会,指導興亜院,場所東亜報徳会東京会堂)。1回50名,「北支及中支ニ派遣スヘキ日本人教員」)。
〃	〃	満鉄調査部,伊藤武雄・西雅雄・堀江邑一・鈴江信一ら44人検挙('43年6月第二次検挙)。
〃	〃	〔書〕「日本語教育と日本語諸問題」(岡本千万太郎,白水社)。

西 暦	年 代	項 目
1942	9・26	陸軍省、「陸軍防衛召集規則」〔省令〕公布。
"	9・27	ソ連、ドゴール政権を承認。10・2米国、同政権承認。
"	9・30	〔日〕 盤谷第二日本語学校（所在地盤谷シービャー路）、第一日本語学校の分校として創立（在籍数103名、ただし毎日通学するものは90名ぐらい）。
"	9・	〔教〕 大学・専門学校の卒業期を繰上げ。
"	"	〔日〕 南京日語研究例会開催。
"	"	〔国〕 外国地名人名協議会第二回総会。
"	"	中国に設けられていた興亜院が廃止となる（昭17年11月1日大東亜省設置に伴い、各連絡部はその管轄下にはいる）。
"	"	〔日〕 南方派遣日本語教育要員募集（応募者6000人以上、合格者67人?）。
"	"	〔書〕「台湾教育」（第四八二号）。
		（同上）「大東亜教育体制の構想」（佐藤源治）。
		（"）「公学校用国語読本巻十一の研究（二）」（北二師附国語研究部）。
		（"）「初等科一年生の綴方指導（一）」（宮内義雄）。
"	"	〔書〕「ヒカリ」（大東亜出版株式会社、共栄圏男子向け、月刊、対南方文化宣伝誌）創刊。
"	"	〔書〕「婦人アジア」（毎日新聞、共栄圏全体婦人向け、隔月刊、対南方文化宣伝誌）創刊。
"	"	〔書〕「エホン・ニッポン ノリモノ号」（南方向け、マレー・タイ・ビルマ・安南・タガログ語各1万部、日本宣伝文化協会）刊。
"	"	〔書〕「独英和对訳鉱業用語辞典」（広松撓一郎、共立出版社）。
"	"	〔書〕「支那語重要単語集」（宮越健太郎著、タイムス出版社）。
"	"	〔書〕「神祇に関する制度作法辞典」（神祇学会編、光文堂）。
"	"	〔書〕「熱帯の生活事典」（大内恒著、南方出版社）。
"	"	〔書〕「更生平議 第1巻1～6期、2巻1、2期」（南京・平議編訳社。8冊。月刊。民国卅一年九月～卅二年二月）。
"	"	〔書〕「中日文化 第2巻6、7期合編」（南京・中日文化協会。月刊。民国卅一年九月）。
"	"	〔書〕「中國留日同學會季刊 第1、2号」（北京・中国留日同学会。季刊。民国卅一年九月～卅二年一月）。
"	10・1	〔教〕 朝鮮総督府、「朝鮮青年特別錬成令」制定。
"	"	〔日〕 仏印シロロンに南仏印日語学校開設。

西 暦	年 代	項 目
1942	10・1	<p>〔書〕「日本語」（第二巻第十号）。</p> <p>（同上）「巻頭言 国語そのものに対する純粋な愛情を」（佐藤春雄）。</p> <p>（＃）「言語教養の意義と方法」（長谷川如是閑）。</p> <p>（＃）「日本語の性格」（新屋敷幸繁）。</p> <p>（＃）「擬声語」（戸田吉郎）。</p> <p>（＃）「支那人の見たる日本語」（実藤惠秀）。</p> <p>（＃）「大東亜風物誌（一） 瀋州の雨」（宮本敏行）。</p> <p>（＃）「日本語の南進に就いて」（大出正篤）。</p> <p>（＃）「日本語教授の特性」（大石初太郎）。</p> <p>（＃）「無名の日本語教師」（内田克己）。</p> <p>（＃）「東亜風物誌（二）台湾一周記」（春山行夫）。</p> <p>（＃）「東亜風物誌（二）南支紀行より」（吉田謙吉）。</p> <p>（＃）「日本語教室 数教材の特徴とその指導案（二）」（日野成美）。</p> <p>（＃）「東亜風物誌（三）被統治民族の姿」（大屋久寿雄）。</p> <p>（＃）「東亜風物誌（三）安南断想」（成田穰）。</p> <p>（＃）「近刊の支那関係書（二）」（岩村忍）。</p> <p>（＃）「日本語教授法の文献」（長沼直兄）。</p> <p>（＃）「随筆 陶房雑記」（塚原正志）。</p> <p>（＃）「随筆 俳句道」（室生犀星）。</p>
＃	＃	<p>〔書〕「コトバ」（第四巻第十号，「同人研究号」）。</p> <p>（同上）「老の美と若の美」（金原省吾）。</p> <p>（＃）「性格と運命 — 文芸的表現に於ける」（名取堯）。</p> <p>（＃）「童話のために」（原勝）。</p> <p>（＃）「君が代」の歌ひ方について」（湯山清）。</p> <p>（＃）「山田美妙著「日本大辞書」」（吉武好孝）。</p> <p>（＃）「コトバ情報（石黒修編）」。</p> <p>（＃）「外国語の学習と其の影響」（乾輝雄）。</p> <p>（＃）「記述文法と一般文法」（松原秀治）。</p> <p>（＃）「上二段から四段へ」（今泉忠義）。</p> <p>（＃）「地名人名の漢字音訳」（魚返善雄）。</p> <p>（＃）「表音仮名遣の危険」（大西雅雄）。</p> <p>（＃）「国語問題の反省」（奥水夷）。</p> <p>（＃）「関東州・日本語研究会」。</p>
＃	10・5	<p>〔日〕 支那派遣教員第八回練成（～25日。10日間）。</p>

西 暦	年 代	項 目
1942	10・6	〔日〕 南方派遣陸軍司政官と連絡会議（文部省会議室。南方共栄圏に於ける日本語普及について協議）。
〃	10・8	〔書〕「大東亜共通語としての日本語教授の建設」（台北第一師範学校訓導平松普資事，台北第一師範光昭会）。
〃	10・9	〔書〕「大東亜建設と国語の問題」（久保正太郎， ^{社団法人} 同盟通信社）。
〃	10・10	米英，対中不平等条約廃棄を発表。
〃	〃	日本基督教団，「戦時布教指針」並びに「綱領」「実践要目」を発表布達。
〃	〃	〔日〕 台湾で第二放送開始（午後6・30～語学講座，午後8・00～国語普及講座）。
〃	〃	〔書〕「現代日本語の研究」（岡本千太郎，白水社）。
〃	〃	〔書〕「国語教学の体験」（松尾捨次郎，白水社）。
〃	10・12	ボンベイとカイロで全イスラム教徒団結大会ひらく。
〃	10・14	〔日〕 関東州・日本語教育研究会（～16日。主催在満日本教育会南部会，大連市初等教育会，後援関東庁，大連市役所，旅順市役所。会場，第一日大連伏見台公学堂，第二日大連沙河口公学堂，第三日旅順高等公学校。約200名参加）。
〃	10・15	〔書〕「大東亜共栄圏と国語政策」（保科孝一， ^{株式} 統正社）。
〃	〃	〔書〕「日本語練習用日本語基本文型」（編纂委員保科孝一，今泉忠義，大西雅雄，黒野政市，興水実。青年文化協会，国語文化研究所）。
〃	10・16	〔日〕 支那派遣教員第九回錬成（～25日，10日間）。
〃	10・18	〔書〕「日本語の世界的進出」（松宮一也，婦女世界社）。
〃	10・19	陸軍，本土空襲の米機塔乗員を死刑または重罰に処する旨布告。
〃	10・20	〔書〕「日本語指導論」（前田熙胤，大連市役所内初等教育会）。
〃	10・22	〔日〕 日語文化協会講演会（出席者30余名）。
〃	10・23	連合軍（モントゴメリー英將軍指揮），エル・アラメインで反攻開始（～11月2日）。11月3日独伊軍撤退開始。
〃	10・24	ガダルカナル島で，第2師団総攻撃開始。10，25失敗。

西 暦	年 代	項 目
1942	10・26	ガダルカナル島の攻防をめぐる南太平洋海戦。
"	"	<p>〔日〕マライペナン訓練所訓練開始（訓練期間（自昭和17年10月26日至昭和18年4月20日）, 通算177日, 収容人員53名（応募者200余名「1. 日本語科（イ）教育方針 片仮名, 平仮名ヲ主トシ简单ナル漢字（国民学校初等科三年）等ヲ知ラシムルト共に日常使用ノ国語ヲ授ケ将来政庁員トシテ勤務ノ上ハ現地人官吏トシテ有為ナル資格ヲ保持セシメントス（ロ）教材 当政庁編纂教科書日本語読本巻一（一七・四, 二九印刷, 総務部発行七五頁）並ニ訓練所編纂「皇国読本」ニヨリ日本語ノ修得並ニ日本語ニヨル必須ナル会話, 並ニ日本文化, 日本精神ノ啓培ヲナス。</p> <p>又印刷物ニヨリ, 時局認識及平易ナル日本文法ヲ得認セシム（ハ）教授法, 教授時数, 教材配当 教官ハ日本語ニヨリ之ヲ教授シ補助語トシテ現地語（主トシテ馬來語, 最少限度ノ英語）ヲ使用シ, 最初歩ヨリ出発シ, 大体ニ於テ日常ノ会話ヲ主トシテ会得セシメ初歩文法ニ入ル。自二〇時至二一時 自由会話ノ時間ハ頗ル好結果アリ, 教授時数 一週（单元）日本語二十四時 延時数五七六 文字 一 入所当所ヨリ第二期ノ終マデハ片仮名ニヨル 第三期ヨリ平仮名及平易ナル漢字ヲ授ク 教材配当 一 第一期 一 五十音ノ読み, 書方, 助詞ノ使ヒ方, 敬語, 動詞ノ変化, 简单ナル文字, 数詞及日常会話ニ必要ナルモノ 聴取, 書取, 書写, 作文, 文構成ノ注意 第二期 一 同前ノ稍発展セルモノ並ニ平仮名ニ依ル学習応用教材, （印刷物ニヨル）平易ナル文法, 文構成ノ注意 第三期 一 総復習, 正確ナル発音ニヨル会話, 書取, 書式ニヨル書き方復唱復命ノ徹底, 漢字数字ノ教育, 政庁実務並術語ノ修得, 及ヤ、高尚ナル思想ノ表現, 作文ノ教授ヲナス」）。</p>
"	10・28	重慶で, 米英中ソ, 東亜作戦会議開催。
"	"	〔日〕昭南日本語学院卒業式（第二期生約200名。同学院はこれを機に軍宣伝班の手から軍政監部文教課に移管, 「昭南国民学校」として組織を拡充, 日本語教育最高の機関となる）。
"	"	〔書〕「日本語読本 巻三」（日本語教育振興会編, 日本語教育振興会）。
"	10・	〔日〕日本放送協会, 日本語普及のため, 現地における日本語講座放送用の教本を編纂。
"		〔日〕「日本文化紹介の夕」（南京日語研究会）。
"		〔日〕慶応義塾大学, 外国語学校を新設, 十月から開講, ほかに特設語学科を設置。
"		〔日〕南圻日語学校（在ショロン）開校。

西 暦	年 代	項 目
1942	10・	<p>〔書〕「台湾教育」(第四八三号)。</p> <p>(同上)「巻頭言 国語醇化の問題」。</p> <p>(〃)「初等科一年生の綴方指導(二)」(宮内義雄)。</p> <p>(〃)「国語教育の諸問題(二)」(三水生)。</p> <p>(〃)「東亜教育大会言語教育部の状況並に關東州に於ける日本語教育の状況」(安田友明)。</p>
〃	〃	〔書〕「国語学と言語との交渉」(小林英夫,「国語文化」第二卷第十一号)。
〃	〃	〔書〕「古事記辞典」(村木孫四郎著,錦正社)。
〃	〃	〔書〕「日本語教授の出発点」(松宮弥平,日語文化協会)。
〃	〃	〔書〕「日本語指導論」(前田熙胤,大連役所内大連初等教育会, A五版 388 ページ,非売品)。
〃	11・ 1	〔日〕「大東亜省官制」〔勅令第七百七号,公布昭和十七年十一月一日〕 (拓務省・興亜院などは廃止。東亜における日本語教育は更に強力に推進された)。
〃	〃	〔日〕 文部省分課規程中改正(第八条,図書館ニ総務課,第一編輯課,第二編輯課及国語課ヲ置ク,国語課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル,一,国語ノ調査ニ関スルコト,二,日本語教科用図書ノ編集,三,国語審議ニスルコト)。
〃	〃	〔国〕 行政簡素化実施ノ為ニスル文部省官制改正(第十条 図書館ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 一教科用図書ノ編輯,発行,調査,検定及認可ニ関スル事項 三国語ノ調査ニ関スル事項 第二十三条 文部省ニ国語調査官専任三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ国語ノ調査ヲ掌ル 第二十四条 文部省ニ国語調査官補専任二人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ国語ノ調査ニ従事ス)。
〃	〃	<p>〔書〕「日本語」(第二卷第十一号)。</p> <p>(同上)「巻頭言 興亜と日本語」(大志万準治)。</p> <p>(〃)「言語の道義性 — 大東亜建設途上の一反省として」(竹下直之)。</p> <p>(〃)「子供の言葉」(松原至大)。</p> <p>(〃)「スラング語史概説」(エミール・リットレ^{エミール・リットレ} 田島義治)。</p> <p>(〃)「日本語のアクセント」(平山輝男)。</p> <p>(〃)「初等教育に於ける日本語教授の困難性」(大出正篤)。</p> <p>(〃)「日本語教授の特性」(大石初太郎)。</p> <p>(〃)「留学生の日本語教育」(丸山キヨ子)。</p> <p>(〃)「 — 本会の語彙調査に就いて 基本語彙調査の方法」(浅</p>

西 暦	年 代	項 目
1942		<p>野鶴子)。</p> <p>(同上) 「日本語教室 日本語教授に於ける初期発音訓練」 (松宮弥平) 。</p> <p>(〃) 「日本語教室 日本語教授の実際」 (鶴見誠) 。</p> <p>(〃) 「日本語教室 数教材の特徴とその指導案 (その三) 」 (日野成美) 。</p> <p>(〃) 「読物 木匠白石」 (八幡関太郎) 。</p> <p>(〃) 「読物 野尻」 (石井柏亭) 。</p>
〃	11・1	<p>〔書〕「コトバ」 (第四卷第十一号, 「漢字・仮名遣教授法」) 。</p> <p>(同上) 「日本の心理学」 (波多野完治) 。</p> <p>(〃) 「「曖昧アクセント」に就いて」 (平山輝男) 。</p> <p>(〃) 「二百年前の略字調査」 (魚返善雄) 。</p> <p>(〃) 「国民学校に於ける漢字教授の問題」 (上飯坂好美) 。</p> <p>(〃) 「仮名遣と漢字の指導について」 (大槻芳広) 。</p> <p>(〃) 「漢字及仮名遣教授の方法」 (志波末吉) 。</p> <p>(〃) 「漢字指導の方法と実際」 (宮川利三郎) 。</p> <p>(〃) 「漢字及び仮名遣の指導法」 (向山忠夫) 。</p> <p>(〃) 「漢字及び仮名遣教授の方法」 (中田憲久) 。</p> <p>(〃) 「漢字及仮名遣の指導法」 (洪瀬登) 。</p> <p>(〃) 「漢字及び仮名遣教授の方法」 (広瀬栄次) 。</p> <p>(〃) 「児童の漢字力とその指導法」 (遠藤与治右衛門) 。</p> <p>(〃) 「漢字仮名遣ひの指導について」 (青木正二) 。</p> <p>(〃) 「国語研究会記録 (二) 」 (東京府南多摩郡教育会) 。</p> <p>(〃) 「同人の頁 松原秀治, 菊沢季生, 熊沢龍, 乾輝雄, 大西雅雄, 石黒修, 松宮一也, 金原省吾, 名取堯」 。</p> <p>(〃) 「コトバ情報」 (石黒修編) 。</p>
〃	11・3	大東亜文学者大会開会式 (～ 11月5日帝劇。満・蒙・華代表出席) 。
〃	11・8	ベタン元帥 (ビシー仏政府) , 米英連合軍の北アフリカ上陸に抗議。11月9日対米国交断絶。11月10日ダルラン提督 (在アルジェ) 停戦を命令。
〃	11・11	独軍, 連合軍の北アフリカ上陸に報復するため非占領フランスへ進駐。
〃	11・12	〔日〕 日本語教育講演会 (北京華北日本語教育研究所主催, 会場日華語学校講堂) 。
〃	11・14	〔日〕 南方派遣教育要員養成所 (所長松尾図書局長, 主事大岡国語課長) を設置。
〃	〃	〔日〕 南方派遣教育要員第一回講習会 (～ 12月26日。主催文部省図書

西 暦	年 代	項 目
1942		局, 場所東京高等歯科医学校内日本語教員養成所。以後数回の講習会を開催, フィリピン・ジャワ・ビルマなどの各地へ派遣)。
"	11・14	「第三次ソロモン海戦」。
"	11・15	〔日〕 第一回語学教育研究大会(～16日。主催文部省語学教育研究所)。
"	11・17	閣議, 各省庁の権限を大幅に各統制会に移譲することを決定。
"	"	日本英文学会第十四回大会。
"	11・19	ソ連軍, スターリングランドで挟撃作戦による大反撃を開始。11月22日 独軍(司令官パウルス), ドン川とボルガ川から退却。
"	11・20	日本文学報国会, 「愛国百人一首」選定発表(情報局後援)。
"	"	〔書〕「GRAMMTICA DELLA LINGUA GIAPPONESE METOD TEORICO PRATICO」(「CORESTE VACCARI, ENKO ELIZA VACCARI. 英文通論発行所)。
"	11・30	〔書〕「日本語教授法」(興水実, 国語文化研究所)。
"	11・	〔日〕 国際学友会の所管, 大東亜省の設置に伴い, 外務省から大東亜省に 移管。
"	"	〔日〕「教育展覧会(南京日語研究会, 南京のほか, 鎮江, 蕪湖, 巢県にて 開催)。
"	"	〔日〕 日語大会(南京日語研究会)。
"	"	〔日〕 南洋協会, 南洋学院設立(仏印西貢。専門学校に準拠する学院)。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四八四号, 「南方特輯号」)。 (同上)「巻頭言 南方に対する台湾の地位」。 (「」)「大東亜共栄圏に於ける日本語の将来」(安藤正次)。 (「」)「南方共栄圏と国語問題」(伊藤慎吾)。 (「」)「大東亜及び南方共栄圏日本語問題雑考」(福田良輔)。 (「」)「日本語を大東亜共栄圏に普及せしむる問題」(大浦精一)。 (「」)「日本語教科書に就いて」(加藤春城)。
"	"	〔書〕「日・英・タガログ語会話辞典」(ラファエル・アキノ, 江野沢恒 著, 岡倉書房)。
"	"	〔書〕「 ^{日独伊} _{英仏西} 航空用語辞典」(アーレンス著, 宮本晃男訳, 三省 堂)。
"	"	〔書〕「口語法事典」(森本種次郎, 文進堂)。
"	"	〔書〕「日独英仏羅獣医語辞典」(橘高林助編, 文永堂書店。 「Moderne Tierärztliche Terminologie」)。

西 暦	年 代	項 目
1942	11・	〔書〕「揚子江 第5巻11号～8巻1号」(坂名井深蔵編, 東京・揚子江社。月刊。昭和17年11月～20年1月)。
〃	〃	<p>〔書〕「日本語」第二巻第十二号)。</p> <p>(同上)「巻頭言 国語問題への正しき態度」(相良惟一)。</p> <p>(〃)「大東亜建設の思想的基礎」(玉井茂)。</p> <p>(〃)「日本語の世界観」(岩沢巖)。</p> <p>(〃)「言語の本質」(ハインツ・フリューゲル 鶴川義之助抄訳)。</p> <p>(〃)「古代に於ける話言葉」(湯沢幸吉郎)。</p> <p>(〃)「現代日本語の主語の省略」(白石大二)。</p> <p>(〃)「漢和辞典論」(伊藤弥太郎)。</p> <p>(〃)「漢字検索法」(長沼直兄)。</p> <p>(〃)「中学生の国語教室より 一 語法の誤と表記の誤 一」(三井政雄)。</p> <p>(〃)「日本語教室 南方原住民に擬声語を教へて」(宮本要吉)。</p> <p>(〃)「日本語教室 日本語教師の錬成」(大出正篤)。</p> <p>(〃)「日本語教室 「日本語指導論」に就いて」(大石初太郎)。</p> <p>(〃)「読物 支那関係書解題」(岩村忍)。</p> <p>(〃)「読物 北京の廟会」(岩村成正)。</p>
〃	〃	<p>〔書〕「コトバ」(第四巻第十二号, 「特輯(一) 昭和十七年回顧, (二) 外地の日本語」)。</p> <p>(同上)「中世に於ける言語意識の発生と展開」(永山勇)。</p> <p>(〃)「敬語法の境界線」(三上章)。</p> <p>(〃)「時間的表現」(山崎末彦)。</p> <p>(〃)「コトバ情報(石黒修編)」。</p> <p>(〃)「同人の頁 百田宗治, 石黒修, 石井庄司, 松原秀治, 三尾砂, 魚返善雄, 平山輝男, 湯山清, 名取堯, 原勝, 乾輝雄, 黒野政市」。</p> <p>(〃)「昭和十七年の日本語文献」(興水実)。</p> <p>(〃)「「日本語基本文型」を読んで」(三尾砂)。</p> <p>(〃)「一年間の国語教育を顧みて」(秋田喜三郎)。</p> <p>(〃)「満州国日本語教育の概況」(堀敏夫)。</p> <p>(〃)「南支の日本語」(高沼順二)。</p> <p>(〃)「関東州日本語教育研究会の記」(大石初太郎)。</p> <p>(〃)「関東州日本語教育の印象」(興水実)。</p> <p>(〃)「話行記(大連行)」(原勝)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1942		(同上)「国語運動の将来」(岡崎常太郎・宮本要吉)。
〃	12・2	〔比〕 比島にカトリックの女子使節19名到着,約800名の生徒に日本語を教える。
〃	12・3	第1回大東亜戦争美術展(府美,~12・27)。藤田嗣治「十二月八日の真珠湾」「シンガポール最後の日」,中村研一「ゴタバル」,宮本三郎「山下・パーシバル両司令官会見図」など。
〃	12・4	〔国〕「標準漢字表(2669字)」について閣議で正式決定。
〃	12・5	〔日〕 日本語雄弁大会(北京中央日本語学院主催,北京の各種日本語学校から1名参加)。
〃	〃	船舶徴用問題で参謀本部と陸海軍省衝突。12月7日作戦部長田中新一罷免されて妥協成立。
〃	12・8	セレベスのマカッサルでは,大東亜戦争一周年を期し,市内街路126のうち,47を日本語で「ヤマト通り」「サクラ通り」式に改める(18年2月11日,残りの79もこれにならう)。
〃	〃	ニューギニアのバサプアの日本軍玉砕(戦死800人)。
〃	12・9	閣議で,「マレイ」を「マライ」,「バタビヤ」を「ジャカルタ」,「旧英・蘭領ボルネオ」を「南北ボルネオ」と呼ぶことに決定。
〃	12・10	御前会議,「当面の戦争指導上作戦と物的国力との調整並に国力の維持増進に関する件」を決定。
〃	〃	〔日〕 第二十九回全島国語演習会(場所,台北市公会堂,参加人数587名,番外を含む)。
〃	12・13	〔書〕「皇国文学6 日本語教育の問題」(塩田良平編,六芸社)。
〃	12・19	〔日〕 大東亜宣伝聯盟用語委員会第二回幹事会。
〃	12・21	御前会議,「大東亜戦争完遂のための対支処理根本方針」(汪政権の参戦,対中国和平工作の廃止)を決定。
〃	〃	〔日〕 日本語教授研究所特別研究会。
〃	〃	〔日〕 日泰文化協定締結(第四条第二号「締約国ノ一方ハ自国ノ諸学校ニ於ケル他方ノ国語ノ教授ニ特別,考慮ヲ払フベシ」 第十一条「締約国ハ両国間ノ文化関係ノ増進ニ寄与セシムル為夫々相手国ノ首府ニ於ケル文化紹介機関ノ設置ニ努ムベク且右機関ノ事業ニ対シ相互ニ能フ限り便宜ヲ供与スベシ」)。
〃	12・23	大日本言論報国会設立總會(会長徳富蘇峰,事務局長鹿子木員信)。
〃	12・25	〔日〕 日本語普及研究会第二期(主催青年文化協会日本語普及会,昭和17年12月25~29日。昭和18年1月8日~29日)。
〃	12・26	〔日〕 南方派遣日本語教育要員第一回講習会修了式(69名,課程修了)。

西 暦	年 代	項 目
1942	12・28	日本出版協会、用紙割当を大幅に減配決定（単行本5割、雑誌4割）。
"	12・31	大本營、ガダルカナル島撤退を決定。
"	12・	〔日〕 教育座談会（南京日語研究会）。
"	"	「セレベス新聞」（毎日）、「ジャワ新聞」（朝日）など、占領地邦字新聞創刊。
"	"	〔日〕 ジャワ文教局が設けられる（同年3月軍政がしかれ、文教班が教育行政にあたり、(1)休校状態にあった諸学校の再開と教科書の改訂、(2)日本語学校の開設、教員の再教育、(3)日本教育の紹介、青年道場等の開設に努力した。この文教局が設けられてからは文部省等の教育要員が局にあたり、組織的、計画的な教育行政が行われるようになった。教育課は学校の増設と教員の養成及び再教育、日本語の普及、錬成課は、一般社会教育、青年団教育、社会教育施設の維持拡充、文化財の保護に重点を置いた。学制は制度的には、6・3・3とし、日本語を課した。このほか華僑系の学校があったが、これは日本語を課してそのまま認めた。日本語教育については、占領当初は、初歩の教科書を編集し、各学校に日本語の時間を新設して強力に進められた）。
"	"	〔日〕 十二月現在、南京日語教育研究会会員名簿（五十音順）、（日本人三十四名、中国人二名）。「旭外子（金陵女子技芸学校）、大河内孝（国立中央大学）、大塚道夫（国立第一職業学校）、岡田重森（南京市立模範小学校）、加藤ヨシノ（南京居留団立日語学校）、亀谷法城（南京仏学院）、菊冲徳平（国立中央大学附属中学）、菊地一三（南京市立第二中学校）、北山巖（金陵女子技芸学校）、国広万里（国立中央大学）、芝田ハツ（国立模範女子中学校）島村功（南京市立夫子廟小学校）、朱令彝（南京市立女子中学校）、高杉直樹（国立模範中学）、谷内良英（鎮江県立初級中学校）、中牧隆忠（内国立模範女子中学校）、成田真穂子（内政部県政訓練所）、梅仁性（国立模範中学校）、林米子（南京市立女子中学校）、深沢泉（同倫中学）、真下政安（安徽省蕪湖中学校）、松島貞夫（南京居留民団立日語学校）、見尾勝馬（国立中央大学）、酒井長英（育徳中学）、真田幸雄（同倫女子中学）、滝沢忠三（国立師範附属小学）、谷川丈太郎（市立珠江路小学）、吉田文雄（南京市立五台山小学校）、林秀華（南京市立第二中学校）、渡辺定則（同倫中学）、大森陸治（国立模範中学）、岡六樹（留日同学会日語専修学校）、小原武三郎（国立師範学校）」。
"	"	〔日〕 北部仏印では、大使府指導の日本人会より独立した日本語講習班を組織。
"	"	〔日〕 比島、日語軍政要員第一陣到着。

西 暦	年 代	項 目
1942	12・	<p>〔書〕「台湾教育」(第四八五号)。</p> <p>(同上)「言葉の教育(三)」(門司勇)。</p> <p>(〃)「国語の特質」(日野一雄)。</p>
〃	〃	〔書〕「日・英・馬來語會話辭典」(三宅幸彦著,岡倉書房)。
〃	〃	〔書〕「漢字くづし方大字典」(藤沢衛彦編,博多・成象堂)。
〃	〃	〔書〕「支那語彙」(河野通一訳編,大連・満州日日新聞社)。
〃	〃	〔書〕「新經濟辭典」(太田正孝,富山房)。
〃	〃	〔書〕「西・葡・墨・比・中南米・伯・玖・ドミニカ・ハイティール地名辞典」(村岡玄・村岡恭子共編,大観堂)。
〃	(昭和17年)	〔日〕 ビルマに日本語教師二百数十名派遣(ビルマでは,学制は従来のままとし,日本語を英語とともに任意選択した。内地からの日本語要員は,二百数十名に及び,日本語教科書も五巻まで編集した)。
〃	〃	〔日〕 マライでは,英語を廃止,日本語が必修科目となる(マライでは,学制は戦前のものを踏襲し,教科目の英語は廃止して日本語を加え,多少興亜的科目を加えた。日本語教科書は,日本語を学びながら興亜的精神の涵養に資するように編集された。教員養成のために,上級師範学校をシンガポールに開設したが,のちクアラルンプールに移した。なお,官吏養成のために興亜訓練所を設けた)。
〃	〃	〔日〕 スマトラでは,オランダ語を廃止,日本語を教科目にした。日本語教師300を派遣(スマトラでは,オランダ時代の二本建の学制を6・3・3の単一制に改め,オランダ語を廃止し,日本語を加えた。教員養成のため,上級師範学校を開設し,授業料を免じ,食費を支給した。又現地人官吏養成所も設けた。なお,日本からの教育要員も300名を越えた)。
〃	〃	〔日〕 満州国,民生部教育司,文教部に昇格。
〃	〃	〔日〕 国際学友会,ビルマ・マライ・ジャワ・セレベス・フィリピンからの留学生を受け入れる)。
〃	〃	〔日〕 昭和17年度満州国語学力検定試験受験者数・合格者数(〔日本語〕特等受験者数224,合格者数11,一等受験者数1568,合格者数110 二等受験者数6678,合格者数589,三等受験者数27628,合格者数1879,合計受験者数36098,合計合格者数2598。第一回～第七回までの累計,特等受験者数999,合格者数79,一等受験者数7436,合格者数635,二等受験者数27237,合格者数2791,三等受験者数

西 暦	年 代	項 目
1942		110727, 合計合格者数11823, 合計受験者数146599, 合計合格者数15238)。
"	(昭和17年)	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 卒業数, 本島人58, 高砂族2)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(卒業数, 本島人7765, 高砂族64)。
"	"	〔日〕 台湾の公学校で日本語教育を受けた本島人児童の就学比率65・82%。台湾における日本人小学校児童就学比率99・6%。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 卒業数, 本島人1032, 高砂族0)。
"	"	〔日〕 高等女学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(女子高等普通学校, 生徒数, 本島人4343, 高砂族3, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 卒業数, 本島人544, 蕃人4, 小学校高等科, 卒業数, 本島人114, 蕃人2)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒不明, 卒業数, 本島人896, 高砂族2, 実業補習学校, 生徒数不明, 卒業数, 本島人3454, 高砂族63)。
"	"	〔日〕 高等学校の生徒数・卒業数(生徒数, 高等学校101, 中学校に相当する尋常科14, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 卒業数30)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数不明, 卒業数116)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数180, 生徒数10355, 卒業数2167)。
"	"	〔日〕 国語保育園, 幼児国語普及施設所数・生徒数(所数1797, 生徒数70435)。
"	"	〔日〕 国語講習所の所数・会員数・国語普及歩合(所数266, 会員数22093, 国語普及歩合50・59)。
"	"	〔日〕 明治32年～昭和17年度まで各級学校を卒業した本島人累計卒業数(国民学校, 本島人, 男732906, 女233700, 高砂族, 男17461, 女9988, 累計984165。中学校, 本島人, 男826, 高砂族, 男4。女学校, 本島人, 女8830, 高砂族, 女4。実業学校, 本島人, 男6040, 高砂族, 男21。実業補習学校, 本島人, 男16230, 女2937, 高砂族, 男1049。高等学校, 本島人, 男473。専門学校, 本島人, 男2248, 高砂族, 男6。大学, 本島人, 男154)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	この年、日本軍の「掃蕩・蚕食・三光治安強化政策」のため、八路軍、40万から30万人に減少。解放区人口1億から半減。
"	"	〔書〕「ハナ・ヤサイ・クダモノ」(日本語教育振興会。支那学童用絵本)
"	"	〔書〕「オホゾラ」(日本語教育振興会。支那学童用絵本)。
"	"	〔書〕「日本文化読本 大学の学生生活」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「日本文化読本 日本の年中行事」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「ニッポン語」(情報局。南方共栄圏普及用)。
"	"	〔書〕「南方向三百語日本語」(マレイ語版、大東亜出版文化会社)。
"	"	〔書〕「 ^{実用} _{雙関} 日語法」(丁卓、民国卅一年)。
"	"	〔書〕「コクゴ 二、四」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「コクゴ 二、四掛図二、四」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用国語読本(改正出版)第一種巻十二」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「公学校用書方手本第六学年用下」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「コクゴ指導細目並に教材研究」(台湾教材研究会)。
"	"	〔書〕「コクゴと連絡したる国民学校話方指導細目」(台湾教材研究会)。
"	"	〔書〕「国民学校綴方の鑑賞」(坂口貴敏)。
"	"	〔書〕「話言葉の教授に就いて」(益田信夫、華北日本語普及協会)。
"	"	〔書〕「支那語国民に対する日本語の教育」(野村瑞峯、北隆館)。
"	"	〔書〕「Japanese in Thirty Hours」(清岡映一、北星堂)。
"	"	〔書〕「Colloquial Japanese」(William M. McGovern: New York・Putton. Co)。
"	"	〔書〕「日本語教育の問題点」(塩田良平編、「皇国文学6」, 六芸社)。
"	"	〔書〕「 ^精 _説 英文法汎論(第1巻)」(「An Advanced English Syntax」, 細江逸記, 泰文堂)。
"	"	〔書〕「大皇国民の錬成」(檜崎武)。
"	"	〔書〕「旅日十感」(民国揚剣青著, 北平・反共出版社。民国卅一年刊。32p)。
"	"	〔書〕「満州国学生日本留学拾周年史」(満州謝廷秀編, 満州康德九年刊。482p)。
"	"	〔書〕「日本留学支那要人録」(興亜院政務部編, 興亜院政務部。昭和17年刊。286p。「調査資料27号」)。
"	"	〔書〕「謡曲盆樹記」(民国錢稻孫訳, 北京・近代化学図書館。昭和17年刊。30p)。
"	"	〔書〕「本 尊」(山本有三著, 井田啓勝訳, 東京・文求堂。昭和17年刊。98p)。

西 曆	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「和譯唐大和上東征傳」(中村詳一訳, 大阪・堀朋近。昭和17年刊。30p)。
"	"	〔書〕「唐招提寺遊記」(満州白文会編, 満州康德九年刊。タイプ。1冊)
"	"	〔書〕「中国文明史物語」(大林重信著, 東京・富山房。昭和17年刊。182p)。
"	"	〔書〕「唐の太宗と隋唐文化」(清家瑩三郎著, 東京・光風館。昭和17年刊。508p)。
"	"	〔書〕「水滸傳と支那民族」(井坂錦江著, 東京・大東出版社。昭和17年刊。「東亜文化叢書7」。314p)。
"	"	〔書〕「清史稿 536巻」(民国趙爾巽等編, 聯合書店。民国卅一年刊。2冊)。
"	"	〔書〕「除滅洋鬼子(義和団変乱記)」(ジョージ・リンチ著, 清見陸郎訳, 東京・産業経済社。昭和17年刊。341p)。
"	"	〔書〕「西太后に侍して」(清徳菱(裕徳齡)著, 太田七郎, 田中克己訳, 東京・生活社。昭和17年刊。「中国文学叢書」。489p)。
"	"	〔書〕「支那風物志 一 風景篇」(後藤朝太郎訳, 東京・大東出版社。昭和17年刊。314p)。
"	"	〔書〕「上海研究 第1輯」(蘆沢駿之助編, 上海・歴史地理研究会。昭和17年刊。167p)。
"	"	〔書〕「滬上史談 一 上海に関する史的隨筆」(沖田一著, 上海・大陸新報社。昭和17年刊。「大陸叢書第2輯」。106p)。
"	"	〔書〕「上海史話」(米沢秀夫著, 東京・畝傍書房。昭和17年刊。410p)。
"	"	〔書〕「上海生活」(若江得行著, 東京・講談社。昭和17年刊。245p)。
"	"	〔書〕「廣東珠江」(久保健二著, 東京・東亜書林。昭和17年刊。82p)。
"	"	〔書〕「賽金花」(民国劉半農著, 竹内好訳, 東京・生活社。昭和17年刊。「中国文学叢書」。194p)。
"	"	〔書〕「日支文化の交流」(辻善之助著, 大阪・創元社。昭和17年刊。218p)。
"	"	〔書〕「支那の発見」(一戸務著, 東京・光風館。昭和17年刊。339p)。
"	"	〔書〕「新現地型邦人生活讀本」(北京文化協会編。昭和17年刊。120p)。
"	"	〔書〕「〔大東文化〕学院創立二十周年記念論文集」(東京・大東文化学院。昭和17年刊。243p。「大東文化学報7, 8合輯」)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「中國人の生活風景」(民国柯政和著,東京・皇国青年教育協会。昭和17年刊。287p)。
"	"	〔書〕「近代漢文選」(実藤恵秀編,東京・前野書店。昭和17年刊。72p)。
"	"	〔書〕「華語集刊 第1期」(神谷衡平等編,東京・螢雪書院。昭和17年刊。157p)。
"	"	〔書〕「華語集編」(神谷衡平等編,東京・螢雪書院。昭和17年刊。99p)。
"	"	〔書〕「支那語発音教本」(大阪外国語学校大陸語学研究所編。昭和17年刊。孔版。31p)。
"	"	〔書〕「中國文學與日本文學」(青木正児著,民国梁盛志訳,北京・国立華北編訳館。民国卅一年刊。「現代知識叢書1」。116p)。
"	"	〔書〕「阿片戦争 — その史実と物語」(松崎啓次,小国英雄共著,東京・高山書店。昭和17年刊。265p)。
"	"	〔書〕「湖南の兵士」(民国沈從文著,大島覚訳,東京・小学館。昭和17年刊。270p)。
"	"	〔書〕「新中国小説集」(魚返善雄編,東京・目黒書店。昭和17年刊。「支那語文化輯刊1」。175p。内容;下郷(民国徐轉蓬) 村児驟學記(民国老向) 微波(民国茅盾) 一件小事(民国魯迅) 水災(民国廣廬隱) 石宕(民国許欽文) 飯(民国葉紹鈞) 九個遣散兵(民国謝冰瑩) 冬児姑娘(民国謝婉瑩) 度量(民国張天翼) 壓歲錢(民国鄭振鐸) 洋官与與雞(民国艾蕪)。
"	"	〔書〕「鄧惜華 — ある中国青年の自伝」(エス・トレチャコフ著,一条重美訳,東京・生活社。昭和17年刊。「中国文学叢書」。505p)。
"	"	〔書〕「中國青年黨 建黨十九週年紀念特刊」(中国青年党中央政治行動委員会。民国卅一年刊)。
"	"	〔書〕「東南亜細亜に於ける外国投資」(^{H・G・キャリス} 太平洋問題調査部訳)。
"	"	〔書〕「北亜細亜学報(一〜三輯)」(^{北亜細亜} 文化研究所。~昭和19年)
"	"	〔書〕「西南アジアの趨勢」(矢野仁一監修)。
"	"	〔書〕「漠北と南海(^{アジア史に於ける} 沙漠と海洋)」(松田寿男)。
"	"	〔書〕「東洋文化史百講(第一〜三巻)」(石川三四郎)。
"	"	〔書〕「東洋美術史研究」(浜田耕作)。
"	"	〔書〕「東亜双書(一〜十四輯)」(東亜研究所。~昭和19年)。
"	"	〔書〕「東亜経済年報」(山口高商東亜研)。
"	"	〔書〕「東亜社会経済研究」(田村市郎編)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「大東亜統計双書(仏印統計書他)八冊」(国際日本協会。～昭和18年)。
"	"	〔書〕「大東亜共栄圏の交通現勢(鉄道省運輸局)。
"	"	〔書〕「大東亜共栄圏港湾要覧」(工藤敏郎他)。
"	"	〔書〕「東亜の農業資源」(佐々木喬監修)。
"	"	〔書〕「大東亜農業経済の再編成」(角田藤三郎)。
"	"	〔書〕「土幕民の生活・衛生」(京城帝大調査部)。
"	"	〔書〕「満州行政経済年報」(日本政治問題調査所)。
"	"	〔書〕「満州及支那辞典」(河瀬蘇北編)。
"	"	〔書〕「康德九年度事業所得税決定額調」(經濟部税務司。康德九年)。
"	"	〔書〕「日満農政研究会技術委員会速記録」(同新京事務所。康德九年)。
"	"	〔書〕「日満農政研究会第四回総会速記録」(康德九年)。
"	"	〔書〕「満州農業再編成の研究」(佐藤武夫)。
"	"	〔書〕「満州農業経済論」(近藤康男)。
"	"	〔書〕「北満に於ける雇農の研究」(満鉄調査部)。
"	"	〔書〕「東拓の農林・畜産業」(東洋拓植株式会社)。
"	"	〔書〕「満州開拓懇談会速記録」(^{日満農政研究会} _{東京事務所})。
"	"	〔書〕「東寧報国農場隊概要 第一輯」(農業報国連盟)。
"	"	〔書〕「支那最近大事年表」(小島昌太郎)。
"	"	〔書〕「支那問題辞典」(中央公論社)。
"	"	〔書〕「毛沢東著 新民主主義論(全訳)」(^{在北京日本帝国} _{大使館調査室})。
"	"	〔書〕「中華民國法制年鑑」(中国法制調査会編)。民国卅一年)。
"	"	〔書〕「美しき支那 文化篇」(米田祐太郎)。
"	"	〔書〕「支那思想の研究」(高田真治)。
"	"	〔書〕「支那中世の軍閥」(日野開三郎)。
"	"	〔書〕「支那社会の研究 — 社会学的考察 —」(清水盛光)。
"	"	〔書〕「支那社会経済史研究」(玉井是博)。
"	"	〔書〕「バーデス 北京のギルド生活」(申鎮均訳)。
"	"	〔書〕「支那貧窮問題研究」(^{柯象峰} _{陸麻呂利輔} 訳)。
"	"	〔書〕「支那の経済心理」(^{ウイルヘルム} _{佐藤国一郎})。
"	"	〔書〕「全国生産会議総報告(翻訳)極秘」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「諸外国の対支投資(全三冊)」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「支那の通貨と貿易」(土方成美編)。
"	"	〔書〕「支那中央銀行論」(徳永清行)。
"	"	〔書〕「重慶戦時体制論」(石浜知行)。
"	"	〔書〕「(秘) 昭和十六年度 中支ニ於ケル主要商品概況調査」。
"	"	〔書〕「支那の国土計画」(^{孫文} _{芳賀雄} 訳)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「中支那振興会社並関係会社事業概要」。
"	"	〔書〕「吳知郷村、織布工業の一研究」(信夫清三郎他三氏訳)。
"	"	〔書〕「華僑の研究」(企画院)。
"	"	〔書〕「 ^{ケーター} 華僑の経済的地位=東印度」(成田節男、吉村泰郎)。
"	"	〔書〕「華僑経済論」(福田省三)。
"	"	〔書〕「華 僑」(井出季和太)。
"	"	〔書〕「華僑襍記」(根岸佑)。
"	"	〔書〕「支那農業経済論」(天野元之助)。
"	"	〔書〕「支那都市不動産慣行調査資料(七輯)」(満鉄)。
"	"	〔書〕「広東省土壤調査報告書」(興亜院広東事務所)。
"	"	〔書〕「支那の人口と食糧問題」(喬 啓明・蔣傑、上松一光他訳)。
"	"	〔書〕「広東・ハノイ・盤谷」(永田直三)。
"	"	〔書〕「東ソ各区の産業立地的特質」(満鉄調査部)。
"	"	〔書〕「カムチャッカ発見と」(エリ・エス・ベルク、小場有米訳)。
"	"	〔書〕「台湾経済年報(二)」(台湾経済年報刊行会)。
"	"	〔書〕「南方開発史」(井出季和太)。
"	"	〔書〕「日本南方発展史」(安里延)。
"	"	〔書〕「南方共栄圏の全貌」(佐藤弘)。
"	"	〔書〕「南方資源経済論」(福田要)。
"	"	〔書〕「南方石油経済」(宇井丑之助)。
"	"	〔書〕「南方共栄圏の労働問題」(協調会)。
"	"	〔書〕「南日本の建設」(石原広一郎)。
"	"	〔書〕「大南洋年鑑(一)」(南洋団体聯合会)。
"	"	〔書〕大南洋地名辞典 泰国, 仏印馬來, 北西ボルネオ (二冊)」(南洋経済研。~昭和18年)。
"	"	〔書〕「南洋諸島(自然と資源)」(太平洋協会編)。
"	"	〔書〕「南洋を科学する」(藤永文治郎)。
"	"	〔書〕「南洋邦人農企業現況一覧」(拓務省拓南局)。
"	"	〔書〕「セレベス」(^{エル・ファン・ビューレン} 日本 インドネシア協会訳)。
"	"	〔書〕「ボルネオ紀行」(小倉清太郎)。
"	"	〔書〕「馬來諸島」(^{A・R・ワレス著} 内田嘉吉訳・南洋協会編)。
"	"	〔書〕「馬來より馬來へ」(ブルース・ロックハート・山崎慶一)。
"	"	〔書〕「マレーシアの農業地理」(^{ファルケンブルク} 太平洋協会編)。
"	"	〔書〕「タイ国史」(^{W・A・R・ワット} 郡司嘉一訳)。
"	"	〔書〕「泰国農村経済論」(明石二郎・関嘉彦・太平洋協会編)。
"	"	〔書〕「タイ国森林地帯紀行」(^{ノエル・ウイニヤード} 柴田賢一訳)。
"	"	〔書〕「印度史」(ドッドウェル著寺田頼男訳)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「現代印度の諸問題」(脇山康之助)。
"	"	〔書〕「現代印度の構成」(レオナルド・シフ 国際文化協会訳)。
"	"	〔書〕「印度經濟の研究」(アンスティ著末高信訳)。
"	"	〔書〕「印度の抗戦力」(綜合インド問題研)。
"	"	〔書〕「印度地誌」(大谷光瑞)。
"	"	〔書〕「印度資源論」(小生第四郎訳)。
"	"	〔書〕「印度の民俗と生活」(岡崎文規)。
"	"	〔書〕「印度襍記」(橋本真機子)。
"	"	〔書〕「 ^{エー・ペー・キールストラ著} 和蘭の東印度経略概史」(村松薫訳)。
"	"	〔書〕「ビルマの幽境」(C・M・エリンク・緬甸研究会訳編)。
"	"	〔書〕「ビルマ鉦産資源」(^{H・L・チッパア} 南洋協会訳)。
"	"	〔書〕「印度支那(仏印・タイ・ビルマ・マレイ)」(室賀信夫)。
"	"	〔書〕「印度支那労働調査」(^{国際労働局編} 南洋経済研究所訳)。
"	"	〔書〕「仏印研究」(井出浅亀)。
"	"	〔書〕「仏印概要」(秋保一郎)。
"	"	〔書〕「蘭印の経済政治社会史」(^{ウェーニバル} 清水暉吉訳)。
"	"	〔書〕「蘭印衛生事情」(日本公衆保健協会)。
"	"	〔書〕「蘭印政庁の衛生工作」(旧蘭印政庁編)。
"	"	〔書〕「フィリピン史」(^{D・P・バロウス著} 法貴三郎訳)。
"	"	〔書〕「西班牙古文書を通じて見たる日本と比律」(奈良静馬)。
"	"	〔書〕「フィリピンに於ける資源及貿易」(^{日本貿易振興株式会社})。
"	"	〔書〕「フィリピンの性格」(今村忠助)。
"	"	〔書〕「東印度及濠州の点描」(小林織之助)。
"	"	〔書〕「濠州連邦」(宮田峯一)。
"	"	〔書〕「濠州連邦の産業概要」(台湾銀行調査部)。
"	"	〔書〕「動く濠州」(井上昇三著)。
"	"	〔書〕「濠州羊毛の研究」(^{C・E・カウレ} 水野一郎訳)。
"	"	〔書〕「最近の濠州事情」(西川忠一郎)。
"	"	〔書〕「土耳古(^{シリア・パレスチナ・} トランス・ヨルダン)」(野間三郎)。
"	"	〔書〕「南の理想郷ニュージーランド」(川瀬勇)。
"	"	〔書〕「アジア諸民族」(厚生省人口問題研究所)。
"	"	〔書〕「東南アジアの民族と文化」(^{ハイネ・ゲルデルン著} 小堀甚二訳)。
"	"	〔書〕「大東亜民族問題」(松岡寿人)。
"	"	〔書〕「フィリピンの自然と民族」(太平洋協会編)。
"	"	〔書〕「比律賓の民族」(棚瀬襄爾)。
"	"	〔書〕「比律賓民族史」(三吉朋十)。
"	"	〔書〕「近世欧羅巴植民史(一卷)」(大川周明)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「東亜植民政策論」(秋保一郎)。
"	"	〔書〕「日本植民思想史」(黒田謙一)。
"	"	〔書〕「南方開拓者の指導」(古関徳弥)。
"	"	〔書〕「日本海外発展史」(西村真次)。
"	"	〔書〕「満州移民前夜物語」(永田 稔)。
"	"	〔書〕「蒙疆年鑑 (昭和17年版)」(蒙疆新聞)。
"	"	〔書〕「支那を支配するもの」(佐藤俊三)。
"	"	〔書〕「教育日本」(吉田熊次)。
"	"	〔書〕「日本国民教育及教育史」(岡田怡三雄)。
"	"	〔書〕「国民教育の中心問題(其の一、二)」(佐藤熊治郎)。
"	"	〔書〕「日本教学の特性」(松原致遠)。
"	"	〔書〕「教育の仕方」(カール・ビルチィ)。 守谷英次
"	"	〔書〕「国民道徳と倫理学」(宮島真一)。
"	"	〔書〕「独逸青少年訓」(ヒトラー総統述, シーラッパ編)。 明治 池田林儀訳
"	"	〔書〕「大正教育思想学説人物史 (一〜四巻)」(藤原喜代蔵。〜 昭和 昭和19年)。
"	"	〔書〕「良い子供と私 ― 一年生受持教師の手記 ― 」(渡辺威雄)。
"	"	〔書〕「ド・カット・アンジュリノ (蘭民植民政策) 」(東亜研究所)。 蘭印教育政策(翻訳) 其の三
"	"	〔書〕「私立学校事務提要」(小島末一)。 附学校関係法令
"	"	〔書〕「第二回戦時教育協力会議会員名簿」。
"	"	〔書〕「実業教育関係法令の沿革」(文部省)。
"	"	〔書〕「学制七十年史」(文部省)。
"	"	〔書〕「文部省推薦並教学局選奨図書一覧」(教学局)。 思想関係発禁図書
"	"	〔書〕「師範学校教科教授要綱案」(文部省)。
"	"	〔書〕「支那教育史」(内田高次)。
"	"	〔書〕「上水内教育会沿革史」(上水内教育会)。
"	"	〔書〕「本邦保護施設に関する調査」(社会事業研究所)。
"	"	〔書〕「父親と育児」(斉藤文雄)。
"	"	〔書〕「新撰 女子公民教科書(上・下)」(穂積重遠)。 四宮茂
"	"	〔書〕「最近家庭教育」(今村正一)。
"	"	〔書〕「国民学校に於ける錬成の本道」((社)学校教育研究会)。
"	"	〔書〕「東京府国民学校一覧 (附認定学校及国民夜学校)」(東京府学務部学務課)。
"	"	〔書〕「国民学校関係令規輯」(大阪府学務課編)。
"	"	〔書〕「石川師範学校附属 国民学校経営概要」(赤松昂編)。
"	"	〔書〕「青年学校教育上の諸問題」(島崎晴吉)。
"	"	〔書〕「青少年社会生活の研究」(青木誠四郎)。
"	"	〔書〕「児童はどう誤算するか」(高橋勇)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「仏印・泰・支那言語の交流」(後藤朝太郎)。
"	"	〔書〕「東京聾啞学校一覽 ^{自昭和十七年四月至昭和十八年三月} 」(東京聾啞学校)。
"	"	〔書〕「青年の心理」(シュブランガー)。 土井竹治訳
"	"	〔書〕「現代心理学と児童研究」(後藤岩男)。
"	"	〔書〕「国語の道 - 言葉・国語・語法」(木枝増一)。
"	"	〔書〕「戦時刑事特別法案」(司法省刑事局)。
"	"	〔書〕「 ^{南方法秩序説} - 民俗信仰を中心として -」(増田福太郎)。
"	"	〔書〕「歴史の側面から」(末川博)。
"	"	〔書〕「国家総動員法判例全集」(庵 公平他)。
"	"	〔書〕「日本統制経済法」(津曲蔵之丞)。
"	"	〔書〕「国家経済法体制」(末川博)。
"	"	〔書〕「営団と統制会」(高田源清)。
"	"	〔書〕「杉山教授還暦祝賀論文集」(福井勇二郎)。
"	"	〔書〕「法と裁判」(齊藤博士還暦)」(北村五良)。
"	"	〔書〕「法と政治(増補版)」(田畑忍)。
"	"	〔書〕「西洋法律学批判」(佐藤清勝)。
"	"	〔書〕「強者の権利の競争」(加藤弘之)」(田畑忍)。
"	"	〔書〕「現代ドイツ法哲学」(^{カール・ラレンツ} 大西芳雄他訳)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 日本法制史概論」(牧建二)。
"	"	〔書〕「近世藩法資料集成 1巻」(京大日本法制史研)。
"	"	〔書〕「徳川時代刑法の概観」(司法資料)。
"	"	〔書〕「羅馬私法提要」(船田亨二)。
"	"	〔書〕「ゾーム フランク法とローマ法」(久保正幡訳)。
"	"	〔書〕「支那法の根本問題」(河合篤編訳)。
"	"	〔書〕「帝国憲法概論」(里見岸雄)。
"	"	〔書〕「帝国憲法と金子伯」(藤井信一)。
"	"	〔書〕「憲法制定とロエスレル」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「推薦候補者名簿・他」(翼賛政治体制協議会)。
"	"	〔書〕「行政法総論(上巻)」(野村淳治)。
"	"	〔書〕「国土計画(理論・組織・展開)」(加藤長雄)。
"	"	〔書〕「国土計画」(石川榮耀)。
"	"	〔書〕「独逸国国土並地方計画体系(第一輯)」(^{ナチス党} 定住局編)。
"	"	〔書〕「最近都市計画の実際」(国友孝)。
"	"	〔書〕「住宅統計資料(第一号~五号)」(住宅営団経営局調査課。~昭和18年)。
"	"	〔書〕「土地区画整理手引(前編)」(小栗忠七)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「地下水利用権論」(武田軍治)。
"	"	〔書〕「厚生法」(後藤清)。
"	"	〔書〕「明治先哲医話」(安西安周)。
"	"	〔書〕「神道思想研究」(梅田義彦)。
"	"	〔書〕「上代仏教思想史」(家永三郎)。
"	"	〔書〕「禅宗学」(日種讓山)。
"	"	〔書〕「国家科学への道」(大熊信行)。
"	"	〔書〕「日本国防国家建設の史的考察」(土屋喬雄)。
"	"	〔書〕「国体観念の史的研究」(河野省三)。
"	"	〔書〕「詔勅虔攷(一〜三卷)」(森清人。〜昭和18年)。
"	"	〔書〕「虔修大日本詔勅通解」(森清人)。
"	"	〔書〕「建武中興の本義」(平泉澄)。
"	"	〔書〕「万物流転」(平泉澄)。
"	"	〔書〕「国史と日本精神の顕現」(清原貞夫)。
"	"	〔書〕「国学の本義」(山田孝雄)。
"	"	〔書〕「日本文化と日本仏教」(伊藤恵)。
"	"	〔書〕「日本武学史」(佐藤堅司)。
"	"	〔書〕「楠氏研究(増訂六版)」(藤田精一)。
"	"	〔書〕「皇道の世界普及」(坂本箕山)。
"	"	〔書〕「皇道論叢」(今泉定助著)。
"	"	〔書〕「 ^{皇学の} 始祖谷秦山」(松沢卓郎)。
"	"	〔書〕「皇道と日本学の建設」(高須芳次郎)。
"	"	〔書〕「大袂講義」(大倉精神文化研究所編)。
"	"	〔書〕「国防政治学」(大沢峯雄訳)。
"	"	〔書〕「ローゼンベルク二十世紀の神話」(吹田順助)。
"	"	〔書〕「全体主義の政治学(暦)」(五来欣造)。
"	"	〔書〕「明治維新政治史」(鈴木安蔵)。
"	"	〔書〕「政治経済新原理(上巻)シスモング」(山口茂他訳)。
"	"	〔書〕「文化闘争の原理」(富永理)。
"	"	〔書〕「大義」(杉本五郎)。
"	"	〔書〕「昭和風雲録」(満田巖)。
"	"	〔書〕「愛国婦人会山口支部沿革誌」。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「国家総動員法判例全集」(庵公平・神宮加寿美・友寄喜仁共編)。
"	"	〔書〕「第三回中央協力会議録」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「地方協力会議 昭和十七年二回,三回報告書」(大政翼賛会総務局 協力会議部編)。
"	"	〔書〕「産業報国青年隊の錬成とその運営」(深川正夫述)。
"	"	〔書〕「維新史(一〜五)」(文部省)。
"	"	〔書〕「綜合明治維新史(一卷)」(田中惣五郎)。
"	"	〔書〕「戦時に於ける労務者及び職員の応召入営及びその他の 被召集者に対する待遇基準案に関する官民懇談会速記録」(日本 経済連盟会)。
"	"	〔書〕「希臘主義の東漸」(マイエル 二宮善夫他)。
"	"	〔書〕「世界維新論」(三枝茂智)。
"	"	〔書〕「理念の形成(ローゼンベルク)」(高橋義孝 吹田順助)。
"	"	〔書〕「欧州広域圏の建設」(東京かぶと新聞社編集部)。
"	"	〔書〕「新世界の構想と現実」(細川嘉六編)。
"	"	〔書〕「ソビエト聯邦の世界政策」(遠藤一郎)。
"	"	〔書〕「ロシア東方経略史」(ロフトスキー著 東亜近代史研究会訳)。
"	"	〔書〕「独逸史」(上原専禄・小林良成訳)。
"	"	〔書〕「ヒトラー・マイン・カンフ研究(三冊)」(石川準十郎)。
"	"	〔書〕「ヒトラー吾が闘争(上)」(真鍋良一訳)。
"	"	〔書〕「ナチス独逸の議会改革」(バーデ 安武納)。
"	"	〔書〕「ルーズヴェルト政権十年史」(百々正雄)。
"	"	〔書〕「ユダヤ人のアメリカ発展」(オトマール・クラインツ著 森 孝三訳)。
"	"	〔書〕「アメリカ・ユダヤ人問題」(神谷薫)。
"	"	〔書〕「新亜細亜(一〜五巻) 西南亜細亜の歴史と文化,南方亜細亜の民 族と社会 叢 書 大東亜の資源と経営,南方民族運動,南方 亜細亜の文化」(満鉄新亜細亜編集部。〜昭和18年)。
"	"	〔書〕「民族叢書(八冊) 日本民族の文化,支那民族,大東亜共栄圏の民 族,南洋の民族, 有 高 嶺 西亜細亜民族,スラヴ民族,ドイツ民族,アン グロサクソン民族」(内藤智秀監修,十数学者執筆。〜昭和19年)。
"	"	〔書〕「民族論」(高田保馬)。
"	"	〔書〕「民族主義生成と発展」(平貞蔵監訳)。
"	"	〔書〕「太平洋の民族 一 政治学」(平野義太郎 清野謙次)。
"	"	〔書〕「日本民族の海洋思想」(木宮泰彦)。
"	"	〔書〕「戦争と日本民族」(山上八郎)。
"	"	〔書〕「印度民族運動史」(加藤長雄)。
"	"	〔書〕「太平洋地政学」(ハウズ・ホッファー 太平洋協会)。
"	"	〔書〕「太平洋地域の変遷」(山本広沢訳)。
"	"	〔書〕「東亜地政学の構想」(川西正鑑)。
"	"	〔書〕「北畠親房文書輯考」(横井金男)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「白石と徂徠と春台」(中村孝也)。
"	"	〔書〕「富田高慶(相馬藩)」(佐藤太平)。
"	"	〔書〕「伊藤博文公年譜」(同公追頌会)。
"	"	〔書〕「興亜人物論」(田中弥十郎)。
"	"	〔書〕「男爵坂本俊篤伝(海軍)」(太田阿山)。
"	"	〔書〕「明治文化と明石博高翁」(田中緑江)。
"	"	〔書〕「竹越与三郎」(木村荘五)。
"	"	〔書〕「山本条太郎(全四冊)」。
"	"	〔書〕「佐藤慶太郎(大日本生活協会)」(横田章)。
"	"	〔書〕「F・レネーエル・レントゲン」 ^{独逸文化研究会} 常木 実訳
"	"	〔書〕「チングス・ハン伝」 ^{ウラヂーミルツオフ} 小林高四郎訳
"	"	〔書〕「国際法学大綱(上・下)」(田岡良一)。
"	"	〔書〕「アンチロッチ国際法の基礎理論」(一又正雄)。
"	"	〔書〕「戦時国際法規綱要(付表共)二冊」(海軍大臣官房)。
"	"	〔書〕「大東亜国際法双書(全五巻)」。
"	"	〔書〕「国際私法概論」(実方正雄)。
"	"	〔書〕「近世日本外交史研究」(松本忠雄)。
"	"	〔書〕「世界外交史(一〜三巻)」 ^{イ・ボチョムキン} 竹尾 式
"	"	〔書〕「大東亜外交史研究」(田村幸策)。
"	"	〔書〕「日米外交白書」(林 秀)。
"	"	〔書〕「米国の太平洋政策」(国際関係研)。
"	"	〔書〕「焦点下の北方問題」(東亜調査会編纂)。
"	"	〔書〕「布哇に於ける日米問題解決運動」(奥村多喜衛)。
"	"	〔書〕「戦争本質論」(加田哲二)。
"	"	〔書〕「戦争と生活の歴史」(中山太郎)。
"	"	〔書〕「戦争哲学」(白根孝之)。
"	"	〔書〕「国防政治論」(石原莞爾)。
"	"	〔書〕「 ^{ニーダーマイヤ} 国防政治学」(大沢峯雄)。
"	"	〔書〕「ナチス独逸の防空」(浜田稔)。
"	"	〔書〕「陸軍省沿革史」(松下芳男著)。
"	"	〔書〕「大東亜戦争に関する国策の趨向」(情報局)。
"	"	〔書〕「大東亜戦日誌(第一輯)」(六芸社)。
"	"	〔書〕「帝国在郷軍人会大阪支部会則」。
"	"	〔書〕「陸軍戦時給与規則同細則の研究」(陸軍経理学校)。
"	"	〔書〕「都市国民防空に就て」(自治振興中央会)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「改訂刑法大要」(沼義雄)。
"	"	〔書〕「日本刑法」(吉田常次郎)。
"	"	〔書〕「小河滋次郎著作選集(上・下)」(同刊行会)。
"	"	〔書〕「医学的心理学」(三宅鉦一)。
"	"	〔書〕「ナチス民法学の精神」(吾妻光俊)。
"	"	〔書〕「解説民事裁判例(一)」(竹田省末川博)。
"	"	〔書〕「民法及統制上の諸問題」(末川博)。
"	"	〔書〕「債権各論義」(石田文次郎)。
"	"	〔書〕「債権法に於ける危険負担の研究」(浅井清信)。
"	"	〔書〕「比較婚姻法(二部)」(台北帝大)。
"	"	〔書〕「日本の家族制度」(今日出海)。
"	"	〔書〕「南方民族の婚姻 — 高砂族の婚姻研究 — 」(増田福太郎)。
"	"	〔書〕「民事判決書集」(司法研究所)。
"	"	〔書〕「民事訴訟法講義」(中村宗雄)。
"	"	〔書〕「株式会社の基礎理論」(松田二郎)。
"	"	〔書〕「取引所法規及判例」(大阪株式取引所)。
"	"	〔書〕「日本取引所解説」(藤田国之助)。
"	"	〔書〕「理論取引所概論」(北崎進)。
"	"	〔書〕「空陸交通上の諸問題(第一輯)」(佐藤昌三)。
"	"	〔書〕「全訂 改訂海商法原論」(森 清)。
"	"	〔書〕「保険契約法論」(野津務)。
"	"	〔書〕「マクリン生命保険の原理」(本城俊明訳)。
"	"	〔書〕「海上保険契約論(全三巻)」(今村有)。
"	"	〔書〕「空襲保険の理論と実際」(葛城照三)。
"	"	〔書〕「手形交換法論」(西原寛一)。
"	"	〔書〕「投資信託の実証的研究」(野村証券調査部)。
"	"	〔書〕「再訂 増補信託経済概論」(細矢祐治)。
"	"	〔書〕「財政学の展開」(永田清)。
"	"	〔書〕「日本債権法(総論各論)二冊」(小池隆一)。
"	"	〔書〕「租税原則学説の構造と生成」(井藤半弥著)。
"	"	〔書〕「カール・フェール 経済循環の貨幣的構造」(日下藤吾訳)。
"	"	〔書〕「(極秘)昭和17年度上半期業務報告書」(中支軍票交換用 物資配給組合)。
"	"	〔書〕「銀の経済的研究」(田畑為彦)。
"	"	〔書〕「利子学説史」(高木暢哉)。
"	"	〔書〕「アメリカ対外政策に於ける金融問題」(J・W・ガンテンペイン 町田義一郎訳)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「ボエーム資本利子論の研究」(三谷友吉)。
"	"	〔書〕「社会組織と社会政策」(河田嗣郎)。
"	"	〔書〕「農村の厚生問題」(大久保満彦)。
"	"	〔書〕「日本農村の文化運動」(田村隆治)。
"	"	〔書〕「社会事業個別取扱の実際」(社会事業研)。
"	"	〔書〕「厚生省委員現地視察報告ニ 対スル措置意見」(朝鮮人労務者他)。
"	"	〔書〕「産業福利施設」(大塚好)。
"	"	〔書〕「少年工の生活及び補導に関する調査 (但し東京・神奈川地方の工場)」(厚生省)。
"	"	〔書〕「養護訓導執務指針」(大西永次郎)。
"	"	〔書〕「山形班報告書(医学徒農村派遣班)」(慶応義塾 大学医学部)。
"	"	〔書〕「青壮年国民登録年報」(厚生省)。
"	"	〔書〕「各国人口増殖並びに母子保険施設」(屋代周二)。
"	"	〔書〕「本邦保育施設に関する調査」(中央社会事業協会 社会事業所)。
"	"	〔書〕「職業婦人の医学」(佐藤美実)。
"	"	〔書〕「独逸青少年保護法」(大日本青少年団 青少年教育研究所)。
"	"	〔書〕「ロゴスの研究」(速水敬二)。
"	"	〔書〕「日本精神研究(正・続)」(和辻哲郎)。
"	"	〔書〕「西洋中世文化史」(フランシス・ベテン 田沼利男訳)。
"	"	〔書〕「日本美術考」(中村亮平)。
"	"	〔書〕「日本演劇と大東亜文化建設 大東亜建設と美術」(国民精神文化研究所)。
"	"	〔書〕「桜史」(山田孝雄)。
"	"	〔書〕「生活と民族」(中山太郎)。
"	"	〔書〕「神話と神話学」(中島悦次)。
"	"	〔書〕「日本装剣金工史」(桑原洋次郎)。
"	"	〔書〕「日本人の生活史」(増沢淑)。
"	"	〔書〕「北の鳥南の鳥 改訂版」(下村兼史)。
"	"	〔書〕「東洋美学」(金原省吾)。
"	"	〔書〕「戦時英帝国の労働機構」(世界経済調査会)。
"	"	〔書〕「南方労働力の研究」(鈴木俊一)。
"	"	〔書〕「太平洋諸島の労働事情」(楊井克己 J・A・テッカー)。
"	"	〔書〕「疲労と休養」(古沢一夫)。
"	"	〔書〕「安全運動三十年」(蒲生俊文)。
"	"	〔書〕「労働者年金保険法論」(後藤清 近藤文二)。
"	"	〔書〕「ノースアメリカの生産能力(上下)」(武石勉訳)。
"	"	〔書〕「技術的世界」(武田良三)。
"	"	〔書〕「現代技術論」(相川春喜)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「技術の理論と政策」(相川春喜)。
"	"	〔書〕「技術論入門」(相川春喜)。
"	"	〔書〕「愛知県特殊産業の由来」(愛知県実業教育振興会)。(下巻)
"	"	〔書〕「技術哲学」(三木 清)。
"	"	〔書〕「技術経済学(上中下巻)」(E・レーデラー)。(高山洋吉訳)
"	"	〔書〕「マンフォード技術と文明」(三浦逸雄訳)。
"	"	〔書〕「技術の発展と経済の交流」(A・S・ウルスヌハラゼン)。(佐々木俊次訳)
"	"	〔書〕「日本科学史年表」(寺島征史)。
"	"	〔書〕「科学の動員」(モーリス・パレス著)。(日本学術振興会訳)
"	"	〔書〕「科学史」(テイラー・森島恒雄訳)。
"	"	〔書〕「ドイツ工業界の印象」(成瀬政男)。
"	"	〔書〕「鉱業経済学」(セオドル・ジー・フーバー)。(飯島栄太郎訳)
"	"	〔書〕「日本鉄鋼業概論」(麓 健一)。
"	"	〔書〕「大阪紙業沿革史(上・下巻)」(山脇豊蔵)。
"	"	〔書〕「昭和四年度生絲恐慌対策の顛末」(木村賛夫)。
"	"	〔書〕「明治以後本邦土木と外人」(中村孫一編)。
"	"	〔書〕「火」(西沢勇志智)。
"	"	〔書〕「気象学講話」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「気象器械学」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「航空気象学」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「理論気象学」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「気象の四季」(畠山久尙)。
"	"	〔書〕「航空気象学(正統)」(アッセン・ジョルダーフ)。(広野太郎編訳)
"	"	〔書〕「百姓訓」(岡部栄信)。
"	"	〔書〕「農業新機構研究」(河田嗣郎)。
"	"	〔書〕「農業統制と協同化」(安田誠三)。
"	"	〔書〕「日本農業に於ける中堅農家層の研究」(中央物価統制協力会議)。
"	"	〔書〕「農林関係 補助金の性格(極秘)」(中央物価統制協力会議)。
"	"	〔書〕「南方農業問題」(根岸勉治)。
"	"	〔書〕「北支農業経済論」(村上捨己)。
"	"	〔書〕「熱帯農業の体験」(和田民治)。
"	"	〔書〕「農会会計提要」(小泉幸一)。
"	"	〔書〕「農業経済の現象形態」(伊藤俊夫)。
"	"	〔書〕「農業土木事業に依り冷害を防止軽減せる実例」(帝国耕地協会)。
"	"	〔書〕「水を中心として見たる北支那の農業」(和田 保)。
"	"	〔書〕「リチャード・ジョーンズ地代論」(鈴木鴻一郎・遊部久蔵共訳)。

西 暦	年 代	項 目
1942	(昭和17年)	〔書〕「農地政策ニ関スル参考資料(その一)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「土地制度研究」(田辺勝正)。
"	"	〔書〕「農業統制と協同化」(安田誠三)。
"	"	〔書〕「日本農業の機械化(改訂増補版)」(吉岡金市)。
"	"	〔書〕「農業と技術」(吉岡金市)。
"	"	〔書〕「日本農業と労働力」(吉岡金一)。
"	"	〔書〕「東北地方農業労働力に関する調査」(積雪地方農村経済調査所)。
"	"	〔書〕「春季農村労力調整施設計画及実績」(茨城県)。
"	"	〔書〕「鳥取県小作料改訂事業」(鳥取県)。
"	"	〔書〕「農村漁村修練場施設要覧」(農林省農政局)。
"	"	〔書〕「農村生活の伝統」(和田 伝)。
"	"	〔書〕「東北農村記」(板谷英生)。
"	"	〔書〕「農村の厚生問題」(大久保満彦)。
"	"	〔書〕「南方林業経済論」(福原一雄)。
"	"	〔書〕「水産日本」(桑田透一)。
"	"	〔書〕「渋沢水産史研究室報告(第二輯)」。
"	"	〔書〕「生鮮食糧統制の研究」(安倍小治郎)。

西 暦	年 代	項 目
1943	昭和18年	
"	1・1	「朝日新聞（朝刊）」，中野正剛，「戦時宰相論」掲載（東条首相批判で発売禁止）。
"	"	ジャワ新聞社（朝日新聞社経営）では，1月1日から（説明は日本語とマライ語）。
"	"	〔日〕比島では，公式に小学校における日本語教育が指令される。
"	"	〔書〕「日本語」（第三巻第一号）。 （同上）「巻頭言 興亜と日本語」（釘本久春）。 （"）「東亜文化圏建設の倫理」（志村陸城）。 （"）「科学政策に於ける国語の問題」（塩野直造）。 （"）「日本語総力戦体制の樹立」（西尾実）。 （"）「国語の将来と反省 国語の将来と反省」（長谷川如是閑）。 （"）「国語の将来と反省 近代語に就いての若干の反省」（志田延義）。 （"）「国語の将来と反省 国語雑感」（氷室吉平）。 （"）「国語の将来と反省 女性語の将来と反省」（真下三郎）。 （"）「漢字検索法」（長沼直兄）。 （"）「フランス語史概説」（エミール・リットレ） 田島譲治訳 （"）「特輯 関東州日本語教育研究会」（加島福一，坂本弘教，喜代原友治，久保一良，打田正雄，前田熙胤，〔藤村一，沈景富〕）。 （"）「読物 初富士」（中村一良）。 （"）「読物 言語散歩」（内藤濯）。
"	"	〔書〕「コトバ」（第五巻第一号，「国語の理想，国語生活の理想」）。 （同上）「国語学の対象」（坂口兵司）。 （"）「佐度アクセントに就いて」（平山輝男）。 （"）「台湾に於ける言葉をめぐって」（斎藤義七郎）。 （"）「三年生の一学期の綴方をみて」（馬場正男）。 （"）「コトバ情報（石黒修編）」。 （"）「同人の頁 百田宗治，石黒修，菊沢季生，松原秀治，秋田喜三郎，興水実，乾輝雄，湯山清，原勝，魚返善雄」。 （"）「国語の理想」（松尾捨治郎）。 （"）「文化的大言語としての国語」（三尾砂）。 （"）「国語生活の理想」（小林智賀平）。 （"）「言語に於ける理想」（乾輝雄）。

西 暦	年 代	項 目
1943		(同上) 「言語の価値について」 (興水実) 。 (#) 「愛国百人一首の読方について」 (三宅武郎) 。
#	1 ・ 2	ニューギニアのブナの日本軍玉砕。1月20日、ギルワから撤退 (この方面の戦死者、合計7600人) 。
#	1 ・ 5	〔 日 〕 共栄日語学院 (在シヨロン) 開校。
#	1 ・ 7	〔 教 〕 「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十八年度臨時短縮ニ関スル件」〔 朝鮮総督府令第五号 〕 (「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十八年度臨時短縮ニ関スル件左ノ通定ム 第一条 昭和十六年勅令第九百二十四号第一項及朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第八条第一項ノ規定ニ依リ大学学部ノ在学年限竝ニ大学予科、専門学校及実業専門学校ノ修業年限ハ昭和十八年ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス 第二条 京城高等工業学校附置理科教員養成所ノ修業年限ハ昭和十八年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付六月之ヲ短縮ス 第三条 左ニ掲グル学校ノ修業年限ハ昭和十八年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々三月之ヲ短縮ス 一 国民学校初等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五年以上ノ実業学校及国民学校高等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノ実業学校 二 私立学校規則ニ依リ設立セラレタル学校ニシテ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第五条ノ資格ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノモノ」) 。
#	1 ・ 8	ソ連、スターリングラードの独軍に降伏を勧告 (パウルス司令官拒否) 。
#	1 ・ 9	戦争完遂ニ付テノ協力ニ関スル日華共同宣言」〔 条約第一号、公布昭和十八年一月九日 〕 (重光葵・汪兆銘。汪兆銘政権との間に、戦争完遂についての日華共同宣言、租界還付、治外法権撤廃等に関する日華協定締結) 。
#	1 ・ 11	米英、中国と「治外法権撤廃条約」調印。
	1 ・ 13	内務省・情報局、ジャズなど米英楽曲約100種の演奏 (レコード演奏を含む) を禁止し、その一覧表を配布。
#	1 ・ 14	大本営・政府連絡会議、「大東亜戦争完遂の為のビルマ独立施策に関する件」及び「占領地帰属服案」を決定。
#	〃	ルーズベルト・チャーチル、モロッコで第3次米英戦争指導会議 (カサブランカ会議) 開く (～1月25日対独空爆・シシリー島上陸作戦・枢軸国の無条件降伏の原則を決定) 。
#	1 ・ 16	〔 日 〕 三木清氏招待日本語教育振興会職員研究会。
#	〃	〔 日 〕 日本語教授法講習会 (毎週土曜五回。主催日本女子大学英文学部・桜楓会教育部) 。

西 暦	年 代	項 目
1943	1・18	文部省内に民族研究所設立〔勅令〕。
"	1・20	仏政府と、日本仏領インドシナ間決済の様式に関する公文を交換（円決済圏の拡大）。
"	"	〔書〕「日本語アクセント辞典」（日本放送協会刊，NHK，標準アクセントを選定し，本書を刊行）。
"	1・21	〔教〕「中等学校令」〔勅令〕公布（中学校・高等女学校・実業学校の修業年限を1年短縮して4年制とし，教科書を国定化）。'43年4月1日施行。
"	"	〔教〕「大学予科・高等学校高等科の修業年限を短縮して2年とする。また実業専門学校を専門学校に統一」〔勅令〕。
"	1・25	〔日〕 浅野晃氏招待日本語教育振興会職員研究会。
"	1・29	〔日〕 国際学友会教育部，1月29日から国際学友会日本語学校となる。各種学校として正式に認可。
"	1・31	東部戦線の独南方部隊（司令官パウルス），ソ連に降伏。2月2日北方部隊も降伏（スターリングラード攻防戦終わる）。
"	1・	〔日〕 中国人日語教員講習会（南京日語研究会）。
"	"	〔書〕「日本文法辞典（口語編）」（浅野信，八弘書店）。
"	"	〔書〕「南方語雑誌」（螢雪書院）創刊。
"	"	〔書〕「英法辞典」（増島六一郎，有斐閣）。
"	"	〔書〕「航空辞典」（立川利雄・徳田晃一・中野均一郎・中原稔生共編，第一出版）。
"	"	〔書〕「航空事典」（中原稔生編，栗田書店）。
"	"	〔書〕「馬來語大辞典 縮刷版」（南方調査室監修，武富正一著，旺文社）。
"	"	〔書〕「古 今 第14期」（民国陶亢德，周黎庵著，上海・古今出版社。半月刊。民国廿二年一月）。
"	"	〔書〕「講 演 第566輯」（野口保元編，東京・東京講演会。旬刊。「支那事変は何時解決するか」 清水安三。昭和18年1月）。
"	初旬	〔日〕 比島，文部省派遣の日本語教員260余名となる（小出詞子ら3月比島赴任，女子は主としてマニラのほか，バギオ，ミンダナオ，男子はマニラ及び州庁所在地に配置）。
"	2・1	日本軍，ガダルカナル島撤退開始。2月7日，1万1000余人の撤退完了（地上戦闘の戦死者・餓死者2万5000人）。
"	"	仏領アルジェリアで，フェルファット・アバスの「アルジェリア人民の宣言」発表。

西 暦	年 代	項 目
1943	2・1	〔日〕 日本語教授研究所特別研究会（主催日本語教授研究所）。
〃	〃	〔書〕「日本国語中辞典」（三省堂編輯所 新京三省堂。康德十年二月一日）。
〃	〃	〔書〕「日本語」（第三卷第二号）。 （同上）「巻頭言 国語への自覚」（長沼直兄）。 （ 〃 ）「南方の宗教生活」（清水幾太郎）。 （ 〃 ）「国語愛護のために」（井上赳）。 （ 〃 ）「日本語の表現形式一つ」（佐々木達）。 （ 〃 ）「日本語教授の特性（三）」（大石初太郎）。 （ 〃 ）「泰国人に日本語を教える」（柳沢健）。 （ 〃 ）「戦争と言葉と女」（松永健哉）。 （ 〃 ）「座談会 戦時下の国語生活」（岩渕悦太郎，釘本久春，崎山正敬，高橋健二，内藤濯，松田武夫）。 （ 〃 ）「教材 火消の楨」（三井政雄）。 （ 〃 ）「日本語教室 語法教授私見」（深沢泉）。 （ 〃 ）「日本語教室 日本語教育研究の態度について」（林克馬）。 （ 〃 ）「読物 バリ島物語（一）」（ミーゲル・コバルビアス）。 （ 〃 ）「読物 風化の顔」（豊田三郎）。
〃	〃	〔書〕「コトバ」（第五卷第二号，「語彙の問題」）。 （同上）「国語生活」（金原省吾）。 （ 〃 ）「述語としての体言」（三上章）。 （ 〃 ）「同人の頁 佐藤孝，秋田喜三郎，長谷川松治，金原省吾，三尾砂，志波末吉，湯山清，名取堯 魚返善雄，石黒修，原勝，乾輝雄，興水実，平山輝男）。 （ 〃 ）「コトバ情報（石黒修編）」。 （ 〃 ）「 ^{ヨミカタ} 一 四 総語彙の品詞別調査（三十一頁）」（広瀬栄次）。 （ 〃 ）「語彙学の問題二編 語彙負担の問題 語彙分類の方法」（興水実）。 （ 〃 ）「初一教科書の語彙を調べて」（向山正雄）。 （ 〃 ）「昭和十八年度本会事業計画及び分担」。
〃	2・5	〔書〕「少年日本語」（華北日本語教育研究所）発行。
〃	2・11	〔日〕 昭南市で，日本語演説会を開催。

西 暦	年 代	項 目
1943	2・14	大日本仏教会、京都智恩院で聖旨奉戴護国法要を行う。
"	2・15	〔日〕 日本語教育講習会、(～20日。主催北京華北日本語教育研究所)。
"	"	〔書〕「神道思想史」(山田孝雄、神祇院蔵版)。
"	2・16	〔日〕 陸軍報道班員招待懇談会(南方共栄圏に於ける日本語普及の実情及び今後に於て施すべき方策について懇談)。
"	2・17	〔日〕 南方派遣日本語教育要員養成所第二回第一次講習会終了、閉所式。
"	"	〔日〕 北京師範大学・外語専科学校学生招待午餐会(日本語教育振興会)。
"	2・20	〔書〕「助動詞の研究」(松尾捨次郎、 ^{株式} 文学社)。
"	2・21	日本軍、広州湾租借地進駐。
"	2・22	〔日〕 南方派遣日本語教育要員養成所第二回第二次講習会入所式。
"	"	〔日〕 北京大学学生招待午餐会(日本語教育振興会)。
"	2・23	陸軍省、決戦標語「撃ちてし止まむ」のポスター5万枚配布。
"	2・25	〔日〕 日本語教授研究所特別研究会(主催日本語教授研究所)。
"	2・27	〔日〕 第二回日本語教授者懇談会開催。
"	"	〔日〕 講演会「大東亜共栄圏の日本語」(主催日本語教育振興会・後援文部省・大東亜省・情報局・大政翼賛会京都支部・京都新聞社。会場京都新聞会館。講 西尾実「日本語教育の諸問題」、沢瀉久孝「日本語の普及と国語の反省」、三木清「比島より帰りて」)。
"	2・	〔日〕 日泰文化会館創設。
"	"	〔日〕 ビルマ、軍政監部文教部、「日本語学校設立並ニ経営要項」決定。ビルマ教員錬成所開設。
"	"	〔日〕 ビルマ、ヘンサダ日本語学校開設(～20年4月)。
"	"	英米語の雑誌名禁止され、「サンデー毎日」は「週刊毎日」,「エコノミスト」は「経済毎日」と改題(以後,「キング」は「富士」,「オール読物」は「文芸読物」など続出)。
"	"	〔書〕「共栄圏の日本語」(浅野晃,「現地報告」18年2月号)。
"	"	〔書〕「標準日馬辞典」(南方語研究部編,台北・大木書房出版社)。
"	"	〔書〕「演 劇 第2巻2号」(吉村清編,東京・歟傍書房。月刊。昭和18年2月)。
"	3・1	ニューギニア増援のための日本輸送船8隻,ダンピール海峡で全滅(～3月2日。海没者3600人)。

西 暦	年 代	項 目
1943	3・1	<p>〔書〕「日本語」（第三巻第三号）。</p> <p>（同上）「巻頭言 文化の戦ひ」（相良惟一）。</p> <p>（ 〃 ）「大東亜文化建設の課題」（鶴見祐輔）。</p> <p>（ 〃 ）「比較言語学といふもの」（高津春繁）。</p> <p>（ 〃 ）「日本語教授の特性（完）」（大石初太郎）。</p> <p>（ 〃 ）「言語の場の構成について」（篠原利逸）。</p> <p>（ 〃 ）「座談会 国語の反省」（長谷川如是閑，佐藤春夫，湯沢幸吉郎，西尾実）。</p> <p>（ 〃 ）「詩の朗読運動についての弁」（内藤濯）。</p> <p>（ 〃 ）「日本語教授者の読むべき書物」（広瀬泰三）。</p> <p>（ 〃 ）「日本語教室 日本語教室雑感」（大出正篤）。</p> <p>（ 〃 ）「日本語教室 東亜語としての日本語教材観」（工藤哲四郎）。</p> <p>（ 〃 ）「日本語教室 日本語教師雑考」（太田義一）。</p> <p>（ 〃 ）「読物 バリ島物語（二）」（ミーゲル・コヴェルビアス，二宮行雄訳）。</p>
〃	〃	<p>〔書〕「コトバ」（第五巻第三号，「大東亜と標準語」）。</p> <p>（同上）「大東亜共栄圏の国語対策を確立せよ」（保科孝一）。</p> <p>（ 〃 ）「標準語問題提案問題以後」（熊沢龍）。</p> <p>（ 〃 ）「標準語研究を終りて」（鹿児島県言語研究生橋口正則）。</p> <p>（ 〃 ）「標準語研究の一年」（鹿児島県言語研究生吉嶺勉）。</p> <p>（ 〃 ）「標準語研究を終りて」（鹿児島県言語研究生床次國治）。</p> <p>（ 〃 ）「国語教育と標準語」（秋田喜三郎）。</p> <p>（ 〃 ）「標準語と共通語」（興水実）。</p> <p>（ 〃 ）「コトバ情報（石黒修編）」。</p> <p>（ 〃 ）「国語学書解題（一）」（編輯室）。</p> <p>（ 〃 ）「国語と日本語」（坂口兵司）。</p> <p>（ 〃 ）「造語社会的心理」（宮本要吉）。</p> <p>（ 〃 ）「大東亜戦争と私の国語教育的建設」（木村弘）。</p> <p>（ 〃 ）「話表現の在り方一つ」（武知正之）。</p> <p>（ 〃 ）「漢字及び仮名遣教授の方法」（深沢時次郎）。</p> <p>（ 〃 ）「これ迄の研究これからの研究問題」（洪雄善）。</p> <p>（ 〃 ）「同人の頁 魚返善雄，乾輝雄，石井庄司，石黒修，名取堯，湯山清，今泉忠義，秋田喜三郎，松原秀治，原勝，佐藤孝，金原省吾，平山輝男，小林智賀平」。</p>
〃	〃	<p>〔書〕「古代支那研究」（小島祐馬）。</p>

西 暦	年 代	項 目
1943	3・2	「兵役法」改正〔法律〕公布（朝鮮に徴兵制を施行。8月1日施行）。
"	3・4	戦争死亡傷害保険法〔法律〕公布。
"	3・8	〔教〕「改正師範教育令」〔勅令〕（師範学校を官立とし、専門学校と同程度に昇格。道府県一校に統合、教科書を国定化）。
"	3・10	〔書〕「独逸国民国家発生の研究」（マイネッケ著・矢田俊隆訳）。
"	3・11	日本出版会創立。
"	"	〔書〕「正しい発音」（大西雅雄，広文堂書店）。
"	3・13	「戦時刑事特別法」改正〔法律〕公布（罰則強化）。
"	3・15	〔日〕 ジャカルタで、国民学校の日本語競技大会を開催（全島から12歳ないし15歳のもの150名が参加，約2000人が応援）。
"	"	〔日〕 3月15日現在，盤谷第一日本語学校生徒在籍259名（昭和17年12月20日，入学手続をとったもの，内訳1年生192名，2年56名，3年11名。3月15日現在，毎日通学しているものは175名）。
"	3・17	〔日〕 第三回日本語教授者懇談会委員会開催。
"	3・18	〔日〕 南方派遣日本語教育要員養成所第二回第三次講習会終了式。
"	"	〔日〕（仮称）「ベルラン」日本語学校（在西貢）開校。
"	"	「戦時行政特別法」〔法律〕・「戦時行政職特権例」〔勅令〕・「行政査察規程」〔勅令〕・戦時経済協議会規程〔勅令〕各公布（総理大臣の権限強化）11月1日，同例改正〔勅令〕（首相の指示権を強化）。
"	3・22	〔日〕 日本語教育振興会第二回理事会開催。
"	3・23	〔日〕「市街庄学校組合及街庄学校組合並ニ児童教育事務ノ委託ニ関スル件」〔台湾総督府律令第三号〕（「第一条 児童教育事務ノ為ニ設クル市街庄組合又ハ街庄組合ハ之ヲ市街庄学校組合又ハ街庄学校組合ト称ス 市街庄学校組合又ハ街庄学校組合ニ関シテハ台湾教育令ニ別段ノ定アル場合ニ於テハ其ノ定ムル所ニ依ル 第二条 市街庄，市街庄学校組合又ハ街庄学校組合ハ台湾教育令ノ定ムル所ニ依ル他ノ市街庄，市街庄学校組合又ハ街庄学校組合ノ児童教育事務ノ委託ニ応ズベシ前項ノ委託ニ対スル報償其ノ他必要ナル事項ニ付関係市街庄，市街庄学校組合又ハ街庄学校組合ノ協議調ハザルトキハ州知事又ハ庁長之ヲ定ム 附則 本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
"	"	〔日〕「緬甸技術研究生内地派遣要領」（文教部）。
"	"	〔日〕 クアラルンプールの日本劇場において「コクミンガッコウ シュン

西 暦	年 代	項 目
1943		キ ガクゲイカイ」(ニッポンゴ、シナ、マライガッコウ)開催。
"	3・25	〔日〕 日本語教育振興会第一回顧問会開催。
"	"	〔書〕「言葉の文化」(長谷川如是閑, 中央公論社)。
"	3・26	〔日〕「在関東州及満州帝国臣民教育令〔勅令第二百十三号, 公布昭和十八年三月二十七日〕(「第一条 関東州ニ於ケル帝国臣民ノ教育及帝国ガ満州国ニ於テ行フ帝国臣民ノ教育ハ本令ニ依ル 第二条 普通教育ハ国民学校令, 中等学校令中中学校及高等女学校ニ関スル部分並ニ高等学校令ニ依ル 第三条 実業教育ハ中等学校令中実業ニ関スル部分ニ依ル 第四条 専門教育ハ専門学校令ニ, 大学教育及其ノ予備教育ハ大学令ニ依ル 第五条 師範教育ハ師範教育令中師範学校ニ関スル部分ニ依ル 第六条 青年学校教育ハ青年学校令ニ依ル 第七条 前五条ニ規定スル勅令中文部大臣ノ職務ハ満州国駐割特命全權大使之ヲ行フ 国民学校令, 中等学校令, 師範教育令中師範学校ニ関スル部分及青年学校令ニ依ル場合ニ於テ関東州又ハ満州国ニ於ケル特殊ノ事情ニ依リ特例ヲ設クル必要アルモノニ付テハ大使別段ノ定ヲ為スコトヲ得 高等学校及大学予科ノ教員ノ資格並ニ高等学校, 専門学校及大学ノ設立ニ関シテハ大使ノ定ムル所ニ依ル 第八条 本令ニ規程スルモノヲ除クノ外私立学校, 特殊ノ教育ヲ為ス学校其ノ他ノ教育施設ニ関シテハ大使ノ定ムル所ニ依ル 附則 第九条 本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 第十条 本令施行ノ際現ニ存スル関東国民学校, 関東州公立国民学校及満州国ニ於ケル在外指定学校ニシテ国民学校ト同等ノ課程ヲ有スルモノハ本令ニ依ル国民学校トス 本令施行ノ際現ニ存スル関東中学校, 関東州公立中学校及満州国ニ於ケル在外指定学校ニシテ中学校ノ学科ヲ授クルモノハ本令ニ依ル中学校トス 本令施行ノ際現ニ存スル関東高等女学校, 関東州公立高等女学校及満州国ニ於ケル在外指定学校ニシテ高等女学校ノ学科ヲ授クルモノハ大使ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依ル高等女学校トス 旅順高等学校ハ本令ニ依ル高等学校トス 大連工業学校及全州農業学校並ニ本令施行ノ際現ニ存スル関東州公立実業学校(大使ノ定ムルモノヲ除ク以下同ジ)及関東州及満州国ニ於ケル在外指定学校ニシテ実業学校ノ学科ヲ授クルモノハ大使ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依ル実業学校トス 大連高等商業学校, 南満州工業専門学校及満州医科大学附属薬学専門部ハ本令ニ依ル専門学校トス 旅順工科大学及満州医科大学ハ本令ニ依ル大学トス 本令施行ノ際現ニ存スル関東師範学校及在満師範学校ハ大使ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依ル師範学校トス 本令施行ノ際現ニ存スル関東州及満州国ニ於ケル青年学校ハ本令ニ依ル青年学校トス(中略) 第十六条 昭和十六年勅令第九百二十四号○大学学部等ノ在学年限又ハ修年限ノ臨時短縮ニ関スル件中左ノ通改正ス 第一条中「及台湾教育令」ヲ「台湾教育令及在関東州及満州国帝国臣民教育令」ニ改ム 第二条中

西 暦	年 代	項 目
1943		「台湾総督」ノ下ニ「，関東州及満州国ニ在リテハ満州国駐劄特命全權大使」ヲ加フ
〃	3・27	「樺太庁官制」改正〔勅令〕公布（内地ニ編入）。4月1日施行。
〃	3・30	〔日〕（仮称）貿易統制会内日本語学校（在西安）開校
〃		〔日〕「関東局諸学校官制」〔勅令第三百二号，公布，昭和一八年三月一日〕（「第一条 関東局ノ師範学校，専門学校及高等学校ハ左ノ如シ 旅順師範学校 在満師範学校 大連高等商業学校 旅順医学専門学校 旅順高等学校 第二条 旅順医学専門学校ニ附属医院ヲ置ク 第三条 関東局ノ中等学校，盲啞学校，高等公学校及実業公学校ハ左ノ如シ 旅順中学校 大連第一中学校 大連第二中学校 大連第三中学校 旅順高等女学校 大連神明高等女学校 大連芙蓉高等女学校 大連工業学校 金州農業学校 大連盲啞学校 旅順高等学校 金州女子高等公学校 大連商業公学校 第四条 旅順高等学校ニ附属公学堂ヲ置ク」）。
〃	3・31	日本基督教団神学校財団，旧教派関係の諸神学校を統合し，日本東部神学校，日本西部神学校，日本女子神学校を開設。
〃	3・	大阪商大の上林貞次郎助教授・立野保男講師らと学生約100人検挙（～12月）。
〃	〃	〔日〕「十八年度陸軍地域原住民渡日者，留学生統制指導要領」。
〃	〃	〔日〕 ビルマ，ペグー日本語学校開設（～20年4月。駐留楯部隊の開設した日本語学校を引き継ぐ）。
〃	〃	国民党軍，甘寧辺区（解放区）を包囲攻撃。
〃	〃	〔書〕「ことばと生活」（石黒修，三友社）。
〃	〃	〔書〕「仏和会話小辞典」（オレステ・ヴァカーリ，エンコ・エリザ・ヴァカーリ共著，英文法通論発行所。「Dictionnaire Pratique Français Japonais Pour la Conversation」）。
〃	4・1	〔日〕 国際学友会，日本語学校を附設開校，本式に日本語を教えはじめる。
〃	〃	〔日〕 盤谷第一日本語学校，その経営を日泰文化研究所から，在盤谷日本文化会館設立に伴い，同会館に移譲，同会館の附属事業となる。
〃	〃	臨時軍事費特別会計，現地金融機関から現地通貨による借入を開始。
〃	〃	〔日〕「在関東州及満州国帝国臣民教育令」実施。
〃	〃	〔日〕 満州国，文教部設置。
〃	〃	〔教〕「朝鮮総督府指導者錬成所規程」〔朝鮮総督府令第百五号〕（「朝鮮総督府指導者錬成所規程左ノ通定ム 朝鮮総督府指導者錬成所規程 第一条

西 暦	年 代	項 目
1943		朝鮮総督府指導者錬成所ハ朝鮮ニ於ケル指導的地位ニ在ル官民ニ対シ国体ノ本義ニ透徹シ挺身奉公以テ皇運ヲ扶翼シ奉ル指導者タルノ資質ヲ錬成向上スルヲ目的トス 附則 本令ハ発布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 朝鮮総督府教学研修所規程ハ之ヲ廃止ス」)。
〃	4・1	<p>〔書〕「日本語」(第三巻第四号)。</p> <p>(同上)「巻頭言 批判と発見」(釘本久春)。</p> <p>(〃)「国語学と言語学との関係」(小林英夫)。</p> <p>(〃)「女性の手紙の言葉」(真下三郎)。</p> <p>(〃)「話し言葉に於ける文の倒置の研究」(白石大二)。</p> <p>(〃)「若い同志に希望する」(上甲幹一)。</p> <p>(〃)「南方派遣日本語教員の銓衡を終りて」(森田孝)。</p> <p>(〃)「日本語教育をおもふ」(森田梧郎)。</p> <p>(〃)「支那人の日本語研究」(菊沖徳平)。</p> <p>(〃)「フランス語史概説」(エミール・リットレ 田島譲次訳)。</p> <p>(〃)「本会主催京都講演会」。</p> <p>(〃)「日本語教授三か月 泰国招致学生の学習情況」(国際学友会)。</p> <p>(〃)「日本語教室 異民族に対する日本語読み指導」</p> <p>(〃)「日本語教室 豊原学校に於ける綴方への初期指導の実際」</p> <p>(〃)「日本語教授者の読むべき書物」(広瀬泰三)。</p> <p>(〃)「南京日語研究会」。</p> <p>(〃)「書物 言葉の調子といふこと ― 言語散歩の二 ― 」(内藤濯)。</p> <p>(〃)「南方で聞いた日本語」(桜田常久)。</p>
〃	〃	<p>〔書〕「コトバ」(第五巻第四号,「特輯 日本語普及」)。</p> <p>(同上)「満州国に於ける日本語普及の状況」(満州国民生部教学官 福井優)。</p> <p>(〃)「国民錬成への日本語教育」(ハルビン師道学校中村忠一)。</p> <p>(〃)「満鉄の日本語教育」(満鉄南満中学堂堀敏夫)。</p> <p>(〃)「朝鮮に於ける国語普及」(京城法学専門学校岡本好次)。</p> <p>(〃)「併合以前の日語読本をめぐりて」(朝鮮総督府監修官補大槻芳広)。</p> <p>(〃)「朝鮮に於ける国語指導の問題」(朝鮮総督府監修官補鈴木隆盛)。</p> <p>(〃)「文化理解のための日本語教授」(興亜高級中学校校長国府</p>

西 暦	年 代	項 目
1943		<p>種武)。</p> <p>(同上)「環境と日本語教育の政治的性格」(華北日本語教育研究所秦純乗)。</p> <p>(「)「日本語読本編纂の思ひ出」(大連秋月公学堂長今永茂)。</p> <p>(「)「日本語教師の人格」(旅順高等公学校主事大石初太郎)。</p> <p>(「)「日本語教育の教材に関する一考察」(旅順高等公学校附属校前田熙胤)。</p> <p>(「)「民族陶冶としての日本語教育」(大連西崗子公学堂加島福一)。</p> <p>(「)「日本語綜合力の養成」(東亜学校有賀憲三)。</p> <p>(「)「教授の実際と工夫創意」(日本語研究所長大出正篤)。</p> <p>(「)「日本語教授と日本語教師」(日語文化協会松宮弥平)。</p> <p>(「)「日本語普及に於ける日本的自覚」(東南アジア学院興水実)。</p> <p>(「)「コトバ情報」(石黒修編)。</p> <p>(「)「同人の頁 金田一春彦, 長谷川松治, 百田宗治, 金原省吾, 石黒修, 乾輝雄, 秋田喜三郎, 熊沢龍, 佐藤孝, 魚返善雄, 名取堯, 松原秀治, 湯山清, 原勝)。</p>
〃	4・2	〔日〕 南方派遣日本語教育要員養成所第二回第四次講習会終了式。
〃	4・10	〔日〕 支那派遣日本語教員第九回錬成開始(～20日。11日間。主催日本語教育振興会, 指導大東亜省, 場所仙川興亜錬成所仙川道場)。
〃	4・11	〔日〕 ビルマ 蘭貢日本語学校, 本日より四日間, 第三回入学志願者受付, 総計900名, うち570名を入学許可。
〃	4・12	西村伊作(文化学院校主)検挙。8・31文化学院, 強制閉鎖となる。
〃	4・13	スモンレスク付近のカチンの森で4000人以上のポーランド将校の遺体発見される(「カチン事件」)。
〃	4・14	〔日〕 ビルマ 軍政監部文教部, 日本語教科書編纂委員会設立。
〃	4・15	〔日〕 興南錬成院入院式(第一部, 陸軍司政官10名, 民間統制団体・会社幹部11名, 計47名, 第二部, 専門・大学卒業生60名)。
〃	〃	日本基督教団, 聖旨奉戴基督教大会を全国17か所で開催。
〃	4・16	〔日〕 第三十八回日本語教育振興会理事会。
〃	4・18	連合艦隊司令長官山本五十六, ソロモン群島上空で戦死(後任に古賀峯一任命)。6月5日国葬。
〃	4・19	ワルシャワ・ゲットーでユダヤ人の反ファッショ武装蜂起おこる(～5月19日, SS警察隊に弾圧される。)
〃	4・20	東条内閣改造(外相に重光葵, 内相に安藤紀三郎就任など)。

西 暦	年 代	項 目
1943	4・20	〔書〕「標準漢字の研究」(秋田喜三郎, 明治図書株式会社)。
"	"	〔書〕「日本語教授の領域」(中村忠一, 目黒書店)。
"	4・25	〔日〕 ビルマ 蘭貢日本語学校構内に「東風寮」設置(日本留学生の合宿訓練所。予備訓練を行う。文教部所管)。
"	4・26	ソ連, ロンドンのポーランド亡命政権と断交(同政権, カチン事件の究明を要求)。
"	4・30	閣議, 昭和18年度物資動員計画を決定。
"	4・	運動用語, 日本語化される(野球用語, 「ストライク」は「よし一本」, 「アウト」は「ひけ」等に変更, 乗合自動車, 「オーライ」は「発車」, 「バック」は「背背」等)。
"	"	〔日〕「比島行政府教育更生部, 4月から小学校600を再開, 開校中のものの662と併せて1262に達する。
"	"	〔日〕 北部仏印日本語普及会(本部ハノイ)創立(従来の日本語講習会(河内日本人会主催)を改組し, 北部仏印日本語普及会と改め, 北部仏印における日本語教育の一元的機関となる。又, 支部を海防・順化にそれぞれ設置, 各地における日本語教育を担当することになった)。
"	"	〔日〕 北部仏印におけるおもな日本語学校, (1)北部仏印日本語普及会, 普及会では, 日本語教育の課程を便宜上四期(各期三か月)に分けて教授, 第一期「ローマ」字を用い正しい発音を教授, 「カタカナ」を用いて「ハナシコトバ」の教授を主眼とし, 更に日本語の文型を知らしめる。教材として国際学友会編「日本語教科書」基礎編を使用。第二期「ひらがな」を用い, 教材として前記「日本語教科書」巻一の中から適宜選択。第三期及び第四期それぞれ前記「日本語教科書」巻二, 巻三の中から教材を選択して教授。教育施設, (1)夜間教授, 場所 海内市「ピエル, パスキエ」小学校, 教授時間, 一週3時間, 生徒総数710名(四月現在), 教師数4名, 学級数12学級, 一期生120名, 二期生400名, 三期生130名, 四期生60名。(2)昼間教授, 場所 河内市「チャン, チョン, ユエ」小学校, 教授時間1週3時間, 生徒総数186名(本年4月現在), これは全部一期生, 教師数4名, (3)華僑に対する教育, 1)広東人を主とするもの, 中華中学を無償にて借り受け, 毎日夜間7時半から8時半まで授業, 生徒数114名, 一期生35名, 二期生34名, 三期生30名, 四期生15名。2)福建人を主とするもの, 福建学校を無償にて借り受け1週3時間(月水金)夜間授業, 生徒数10名。学校教育における正科, 既設の華僑学校では正科として日本語を教授, 福建小学校, 五, 六年生に対し毎日1時間。中華中学, 上級生約40人に対し1週2時間, 教材, 華僑に対する日本語教授の教材としては, 大出正篤著「効果的速成式標準日本語読本」のうちか

西 暦	年 代	項 目
1943		<p>ら適当なものを選択して使用。4) 河内大学に於ける日本語講座、河内大学内に日本語講座を設け、日本人をその教師として開催。聴講者は約60名くらい。なお、仏印当局は、ブレトネル氏を講師として、主として安南人官吏のための講座を設け、第1学年、第2学年各2、30名の聴講生を收容教育している。</p> <p>海防：(1)安南人に対する教育、4月、北部仏印日本語普及会海防支部が置かれることになった。従来は、海防日本人会が主催して日本語講習会を設け、生徒約200名くらいを、A、B、C級に分け教育していた。これを講習会から正式の日本語学校とすべく仏印当局と折衝中。(2)華僑に対する教育、日本語講習会；中華総商會が開設、初等科と中等科に分かれ、期間は各3か月、生徒数70名、教師3名（日本人1名、中国人2名）。華僑中学校、4月から従来の英語を廃止し、これを日本語にした。授業は1週10時間、教科書は維新政府編纂の日本語教科書を使用。 順化：北部仏印日本語普及会順化支部設置に伴い、帝国領事館指導の下に新たに華僑学校を借り受け、日本語学校開設の運びとなった。</p>
"	4・	〔日〕 南部仏印日本語普及会（本部サイゴン）発会式。
"	"	<p>〔日〕 昭和18年4月現在、南部仏印のおもな日本語学校。 西貢：(1)「シヤスル・ローバ」日本語講習会、教師1名、（日本人）、生徒上級30名、下級70名、教科書、日本語教育振興会刊行「日本語読本」巻一、同巻二、その他、 授業時間、1週3時間、ただし警察官クラスは1週2時間、なお、本講習会は仏印総督教育局の開設したもので、生徒は、仏・安南人官吏を主としている。(2)西貢日本語学校、教師6名（日本人）、生徒、高等科55名、中等科、51名、初等科121名（二級に分ける）、教科書、教師作製のプリント、授業時間1週3時間、なお、本校生徒は小学校卒業程度の安南人商店員・職工等で、平均年齢22歳。(3)「ベルラン」日本語学校（仮称）、教師1名（日本人）、生徒20名、教科書、教科書としては無いが、「ヴェカリー」著、「日本語会話」を教師参考書としている。なお、本校生徒は、大南会社の安南人男子使用人で、平均年齢22歳。(4)貿易統制会内日本語学校（仮称）、教師2名（日本人）、生徒20名、教科書、適宜作製、授業時間1週2時間、なお、本校生徒は邦人商社使用人で平均年齢25歳である。近く校舎移転を機として生徒数を200名程度に拡大する予定。(5)南洋学院附属日本語学校、教師4名（日本人）、生徒180名（6学級）、教科書、南洋協会編纂日本語教科書、授業時間1週3時間。 ショロン：(1)英士日語学校、教師4名（内日本人1名、中国人3名）、生徒、初等班36名、高等班23名、教科書、日本語教育振興会刊行「ハナシコトバ」（上・中・下）、同日本語読本（巻一）及び同校教師編纂の「日語講義」「日語初等篇」。授業時間1週10時間、なお、本校の生徒は主として華僑の中商人の子弟及び本邦商社使用人で、その平均年齢22歳。</p>

西 暦	年 代	項 目
1943		(2)南圻日語学校, 教師1名(中国人), ただし, 本校は3月末より休校。(3)共栄日語学院, 教師3名(日本人), 生徒323名(6学級), 一期生(昼間)133名, 同(夜間)135名, 二期生(昼間)34名, 同(夜間)21名, なお, 同校の生徒はほとんど華僑。生徒の職業, 商業62%, 学生20%, 農業6%, その他及び無職12%, 生徒のうち, 女子は31名, 全生徒の平均年齢25歳, 教科書は, 台湾発行の「簡易国語読本」巻一, 巻二, 同「日本語教科書」巻一, 巻二, 巻三, 巻四, 参考書として日本語教育振興会刊行の「ハナシコトバ」, 学習指導書上・中・下, 同「日本文化読本」その他を使用, 授業時間, 各級1週12時間。
"	4・	〔日〕財団法人日泰文化協会が設立され, その在盤谷日本文化会館日本語教務主任に鈴木忍就任, かたわら盤谷日本語学校教授を兼務。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四八九号, 「義務教育特輯号」)。
"	"	〔書〕「伊和医薬新辞典」(大矢全節著, 大阪・玄鹿堂書店。 「Dizionario PerLe Scienze Mediche delle Lingua Italian Giapponese」)。
"	"	〔書〕「最新日マ辞典」(竹井十郎編, 太陽堂)。
"	"	〔書〕「技術者必携工業用語解説集」(稲田栄一著, 田中誠光堂)。
"	"	〔書〕「新生命 第1巻1期」(上海・新生命月刊社。月刊。民国卅二年四月)。
"	5・1	〔日〕官立香港東亜学院開院。
"	"	〔日〕南洋学院附属日本語学校(在西貢)開校。
"	"	〔書〕「日本語」(第三巻第五号)。 (同上)「巻頭言 大東亜建設と日本語」(東光武三)。 (「)「比島の言語問題と日本語」(三木清)。 (「)「教育と文化」(小沼洋夫)。 (「)「国語か日本語か」(小林英夫)。 (「)「特輯 マライの日本語」(中島健蔵, 神保光太郎対談)。 (「)「日本語教授の諸問題」(国府種武)。 (「)「南阿の和蘭語と二国語併用制」(村松薫)。 (「)「東京女子大学特設予科参観記」(編集部)。 (「)「日本語教室 話方指導の実際」(前田熙胤)。 (「)「日本語教室 生徒の台湾の国語」(川見駒太郎)。 (「)「日本語教授者の読むべき書物」(広瀬泰三)。

西 暦	年 代	項 目
1943		(同上)「読物 精神病者の言語 - 特に精神分裂病の新作言語に就いて」(宮城音弥)。 (「」)「読物 日本の美」(金原省吾)。
「	5・1	〔書〕「コトバ」(第五巻第五号,「言語学説の紹介と批判」)。 (同上)「観念論と感覚論と」(石黒魯平)。 (「」)「言語学発達史」(乾輝雄)。 (「」)「現代の言語哲学(イブセン)」(長谷川松治(訳))。 (「」)「マルティにおける意味と表現手段」(小林智賀平)。 (「」)「リースの文概念と批判」(熊沢龍)。 (「」)「国語学と言語学」(坂口兵司)。
「	5・3	〔国〕 日本諸学振興委員会主催国語国文学会(～5日。文部省第一会議室)開催。
「	5・7	〔日〕 第三回実際家懇談会(北京新民学院教授山口喜一郎出席)。
「	5・9	米潜水艦、北海道幌別を砲撃。
「	5・10	〔日〕 日本語教育振興会、陸軍省・大東亜省招待懇談会開催。
「	5・12	米軍、アッツ島に上陸、5・29日本守備隊2500玉砕。
「	「	独軍、北アフリカ戦線で降伏。5・13伊軍降伏(アフリカの戦闘終結)。
「	「	ワシントンで、ルーズベルト・チャーチル会談「トライデント会議」(南イタリア上陸を決定。フランス上陸を'44年まで延期)。
「	5・14	イタリア友の会、「フェズモ学会」を結成。
「	5・15	日本言語学会第六回大会
「	「	〔日〕 興亜女子指導者講習会(日本基督教婦人矯風会)。
「	「	独伊軍、モンテネグロのバルチザン部隊(チトー指導)攻撃開始。
「	「	コミンテルン執行委員会幹部会、コミンテルン解散を決議。6月10日正式解散。
「	5・16	〔日〕 コトバ講演会(主催国語文化学会)。
「	5・18	日本美術報国会創立(大政翼賛会文化部・情報局・文部省の指導による。会長横山大観)。日本美術及び工芸統制協会創立(絵具など資材の配給を独占)。
「	5・19	〔日〕「南洋庁諸学校官制」〔勅令第四百三十二号。公布昭和十八年五月二〇日〕(「第一条 南洋庁中等学校ハ左ノ如シ パラオ中学校 パラオ高等女学校 サイパン高等女学校 サイパン実業学校 南洋庁ノ国民学校及公学校ノ名称ハ南洋庁長官之ヲ定ム」)。
「	5・21	〔日〕 日本語教育振興会、永田秀次郎氏招待懇談会開催(理事長、常任理事出席、軍政治下に於ける日本語普及並に一般文化工作の実情について懇談)。
「	5・22	〔日〕 大東亜留学生招待懇親会(興亜教育団体協力会興亜文化事業団体協

西 暦	年 代	項 目
1943		力会共同主催)。
"	5・26	興亜同盟を廃止し、翼賛会の外局として興亜総本部創設(興亜運動一元化)。
"	"	中央公論社社員木村亨ら4人、富山県泊町で細川嘉六と共産党再建謀議(42年7月)容疑で逮捕。事実無根。
"	5・27	フランス、国民抵抗会議設立。
"	5・30	〔書〕「国語の尊厳」(日本国語会編、国民評論社)。
"	5・31	御前会議、5月29日連絡会議決定の「大東亜政略指導大綱」を正式採択(マレー・蘭領インドの日本領土編入、ビルマ・フィリピンの独立を決定)。
"	5・	西田幾太郎、国策研究会の求めに応じて「世界新秩序の原理」を執筆。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四九〇号) (同上)「二号表に依る国民学校に於ける国民科国語への道(一)」 (松沢源治郎)。 (")「国語をめぐる子供の世界(手記一)」(和田重則)。
"	"	〔書〕「改姓名読本」(武田寿夫編著、7月再版発行)。
"	"	〔書〕「住宅用語集」(建築学会住宅委員会編・刊)。
"	"	〔書〕「北 支第51号」(加藤新吉編、東京・第一書房。月刊。昭和18年5月)。
"	6・1	「東京都制」〔法律〕公布。7月1日施行。
"	"	閣議、戦力増強企業整備要綱決定(工業部門を3種に区分し、特に繊維工業など工場・機械・労働力が軍需工場に転用可能な第一種工業部門の企業整備を推進)。
"	"	〔書〕「日本語」(第三卷第六号)。 (同上)「巻頭言 一貫の道」(西尾実)。 (")「日本語普及の将来」(安藤正次)。 (")「特輯 現代語の反省と醇化 日本語の長長一―デスの整理」 (小泉孝三)。 (")「特輯 現代語の反省と醇化 標準語の育成」(白石大二)。 (")「特輯 現代語の反省と醇化 現代語の反省と醇化のために」 (葉書回答)」(諸家)。 (")「言の葉の道」(房内幸成)。 (")「兼好法師とことば」(永山勇)。

西 暦	年 代	項 目
1943		<p>(同上) 「フランス語史概説」 (エミール・リットレ)。 田島謙次訳</p> <p>(#) 「日本語教授者の読むべき書物 (四) 」 (広瀬泰三)。</p> <p>(#) 「日本語教室 日本語教室雑感 (其の二) — 正しい日本語 日本語の難しさ」 (大出正篤)。</p> <p>(#) 「読物 国語の道 (短歌) 」 (片桐顕智)。</p> <p>(#) 「読物 日本の女性」 (高瀬笑子)。</p>
#	6 ・ 1	<p>[書] 「コトバ」 (第五卷第六号 「国語教育の工夫創意」)。</p> <p>(同上) 「国語教育の工夫創意」 (松尾捨次郎)。</p> <p>(#) 「国語指導の徹底化について」 (飛田多喜雄)。</p> <p>(#) 「国語指導と修練の問題」 (山下正雄)。</p> <p>(#) 「読みの全一性と語句の取扱ひ方」 (加藤満照)。</p> <p>(#) 「国語話し方教育に於ける二つの方向」 (宮川利三郎)。</p> <p>(#) 「国語表現と読解の道」 (石井正夫)。</p> <p>(#) 「国語の歴史性とその指導」 (向山正雄)。</p> <p>(#) 「文字把握の環境について」 (米久保耕策)。</p> <p>(#) 「国民学校の教室から」 (上飯坂好実)。</p> <p>(#) 「国語教育に於ける自修創造の方向」 (白井勇)。</p> <p>(#) 「コトバ情報 (石黒修編) 」。</p>
#	#	[書] 「 ^{新修} 国語要説」 (東条操, 星野書店)。
#	6 ・ 2	[日] 第一回渡日留学生 15 名, ビルマを出発。
#	#	大日本労働報国会創立。
#	6 ・ 3	[日] 第三回日本語教育講座 (前半) (～ 6 月 28 日。主催日本語教育振興会, 会場神田区神保町東亜学校。16 回。毎週月・火・木・金)。
#	#	アルジェでフランス国民解放委員会設立 (11 月 9 日 ドゴール, 委員長に就任)。
#	6 ・ 4	閣議, 食糧増産応急対策要綱を決定 (休閒地の動員による雑穀増産など)。
#	#	[日] 日本語教育振興会第四十五回常任理事会 (麹町寶 亭)。
#	6 ・ 5	アルゼンチンで統一将校団 (ペロン指揮) のクーデタおこる。6 月 8 日 ラミレス政権成立。
#	6 ・ 6	[書] 「日本語の姿」 (土居光知, 改造社)。
#	6 ・ 7	大日本言論報国会, 全国各地での「思想戦大学」を企画し, 第一回講座を開講。

西 暦	年 代	項 目
1943	6・7	〔日〕 日本語教育振興会，前会長（前文部大臣橋田邦彦）招待晩餐会（築地・八百善）。
〃	6・8	〔日〕 ビルマ蘭貢日本語学校第一回卒業式。卒業生54名。
〃	6・10	警視庁，国民徴用令関係違反者（二重稼ぎ，無断欠勤など）776人を検挙。
〃	〃	米英，ドイツに昼夜の「混合爆撃」を開始。
〃	6・13	日本方言学会第三回大会。
〃	6・15	〔日〕 南方派遣日本語教育要員養成所第三回養成開始（主催文部省，会場青山梅窓院。期間6・15～7・19日。講師：岩淵悦太郎，神保格，大岡保三，西尾実，長沼直兄，釘本久春，志村陸城，渡辺保，吉田三郎，松尾長造，関野房夫，郡司喜一，相良惟一，上山顕，岡正雄，深田益男）。
〃	〃	〔書〕「現代語法の諸相〔国語教育学会叢書第二輯〕」（国語教育学会，代表者藤村作，岩波書店）。
〃	〃	〔書〕「国字問題の現実」（稲垣伊之助，弘文堂書房）。
〃	〃	〔書〕「言語社会学叙説」（田辺寿利，日光書房）。
〃	6・19	連絡会議，当面の対ソ施策を決定（北樺太石油・石炭利権の有償移譲）。
〃	6・20	創価教育学会弾圧，牧口常三郎・戸田聖城ら幹部検挙される。
〃	〃	〔書〕「ワカチガキノ ケンキュウ」（マツサカ タダノリ，シロガネ社）。
〃	〃	〔書〕「日本の国語」（石黒修，増進堂）。
〃	6・24	〔日〕 日本語教育振興会，ビルマ訪日視察団招待懇談会開催。
〃	6・25	閣議，「学徒戦時動員体制確立要綱」を決定（本土防衛のため，軍事訓練と勤労働員を強化）。
〃	〃	〔書〕「言語と文化」（乾輝雄，国語文化研究所）。
〃	〃	〔書〕「時と永遠」（波多野精一）。
〃	6・26	米議会，「スミス・コナリー反ストライキ法案」を可決。
〃	6・28	〔日〕 南方特別留学生（マライ班8名，スマトラ班7名，ジャワ班20名，ビルマ班15名（6・30着京），計50名）着京。
〃	6・30	〔日〕 南方特別留学生，全員着京（南方特別留学生「要領一，人員概数百十余名 内訳 ビルマ十五名，フィリッピン二十名，ジャバ二十名，スマトラ・マライ十五名，セレベス・ボルネオ二十名，其他二十名 二，学歴及年齢概ネ中等学校卒業以上ノ男子ニシテ年齢二十歳迄ヲ標準トス 三，渡日後ノ指

西 暦	年 代	項 目
1943		導 大東亜省ハ陸軍省、海軍省、文部省及情報局其ノ他関係官庁ト緊密ナル協力ノ下ニ之ガ指導ニ当ル ロ、専攻科目ニケ年及至三ケ年 日本語、工学、農学、理学、医学、薬学其他」)。
"	6・	〔日〕 南洋協会、南洋学院附属日本語学校を開設(仏印西貢。昭和18年度内に就学した生徒数720名、中級250名、総計970名に達する)。
"	"	〔書〕「近世漢学者伝記著作大事典」(関儀一郎・関義直編、井田書店)。
"	"	〔書〕「東亜辞典」(岡本泰雄編、昭南本願寺日本語塾。「Toa Jiten (Nippon-Go Dictionary)」)。
"	"	〔書〕「万葉集大辞典、第一巻」(正宗敦夫・森本治吉共編、日本古典全集刊行会)。
"	"	〔書〕「蘭和大辞典」(拓殖大学南親会編、ヨセフ・M・エーレンボス、熊倉美康校閲、創造社。「Nederlandsch Tapansch Woordenboek」)。
"	7・1	昭南軍政監部内管区では、英語通信の差出を禁止することになる。
"	"	〔日〕 比島の小学校200校、日本語教師を配属して開校。
"	"	〔書〕「日本語」(第三巻第七号)。 (同上)「巻頭言 人柄」(関根房夫)。 (「」)「思想戦と日本語教育」(釘本久春)。 (「」)「蒙疆特輯 蒙疆に於ける日本語教育の諸問題」(曾我孝之)。 (「」)「蒙疆特輯 満蒙の国語」(保井克己)。 (「」)「侮蔑語の問題」(佐々木達)。 (「」)「兼好法師とことば(完)」(永山勇)。 (「」)「日本語教授者の読むべき書物(五)」(広瀬泰三)。 (「」)「国際学友会日本語学校参観記」(編集部)。 (「」)「大東亜指導者としての日本人 野村大佐を囲む座談会」 (野村恭雄、鎗田亀次、東光武三、戸田吉郎、大岡保三、司会 釘本久春)。 (「」)「日本語教室 話方指導について(二)」(前田熙胤)。 (「」)「日本語教室 華北に於ける日本語の品位」(太田義一)。 (「」)「読物 黄土生活」(小池秋羊)。 (「」)「読物 民謡と山草」(半田雄三)。
"	"	〔書〕「コトバ」(第五巻第七号、「言語哲学・教室研究・児童語」)。 (同上)「言語基礎論としての記号学」(興水実)。 (「」)「現代の言語哲学(イブセン)」(長谷川松治)。 (「」)「国語研究案内」(学会委員)。

西 暦	年 代	項 目
1943		(同上)「コトバ書評」。 (#)「ゐます」と「あります」(松宮一也)。 (#)「国語を身につけさせるために」(向山忠夫)。 (#)「七月研究会案内」。 (#)コトバ情報(石黒修担当)」。 (#)「一幼児の言葉」(波多野勤子)。
#	7・1	〔書〕「日本語選書 中国人に対する日本語教授」(鈴木正蔵, 育英書院版, 日本語教育振興会)。
#	"	〔書〕「国語学史」(山田孝雄, 宝文館)。
#	7・2	〔日〕 ビルマ協会発会式(同会のおもな事業, 一 ビルマ留学生の指導育成, 二 ビルマ語講習会, 三 ビルマ事情講習会, 四 視察団の幹旋・接待, 五 日緬文化の交流, 六 日緬手工業展覧会, 七 雑誌その他の資料の刊行)。
#	7・5	独軍, 東部戦線クルスクで「チタデレ(要塞)作戦」開始。7.12ソ連軍, 反撃開始。
#	7・6	「みたまわれ」発表国民音楽会(大政翼賛会, 日比谷)。音文, 音楽移動報国挺進隊を結成して, この歌を中心に国民歌唱運動を展開。
#	7・7	蒋介石, 辺区の包囲攻撃開始(撃退され, 第三次反共攻勢失敗)。
#	7・9	〔日〕 日本語普及問題委員会第一部会(日本語教育振興会)第一回委員会開催(日本語普及問題の全般にわたって調査審議。委員:企画院 上山書記官 情報局 井沢情報官, 陸軍省 松尾少佐, 海軍省 小関中佐, 文部省 久保田書記官, 大岡国語調査官, 釘本図書監修官, 西尾炳託, 大東亜省。 中山事務官, 腰原事務官, 相良事務官, 関野調査官)。
#	7・10	連合軍(総司令官アイゼンハワー), シシリ島に上陸(ハスキー作戦)。7月19日米英軍, 第1回ローマ空爆(住民1800人余死傷)。
#	"	〔書〕「日本語教授法原論」(山口喜一郎, 新紀元社, 発行者松川建文)。
#	7・12	モスクワで「自由ドイツ国民委員会」創立会議(ピーク・ウルブリヒト主唱)ひらく(～7月13日)。
#	"	〔書〕「国語の基準」(新村出, 敝文館)。
#	7・15	〔書〕「ヨーロッパの諸言語(メイエ)」(大野俊一訳, 三省堂)。
#	7・16	〔日〕 ビルマ, 第一次日語要員16名(軍政要員3名を含む)着任, (第一次内地派遣要員着任と共に旧宣撫班の要務が終わり, 蘭貢第一日本語学校と

西 暦	年 代	項 目
1943		して発足した。当初には、軍派遣教員が在任した。着任当時のビルマの日本語学校、ラングーン、オッタマ、ペグー、モールメン、タトン、パセイン、ミャンマ、メイミョウ、サガイン、マンダレー、タウンジー)。
"	7・17	〔日〕 南方特別留学生(比律賓班27名)着京。
"	"	〔日〕 17日から20日までの4日間、日本語教授研究所(日語文化協会)で、ジャワ・マライへ日本語教師として派遣される人々に日本語教授を指導。
"	7・18	〔書〕「美しい日本語」(石黒修, 光風館)。
"	7・19	〔日〕 第三回南方派遣日本語教育要員養成所終了式挙行。
"	7・20	〔書〕「言語学序説」(新村出, 星野書店)。
"	7・21	「国民徴用令」改正〔勅令〕公布(徴用の国家性を強調)。8月10日厚生省、「応徴士服務紀律」を公布。
"	"	〔日〕 7月21日現在警視庁調, 大東亜共栄圏各地からの留日学生, 満州国795名(内女子113名), 中国331名, 蒙古91名, タイ国156名(内女子25名), 仏印20名(内女子1名), ビルマ17名, フィリピン30名, マライ20名(内女子2名), 旧蘭印3名(内女子1名)。
"	7・24	米英軍, ハンブルグを重爆撃(〜7月30日。死者3万人余)。
"	"	イタリアのファシスト大評議会, エマヌエレ3世にムソリーニの統帥権剝奪を要請。7.25 ムソリーニ首相失脚(直ちに逮捕。国王, パドリオ元帥を後任に任命)。
"	7・25	〔書〕「外国語教授法」(語学教育研究所編, 開拓社)。
"	7・27	〔日〕 日本語教育振興会, マライスマトラ訪日視察団招待懇談会開催。
"	7・29	キスカ島の日本軍撤退。
"	7・30	〔書〕「寧楽遺文 上」(竹内理三編, 下巻, '44年10月15日)。
"	7・	〔日〕 ボルネオ, バリックパバン日本語学校開校。
"	"	〔日〕 ビルマ, 蘭貢第一日本語学校開設(〜20年4月)。
"	"	〔日〕 ビルマ, ミャンマ日本語学校開設(〜20年4月)。
"	"	〔日〕 鈴木忍, タイ国文部省令による私立学校長の資格を取得, 盤谷日本語学校長に就任。
"	"	〔書〕「ジャワに於ける日本語」(浅野晃, 「国民評論」7月号)。

西 暦	年 代	項 目
1943	7・	<p>〔書〕「華北日本語」(七月号)。</p> <p>(同上)「日本語教師の在り方」(若山超関)。</p> <p>(「」)「形式・内容の矛盾とその超克」(若山超関)。</p> <p>(「」)「華北に於ける日本語普及状況・我が校の日本語教育」(柳橋静正)。</p> <p>(「」)「本田利明のかな文字論」(国府種武)。</p>
"	"	<p>〔書〕「洪牙利語小辞典(洪日—日洪)」(今岡十一郎, 大学書林。「Magyar Japán'és Japán Magyar Zsebszótár」)。</p>
"	"	<p>〔書〕「標準馬來語大辞典」(統治学盟編, 博文館。「Kamoes Bahasa Melaioe (Indonesia)—Nippon Jang Lengkap」)。</p>
"	"	<p>〔書〕「国際文化 第26～30号」(中村揆六編, 東京・国際文化振興会。隔月刊。昭和18年7月～19年3月)。</p>
"	"	<p>〔書〕「藝文雑誌 第1巻1期～第2巻6期」(藝文雑誌編集部編, 北京文社。月刊。民国卅二年七月～卅三年六月)。</p>
"	8・1	<p>日本占領下のビルマで, バー・モ政府独立宣言, 米英に宣戦布告。日本・ビルマ同盟条約調印。</p>
"	"	<p>〔日〕ビルマ, 軍政監部解消, 日本大使館設置(日本語学校は, ビルマ政府所管となり, 文教業務は監督部(文教班)にてとる)。</p>
"	"	<p>〔日〕ビルマ, モールメン日本語学校開設, 開校式(～20年8月25日。モールメン転進後も, 日本語教育別働班として終戦まで開校, モールメン転進後, 文教班本部をおく)。</p>
"	"	<p>〔日〕ビルマ, マンダレー日本語学校開設(～20年2月。18年2月, 軍日本語学校として開始)。</p>
"	"	<p>〔書〕「日本語」(第三巻第八号, 「特輯 語感について」)。</p> <p>(同上)「巻頭言 日本人的感動」(藤井重雄)。</p> <p>(「」)「語感の持続と変遷」(長谷川如是閑)。</p> <p>(「」)「語感について」(吉川幸次郎)。</p> <p>(「」)「語感に於ける主観性と客観性」(小林英夫)。</p> <p>(「」)「語感の心理的考察」(宮城音弥)。</p> <p>(「」)「語感と語調」(内藤濯)。</p> <p>(「」)「語感と音楽」(高木卓)。</p> <p>(「」)「国語教育に於ける語感」(垣内松三)。</p> <p>(「」)「外国語教育に於ける語感」(佐々木達)。</p> <p>(「」)「日本語教育に於ける語感」(長沼直兄)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1943		<p>(同上)「現代の語感」(佐藤春夫)。 (#)「萬葉の語感」(北住敏夫)。 (#)「古典と語感」(久松潜一)。 (#)「古典の語感再現について」(島津久基)。 (#)「泰国及仏印に於ける日本語教育の現況(一)」(関野房夫)。 (#)「日本語の成長(二)」(小泉彦三)。 (#)「日本語教授者の読むべき書物」(広瀬泰三)。 (#)「読物 詩二篇」(室生犀星)。 (#)「読物 ロマノフカなど」(湯浅克衛)。</p>
#	8・1	<p>〔書〕「コトバ」(第五卷第八号,「現代日本語法研究,南島語学資料管見」)。 (同上)「南島語学資料管見」(魚返善雄)。 (#)「現代日本語法の特質」(浅野信)。 (#)「日本語に於ける「音反復」に就て」(乾輝雄)。 (#)「婦人語二つ」(今泉忠義)。 (#)「国語の造語法」(山崎末彦)。 (#)「「ゐます」と「あります」(続)」(松宮一也)。 (#)「コトバ書評(興水実)」。 (#)「コトバ情報(石黒修編)」。</p>
#	8・2	〔日〕 日本語教授研究講座(～11日。日本語教授研究所)。
#	8・5	〔日〕 日本語教育振興会,柳沢健氏招待懇談会開催(南方現地における日本語の普及振興に関し,討議・懇談)。
#	8・7	〔書〕「 ^新 言語学提要」(石黒魯平,明治図書株式会社)。
#	8・8	〔日〕 文部省外国語講習会(～20日)。
#	8・14	チャーチル・ルーズベルト,カナダのケベックで会談「クワンドラント会議」(～8月24日。フランス上陸「オーバーロード作戦」を'44年5月1日と決定。米英ソ加,フランス国民解放委員会を承認。
#	8・17	独軍,シシリー島撤退。
#	8・18	〔書〕「辻小説集」(日本文学報国会編)。
#	8・19	〔日〕 南方特別留学生(フィリピン一般学生17名,警察班)東京来着。
#	8・20	閣議,「科学研究ノ緊急整備方策要綱」を決定(大学その他の科学研究は戦

西 暦	年 代	項 目
1943		争遂行を唯一絶対の目標とすべきこととする)。
"	8・23	〔日〕 南方派遣日本語教育要員養成第四回講習会開始(～1か月間。会場芝増上寺)。
"	"	英米軍、ベルリン重爆撃。
"	8・25	大東亜文学者決戦大会(～8月27日)。
"	8・27	閣議、地下資源緊急措置要綱を決定。
"	8・31	閣議、航空機の増産確保のため工作機械に関する緊急措置を決定。
"	"	〔日〕「教科用図書調査会官制」中改正〔勅令六九十号〕(「第二条中「委員六十人」ヲ「委員八十人」ニ改ム」)。
"	8・	〔日〕 比島日本語普及委員会設立(会長ラビデス(当時比島行政府書記官長)、副会長ルイス、マリアノ・ヴィー・デウス・サントス)。
"	"	〔日〕 ビルマ、タトン日本語学校開設(～20年4月)。
"	"	〔日〕 ビルマ、タウンジー日本語学校開設(～20年4月)。
"	"	〔日〕 ビルマ、サガイン日本語学校開設(～20年1月20日)。
"	"	〔日〕 ビルマ、メイミョウ日本語学校開設(～20年3月)。
"	夏	〔日〕 ジャワでは、日本から派遣された多数の日語要員が全島に配置され、日本語教育の中心となって著しい成績をあげた。なお、日本語の普及とともに適当な辞書が必要とされるようになった。
"	8・	〔書〕「日本語の言語理論的研究」(佐久間鼎,三省堂)。
"	"	〔書〕「逆引成語便覧」(庄司騏三郎・宮川茂子共編,岡倉書房)。
"	"	〔書〕「改訂戦時新語辞典」(野田照夫著,教学書院)。
"	"	〔書〕「日ソ・ソ日航空用語」(宮本晃男著,墨水書房,「ЯЛОНОРУССКОЕ РУССКО-ЯЛОНСКОЕ ТЕХНИЧЕСКОЕ ВЫРАЖЕНИЕ АВИАЦИИ」)。
"	9・1	商工省、炭礦統合実施要綱発表。
"	"	〔書〕「外地・大陸・南方日本語教育実践」(国語文化学会,代表奥水実編,国語文化研究所。「日本語の直接法教習について」山口喜一郎)。
"	"	〔書〕「日本語」(第三卷第九号)。 (同上)「巻頭言 日本語教育目標の諸段階」(長沼直兄)。 (「」)「異民族教育論」(玉井茂)。 (「」)「満華留学生と古典教育」(五味智英)。 (「」)「中国の学生に俳諧史を教へてみて」(上甲幹一)。 (「」)「現代日本語の用例研究」(楳垣実)。 (「」)「現代日本語の辞書的研究」(白石大二)。

西 暦	年 代	項 目
1943		<p>(同上)「泰国及仏印に於ける日本語教育の現状(二)」(関野 房夫)。</p> <p>(#)「日本語教室 反省すべきこと」(日野成美)。</p> <p>(#)「日本語教室 話方指導について(三)」(前田熙胤)。</p> <p>(#)「日本語」合本総目次。</p> <p>(#)「読物 東洋最古の貴宝 — 石鼓に就いて」(八幡関太郎)。</p>
#	9・1	<p>〔書〕「コトバ」(第五卷第九号,「語法の研究と教育」)。</p> <p>(同上)「国民学校における語法指導の方向」(木枝増一)。</p> <p>(#)「読本の語法指導」(秋田喜三郎)。</p> <p>(#)「日本語に於ける判断表現」(三尾砂)。</p> <p>(#)「体言の役割」(三上章)。</p> <p>(#)「清女の言語観」(永山勇)。</p> <p>(#)「三年生後期の綴方」(馬場正男)。</p> <p>(#)「コトバ書評(興水実)」</p> <p>(#)「コトバ情報(石黒修)」。</p>
#	9・3	イタリア, シシリー島で連合国と秘密休戦協定調印(アイゼンハワー・カステラーノ間)。
#	9・4	米豪連合軍, ニューギニアのラエ・サラモアに, 9月22日フィジハーフェンに上陸(「蛙跳び作戦」開始)。
#	〃	〔日〕 南方特別留学生(海軍地域, セレベス班11名, 南ボルネオ班7名, セラム班3名, 計21名)到着。
#	9・5	〔書〕「敬語法」(江湖山恒明, 三省堂)。
#	9・6	〔日〕 第四回日本語教育講座(後期)開始(～9月23日。主催日本語教育振興会。16回。毎週, 月・火・木・金)。
#	〃	〔日〕 南方特別留学生(ボルネオ・セレベス・セラム班)東京来着。
#	9・8	連合国, バドリオ政権との休戦協定を公表。イタリア無条件降伏。
#	9・9	イタリアの無条件降伏に関し, 政府声明。同国艦船の抑留などを実施。
#	〃	独軍, 対伊「枢軸」作戦を実行し, 北・中部イタリアを占領。9月10日ローマ占領。バドリオ, 南イタリアに逃亡(10月13日対独宣戦布告)。
#	〃	イラン, 対独宣戦布告。9月14日連合国に参加。
#	9・10	駐ソ大使佐藤尚武, ソ連外相モロトフに, 重要人物をモスクワ・西欧に派遣したい旨申し入れ, 9月13日モロトフ, 独ソ和平の意志なしと拒否。
#	〃	〔日〕「留日学生ノ指導ニ関スル件」閣議決定。

西 暦	年 代	項 目
1943	9・12	国内態勢強化方策発表。
"	"	ムソリーニ前首相、独軍に救助される。9月15日独軍占領下にファシスト共和政府の首班となる。
"	9・14	第2次日米交換船帝亜丸出港（11月14日邦人1299人を乗せ横浜入港）。
"	9・15	日独共同声明、同盟を再確認。
"	"	〔書〕「日本語教科書巻一（五版）」（国際学会）。
"	9・21	閣議、国内態勢強化方策決定（航空機生産最優先・食糧自給態勢確立）。
"	"	陸軍省、「兵役法施行規則」改正〔省令〕公布（'30年以前検査の第二国民兵も召集）。
"	9・22	十七職種に男子の就職禁止。
"	9・23	閣議、台湾に'45年度より「徴兵制実施」を決定。
"	"	〔日〕 文部省南方派遣日本語教育要員養成所第四回日本語教育講座終了式（受講者49名中29名に対し修了証を授与）。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会、文部省南方派遣日本語教育要員養成所第四回修了生招待懇談会開催。
"	9・24	〔教〕 文部省、学徒体育会一切禁止。
"	9・25	ソ連軍、スモレンスクを奪回。
"	9・27	〔日〕 マカッサル軍政監部文教委員三浦勇助氏連絡懇談会（日本語教育振興会）。
"	9・28	閣議、官庁の地方疎開方針決定（10月15日、帝都・重要都市の疎開方針決定）。
"	"	軍需省設置。
"	9・29	〔教〕 文部省、大学院・研究科に「特別研究制度」を設置〔省令〕（学資を給与、軍の委託特別研究生を受け入れる）。
"	"	〔日〕「教科用図書調査会規定」中改正〔文部訓令〕（「第四部、大東亜ニ於ケル日本語普及ノ目的ヲ以テ著作スル教科用図書ノ編纂ニ関スル事項ヲ調査審議ス」）。
"	9・30	御前会議、「今後執るべき戦争指導大綱」及び右に基く「当面の緊急措置に関する件」を決定（絶対防衛線をマリアナ・カロリン・西ニューギニアの線に後退）。
"	9・	〔日〕 日泰学院、財団認可（大東亜省の直接外廓団体となる）。
"	"	〔書〕「言語教育の基礎」（田代清雄、「建国教育」九月号）。
"	"	〔書〕「実用セイロン語会話」（景山賢政著、健文社）。

西 暦	年 代	項 目
1943	9・	〔書〕「日常支那語図解」（加賀谷林之助著、開成館）。
〃	〃	〔書〕「日本研究 第1巻1期～4巻4期」（北京・日本研究社・民国卅二年九月～卅四年四月）。
〃	10・1	閣議、「科学技術動員総合方策確立ニ関スル件」を決定（研究動員会議を設け、戦時研究員を任命するなど）。
〃	〃	〔日〕比島に、日本語専門学校設立（中等学校の日本語教師を養成、修業年限二年、本科は原則として中等教員の有資格者、専門学校修了程度以上の者を入れ、専修科は中等学校終了程度を以て入学資格とし通訳や小学校の日本語教師を養成）。
〃	〃	米軍、ナポリを占領。
〃	〃	〔書〕「日本語」（第三巻第十号）。 （同上）「巻頭言 理論と現実」（西尾実）。 （ 〃 ）「外地の日本語について」（中島健蔵）。 （ 〃 ）「対支新政策と文化施策」（相良惟一）。 （ 〃 ）「日本語教育の基礎的問題」（篠原利逸）。 （ 〃 ）「映画と日本語」（時岡茂秀）。 （ 〃 ）「現代日本語の用例研究（二）」（榎垣実）。 （ 〃 ）「五十音図の解説」（三宅武郎）。 （ 〃 ）「日本語教育参考文献」（長沼直兄）。 （ 〃 ）「児童読物の語彙調査を終って」（浅野鶴子）。 （ 〃 ）「私たちの日本語（日本語作文）朝鮮 台湾 満州 北支 中支 安南 ビルマ マライ」。 （ 〃 ）「読物 大東亜共栄圏の友へ 満州の友へ（満州）」（春山行夫）。 （ 〃 ）「読物 大東亜共栄圏の友へ 南の青年への手紙（マライ）」（神保光太郎）。 （ 〃 ）「読物 大東亜共栄圏の友へ 阮進朗様への手紙（仏印）」（森三千代）。 （ 〃 ）「読物 大東亜共栄圏の友へ ビルマの友に与ふ（ビルマ）」（豊田三郎）。
〃	〃	〔書〕「コトバ」（十月号、「決戦下の国語（生活・教育・研究）」）。 （同上）「国語戦線の異状」（石黒魯平）。 （ 〃 ）「決戦下の国語教育」（石山脩平）。 （ 〃 ）「決戦下の国語教育二題」（石井庄司）。

西 暦	年 代	項 目
1943		<p>(同上)「日本古典の一特性」(名取堯)。 (#)「基本的研究機関強化の必要」(湯山清)。 (#)「国語に対する自主自尊の精神」(秋田喜三郎)。 (#)「元寇と禅僧」(乾輝雄)。 (#)「閑話二題」(魚返善雄)。 (#)「四年生の綴方」(馬場正男)。 (#)「コトバ書評(興水実)」。 (#)「コトバ情報(石黒修)」。</p>
"	10・2	文部省に国史編修準備委員会を設置〔勅令〕('44年12月15日国史編修調査会となる)。'43年1月20日「国史概説」上巻(7月15日修正発行)。
"	"	〔教〕「在学徴集延期臨時特例」〔勅令〕公布(学生・生徒の徴兵猶予全面停止)。12月1日,第1回学徒兵入隊(学徒出陣)。
"	"	ソロモン群島中部のコロンバンガラ島の日本軍1万2000人撤退完了。10月6日ベラベラ島からも撤退。
"	10・5	関釜連絡船崑崙丸,米潜水艦により撃沈される。死者544人。
"	10・6	食糧管理法施行規則改正で,闇米麦買入者に罰則を新規定。
"	10・8	〔日〕 仏印総督府日本語講習会初級科開講(東京理事庁内に開講,毎週3日(月,水,金)午前7時~8時まで授業。仏印総督府官吏に対する日本語講習会)。
"	10・9	チトーのバルチザン部隊,トリエステで枢軸側に対して攻撃を開始。
"	"	〔日〕 南方派遣日本語教育要員第五回養成開始(主催文部省,会場青山梅窓院。~1か月)。
"	10・11	〔日〕 プノンベン日本語講習会(~3か月。場所プノムベン市シソワット高等中学内。生徒100名(安南人70名,東支人30名,内女10名)。生徒の教育程度は大体中等学校卒業以上,仏国留学医学博士,学士その他一般官吏商社使用人等,当地方における現地人側の知識層が多く集まる)。
"	10・12	〔教〕 閣議,「教育=関スル戦時非常措置方策」を決定(理工科系統及び教育養成諸学校学生の他は徴兵猶予を停止。義務教育8年制を無期延期,高等学校文科を3/1減,理科を増員,文学系大学の理科系への転換,勤労働員を年間3/1実施)。
"	10・14	フィリピン共和国独立宣言(大統領ラウレル)。「日比同盟条約」調印。
"	10・16	第十五回日本英文学会大会(京都同志社大学)。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会主催講演会「大東亜共栄圏と日本語」(会場東京共立講堂。講師,東光武三,中島健蔵,豊島与志雄,大岡保三)。
"	10・18	〔教〕 財団法人日本育英会(会長永井柳太郎)設立。'44年2月17日

西 暦	年 代	項 目
1943		「大日本育英会法」公布（国家的育英制度の創設）。
"	10・18	〔日〕 華北日本語教育研究所改組第一回懇談会、北京関係の役員を発表。
"	"	「統制会社令」〔勅令〕公布。
"	10・19	〔日〕 ビルマ、「臨時編成改正」により、監督部と参謀二課に所属して文教業務をとる。
"	"	モスクワで米英ソ3国外相会議ひらく（～10月30日。オーストリア復興・戦犯問題討議、欧州諮問委員会〔EAC〕設置を決定）。
"	10・21	〔教〕 文部省・学校報国団本部、徴収延期停止により出陣する学徒壮行会を、神宮外苑競技場で挙行。東京近在77校の学徒数万、雨中に劇的の分列行進。
"	"	チャンドラボース、シンガポールで自由インド仮政府樹立。10月23日、日本政府承認。
"	"	中野正剛、倒閣容疑で憲兵隊に逮捕。10月26日釈放後、同夜半自殺（58歳）。
"	10・22	語学教育研究所大会（～23日。東京一ツ橋講堂）。
"	10・23	〔日〕 ブルガリア、オ・スヴェティ・コメント国立大学、日本語講座開設記念式開催（講座担当渡辺教授、聴講200名、青年将校を含む）。
"	10・24	〔日〕 日本語教育振興会講演会（会場仙台斎藤報恩会講堂。演題「大東亜共栄圏と日本語」、講師、長沼直兄、高見順、関野房夫、釘本久春、土居光知）
"	10・下	〔日〕 ビルマ、女子日語要員6名着任。
"	10・30	汪兆銘政権との間に、「日華同盟条約」を締結（「日華基本条約」は失効とする）。
"	10・31	「軍需会社法」〔法律〕公布。12・17施行。
"	10・	〔日〕 フィリッピン、日本語専門学校開設（日語要員配属。本科（三年）を出ると中等学校の日本語の教師、専修科（三年）を出ると日本語の通訳や小学校の日本語の教師になれる）。
"	"	〔書〕「戦闘用語辞典」（佐々木一雄著、軍事界社）。
"	"	〔書〕「国立華北編訳館館刊 2の10」（北京・国立華北編訳館。1冊。月刊。民国卅二年十月）。
"	"	〔書〕「大東亜経済 第6巻10号」（榊居伍六編、東京・日本電報通信社。昭和18年10月）。
"	11・1	「兵役法」改正〔法律〕公布（国民兵役を45歳まで延長）。
"	"	〔国〕 行政機構整備実施のため、官制改正。図書局廃止。「国語ノ調査ニ関スル事項」は、教学局所管となる。
"	"	〔教〕「国民精神文化研究所と国民錬成所を統合、教学錬成所を設立〔勅

西 暦	年 代	項 目
1943		令〕。
"	11・1	軍需省・運輸通信省・農商省官制〔勅〕公布（企画院・商工省・逓信省・鉄道省・農林省・海務院は廃止）。
"	"	米軍、ソロモン群島北部のブーゲンビル島に上陸。
"	"	〔書〕「日本語」（第三卷第十一号）。 （同上）「巻頭言 日本語教育目標の諸段階」（釘本久春）。 （ # ）「外地に於ける日本人の態度」（浅野晃）。 （ # ）「日本人の南方発展」（入江寅次）。 （ # ）「南方社会の特殊性」（熊倉美康）。 （ # ）「表記法について 国語の表記法の問題とその一」（湯沢幸吉郎）。 （ # ）「表記法について 古事記と句読法」（藤井信男）。 （ # ）「表記法について 南方向国語教科書に使用せる発音符号について」（三井政雄）。 （ # ）「表記法について 仮名遣の切換へに就いて」（堀内武雄）。 （ # ）「現代日本語の用例研究（三）」（榎垣実）。 （ # ）「現代語の記録（一）」（春山行雄）。 （ # ）「フランス語史概説（五）」（エミール・リットレ） 田島譲治訳 （ # ）「華北に於ける日本語教育の新段階 座談会」（「出席者 藤村作，片岡良一，佐藤幹二，上甲幹一，篠原利逸」）。 （ # ）「日本語教室 特殊な日本語教室」（大出正篤）。 （ # ）「教材 孫文の思ひ出」。 （ # ）「読物 インドネシアの日本語」（窪川稲子）。 （ # ）「読物 大陸の墓標」（釘本久春）。
"	"	〔書〕「コトバ」（十一月号，「留学生に対する日本語教育」）。 （同上）「留学生教育の核心に触れて」（有賀憲三）。 （ # ）「国としての用意」（石黒魯平）。 （ # ）「留学生と日本語教授」（大出正篤）。 （ # ）「中国人に日本語を教へて」（金田一春彦）。 （ # ）「留学生教育の根本と具体策」（松宮一也）。 （ # ）「十一月研究会案内」。 （ # ）「コトバ書評（興水実）」。 （ # ）「コトバ情報（石黒修）」。
"	"	〔書〕「独逸中世史の研究」（増田四郎）。

西 暦	年 代	項 目
1943	11・3	〔日〕 河内日本文化会館開設。
"	11・4	〔日〕「文部省分課規定」中改正（「第五条，教学局ニ教学課，思想課，国語課，宗務課及文化課ヲ置ク 国語課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 一，国語ノ調査ニ関スルコト 二，日本語教育用図書ノ編集，其ノ他日本語普及ニ関スルコト 三，国語審議会ニ関スルコト」）。
"	11・5	大東亜会議，帝国議事堂で開催（日本・満州・タイ・フィリピン・ビルマ・中国汪兆銘政権の各代表参加）。11・6「大東亜共同宣言」を発表。
"	11・6	〔日〕 文部省南方派遣日本語教育要員養成所第六回講習会開始（要項 一，主旨 日本世界観ニ透徹セシメ大東亜ノ現在及未来ニ活眼ヲ開カシムルト共ニ日本語教育要員タルノ知識及技能ヲ体得セシメ南方諸民族ニ対スル指導者タル人材ヲ養成セントス 一，主催 文部省 一，期間 自昭和十八年十一月六日（土曜日）至同十一月三十日（火曜日） 一，場所 東京都赤坂区神宮外苑霞ケ丘口日本青年館構内 南方派遣日本語教育要員養成所 一，講義題目及講師 大東亜文化建設ノ理念 藤野恵，興亜精神 近藤寿春，日本文化史要説 渡辺保，日本語要説，岩淵悦太郎，日本文法要説 東条操，標準語演習 神保格，日本語教育概説 大岡保三，日本語普及史概説 釘本久春，日本語教師論 西尾実，日本語教授法概説 長沼直兄，日本語ノ諸問題 大出正篤，大東亜諸言語要説 小倉進平，大東亜近世史要説 岩村忍，大東亜文教政策 相良惟一，南方民族要説 岡正雄，南方衛生 深田益男，南方事情 郡司喜一，" 松尾次郎，" 関野房夫，" 中島健蔵，訓話 高木覚）。
"	"	ソ連軍，キエフを奪回。
"	11・7	日本エスベラント学会，会員総会開催。
"	11・8	〔日〕 文部省南方派遣日本語教育要員養成所第五回講習会終る（会場青山梅窓院。10月9日～11月8日。11月18日修了式挙行。引き続き軍人会館にて壮行会）。
"	11・9	ワシントンに連合国難民救済機関〔UNRRA〕設置される。
"	11・10	〔書〕「日本語基本語彙（幼年の部）」（坂本越郎，明治図書株式会社）。
"	11・11	〔日〕 ビルマ，3回にわたり内地出発の第二・三・四次日語要員約80名着任。
"	11・13	〔日〕 支文第九八一号 昭和十八年十一月十三日 文部次官 宛 大東亜次官（「留学生補導団体ノ移管ニ関スル件 昭和十八年九月十日ノ閣議決定「留学生ノ指導ニ関スル件」ニ基キ貴省主管ニ係ル左記補導団体ノ引継ヲ受ケタルニ付関係書類一括整備ノ上移管公信ト共ニ御交付相煩度此段申進ス 記

西 暦	年 代	項 目
1943		財団法人満州国留日学生会館 # 東亜振興会 # 青年文化協会 # 国際学友会 # 東亜育英会 # 大東亜学寮 # 大東亜奉仕会館, # 日華学会 # 新興亜会 # 日本タイ協会 # 比律賓協会(以上文部省宛) # 東方民族協会(内閣書記官長宛)」)。
#	11・13	東京都, 帝都重要地帯疎開計画を発表(防火地帯造成・重要工場付近の建物疎開・駅前広場造成)。
#	11・16	〔日〕 昭和18年度松宮賞受賞者決定(日本語教育功労賞山口喜一郎, 日本語教育研究補助檜田文之)。
#	11・18	英軍, ベルリン夜間大空襲(前後5回。～11月19日, 11月22日～23日, 11月23日～24日, 11月26日～27日, 12月2日～3日, 住民死者2700人余)。
#	11・21	米軍, ギルバート諸島のマキン・タラワ両島に上陸。11月月25日両島守備隊5400人玉砕。
#	11・22	ルーズベルト・チャーチル・蔣介石の第1回カイロ会談(～11月26日) 11月27日米英中の「カイロ宣言」に署名。(12月1日発表)。
#	11・25	〔日〕 第六回南方派遣日本語教育要員養成所所生, 土浦海軍航空隊見学。
#	#	〔国〕 国語に関する調査囑託会議開催(会場, 教学課分室, 出席者, 吉沢義則, 金田一京助, 橋本進吉, 東条操各囑託出席(柳田国男欠席), その他神保格, 本省側, 大岡国語課長, 湯沢・関各監修官, 広田・吉田各調査官, 西尾長沼, 三宅, 大塚各囑託出席, 発音記号に関する件について協議)。
#	#	〔書〕「日本語教育叢書 日本語教授法の原理」(市川三喜・神保格・檜崎浅太郎, 日本語教育振興会)。
#	11・28	ルーズベルト・チャーチル・スターリン, テヘランで会談(～12月1日。欧州第二戦線結成, イランの独立・主権の尊重, ソ連の対日参戦など協議)。
#	11・29	ユーゴ国民解放委員会, ヤーチュで革命政府として成立(国防相チトー)。12月25日ソ連, 同委員会を承認し, カイロのユーゴ亡命政権と断交。
#	11・30	〔日〕 第六回南方派遣日本語教育要員養成所終了式(終了生93名。藤野同所長以下各関係官列席。引き続き, 日本語教育振興会主催の壮行会に出席)。
#	11・	〔日〕 長沼直兄, 財団法人日本語教育振興会常務理事兼総主事に就任。
#	#	〔書〕「台湾教育」(第四九六号)。 (同上)「二号表に依る国民学校に於ける国民科国語への道(二)」 (松沢源治郎)。

西 暦	年 代	項 目
1943	11・	〔書〕「山東日本語」(山東省文化教育振興委員会編輯, 山東省政府教育庁日本語研究部。月刊)創刊。
"	"	〔書〕「日本語教科書 巻四」(国際学友会。基礎とも6冊完成)。
"	"	〔書〕「浄土宗辞典」(仏教専門学校編, 大東出版社)。
"	12・1	第一回学徒兵入隊(「学徒出陣」)。
"	"	ボルネオ, パリックパパンの町名日本語化。幹線道路は船見通, 常盤通など八本。
"	"	〔書〕「日本語」(第三巻第十二号)。 (同上)「巻頭言 大東亜会議と日本語」(相良惟一)。 (#)「国語史の課題」(遠藤嘉基)。 (#)「言文一致の歴史」(柳田泉)。 (#)「国語の表記法の問題 その二」(湯沢幸吉郎)。 (#)「「こ」「そ」「あ」に就いて」(有賀憲三)。 (#)「現代日本語の用例研究(四)」(楳垣実)。 (#)「外国語の仮名表記について」(福原麟太郎, 渡辺一夫, 米川正夫, 吹田順助, 大和資雄, 阿部知二, 呉茂一, 泉井久之助, 山田殊樹, 岡沢秀虎, 田中美知太郎, 神田盾夫, 大西雅雄, 石黒修, 芳賀燿, 八杉貞利, 会田由, 高木卓, 西村孝次, 中村光夫, 秋山六郎兵衛, 大久保康雄, 中村一男)。 (#)「現代語の記録(二)」(春山行夫)。 (#)「フランス語史概説(完)」(エミール・リットレ, 田島謙治訳)。 (#)「大東亜共栄圏と日本語(講演会要録)」(東光武三, 豊島与志雄, 中島健蔵, 大岡保三, 長沼直兄, 高見順)。 (#)「日本語教室 新入生に日本語初步指導してみて」(日野成美)。 (#)「日本語教室 蒙疆に於ける日本語教室」(日野静子)。 (#)「(和歌)世代の健児に」(加藤将之)。 (#)「(随筆)語調再考」(内藤濯)。
"	"	〔書〕「コトバ」(十二月号, 「決戦国語教育・戦ふ綴方」)。 (同上)「大東亜戦争と国語教育」(保科孝一)。 (#)「標準語指導の理念」(熊沢龍)。 (#)「南方留学生に対する最初歩日本語指導」(興水実)。 (#)「十二月・コトバ情報(石黒修編)」。 (#)「戦ふ綴方研究会」(石森延男, 秋田喜三郎, 甲田正夫, 滑

西 暦	年 代	項 目
1943		川道夫, 久米井東, 百田宗治, 興水実)。
"	12・3	青壮年国民登録の適用を, 45歳未満まで5歳引き上げ。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会新理事長に文部省教学局長近藤寿治就任(前理事長松尾長造, 文部省図書局長辞任, 大日本育英会理事長就任により理事長退職のため)。
"	12・5	〔書〕「国語論」(松尾捨次郎, 井田書店)。
"	12・8	東条首相, 世界向け放送で, カイロ宣言・テヘラン宣言に反撃。
"	"	第2回大東亜戦争美術展(都美術館, ~'44年1月9日。宮本三郎「海軍落下傘部隊メナド奇襲」など)。
"	12・10	〔日〕 南方向日本語教本編集会議(文部省教学課分室において開会, 出席者, 清水重道, 神保光太郎, 岩淵悦太郎, 森村三郎, 林和比古, 福田恒存, 浅野鶴子の各編集囑託, 大岡国語課長, 釘本監修官等出席)。
"	"	〔日〕 石森延男(文部省図書監修官), 在滿教務部の依頼で, 新京・ハルビン・牡丹江・奉天・大連など講演のため出発, 1月上旬帰京。
"	"	〔日〕 北部仏印日本語普及会第二回修了式(映画館エデンにおいて挙行。修了生88名(男80, 女8)及び夜間部第一, 二, 三期特別科生, 昼間部第一, 二期生, 合計739名)。
"	12・12	ソ連, チェコ亡命政府(ベネシュ)と条約調印(戦後の相互援助・協力を約束)。
"	12・15	米軍, ニューブリテン島のマークス岬に上陸。
"	"	〔日〕 海防市, 日本語学校第四期生修業式(安南人日語講習生第四期生11名。会場海防市「ナムシン」街女子小学校教室)。
"	"	〔日〕 北京師範大学附属学校日本語教育研究会開催(会場附属第二小学校。研究教授, 篠原祐一, 司会古田教授, 出席者, 山口喜一郎ほか附属各校教員)。
"	"	〔日〕 ボルネオ, パリックパパン日本語学校第四回卒業式挙行(卒業生42名, 精勤者15名, 優等生5名)。
"	"	〔日〕 ジャワ, 日本語学力検定試験, ジャカルタ日本語学校において実施(〜16日。1500余名が参加。12, 3歳の少女から50余歳の老人まで)。
"	"	横文字抜きの紙幣発行。
"	12・16	〔国〕 国語審議会主査委員会(文部省第三会議室。漢語読み方整理に関する件を討議。出席者, 南会長, 穂積副会長, 築田主査委員長, 諸橋外九主査委員, 保科幹事長及び近藤教学局長, 大岡国語課長等)。
"	"	〔国〕 発音符号ニ関スル協議会(文部省国語課長室において開催, 調査囑託橋本進吉, 金田一京助及神保格外, 大岡国語課長, 湯沢, 関各監修官, 広田,

西 暦	年 代	項 目
1943		吉田各調査官，三井，白石各官補，長沼，三宅，大塚各嘱託並びに国民教育局第二編修課藤井監修官出席，第二次改正案を検討）。
"	12・17	〔日〕 留学生家庭協会創立，華族会館で創立式。
"	12・18	音声学協会総会開催。
"	12・20	〔日〕 ビルマ，タワラディ日本語学校開設（～20年4月）。
"	12・21	閣議，「都市疎開実施要綱」決定。
"	"	〔日〕 釘本図書監修官，南方諸地域へ出張（～昭和19年4月22日）。
"	12・23	〔日〕 ビルマ，臨時編成改正により，監督部解消，参謀二課にて文教業務をとる（軍政撤廃）。
"	12・24	「徴兵適齡臨時特例」〔勅令〕公布（適齡を一年引き下げる）。
"	12・25	〔日〕 ビルマ，蘭貢第二日本語学校開校式挙行（～20年4月）。
"	12・26	〔日〕 バリ島のテンパッサルで第一回の日本語競技会を開催。
"	12・28	閣議，食糧自給態勢強化対策要綱・自作農創設の促進に関する件決定。
"	"	〔日〕「日本語教本編纂委員嘱託会議（文部省国語課長室。南方向初等日本語教本編纂委員嘱託会議を開催，神保光太郎，石井庄司，岩淵悦太郎，清水重道，川崎鉄太郎，鷗川義之助各委員嘱託及び大岡国語課長，三井調査官補，細井嘱託等出席）。
"	12・31	閣議，電力動員緊急措置要綱を決定。
"	12・	東部軍司令部女子通信部隊第1950部隊発足（女子軍属）。
"	"	〔日〕 台湾に義務教育実施。
"	"	〔日〕 満州国，各省高等科・国民教育科を合併して文教科と改称。
"	"	「出征学徒諸君に贈る」（日本文学報国会国文学部会）。
"	"	〔日〕 ビルマ，シリアム日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，タイチ日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，トワンテイ日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，マウビン日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，チャイラ日本語学校開設（～20年3月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，ピヤボン日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，バセイン日本語学校開設（～20年3月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，エナンジョ日本語学校開設（～20年3月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，アランミョウ日本語学校開詳（～20年3月）。
"	"	〔日〕 ビルマ，カラー日本語学校開設（～20年4月8日）。
"	"	〔日〕 ビルマ，ロイレム日本語学校開設（～20年）。
"	"	〔日〕 ビルマ，ロイコウ日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 昭和18年現在，満州国の初等学校は学校数約2万1千，学級数4万3千，児童数2百10万，教師約5万，中等学校は師道教育機関を別にして，

西 暦	年 代	項 目
1943		学校数230, 生徒数6万5千, 教師3千4百, これに対し, 日系教師が初等学校に約1000名, 中等学校に約1000名, 合計2000名配置。
"	12・	〔書〕「ワカチガキノ ジビキ」(松坂忠則著, シロガネ社)。
"	(昭和18年)	〔日〕 台湾総督府, 高等学校に臨時教員養成所を附置(修業年限は3年, 本島人学生5名入学)。
"	"	〔日〕 台北高等商業学校, 台北経済専門学校と改称。
"	"	〔日〕 師範教育を受けた本島人生徒数・卒業数(師範学校, 学生数, 本島人346, 高砂族1, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 公学校の高等科・補習科教育を受けた本島人児童数・卒業数(生徒数・本島人26518, 高砂族200, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 台湾の小学校で「国語教育」を受けた本島人児童数・卒業数(小学校, 生徒数, 本島人4313, 蕃人49, 卒業数不明。小学校高等科, 生徒数, 本島人450, 蕃人5, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 中等教育を受けた本島人生徒数・卒業数(公立中学校, 生徒数7337, 高砂族6, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 実業教育を受けた本島人生徒数・卒業数(実業学校, 生徒数, 本島人7857, 高砂族19, 卒業数不明, 実業補習学校, 生徒数, 本島人13531, 高砂族131, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 各種学校教育を受けた本島人生徒数・卒業数(生徒数, 本島人3092, 高砂族2, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 大学教育を受けた本島人学生数・卒業数(台北帝大, 学生数, 本島人98, 高砂族54, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 専門教育を受けた本島人学生数・卒業数(学生数, 本島人300, 高砂族1, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 蕃童教育所の生徒数・卒業数(所数154, 生徒数11596, 卒業数不明)。
"	"	〔日〕 国語講習所の所数・会員数・国語及歩合(所数272, 会員22931, 普及歩合49・76)。
"	"	野球用語, 「ストライク」は「よし1本」, 「アウト」は「ひけ」等に変更。乗合自動車, 「オーライ」は「発車」, 「バック」は「背背」等と呼称。
"	"	〔書〕「台湾教育」(第四八六号~第四九七号, 「義務教育特輯号」第四八九号)。

西 曆	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「コクゴ教授書・一」(台湾総督府)。
"	"	〔書〕「高砂族の教育」(台湾総督府警務局)。
"	"	〔書〕「台湾教育の進展」(佐藤源治)。
"	"	〔書〕「中学校国語科新教授要目の主眼点」(木村万寿夫, 台北州国語研究会)。
"	"	〔書〕「日本文法読本」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「初等学校用日本語教本(巻一〜三)」(日本語教育振興会。昭和18〜20年)。
"	"	〔書〕「日本語読本 巻四・巻五」(日本語教育振興会, 他に速成用もある)。
"	"	〔書〕「日本語読本学習指導書 巻一・巻二」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「成人用速成日本語教本 上巻」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「日本語の発音符号について」(華北日本語教育研究所, 日本語教育振興会。「ハナシコトバ」に使われているかたかな式発音符号の意義と用法を解説したもの, 上甲幹一執筆)。
"	"	〔書〕「A Basic Grammar」(国際文化振興会)。
"	"	〔書〕「大東亜言語建設の基本」(国民精神文化研究所編)。
"	"	〔書〕「列国の植民地教育政策」(ベッケル著, 鈴木・西原訳)。
"	"	〔書〕「日本語教科書論」(各務虎雄, 育英書院)。
"	"	〔書〕「日本語のアクセント」(日本方言学会)。
"	"	〔書〕「日本古代語宝燈」(藤井尚治, 日本思想研究会出版部)。
"	"	〔書〕「日本語の歴史」(三木幸信, 健文社)。
"	"	〔書〕「日本語源 上・下巻」(賀茂百樹, 興風館)。
"	"	〔書〕「文体論の建設」(小林英夫)。
"	"	〔書〕「外来語概説」(荒川惣兵衛)。
"	"	〔書〕「北方諸言語概説」(高橋盛孝, 三省堂)。
"	"	〔書〕「日語教師」(矢部春著, 東京・柴山教育出版。昭和18年刊。258p)。
"	"	〔書〕「天上人間(天の夕顔)」(中河与一著, 民国方紀生訳, 大阪・錦城出版社。昭和18年刊。118p)。
"	"	〔書〕「櫻花國歌話」(民国銭稻孫訳, 北京・中国留日同学会。民国卅二年刊。113p)。
"	"	〔書〕「支那文庫所蔵洋書分類目録 昭和17年9月末現在」(北橋義好編, 東京・支那文庫。昭和18年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「中日事變解決の根本途徑」(中国公論社編, 北京・中国公論社。民国卅二年刊。「中國公論叢書之1」。158p)。
"	"	〔書〕「西力東漸本末」(中川清次郎著, 東京・大東出版社。昭和18年刊。「大東選書4」。612p)。

西 曆	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「中華民國三十年史」(橘機著,東京・岩波書店。昭和18年刊。[岩波新書]。207p)。
"	"	〔書〕「譯註日本考」(渡辺三男著,東京・大東出版社。昭和18年刊。[大東選書1]。378p)。
"	"	〔書〕「こども支那風土記」(実藤恵秀著,東京・実業之日本社。昭和18年刊。278p)。
"	"	〔書〕「日本と上海」(沖田一著,上海・大陸新報社。昭和18年刊。333p)。
"	"	〔書〕「司馬遷」(武田泰淳著,東京・日本評論社。昭和18年刊。233p)。
"	"	〔書〕「下田歌子先生伝」(東京・故下田校長先生伝記編集所。昭和18年刊。778p)。
"	"	〔書〕「中國人的日本觀」(魚返善雄著,東京・目黒書店。昭和18年刊。[支那語文化輯刊2]。218p)。
"	"	〔書〕「明治日支文化交渉」(実藤恵秀著,東京・光風館。昭和18年刊。394p)。
"	"	〔書〕「支那人の魂を握む」(清水安三著,東京・創造社。昭和18年刊。222p)。
"	"	〔書〕「近代支那社會 — 近代支那文化讀本」(和田清編,東京・光風館。昭和18年刊。313p)。
"	"	〔書〕「近代支那文化」(和田清編,東京・光風館。昭和18年刊。294p)。
"	"	〔書〕「陸海空軍軍人訓條淺釋」(民国汪兆銘著。民国卅二年序刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「支那絵画史研究」(下店静市著,東京・富山房。昭和18年刊。470p)。
"	"	〔書〕「日本武器概説」(末永雅雄著,京都・桑名文星堂。昭和18年刊。132p)。
"	"	〔書〕「春太郎漂流記」(宮崎博史著,東京・文昭社。昭和18年刊。253p)。
"	"	〔書〕「日本雜事詩」(清黄遵憲著,実藤恵秀,豊田穰共訳。東京・生活社。昭和18年刊。446p)。
"	"	〔書〕「李太白匹配金錢記(元曲金錢記)」(元喬孟符著,明臧晉叔校,吉川幸次郎訳編,東京・築摩書房。昭和18年刊。294p)。
"	"	〔書〕「小学教師倪煥之」(民国葉紹鈞著,竹内好訳。東京・大阪屋号書店。昭和18年刊。307p)。
"	"	〔書〕「啼笑因縁 2巻」(民国張恨水著,飯塚朗訳,東京・生活社。昭

西 曆	年 代	項 目
1943		和18年刊。2冊)。
"	(昭和18年)	〔書〕「魚」(民国梅娘著,北京・新民印書館。民国卅二年刊。「新進作家集2」。210p)。
"	"	〔書〕「太平願」(民国馬驪著,北京・新民印書館。民国卅二年刊。「新進作家集3」。195p)。
"	"	〔書〕「遠人集」(民国林榕著,北京・新民印書館。民国卅二年刊。「新人作家集5」。187p)。
"	"	〔書〕「芳兄のおくり物」(民国葉紹鈞著,実藤恵秀訳,東京・鍾美堂。昭和18年刊。199p)。
"	"	〔書〕「支那童話集孔子さまと琴の音」(伊藤貴磨著,大阪・増進堂。昭和18年刊。「大東亜圏童話集」。237p)。
"	"	〔書〕「ソ聯より見たる西南アジア」(中亜問題研訳)。
"	"	〔書〕「回教概論」(大川周明)。
"	"	〔書〕「東西交渉史の研究(西域編)」(藤田農八遺著)。
"	"	〔書〕「中央亜細亜より亜拉比亞へ」(池内宏編)。
"	"	〔書〕「一統福島將軍遺績」(太田阿山編)。
"	"	〔書〕「概説大東亜史」(有高巖)。
"	"	〔書〕「東亜史論藪」(和田清)。
"	"	〔書〕「大東亜共栄圏建設の基礎理論」(田村徳治)。
"	"	〔書〕「東亜経済年報」(山口高商東亜研)。
"	"	〔書〕「大東亜経済政策の諸問題」(滝谷博士記念論文集)。
"	"	〔書〕「大東亜の社会と経済」(慶応義塾学会)。
"	"	〔書〕「大東亜産業立地計画論」(川西正鑑)。
"	"	〔書〕「大東亜計画貿易論」(藤井茂)。
"	"	〔書〕「大東亜に於ける米」(鈴木政)。
"	"	〔書〕「朝鮮鰯油肥統制十年史」(同製造業水産組合)。
"	"	〔書〕「満州行政経済年報」(日本政治問題調査所)。
"	"	〔書〕「満州国現勢」(康德十年版)。
"	"	〔書〕「満州国に於ける指導者教育」(大阪商科大学)。
"	"	〔書〕「日満産業構造論(一,二巻)」(雪山慶三)。
"	"	〔書〕「満州国内在住諸人種 諸民族ノ指紋ニ関スル研究」(三浦正訳)(満州民族学会。康德十年)。
"	"	〔書〕「満州国農業政策」(横山敏男)。
"	"	〔書〕「開拓民の農業 新農法確立ニ関スル研究資料」(日満農政研究会。康德十年)。
"	"	〔書〕「満州農村記」(東京大同印書館)。
"	"	〔書〕「北方農業機具解説 — 満州開拓と北海道農具 —」(板谷英生)(常松栄)。

西 曆	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「蒙古近世史」(コロストヴェッツ)。 高山洋吉訳
〃	〃	〔書〕「黄土地帯」(アンダーソン著)。 松崎寿和訳
〃	〃	〔書〕「蒙疆年鑑(昭和18年版)」(蒙疆新聞)。
〃	〃	〔書〕「蒙疆の農村」(山田武彦)。
〃	〃	〔書〕「最新支那要覧」(磯辺栄一)。
〃	〃	〔書〕「大陸文化研究(続)」(京城帝国大学大陸文化研究会)
〃	〃	〔書〕「重慶政權の政情」(東亜研究所)。
〃	〃	〔書〕「中国国民党通史」(波多野乾一)。
〃	〃	〔書〕「移民族の支那統治概説」(伊藤斌)。
〃	〃	〔書〕「最近支那政治制度史(上巻)」(及川恒忠)。
〃	〃	〔書〕「最新支那要覧」(東亜研究会)。
〃	〃	〔書〕「支那文化展望」(ハーバート・アリンチャイルス)。 森沢三郎訳
〃	〃	〔書〕「古代支那研究」(小島祐馬)。
〃	〃	〔書〕「支那基督教の研究(一〜四)」(佐伯好郎。〜昭和24年)。
〃	〃	〔書〕「支那学芸大辞彙」(近藤奎)。
〃	〃	〔書〕「支那歴代風俗事物考」(秋田成明訳)。
〃	〃	〔書〕「支那家族の構造」(清水盛光)。
〃	〃	〔書〕「新中国の経済動向」(中国通信社)。
〃	〃	〔書〕「支那国民性と経済精神」(大谷孝太郎)。
〃	〃	〔書〕「中国新金融政策論」(馬寅初 森下修一訳)。
〃	〃	〔書〕「重慶インフレーションの研究」(飯田藤次)。
〃	〃	〔書〕「中支の民船業」(満鉄調査部編)。
〃	〃	〔書〕「支那旅行日記(上巻中巻)」(リヒトホーフエン)。 海老原正雄訳
〃	〃	〔書〕「訂正 湖南省綜覧」(神田正雄)。
〃	〃	〔書〕「北支那の農業と経済(上・下巻)」(満鉄調査部編)。
〃	〃	〔書〕「江南文化開発史 — その地理的基礎研究 —」(岡崎文夫 池田静夫)。
〃	〃	〔書〕「上海風語」(内山完造)。
〃	〃	〔書〕「北進の先覚者」(和田政雄)。
〃	〃	〔書〕「シベリア資源研究」(ヴェー・アー・オブルチェフ)。 竹尾式 訳
〃	〃	〔書〕「台湾農工調整問題懇談会記録」(東亜農業研究所)。
〃	〃	〔書〕「南進台湾史攷」(井出季和太)。
〃	〃	〔書〕「台湾経済年報(三)」(台湾経済年報刊行会)。
〃	〃	〔書〕「台湾米穀管理と集荷機構」(林仏樹)。
〃	〃	〔書〕「台湾農工調整懇談会記録」(東亜農業研)。
〃	〃	〔書〕「南方年鑑(昭和十八年版)」(同刊行会)。
〃	〃	〔書〕「先覚諸家南方建設論選集」(田中末広編)。
〃	〃	〔書〕「南方統治政策史論」(ファニーニヴァル)。 浜田恒一訳

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「南方の芝居と音楽」(松原晩香)。
"	"	〔書〕「南方圏経済論」(大形太郎)。
"	"	〔書〕「南方圏の交通」(渡辺源一郎)。
"	"	〔書〕「南方圏貿易統計表」(南洋協会編)。
"	"	〔書〕「南方経緯と厚生問題」(宮島幹之助)。
"	"	〔書〕「大南洋年鑑(二)」(南洋団体联合会)。
"	"	〔書〕「ソロモン諸島とその附近 — 地理と民俗 — 」(太平洋協会)。
"	"	〔書〕「南太平洋踏査記」(秋本貫一)。
"	"	〔書〕「ポリネシアに於けるタブウの研究」(宮沢亮)。
"	"	〔書〕「未開人の話」(永橋卓介)。
"	"	〔書〕「南方植産資源論」(田中長三郎)。
"	"	〔書〕「熱帯植物図説」(瀬川弥太郎)。
"	"	〔書〕「英領マライ史」(スウェッチナム著 阿部真琴訳)。
"	"	〔書〕「マライ経済の諸問題」(大谷敏治)。
"	"	〔書〕「馬來半島横断運河」(渡辺源一郎)。
"	"	〔書〕「マライの鉱業とイギリスの政策」(C・G・ウェーンフォード・ロック 小西善治訳)。
"	"	〔書〕「ハンター印度史」(茂垣長作)。
"	"	〔書〕「東インド労働政策史」((財)南洋協会編)。
"	"	〔書〕「東印度」(ヴァンデン・ボッシュ 大江專一訳)。
"	"	〔書〕「東印度の経済建設」(目崎憲司)。
"	"	〔書〕「東印度農業経済研究」(奥田或訳著)。
"	"	〔書〕「東印度会社研究」(楊井克己)。
"	"	〔書〕「東印度群島地質論」(早坂一郎)。
"	"	〔書〕「ビルマ史」(ハーヴィ著 五十嵐智昭訳)。
"	"	〔書〕「ビルマの旅—孔雀とバゴダー」(ボール・エドモンズ 児島英之助訳)。
"	"	〔書〕「仏印行政制度概説」(満鉄東亜経済調査局編)。
"	"	〔書〕「仏領印度支那」(ア・アガール 宮島綱男・土居博共訳)。
"	"	〔書〕「蘭印史」(デ・クラーク・南方調査会訳)。
"	"	〔書〕「比律賓の農業(上巻)」(福原友吉)。
"	"	〔書〕「濠州の社会と経済」(岡倉古志郎)。
"	"	〔書〕「アジア民族誌」(ラッシエル 向坂逸郎)。
"	"	〔書〕「南方諸民族事情研究」(平野晃)。
"	"	〔書〕「南方民族誌」(西村真次)。
"	"	〔書〕「大東亜の原住民族」(H・ベルナツイーク 日本拓殖協会編訳)。
"	"	〔書〕「太平洋民族の原始経済」(マルセル・モース 山田吉彦訳)。
"	"	〔書〕「ビルマ民族誌」(シュウエイ・ヨー 岡本嘉平次・今永要訳)。
"	"	〔書〕「トルコその民族と歴史」(レンキル 荒井武雄訳)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「西アジア民族史」(内藤智秀)。
〃	〃	〔書〕「東印度の土俗」(三吉朋十)。
〃	〃	〔書〕「印度支那民族誌」(満鉄東亜経済調査局編)。
〃	〃	〔書〕「豪州原住民の研究」(スペンサー・田村秀文訳)。
〃	〃	〔書〕「フィリピン民族誌」(A・クローバー著・三品彰英・横田健一共訳)。
〃	〃	〔書〕「海南島民族誌」(H・スチューベル・平野義太郎編, 清水三男訳)。
〃	〃	〔書〕「植民と植民政策」(河津渥)。
〃	〃	〔書〕「独逸の植民地保健政策」(石橋長英)。
〃	〃	〔書〕「新渡戸博士 植民政策講義及論文集」(矢内原忠雄)。
〃	〃	〔書〕「日本拓殖学会年報(第一輯)」。
〃	〃	〔書〕「植民地統治法の基本問題」(中村哲, 日本評論社)。
〃	〃	〔書〕「日本人の強さの研究」(前満州協和会厚生部長・堀江憲治)。
〃	〃	〔書〕「朝鮮貿易史」(朝鮮貿易協会)。
〃	〃	〔書〕「朝鮮工業の現役階」(川合彰武)。
〃	〃	〔書〕「高砂義勇隊」(杉崎英信編, 刊)。
〃	〃	〔書〕「現代の教育学」(ベーターセン・大日方勝訳)。
〃	〃	〔書〕「日本教育学の枢軸」(乙竹岩造)。
〃	〃	〔書〕「クリーク全体主義教育原理」(野上巖訳)。
〃	〃	〔書〕「教育の理念」(羽田隆雄)。
〃	〃	〔書〕「人間味の教育」(下田次郎)。
〃	〃	〔書〕「師弟論 — 東洋的教育の根本問題 — 」(菅原兵治)。
〃	〃	〔書〕「国民教育と敬神」(山田孝雄)。
〃	〃	〔書〕「日本国民教育史」(乙竹岩造)。
〃	〃	〔書〕「南方圏の教育」(文部省)。
〃	〃	〔書〕「学生生活調査」(海後宗臣・吉田昇共著)。
〃	〃	〔書〕「修訂 日本教育史」(佐藤誠実)。
〃	〃	〔書〕「列国の植民地教育政策」(ベッケル著・鈴木福一・西原茂正訳)。
〃	〃	〔書〕「国民学校並に幼稚園関係法令の沿革」(文部省)。
〃	〃	〔書〕「教育ニ関スル戦時非常措置方策」ニ基ク(文部省)。
〃	〃	〔書〕「中等学校内容ニ関スル臨時措置要綱」。
〃	〃	〔書〕「国家総動員による師道昂揚と教育者の尊重」(寺田文・河上民祐著)。
〃	〃	〔書〕「支那教育文化史」(平塚益徳)。
〃	〃	〔書〕「保育学」(和田実)。
〃	〃	〔書〕「児童生活の実態」(日本青少年教育研究所編)。
〃	〃	〔書〕「教行一体入学初期の教育」(白井勇)。
〃	〃	〔書〕「学徒動員必携(第一輯)」(学徒動員本部総務部)。
〃	〃	〔書〕「国民学校の学級経営」(石川師範学校女子部附属国民学校)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「全体主義商業教育の構想」(高砂恒三郎)。
"	"	〔書〕「 ^{実業学校教科教授} 及修練指導要目」(二冊)(文部省)。
"	"	〔書〕「青少年の教護と錬成」(前田偉男)。
"	"	〔書〕「青少年団年鑑」(日本青年館)。
"	"	〔書〕「国民教育の課題」(稲富栄次郎)。
"	"	〔書〕「日本農村教育」(加藤寛治)。
"	"	〔書〕「児童の疑問と理科指導」(^{長野師範} 上条茂)。
"	"	〔書〕「科学教育指針」(石川県教育会)。
"	"	〔書〕「技術教育」(富塚清)。
"	"	〔書〕「児童の数理生活と技術的修練」(長野師範学校男子部)。
"	"	〔書〕「国語学叢録」(新村出)。
"	"	〔書〕「 ^{商業学校教科書} 編集趣意書」(第一集)」「((財)実業教育振興中央会)。
"	"	〔書〕「ウエルナア精神の発達」(矢田部達郎)。
"	"	〔書〕「発達心理学入門」(^{K・コフカ著} 平野直人・八田直穂訳)。
"	"	〔書〕「心理学新研究(松本博士喜寿記念)」(田中寛一)。
"	"	〔書〕「心理学と生活」(山本三郎)。
"	"	〔書〕「ゲシュタルト心理学の立場」(佐久間鼎)。
"	"	〔書〕「児童心理編」(日本両親再教育協会編)。
"	"	〔書〕「児童心理学」(久保良英)。
"	"	〔書〕「 ^{日本国家} 法律学科学体系」(全三冊)」「(孫田秀春。～昭和19年)。
"	"	〔書〕「仏蘭西法学の諸相」(福井勇二郎)。
"	"	〔書〕「満州国基本法」(高橋貞三)。
"	"	〔書〕「訴権と法的利益」(^{エリッヒ・ブライ} 小野木常)。
"	"	〔書〕「日本法律史話」(滝川政次郎)。
"	"	〔書〕「総動員統制法規」(国政調査会)。
"	"	〔書〕「判例価格統制法」(荻野益三郎)。
"	"	〔書〕「穂積八束博士論文集」(穂積重威)。
"	"	〔書〕「現代刑事法学の諸問題(宮本博士祝賀)」。
"	"	〔書〕「法学博士市村富久遺稿(商法)」(山田浩蔵)。
"	"	〔書〕「日本法理の自覚的展開」(小野清一郎)。
"	"	〔書〕「社会法の研究」(橋本文雄)。
"	"	〔書〕「法律社会学の諸問題」(戒能通孝)。
"	"	〔書〕「明治法制史論(公法の部)上・下」(小早川欣吾)。
"	"	〔書〕「全日本法制史大綱」(細川亀市著)。
"	"	〔書〕「 ^{近世} 日本固有法論考」(奥野彦六)。
"	"	〔書〕「日本固有法の精神」(細川亀市)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「裁許留(司法資料)」(司法省)。
"	"	〔書〕「武家時代社会の研究」(牧野信之助)。
"	"	〔書〕「日本近世行刑史稿(上・下)」(刑務協会)。
"	"	〔書〕「エスカラ支那法」(谷口知平)。
"	"	〔書〕「牧民心鑑素書律令要略序等」(司法資料)。
"	"	〔書〕「支那民事慣習調査報告(上)」(清水金二郎 張源祥)。
"	"	〔書〕「印度法制史大要」(武市春男)。
"	"	〔書〕「近代ドイツ憲法史(文庫本)」(シュティンミング 市川米彦訳)。
"	"	〔書〕「修正 増補憲法提要」(穂積八束)。
"	"	〔書〕「帝国憲法と財産制」(大石義雄)。
"	"	〔書〕「憲法十七條序説」(五十嵐祐宏)。
"	"	〔書〕「法律による行政」(田上穰治)。
"	"	〔書〕「米國戦時行政論」(原有常)。
"	"	〔書〕「ナチス行政法理論」(渡辺宗太郎)。
"	"	〔書〕「府県・市町村吏員」(江口俊男)。
"	"	〔書〕「国土計画の基礎・構造」(日下藤吾)。
"	"	〔書〕「西洋中世都市発達史」(ビレンヌ 今来陸郎訳)。
"	"	〔書〕「五大都市町内会に関する調査」(東京市政調査会)。
"	"	〔書〕「住宅問題」(西山卯三)。
"	"	〔書〕「昭和十七年版建築年鑑」(建築学会)。
"	"	〔書〕「日本土地法史」(井上和夫)。
"	"	〔書〕「永代借地制度解消記念誌」(永代借地制度解消後 措置連絡委員会編)。
"	"	〔書〕「日本警察法概論」(小金井健男)。
"	"	〔書〕「著作権法研究」(城戸芳彦)。
"	"	〔書〕「都市の医学」(湯浅謹而)。
"	"	〔書〕「労務者厚生と環境整備」(坂本金吾)。
"	"	〔書〕「現代国家学説」(大串兎代夫)。
"	"	〔書〕「国家・法律・人間」(牧野英一)。
"	"	〔書〕「国家学研究」(大串兎代夫)。
"	"	〔書〕「国家・法・民族」(満州法理研報告。康德十年)。
"	"	〔書〕「国家社会主義論策」(林癸未夫)。
"	"	〔書〕「国家と宗教」(南原繁)。
"	"	〔書〕「独逸国民国家発生の研究」(矢田俊隆)。
"	"	〔書〕「国家学政治学(一,二巻)」(日本国家科学大系)。
"	"	〔書〕「都市国家と経済」(ハーゼブレッグ 原随園・市川文蔵)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「国防国家の綱領」(企画院研究会)。
"	"	〔書〕「民族国家と世界観」(由良哲次)。
"	"	〔書〕「ドイツ国の基本的諸問題。(フォン・ゼクト)」(斉藤栄治訳)。
"	"	〔書〕「新国体論」(永井亨)。
"	"	〔書〕「国体論史」(清原貞雄)。
"	"	〔書〕「国体と全体主義」(関栄吉)。
"	"	〔書〕「世界に比類なき天皇政治」(佐藤清勝)。
"	"	〔書〕「皇国の理念」(渡辺幾治郎)。
"	"	〔書〕「神話哲学 随順の倫理」(磯辺忠正)。
"	"	〔書〕「皇道哲学」(佐藤通次)。
"	"	〔書〕「伝統」(平泉澄)。
"	"	〔書〕「勤皇文庫(全五巻)」(社会教育協会)。
"	"	〔書〕「楔 鍛成読本」(行弘紘)。
"	"	〔書〕「神ながらの国」(河野省三)。
"	"	〔書〕「師魂と士魂」(竹下直之)。
"	"	〔書〕「大御田族の本義」(角南元一)。
"	"	〔書〕「政治学概論」(弓塚七郎)。
"	"	〔書〕「政治学説史(第一,二巻)」(^{ダンエング} 古賀鶴松訳)。
"	"	〔書〕「戦時の政治と公法」(中野登美雄)。
"	"	〔書〕「 ^{アダム・スミス} 政治経済国防講義案」(榎原信一訳)。
"	"	〔書〕「政治思想史概説」(原田綱)。
"	"	〔書〕「徳川幕府の成立・動揺・崩壊」(後藤基春)。
"	"	〔書〕「明治政史(壱)」(指原安三編)。
"	"	〔書〕「日本憲政史の研究」(尾佐竹猛)。
"	"	〔書〕「新国民運動の基本問題」(清水伸)。
"	"	〔書〕「大日本国防婦人会十年史」(同本部)。
"	"	〔書〕「銃後の華」(^{大日本国防婦人会} 京都地方本部)。
"	"	〔書〕「総動員統制法規」(国民調査会編)。
"	"	〔書〕「統制会体制の進展」(円地与四松)。
"	"	〔書〕「男子従業の制限禁止と就職命令」(^{佐藤善太郎} 関 清)。
"	"	〔書〕「翼賛議員銘鑑」(議会社聞社)。
"	"	〔書〕「重要国策に関する資料(1・2)」(翼賛政治会)。
"	"	〔書〕「第四回中央協力会議会議録」(大政翼賛会)。
"	"	〔書〕「革新日本の政治原理」(佐藤清勝)。
"	"	〔書〕「大日本政治哲学」(佐藤清勝)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「国史概説」(三上参次)。
"	"	〔書〕「協力工場整備問題に 関する官民懇談会」(日本経済連盟会)。
"	"	〔書〕「企業整備資金措置法解説 附臨時租税措置法中租税減免に関する規定解説」(重要産業協議 会編)。
"	"	〔書〕「統制会に依る能率増進並びに遊休工場 の計画的利用に関する官民懇談会速記録」(日本経済連盟会)。
"	"	〔書〕「国際政治の指導原理と 高度国防国家の必然性」(水谷吉蔵)。
"	"	〔書〕「日本の課題と世界史」(高山岩男)。
"	"	〔書〕「ソビエトの力・実力(ヒューレット ジョンソン)二冊」(外務省調査局。～ 昭和19年)。
"	"	〔書〕「独ソ戦後のソ連要人演説 主要命令及標語集」(外務省調査局)。
"	"	〔書〕「中ソ論争の概略と批判」(増田四郎)。
"	"	〔書〕「アインハルト大独乙国民史」(木暮浪夫訳)。
"	"	〔書〕「ヒトラー吾が闘争(下)」(真鍋良一訳)。
"	"	〔書〕「ギリシャ史(上中巻)」(ジョン・ビューリー 村田泰志訳)。
"	"	〔書〕「英帝国崩壊の予言者」(トーマス・カーライル 榊原巖訳)。
"	"	〔書〕「米国大統領 — 地位及び権限 — 」(家永正章)。
"	"	〔書〕「米英の東亜制覇政策」(大東亜戦争調査会編)。
"	"	〔書〕「米国黒人の研究」(河村只雄)。
"	"	〔書〕「ユダヤ四千年史」(ワルター・ブレヴィッツ 米本三爾訳)。
"	"	〔書〕「豪州政治発達史」(本間幸次郎)。
"	"	〔書〕「民族文化史概説」(今西正雄)。
"	"	〔書〕「民族国家と世界観」(由良哲次)。
"	"	〔書〕「回教民族運動史」(ハンス・コーン 赤木春之訳)。
"	"	〔書〕「欧羅巴民族の運命 上巻」(フェーレンクローク編 菅 良訳)。
"	"	〔書〕「太平洋民族学」(清野謙次)。
"	"	〔書〕「日本民族論」(堀真琴・他)。
"	"	〔書〕「日本民族の優秀性に関する根本研究」(末広一雄)。
"	"	〔書〕「印度支那の民族と文化」(松本信広)。
"	"	〔書〕「世界の原始民族(上巻)」(J・マードック 土居光司)。
"	"	〔書〕「ニーベルンゲン伝説 — 純ドイツ民族精神史研究 — 」(吉村貞司)。
"	"	〔書〕「李済支那民族の形成」(須山卓訳)。
"	"	〔書〕「支那民族生活史」(井坂錦江)。
"	"	〔書〕「ミクロネシア民族誌」(松岡静雄)。
"	"	〔書〕「地政動態論」(井口一郎)。
"	"	〔書〕「大陸政治と海洋政治」(ハウス・ホッファー 窪井義道訳)。
"	"	〔書〕「後藤新平伝 台湾統治篇上・下」(鶴見祐輔, 太平洋協力会)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「本居宣長と平田篤胤」(藤田徳太郎)。
"	"	〔書〕「高野長英伝」(高野長運)。
"	"	〔書〕「北越戊辰戦争と河井継之助」(井上一次)。
"	"	〔書〕「伊藤博文伝(全三巻)」(同公追頌会)。
"	"	〔書〕「政界を歩みつつ」(安藤正純)。
"	"	〔書〕「小村寿太郎(北京編)」(宿利重一)。
"	"	〔書〕「児玉源太郎」(宿利重一, 国際日本協会)。
"	"	〔書〕「福沢諭吉伝(第一〜四巻)」(石川幹明)。
"	"	〔書〕「岡田和一郎先生伝(耳鼻科)」(梅沢彦太郎)。
"	"	〔書〕「研究の回顧」(鈴木梅太郎)。
"	"	〔書〕「男爵郷誠之助君伝」(同記念会)。
"	"	〔書〕「曾国藩」(桜井信義)。
"	"	〔書〕「ネール自叙伝(上下)」(竹村和夫他訳)。
"	"	〔書〕「ヘルマン・フォン・(一卷)」(レオ・ケーニヒスベルグ)。 ヘルムホルツ評伝 宮入慶之助訳
"	"	〔書〕「国際法論」(山名寿三)。
"	"	〔書〕「新汎米主義と米洲国際法」(海本徹雄)。
"	"	〔書〕「海事国際私法論」(山戸嘉一)。
"	"	〔書〕「中国々籍法規彙編(贈)」(内政部)。
"	"	〔書〕「ロシア政治外交史」(J・ヴェルナドスキー)。 金生喜造訳
"	"	〔書〕「米国の言論指導と対外宣伝」(モソワ)。 坂部重蔵訳
"	"	〔書〕「戦争法」(前原光雄)。
"	"	〔書〕「ジンメル戦争の哲学」(阿閉吉男)。
"	"	〔書〕「兵理より観たる産業戦の指導原理」(中井良太郎)。
"	"	〔書〕「戦力増強の理論」(難波田春夫)。
"	"	〔書〕「米国の攻勢作戦」(カーナン)。 南雲洋一郎
"	"	〔書〕「現代用兵論」(酒井鎬次)。
"	"	〔書〕「東肥航空血盟録」(同KK)。
"	"	〔書〕「近代海戦史」(富永謙吾)。
"	"	〔書〕「大東亜戦争と中国民衆の動向」(小山栄三)。
"	"	〔書〕「大東亜戦日誌(第二輯)」(六芸社)。
"	"	〔書〕「部外秘 支那事変」(満洲第一七七部隊)。
"	"	〔書〕「北京籠城(上・下巻)」(ウィール)。 清見陸郎
"	"	〔書〕「外地統治機構の研究」(山崎丹照, 高山書院)。
"	"	〔書〕「思想戦講習会速記録(全四巻)」(内閣情報部)。
"	"	〔書〕「独ソ戦争史」(赤神良譲)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「牧野教授還暦祝賀刑事論集」(小野清一郎)。
"	"	〔書〕「現代刑事法学の諸問題」(宮本博士還暦祝賀)。
"	"	〔書〕「刑法要論(総論)」(小泉英一)。
"	"	〔書〕「増訂刑法大要」(泉二新熊)。
"	"	〔書〕「ドイツ戦時刑法研究(第一巻)」(市川秀雄)。
"	"	〔書〕「日本経済刑法概論」(定塚道雄)。
"	"	〔書〕「刑の量定に関する実証的研究」(不破武夫)。
"	"	〔書〕「刑事訴訟法綱要」(団藤重光)。
"	"	〔書〕「日本犯罪論」(久礼田益喜)。
"	"	〔書〕「戦争の犯罪に及ぼせる影響」(ソープマン、小川太郎訳)。
"	"	〔書〕「日本近世行刑史稿(上・下)」(刑務協会)。
"	"	〔書〕「明治民法論編纂史研究」(星野通)。
"	"	〔書〕「解説民事裁判例(二)」(竹田省、末川博)。
"	"	〔書〕「判例身分法研究」(青山道夫)。
"	"	〔書〕「親族法及国際親族法の研究」(山口弘一)。
"	"	〔書〕「日本家族制度と小作制度」(有賀喜左衛門著)。
"	"	〔書〕「否認権に関する実証的研究」(板木郁郎)。
"	"	〔書〕「民事訴訟法概論」(兼子一)。
"	"	〔書〕「商行為法論」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「日本証券史論 上巻」(小野清造)。
"	"	〔書〕「海軍国際私法論」(山戸嘉一)。
"	"	〔書〕「海商法要綱」(樋貝詮三)。
"	"	〔書〕「海の慣習法」(樋貝詮三)。
"	"	〔書〕「海商法汎論 第一巻」(中筋義一)。
"	"	〔書〕「海商法要義(上~下巻七)」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「海商法要義(上・中・下)四冊」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「海上衝突予防法論」(瀬下清通)。
"	"	〔書〕「費用海損論」(太田康平)。
"	"	〔書〕「農業保険」(下山一二)。
"	"	〔書〕「手形小切手法要義」(大浜信泉)。
"	"	〔書〕「小切手法」(大橋光雄)。
"	"	〔書〕「財政学」(小川郷太郎、汐見三郎)。
"	"	〔書〕「増補戦時財政講話」(井藤半弥)。
"	"	〔書〕「独逸に於ける戦時財政経済事情」(大蔵省総務局)。
"	"	〔書〕「歳入歳出詳論」(青木得三著)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「日本地方財政制度の成立」(藤田武夫)。
"	"	〔書〕「日本地方財政論」(藤田武夫)。
"	"	〔書〕「租税転嫁論」(松野賢吾)。
"	"	〔書〕「実務本位所得税法詳解」(小林長谷雄・岩本巖)。
"	"	〔書〕「関税経済論」(小林行昌)。
"	"	〔書〕「昭和金融政策史」(矢尾板正雄)。
"	"	〔書〕「増訂金融統制の理論」(一谷藤一郎)。
"	"	〔書〕「貨幣価値の研究」(傍島省三)。
"	"	〔書〕「造幣局70年史」。
"	"	〔書〕「ビューリー・ギリシヤ史(上・中巻)」(村田泰志訳)。
"	"	〔書〕「近世の救荒食糧施策」(和田斉)。
"	"	〔書〕「農民離村の実証的研究」(野尻重雄)。
"	"	〔書〕「厚生委員視察資料」(広島県)社会課関係)。
"	"	〔書〕「生計費問題調査並に事業主の行ふべき福利厚生施設の範囲に関する官民懇談会速記録」(日本経済連盟会)。
"	"	〔書〕「生計費調査に現れたる戦時最低生活」(戦時生活相談所)。
"	"	〔書〕「国民生活の課題」(大河内一男)。
"	"	〔書〕「養護室記録」(葛西タカ)。
"	"	〔書〕「小河滋次郎著作集」(小河博士遺文刊行会)。
"	"	〔書〕「寿命予測と生命保険」(渡辺定)。
"	"	〔書〕「決戦下の健民厚生、 NSV(ナチス国民厚生団)の戦時活動」(ハンス・ベルンゼー、 高沖陽造)。
"	"	〔書〕「健民修練指針」(山口県)。
"	"	〔書〕「秋田市史(全四巻)」(～昭和30年)。
"	"	〔書〕「明治以来弘前市医史」(由沢多吉)。
"	"	〔書〕「京都市医師会五十年史」(高橋実)。
"	"	〔書〕「勤労母性保護」(牧賢一)。
"	"	〔書〕「女子勤労の重要性と其の管理」(職業協会)。
"	"	〔書〕「A・シュテウルミンガア著 世界政治宣伝史」(高沖陽造訳)。
"	"	〔書〕「米国の言論指導と対外宣伝」(坂部重義)。
"	"	〔書〕「切支丹典籍叢考」(海老沢有道)。
"	"	〔書〕「リース世界歴史(第一～四巻)」(広島貞吉訳。～昭和19年)。
"	"	〔書〕「独逸中世史の研究」(増田四郎)。
"	"	〔書〕「法隆寺の壁画」(佐伯啓造編)。
"	"	〔書〕「萬葉集伝説歌謡の研究」(西村真次)。
"	"	〔書〕「斑鳩襍記」(北川桃雄)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「南の民話と民謡」(松川二郎)。
"	"	〔書〕「神道と民俗学」(柳田国男)。
"	"	〔書〕「漢学会雑誌(一~十一巻)」(東大漢学会)。
"	"	〔書〕「日本民屋の変遷」(島之夫)。
"	"	〔書〕「山西学術探検記」(朝日新聞社刊)。
"	"	〔書〕「定本・九谷」(松本佐太郎)。
"	"	〔書〕「増補 やきもの読本」(小野賢一郎)。
"	"	〔書〕「古琉球」(伊波普猷)。
"	"	〔書〕「民俗と染色文化」(上村六郎)。
"	"	〔書〕「労働法の主要問題」(菊池勇夫)。
"	"	〔書〕「勤労と文化」(暉俊義等)。
"	"	〔書〕「勤労文化」(鈴木舜一)。
"	"	〔書〕「戦時労働政策の諸問題」(増田富夫)。
"	"	〔書〕「ナチス労務配置政策の発展」(^{F・ジールプ} 著、 ^{木田徹郎} 訳)。
"	"	〔書〕「勤労配置行政関係法令集」(職業協会)。
"	"	〔書〕「労働統計要覧」(社会局労働部監督課)。
"	"	〔書〕「ナチスの労働問題」(^{L・ハイデ} 著、 ^{菊盛秀夫})。
"	"	〔書〕「熔鋸炉と共に四十年」(岩下俊作)。
"	"	〔書〕「作業研究の方法及実例」(龍崎虎男)。
"	"	〔書〕「秘 ^{京城商工会議所調査資料第五輯} 京城に於ける工場調査」(京城商工会議所)。
"	"	〔書〕「産業と人間」(暉俊義等)。
"	"	〔書〕「戦時下の産業安全運動」(蒲生俊文)。
"	"	〔書〕「厚生施設」(和田隆造)。
"	"	〔書〕「勤労母性保護」(牧賢一)。
"	"	〔書〕「女子の職業病」(沢井淳)。
"	"	〔書〕「少年労働に関する文献抄録(欧・邦文の部)」(労働科学研究所)
"	"	〔書〕「特殊労務者の労務管理」(前田一)。
"	"	〔書〕「維新産業建設史資料(一・二巻)」(工業資料刊行会)。
"	"	〔書〕「技術教育」(富塚清)。
"	"	〔書〕「日本電気技術者伝」(田村栄太郎)。
"	"	〔書〕「技術政策」(藤沢威雄)。
"	"	〔書〕「技術の本質」(宮城音五郎)。
"	"	〔書〕「文化と技術」(樺俊雄)。
"	"	〔書〕「近代科学(第一・二巻)」(佐藤信衛)。
"	"	〔書〕「科学史考」(桑木或雄)。

西 暦	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「産業能率と精神指導」(日本経済連盟調査課)。
"	"	〔書〕「日本工業文化史」(田村栄太郎)。
"	"	〔書〕「東京薬種貿易同業組合沿革史」。
"	"	〔書〕「綿商連誌」(日本織物卸商業組合連合会)。
"	"	〔書〕「宝暦治水と薩摩藩士」(伊藤信)。
"	"	〔書〕「水の生活科学」(村上秀二)。
"	"	〔書〕「国土学」(前川晃一)。
"	"	〔書〕「森林と文化」(鳥羽正雄)。
"	"	〔書〕「海洋科学(増訂版)」(順田院次)。
"	"	〔書〕「日本気象史料綜覧」(中央气象台編)。
"	"	〔書〕「南洋圏の気候」(中央气象台)。
"	"	〔書〕「測候瑣談」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「理論気象学(中巻)」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「気象観測法講話」(三浦栄五郎)。
"	"	〔書〕「大東亜気候図誌」(中央气象台)。
"	"	〔書〕「適正規模調査報告(第一〜八集)」(中央農業会。~昭和19年)
"	"	〔書〕「永山村農業経営の概要」(北海道農会)。
"	"	〔書〕「小清水村農業経営の概要」(北海道農会)。
"	"	〔書〕「大正村農業経営の概要」(北海道農会)。
"	"	〔書〕「栗沢村農業経営の概要」(北海道農会)。
"	"	〔書〕「新農業団体の理論と実際」(吉田正)。
"	"	〔書〕「朝鮮の農業計画と農産拡充問題」(小野寺次郎)。
"	"	〔書〕「東亜農業と日本農業」(桜井武雄)。
"	"	〔書〕「熱帯圏の農業と労働」(I・C グリーブス)。 花田正男訳
"	"	〔書〕「ドイツ新経済圏の農業問題」(D・ウオリナー)。 近藤義實訳
"	"	〔書〕「ナチス農業政策」(タール・ハイム)。 橋本元訳
"	"	〔書〕「ナチス農業の建設過程」(磯辺秀俊)。
"	"	〔書〕「クルチモウスキー農学原論」(橋本佐左衛門訳)。
"	"	〔書〕「農業の起源」(ハロールド・ピーク)。 延島英一訳
"	"	〔書〕「農業経営適正規模論」(宮出秀雄)。
"	"	〔書〕「米」(P・ブランケンゲルク著)。 高山洋吉訳
"	"	〔書〕「農工両全への途」 福岡県安徳村調査座談会」(東亜農業研究所)。
"	"	〔書〕「田畑所有状況調査」(農林大臣官房)。
"	"	〔書〕「農地政策ニ関スル参考資料(その二)」(帝国農会)。
"	"	〔書〕「耕地協会報 (第11集)」(山形県耕地協会)。
"	"	〔書〕「日本農学発達史」(農業学校長協会)。

西 曆	年 代	項 目
1943	(昭和18年)	〔書〕「日本耕地価格の研究(昭5・11・8)」(小峯三千男)。
"	"	〔書〕「日本農村人口論」(渡辺信一)。
"	"	〔書〕「木材統制法施行ニ関スル通牒」(楠瀬正澄)。
"	"	〔書〕「土佐捕鯨史 下巻」(伊豆川浅吉)。
"	"	〔書〕「東印度の畜産」(山根甚信)。
"	"	〔書〕「仏印の畜産資源」(奥好是)。
"	"	〔書〕「食糧管理と農業倉庫」(中野休人)。

西 暦	年 代	項 目
1944	昭和19年	
"	1・1	〔日〕 ヤンドーン日本語学校（ビルマ）開校式及び入学式挙行（～20年4月）。
"	"	〔書〕「日本語」（第四巻第一号）。 （同上）「巻頭言 日本語教員への感謝」（高木覚）。 （"）「日本語の調子」（土居光知）。 （"）「国語の一時相に就いて」（戸田吉郎）。 （"）「国語表記の問題」（湯沢幸吉郎）。 （"）「現代日本語の用例研究」（榎垣実）。 （"）「現代語の記録（3）」（春山行夫）。 （"）「日本語の旅（1）」（皆川三郎）。 （"）「フィリピンに於ける日本語教育の現況」（蒲生英夫）。 （"）「泰国に於ける言語上の問題」（山県三千雄）。 （"）「日本語教育の根本問題（座談会）」（岩淵悦太郎，近沢道元，橋本進吉，大岡保三，東光武三，林和比古，釘本久春，西尾実，原元助）。 （"）「日本語教室 復習と応用」（松宮弥平）。 （"）「日本語教室 分つてもらふ気持」（打田正雄）。 （"）「在外邦人子弟教育協会について」（平山日出男）。 （"）「読物 柬埔寨序説」（高木卓）。 （"）「読物 美しい言葉」（林芙美子）。
"	1・4	「戦時文官服務令」・「文官懲戒戦時特例」〔勅令〕各公布（綱紀振粛）。
"	"	〔日〕 ビルマ，タボイ日本語学校開設（～20年8月。モールメン転進後，日本語教育別働班として終戦まで開校）。
"	1・6	〔国〕 国語課初常会（国語課長室，課長ほか各関係官出席。一，課長指示事項 国語対策協議会開会に関する件 一，話題 軍人に賜はりたる勅諭の読み方について）。
"	1・7	大本営，インパール作戦を認可。3月8日作戦開始。
"	"	「前線へ送る夕」放送開始。
"	1・8	〔教〕 閣議，「緊急学徒勤労働員方策要綱」を決定，学徒勤労働員は年間4か月を継続して行うこととする。
"	1・10	〔書〕「日本語文の性格」（小泉蓼三，立命館出版部）。
"	1・13	〔国〕 国語課常会（国語課長室において，発音符号に関し，協議，検討）。

西 暦	年 代	項 目
1944	1・14	ソ連軍、レニングラード戦線で大攻勢開始。1月20日同市を独軍から解放。
"	"	〔国〕 国語課常会（国語課長室において、発音符号に関し協議、検討）。
"	1・15	〔日〕 ビルマ、第五次日語要員36名着任（前後して単独赴任2名着任）。
"	1・17	大東亜史上巻図版審査会議（教育局内東亜史概説編纂部に於て編纂中の大東亜史（上下二巻）を編纂中、在京の調査嘱託を招集して上巻に収録すべき図版審査会議を開始）。
"	1・18	閣議、「緊急国民勤労働員方策要綱」を決定。
"	"	〔日〕 海外向日本語教科書打合会（文部省国語課長室において、海外向日本語教科書に関する情報局と文部省との打合会を開催。情報局第三部対外事業課長根岸国蔵及情報官井沢実、大東亜省大使館調査官関野房夫、高木渉外課長、大岡国語課長、関監修官、長沼嘱託等出席、文部省起草の原案について協議）。
"	1・19	〔国〕 国語課研究会（課長室において第一回研究会を開催、佐伯功介氏の「ローマ字ノ呼名ニツイテ」の講演を聞く）。
"	1・20	〔国〕 国語審議会主査委員会（文部省第三会議室にて開会、漢語の読み方整理に関する件について協議。出席者南会長、穂積副会長、築田委員長、東条、神保、諸橋、五十嵐、前田、赤坂、竹村、宇野、河合、大岡、幣原、横山各委員、保科幹事長、広田、吉田、関各関係官等）。
"	1・22	〔日〕 日本語教育振興会研究部例会（第一回、「慣用読み方について」神田事務所）。
"	"	〔日〕 ビルマ、マグイ日本語学校開設、開校式並びに入学式举行（～20年8月22日。19年12月空襲にて本校焼失後、パラオパラックに分校開設）。
"	1・24	大本営、大陸打通作戦を命令（4月京漢作戦、5月湘桂作戦を開始）。
"	1・26	内務省、東京・名古屋に改正防空法による初の疎開命令（指定区域内の建築物強制取壊し）。以後各都市で「強制疎開」実施。作業に戦車も使用。
"	1・27	「宗教化方策委員会官制」〔勅令〕公布。
"	1・28	〔国〕 国語課嘱託会議（発音符号制定に関する会議を課長室にて開く。橋本進吉、東条操、神保格、西尾実各嘱託及び大岡国語課長、湯沢、関監修官、吉田調査官のほか、国民教育局から藤井監修官が出席協議）。
"	1・29	「中央公論」「改造」の編集者検挙される。11月、日本評論社などの関係者、さらに'45年4月から6月にかけて、東京を中心に多数の言論知識人検挙される（「横浜事件」）。
"	1・30	〔日〕 ボルネオ、日本語週間（～2月5日。30日、ボルネオ新聞社で、日本語普及予備座談会（30余名出席）、31日、日本語大会（師範学校）、街路名、立札、看板などの日本語書き、2月1日から「日本語の夕」など）。
"	1・	〔書〕「軍用・標準簡体常用字典」（大島宇一編、座間塾出版部、文淵閣）。
"	"	〔書〕「日支（北京・福建・広東語）馬英日用語字典」（葉松栢著、文求

西 暦	年 代	項 目
1944		堂)。
"	1・	〔書〕「祝詞作文辞典」(苗代清太郎著, 祝詞研究所)。
"	"	〔書〕「マライ語新辞典」(津田信秀著, 太陽堂書店)。
"	2・1	米軍, マーシャル群島のクエゼリン・ルオット両島に上陸, 2・6両島守備隊6800名玉砕。
"	"	〔日〕 ビルマ, 「緬甸国立日本語学校 日本語教員養成所用日本語教科書 第二巻」完成。
"	"	〔書〕「日本語」(第四巻第二号)。 (同上)「巻頭言 朝鮮の日本語」(大岡保三)。 (「」)「最近に於ける国語問題の動向と国語学」(時枝誠記)。 (「」)「「なし」といふ言葉について」(西尾光雄)。 (「」)「国語表記法の問題」(湯沢幸吉郎)。 (「」)「徴兵制度と日本語」(島田牛稚)。 (「」)「現代語の記録(4)」(春山行夫)。 (「」)「日本語の旅(2)」(皆川三郎)。 (「」)「現地の日本語 現地日本語教員よりの手紙」(蒲生英男)。 (「」)「現地の日本語 海外邦人二世と日本語」(高瀬笑子)。 (「」)「書評」(内田克己)。 (「」)「日本語教室 中華民国留学生のための高等学校教育」(木村新)。 (「」)「日本語教室 日本語教授雑感」(柴田明德)。 (「」)「国際学会紹介」(金沢謹)。 (「」)「現地通信」。 (「」)「冬景色(随筆)」(豊田三郎)。
"	"	〔書〕「コトバ」(一・二月号) (同上)「国字の考察」(松原秀治)。 (「」)「コトバ情報(一・二月)」。 (「」)「音声の指導」(小林智賀平)。
"	2・2	〔国〕 国語課常会(国語課長室において, 外国語地名人名の表記に関する方針の原則並細則を検討)。
"	2・4	〔教〕 文部省, 大学・高等専門学校の軍事教育強化方針を発表(航空訓練・機甲訓練・軍事学・兵器学・軍事医学を教習)。
"	2・5	〔日〕 文部省南方派遣日本語教育要員養成所第七回講習会開所式(「実施

西 暦	年 代	項 目
1944		要項 一、主旨 日本世界觀ニ透徹セシメ大東亜ノ現在及将来ニ対シ活眼ヲ開カシムルト共ニ日本語教育要員タルノ知識及技能ヲ体得セシメ以テ南方諸民族ニ対スル指導者タル人材ヲ育成セントス 一、主催 文部省 一、 期日 二月五日ヨリ三月五日マデ三十日間 一、場所 東京都杉並区和泉町明治大学予科構内 南方派遣日本語教育要員養成所 一、講義題目及講師 「大東亜文化建設ノ理念」藤野恵、「興亜精神」近藤寿治、「日本文化史要説」渡辺保、「日本語要説」岩淵悦太郎、「日本文法要説」東条操、「国語問題ト日本語普及」大岡保三、「現代語ノ諸問題」湯沢幸吉郎、「標準語演習」神保格、「日本語普及史概説」釘本久春、「日本語教師論」西尾実、「日本語教授法」長沼直兄、「日本語教授ノ諸問題」大出正篤、「大東亜諸言語要説」小倉進平、「大東亜近世史要説」岩村忍、「大東亜文教事情」相良惟一、「南方民族要説」関正雄、「南方衛生」深田益雄、「南方事情」郡司喜一、尾崎卓郎、松尾次郎、関野房夫、中島健蔵、「訓話」高木覚、小林秀穂、(以下略)」。)
"	2・5	〔書〕「言語哲学総説」(興水実、国語文化研究所)。
"	2・9	〔教〕 文部省、中等教育内容の戦時措置を決定(芸能科各科目を廃止して工作を課す、高等女学校の実業科各科目を正課とする)。
"	2・10	〔教〕「朝鮮女子青年錬成所規程」〔朝鮮総督府令第三十五号〕(「朝鮮女子青年錬成所規程左ノ通定ム 朝鮮女子青年錬成所規程 第一条 女子青年錬成所ハ朝鮮人タル女子青年ニ対シ心身ノ鍛錬其ノ他ノ訓練ヲ施シ皇国女性タルノ資質ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス 第二条 女子青年錬成所ニ入所スルコトヲ得ル者ハ年齢十六年以上ニシテ国民学校初等科ヲ修了セザル女子トス 第九条 女子青年錬成所ニ於ケル錬成項目ハ修練、国語、家事及職業トス 修練ハ教育ニ関スル勅語ノ旨趣ヲ奉体シテ国体ノ本義ヲ明徴ニシ皇国臣民タルノ自觉ニ徹セシメ之ヲ実践躬行ニ導クヲ以テ要旨トス 国語ハ皇国臣民トシテ必要ナル日常ノ国語及知識ヲ習得セシムルヲ以テ要旨トス 家事ハ家事ニ関スル知識技能ヲ習得セシメテ堅実ナル家庭生活ヲ営ムノ能力ヲ得シムルヲ以テ要旨トス 職業ハ職業ニ関シ日常生活上必要ナル知識技能ヲ得シメ勤労好愛ノ慣習ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス 錬成ハ各錬成項目相互ノ聯絡ヲ密接ニシ且各事項ノ綜合ニ留意シテ之ヲ為スベシ 第十条 女子青年錬成所ニ於ケル錬成ノ期間ハ一年トス但シ戦時又ハ事変ニ際シ道知事必要アリト認ムルトキハ之ヲ六月迄短縮スルコトヲ得 第十一条 女子青年錬成所ニ於ケル錬成時数ハ六百時以上トシ左ノ標準ニ依リ土地ノ情況ニ応ジ之ヲ定ムベシ但シ前条但書ノ規定ニ依リ錬成期間ヲ短縮シタル場合ニ於ケル錬成時数ニ関シテハ其ノ都度道知事之ヲ定ムベシ 錬成項目 修練及国語 錬成時数四〇〇、錬成項目 家事及職業 錬成時数二〇〇。 特別ノ事情ニ依リ前項ノ錬成時数ニ依リ難キトキハ道知事ノ認

西 暦	年 代	項 目
1944		可ヲ受ケ鍊成時数ヲ短縮スルコトヲ得 第十六条 女子青年鍊成所ニ於テハ別紙様式ニ依リ鍊成ヲ受クル者ノ在籍簿ヲ備附クベシ」)。
"	2・11	〔日〕 西貢日本文化会館事務開始。
"	2・12	〔日〕 日本語教育振興会研究部例会(第二回。「朝鮮における日本語教育岡本好次氏を中心として。神田事務所)。
"	2・14	〔国〕 国語課常会(国語課長室において開催、課長、湯沢、関各監修官、広田、吉田各調査官、保科、三宅各囑託出席、発音符号制定に関する件を協議)
"	"	古典編修部在京編修会議員、編修囑託連絡打合会(文部省第三会議室、出席者、近藤部長、小沼主事、原教学課長外関係官、辻善之助、久松潜一、橋本進吉、宮地直一、坂本太郎、加藤虎之亮、武田祐吉、竹下直之、中村一良、松田武夫各編修会議員、次田潤、丸山二郎、森末義彰、福尾猛市郎、小島小五郎各編修囑託等)。
"	2・15	〔日〕 満州国文教部、満州仮名を決定発表(文字数、清・濁・半濁音をあわせて70、標音上の約束12)。
"	2・16	〔教〕「国民学校令戦時特例」〔勅令〕を公布(就学義務を満12歳までに引き下げること)。
"	"	アルゼンチンでペロン大佐のクーデタ起こる。
"	2・17	〔教〕 青年学校教員養成所を廃止し、青年師範学校を設立〔勅令〕。
"	"	〔教〕 文部省、軍人・官吏等を無試験で国民学校・青年学校・中等学校の教員とし、徴兵による教員の不足に対処。
"	"	米機動部隊、トラック島空襲(艦船43隻沈没、航空機270機損失)。
"	"	〔国〕 国語審議会主査委員会(文部省第三会議室において開催、漢語の整理に関する件について協議、出席者、南、穂積正副会長、築田委員長、諸橋、幣原、牧野、竹村、宇野、五十嵐、前田、赤坂、清水、荒木、大岡各委員、保科幹事長並びに関監修官、広田、吉田各調査官等)。
"	2・19	東条内閣改造(蔵相に石渡荘太郎、農商相に内田信也就任)。
"	2・20	〔日〕 講演会(場所、上田市、題目「大東亜に於ける日本語普及の現状」、講師、長沼直兄)。
"	2・21	陸相東条英機が参謀総長を、海相嶋田繁太郎が軍令部総長を兼任。
"	"	〔国〕 発音符号懇談会(文部省国語課)。
"	2・22	〔教〕「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十九年度臨時短縮ニ関スル件」〔朝鮮総督府令第六十二号〕(「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十九年度臨時短縮ニ関スル件左ノ通定ム 第一条 昭和十六年勅令第九百二十四号第一条第一項、附則第二項及昭和十八年勅令第百十一号附則第二項並ニ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第八条第一項ノ規定ニ依リ

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>大学学部ノ在学年限竝ニ大学予科及専門学校ノ修業年限ハ昭和十九年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス 第二条 京城高等工業学校附置教員養成所及水原高等農林学校附置地理博物教員養成所ノ修業年限ハ昭和十九年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス 第三条 左ニ掲グル学校ノ修業年限ハ昭和十九年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付キ夫々三月之ヲ短縮ス 一 国民学校初等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限五年以上ノ実業学校及国民学校高等科修了程度ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノ実業学校 二 私立学校規則ニ依リ設立セラレタル学校ニシテ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第五条ノ資格ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノモノ」)。</p>
"	2・23	<p>〔日〕 日本語関係者懇談会（発音符号制定に関する標記の懇談会を文部省第三会議室において開催、情報局第三部対外事業課井沢情報官代理豊田栄次郎大東亜省南方事務局行政官関野調査官、同満州事務局総務課藤原事務官、東京工業大学窪沢武夫、東京高師玉井幸助、日本女子大上村悦子、東京女子大丸山きよ子、東亜学会有賀憲三、日本語教育振興会長沼直兄、国語協会石黒修、国際文化振興会那須卯之助、日本出版協会堀賢之助、岩崎寿嘉夫、東亜同文会広木操、国際学友会林和比古、日語文化協会松官一也、善隣協会織本重義、青年文化協会石黒魯平等、本省側、大岡国語課長、東条操、金田一京助、湯沢・関藤井各監修官、広田、吉田各調査官及び西尾・三宅・大塚各囑託等出席）。</p>
"	2・25	<p>「決戦非常措置要綱」〔閣議決定〕。</p>
"	"	<p>〔教〕 文部省、食糧増産に学徒500万人動員を決定。</p>
"	2・26	<p>〔日〕 日本語普及研究会第一回協議会（青年文化協会・東南アジア学院）開催。</p>
"	2・29	<p>米軍 アドミラルティー諸島のロスネグロス島に上陸、この結果、ラバウル地区は米軍の背後に孤立（'44年2月までのこの方面の損害の合計、死者13万人、艦艇70隻、船舶115隻、飛行機8000機等）。</p>
"	"	<p>閣議、海上輸送力非常動員実施方針要領決定。</p>
"	2・	<p>〔書〕「日本語と支那語」（魚返善雄、慶応出版社）。</p>
"	"	<p>〔日〕 ビルマ、ピンマナ日本語学校開設（～20年3月）。</p>
"	"	<p>〔日〕 ビルマ、ラジオ日本語学校開設（～20年3月）。</p>
"	"	<p>〔書〕「時事露語辞典」（満鉄弘報課編、三省堂）。</p>
"	"	<p>〔書〕「インドネシヤ最新馬來語辞典」（佐藤栄三郎著、大阪・弘文社）。</p>

西 暦	年 代	項 目
1944	2・	〔書〕「大東亜時局語」(大阪・朝日新聞社編・刊)。
"	"	〔書〕「文語法事典」(森本種次郎編著, 文進堂)。
"	"	〔書〕「敦 隣 第1巻2期~3巻1期」(華北善隣会編, 北京・華北善隣会。月刊。民国卅三年二月~卅四年一月)。
"	3・1	〔書〕「日本語」(第四巻第三号)。 (同上)「巻頭言 日本文化発揚の尖兵」(郡司喜一)。 (")「比較言語学と民族の研究」(高津春繁)。 (")「国語と精神」(西村孝次)。 (")「中国人に誤り把握せられている日本語の発音〔1〕」(筑五百里)。 (")「中国人の日本語研究」(菊沖徳平)。 (")「『日本文法教本』について〔座談会〕」(湯沢幸吉郎, 林和比古, 時枝誠記, 長沼直兄)。 (")「日本語教室 助詞の異同について」(松村明)。 (")「日本語の旅(3)」(皆川三郎)。 (")「 ^{長谷川} _{如是閑} 著「言葉の文化」について(書評)」(中村光夫)。 (")「燕京二景(随筆)」(奥野信太郎)。 (")「日華学会紹介」(砂田実)。
"	"	〔書〕「コトバ」(三月号)。 (")「日本語教育と日本精神」(秋山博)。 (")「国字の考察」(松原秀治)。
"	3・3	閣議, 「国民学校学童給食」・「空地利用(食糧増産)」・「疎開促進」の3要項発表。
"	3・5	〔日〕 第七回南方派遣教育要員養成所講習会終了式挙行(終了者82名, 終わって日本語教育振興会主催の壮行会に出席)。
"	3・6	全国の新聞, 夕刊廃止。11・1朝刊2ページとなる。
"	3・7	〔教〕 閣議, 学徒勤労働員を通年実施と決定。
"	"	〔日〕 官専第二三九号 昭和十九年三月七日 文部省専門学務局長永井浩大東亜次官殿(「留学生補導団体ノ移管ニ関スル件 昭和十八年十一月十三日付支文第九八一号ヲ以テ標記ノ件ニ関シ申進相成タル処左記ノ通致度及回答追而 関係書類ハ別途送付ス 記一 大東亜省へ移管 財団法人満州国留日学生会館 " 東亜振興会 " 大東亜留日学生会 " 大東亜学寮 " 大東亜奉仕館二 大東亜省, 文部省共管(大東亜省主査, 但シ日華学会ニ限り文部省主査) 財団法人青年文化協会 " 国際学友会 " 日華学会 " 新興亜会 " 日本タイ

西 暦	年 代	項 目
1944		協会「比律賓協会」)。
"	3・8	インパール作戦開始。
"	3・15	〔日〕 ビルマ，第二回渡日留学生出発。
"	3・16	〔国〕 国語審議会主査委員会（文部省第三会議室において主査委員会を開き，漢語の整理に関する件について協議。出席者 南会長，穂積副会長，築田委員長，幣原，宇野，五十嵐，前田，神保，河合，大岡各委員，保科幹事長，吉田調査官等）。
"	3・18	〔教〕「緊急国民勤労動員学徒勤労動員方策要綱」発表。
"	3・19	女子挺進隊結成，動員配置決定。
"	"	独軍，ホルティ摂政の同意のもとにハンガリーに進駐，占領。5月15日アイヒマン，ハンガリーユダヤ人のアウシュビッツ強制収容所への移送を開始。
"	3・21	〔日〕 ビルマ，第六次日語要員数名着任。
"	3・24	〔日〕 ビルマ，第七次日語要員数名着任。
"	3・26	大本営連絡会議，昭和19年度物資動員計画運営に関する件承認（年間計画は概定にとどめ四半期別の実行計画によることとなる。物資動員計画事実上崩壊）。
"	3・27	〔日〕 南方特別留学生（泰国班12名）来朝。
"	3・30	〔国〕 外国語地名人名に関する協議会（国語課長室において外国地名人名の呼称等に関する調査の整理統一方針について協議）。
"	"	日ソ間に北樺太における日本の石油・石炭利権の移譲に関する議定書締結。
"	3・31	〔日〕 補習教材に関する関係官庁連絡会議（国語課長室において南方地域向日本語教科書補習教材に関する関係官庁との連絡会議を開催，協議。出席者，陸軍省軍務局長松尾少佐，大東亜省閩野調査官，情報局井沢情報官，大岡国語課長，日本語教科書編纂委員長沼，福田，森山）。
"	"	米機動隊，バラオに来襲。連合艦隊司令長官古賀峯一大将，これを避け，ダバオに赴く途中行方不明。4・5殉職発表。
"	3・	〔日〕 ビルマ，チョンピョウ日本語学校開設（～20年4月。19年7月バセイン分校より独立校として発足）。
"	"	〔日〕 ビルマ，カーサ日本語学校開設（～19年10月。デジャイン校開設）。
"	"	〔国〕 教学局国語課で現代語の標準的発音学習に使用する発音符号を制定発表。
"	"	〔国〕 国語学会創立（'48年10月「国語学」創刊）。
"	"	〔日〕 ジャカルタ特別市にジャワ興亜文化会館開設（（一）一般住民の為の日本語教育，（二）在住同邦青年のための馬來語教育，（三）彼我事情の紹介，（四）南方特別留学生その他の来朝者との聯絡斡旋，ジャワ邦人視察者の為の斡旋を目的とする）。

西 暦	年 代	項 目
1944	3・	〔日〕 ビルマ，3月現在，日本語学校数27，生徒数10234，日本人教師154名。
"	"	〔書〕「昭和十八年度，高砂族の教育」（台湾総督府警務局）。
"	"	〔書〕「禅学辞典」（神保如天，安藤文英著，京都・平楽寺書店）。
"	"	〔書〕「日本語辞典」（宮崎静二，研究社。「The Japanese Dictionary Explained in English」）。
"	4・1	6大都市の国民学校児童に1食7勺の給食実施。9月1日パン食のみとなる。
"	"	〔日〕 ビルマ，メイクテーラ日本語学校開校式挙行（～20年3月）。
"	"	〔書〕「日本語」（第四巻第四号）。 （同上）「巻頭言 言語と文化」（文部省教学局長・本会理事長近藤寿治）。 （"）「大東亜文化の道 — 文化の交流と統一」（玉井茂）。 （"）「日本語教師の処遇に関する諸問題」（相良惟一） （"）「生活と教習」（山口喜一郎）。 （"）「日本釈名と東雅について」（松尾捨次郎）。 （"）「仮名遣の諸問題（一）」湯沢幸吉郎。 （"）「現代語の記録（5）」（春山行夫）。 （"）「日本語教室 日本語学習に於ける母国語語法の影響〔その具体例と克服案〕」（日野成美，久保一良，平野朝淳，堀敏夫，篠原祐一，秦純乗，辻権次郎，築貫一正，坂本弘教）。 （"）「現地の声」。 （"）「本会研究部事業報告」（山口正）。 （"）「『日本語』合本総目次」。 （"）「梅花（詩）」（室生犀星）。 （"）「秋山参謀と子規（読物）」（井上弘介）。
"	"	〔書〕「コトバ」（四月号）。 （同上）「国字の考察（完）」（松原秀治）。 （"）「コトバ情報（四月）」。 （"）「『コトバ』を送る『コトバ』に銭る……国語文化学会」（「コトバ」は本号をもって終刊となる）。
"	4・4	閣議，国内13道府県に非常警備隊設置を決定（国内警備警察強化）。
"	4・5	〔国〕 国語課常会（国語課長室において，外国語地名人名の呼称等に関す

西 暦	年 代	項 目
1944		る件、「整理統一の趣旨、竝にその経過、統一案の取扱方針」について協議)
#	4・5	米軍、ルーマニア油田地帯とドイツの連絡路の爆撃開始。
#	4・10	独軍、オデッサを撤退しドニエストル川まで退却。
#	#	〔書〕「大陸叢書 日本語 — 共栄圏標準口語法 — 」(藤原与一、目黒書店)。
#	4・12	〔国〕 国語課常会(国語課長室で、外国語地名人名の呼称に関する件「整理統一の趣旨竝にその経過、統一案の取扱方針」について協議)。
#	4・15	〔日〕 ビルマ、「 ^{日本語学校} 緬甸国立 ^{日本語教員養成所} 用日本語教科書 第三巻」完成。
#	#	バドリオ政府再編成。共産党のトリアッチ入閣(無任所相)。
#	4・19	東京都、幼稚園休園決定。
#	4・20	〔日〕 教科用図書調査会第四部会(～21日。両日にわたり本省第四会議室に開会、文部大臣の諮問に答えるため、十八年度編纂の南方地域向日本語教科書中、日本語入門(仮称)一冊、初等学校用教本巻四、巻五、巻六、三冊、中等学校用教本巻四、一冊、成人用教本上下二冊等につき調査検討して原案を可決し、その旨答申することとなった。
#	4・21	〔日〕 華北日本語普及協会山西省支部発会式(これまで存在していた日本語研究会を全面的に改組し、新機構のもとに発足。〔役員〕顧問 大江太原陸軍連絡部長、田中太原総領事、王山西省長兼教育庁長兼太原日本語専科学校長 支部長 甲斐山西省政府顧問〔主たる事業〕太原日本語専科学学校の経営、其他日本語教育、日本語普及に関する諸般の事業)。
#	4・22	米豪連合軍、ニューギニア北部のアイタベ及びホーランジアに上陸。
#	#	〔日〕 釘本図書監修官、南方諸地域へ出張から帰朝。
#	4・25	〔書〕「日本語表現文典」(岡本禹一、国際文化振興会)。
#	4・26	〔国〕 国語課常会(国語課長室において開催、「軍人勅諭の読方」について協議)。
#	4・28	〔日〕 教科用図書調査会(文部省第三会議室において第四部会の懇談会を開き、先般帰朝の釘本監修官から南方視察談を聴取)。
#	#	〔教〕「学徒動員本部設置ニ関スル訓令」〔朝鮮総督府訓令第四十三号。一九・四・二八。各道知事、各官立学校長、各公私立専門学校長宛〕(「大東亜ノ戦局今や最高潮ニ達シ敵焦躁ノ反攻愈々熾烈ヲ極ムルモ此ノ間皇国ヲ中核トスル大東亜共栄圏ノ建設ハ著々其ノ歩武ヲ進メ決勝ノ体制日ニ鞏固ヲ加フ 学

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>園ニ在リテモ曩ニ多数学徒ノ出陣ヲ送り残留学徒亦益益文武ノ修練ニ励ミ勤勞報國ニ挺進シ来レルモ時局ハ更ニ学徒動員体制ノ画期的強化ヲ促スコト切ナリ即チ茲ニ学校別学徒動員基準ヲ明カニスルト共ニ更ニ学徒動員ノ強力ナル統制運営ヲ期センガ為本府ニ学徒動員本部ヲ組織シ各道モ亦之ニ倣ハシメ戦力ノ飛躍的増強ニ資セシメントス之ニヨリ半島全学徒ヲ挙ゲテ常時出動ノ態勢下其ノ知識技能ノ程度心身発達ノ状況ニ応ジ教職員ヲ中心トスル組織ヲ以テ戦時必需物資ノ増産緊急要務等ニ挺身セシムルノ方途成レリ学徒勤勞動員ノ趣旨タルヤ我ガ教学ヲ一貫セル行動一体ノ伝統ニ立脚シテ清新ニシテ強靱ナル皇國勤勞觀ヲ打立テ勤勞即教授即訓練ノ実ヲ収メシメントスルニ在リ 学徒動員ノ實際ニ当リテハ克ク諸要綱竝ニ当該基準ノ真精神ヲ把握シ学校及学科ノ種類学年ノ程度性別等ニ依リ業務ノ選定及人員ノ割当ヲ行ヒ実情ニ即応セル創意工夫ニ依リ其ノ組織力ノ活用ニ依ル機動性ノ發揮ニ努ムベシ就中学徒専攻ノ學術技芸ヲ戰場ノ業務ニ結合シテ応用慣熟ノ風ヲ養フハ教育ノ完成ト生産効率ノ増強ト兩々相俟ッテ学徒動員ノ意義ヲ益々深カラシムルモノト謂フベク最モ周到ナル用意ヲ以テ臨ムベキナリ出動学徒ハ飽ク迄学徒ノ本分ヲ以テ実學修練ニ従フモノナレバ常ニ矜持ト謙讓ノ態度ヲ持シテ規律整然潑刺真摯若キ心身ノ力ヲ傾注シ其ノ献身ハ直ニ前線ノ勝利ニ通フモノナルコトヲ自覺シテ作業能率ノ昂上ニ努メ以テ半島勤勞態勢一新ノ契機タラシムベシ 皇國ノ隆替岐ルルノ秋時局ハ学徒ニ對シ他日功遲奉公ヨリモ今日即刻ノ果敢ナル挺身ヲ要請ス諸官宜シク学徒ヲシテ総蹶起セシメ齊シク戰闘配置ニ就キテ國家永遠ノ進軍ニ平素修文練武ノ成果ヲ遺憾ナク捧ゲシメンコトヲ期スベキナリ」)。</p>
	4・28	<p>〔教〕「朝鮮總督府学徒動員本部規程」〔朝鮮總督府訓令第四十四号，一九四・二八，朝鮮總督府宛〕（朝鮮總督府学徒動員本部規程左ノ通定ム 朝鮮總督府学徒動員本部規程 第一条 学徒動員ノ計画樹立，運営ノ強力円滑等ヲ図ル為朝鮮總督府ニ学徒動員本部ヲ置ク 第二条 学徒動員本部ハ本部長一人，次長一人，部長三人，部附及部員各若干人竝ニ参与及参事各若干人ヲ以テ組織ス 第三条 本部長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ 次長ハ朝鮮總督府學務局長ヲ以テ之ニ充ツ 部長ハ學務局内高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ズ 部附及部員ハ學務局職員ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ズ 参与及参事ハ朝鮮總督府部内高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ズ 第四条 本部長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ学徒動員本部ノ事務ヲ総理ス 本部長事故アルトキハ次長之ヲ代理ス 次長ハ本部長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ統括ス 部長ハ上司ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス 部附ハ上司ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル 部員ハ上司ノ指揮ヲ承ケ部務ニ従事ス 参与及参事ハ本部長ノ命ヲ承ケ部務ニ参画ス 第五条 学徒動員本部ニ左ノ三部ヲ置ク 総務部 一般運動部 技術動員部 本部長ハ必要ニ応ジ各部内ニ班ヲ設クルコトヲ得 第六条 各部ノ事務分掌左ノ如シ 総務部 一 総合企画ニ</p>

西 暦	年 代	項 目
1944		関スル事項 二 連絡及情報ニ関スル事項 三 経理ニ関スル事項 四 其ノ 他他部ニ属セザル事項 一般動員部 文科学学徒ノ動員ニ関スル事項 技術動 員部 理科系」)。
"	4・28	札幌北一条教会牧師小野村林蔵, 北星高女での聖書講義の内容が問題化して 拘引され, のち起訴。
"	4・29	〔国〕 広田国語調査官, 中華民国へ出張を命ぜられ, この日, 東京駅出発 (滞在期間約60余日)。
"	4・30	〔書〕「標準語の語法」(岩井良雄, 山海堂出版部)。
"	4・	〔日〕 善隣高等商業学校, 名称を善隣外事専門学校と改称。
"	"	〔日〕 ビルマ, ワネッチャウン日本語学校開設(〜20年4月)。
"	"	〔日〕 ビルマ, メイクテラ日本語学校開設(〜20年3月)。
"	"	〔日〕 ノルテ日本語学校(グラールサミエント)開校。
"	"	海軍軍令部, 頽勢挽回の決定兵器として, 9種類の特攻兵器を海軍艦政本部 等に提案, 回天(「人間魚雷」(炸薬1・5トン, 1〜2人乗り)・震洋 (「合板製滑走艇」, 炸薬250Kg, 一人乗り)実現。
"	"	〔書〕「金属材料用語解説」(大和久重雄編, 科学主義工業社)。
"	"	〔書〕「東亜民族名彙」(帝国学士院編, 三省堂)。
"	"	〔書〕「ジェム和英辞典」(三省堂編輯所編, 上海・三通書局股份有限公 司。「Gem Dictionary Japanese-English」。中華民國卅三年四月)。
"	"	〔書〕「中國學報 第1巻2〜5期」(北京・中国学報社。月刊。民国卅 三年四月〜七月)。
"	5・1	輸入税の免除等に関する件公布(満州国・関東州産品の輸入関税撤廃)。
"	"	〔書〕「日本語」(第四巻第五号)。 (同上)「巻頭言 実践を通じての理論」(財団法人日本語教育振興 会常務理事長長沼直兄)。 (「満州国に於ける日本語教育の現状」(松尾茂)。 (「日本語より国語へ ― 関東州の場合 ― 」(大石初太郎)。 (「中世のてにをは観の地盤」(松尾拾)。 (「古事記訓註に現はれたる宣長の国語観」(白石大二)。 (「わが国語観」(諸家)。 (「仮名遣の諸問題(二) ― 明治以来の仮名遣 ― 」(湯沢

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>幸吉郎)。</p> <p>(同上)「中国人に誤り把握せられている日本語の発音(2)」(筧五百里)。</p> <p>(「)「現代語の記録(完)」(春山行夫)。</p> <p>(「)「^{土屋}光知著「日本語の姿」(書評)」(西村孝次)。</p> <p>(「)「日泰文化会館紹介」(額彦四郎)。</p>
"	5・5	ソ連軍、セバストポリ攻撃開始。5月8日ヒトラー、クリミア半島の撤退を指令。独軍、ルーマニアに撤退(～5月13日)。
"	5・6	〔日〕 総輔第三五一号 昭和十九年五月六日 大東亜省総務局長竹内新平 財団法人国際学友会会長公爵近衛文麿 殿(団体移管ニ関スル件 今般文部省トノ協議ニ依リ貴学友会 当省並ニ文部省共管(大東亜省主査)相成タルニ付御了知相成度 追而当省宛提出書類ニ関シテハ爾今昭和十八年八月十九日付大東東亜省令第二十四号ニ依リ提出相成度為念)。
"	"	〔国〕 国語課常会(三宅囑託提案の「科学局 翻訳の用語・用字について」協議)。
"	5・7	〔教〕 本郷・千駄木国民学校生徒による初の都立那須戦時疎開学園開園。
"	5・8	〔日〕 日本語教育振興会講演会(内容：南方諸地域に於ける日本語普及状況 講師釘本久春)。
"	5・11	〔日〕 文部大臣招待会(南方諸地域における日本語教育其他一般教育に関する海軍側関係官を文部大臣官邸に招待、懇談。出席者、林大佐、橘中佐、田辺主計大尉、セレベス軍政監部秘書課長等、本省側、文部大臣、次官のほか総務局長、教学局長、文書課長、渉外課長、国語課長、釘本監修官、長沼囑託等)。
"	5・12	〔教〕 帝国教育会、大日本教育会に組織を再編。
"	5・16	〔教〕 文部省、学校工場化実施要綱発表。
"	5・24	〔日〕 大東亜省輔導室と日本語教育振興会との連絡懇談会。
"	5・25	〔日〕 日本語教育振興会主催講演会(内容：南洋諸地域に於ける日本語普及状況について。講師鈴木忍・蘆原英了)。
"	5・27	米軍、ニューギニア西部のピアク島に上陸。
"		〔国〕 国語課常会(臨時常会を開き、教育総監部第一課精神教育班より送附された「軍人勅諭奉読に際しての発音に就て」の内容を検討)。
"	5・30	〔国〕 国語課常会(前回に引き続き、「軍人勅諭奉読に際しての発音に就て」の内容を検討)。
"	"	〔日〕 文部省南方派遣教育要員養成所第八回第十一次講習会入所式(所長藤野文部省総務局長、主事高木渉外課長、大岡国語課長以下各関係官列席、入所式挙行。〔要項〕記 一、場所 千葉県千葉市浪花町東京帝国大学錬成道場)

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>構内 南方派遣教育要員養成所 一，期間 五月三十日 — 六月二十八日 一</p> <p>講義題目，講師，演習及錬成要綱，職員等概ね前回に同じ。但し今回より期間中毎日農耕に関する勤労作業を実施し，南方に於て農耕指導をも行ひ得る資質を涵養することとなり，又講義中にも南方農業の課目を加へ，佐々木東大教授に講義を委嘱すると共に，山田東大農学部助手に農耕実習の指導を委嘱することとなった。 一，講義題目及講師 「大東亜文化建設の理念」文部省総務局長 藤野恵，「興亜教育論」文部省教学局長，「日本文化史要説」法政大学教授 渡辺保，「日本語要説」第一高等学校教授 岩淵悦太郎，「日本文法要説」学習院教授 東条操，「国語問題と日本語普及」文部省国語課長，「現代語の諸問題」文部省図書監修官 湯沢幸吉郎，「標準語演習」東京文理科大学教授 神保格，</p>
"		<p>「日本語普及史」文部省図書監修官 釘本久春，「日本語教師論」東京女子大学教授 西尾実，「日本語教授法」日本語教育振興会常務理事 長沼直兄，「日本語教授の諸問題」大出正篤，「大東亜諸言語要説」慶応大学教授 松本信広，「大東亜近世史要説」文部省民族研究所 中島敏雄，「大東亜文教政策」大東亜事務官 相良惟一，「南方民族要説」文部省民族研究所 岡正雄，「南方衛生」陸軍軍医学校教官 深田益男，「南方事情」陸軍少佐 松尾次郎，「同」陸軍司政長官 郡司喜一，「同」大使館調査官 関野房夫，「同」東京帝国大学講師 中島健蔵，「南方農業要説」東京帝国大学教授 佐々木喬，「訓話」文部省総務局渉外課長 高木覚，「農耕作業」，「体操教練」）。</p>
"		<p>〔書〕「学習日本語」（日本語教育振興会発行。マライ，ビルマ，ジャワ，フィリピンの各篇）。</p>
"	6・1	<p>〔日〕 文部大臣招待会（南方諸地域に於ける日本語教育其他一般教育に関する陸軍側関係官を大臣官邸に招待懇談。出席者 陸軍側 佐藤軍務局長，郡司司政長官，軍務課員大西少佐，高橋中佐，松尾少佐，榎原少佐及法制局三橋書記官，本省側 岡部文部大臣，菊池次官，有光秘書課長，藤野総務局長，近藤教学局長，高木渉外課長，大岡国語課長，釘本図書監修官等）。</p>
"	"	<p>〔書〕「日本語」（第四巻第六号）。</p> <p>（同上）「巻頭言 国語と国民性」（東京帝大文学部教授久松潜一）。</p> <p>（"）「日本語の優秀性」（吉川幸次郎）。</p> <p>（"）「「さうだ」と「すぎる」」（岩淵悦太郎）。</p> <p>（"）「明治以降の仮名遣（二）」（湯沢幸吉郎）。</p> <p>（"）「大東亜の日本語に於ける音量の活用」（寺川喜四男）。</p> <p>（"）「中国人に誤り把握せられている日本語の発音（3）」（筧五百里）。</p>

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>(同上)「硫黄文字の研究」(岩井芳雄)。</p> <p>(#)「日本語教室 ある研究教授の記録」(篠原祐一)。</p> <p>(#)「日本語教室 作文指導」(久保一良)。</p> <p>(#)「日本語教室 日本語生活」。</p> <p>(#)「<small>小泉著 葵三</small>「日本語文の性格」」(中島唯一)。</p> <p>(#)「在仏印日本文化会館紹介」(土田金雄)。</p> <p>(#)「澳門の日本人」(内田克己)。</p>
"	6・2	ブルガリア, バグリアノフ新政府成立, 連合軍側との休戦交渉に入る。
"	6・3	〔国〕 送仮名法に関する海軍側との懇談(海軍兵学校教官三木少尉及海軍省教育局官島海軍教授, 「海軍兵学校に於ける送仮名法制定」に関して関監修官と懇談)。
"	6・4	米英軍, ローマ入城。
"	6・5	〔教〕 文部省に統計数理研究所を設置〔勅令〕。
"	"	〔国〕 送仮名法に関する海軍側との懇談(海軍兵学校教官三木少尉及び海軍省教育局官島海軍教授, 「海軍兵学校に於ける送仮名法制定」に関して関・釘本両監修官と懇談)。
"	"	〔書〕「日本語基本語彙」(国際文化振興会編)。
"	6・6	連合軍, ノルマンディー上陸「オーバーロード作戦」開始(第二戦線結成)。
"	6・7	〔国〕 国語課常会(教育総監部第一課精神教育班より送附された「軍人勅諭奉読に際しての発音に就て」の内容を検討)。
"	6・9	伊国王, 皇太子ウンベルトを摂政に任命。パドリオに代りボノミ内閣成立。
"	6・10	〔日〕 大東亜教育事情講習会(主催東京都教育局, 大日本教育会, 後援文部省。期日6月10日より7月8日まで毎土曜。場所神田一ツ橋教育会館。聴講者, 国民学校教職員。講師「泰仏印」釘本文部省図書監修官, 「セレベス及南ボルネオ」大畑東京外事専門学校長, 「ジャワ」尾崎大阪外事専門学校長, 「フィリピン」内山文部書記官, 「ビルマ」飯田陸軍司政官, 「マライ, スマトラ」岩田東京都視学官, 「中華民国」水川放送局教養部長, 「満州国」羽田文部省中等教育課長, 「蒙古」曾我文部省教学官)。
"	"	〔日〕 海軍軍政地域用日本語教科書の編纂に関し, 海軍省より文部省宛至急善処方の依頼状を受理。
"	"	〔日〕 南方特別留学生第2陣(マライ・スマトラ・北ボルネオ15名, ジャワ20名, ビルマ30名, 比島24名, 計89名)着京。
"	"	大日本言論報国会, 「言論人総決起大会」を開催し, ヒトラーへ激励電報を送る。

西 暦	年 代	項 目
1944	6・13	〔日〕 満州国に於ける日本語普及の強化問題に関する懇談連絡（華族会館満日文化協会理事長杉村勇造，大岡国語課長，長沼振興会常務理事出席。大東亜省満州事務局の主唱によるもの）。
〃	〃	城戸幡太郎，検挙される（留岡清男らも検挙され，民間教育運動は壊滅）。
〃	6・15	米軍，マリアナ群島のサイパン島に上陸。7月7日守備隊3万人玉砕，住民死者1万人。（注：〔日〕サイパン島には日本語教育振興会機関誌「日本語」85部が送付されていた）。
〃	〃	ドイツ，報復兵器1号（V1）でロンドンを爆撃（～6月16日）。9月8日，V2号出現。
〃	6・16	岡田啓介大将，嶋田海相に辞職を勧告。
〃	〃	〔日〕 教科書配送連絡会議（文部省国語課長室，南方諸地域に於ける日本語教科書の配送に関する連絡会議を開催，出席者 ビルマ平松事務官，スマトラ米沢陸軍中尉，マライ金谷陸軍司政官，大東亜省関野調査官，日本出版会坂本教育厚生課長心得，萩谷渉外課主事，花島同課員，日本出版配給株式会社田中東亜課長，中等教科書株式会社稲葉管理部次長，本省側 高木渉外課長，大岡国語課長，釘本監修官及び長沼振興会常務理事）。
〃	〃	〔国〕 国語審議会主査委員会（文部省第三会議室において開会，「漢語の整理に関する件」について検討）。
〃	〃	中国基地の米軍B29爆撃機，初めて北九州を空襲。
〃	6・19	マリアナ沖海戦（日本海軍，航母・航空機の大半を失う）。
〃	6・20	〔日〕 日本語教育振興会理事関野房夫，公務をもって比島に向け出発。
〃	〃	〔日〕 ビルマ，第八次日語要員20名着任。
〃	〃	米副大統領ウォーレス，重慶に到着，蔣介石と会談。
〃	〃	〔書〕「標準日本語発音大辞典」（寺川喜四男 大雅堂）。
〃	〃	〔書〕「国語論集日本語の朝」（島田春雄，第一公論社）。
〃	6・21	〔国〕 国語課常会（国語課長室。決戦下国語浄化指導面の具体的方策について協議）。
〃	6・23	〔国〕 国語課常会（国語課長室。決戦下国語浄化指導面の具体的方策について協議）。
〃	6・28	〔日〕 文部省南方派遣教育要員養成所第八回養成講習会終了式（所長代理高木文部省総務局渉外課長，主事大岡文部省国語課長以下各関係官列席。当日終了証書を授与されたもの31名）。
〃	6・29	〔国〕 国語課常会（国語課長室。決戦下国語浄化指導面の具体的方策について協議）。
〃	6・30	閣議，国民学校初等科児童の集団疎開を決定（7月20日文部省，学童集団

西 暦	年 代	項 目
1944		疎開の範囲を東京都のほか12都市に広げる。8月4日東京都区部の3～6年生から実施し出発)。
"	6・30	〔書〕「日本語教育叢書 現代語法の諸問題」(湯沢幸吉郎, 日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「日本語教育叢書 現代敬語法の諸問題」(三宅武郎, 日本語教育振興会)。
"	6・	〔書〕「和独英三国語索引航空用語辞典」(三縄秀松著, 山海堂)。
"	7・1	ブレトンウッズで連合国(44か国)経済会議開く(～7月22日, 国際通貨基金・国際復興開発銀行創設を討議)。
"	"	〔書〕「日本語」(第四巻第七号)。 (同上)「巻頭言 言語の教養」(長谷川如是閑)。 (「」)「日本語学校論」(釘本久春)。 (「」)「教育戦力化の施策と目標」(伊藤日出登)。 (「」)「標準語とアクセント(一)」(服部四郎)。 (「」)「仮名遣問題拾遺」(湯沢幸吉郎)。 (「」)「少年兵と日本語」(松田武夫)。 (「」)「 ^{成人用} _{速成} 日本語教科書の諸問題〔座談会〕」(出席者, 浅野鶴子, 岩淵悦太郎, 長沼直兄, 西尾実, 林和比古)。 (「」)「日本語教室 教材の性格と指導の要領」(日野成美)。 (「」)「 ^{江湖山} _{恒明} 著「敬語法」(書評)」(大久保正太郎)。 (「」)「国際文化振興会紹介」(稲垣守克)。 (「」)「読物 南方の日本語」(佐藤春夫)。
"	7・3	〔国〕国語課常会(国語課長室。決戦下国語浄化指導面の具体的方策について協議)。
"	7・4	〔国〕国語課常会(同上)。
"	"	大本営, インパール作戦の失敗を認め, 作戦中止を命令(作戦参加10万人中, 死者3万人, 戦傷病者4万5000人)。
"	7・8	インパール退却作戦開始。
"	7・10	情報局, 中央公論社・改造社に自発的廃業を指示(両社月末解散)。
"	"	〔書〕「日本の臣道・アメリカの国民性」(和辻哲郎)。
"	7・11	閣議, 国民学校高等科, 中学校低学年の動員, 深夜業の強化を決定。

西 暦	年 代	項 目
1944	7・12	〔国〕「国語課常会（国語課長室。決戦下国語浄化指導面の具体的方策について協議）。
"	7・13	内大臣木戸孝一、東条首相に大臣と参謀総長・軍令部総長の分離、海相の更迭、重臣入閣を指示。
	7・14	東条参謀総長辞任、後任に後宮淳次長を内奏。陸軍部内の反対により、7月17日内奏変更、7月18日梅津美治郎を任命。
"	"	〔国〕 国語醇化に関する懇談会開催（文部省委員室に姉崎正治博士を招き欧文の語脈語法の国語侵害、漢語漢学の悪用等を中心とする国語醇化に関する博士の意見を聴き、のち、博士を中心として国語醇化の方策具体化について懇談。出席者近藤教学局長、大岡国語課長、関・湯沢・釘本各監修官、吉田調査官、細井・白石各官補、保科・三宅・長沼各嘱託等）。
"	"	〔教〕「京城帝国大学附属理科教員養成所規程」〔朝鮮總督府令第二百七十二号〕（「京城帝国大学附属理科教員養成所規程左ノ通定ム 京城帝国大学理科教員養成所規程 第一条 京城帝国大学附属理科教員養成所ハ皇国ノ道ニ則リテ数学、物象又ハ地理ノ中等教員タルベキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス」）
"	7・17	嶋田海相辞職、後任野村直邦。米内光政ら重臣、東条内閣への入閣拒否。
"	7・18	東条内閣総辞職。
"	7・20	小磯国昭、米内光政両大将に協力組閣の命令。
"	"	〔国〕 国語審議会主査委員会（～7月21日、文部省会議室。「漢語読方に関する整理案」を討議）。
"	"	独陸軍によるとヒトラー暗殺計画失敗（「7・20事件」）。シュタウフェンベルク大佐射殺される。元参謀総長ベック自殺。
"	"	〔書〕「国語音韻史の研究」（有坂光世、明世堂書店）。
"	7・21	米軍、グアム島に上陸、8・10守備隊1万8000人玉砕。
"	"	ホルムでポーランド国民解放委員会結成（7月24日ロンドンの亡命政権、これに反対声明）。7月25日ルブリンに移り、7月26日ソ連と友好軍事条約調印。
"	7・22	小磯国昭内閣成立。
"	7・23	〔教〕 新旧文部大臣のあいさつ並びに訓示（文部省第一会議室）。
"	7・24	米軍、テニヤンに上陸、8月3日守備隊8000人玉砕。
"	7・26	〔国〕 国語課常会（課長室に於て常会を開き、主として決戦下国語浄化指導に関する要綱について協議）。
"	7・29	タイ、ビブン・ソンクラム内閣総辞職。8月1日アパイウォン中道内閣成立。
"	7・	東京帝大東洋文化研究所を中心に東洋学会を設立。
"	夏	〔日〕 ジャワ文教局で日馬辞書を作成（10000語収録）、国民図書局

西 暦	年 代	項 目
1944		から刊行、この小辞典は60,000部配布（さらに中辞典（60,000語収録）を30,000部印刷完了したが、頒布直前に終戦となる。国民図書局は、文教局の直属で、全島一の大規模な編集・印刷・出版の機関）。又、ジャワ文教局では、このほかに、日本語競技大会、日本語学力検定を実施した。
"	7・	〔書〕「医学用語集 第一次選定」（第一一回日本医学会医学用語整理委員会、南山堂）。
"	"	〔書〕「鵬程万里」（A・R・Boyce カルカタ・The Far Eastern Bureau, British Ministry of Information。「Japanese Air Terms」～昭和20年1月。二巻）。
"	"	〔書〕「枕詞辞典」（太塚龍夫著、風間書房）。
"	"	〔書〕「蘭日辞典」（朝倉純孝著、開隆堂、明治書院。「Nederlandsch Japansch Woordenboek」）
"	8・1	ワルシャワで民衆の反独武装蜂起おこる（～10月2日、SSに鎮圧される）。
"	"	〔書〕「日本語」（第四巻第八号）。 （同上）「巻頭言 根基に培ふもの」（東京女子大学教授 西尾実）。 （"）「戦争と国語政策」（稲富栄次郎）。 （"）「仏印特輯 仏印に於ける日本語教育」（蘆原英了）。 （"）「仏印特輯 南部仏印に於ける日本語学校の問題」（小関藤一郎）。 （"）「標準語とアクセント（二）」（服部四郎）。 （"）「日本語教室 敬語の誤用」（森田梧郎）。 （"）「日本語教室 比較文法の問題」（深沢泉）。 （"）「 ^{寺川喜四男} ^{山下三好} 共著標準日本語発音大辞典（書評）」（三宅武郎）。 （"）「東亜研究所紹介」。 （"）「読物 ジャワ日本語学校建設記」（大江賢次）。 （"）「読物 南の土（一）」（釘本久春）。
"	8・2	〔国〕 国語課常会（国語課長室において常会を開き、主として決戦下国語浄化指導に関する要綱について協議）。
"	"	トルコ、対独断交。
"	8・4	閣議、国民総武装決定（竹槍訓練など始まる）。
"	"	学童集団疎開第一陣、上野発。
"	"	米・中連合軍、ビルマのミートキーナを占領。日本軍、守備隊長以下1,000人戦死。

西 暦	年 代	項 目
1944	8・5	大本営・政府連絡会議、最高戦争指導会議と改称。
"	"	〔国〕 広田国語調査官、中華民国への出張先から帰朝登省。
"	8・7	〔国〕 国語課常会（国語課長室において常会を開き、主として決戦下国語浄化指導に関する要綱について協議。さらに引き続き臨時常会を開催、決戦下国語の浄化統一促進に関する件について慎重協議を進めた）。
"	8・9	〔日〕 在外教育功労者の表彰（大東亜会館において文部次官藤野恵、大東亜省支那事務局長等関係官列席のもとにその披露式が行われ、在外邦人子弟教育協会長岡部前文相が478名の功労者への感謝を披露、表彰者内訳満州国十年以上一四五名、十五年以上一一三名、三十年以上八三名、北支十年以上四一名、十五年以上二四名、二十年以上九名、中支十年以上二一名、十五年以上一二名、二十年以上七名、南支十年以上七名、十五年以上五名、二十年以上二名、蒙疆二十年以上一名、南洋十年以上八名）。
"	"	〔国〕 国語課常会（国語課長室において常会を開き、主として決戦下国語浄化指導に関する要綱について協議）。
"	8・10	枢密院議長に鈴木貫太郎を任命。
"	"	軍需省、「開戦以降物的国力の推移ならびに今後における見透し」を作成（サイパン島失陥後の物的国力崩壊を認定）。
"	"	〔日〕 ビルマ、ヤンフェ日本語学校開校式挙行（～20年4月17日。20年1月、インユア分校を開設）。
"	8・12	〔日〕 南方教育事情懇談会（文部大臣官邸において、二宮文相、藤野次官以下文部省首脳部及び日本教育会側多数出席のもとに前田海軍司政官、南方行政を担当し文部省に帰任した内山書記官、飯田教学官並びに先般南方を視察した釘本図書監修官から南方教育事情を聴取懇談した）。
"	8・15	閣議、「総動員警備要綱」を決定（国内防衛態勢を強化）。
"	"	東京・大阪で防空備蓄米5日分の特別配給決定。
"	"	連合軍、南仏の地中海沿岸（カンヌ・ツーロン間）に上陸「ドラゴン作戦」。
"	8・16	〔国〕 国語課常会（文部省国語課長室において、主として外国語地名人名調査整理の件に関し協議）。
"	8・18	米大統領、前陸軍長官ハーレイを対華特使に任命（9月6日重慶着）。
"	8・19	最高戦争指導会議、「世界情勢判断」及び「今後採るべき戦争指導大綱」を決定。
"	8・21	ダンバートン・オークス会議開く（～9月27日米英ソ、9月29日～10月7日米英中、10月9日「国際連合案」を発表）。
"	8・22	沖縄からの疎開船対馬丸、米潜水艦の魚雷攻撃により悪石島近海で沈没、学童700人を含む1500人死亡。
"	8・23	〔教〕「学徒勤労令」〔勅令〕を公布（学徒勤労働員に法的措置を行う。大学・高専の2年以上、理科系学徒1000人に限って勤労働員より除外、科学

西 暦	年 代	項 目
1944		研究要員とする)。
"	3・23	「女子挺身勤労令」〔勅令〕公布。
"	"	〔国〕 国語課常会(文部省国語課長室に於て外国語地名人名調査の件について協議)。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会主催のもとに馬來文教事情聴取(滞京中の馬來文教課長勝呂司政官を大東亜会館に招請, 馬來文教事情を聴取, 文部省より近藤教学局長, 大岡国語課長, 湯沢・釘本各図書監修官, 大東亜省より相良事務官, 陸軍省より郡司司政長官, 日本語教育振興会より長沼, 西尾各理事及び中島主事が出席)。
"	"	ルーマニア国王ミハーイ, アントネスクを罷免, 後任サナテスク。8月24日連合国の停戦条件受諾。8月25日対独宣戦布告。
"	8・24	バリの市民, 反独武装蜂起。8月26日連合軍バリ入城, ドゴール凱旋。
"	"	ブルガリア, 独軍の撤退を要求, 8月26日戦線離脱と中立を宣言。
"	8・28	〔日〕 松村明, 文部省図書監修官補に新任(南方向日本語教科書の編纂事務を担当)。
"	"	大達内相, 全国神職寇敵撃滅祈願訓令(大日本神祇会, 夜間, 早曉の熱禱を指示)。
"	8・30	ソ連軍, ルーマニアの油田地帯を攻略。8, 31ブカレストに入る。
"	8・31	台湾人徴兵実施。
"	"	〔国〕 国語課常会(文部省国語課長室において主として外国語地名人名調査整理の件に関し協議)。
"	8・	〔日〕 5月千葉市検見川帝国大学千葉錬成道場に於て実施した南方派遣日本語教育要員養成講習会終了の南方派遣日本語教育要員〇〇名に対し, 8月それぞれ任官の発令。
"	"	〔書〕「標準海語辞典」(海事文化協会編, 博文館)。
"	"	〔書〕「社会学辞典」(新明正道編, 河出書房)。
"	"	〔書〕「日本演劇辞典」(渥美清太郎著, 新大衆社)。
"	9・1	戸坂潤, 1938年11月29日の唯物論研究会事件の判決確定し, この日, 東京拘置所に下獄。
"	"	〔書〕「日本語」(第四巻第九号)。 (同上)「巻頭言 国語の修練」(中島唯一)。 (「)「日本語の弘通」(広浜嘉雄)。 (「)「泰国の普通教育について」(鈴木忍)。 (「)「中南米に対する合衆国の文化政策」(坂西志保)。

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>(同上) 「日本語普及と文化政策 新聞」 (松原至大)。</p> <p>(〃) 「日本語普及と文化政策 映画」 (川名完次)。</p> <p>(〃) 「日本語普及と文化政策 放送」 (水川清)。</p> <p>(〃) 「中国人に誤り把握せられている日本語の発音 (完) 」 (筧五百里)。</p> <p>(〃) 「長沼直兄著「日本語の初歩」 (書評) 」 (浅野鶴子)。</p> <p>(〃) 「南洋協会紹介」 (池田曄)。</p> <p>(〃) 「マンダレーの営舎」 (小田嶽夫)。</p> <p>(〃) 「南の土 (二) 」 (釘本久春)。</p>
〃	9 ・ 2	米国, 対独戦後処理の「モーゲンソー案」公表 (ドイツの農業国化を提案)。
〃	〃	フィンランド, 対独断交を声明。独軍の国外撤退を要求。9 ・ 19モスクワで英ソと休戦協定調印。
〃	9 ・ 4	最高戦争指導会議, 「対ソ特派使節派遣の件」決定。
〃	9 ・ 5	最高戦争指導会議, 「対重慶政治工作実施に関する件」及び「対泰施策に関する件」を決定。
〃	〃	ソ連, ブルガリアに宣戦布告, ドブルージャからドナウ川を越えて進入。
〃	9 ・ 6	〔 国 〕 国語課常会 (国語課長室において, 主として外国語地名人名調査整理の件について協議)。
〃	〃	米大統領特使ハーレー, 重慶着, 蔣介石と会談。11月7日延安で毛沢東と会談。
〃	9 ・ 8	ブルガリアで共産主義者の武装蜂起。祖国戦線政府樹立 (9月10日対独宣戦)。10月28日モスクワで米英ソと休戦協定調印。
〃	9 ・ 9	フランス, ドゴール將軍首班の臨時政府樹立。10月23日米英ソ, 同政府承認。
〃	9 ・ 10	雲南の拉孟の日本軍守備隊1400人玉砕。9月14日勝越の守備隊1500人玉砕。
〃	9 ・ 11	<p>〔 日 〕 支那派遣教員第十一回錬成 (～ 24日。大東亜省指導, 興亜教育会及び日本語教育振興会共同主催。会場神田一ツ橋大日本教育会一橋寮。要領一, 大東亜新秩序の顕現に必要な信念, 識見, 体力を錬磨し, 指導的人物たるの資質を錬成す。一, 興亜教育家としての実現力涵養せしむるため合宿訓練を行ふ。一, 日本語教員としての識見並びに技術的能力を啓培す〔 訓育及び学科 〕 「精神訓話」大東亜次官竹内新平, 「 〃 」大東亜省支那事務局長杉原荒太, 「 〃 」文部省教学局長近藤寿治, 「日本精神」文学博士紀平正美, 「大東亜史要説」民族研究所員岩村忍, 「日本対外発展史要説」東大教授沢武雄, 「支那政治事情」大東亜省支那事務局総務課長脇光雄, 「支那経済事情」大東亜省支</p>

西 暦	年 代	項 目
1944		那事務局理財課長秋之順朝,「支那文化事情」大東亜省支那事務局司政課長大沢長俊,「支那文化事情」大東亜事務官相良惟一,「大東亜民族問題」民族研究所員小山栄三,「日本教育の動向」文部省総務局総務課長西崎恵,「興亜教育問題」東大助教授海後宗臣,「大東亜戦争の現実と国民の覚悟」海軍報道部大宅大佐,「大陸衛生及救急法」大東亜省技師仁平弘夫,「現下国語問題」文部省教学局国語課長大岡保三,「日本語要説」文部省図書監修官湯沢幸吉郎,「日本語教授法要説」日本語教育振興会常務理事長沼直兄,「日本語普及史」文部省図書監修官釘本久春,「日本語教育の諸問題」東京女子大学教授西尾実。
"	9・11	ルーズベルト・チャーチルの第2回ケベック会談開く(～9月16日。対日独戦略を協議。「モーゲンソー案」を修正承認)。
"	9・12	ルーマニア,モスクワで米英ソと休戦協定調印。
"	9・13	〔国〕 国語課常会(国語課長室において主として外国語地名人名整理の件に関し協議)。
"	9・15	米軍,パラオ島のペリリュー島及びニューギニア西方のモロタイ島に上陸(ペリリュー守備隊は2か月以上抗戦を続けて玉砕)。
"	"	重慶で第三期第三次国民参政会(～9月18日。国共会談の経緯を報告。中共代表林伯渠,民主連合政府樹立をよびかける)。
"	"	〔書〕「大東亜言語論」(乾輝雄,株式会社富山房創立事務所)。
"	9・16	駐ソ大使佐藤尚武,モロトフ外相に特派使節のモスクワ派遣を提議,拒否される。
"	9・22	塩田紀和,九月七日附,国語に関する調査囑託の発令,22日,教学局長より辞令交附(主として支那向日本語教科書編纂に従事する予定)。
"	9・28	最高戦争指導会議,「対ソ施策に関する件」決定(ソ連の中立維持・利用)。
"	9・30	神仏基30万の宗教家により,大日本戦時宗教報国会結成。
"	9・	〔国〕 外国地名人名協議会は,「外国地名人名整理案」「同表記法案」を議決答申。
"	"	〔日〕 北ビルマの戦況悪化,日本語学校の閉鎖・引揚げ多くなる。
"	"	〔書〕「新字鑑 学生版」(塩谷温著,弘道館)。
"	10・初	〔日〕 ビルマ,十月初旬現在,日本語学校数四十一校,日本人教員数百七十名)。
"	"	〔書〕「日本語」(第四巻第十号)。 (同上)「巻頭言 言葉の風味」(佐藤春夫)。 (")「学徒勤労動員教育」(西尾実)。

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>(同上) 「東亜民族観と教育問題」 (海後勝男)。</p> <p>(#) 「南方より帰りて 対談」 (佐藤春夫・釘本久春)。</p> <p>(#) 「マライの日本語教育」 (勝呂弘)。</p> <p>(#) 「いゝ顔、嫌な顔」 (白石大二)。</p> <p>(#) 「日本語教室 主語に附く場合の助詞「が」と「は」の用法」 (有賀憲三)。</p> <p>(#) 「指導過程の問題」 (篠原利逸)。</p> <p>(#) 「矢部春著 日本語教師 (書評)」 (相良惟一)。</p> <p>(#) 「フィリピン協会紹介」 (岡本久吉)。</p> <p>(#) 「南方語学漫談 (随筆)」 (田中克己)。</p>
"	10・9	モスクワでチャーチル・スターリン会談 (～ 10月20日 米大使ハリマンも出席。南東欧の英ソ勢力範囲を画定)。
"	"	国際連合案発表。
"	10・10	米機動部隊、沖縄を空襲。10月12日台湾沖航空戦。大本営、大戦果を発表 (事実は戦果なし)。
"	10・11	ソ連軍、東プロシアでドイツ国境を突破。
"	10・16	「陸軍特別志願兵令」改正〔勅令〕公布 (17歳未満の者の志願を許可)。
"	"	閣議、「国内防衛方策要綱」を決定。
"	10・18	陸軍省、「兵役法施行規則」改正公布 (17歳以上を兵役に編入)。11月1日施行。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会移転披露会開催 (神田区三崎町一丁目二番地に本部事務所移転と財団法人設立のあいさつを兼ねて開催、なお、文部省事務所は従前のとおり。当日の参会者約百名)。
"	"	大本営、「捷1号作戦」発動を命令 (フィリピン方面に陸海軍の主力を集中し、決戦を行う作戦)。
"	"	米大統領、在華米軍司令官スティルウェル (蔣介石と意見対立) を召還。ウェデマイヤー少将派遣を蔣介石に通知。
"	10・19	日本空軍、神風特別攻撃隊を編成。
"	"	〔国〕 国語審議会主査委員会 (文部省第三会議室において南会長以下各主査委員出席、漢語の整理について協議)。
"	10・20	〔国〕 国語課研究会 (文部省第三会議室において民族研究所員岩村忍氏を招聘、回教事情に関する講演を聴く)。
"	"	米軍、フィリピン中部のレイテ島に上陸。
"	"	戦況日々悪化、日比谷で一億憤激米英撃攘国民大会開催。
"	"	ソ連軍・ユーゴ人民解放軍、ベオグラードを独軍から奪回。
"	10・23	農商相、松根油緊急増産対策措置要綱を決定 (ガソリン代用品増産のため)。

西 暦	年 代	項 目
1944	10・24	レイテ沖海戦（日本艦隊の突入作戦失敗，連合艦隊の主力を失う）。
"	10・25	海軍神風特攻隊，レイテ沖で初めて米艦を攻撃。
"	"	中国基地のB29約100機，北九州を空襲。
"	10・26	〔教〕 国体護持に関する国民教化方策懇談会（文部省大臣官邸において，文部省主催のもとに同省関係三十団体の幹部参集，国体護持に関する国民教化方策懇談会を開催，文部省より藤野文部次官，近藤教学局長，その他関係官，日本語教育振興会から中島主事出席，中央教化団体聯合会会長野村吉三郎を座長に推し，決戦下国民教化に関する根本目標及び具体的方策について種々協議）。
"	"	〔教〕「内地以外の地域に於ける学校の生徒・児童卒業者等の他の学校へ入学及転学に関する文部省令」改正公布。
"	"	〔日〕 南方向教科書編纂打合せ（文部省国語課長室に開会，十名の編纂委員並に大岡国語課長，湯沢，釘本各監修官出席）。
"	10・27	〔日〕 海軍主担当区域向教科書編纂打合せ（海軍主担当地域向日本語教科書編纂に関する打合会を日本語会館において開催。海軍側南方政務部林大佐以下四名，文部省側近藤教学局長以下五名，日本語教育振興会から長沼常務理事以下五名出席）。
"	10・28	〔日〕 海軍主担当地域用日本語教科書編纂費，本年度第二予備金よりの支出を大蔵省より承認査定される。
"	10・30	〔教〕「学徒勤労令施行規則」〔朝鮮総督府令第三百六十号〕。
"	10・	〔書〕「公卿辞典」（坂本武雄，七文書院）。
"	"	〔書〕「全国産業総覧」（野沢義朗編，東洋経済新報社）。
"	11・1	マリアナ基地のB29，東京を初偵察。11・24マリアナ基地のB29約70機，東京を初爆撃。
"	"	「総合計画局官制〔勅令〕公布（首相に直属，重要国策の企画）。
"	"	たばこ，隣組配給となる（男子1日6本）。
"	"	〔書〕「日本語」（第四卷第十一号）。
		（同上）「巻頭言 日本語の美しさ」（本会理事大沢長俊）。
		（"）「国語と国民生活」（志田延義）。
		（"）「敵性文化の査問 アメリカ」（中野好夫）。
		（"）「敵性文化の査問 イギリス」（玉井茂）。
		（"）「大陸戦力化と文教の問題（座談会）」（〔出席者〕長沼直兄，相良惟一，釘本久春，丁字尙，羽田隆雄，曾我孝之，腰原仁，小倉好雄）。
		（"）「比島の日本語と日本語問題」（内山良男）。

西 暦	年 代	項 目
1944		<p>(同上)「教材に何を選ぶべきか(葉書回答)」(諸家)。 (#)「藤原 著 日本語の問題(書評)」(中島唯一)。 (#)「日泰学院 紹介」(井坂三男)。 (#)「興亜同学院 読物 南方の日本語」(新田潤)。</p>
"	11・3	〔日〕 ビルマ, 第九次日語要員2名着任。
"	11・4	〔日〕 海軍主担当地域用日本語教科書編纂費, 閣議上程, 可決確定。
"	11・6	政府, 戦争遂行に関し声明。
"	"	〔日〕 南方及海軍地区教科書編纂会議(午前, 南方地域向教科書編纂会議を文部省国語課長室にて開催, 午後, 海軍主担当地域向教科書の打合会を同じく国語課長室において開催, 南方政務部から柴田中尉が出席)。
"	11・7	米大統領選挙, ルーズベルト, デューイを破り四選される。
"	"	対華特使ハーレイ, 延安で毛沢東主席と会談。
"	11・10	厚生省, 女子徴用実施・女子挺進隊期間1年延長を通牒。
"	"	汪兆銘, 名古屋で死去, 陳公博, 主席代理に就任。
"	"	米英ソ, アルバニアのホジャ共産政権を承認。
"	11・12	第三回大東亜文学者大会, 南京で開催(～11月15日)。
"	11・14	欧州諮問委員会, ベルリン・ドイツ管理機構に関する協定を承認。
"	11・15	〔日〕 ビルマ, 「緬甸国立日本語学校 日本語教員養成用日本語教科書 第四巻」完成。
"	"	〔書〕「民族科学大系」(民族科学研究所編纂。杉森孝次郎・三木清ら執筆。2冊)。
"	11・17	アルバニア人民解放軍, 首都チラナに入る。11月29日独軍, スクタリ撤退(アルバニア全土解放される)。
"	11・18	〔日〕 ビルマ, 第十次日語要員1名着任(他の同行者は途中遭難)。
"	11・19	横須賀海軍工廠, 航空母艦信濃を竣工(大和型戦艦を改装。6万8000トン)。11月29日魚雷4本で沈没。
"	11・20	日本基督教団, 「日本基督教団より大東亜共栄圏に在る基督教徒に送る書翰」を発表。
"	11・27	米國務長官ハル辞任。後任ステティニウス。11月30日ハーレー, 駐華大使となる。
"	11・29	〔日〕 長沼直兄外二十六名, 十一月二十九日付, 本年度南方地域向教科書委員任命発令。
"	11・30	ハーレイ, 駐華大使に任命される。
"	11・	〔日〕 ビルマ, ビュー日本語学校開設(～20年3月)。
"	"	〔日〕 ビルマ, トピヤジ日本語学校開設(～20年4月)。

西 暦	年 代	項 目
1944	11・	〔書〕「改訂増補 明治事物起原 2 巻」(石井研堂著, 春陽堂。2 冊)。
"	"	〔書〕「大陸畫刊・第 5 巻 11 号〜第 6 巻 3 号」(松野志気雄編, 東京・朝日新聞東京本社・月刊・昭和 19 年 11 月〜20 年 3 月)。
"	"	閣議, 中等学校の新規卒業予定者の勤労働員継続を決定。
"	12・1	〔書〕「日本語」(第四巻第十二号)。 (同上)「巻頭言 象と言葉」(大岡保三)。 (「」)「日本国民生活と海外発展」(藤原咲平)。 (「」)「古加點方針」(吉沢義則)。 (「」)「日本語教室 常体と敬体」(林和比古)。 (「」)「日本語教室 二つの教授案について」(中村忠一)。 (「」)「日本語教室 満鮮の日本語教室」(大西雅雄)。 (「」)「昭和十九年の成果 思想界の展望と回顧」(渡辺義晴)。 (「」)「昭和十九年の成果 国語関係論文集」(松村明)。 (「」)「ビルマ協会紹介」(金子豊治)。 (「」)「『日本語』第四巻総目次」。 (「」)「読物 思ひ出」(矢沢邦彦)。 (「」)「読物 南の土(三)」(釘本久春)。
"	12・3	ギリシア国民解放戦線〔E L A S 〕, 民主国民同盟(王党派)に反対して蜂起。12 月 16 日同戦線, 英・ギリシア軍と交戦開始(「ギリシア内乱」)。〜'45 年 1 月 11 日)。
"	12・5	モスクワで共産党・左翼政党によるハンガリー臨時民族政府(首班ダルノキ―將軍)成立(12 月 7 日デブレツェンに移る)。12 月 5 日対独宣戦布告。
"	12・10	ドゴール將軍, モスクワでドイツを対象に仏ソ同盟条約(20 年間)調印。
"	12・19	大本營, 「レイテ地上決戦方針」を放棄。
"	12・20	〔教〕「經学院規程中改正」〔朝鮮總督府令第百十二号〕(「經学院規程中左ノ通改正ス 第五条第一項中「大提学 一人」ノ次ニ「提学 一人」ヲ加フ 第七条 提学ハ大提学ノ指揮ヲ承ケ院務ヲ掌理シ大提学事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス 第八条 副提学ハ上職ヲ補佐シ提学事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス」)。
"	12・下	サイパン島の米国放送局(中波)よりの宣伝放送開始。
"	12・25	チャーチル・イーデン, ギリシア内乱収拾のためアテネ訪問(〜12 月 27 日)。
"	12・29	〔日〕 閣議, 「留日学生教育非常措置要項」を決定。

西 暦	年 代	項 目
1944	12・	〔書〕「解り 常識熟語葉辞書 上巻」(石松彬之助編・刊(福岡県)易き非売)。
"	(昭和19年)	〔日〕 日本諸学研究助成昭和十九年度国語・国文学部研究課題並びに研究者の決定(日本語教育振興会に対し、「日本語に関する問題」日本語と各異民族語との関係, 各国の言語政策の過去及び現在調査, 日本語の発音 日本語教育振興会研究部 長沼直兄外 が指定される)。
"	"	〔日〕 善隣協会, 昭和十九年現在までに世話してきた蒙古学生三百十三名すでに卒業帰国した者百六十一名(同協会は, 蒙古自治邦政府派遣の官私費留学生及び大東亜省撰抜給費の蒙古留学生全員の指導監督を委託される)。
"	"	〔日〕 山口喜一郎, 大連語学校の囑託となる。終戦まで中国人に日本語を教育する。
"	"	〔日〕 蒙疆地区では, 日系教員が各学校に配属され, 67名に達した。
"	"	〔日〕 ビルマ, インセン日本語学校開設(〜20年4月。爆撃により開校不能になり, レグーに開設)。
"	"	〔日〕 ビルマ, モーチ日本語学校開設(〜20年)。
"	"	〔日〕 ビルマ, モンナイ日本語学校開設(〜20年4月)。
"	"	〔日〕 ビルマ, カチャ日本語学校開設(〜20年4月。カチャ駐留部隊(船舶工兵隊第十一連隊石村卓中佐), 駐留と同時に開設。20年3月, 文教班より磯貝氏協力のため赴任)。
"	"	航空機生産, 2万8180機に達する('43年1万6693機, '45年1万1066機)。
"	"	〔書〕「発音符号」(日本語教育振興会。パンフレット)。
"	"	〔書〕「南方地域用初等学校用日本語読本 六巻」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「Elementary Japanese for College Students」 (Serge Ellisseeff, Edwin Q. Reischauer and Takehiko Yoshihashi: Harvard Univ. 別冊に「Vocabularies Grammar and Noto」と「Romaji Text」があり, 独習も可)。
"	"	〔書〕「地名人名英独仏語対照表」(斉藤阿具)。
"	"	〔書〕「日英比較音声学」(豊田実著, 研究社)。
"	"	〔書〕「雙解英和辞典」(「Fuzambo's English-Japanese Dictionary on Bilingual Principles」, 斎藤静)。
"	"	〔書〕「伊沢修二と台湾教育」(台湾教育会)。
"	"	〔書〕「日本語の精神」(佐藤喜代治, 畝傍書店)。
"	"	〔書〕「敬語史論考」(石坂正蔵)。
"	"	〔書〕「国語学論集」(橋本博士還暦記念会)。

西 曆	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「標準日本語読本巻一」(長沼直兄,「Hyojun Nihongo Tokuhon [The Standard Japanese Readers] Book ONE By N. NAGANUMA: UNIVERSITY of CALIFORNIA PRESS」)。
"	"	〔書〕「タガログ語彙」(笠井鎮夫著,三省堂)。
"	"	〔書〕「日本一瞥」(中日文化協会上海分会編,上海・中日文化協会上海分会。民国卅三年刊。「中日文化叢書第1種」。154p)。
"	"	〔書〕「〔甲申重九雄集吟稿〕」(中華民國駐日大使館編,東京・中華民國駐日大使館。民国卅三年刊。活版。1冊)。
"	"	〔書〕「日本文化給中国的影響」(夷藤恵秀著,民国張銘三訳,上海・新申報館。民国卅三年刊。206p)。
"	"	〔書〕「支那典籍史談」(大内白月著,東京・昭森社。昭和19年刊。186p)。
"	"	〔書〕「儒學と國學」(斎藤毅著,東京・春陽堂。昭和十九年刊。「新國學叢書第8巻1」。147p)。
"	"	〔書〕「東亜史襍攷」(石原道博著,東京・生活社。昭和19年刊。309p)。
"	"	〔書〕「大東亜ものがたり」(小野俊一著,東京・新潮社。昭和19年刊。236p)。
"	"	〔書〕「東洋史上の日本民族」(鈴木俊著,東京・紀元社。昭和19年刊。「東洋民族史叢書第9」。280p)。
"	"	〔書〕「日本水土考 水土解辯 増補華夷通商考」(西川忠英(求林斎)著,飯島忠夫,西川忠幸共校,東京・岩波書店。昭和19年刊。「岩波文庫」。196p)。
"	"	〔書〕「北京襍記」(奥野信太郎著,東京・二見書房。昭和19年刊。288p)。
"	"	〔書〕「周作人先生の事」(民国方紀生編,東京・光風館。昭和19年刊。254p)。
"	"	〔書〕「蒙古土産」(一宮操子著,大阪・靖文社。昭和19年刊。313p)。
"	"	〔書〕「支那版畫叢攷」(小野忠重著,東京・双林社。昭和19年刊。213p)。
"	"	〔書〕「日本語と支那語」(魚返善雄著,東京・慶応出版社。昭和19年刊。398p)。
"	"	〔書〕「棄餘集」(民国常風著,北京・新民印書館。民国卅三年刊。186p)。
"	"	〔書〕「支那語韻注音符號の發音」(魚返善雄著,東京・帝國書院。昭和19年刊。207p)。

西 曆	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「甲申重九雅集吟稿」(中華民國駐日大使館。民國卅三年刊。1冊)。
"	"	〔書〕「水 邊」(民國馮文炳,沈啓天共著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。105p)。
"	"	〔書〕「貝 殼」(民國袁犀著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。「新進作家集1」。196p)。
"	"	〔書〕「秋 初」(民國關永吉著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。「新進作家集6」。190p)。
"	"	〔書〕「豐 年」(民國山丁著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。「新進作家集7」。190p)。
"	"	〔書〕「蘇懿貞和她的家族」(民國山丁著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。「創作連叢2」。366p。合刻:一夕(民國雷妍) 陋 巷(民國秋螢) 風網船(民國關永吉) 暗春(民國袁犀))。
"	"	〔書〕「落花時節」(民國閻國新著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。190p)。
"	"	〔書〕「〔創作連叢〕第1輯」(新民印書館編,北京・新民印書館。民國卅三年刊。178p。內容:黃昏篇(民國梅娘) 某小說家的手記(民國袁犀) 陳鬍子想了半夜(民國馬犀) 苗是怎樣長城的(民國關永吉) 試煉(民國戈壁) 在土爾池哈小鎮上(民國山丁) 妥斯退盆夫斯基生活(民國東方葵))。
"	"	〔書〕「書房一角」(民國周作人著,北京・新民印書館。民國卅三年刊。189p)。
"	"	〔書〕「懷鄉記」(民國柳雨生著,上海・太平書局。民國卅三年刊。219p)。
"	"	〔書〕「模糊集」(清郝懿行著,松枝茂夫訳,東京・生活社。昭和19年刊。251p)。
"	"	〔書〕「〔藝文叢書〕」(民國畢樹棠訳,北京・新民印書館。民國卅三年刊。201p。內容:賊(W.K.Clifford) 無子記(Ignat Herrmann) 無花記(P. Romanov) 失彈記(Fedor B. Isjagin) 他的徽章 寡婦難 捉姦(Luigi Pirandello) 白衣女 蜜月以後(Walbang Gyalui))。
"	"	〔書〕「 ^古 代西南アジアの人種と言語」(^{ウオレル} 山本晃紹訳)。
"	"	〔書〕「回教の經濟倫理」(ヨハネス・クラウス)。
"	"	〔書〕「東亞交渉史論」(秋山謙蔵)。
"	"	〔書〕「東方古代世界史」(^{ドラボルト} 板倉勝正訳)。
"	"	〔書〕「東亞史概説」(三島一)。
"	"	〔書〕「大東亞資料総覧」(天野敬太郎)。

西 暦	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「朝鮮語方言の研究(上・下巻)」(小倉進平)。
"	"	〔書〕「朝鮮農業発達史(発達編・政策編)」(小早川九郎)。
"	"	〔書〕「朝鮮事情(図共)」(朝鮮総督府)。
"	"	〔書〕「清代満州土地政策の研究」(周藤吉之)。
"	"	〔書〕「満州開拓論」(喜多一雄)。
"	"	〔書〕「満州開拓農村の設定計画 — 末開地拓殖計画の研究 第一輯 —」(岡川栄蔵)。
"	"	〔書〕「満蒙行政・瑣談」(金井章次)。
"	"	〔書〕「蒙古と西支那」(^{カラミシェフ} 緒方一夫)。
"	"	〔書〕「蒙疆農業経済論」(^{山田武彦} 関谷陽一)。
"	"	〔書〕「中共概説」(大東亜省)。
"	"	〔書〕「支那上代の研究」(林泰輔)。
"	"	〔書〕「清朝史通論」(内藤虎次郎)。
"	"	〔書〕「ウイリス 支那地史の研究(上巻)」(菊池清)。
"	"	〔書〕「支那港湾統制と開発問題」(田北隆美)。
"	"	〔書〕「支那石炭事情」(久保山雄三)。
"	"	〔書〕「入蜀記」(^{入蜀記・呉船録} 棧雲・峽雨日記)(^{陸澹之・范大成} 竹添井々著)。
"	"	〔書〕「タイ国の華僑」(^{ランドン} 太平洋問題訳)。
"	"	〔書〕「支那の姓氏と家族制度」(西山栄久)。
"	"	〔書〕「南支那民俗誌(海南島篇)」(台湾総督府外事部)。
"	"	〔書〕「カカオ」(岩田喜雄)。
"	"	〔書〕「太平洋島嶼誌メラネシア篇」(荘司憲季)。
"	"	〔書〕「ボナベ島 — 生態学的研究 —」(今西綿司)。
"	"	〔書〕「ニューギニア研究」(西村勝比古訳)。
"	"	〔書〕「 ^{アラン・ヘイグ} ドットウエル 印度政治史(上巻)」(山本晃紹)。
"	"	〔書〕「印度史の分析」(金川義人)。
"	"	〔書〕「印度の流通経済」(総合インド研究室編)。
"	"	〔書〕「 ^{神々の座} — 印度・西藏紀行 —」(^{ヘルバルト・ライヒ} 村上啓夫訳)。
"	"	〔書〕「英国東印度商会秘史」(^{R・H・モトムラ} 美根安麿訳)。
"	"	〔書〕「東印度工業論」(西野照太郎訳)。
"	"	〔書〕「大緬甸誌(上下)」(緬甸研究会訳)。
"	"	〔書〕「仏印農業論」(松田延一)。
"	"	〔書〕「仏印華僑の統治政策」(^{ルヴェスール} 成田節男訳)。
"	"	〔書〕「比律賓の農業(下巻)」(福原友吉)。
"	"	〔書〕「濠州海底四十尋」(^{イオン・イドリース} 清水暉吉)。
"	"	〔書〕「南阿総邦史」(吉田賢吉)。
"	"	〔書〕「東亜の民族と宗教」(棚瀬襄爾)。

西 暦	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「アジア遊牧民族史」(ルネ・グルセ著、後藤十三雄訳)。
"	"	〔書〕「ジャン民俗誌」(^{ミルト} 牧野巽・佐藤利子訳)。
"	"	〔書〕「日本植民政策の動向」(永尾策郎)。
"	"	〔書〕「植民地の人口」(^{クチンスキー} 著、 ^{上田正夫・窪田喜彰} 訳)。
"	"	〔書〕「豪州の資源と植民問題」(宮田峯一)。
"	"	〔書〕「 ^{ノールス} イギリス植民地経済史(一、二巻)」(前橋正二訳)。
"	"	〔書〕「支那絵画史研究」(下店静市)。
"	"	〔書〕「フレーベルの教育学」(莊司雅子)。
"	"	〔書〕「クリーク教育哲学」(^{稲富栄次郎} 佐藤正夫)。
"	"	〔書〕「教育的皇道倫理学」(吉田熊次)。
"	"	〔書〕「学校側勤労学徒指導要領」(東京都教育局)。
"	"	〔書〕「学徒勤労動員実施要領ニ関スル件」(^{文部} 厚生次官)。
"	"	〔書〕「青年師範学校学科教授要綱案」(文部省)。
"	"	〔書〕「 ^{文部省} 中等学校教育内容ニ ^{関スル臨時措置要綱解説} 」(日本放送協会編)。
"	"	〔書〕「二十六大藩の藩学と士風」(斉藤真太郎)。
"	"	〔書〕「郷中教育の研究(薩藩)」(松本彦三郎)。
"	"	〔書〕「大阪商科大学六十年史」(陶山誠太郎)。
"	"	〔書〕「就学前の児童」(大橋貞雄編)。
"	"	〔書〕「学徒動員必携(第二輯)」(学徒動員本部総務部)。
"	"	〔書〕「国民学校の日本教育的性格」(井上嘉七)。
"	"	〔書〕「実業教育論」(倉橋藤治郎)。
"	"	〔書〕「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語謹解」(大杉謹一)。
"	"	〔書〕「技術教育」(細谷俊夫)。
"	"	〔書〕「世界の言語」(慶応大学語学研究所編)。
"	"	〔書〕「 ^{改訂} 人類と言語」(^{オットウ・イエスベルセン} 著、 ^{増補} 須貝清一・真鍋義雄訳)。
"	"	〔書〕「精神測定 — その方法と基準」(桐原葆見)。
"	"	〔書〕「ゲンタルト心理学」(^{ウオルフガング・ケーレル} 著、 ^{佐久間鼎訳})。
"	"	〔書〕「ゲンタルト心理学研究」(関計夫)。
"	"	〔書〕「メーデ集団の心理」(瀬川良夫)。
"	"	〔書〕「中華民国法制年鑑」(中国法制調査会)。
"	"	〔書〕「原住民司法論集(司資)」。
"	"	〔書〕「時を刻むの記」(佐々木惣一)。
"	"	〔書〕「営団経済法」(東京商大研究室)。
"	"	〔書〕「戦時経済法概説」(中村弥三次)。
"	"	〔書〕「藤本博士還暦祝賀論文集」。
"	"	〔書〕「ギルケの法学」(石田文次郎)。

西 曆	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「御仕置例類集(全六冊)」(司法調査部。～昭和21年)。
"	"	〔書〕「華士族秩録処分の研究」(深谷博治)。
"	"	〔書〕「職官考(上古篇)」(栗田寛編)。
"	"	〔書〕「日本法の制度と精神」(細川亀市)。
"	"	〔書〕「近世藩法資料集成3巻」(京大日本法制史研)。
"	"	〔書〕「明治初年の民法編纂 江藤新平の編纂事業と其草案(司法資料)」。
"	"	〔書〕「支那民事慣習調査報告(下)」(清水金次郎)。 張源祥
"	"	〔書〕「満州家族制度慣習調査 第一巻」(司法部)。
"	"	〔書〕「新潟県年鑑(昭和20年版)」(車谷清次郎編)。
"	"	〔書〕「国土計画と戦時経済政策」(平 実)。
"	"	〔書〕「都市と農村」(井森陸平)。
"	"	〔書〕「街路と広場」(奥田教朝)。
"	"	〔書〕「京都都市計画概要」(田中清志編)。
"	"	〔書〕「逐条市制町村制提議(上)」(入江俊郎他)。
"	"	〔書〕「中国土地法」(陳願遠 増淵俊一訳)。
"	"	〔書〕「日本疾病史」(富士川游)。
"	"	〔書〕「西洋医学史」(小川政彦)。
"	"	〔書〕「東西沐浴史話」(藤波剛一)。
"	"	〔書〕「近世に於ける神祇思想」(藤井貞文)。
"	"	〔書〕「神話哲学」(磯部忠正)。
"	"	〔書〕「ビンダー国家と法と正義」(和田小次郎)。
"	"	〔書〕「国家と法律学」(大西芳雄)。
"	"	〔書〕「日本国家学原理」(藤沢親雄)。
"	"	〔書〕「靖国神社の歴史 附招魂社沿革大要」(高原正作)。
"	"	〔書〕「古典と世界維新」(石井博通)。
"	"	〔書〕「皇農の書」(小野武夫)。
"	"	〔書〕「政治の概念」(潮田江次)。
"	"	〔書〕「明治維新前後に於ける 政治思想の展開」(小野寿人)。
"	"	〔書〕「立憲政友会滋賀支部党誌」(服部岩吉)。
"	"	〔書〕「学徒動員必携(第一・二輯)」(同本部)。
"	"	〔書〕「軍需省職員録」(軍需大臣官房秘書課編)。

西 暦	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「綜合明治維新史(二卷)」(田中惣五郎)。
"	"	〔書〕「増訂日本史学史」(清原貞雄)。
"	"	〔書〕「ヨーロッパの形成」(野口啓祐訳)。
"	"	〔書〕「印度政治史(ドッドウエル)上巻」(山本晃紹訳)。
"	"	〔書〕「古代の南露西亞」(ロストフツェフ 坪井良平訳)。
"	"	〔書〕「前大戦における独逸及び 洪芽利赤化成敗経緯」(外務省調査局)。
"	"	〔書〕「戦ふクレマンソー内閣」 ^{モルダック將軍} (酒井鎬次訳)。
"	"	〔書〕「アメリカの世界制覇主義解剖」(太平洋協会)。
"	"	〔書〕「アメリカ国民性の研究」(太平洋協会編)。
"	"	〔書〕「南太平洋の民族と文化」 ^{Gブシェン} (小堀甚二訳)。
"	"	〔書〕「太平洋に於ける民族文化の交流」(清野謙次)。
"	"	〔書〕「太平洋民族と文化(上巻)」(太平洋協会)。
"	"	〔書〕「南方建設と民族人口政策」(小山英三)。
"	"	〔書〕「民俗学(学説・展望)」 ^{ミルケ} (及川宏)。
"	"	〔書〕「世界新秩序建設と地政学」(小牧実繁)。
"	"	〔書〕「日本植民政策一斑」(後藤新平著, 中村哲解題, 日本評論社)。
"	"	〔書〕「精忠の祠堂」 ^{真木和泉守 佐久良東雄} (神祇院)。
"	"	〔書〕「武田信玄伝」(広瀬広一)。
"	"	〔書〕「長岡藩風と常在戦場の精神」(蒲原拓三)。
"	"	〔書〕「井上準之助論叢(伝, おち横外遊所感)」(同編纂会)。
"	"	〔書〕「鈴木喜三郎(司法大臣)」(同編纂会)。
"	"	〔書〕「大賀先生の生涯(和光堂・社会事業)」(同顕彰会)。
"	"	〔書〕「剛堂恩田重信(薬博)」(林柳波)。
"	"	〔書〕「塩田の父 — 久米栄左衛門の生涯 — 」(穴吹良博)。
"	"	〔書〕「ルキ・パストゥール」 ^{ヴァレリー・マド} (樋谷繁雄訳)。
"	"	〔書〕「外地法序説」(清宮四郎, 有斐閣)。
"	"	〔書〕「新国際法建設の理論」(田村徳治)。
"	"	〔書〕「戦時国際法提要(上・下巻)」(信夫淳平)。
"	"	〔書〕「戦時封鎖制度論」(高野雄一)。
"	"	〔書〕「グロティウス自由海論の研究」(大沢章)。
"	"	〔書〕「条約改正史」(山本茂)。
"	"	〔書〕「近世国際関係史論集」(大村作次郎)。
"	"	〔書〕「幕末維新外交資料集成(全六巻)」(維新史学会)。
"	"	〔書〕「第二次世界大戦前史」(大場弥平)。
"	"	〔書〕「ラテンアメリカ総覧」(同中央会)。
"	"	〔書〕「ルーヴェルト東亜政策史」(恒川真)。
"	"	〔書〕「日本の安全保障」(国際問題研他)。

西 暦	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「戦争史概観」(四手井綱正)。
"	"	〔書〕「近代戦争史論」(松村秀逸)。
"	"	〔書〕「大東亜戦争と世界」(杉森孝次郎)。
"	"	〔書〕「国防政治の研究」(五十嵐豊作)。
"	"	〔書〕「ナポレオンの政戦両略研究」(佐藤堅司)。
"	"	〔書〕「戦時アメリカ婦人動員とその動向」(渡辺経済研究所)。
"	"	〔書〕「日本近代刑事法令集(全三巻)」(司法資料)。
"	"	〔書〕「日本刑法総論」(安平政吉)。
"	"	〔書〕「刑法綱要」(大竹武七郎)。
"	"	〔書〕「経済刑法研究」(定塚道雄)。
"	"	〔書〕「経済刑法の基本問題」(八木胖)。
"	"	〔書〕「犯罪学と刑事政策」(メッガー 吉益脩夫)。
"	"	〔書〕「民法典論争史」(星野通)。
"	"	〔書〕「ドイツ物権法(上巻)」(山田晟)。
"	"	〔書〕「全国親族相続 戸籍寄留決議大系(上巻)」(古仙常吉)。
"	"	〔書〕「強制執行法の諸問題」(吉川大二郎)。
"	"	〔書〕「商法講義」(小町谷操三)。
"	"	〔書〕「株式会社論」(上田貞次郎)。
"	"	〔書〕「保険契約法通論」(相馬勝夫)。
"	"	〔書〕「レアンツ欧州海上保険史」(加藤由作)。
"	"	〔書〕「地方財政論」(藤谷謙二)。
"	"	〔書〕「皇国租税理念闡明に関する調査資料 荘園制度と租税理念」(大蔵省主税局)。
"	"	〔書〕「皇国租税理念調査会幹事会議事録」(大蔵省主税局)。
"	"	〔書〕「皇国租税理念調査会議事録(第一号・第二号)」。
"	"	〔書〕「公債と租税」(山口忠夫)。
"	"	〔書〕「国家資力の問題」(山口茂)。
"	"	〔書〕「第八十五銀行史」(川越市)。
"	"	〔書〕「愛知銀行46年史」。
"	"	〔書〕「産業組合中央金庫史」。
"	"	〔書〕「オグヴェーン社会変化論」(雨宮備蔵 伊藤安二訳)。
"	"	〔書〕「ハンス・フライヤー 現実科学としての社会学」(福武直)。
"	"	〔書〕「国民勤労訓練所」(村上禎威)。
"	"	〔書〕「ドイツの健民政策と母子保護事業」(瀬木三雄)。
"	"	〔書〕「女性の建設 — 大日本婦人会について — 」(山高しげり)。

西 暦	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「決戦下に於ける女子の作業及生活の錬成」(労働科学研究所)。
"	"	〔書〕「家事労働 ^{主婦生活の合理化に} に関する研究」(大阪市立生活科学研究所)。
"	"	〔書〕「古活字本研究資料」(和田万吉)。
"	"	〔書〕「本の話」(鳥生芳夫)。
"	"	〔書〕「共栄圏民族の厚生文化政策」(大林宗嗣)。
"	"	〔書〕「古代日韓鉄文化」(宍戸儀一)。
"	"	〔書〕「明治開化史論」(栗原信一)。
"	"	〔書〕「人類学概論」(^{エドゥアルト・マイヤー著} 佐々木俊治訳)。
"	"	〔書〕「日向国史(古代史)」(喜田貞吉)。
"	"	〔書〕「大東亜共栄圏毒蛇解説」(大島正満)。
"	"	〔書〕「耶蘇会の日本年報 第二輯」(村上直次郎)。
"	"	〔書〕「元和五・六年度の耶蘇会年報」(浦川和三郎訳)。
"	"	〔書〕「セーリス日本渡航記」(村川堅固)。
"	"	〔書〕「塩と民族」(時雨音羽)。
"	"	〔書〕「台湾年鑑」(台湾通信社)。
"	"	〔書〕「独逸労働統制法」(石田文次郎編著)。
"	"	〔書〕「企業整備労務問題に関する官民懇談会(第2回)」(日本経済連盟会)。
"	"	〔書〕「勤労体制の法的構造」(後藤清)。
"	"	〔書〕「戦力増強と労務問題」(日本学術振興会)。
"	"	〔書〕「請取賃金制度論」(大矢三郎)。
"	"	〔書〕「戦時労働事情」(^{(財)協調会} 長岡保太郎)。
"	"	〔書〕「学校卒業者使用制限関係法規」(厚生省勤労局)。
"	"	〔書〕「産業建築衛生」(伊藤正文)。
"	"	〔書〕「日本産業構造の研究」(山中篤太郎)。
"	"	〔書〕「技術及び技能管理」(相川春喜)。
"	"	〔書〕「 ^{独己三大技術者} ディーゼル・クラブ・ジーマンス」(川端勇男)。
"	"	〔書〕「科学技術の書」(富塚清)。
"	"	〔書〕「日本科学史」(山本成之助)。
"	"	〔書〕「佐藤信淵歿山学集」(鴫田恵吉)。
"	"	〔書〕「鉄の歴史」(^{オットー・ヨハンセン著} 市川弘勝・鈴木章訳)。
"	"	〔書〕「大阪製薬業史」(第二巻)。
"	"	〔書〕「中莫史」(岩渕勤一)。
"	"	〔書〕「日本莫大小工業史」(メリセス日本社刊)。

西 曆	年 代	項 目
1944	(昭和19年)	〔書〕「理論気象学(下巻)」(岡田武松)。
"	"	〔書〕「異常気象覚書」(畠山久尚、高橋浩一郎)。
"	"	〔書〕「産業気象の研究(2輯)」(大後美保)。
"	"	〔書〕「植物生理気象学」(大後美保)。
"	"	〔書〕「極秘六七部限定 根室附近霧調査研究演習第一次報告」(北部第四百十九部隊)。
"	"	〔書〕「産業災害の統計的研究」(若命鋭一)。
"	"	〔書〕「独逸中世農業史」(ベロウ・堀米洋三)。
"	"	〔書〕「戦時農業論」(W. マインホルト、永井建造訳)。
"	"	〔書〕「世界農業地理」(栗原藤七郎)。
"	"	〔書〕「農業生産費論考」(大槻正男)。
"	"	〔書〕「農工調整問題(立地)」((財)協調会)。
"	"	〔書〕「農工調和論」(難波田春夫)。
"	"	〔書〕「熱帯農業水利学」(牧隆泰著)。
"	"	〔書〕「日本地産論」(フエスガ)。
"	"	〔書〕「農業労力対策ニ関スル諸規程並ニ通牒」(農商務省、農政局)。
"	"	〔書〕「農業労働力調整研究報告書」(中央農業会)。
"	"	〔書〕「新生農村の研究」(我妻東策)。
"	"	〔書〕「日本農村と栄養」(酒井昌平)。
"	"	〔書〕「農と民俗学」(倉田一郎)。
"	"	〔書〕「農村文化」(井森陸平)。
"	"	〔書〕「農山村経済の基礎的研究」(杉本寿)。
"	"	〔書〕「日本養鶏史」(養鶏組合中央会)。
"	"	〔書〕「草原の研究」(中野治房)。
"	"	〔書〕「食糧論叢」(桜井芳人)。

西 暦	年 代	項 目
1945	昭和20年	
"	1・1	〔日〕 ビルマ，臨時編成改正により，参謀三課にて文教事務をとる。
"	"	ポーランドのルブリン委員会，共和国臨時政府に改組，1月17日ソ連軍，ワルシャワを解放。
"	"	〔書〕「日本語」（第五巻第一号）。 （同上）「巻頭言 国民的教養」（村上俊亮）。 （"）「“大東亜の教育”大東亜の教育」（伏見猛弥）。 （"）「“大東亜の教育”北支の教育」（小倉好雄）。 （"）「“大東亜の教育”ビルマの教育」（飯田忠）。 （"）「“大東亜の教育”回民社会の教育についての雑感」（岩村忍）。 （"）「“大東亜の教育”先覚者 列伝其一—台湾に於ける伊沢修二先生」（山口喜一郎）。 （"）「生産増強と文教施策〔座談会〕」（沢登哲一，大岡保三，岡本終吉，釘本久春，西尾実）。 （"）「音韻と語法」（佐久間鼎）。 （"）「善隣協会紹介」（三好季雄）。 （"）「読物 山村慰問行」（崎山正毅）。 （"）「読物 南の土（四）」（釘本久春）。
"	"	〔日〕 日本語教育振興会機関誌「日本語」，第五巻第一号をもって終刊となる。
"	1・9	米国，ルソン島に上陸。2・3 マニラ市内に進入。
"	1・11	ギリシア国民解放戦線と英軍・ギリシア政府間に休戦協定調印（内戦終結）。
"	1・16	学術研究会議，機構を改革し，「科学技術の戦力化」を徹底〔勅令〕。
"	1・18	最高戦争指導会議，「今後採るべき戦争指導大綱」を決定（本土決戦即応態勢確立など）。
"	1・19	〔日〕 ビルマ，第十一次日語教員37名着任。
"	"	イタリア，対日同盟条約を破棄。
"	1・20	〔書〕「大東亜諸言語と日本語 — 発音を中心として —」（寺川喜四男，大雅堂）。
"	1・25	最高戦争指導会議，「決戦非常要綱」を決定（軍需生産増強。生産防衛態勢強化など）。
"	"	文部省，大日本教化報国会を結成（教化・文化30団体の連絡指導機関）。

西 暦	年 代	項 目
1945	1・29	トルコ、対日断交（1・12ソ連への物資輸送に海峡を開く）。2月23日対日独宣戦布告。2月26日エジプト、対日宣戦布告。
"	1・	〔日〕 ビルマ、テンガンジョン日本語学校開設（～20年4月。インド仮政府立日本語学校）。
"	2・4	米英ソのヤルタ会談開催（ルーズベルト・チャーチル・スターリン。～2月11日。対独戦処理・ソ連の対日参戦などを決定）。
"	2・13	ソ連軍、ブダペストを解放。4・4ハンガリー全土を解放。
"	2・16	米機動部隊、艦載機1200機をもって関東各地を攻撃（～2・17）。3月18日～3月19日、3月28日～3月29日、九州各地を攻撃。
"	2・17	硫黄島の日本軍全滅。
"	2・18	日本聖公会主教佐々木鎮次、「スパイ嫌疑」により九段憲兵隊司令部に連行、拘禁される（6・16釈放）。4・12日本正教会主教セルゲイも拘引、40日間拘留（8月10日歿、70歳）。
"	2・19	米軍、硫黄島に上陸、3月17日守備隊全滅（戦死2万3000人）。
"	2・25	〔書〕「FIRST LESSONS IN NIPPONGO」(N.NAGANUMA、開拓社)。
"	2・	〔日〕 ビルマ、ダヌビウ日本語学校開設（～20年4月）。
"	"	〔日〕 ビルマ、トングー日本語学校開設（～20年3月）。
"	"	〔日〕 ビルマ、シュエジン日本語学校開設（～20年3月）。
"	"	〔日〕 ビルマ、チャイト日本語学校開設（～20年3月）。
"	3・上	〔日〕 ビルマ、マグイ日本語学校バラウ分校開校式及び入学式挙行。
"	3・1	〔教〕 海軍大将百武源吾、九州帝大総長に就任。
"	3・3	米州19か国間にチャプルテペック条約調印（「モンロー主義の共同防衛」を約束）。
"	3・5	「国民勤労働員令」「勅令第九十四号、公布昭和二十年三月六日」（「国民徴用令」・「国民勤労協力令」・「女子挺身勤労令」・「労務調整令」・「学校卒業者使用制限令」の5勅令を廃止・統合）。
"	"	ルーマニアに民族民主戦線政府樹立（首班ベトル・グローザ）。
"	3・7	ユーゴに人民政府樹立（首班チトー）。
"	"	米軍の先遣部隊、ライン渡河。
"	3・9	B29、東京を大空襲（～3月10日）、江東地域全滅（23万戸焼失、死傷12万）。3月14日大阪を空襲（13万戸焼失）。5月24日～5・25宮城全焼のほか東京都区内の大半焼失
"	3・10	〔日〕 ビルマ、「緬甸国立日本語学校 日本語教員養成所」用日本語教科書 第一巻」完成。
"	3・13	新聞は一県一紙制となる。

西 暦	年 代	項 目
1945	3・15	閣議、空襲に対処し、大都市における疎開強化要綱を決定。以後学童・母子など続々緊急疎開。
"	"	〔日〕 ビルマ、「緬甸国立日本語学校 日本語教員養成所用日本語教科書 第五巻」。
"	3・27	ビルマ国軍反乱蜂起、反ファシスト人民自由連盟、ペグーで抗日武装蜂起（抗日武装闘争全土に拡大）。
"	3・28	〔教〕「朝鮮女子青年錬成所規程中改正」〔朝鮮総督府令第三十八号〕（「朝鮮女子青年錬成所規程中左ノ通改正ス 第二条ニ左ノ但書ヲ加フ 但シ土地ノ情況ニ依リ道知事ノ認可ヲ受ケ年齢十四年以上ノ者ヲ入所セシムルコトヲ得 附則 本令ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」）。
"	"	三木清、逃走中の高倉テルを援助し、検挙される。
"	3・30	〔書〕「 ^{中等} 学校 日本語教本 巻一～巻三」（南方諸地域用、文部省編、財団法人日本語教育振興会）。
"	"	〔書〕「 ^{初等学} 校用 日本語教本 巻三」（日本語教育振興会）。
"	"	〔書〕「日本文法教本学習指導書」（南方諸地域用、文部省編、日本語教育振興会）。
"	"	大日本政治会結成（總裁南次郎、翼賛政治会は解消）。
"	3・31	〔教〕「青年学校規程」〔朝鮮総督府令第四十六号〕（「青年学校規程左ノ通定ム 青年学校規程 第一章 目的 第一条 青年学校ハ男子青年ニ対シ国体觀念ヲ明徴ニシ軍事的訓練ヲ施スト共ニ其ノ心身ヲ鍛鍊シ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ皇国臣民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス」）
"	3・	連行朝鮮人労働者、全国炭鉱労働者数の33%を占める（'39年から終戦までの連行朝鮮人72万5000人、うち逃亡22万人）。
"	4・1	米軍、沖縄本島に上陸。
"	4・5	小磯内閣総辞職、海軍大将鈴木貫太郎に組閣命令。
"	"	ソ連外相モロトフ、駐ソ大使佐藤尚武に日ソ中立条約不延長を通告。
"	4・7	鈴木貫太郎内閣成立。
"	4・8	本土防衛のため、第1・第2総軍及び航空総軍の戦闘序列下命。
"	4・12	米大統領ルーズベルト没（1882年生、63歳）。副大統領トルーマン昇格。
"	4・23	〔日〕 ビルマ、在蘭日語要員の一部、第一梯団に加わりモールメンへ転進。
"	"	中共七全大会（～6月11日延安。毛沢東主席の「連合政府論」報告（4月24日））。
"	4・25	〔日〕 ビルマ、残りの在蘭日語要員も平松中隊としてモールメンへ転進。
"	"	サンフランシスコで、国際連合創立総会開催（～6月26日。50か国参加）
"	4・	〔書〕「ソヴェート版露語大辞典」（デ・エヌ・ウシャコフ著、北方社。

西 暦	年 代	項 目
1945		四冊。「Д・Н・УШАКОВ:ТОЛКОВЫЙ СЛОВАРЬ РУССКОГО ЯЗЫКА」。1938年モスクワ版の復刻)。
"	5・2	英軍、ラングーンを占領。
"	5・7	〔日〕 ビルマ、文教班本部をモールメン日本語学校におく。
"	"	フランス及び5・8ベルリンで独軍、連合国への無条件降伏に署名。
"	5・8	トルーマン、日本に無条件降伏を勧告。
"	5・9	政府、ドイツの降伏にかかわらず日本の戦争遂行決意は不変と声明。
"	5・14	最高戦争指導会議構成員、会議を開き対ソ交渉方針決定(終戦工作始まる)。
"	5・22	〔教〕「戦時教育令」〔勅令〕公布(全学校・職場に学徒隊を結成。10月5日廃止)。
"	5・24	厚生・軍需省、「戦時要員緊急要務令」公布(職場死守の重要産業要員指定)。
"	5・25	〔日〕 ビルマ、日本語学校教育挺進隊結成(～20年8月。挺進隊当時の日本語学校、ムドン、アナクイン、タンビザヤ、コウカレー、タトン、アバロン、バウン、バンガ、カマウエ、ニョンビンゼ、その他終戦まで続けたテナセリウム地区の日本語学校、モールメン、タボイ、マグイ)。
"	5・30	〔教〕「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和二十年度臨時短縮ニ関スル件」〔朝鮮総督府令第百三十号〕(「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和二十年度臨時短縮ニ関スル件左ノ通定ム 第一条 昭和十六年勅令第九百二十四号第一条第一項及附則第二項竝ニ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第八条第一項ノ規程ニ依リ大学医学部ノ在学年限及専門学校ノ修業年限ハ昭和二十年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス 第二条 左ニ掲グル教員養成所又ハ学校ノ修業年限ハ昭和二十年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス 一 京城帝国大学附属理科教員養成所及水原農林専門学校附置博物教員養成所 二 私立学校規則ニ依リ設立セラレタル学校ニシテ朝鮮教育令ニ於テ依ルコトヲ定メタル専門学校令第五条ノ資格ヲ以テ入学資格トスル修業年限三年以上ノモノ」)。
"	6・1	日本出版会、出版非常措置要綱発表(用紙の重点集中特配実施)。
"	"	米スティムソン委員会、全会一致で日本への原爆投下を大統領に勧告。
"	6・4	〔教〕「大陸資源科学研究所官制」〔勅令第三百三十六号〕(「第一条 京城帝国大学ニ大陸資源科学研究所ヲ附置ス 第二条 大陸資源科学研究所ハ朝鮮、満州、支那等ノ大陸諸地域ニ於ケル天然資源ノ開発ニ関スル科学上ノ調査研究ヲ掌ル」)。
"	6・6	天皇臨席の最高戦争指導会議、「今後採ルベキ戦争指導の基本的綱」(本土決戦断行方針決定)を採択。

西 暦	年 代	項 目
1945	6・13	国民義勇戦闘隊結成のため、大政翼賛会及び傘下諸団体解散。
"	6・14	〔教〕「学徒勤労令施行規則中改正」〔朝鮮総督府令第百四十号〕。
"	6・18	沖縄島南端の前戦で負傷兵看護に従事の師範女子部・第一高女の生徒48人 集団戦死。6月23日にかけて多数自害（'46年3月1日現地に「ひめゆり の塔」建立）。
"	6・20	〔書〕「大アジア主義の歴史的基礎」（平野義太郎）。
"	6・22	「戦時緊急措置法」〔法律〕公布（内閣に独裁権付与）。
"	"	米英ソ3国委員会、ポーランド臨時政府の構成問題で合意、6・28ルブリ ン・ロンドン両派の統一臨時政府成立。
"	6・23	「義勇兵役法」〔法律〕公布（15歳以上60歳以下の男子、17歳以上、 40歳以下の女子を国民義勇戦闘隊に編成）。
"	6・23	沖縄本島の守備軍全滅（戦死9万、一般国民の死者10万）。
"	6・26	「国民義勇戦闘隊統率令」公布。
"	6・下	マリアナ基地のB29の他に、沖縄基地のB24、硫黄島のP51などが加 わり、中小都市の焼夷攻撃、交通破壊攻撃激化。
"	6・30	秋田県花岡鉾山で強制労働中の連行中国人850人が蜂起、収容所を脱走。 出動の軍隊と数日間戦闘、420人虐殺される（「花岡鉾山事件」。戦時中の 連行中国人3万8939人、うち死亡6872人）。
"	6・	東京都の人口、前年2月の国勢調査時の約3割（220万人）に激減。
"	7・1	〔教〕「戦時教育令施行規則」〔朝鮮総督府令第百五十一号〕（「戦時教育 令施行規則左ノ通定ム 戦時教育令施行規則 第一条 戦時教育令（以下令ト 称ス）第三条ノ規定ニ依ル学徒隊ノ組織編成ハ左ニ依ルモノトス 一 学校毎 ニ組織編成スル学徒隊ハ左ニ依リ之ヲ組織ス （イ） 学徒隊ハ原則トシテ学 部、学科、学年、学級等ヲ単位トシテ之ヲ組織ス但シ必要アルトキハ特別ノ組 織ヲ為スコトヲ得 （ロ） 学徒隊ニ学徒隊長ヲ置キ学校長ヲ以テ之ニ充ツ （ハ） 学徒隊ハ必要ニ応ジ大隊、中隊、小隊、班等ニ之ヲ分チ其ノ長ハ教職 員及学徒ノ中ヨリ学徒隊長之ヲ命ズ 二 地域毎ニ組織スル学徒隊ノ聯合体ハ 左ニ依リ之ヲ組織ス （イ） 全鮮学徒隊ハ大学専門師範学校学徒隊及道学徒 隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ朝鮮総督府政務總監、副隊長ハ朝鮮総督府学務 局長ヲ以テ之ニ充ツ大学専門師範学校学徒隊ハ大学専門師範学校ノ学徒隊ヲ以 テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ大学専門師範学校ノ学校長又ハ朝鮮総督府高等官ノ中 ヨリ朝鮮総督之ヲ命ズ 朝鮮総督ハ必要ニ応ジ大学専門師範学校ノ学徒隊ヲ道 学徒隊ニ臨時編入スルコトヲ得 （ロ） 道学徒隊ハ道中等学校学徒隊及道国 民学校学徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ当該道知事ヲ以テ之ニ充ツ 道中等

西 暦	年 代	項 目
1945		<p>学校学徒隊ハ当該道内ノ中等学校ノ学徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ当該道内務部長又ハ中等学校長ヨリ道知事之ヲ命ズ 道国民学校学徒隊ハ当該道内ノ府郡島国民学校学徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ当該道内務部長又ハ国民学校長ノ中ヨリ道知事之ヲ命ズ (ハ) 府郡島国民学校学徒隊ハ当該府郡島内ノ国民学校学徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ当該府郡島内ノ国民学校長又ハ府尹、郡守若クハ島司ノ中ヨリ道知事之ヲ命ズ (ニ) 府邑面長ハ夫々關係学徒隊ノ名誉隊長又ハ顧問トシテ道知事之ヲ委嘱スルコトヲ得 (ホ) 専門学校、中等学校、国民学校等ニ準ズル各種学校ノ学徒隊ハ夫々其ノ準ズル学校ノ例ニ依ル 第三条 令第三条ノ規定ニ依ル学徒隊ノ教育訓練ハ左ノ事項ニ重点ヲ置クモノトシ其ノ指導監督ニ関シテハ大学専門師範学校ノ学徒隊(職場学徒隊ニ属スル場合ヲ含ム)ニ在リテハ朝鮮総督、其ノ他ノ学校ノ学徒隊(職場学徒隊ニ属スル場合ヲ含ム)ニ在リテハ当該学校ノ所在地ノ道知事之ヲ行フモノトス 一 精神教育ニ関スル事項 二 軍事教育ニ関スル事項 三 防空衛生ニ関スル事項 四 生産技術ニ関スル事項 五 其ノ他戦時ニ緊要ナル教育訓練ニ関スル事項」)。</p>
"	7・1	<p>〔教〕「戦時教育令公布ニ関スル訓令」〔朝鮮総督府訓令第三十七号、二〇七・一、各道知事、各官立学校長、各公私立専門学校長宛〕(「大東亜戦争勃発以来茲ニ三年有半御稜威ノ下皇軍將兵ハ勇戦敢闘克ク皇国ノ威武ヲ中外ニ顕揚セシガ物量ヲ恃ム敵ノ反噬亦必ズシモ侮ルベカラザルモノアリ今ヤ醜夷ノ侵襲漸ク猖獗ヲ極メ戦局日ニ緊迫シ皇国ノ隆替將ニ岐レントス 此ノ秋ニ臨ミ特ニ戦時教育令公布セラレ長クモ上諭ヲ賜ヒテ戦時ニ於ケル教育ノ大本ヲ明ニシ青少年学徒ノ使命ヲ昭示アラセラル歎慮深遠洵ニ恐懼感激ニ堪ヘズ学徒及教職員ハ固ヨリ苟モ文教ニ攜ハル者ハ聖旨ヲ奉体シテ戦時教育ノ完璧ヲ期シ負荷ノ大任ヲ全ウセザルベカラズ 惟フニ戦時教育令ハ皇国青少年学徒隊ヲ挙ゲテ学徒隊ヲ編成シ其ノ総力を寇敵撃摧、国難突破ノ為ニ結集シテ国家総動員ノ徹底ヲ期スルト共ニ学校教育ヲシテ戦局ノ推移ニ即応セシムルヲ以テ主眼トス是ヲ以テ学徒隊ノ運営ニ際シテハ学徒及教職員ヲシテ一ニハ忠誠護國ノ至念ヲ熾烈ナラシメ二ニハ忍苦必勝ノ戦意ヲ昂揚シ三ニハ上下僚友ノ団結心ヲ鞏固ニシ四ニハ共励切磋、求道研鑽息マザルノ志ヲ振作セシメ以テ行学一致、師弟一心学徒ノ本分ヲ尽シ教職員ノ任ヲ全ウセシムルヲ要ス 抑々始政以来三十有余年同根脈々タル内鮮ノ伝統ハ一視同仁ノ聖徳ヲ仰ギテ渾然一体トナリ幾多同胞ハ戦局ノ進展ト共ニ相攜ヘテ奮起シ身命ヲ大東亜建設ノ聖業ニ献ゲタリ是レ実ニ教育ノ成果ニシテ今後尙聖戦完遂ノタメニハ其ノ使命愈々重キヲ加フルハ言ヲ俟タズ 曩ニ国家総動員ノ強化ニ伴ヒ学徒動員体制確立ノ為教育ニ関スル非常措置相尋イデ実施セラレ青少年学徒ハ挺身健闘克ク至誠尽忠ノ実ヲ挙ゲツツアリ今ヤ戦局ノ重大ナルニ際シ更ニ皇国教育未曾有ノ轉換ヲ敵前ニ断行シ学徒ヲシ</p>

西 暦	年 代	項 目
1945		<p>テ義勇奉公ノ節ヲ效サシメ其ノ使命達成ニ遺憾ナカラシメントス此ノ事若シ成ラズンバ教育ノ精華ハ遂ニ空シク泥土ニ委セラレンノミ須ク速ニ学徒隊ノ組織ヲ完成シ之ガ運営ニ渾身ノ力ヲ竭シ以テ任ヲ教職ニ受クル者ヲシテ薫化啓導ノ責務ヲ果サシメ学徒ヲシテ皇国ノ安危ヲ双肩ニ担ヒ若キ熱血ヲ滅敵ノ一途ニ傾倒セシムルニ萬遺漏ナキヲ期スベシ」)。</p>
"	7・10	<p>最高戦争指導会議、ソ連に終戦あつせん依頼のため近衛文麿の派遣を決定。 7月13日ソ連に申し入れ。7月18日ソ連拒否。</p>
"	"	<p>米機動隊、関東各地空襲。7月14日～7月15日東北・北海道空襲。7月14日釜石、7月15日室蘭を艦砲射撃、以後全国各地を攻撃。</p>
"	7・11	<p>〔教〕 文部省に学徒動員局を設置〔勅令〕。</p>
"	"	<p>〔日〕 文部省分課規程中改正〔文部訓令〕(「第六条 教学局ニ教学課、思想課、宗務課及教化課ヲ置ク教学課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル 九、国語ノ調査ニ関スルコト 十、日本語教科用図書ノ編纂其ノ他日本語普及ニ関スルコト、十二、国語審議会ニ関スルコト)。</p>
"	"	<p>主食の配給2合1勺(1割減)。</p>
"	7・16	<p>米国、ネバダで最初の原子核爆発実験に成功。</p>
"	7・17	<p>ポツダム会議開催(トルーマン・チャーチル・スターリン、～8月2日)、 7月26日対日ポツダム宣言発表。8月2日ドイツに対するポツダム宣言発表。</p>
"	7・26	<p>英国総選挙(7月5日施行)で労働党勝利。チャーチル内閣総辞職。7月27日アトリー労働内閣成立。</p>
"	7・28	<p>鈴木首相、記者団に対し、ポツダム宣言黙殺、戦争邁進と談話。</p>
"	7・30	<p>佐藤駐ソ大使、ソ連に条件付平和のあつせんを依頼。</p>
"	"	<p>〔日〕 ビルマ、マグイ日本語学校テナセリーム分校開校式並びに入学式挙行(一組(大人・官吏組)30名、二組(十五歳以下59名)。</p>
"	夏	<p>〔日〕 満州国、各省文教科のほか、学生勤労奉仕科を置く。</p>
"	8・6	<p>B29、広島に原子爆弾投下(死者20数万)。</p>
"	8・8	<p>ソ連対日宣戦布告(日本は8月9日の放送で知る)。北満・朝鮮・樺太に進攻開始。</p>
"	"	<p>仁科芳雄ら、被害調査のため広島へ入る。8月14日「新型爆弾」は「原子爆弾」と発表。</p>
"	8・9	<p>B29、長崎に原爆投下。</p>
"	"	<p>防空総本部、「新型爆弾」につき対策発表(白衣を着て横空壕に退避など)。</p>
"	"	<p>御前会議開催、8月10日午前2時半、国体護持を条件にポツダム宣言受諾を決定。8月10日政府、中立国スウェーデン・スイスを通じて連合国へ申し入れ。</p>
"	"	<p>戸坂潤、長野刑務所で獄死(1900年生、46歳)。</p>

西 暦	年 代	項 目
1945	8・9	毛沢東・朱徳、抗日戦は最後の段階に入ったと声明（8月10日朱徳、進軍命令を発する。8月11日蒋介石、原地駐防を命令。8・13朱徳、蔣の命令を拒否）。
"	8・10	午後8時過ぎ、同盟通信社・日本放送協会、海外放送でポツダム宣言条件付受諾申入れを放送（国内厳秘）。
"	"	原子爆弾被害調査のため、京都帝大調査団（杉山繁輝ら6人）。大阪帝大調査団（浅田常三郎ら6人）、広島に到着（8月30日都築正男ら東京帝大調査団も広島着）。
"	8・11	新聞各紙、情報局総裁下村宏の国体護持の談話、陸相阿南惟幾の全将兵への断固抗戦訓示を並べて掲載。
"	8・12	日本の降伏条件に対する連合国の回答公電到着（天皇制へは直接ふれず）。
"	"	ソ連軍、朝鮮の羅津・清津に上陸、8月29日北朝鮮全土を掌握。
"	8・13	世界シオニスト会議、ユダヤ人100万人のパレスチナ入国を要求。8月31日トルーマン大統領、アトリー首相に10万人の即時入国を要求。10月20日エジプトほかアラブ3国、イスラエル国家の創設は戦争を招くと米国に警告。
"	8・14	御前会議、ポツダム宣言受諾を決定、中立国を通じて連合国へ申し入れ。
"	"	中ソ友好同盟条約および付属協定締結。（モスクワ）。
"	8・15	正午、戦争終結の詔書を放送（日本、無条件降伏、ポツダム宣言受諾を発表。第二次世界大戦終わる。太平洋戦争の戦没者、'47年の政府発表では、陸海軍人155万5308人、一般国民29万9485人（事実上は合計300万に達すると推定される）。推定死者（行方不明を含む）約1683万人、負傷者約2670万人）。
"	"	朱徳、米英ソ3国に対し、解放区の人民代表権・対日平和会議参加権・米国の対蔣援助停止など5項目の要求を通告。
"	"	鈴木内閣総辞職。
"	"	〔日〕ビルマ、終戦と共に、日語要員モールメンに逐次集結。
"	"	旧仏ビシー政府首班のベタン元師に死刑判決、8月17日終身刑となる。10月15日元外相ラヴェル処刑。
"	"	朝鮮建国準備委員会（委員長呂運亨）、ソウルで結成。8・16建国準備大綱を発表（10月7日解散）。
"	8・16	〔教〕文部省・厚生省、農業運輸通信従事者を除く学徒動員解除につき通達。
"	8・17	東久邇宮内閣成立（首相が陸相兼任。國務相に近衛文麿）。
"	"	天皇、陸海軍人に「国家永遠の礎を遺さんことを期せよ」と勅語。
"	"	〔教〕文部省に国史編修院を設置〔勅令〕（院長山田孝雄、官選国史の編纂を計画、'46年1月31日廃止）。

西 暦	年 代	項 目
1945	8・17	インドネシア共和国独立宣言。8月18日「'45年憲法」制定、大統領にスカルノ選出。
"	8・18	満州国皇帝退位（満州国解消）。
"	8・20	河辺虎四郎中將ら全権委員、マニラで連合国総司令部から降伏文書・一般命令第1号〔陸海軍〕を受領。8月21日帰国。
"	"	朝鮮共産党再建委員会（委員長朴憲永）、ソウルで結成。ソ連軍司令官、「朝鮮人民に与える赤軍布告文」を発表。
"	8・23	スターリン、中国の全東北の解放を宣言。
"	8・24	〔教〕 文部省、学校教練・学校防空関係の訓令など19法令の廃止を通牒（10月3日銃剣道及び教練の全面停止を通牒）。
"	8・25	中共中央、「目前の時局に関する宣言」を発表（内戦回避・民主連合政府樹立を主張）。
"	8・26	大東亜省・軍需省官制廃止〔勅令〕。
"	"	国府軍、重慶その他の後方地区から南京・上海・北平に進駐を開始。
"	"	終戦連絡中央事務局官制〔勅令〕公布（外務省外局）。長官に岡崎勝男を任命。
"	8・27	大日本言論報国会、解散を宣言。
"	8・28	〔教〕 文部省、9月中旬までに全学校の授業再開を通牒。
"	"	〔教〕 閣議、陸海軍諸学校進学者・在学者を無試験で文部省所管学校へ転入学させることを決定。
"	"	連合軍先遣部隊、厚木飛行場に到着（以後各地に進駐）。
"	"	連合国、総司令部（GHQ）を横浜に設置。
"	"	毛沢東、周恩来らと共に重慶着。
"	8・29	米國務・陸軍・海軍3省間の日本占領管理問題に関する調整委員会作製の「降伏後における米国の初期の対日方針」概要、マッカーサーあてに通報。9・6指令。
"	8・30	日本文学報国会解散を理事会で決定。
"	"	連合国最高司令官（SCAP）マッカーサー、厚木に到着。
"	"	毛・蔣会談ひらく（～10月10日。10月10日会談記要調印。10月12日発表。内戦一時回避される）。
"	8・	〔日〕 比律賓学生15名帰国（8月以降、3回に分かれ帰国）。
"	"	〔日〕 シルクビー愛国小学校（サンパウロ市ジャルジントレメベ）開校。
"	"	〔日〕 鈴木忍、終戦により、タイ・バンコック日本語学校長を辞任。
"	9・2	降伏文書調印（全権重光葵・梅津美治郎、米艦ミズーリ号上にて）。
"	"	連合国最高司令官マッカーサー、指令第1号で、38度線を境に、在鮮日本軍の米ソ各軍への降伏を指令。9月9日米軍、ソウルで38度線以南の日本軍の降伏を受理。

西 暦	年 代	項 目
1945	9・2	ベトナム民主共和国成立宣言（臨時政府主席ホー・チミン）。9月23日仏軍、英軍の援助を受けサイゴン占領。
"	9・3	日本、対華降伏文書調印。
"	9・5	〔教〕 文部省、科学動員局を廃止、科学局を解体し、科学教育局・体育局を設置〔勅令〕（ついで10月25日専門教育局・国民教育局を廃止。学校教育局・社会教育局を設置〔勅令〕）。
"	9・6	米大統領、「降伏後における米国の初期の対日方針」を承認、マッカーサーに指令。9月22日米政府、正式全文を発表。
"	"	朝鮮建国準備委員会、朝鮮人民共和国樹立を宣言。10月10日米軍政長官、人民共和国否認を声明。
"	9・9	マッカーサー、日本管理方式につき声明発表（間接統治・自由主義助長など）
"	"	日本支那派遣軍投降式（南京）。
"	9・10	米英仏ソ中5大国、ロンドン外相会議ひらく（～10月2日。1日枢軸国との講和問題を討議、極東諮問委員会の設置を決定）。10月30日同委員会開会、ソ連参加を拒否。
"	9・11	G H Q、東条英機ら39人の戦争犯罪人の逮捕を命令（東条、自殺未遂）。
"	9・12	〔日〕 松本亀次郎歿、79歳7か月（1866～1945）。
"	9・14	元文相橋田邦彦自決（1882年生、64歳）。
"	9・15	〔教〕 文部省、「新日本建設の教育方針」を公表（国体護持・平和国家建設・科学的思考力の養成を強調）。
"	"	大本営復員ならびに廃止要領公示（9月13日付で大本営を廃止）。
"	"	南方軍、降伏文書に調印。
"	9・17	重光外相、終戦連絡中央事務局の内閣直属移管案に反対して辞任。後任に吉田茂任命。
"	9・19	米軍政府、ソウルに設置（軍政開始）。
"	9・20	ポツダム宣言の受諾に伴い発する命令に関する件「緊急勅令」公布（SCAPの要求に係わる事項実施のため勅令・閣令・省令を以て所要の定をなしうる）。
"	"	〔教〕 文部省、中等学校以下の教科書より戦時教材を省略削除するよう通牒。
"	9・22	G H Q、指令第3号を交付（「初期の対日方針」に基づく初の基本的指令）。
"	9・23	〔日〕 昭和十八・十九年度ビルマ南方特別留学生全員（約50名）帰国。
"	9・26	〔教〕 文部省、学校報国団を解体し自治的校友会に再編するよう通牒。
"	9・29	英・蘭軍、日本軍武装解除のためバタビア着（～10月3日）、活動開始。インドネシア人民軍（10月8日結成）との間に戦闘始まる。
"	9・30	情報局、陸軍内地部隊の復員は、9月24日までに80%以上終了、10月15日には完了の予定と発表。
"	10・4	G H Q、政治的・民事的・宗教的自由に対する制限撤廃の覚書（天皇に関す

西 暦	年 代	項 目
1945		る自由討議，政治犯釈放，思想警察全廃，内相・特高警察全員の罷免，統制法規廃止など）。10月5日東久邇宮内閣，同覚書は実行できないとして総辞職
"	10・4	大日本美術報国会解散。'46年8月23日日本美術及び工芸統制協会解散。
"	10・9	幣原喜重郎内閣成立（吉田外相留任，内相に堀切善次郎）。
"	10・10	政治犯約3000人釈放し，出獄した徳田球一・志賀義雄，「人民に訴う」を声明。
"	10・13	国防保安法・軍機保護法・言論出版集会結社等臨時取締法など廃止の件〔ボツダム勅令〕公布。
"	"	政府，国務相松本烝治を主任として，憲法改正に関する研究開始を決定。10月25日憲法問題調査委員会設置（委員長松本）。
"	"	蒋介石，国民党各部隊に内戦を密令，各地で解放軍と衝突。
"	10・14	平壤で金日成帰国歓迎市民集会ひらく。10月16日李承晩，米国より帰国。ソ練，北朝鮮全土の行政権を北朝鮮人民に移管。
"	10・15	治安維持法・思想犯保護観察法など廃止の件〔ボツダム勅令〕公布。
"	"	軍令部廃止公示。11月30日参謀本部条例廃止。
"	"	〔教〕 文部省，私立学校に於ける課程外の宗教教育実施を許可〔訓令〕（キリスト教教育を容認）。
"	"	〔教〕 文部省，新教育方針中央講習会を開催（～10月16日）。
"	10・17	国府軍，台湾に上陸開始。10月25日台湾総督安藤利吉参加のもとに中国戦区台湾省受降典礼。
"	10・20頃	〔日〕 フィリピン南方特別留学生50名帰国。
"	10・22	〔教〕 GHQ，「日本教育制度に対する管理政策」を指令（軍国主義的・超国家主義的教育を禁止）。
"	10・24	国連憲章，20か国の批准完了で発効（国際連合〔国連〕正式に成立）。
"	10・25	インド各地で国民会議派主催の「東南アジア・デー」举行（英国によるインド人部隊のインドネシア派遣に抗議運動展開）。
"	10・30	〔教〕 GHQ，教育関係の軍国主義者・超国家主義者の追放，調査機構の設置などを指令（'46年5月3日文部省に調査室設置）。
"	10・	〔日〕 マラヤ，ボルネオ南方特別留学生8名帰国。
"	11・1	全国人口調査実施，総人口7199万8104人（女性，男性を20万人上まわる）。東京都人口348万8284人。大阪府280万958人。
"	11・5	朱徳，駐華米軍に中国内政への軍事干渉を抗議。
"	11・10	〔教〕 GHQ，文部省に対し全教科書の完全英訳の提出を命じ，印刷許可のない教科書の製造禁止を指令。
"	11・11	朝鮮建国準備委員会の後進建国同盟改組され，朝鮮人民党結成（委員長呂運亨）。

西 暦	年 代	項 目
1945	1 1 ・ 1 9	民主同盟主催の内戦反対民衆大会，重慶でひらく。内戦反対連合会結成。
"	"	北朝鮮五道行政局発足。
"	1 1 ・ 2 0	ニュールンベルグ国際軍事裁判開廷（～'46年10月1日）。
"	1 1 ・ 2 1	治安警察法廃止の件〔ポツダム勅令〕公布。
"	1 1 ・ 2 7	ハーレイ駐華大使辞任声明，トルーマン大統領，マーシャル元帥を国共内戦調停の大統領特使に任命。12月15日対中国政策を発表（内戦停止・国府支持・諸党派の政府参加・軍隊統合を主張）。12月22日マーシャル特使重慶着。
"	1 1 ・ 2 9	ユーゴ制憲議会，王制を廃止し，連邦人民共和国を宣言。
"	1 1 ・	〔書〕「ハンドブック日米会話」（朝日新聞社編・刊。「Manual of English Conversation」）。
"	"	〔書〕「日華大辞典」（張廷彦・包象寅・宮島吉敏・平岡龍城共著，富士出版。3冊）。
"	"	〔書〕「万葉辞典」（佐々木信綱著。有朋堂）。
"	1 2 ・ 1	全日本教員組合結成。12月2日全日本教育者組合結成。
"		共産党第四回大会（～12月3日）。12月6日書記長に徳田球一就任。
"	1 2 ・ 2	G H Q，梨本宮守正・平沼騏一郎・広田広毅ら59人の逮捕を命令。
"	1 2 ・ 4	〔教〕閣議，女子教育刷新要綱を了解（女子大の創設・大学の男女共学制・女専と高女の学科程度引上げなど）。
"	1 2 ・ 6	G H Q，近衛文麿・木戸孝一ら9人の逮捕を命令。12月16日，近衛，服毒自殺。
"	"	米国，英国に37億5000万ドルの借款を供与。
"	1 2 ・ 7	マニラの軍事裁判，山下奉文の戦争犯罪に対し死刑を宣告。'46年2月23日執行。
"	1 2 ・ 9	イタリアにデ・ガスペリ連立内閣成立。
"	1 2 ・ 1 2	イランのタブリーズで，ソ連軍の援助のもとにアゼルバイジャン自治共和国を樹立。
"	1 2 ・ 1 3	英・仏政府，シリア・レバノンからの両国軍隊の漸次的撤退を声明。'46年2月4日シリア・レバノン，国連安全保障理事会に提訴。'46年12月31日撤退完了。
"	1 2 ・ 1 5	G H Q，国家神道（神社神道）に対する政府の保証・支援・保全・監督および弘布の禁止に関する覚書。
"	"	トルーマン大統領，対華政策を声明（国府の全面的支持，各政党の政府参加，軍隊の統一を主張）。
"	1 2 ・ 1 6	米英ソ3国モスクワ外相会議ひらく（～12月16日。旧枢軸国の占領・諒

西 暦	年 代	項 目
1945		和問題・極東問題を討議)。12月27日(モスクワ宣言)発表(朝鮮信託統治・極東委員会・対日理事会設置で合意)。
"	12・20	国家総動員法・戦時緊急措置法各廃止の件〔法律〕公布。'46年4月1日施行。
"	12・22	労働組合法〔法律〕公布(団結権保障・団体交渉権保護など)。
"	12・24	〔教〕 文部省、教職員・学生・生徒の政治活動につき通達(政治結社加入は自由、校内での政談演説・特定政党や特定者の支持推薦行為は禁止)。
"	12・27	鈴木安蔵らの憲法研究会、憲法草案要綱を、12月28日高野岩三郎、改正憲法私案要綱をそれぞれ発表(高野私案は、雑誌「新生」に論文として掲載)。
"	"	国共正式会談、重慶で再開。
"	12・28	「宗教法人令」〔勅令〕公布(信教の自由を保障)。
"	12・31	〔教〕 GHQ、修身・日本歴史及び地理の授業停止と教科書回収に関する覚書。
"	"	内閣情報局廃止。
"	12・	〔書〕「英語略字略語辞典」(村山有編、産業図書。「English Abbreviation Guide」)。
"	"	〔書〕「英和会話字彙」(長沼直兄、三省堂。「English-Japanese Everyday Word and Phrases」)。
"	(昭和20年)	〔日〕 台湾の公学校で日本語教育を受けた本島人児童の就学比率72・00%。
"	"	〔書〕「First Lessons in Nippongo」(長沼直兄、日本文化出版社)。
"	"	〔書〕「Spoken Japanese Basic Course(二巻)」(B.Blooch and E・H・Jorden、アメリカ国防省)。
"	"	〔書〕「初等学校用日本語教本学習指導書(巻一、二)」(日本語教育振興会)。
"	"	〔書〕「露日辞典」(コウァレンコ、チューコフ、イサコンウィチ、ブリーコフ共著)。
"	"	〔書〕「中譯日文書目録」(国際文化振興会編・東京国際文化振興会。昭和20年刊。204p)。
"	"	〔書〕「 ^{東亜} 日本語論 — 発音の研究 — 」(寺川喜四男)。
"	"	〔書〕「神祇教育資料」(石川県内政部教学課)。
"	"	〔書〕「日本近代刑事法令集」(司法資料)。

西 暦	年 代	項 目
1945	(昭和20年)	〔書〕「自然法則の偶然性」(ブートルー野田又夫訳)。
"	"	〔書〕「いへ」の理念と世界観(牧健二)。
"	"	〔書〕「タイ国固有行政の研究」(郡司喜一)。
"	"	〔書〕「国土政策の展開」(松本治彦)。
"	"	〔書〕「不燃都市」(田辺平学)。
"	"	〔書〕「出版関係法令集」(内務省警保局)。
"	"	〔書〕「奈良時代医学の研究」(服部敏良)。
"	"	〔書〕「ナチス国家の理論」(俵静夫)。
"	"	〔書〕「ソビエト連邦(翻訳)」(東亜研究所)。
"	"	〔書〕「民族詩論」(ヘルデル中野康存訳)。
"	"	〔書〕「アジアロシア民族誌」(沼田一郎訳編)。
"	"	〔書〕「望月圭介伝(政治家)」(伝記刊行会)。
"	"	〔書〕「対外交渉史譜」(青木利三郎)。
"	"	〔書〕「ソ連の勝因とドイツの敗因」(高津正道)。
"	"	〔書〕「地下工場建設指導要領案」(技術院・陸軍省)。
"	"	〔書〕「岡山県社会事業史(上巻)」(守屋茂)。
"	"	〔書〕「大東亜共栄圏植物誌(北方編)」(館脇操)。
"	"	〔書〕「勤労者の配置転換(社会政策時報再刊一号)」((財)協調会)。
"	"	〔書〕「勤労者の適正配置と勤労管理」(東亜経済懇談会朝鮮委員会)。
"	"	〔書〕「富塚清氏 我国の航空機工業と科学教育」。
"	"	〔書〕「日本鉄鋼史(明治篇)」(小島精一)。
"	"	〔書〕「千島・北海道の霧の研究 第一期」(研究動員会議)。
"	"	〔書〕「霧の研究」(第五十一班霧班學術研究会議)。
"	"	〔書〕「亜細亜北地の農業」(欧亜通信社調査部訳編)。
"	"	〔書〕「食糧経済の理論と計測」(大川一司)。
"	"	〔書〕「満州水稻作の研究」(横山敏男)。
"	"	〔書〕「南海に関する支那史料」(石田幹之助)。
"	"	〔書〕「ミクロネシアの風土と民具」(梨木照)。

日本語教育沿革年表Ⅲ

発行 昭和57年12月15日

発行所 国立国語研究所

日本語教育センター日本語教育教材開発室

TEL (03) 900-3111

印刷 株式会社 絢文社

TEL (03) 959-3960